

高等専門学校機関別認証評価

自己評価書

平成19年6月

小山工業高等専門学校

目 次

I	高等専門学校の現況及び特徴	1
II	目的	2
III	基準ごとの自己評価	
	基準1 高等専門学校の目的	4
	基準2 教育組織（実施体制）	28
	基準3 教員及び教育支援者	80
	基準4 学生の受入	120
	基準5 教育内容及び方法	144
	基準6 教育の成果	293
	基準7 学生支援等	364
	基準8 施設・設備	456
	基準9 教育の質の向上及び改善のためのシステム	501
	基準10 財務	531
	基準11 管理運営	557

I 高等専門学校の現況及び特徴

1 現況

(1) 高等専門学校名

小山工業高等専門学校

(2) 所在地

栃木県小山市

(3) 学科等の構成

学 科：機械工学科，電気情報工学科，
電子制御工学科，物質工学科，
建築学科

専攻科：電子システム工学専攻，物質工学専攻，
建築学専攻

(4) 学生数及び教員数

(平成19年5月1日現在)

学生数：学 科 1,016人

専攻科 55人

専任教員数：80人

助手数：0人

2 特徴

小山工業高等専門学校は、昭和40年、機械工学科・電気工学科・工業化学科の3学科体制（各1学級・入学者125名）で発足した。昭和41年、校舎新営第1期工事が完了し、小山市街の仮校舎から現在のミズナラの林の中の新校舎に移転した。第1期卒業生を送り出した昭和45年に建築学科を、創立20周年の昭和60年に電子制御工学科をそれぞれ新設し、現在の5学科・5学級体制を確立した。その後、工業化学科は物質工学科に、電気工学科は電気情報工学科に改組されている。平成11年には電子システム工学・物質工学・建築学の3専攻より成る専攻科が設置され、平成13年の専攻科棟新営工事の完了によりキャンパス内の建物配置が確定した。平成16年には独立行政法人国立高等専門学校機構小山工業高等専門学校へ移行し、現在に至っている。

本校は北関東の交通の要衝に立地しており、栃木県・茨城県・埼玉県を中心とした地域の学生が在籍している。本校は創立以来の校是「技術者である前に人間であれ」をモットーに、「健やかな心身・豊かな人間性・科学技術の研鑽と創造」を教育理念とする高等教育機関である。本校の教育の特徴は、準学士課程では、5年間の早期ものづくり教育を通して培った実践力と専門基礎力を有する有能な人材を、中堅技術者の候補生として社会に送り

出すことである。専攻科課程においては、準学士課程と有機的に接続した2年間の問題解決能力・創造力等を培うカリキュラムの修得により、国際的に通用する開発型技術者（テクノロジスト）を養成することである。準学士課程の4、5年と専攻科課程を併せた4年間の技術者教育プログラムは、平成17年に日本技術者教育認定機構（JABEE）の審査に合格し、複合工学系プログラムでのJABEE認定校となった。

本校における学生生活が豊かな人間性の涵養に役立つように、教育面や自主的活動面での配慮と支援体制の整備が進んでいる。学習・教育目標に沿って体系的に編成された教育課程のもとで、学生は学習達成度を自ら評価したり、授業評価によって教育方法について自分の意見を述べる事が出来る。また県内の他大学との単位互換協定等により、学外の授業を受けることも出来るなどの自由度も大きい。本校には、図書情報・情報科学教育研究・地域共同開発・ものづくり教育研究の4センターがあり、関係する教職員が学習支援に当たっている。学生生活面での悩みに対しては、カウンセラーと担当教員で構成される学生支援室がきめ細かく対応する体制になっている。学生会の活動・クラブ活動も活発であり、校外清掃奉仕等を交えた諸行事が自主的に運営されている。後援会による学生活動への支援も財政援助を含めて活発である。本校には比較的多くの留学生が学んでおり、学生は国際感覚を身に付けるチャンスも多い。さらに海外教育機関との提携や海外語学研修制度による学習の機会もある。また、本校の学生寮では、上級生による自主的学習会が開かれるなど、教育寮としての機能が発揮されている。

本校の社会貢献の活動は、産学官連携・公開講座・地域の行事への協力を含む全般的な窓口を地域連携室が担い、地域企業との技術相談・受託研究・共同研究等には主に地域共同開発センターが担当している。本校は地域との連携ネットワークの中心的機関として、多様な業務を通して地域産業の活性化に貢献するとともに、自らの教育・研究活動へのフィードバックを図る努力を続けている。平成16年からは産学官連携コーディネーターが配置され、連携活動は一層充実・強化されている。

II 目的

1. 小山工業高等専門学校の目的

小山高専では、平成 16 年度からの中期計画の前文に次のように定めている。『小山高専の目的は、準学士課程では早期ものづくり教育を通して培った実践力と専門基礎力を有する有能な各学科卒業生を新しい時代にふさわしい中堅技術者として社会に輩出することであり、それに加えて問題解決能力と豊かな創造力を兼ね備えた「開発型技術者（テクノロジスト）」としての専攻科修了生を世に送り出すことである。』

2. 本校の教育理念と教育目標

本校の開校式ならびに第 1 回入学式における校長告辞に示された内容を標語にして、次なる本校の教育理念が掲げられた。『技術者である前に人間であれ』。更に、その教育理念を具体的に示した内容として、次の 3 項目を設定した。○ **健やかな心身**、○ **豊かな人間性**、○ **科学技術の研鑽と創造**

3. 教育方針と育成すべき人材像

本校は創立当初より上記の教育理念の基に高等教育機関としての役割を果たしてきたが、平成16年度に5ヶ年の中期計画書を作成した際に、より具体的な6項目の教育目標と育成すべき学生の人材像を新たに設定した。その後、その内容について学生に分かり易く表現するべく精査し、次のような教育方針と人材像にまとめた。

① **豊かな人間性の涵養**；豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。② **豊かな感性と創造力の育成**；ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指している。③ **自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上**；高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指している。④ **高度な専門知識と問題解決能力の育成**；専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指している。⑤ **情報技術力の向上**；コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指している。⑥ **コミュニケーション能力と国際感覚の育成**；優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな技術者の育成を目指している。

更に上記①～⑥について、「準学士課程（A）」と「専攻科課程（S）」において身につける学力・資質について次のように対比させて設定している。

①－A：社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。①－S：社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。②－A：実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。②－S：専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。③－A：自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。③－S：自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。④－A：実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。④－S：開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。⑤－A：情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。⑤－S：情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。⑥－A：講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。⑥－S：特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解

し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

4. 各学科・各専攻の教育目標

本校では、準学士課程の各学科および専攻科課程の各専攻の教育目標を、次のように設定している。

「**一般科**」：一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させる。これにより大学教養課程レベルの知識を養い、更に、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的能力、国際的コミュニケーション能力等）を養うことに重点をおいた教育を行う。

「**機械工学科**」：ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。

「**電気情報工学科**」：電気情報工学の基礎知識について、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。高学年では、電気・電子・情報分野の3コースを設置し高度な専門知識を修得させる。ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。

「**電子制御工学科**」：専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させ、卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

「**物質工学科**」：新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ創造的な卒業研究の完成を目指す。

「**建築学科**」：低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上のみならず、プロジェクトの企画能力の育成を目指す。高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させ、最終学年の卒業研究を通じて、建築学の諸分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。

「**電子システム工学専攻**」：機械系、電気・電子・情報系準学士課程の各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会の構造に適した知識や技術を講義・演習・実験を通じて修得させる。具体的には、産業機械のロボット化技術、情報通信システム、計測制御システム、光・電子デバイス等の高度化した技術の基礎および応用力の修得を目指す。

「**物質工学専攻**」：化学を基礎として材料工学、生物工学、及び化学工学等の諸分野に柔軟に対応できる基礎学力を養成し、それらを発展させた専門知識及び技術の修得を目指す。

「**建築学専攻**」：建築学の諸分野である計画・意匠、構造・材料、環境・設備、設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得させ、それらを発展させた専門知識及び技術の修得を目指す。

（上記3つの専攻においては、次のような共通目標を定めている。「特別研究に加え実務研修（インターンシップ）等を通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。」）

Ⅲ 基準ごとの自己評価

基準 1 高等専門学校の目的

(1) 観点ごとの分析

観点 1-1-①： 目的として、高等専門学校の使命，教育研究活動を実施する上での基本方針，及び，養成しようとする人材像を含めた，達成しようとしている基本的な成果等が，明確に定められているか。

(観点到係る状況)

A. 学則に定められた本校の目的

本校では創立以来、その目的を学校教育法に基づき、学則の第 1 章・第 1 条に定めている（資料 1-1-①-1）。

B. 教育に関する基本理念

「Ⅱ. 目的」の項に記したように、本校の教育に関する基本理念は、開校式並びに第 1 回入学式における校長告辞の内容を踏まえて『技術者である前に人間であれ』と定められ、更に、その教育理念を具体的に示した内容として、次の 3 項目を設定した。○ 健やかな心身、○ 豊かな人間性、○ 科学技術の研鑽と創造（資料 1-1-①-2）。

C. 教育方針と育成すべき人材像

上記の基本理念をより具体的な内容にするために、教育方針として新たに①から⑥の項目を平成 16 年の中期目標に掲げ、その後検討を重ねて次のように定めた。① 豊かな人間性の涵養、② 豊かな感性と創造力の育成、③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上、④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成、⑤ 情報技術力の向上、⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成。更に、教育方針の各項目に対応する人材像を分かり易く説明し、①から⑥の項目について、それぞれ「準学士課程」と「専攻科課程」の達成目標を明記してある（資料 1-1-①-3）。また、準学士課程の学科毎の教育目標（資料 1-1-①-4）と専攻科課程の専攻毎の教育目標（資料 1-1-①-5）を定めている。

資料 1-1-①-1：学則として定められた本校の目的

学則：第 1 章 本校の目的

第 1 条 本校は、教育基本法（昭和 22 年法律第 25 号）の精神にのっとり、及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づき、深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする。

(出典：平成 19 年度学生便覧 p. 6)

資料 1-1-①-2：本校の教育理念

『技術者である前に人間であれ』

○ 健やかな心身、○ 豊かな人間性、○ 科学技術の研鑽と創造

(出典：平成 19 年度学生便覧)

資料 1-1-①-2 (続き) : 補足説明

小山高専の教育 開校式並びに第 1 回入学式の校長告辞は「本校の直接の目的は技術者の養成であるが、技術者たる以前に“人間として”成長することが第一義である。諸君には科学の狭い領域のみを追求する Scientist になることではなく、尊敬に値する人間になることを志望しながら科学を学んでいく人 Man of Science になることを望みたい」という内容でした。

つまり「技術者である前に人間であれ」ということです。「人間である」ことは、一人一人が自立した市民であること、他人を思いやることのできる豊かな心を持つことです。本校の教育方針に「健やかな心身」・「豊かな人間性」を掲げているのは、このような意味があります。

(出典：平成 19 年度学生便覧 p. 1-2)

資料 1-1-①-3 : 教育方針・育成する人材像に関する記述

■教育方針と育成する人材像(A:準学士課程、S:専攻科課程)

① 豊かな人間性の涵養；

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

①-A ★社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。

①-S ★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。

② 豊かな感性と創造力の育成；

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指している。

②-A ★実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。

②-S ★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。

③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上；

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指している。

③-A ★自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。

③-S ★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成；

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指している。

④-A ★実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。

資料 1-1-①-3 (続き)

④-S★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。

⑤ 情報技術力の向上；

コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指している。

⑤-A★情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。

⑤-S★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成；

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指している。

⑥-A★講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。

⑥-S★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典：平成 19 年度学生便覧)

資料 1-1-①-4：準学士課程の学科毎の教育目標

<一般科の教育目標>

一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させる。これにより大学教養課程レベルの知識を養い、さらに、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的能力、国際的コミュニケーション能力等）を養うことに重点をおいた教育を行う。

<機械工学科の教育目標>

ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じた技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。

<電気情報工学科の教育目標>

電気情報工学の基礎知識について、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。高学年では電気・電子・情報分野の3コースを設置し高度な専門知識を修得させる。ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。

資料 1-1-①-4 (続き)

＜電子制御工学科の教育目標＞

専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させ、卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

＜物質工学科の教育目標＞

新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ創造的な卒業研究の完成を目指す。

＜建築学科の教育目標＞

低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上のみならず、プロジェクトの企画能力の育成を目指す。高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させ、最終学年の卒業研究を通じて、建築学の諸分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 1-1-①-5：専攻科課程の専攻毎の教育目標

＜電子システム工学専攻＞

機械系、電気・電子・情報系準学士課程の各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会の構造に適した知識や技術を講義・演習・実験を通じて修得させる。具体的には、産業機械のロボット化技術、情報通信システム、計測制御システム、光・電子デバイス等の高度化した技術の基礎および応用力の修得を目指す。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

＜物質工学専攻＞

化学を基礎として材料工学、生物工学、及び化学工学等の諸分野に柔軟に対応できる基礎学力を養成し、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

＜建築学専攻＞

建築学の諸分野である計画・意匠、構造・材料、環境・設備、設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得させ、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）を通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、創立当初の教育の基本理念である「技術者である前に人間であれ」を基盤として、具体的な内容である3項目の教育理念を定めている。更に、現今の工業技術の高度化・情報化に対処すべく、具体的な教育目標を中期計画に明確に定め、新たに6項目の教育方針と育成すべき人材像を設定している。また、育成すべき人材の身につけるべき資質・能力等を、準学士課程と専攻科課程に分けて具体的に策定し、準学士課程の各学科および専攻科課程の各専攻における教育目標を定めている。

以上の教育目標は、学生便覧、ホームページ、学校要覧などに記載され、本校の構成員のみならず、学校外部にも公開されている。このように、本校では高等専門学校としての教育目標を育成すべき人材像を含め明確に定めている。

観点1-1-②： 目的が、学校教育法第70条の2に規定された、高等専門学校一般に求められる目的から、はずれるものでないか。

(観点に係る状況)

本校の学則では、まず初めの第1章・第1条に、学校教育法第70条の2に規定された高専の目的「深く専門の学芸を教授する」および「職業に必要な能力を育成する」を、本校の教育目的として定めている(資料1-1-①-1：既出)。これら2つの目的に基づき、本校の教育目標・教育方針を定めており、それぞれに対する対応を資料1-1-②-1に表として示してある。また、各学科、各専攻の教育目標との対応を資料1-1-②-2の表に示してある。

資料1-1-②-1：学校教育法第70条の2に規定された高専の目的と本校の教育目標との対比			
区分	目標等	「深く専門の学芸を教授する」	「職業に必要な能力を育成する」
小山高専全体	教育理念	『技術者である前に人間であれ』 (1) 健やかな心身、(2) 豊かな人間性、(3) 科学技術の研鑽と創造	
	教育方針	③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上 ④ 高度な専門知識の教授 ⑤ 情報技術力の向上	① 豊かな人間性の涵養 ② 豊かな感性と創造力の育成 ④ 問題解決能力の育成 ⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成
準学士課程		③-A：自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。 ④-A：実践的技術者として高度な専門分野の知識を修得すること。 ⑤-A：情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。	①-A：社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。 ②-A：実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。 ④-A：実践的技術者として与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。

			⑥－A：講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。
専攻科課程		<p>③－S：自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。</p> <p>④－S：開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見できること。</p> <p>⑤－S：情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。</p>	<p>①－S：社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。</p> <p>②－S：専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。</p> <p>④－S：開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対するその解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。</p> <p>⑥－S：特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。</p>

(出典：平成19年自己点検評価報告書より作成)

資料1－1－②－2：学校教育法第70条の2に規定された高専の目的と、各学科・各専攻の教育目標との対比			
区分	目標等	「深く専門の学芸を教授する」	「職業に必要な能力を育成する」
準学士課程	一般科	<p>○各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させ、大学教養課程レベルの知識を養う。</p> <p>○卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（専門に適合した数理的能力）を養う。</p>	<p>○人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育む。</p> <p>○卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、国際的コミュニケーション能力等）を養う。</p>
	機械工学科	<p>○数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力を養成する。</p> <p>○工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応</p>	<p>○ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者を育成する。</p>

		用科目を通してのプロセス把握能力を教授する。	○卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。
	電気情報工学科	○電気情報工学の基礎知識を、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。 ○電気・電子・情報分野の3コースを設置し高度な専門知識を修得させる。	○ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。
	電子制御工学科	○専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。 ○専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。 ○専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させる。	○卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。
	物質工学科	○専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。	○新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。 ○最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ、創造的な卒業研究の完成を目指す。
	建築学科	○低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上を目指す。 ○高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させる。	○低学年からプロジェクトの企画能力の育成を目指す。 ○5学年の卒業研究を通じて、それぞれの専門分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。
専攻科課程	電子システム工学専攻	○機械系、電気・電子・情報系準学士課程の各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会の構造に適した知識や技術を講義・演習・実験を通じて修得させる。○具体的には、産業機械のロボット化技術、情報通信システム、計測制御システム、光・電子デバイス等の高度化した技術の基礎および応用力の修得を目指す。	○特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を育成。 ○チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

物質工学専攻	○化学を基礎として材料工学、生物工学、及び化学工学等の諸分野に柔軟に対応できる基礎学力を養成し、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。	○特別研究に加え、実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養う。 ○チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。
建築学専攻	○建築学の諸分野である計画・意匠、構造・材料、環境・設備、設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得させ、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。	○特別研究に加え、実務研修（インターンシップ）を通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養う。 ○チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

（出典：平成19年自己点検評価報告書より作成）

（分析結果とその根拠理由）

観点1-1-①の項に記載した本校の教育目標は、学則第1章・第1条に定められた「深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とする」ことを前提として、小山高専の目的（「Ⅱ. 目的」に記載）を遂行するために策定されたものである。また、上記（観点に係る状況）の表（資料1-1-②-1, 2）に示されているように、本校の目的と高等専門学校一般に求められている目的とは適切に対応している。従って、本校の目的は学校教育法第70条の2に規定された高専の目的からはずれものではない。

観点1-2-①： 目的が、学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

A. 学校の構成員全員に対する周知

本校の目的・教育理念（3項目）については毎年、学生便覧およびホームページに掲載し周知を図ってきた。より詳細な内容に改訂した新しい教育目標・教育方針・育成すべき人材の資質能力について、入学者受入方針を含めて、正面玄関入口に掲示している（資料1-2-①-1）。更に、学生便覧を構成員全員に配付し周知している。また、携帯に便利な名刺サイズの「教育目標カード」（資料1-2-①-2）を全構成員に配付し、教育目標等をいつでも確認出来るように配慮している。

B. 教職員に対する周知

教職員に対して、新しく改訂された教育目標を平成18年度第1回教職員会議に配布し、副校長より趣旨説明がなされた（資料1-2-①-3）。その後、再確認のため、全教職員および非常勤講師に、資料を配付した（資料1-2-①-4）。更に前述の「教育目標カード」の配付に際し、常勤の教職員に各学科長・一般科長・事務部長宛に、校長より周知を依頼している（資料1-2-①-5）。

非常勤講師については、通知文を添えてカードを配付している（資料1-2-①-6）。新任の教職員については、新任者ガイダンスの「教務関係」において学生便覧を配付し教育目標を校長補佐（教務担当）が説明している（資料1-2-①-7）。

C. 学生に対する周知

在学生については準学士課程の学生と専攻科課程の学生に、新しく改訂された教育目標をそれぞれ学級担任と専攻主任より配付し説明した（資料1-2-①-8）。更に再確認のため、平成18年度末の全校学生集会において資料を再度配付して、校長補佐（教務担当）が説明している（資料1-2-①-9）。各教室には、教育理念・教育目標などを掲示し、学生が教育目的を参照出来るように配慮し（資料1-2-①-10）、平成19年度の始業式において、校長補佐（教務担当）から、新入生を含む全学生に本校の目的を常に確認するように注意を促している。また、「教育目標カード」の配布の際に、学級担任と専攻主任に周知を依頼している（資料1-2-①-11）。また、新入生に対しては、全学科合同ガイダンスにおいて、校長補佐（教務担当）による教育目標の趣旨を説明し、専門学科毎のガイダンスでは、学科長より当該学科の教育方針について説明している（資料1-2-①-12）。

D. 構成員に対する周知度の調査

上述のように、学校の構成員に教育目標などの周知を図っているが、具体的周知度を調べるためにアンケートを実施した（資料1-2-①-13）。その集計結果を資料として示す（資料1-2-①-14）。

資料1-2-①-1：教育目標の校内掲示（正面玄関入り口）

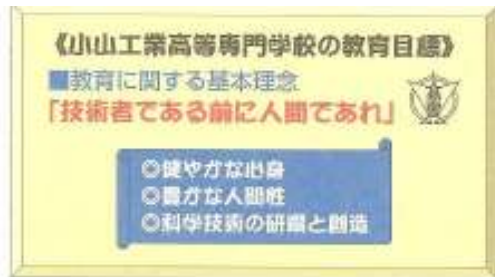


(出典：校内掲示 写真)

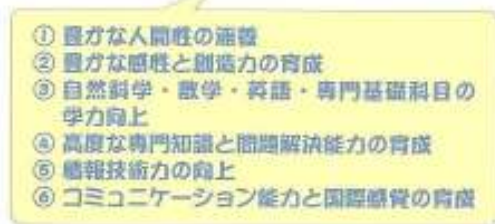
資料 1 - 2 - ① - 2 : 「教育目標カード」

表

裏



■教育方針と育成する人材像■



(出典：「教育目標カード」 Scan copy)

資料 1 - 2 - ① - 3 : 教職員に対する周知 (その 1)

平成 18 年 10 月 18 日
教職員会議配付資料

■ 小山高専の教育に関する基本理念

小山高専は、創設時から以下のような理念のもとに教育を進めています。

「技術者である前に人間であれ」

- ◎ 健やかな心身
- ◎ 豊かな人間性
- ◎ 科学技術の研鑽と創造

小山高専は、これまで 40 年以上に亘り、約 6, 000 名の卒業生を送り出し、企業における中堅技術者の育成を通して日本の産業の発展を支え、社会的要請に答えてきました。しかし、現今の技術の高度化・情報化にともない技術者として様々な能力が要求されるようになってきています。

このような社会変革の中にあっても、依然として高専卒業生に対する企業の期待は大きく、これまでの高専教育の利点を維持しつつ、即戦力としての役割ばかりでなく深い知識と問題解決能力を兼ね備えた技術者を育成し、新たな時代の要請に答えていく必要があります。

小山高専の教育目標は、準学士課程(学科)においては 5 年間の早期ものづくり教育を通して培った実践力と専門基礎力を有する有能な各学科卒業生を新しい時代にふさわしい中堅技術者として社会に輩出することであり、専攻科課程においてはそれに加え問題解決能力と豊かな創造力を兼ね備えた「開発型技術者(テクノロジスト)」としての修了生を世に送り出すことにあります。

■ 教育方針と育成する人材像

① 豊かな人間性の涵養；

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

② 豊かな感性と創造力の育成；

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指しています。

③ 自然科学・英語・専門基礎科目の学力向上；

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指しています。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成；

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指しています。

⑤ 情報技術力の向上；

コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指しています。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成；

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指しています。

(出典：平成18年第1回教職員配布資料)

資料1-2-①-4：教職員に対する周知（その2）

平成19年1月19日

各 学 科 長
一 般 科 長 殿
事 務 部 長

小山工業高等専門学校長

藤 本 光 宏

【公印省略】

「小山工業高等専門学校の教育目標」の周知について（依頼）

このことについて、本校の教育方針については従来から学校要覧、学生便覧等の印刷物及びホームページ等に掲載し学内外に周知しているところですが、別添のとおり「小山工業高等専門学校の教育目標」に変更・制定しましたのでお知らせします。

つきましては、貴科・部に属する教職員に対し別添資料を配付のうえ周知願います。

また、本件については全教職員に対し周知を要しますので、遺漏無きようお取り計らい願います。なお、学生及び非常勤講師宛には別途周知を行っていることを念のため申し添えます。

(出典：学内における周知文書)

資料 1-2-①-5 : 教職員に対する周知 (その3)

平成19年4月27日

各 学 科 長
一 般 科 長 殿
事 務 部 長

小山工業高等専門学校長

藤 本 光 宏

【公印省略】

「小山工業高等専門学校の教育目標」の周知について (依頼)

このことについて、本校の教育方針については従来から学校要覧、学生便覧等の印刷物、ホームページ等に掲載及び平成19年1月19日付でも資料を配付して周知しているところです。

このたび、別添のとおり「小山工業高等専門学校の教育目標」を記載した携帯用カードを作成しました。

つきましては、貴科・部に属する教職員に対し別添資料を配付のうえ携帯するよう周知願います。

また、本件については全教職員に対し周知を要しますので、遺漏無きようお願いいたします。

なお、学生及び非常勤講師宛には別途周知を行っていることを念のため申し添えます。

(出典：学内における周知文書)

資料 1-2-①-6 : 非常勤講師に対する周知

平成19年4月27日

非 常 勤 講 師 各 位

小山工業高等専門学校長

藤 本 光 宏

【公印省略】

「小山工業高等専門学校の教育目標」の周知について (通知)

このことについて、本校の教育方針については従来から学校要覧、学生便覧等の印刷物、ホームページ等に掲載及び平成19年1月19日付でも資料を配付して周知しているところです。

このたび、別添のとおり「小山工業高等専門学校の教育目標」を記載した携帯用カードを作成しましたので、携帯いただくようお願いいたします。

なお、学生及び常勤教職員宛には別途周知を行っていることを念のため申し添えます。

(出典：学内における周知文書)

資料 1-2-①-7 : 新任教職員に対する周知

平成19年度 新任者 ガイダンス (案)

平成19年3月8日

日 時 平成19年4月4日 (火) 9:30~17:00
場 所 中会議室
対 象 者 新任教職員

日程及び担当者

9:30~9:40 集合、日程説明、写真撮影 (身分証明書用)

9:40~10:00 校 長 講 話

10:00~10:30 教 務 関 係 (校長補佐 (教務担当))

10:30~11:00 厚 生 補 導 関 係 (校長補佐 (学生担当))

11:05～11:35	寮務関係（校長補佐（寮務担当））
11:35～12:00	学寮案内（校長補佐（寮務担当）） 宿日直勤務の説明（学生課寮務係）
12:00～13:00	休憩
13:00～13:15	共済組合関係（総務課財務係長）
13:15～13:30	諸手続き（総務課総務係長） 出張等の手続・駐車場の利用等
13:30～13:45	図書情報センターの利用（総務課図書情報係長）
13:45～14:00	休憩
14:00～15:30	給与・労働時間等（総務課人事係長） 給与、サービス、労働時間・休暇、兼業 セクシュアル・ハラスメント等 事務室の紹介（総務課人事係長）
15:30～16:10	情報科学教育研究センターにおけるLANの利用についての説明 （情報科学教育研究センター）
16:10～16:40	財務会計システムの利用（総務課） ・・・・・・・・・・解散・・・・・・・・・・

（出典：運営会議資料[H19.3.8]）

資料 1-2-①-8：学生に対する周知（その 1）

平成 19 年 1 月 19 日

各学級担任
各専攻主任 殿

小山工業高等専門学校長
藤本光宏
【公印省略】

「小山工業高等専門学校の教育目標」の周知について（依頼）

このことについて、本校の教育方針については従来から学校要覧、学生便覧等の印刷物及びホームページ等に掲載し学内外に周知しているところですが、別添のとおり「小山工業高等専門学校の教育目標」に変更・制定しましたのでお知らせします。

つきましては、担当学級・専攻に属する学生に対し別添資料を配付のうえ周知願います。

また、本件については全学生に対し周知を要しますので、遺漏無きようお願いいたします。

なお、常勤教職員及び非常勤講師宛には別途周知を行っていることを念のため申し添えます。

（出典：学内における周知文書）

資料 1-2-①-9：学生への周知（その 2）

平成 19 年 2 月 16 日

監督教員各位

校長補佐（教務担当）

「小山高専の教育目標」の配布について（依頼）

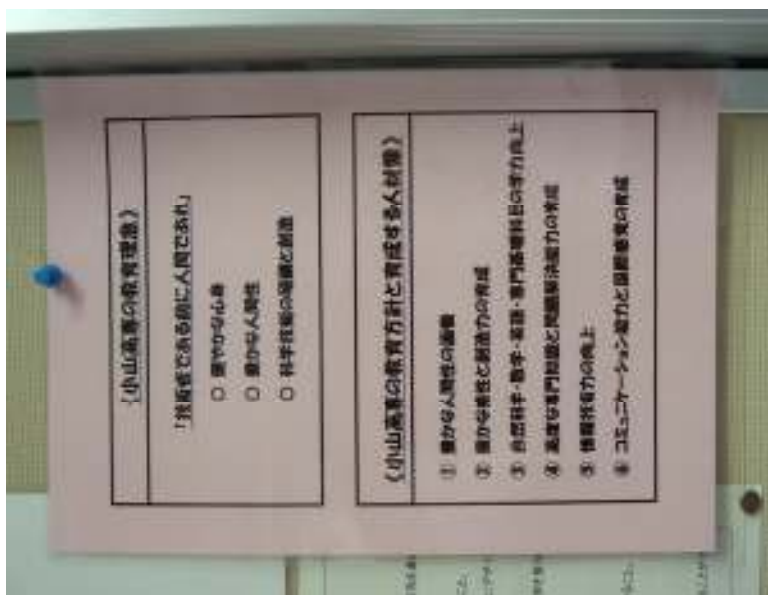
機関別認証評価に関し、別添の「小山高専の教育目標」を全学生に配布することになりました。

つきましては、1 時限の試験終了後各クラスに配布していただきますようよろしくお願いいたします。

なお、本で行われる全校集会の際に必ず持参するようご指導願います。

（出典：全校集会（平成 19 年 2 月 16 日）における周知文書）

資料 1-2-①-10 : 学生への周知 (その 3)



(出典：各教室における掲示写真)

資料 1-2-①-11 : 学生への周知 (その 4)

平成 19 年 4 月 27 日

各 学 級 担 任
各 専 攻 主 任 殿

小山工業高等専門学校長
藤 本 光 宏
【公印省略】

「小山工業高等専門学校の教育目標」の周知について (依頼)

このことについて、本校の教育方針については従来から学校要覧、学生便覧等の印刷物、ホームページ等に掲載及び平成 19 年 1 月 19 日付でも資料を配付して周知しているところです。

このたび、別添のとおり「小山工業高等専門学校の教育目標」を記載した携帯用カードを作成しました。

つきましては、担当学級・専攻に属する学生に対し別添資料を配付のうえ携帯するよう周知願います。

また、本件については全学生に対し周知を要しますので、遺漏無きようお取り計らい願います。

なお、常勤教職員及び非常勤講師宛には別途周知を行っていることを念のため申し添えます。

(出典：「教育目標カード」の配布用文書)

資料 1-2-①-12 : 学生への周知 (その4)

(出典：新入生ガイダンス (電気情報工学科) 用資料)

資料 1-2-①-13 : 教育目標周知調査のアンケート実施内容

H18 小山高専の教育に関するアンケート(様式1:在学生・卒業生・教職員対象)
 このアンケートは本校の教育に関する調査と改善を目的として実施するものです。ご協力をお願いします。

■記入上の注意

■分類1: [1]M科生 [2]E科生 [3]D科生 [4]C科生 [5]A科生 [6]SS科生 [7]SC科生 [8]SA科生 [9]教員 [10]職員

■分類2: [1]1年 [2]2年 [3]3年 [4]4年 [5]5年
 [6]専攻1年 [7]専攻2年

全くその通り	かなりそう	普通	あまりそう	全くそうではない
--------	-------	----	-------	----------

[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
[5]	[4]	[3]	[2]	[1]
[5]	[4]	[3]	[2]	[1]

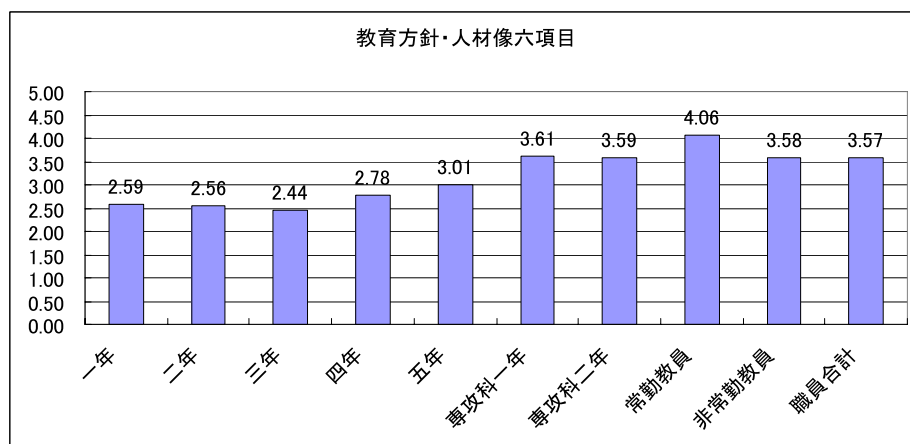
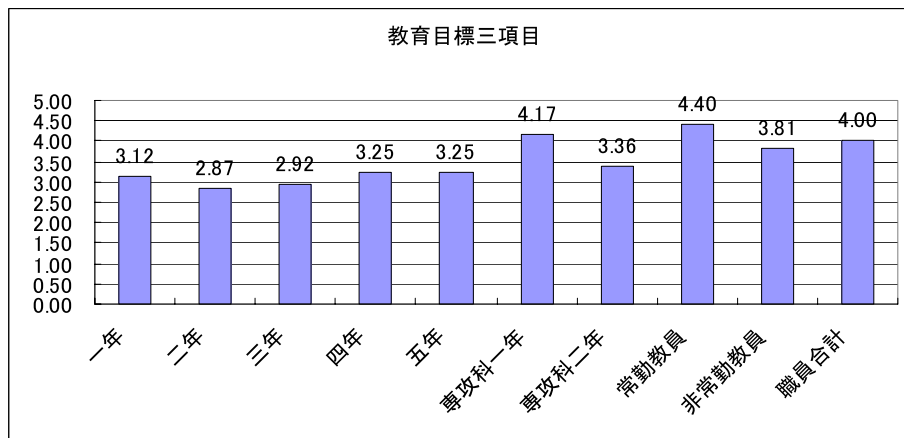
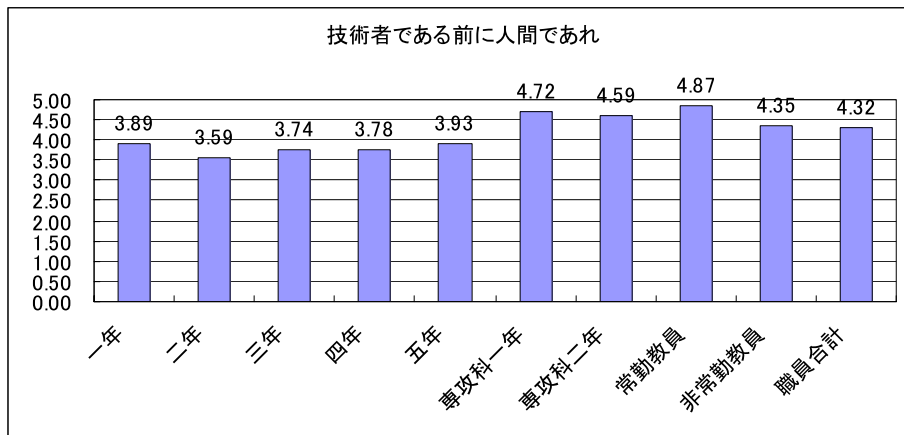
教育目標 (全員)

小山高専の教育目標を知っていますか。〈対象:在学生・卒業生・教職員〉

- 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。
- 「豊やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。
- 以下の目標をよく知っている。① 豊かな人間性の涵養、② 豊かな感性と創造力の育成、③ 自然科学・英語・専門基礎科目の学力向上、④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成、⑤ 情報技術力の向上、⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成。

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価書)

資料 1-2-①-14：教育目標周知調査のアンケート結果（集計）



（出典：平成 19 年小山高专自己点検評価報告書）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育目標等について、構成員に学生便覧・ホームページなどに記載して周知しているのに加え、構成員への資料の配付と説明、学内における掲示や携帯用の「教育目標」の配付により、頻繁に教育目的を確認出来るように配慮している。A：教育理念、B：教育目標（3項目）、C：教育方針（6項目）についてのアンケート結果から、常勤教員においてはこれら全てについて5段階で4以上

の周知度評価を得ている。職員および非常勤講師についても4以上もしくはそれに近い評価が得られている。学生については、準学士課程の学生について、Aでは4に近い周知度であり、B・Cでは2.5～3の評価となっているが、それでもほぼ全項目に亘り3程度あるいはそれ以上となっている。これに対し、専攻科生においては、Aでは4.5を越え、B・Cでも3.5～4を越える評価が得られている。

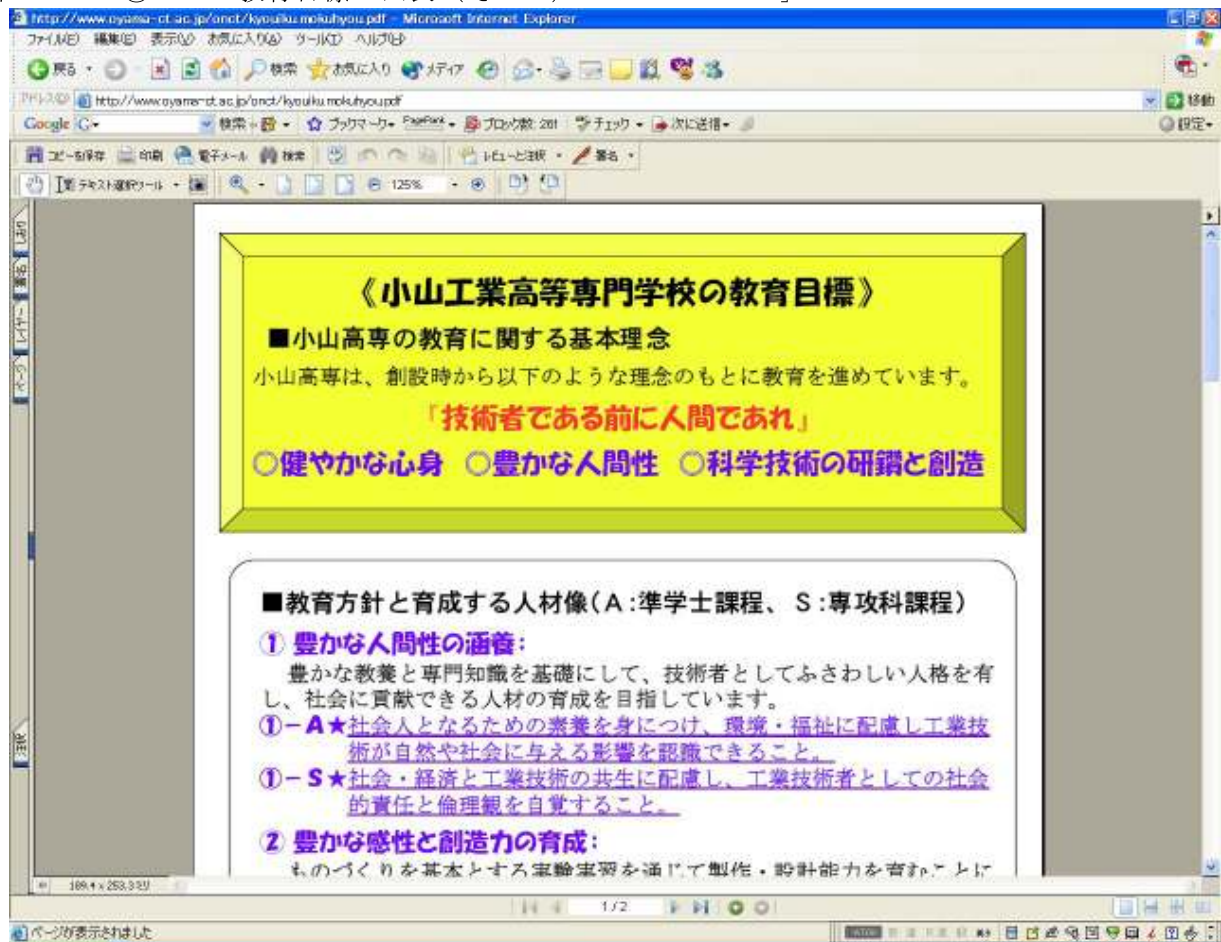
以上のことから、目的を構成員に対して周知する取り組みが十分なされ、その効果が得られている。

観点1-2-②： 目的が、社会に広く公表されているか。

(観点に係る状況)

本校の目的(教育理念・教育目標・育成する人材像)についての学外への周知は、まず第1に本校のホームページに記載されている(資料1-2-②-1)。ホームページのアクセス件数は、最近の1年間を見ても、おおよその平均として1日1,500件・月間で45,000件程度となり、特に入試時期の1・2月は、各5万件程度となっている(資料1-2-②-2)。また、目的を社会に公表するための主な資料として、「学校要覧」(資料1-2-②-3)、「教育目標用資料」(資料1-2-②-4)があり、各種機関に配付している。本校が作成しているPR用資料における、教育目標などの掲載状況(資料1-2-②-5)と、それらの外部への配布状況を示すデータとして、「学校要覧配布先一覧」(資料1-2-②-6)、「入試説明会実施状況」(資料1-2-②-7)、「学校説明会(合同説明会を含む)実施状況」(資料1-2-②-8)、「オープンキャンパス・文化祭(入試相談コーナー)実施状況」(資料1-2-②-9)、「中学校・高等学校訪問実施状況」(資料1-2-②-10)をそれぞれ示す。入試説明会・学校説明会では、教育目標を具体的に説明し、学校案内を各中学校に必要部数を配付している(平成18年度は合計約4,000部)。また、平成18年度に学生の就職に対する求人であった872社へ、求人票に加え「教育目標用資料」(資料1-2-②-4:既出)を郵送し、本校に求人のため訪れた来客には、同様の資料を配付している。

資料 1-2-②-1：教育目標の公表（その1）「ホームページ」



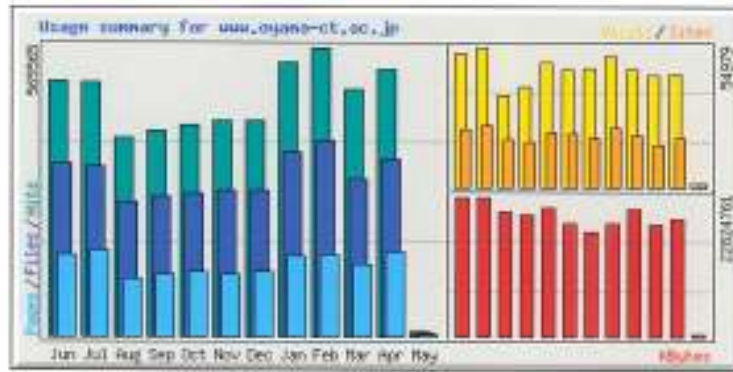
(出典：小山高専ホームページ)

資料 1 - 2 - ② - 2 : ホームページのアクセス件数

Usage Statistics for www.oyama-ct.ac.jp - Last 12 Months 2007/05/17 12:46 PM

Usage Statistics for www.oyama-ct.ac.jp

Summary Period: Last 12 Months
Generated 17-May-2007 04:02 JST



Month	Daily Avg				Monthly Totals					
	Hits	Files	Pages	Visits	Sites	KBytes	Visits	Pages	Files	Hits
May 2007	592	371	186	82	1225	362695	1312	2978	2042	9486
Apr 2007	17455	11580	5511	1481	19229	19245004	44740	165357	147420	523660
Mar 2007	15558	9906	4502	1424	18673	18254379	44171	139584	107113	482119
Feb 2007	20198	13688	5752	1645	20322	20857013	46075	161066	133595	565565
Jan 2007	17265	11677	5995	1652	23023	18436757	51223	157949	162015	538219
Dec 2006	13604	9184	4072	1319	19518	17142319	46833	126241	284712	421726
Nov 2006	14080	9531	4025	1346	21262	18476196	46400	120765	289940	422414
Oct 2006	13351	9069	4120	1382	21383	21097225	49070	127746	281384	413273
Sep 2006	13427	9103	4038	1325	17770	19967222	39777	121164	273118	408825
Aug 2006	12525	8493	3677	1168	18580	20455690	36236	114013	263394	388284
Jul 2006	16016	10747	5402	1773	24234	22824761	54979	167490	333366	496518
Jun 2006	16624	11282	5294	1747	22998	23681698	52415	158976	338465	498731
Totals						219006939	513229	346962	346962	5168838

Generated by Webalizer Version 2.01

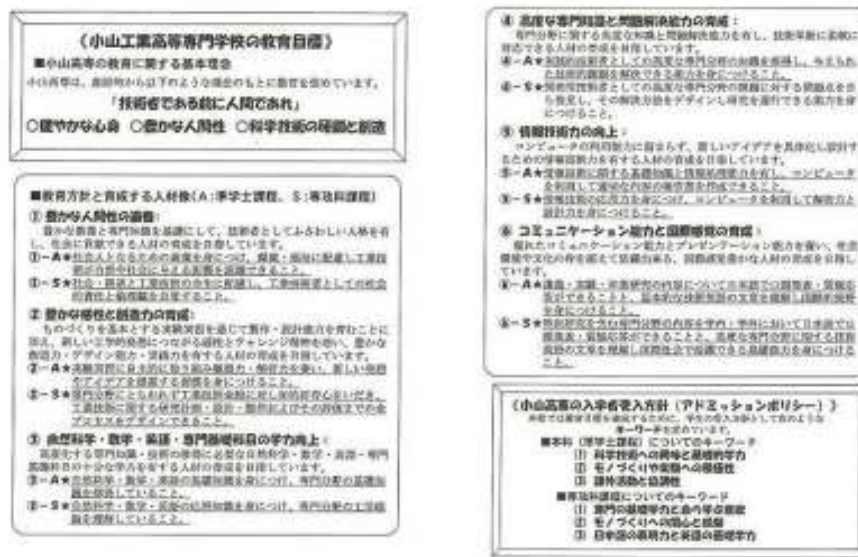
(出典：情報教育研究センター内資料)

資料 1-2-②-3：教育目標の公表（その2）「学校要覧」



(出典：平成 19 年度学校要覧)

資料 1-2-②-4：教育目標の公表（その3）「教育目標用資料」



(出典：教務係資料)

資料 1-2-②-5：教育目標等の掲載状況

資料名	教育理念 (校是)	教育理念 (3項目)	教育方針・人材像 (6項目)	準学士課程○ 専攻科課程◎	主な配付先等
ホームページ	○	○	○	○, ◎	学内・学外
学生便覧	○	○	○	○, ◎	学内

学校要覧	○	○	○	○, ◎	学外
教育目標 用資料	○	○	○	○, ◎	学外
専攻科 リーフレット				◎	学外
学校案内	○	—	—	—	中学生

(出典：各種パンフレット等より作成)

資料 1 - 2 - ② - 6 : 学校要覧配布先一覧

年 月 日	学校要覧 配付先	部数
H18. 6. 08-12. 02	中学校・高等学校（訪問説明）	197
H18. 7. 14	本校教員	81
H18. 7. 14	本校職員	27
H18. 8.	来校者（企画・地域連携係）	2
H18. 8. 15	来校者（電気情報工学科）	2
H18. 9. 28-29	入試説明会	118
H18. 11. 28	来校者（電子制御工学科）	3
H18. 12. 14	来校者（事務部長）	1
H18. 12. 22	来校者（人事係）	3
H19. 01. 10	記者クラブ懇談会	4
H19. 02. 15	来校者（財務係）	2
H19. 03. 01	来校者（電気情報工学科）	2
H19. 03. 14	小山市役所	5
H19. 03. 15	大学評価・学位授与機構	3
H19. 03. 16	オーストラリア研修先	5
H19. 03. 20	来校者（卒業式）	3
H19. 04. 20	来校者（財務係）	4
H19. 04. 26	来校者（校長）	3
H19. 04. 27	来校者（総務係）	2
H19. 04. 27	来校者（物質工学科）	1
H19. 05. 07	来校者（機械工学科）	1
H19. 05. 14	来校者（施設係）	1
合 計		470

(出典：総務係資料)

資料 1-2-②-7：入試説明会実施状況

実施時期	実施場所	主な担当者	実施内容（配付資料）	参加人数
H18.9.28	本校	校長、校長補佐・教務担当補佐、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・学校要覧・専攻科リーフレット他	52名
H18.9.29	宇都宮、那須塩原、筑西、鷺宮	校長補佐、教務担当補佐、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・学校要覧・専攻科リーフレット他	66名
合計				118名

(出典：教務係資料)

資料 1-2-②-8：「学校説明会（合同説明会を含む）」実施状況

実施時期	実施場所	主な担当者	実施内容（配付資料）	参加人数
H18.6.11	大宮	校長補佐、入学者対策室長、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・専攻科リーフレット他	70名
H18.6.18	本校	校長補佐、教務担当補佐、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・専攻科リーフレット他	173名
H18.10.15	宇都宮、筑西	校長補佐、教務担当補佐、学生担当補佐、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・専攻科リーフレット他	73名
H18.11.5	本校	校長補佐、教務担当補佐、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・専攻科リーフレット他	110名
H18.12.3	本校	校長補佐、教務担当補佐、学生課長他	募集要項・学校案内・教育目標用資料・専攻科リーフレット他	59名
合計				485名

(出典：教務係資料)

資料 1-2-②-9：オープンキャンパス・文化祭（入試相談コーナー）実施状況

実施時期	実施場所	主な担当者	実施内容（配付資料）	参加人数
H18.8.1	本校	校長補佐、学生課長	募集要項・学校案内・教育目標用資料・専攻科リーフレット他	874名

H18.11.4-5	本校	教務担当補佐、教務係長他		132名
合計				1,006名

(出典：教務係資料)

資料 1-2-②-10：中学校・高等学校訪問 実施状況

実施時期	訪問学校名	主な担当者	実施内容（配付資料）	参加人数
H18.6.8～12.2	茂木町立茂木中学校他	教員、学生課職員	募集要項・学校案内・教育目標用資料・学校要覧・専攻科リーフレット他	167校
H18.6.9～7.18	伊勢崎工業高校他	教員、学生課職員	募集要項・学校案内・教育目標用資料・学校要覧・専攻科リーフレット他	30校

(出典：教務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の目的（教育理念・教育目標・育成する人材像）については、ホームページの分かり易い場所に掲載している。ホームページのアクセス数は、月平均45,000回に上る。また、本校の教育内容を広く社会へ公表するための広報誌的資料である「学校要覧」の初めのページに目的を記載し、学外の各機関に送付している。更に、地元の中学校への入試説明会、オープンキャンパスにおいて、教育目標をより分かり易く記述して掲載した、「学校案内」「教育目標用資料」「専攻科リーフレット」等を中学校関係者に配付している。また、就職の求人を訪れた企業の採用担当者には、教育目標を記述した「教育目標用資料」を配付している。以上のことから、本校の目的は広く社会に公開されていると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

○本校ではその目的を、1つの「教育理念」、3項目の「教育目標」、6項目の「教育方針（育成する人材像とその能力・資質を含む）」と階層的に分類し、更に、最後の6項目について、準学士課程と専攻科課程における内容を対比して記述することにより、分かり易く定めている。

○目的の学内における周知のため、学内の各種パンフレットに記載すると共に、「教育目標カード」を配付し、学内における掲示を行っている。特に学生に対しては、始業式・新入生ガイダンス・ホームルーム授業、全校集会など頻繁に目的の周知に努めている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 1 の自己評価の概要

本校の中期計画の前文に、「小山高専の教育目標は、準学士課程（学科）においては5年間の早期ものづくり教育を通して培った実践力と専門基礎力を有する有能な各学科卒業生を新しい時代にふさ

わしい中堅技術者として社会に輩出することにより、専攻科課程においてはそれに加え問題解決能力と豊かな創造力を兼ね備えた「開発型技術者(テクノロジスト)」としての修了生を世に送り出すことにある。」と定めている。

このような主旨に基づき、創立当初からの教育の基本理念「技術者である前に人間であれ」と、その内容を具体的に示した3項目：○ 健やかな心身、○ 豊かな人間性、○ 科学技術の研鑽と創造、を発展させ、より明確な教育方針として次の6項目を定めている。① 豊かな人間性の涵養、② 豊かな感性と創造力の育成、③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上、④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成、⑤ 情報技術力の向上、⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成。更に、これら6項目の各々について、準学士課程と専攻科課程における育成すべき人材として身につけるべき資質・能力を、両課程に対比させて定めている。これらの「教育理念（3項目）」と「教育方針（6項目）」は、いずれも学校教育法70条の2に定められた条件に基づいて、前述の中期計画に記載された「本校の目的」を果たすために策定されたものである。

本校の教育目標の周知については、学校の構成員には、学生便覧と携帯用の教育目標カードを全員に配付すると共に、校内の各所（正面玄関内、教室）に掲示して、常に確認出来るように配慮している。特に学生には、始業式、全校集会、ホームルームを通じて、教育目標への理解を深める努力をしている。また、新入生および新任の教職員にはガイダンス時にも説明している。アンケート調査の結果、教育目標などの周知度は、構成員によりバラツキはあるものの「概ね良好である」という結果を得ている。

学校外部への周知に関しては、ホームページへの掲載、学校要覧と教育目標用資料の配付、各種説明会などでの説明を通じて、中学校関係者のみならず企業等を含めた各種機関も対象として、本校の教育目標を広く社会に公開する取り組みがなされている。

基準 2 教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点 2-1-①： 学科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点到に係る状況）

本校の準学士課程は、機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、物質工学科、建築学科の 5 学科から構成されている(資料 2-1-①-1)。構成、定員共に高等専門学校設置基準に従ったものとなっている。各学科は本校の教育目標を達成するため、それらを具体化した各学科の教育目標(資料 2-1-①-2)を定め、一般科目と専門科目のバランスをとりつつ教育課程を編成し、効果的な教育を行っている。

資料 2-1-①-1：学科の構成；小山工業高等専門学校学則

第 3 章 学科、学級数、入学定員及び教職員組織

第 7 条 学科、学級数及び入学定員は、次のとおりとする。

学 科	学級数	入学定員
機械工学科	1	40 人
電気情報工学科	1	40 人
電子制御工学科	1	40 人
物質工学科	1	40 人
建築学科	1	40 人

（出典：平成 19 年度学生便覧 p. 7）

資料 2-1-①-2：学科の教育目標とカリキュラム概要

1. 一般科

一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させる。これにより大学教養課程レベルの知識を養い、さらに、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的能力、国際的コミュニケーション能力等）を養うことに重点をおいた教育を行う。

2. 機械工学科

教育目標

ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての

技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。そして、卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。

カリキュラム概要

1 学年では、様々な工学的現象や工業技術に興味・関心を持つことに重点を置き、そのための専門への導入教育の充実を図るため、2006 年度から前期に「機械工学基礎」の科目を新設し、「工作実習」の科目に 2 足歩行モデルの製作を取り入れた。

2 学年では、工学的現象や工業技術と授業科目との関連を見いだすことに重点を置き、「工作実習」の科目の授業内容の検討を行い、2005 年度に CNC フライスのプログラミングと加工を取り入れた。また、文字情報や数値情報の処理のため「情報処理」の科目を実施している。さらに、静力学を内容とした「工業力学Ⅰ」を新設して、力学教育の充実を図った。

3 学年では、工学的現象や工業技術の原理を理解し、該当する法則が適用できる基礎力が身に付くことに重点を置き、「材料力学」をはじめ、2005 年度から導入した「工業力学Ⅱ」などを通して、目的の達成を目指している。

4 学年では、工学的現象や工業技術に課題を見だし、解決するための基礎力を持つことを重点に置き、「熱力学」や「水力学」などの基礎科目のほか、「機械設計製図」や「機械工学実験Ⅰ、Ⅱ」、「輪講」などの科目のなかで、実際の製品を意識した教育を充実させる。

5 学年では、工学的現象や工業技術に関する問題の発見とその解決能力の獲得に重点を置き、「機械力学」などの基礎的科目のほか、「制御工学」「材料強度学」「メカトロニクス実験」など、より専門的な科目も選択できるようにしてある。「卒業研究」では、問題発見と解決能力獲得の達成を目指す。特に、「卒業研究」では、まとめる能力、表現力の養成のために、3 回の発表会を設けて、能力向上を目指している。

3. 電気情報工学科

教育目標

電気情報工学の基礎知識について、演習を含めたスパイラル教育により習得させる。高学年では、電気・電子・情報分野の 3 コースを設置し高度な専門知識を習得させる。ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。

カリキュラム概要

本学科では、以下のような特色を有する教育を実施している。

a) スパイラル的な学習による導入教育の充実

電気・電子系の基礎概念は数学的に体系化されているために、低学年においてはイメージとして捉え難く充分興味を引き出すことが難しい。そこで専門知識の導入教育として、従来の基礎学力強化を中心とした教育に加え、比較的理解しやすい技術的事柄を講義に織りまぜることにより、基礎→応用の繰り返しにより電気・情報系学問の魅力を理解させる。例として、1 学年の導入科目「電気情報工学大系」により、本学科における授業内容の基礎から応用技術までを概観し、2・3 学年に電気・電子工学の基礎学問である「電気磁気学」と「電気回路学」を学ぶ。一方、2 学年にそれら基礎理論の

演習と、「情報工学」の基礎と応用的内容を含む「電子情報工学」を配し、基礎・応用の連携を密にしてスパイラル的に学べるようにしている。

b) 情報関連教育の体系化

高度情報化技術の重要性が高まる中、電気系学科においても、情報通信関連分野の教育を整備し、従来の情報処理技術中心の教育に加え、体系化された情報工学・情報科学の基礎についての教育を導入する。情報関連教科の開講科目単位数は、選択科目数の約半数に達し、情報工学・情報理論を体系的に学べるようにしている。

c) 高学年におけるコース制教育と授業科目の系統的配置

電気情報工学科で学修する内容は、エネルギー系・情報コンピュータ・エレクトロニクス系の広範囲な分野に及んでいるため、3つのコース教育体制を採用している。各コースの内容は次の通り。

α. 電磁環境工学コース：電磁エネルギーの発生・輸送・貯蔵とその環境技術に関する分野と、生体・超音波に関する技術とその環境工学に関する分野。

β. 情報計測工学コース：コンピュータソフトウェア、情報ネットワーク技術、画像・音響信号処理技術、情報伝送技術に関する分野

γ. 電気物性工学コース：超伝導・半導体の材料科学とそのデバイス応用に関する分野、レーザを中心としたオプトエレクトロニクス分野およびプラズマエレクトロニクスに関する分野。

コース制の長所は、広範囲に亘る電気情報工学分野における専門性を明確にし、学生の個性に適合する得意な分野を選択できることである。そのために3つの分野の5年間の授業科目を系統的に配置し、しかも各分野での「Keyとなる科目」を設定し、学生が現在受講している講義が専門分野のどの位置にあるかを把握できるようにする。一方、多岐に亘る電気電子工学の分野では、3つのコースとも互いに共通とされる重要な科目を多く含んでいることから、他コースの授業科目を比較的自由に選択出来るように配慮している。

また電気主任技術者認定校を堅持するため、αコースの学生を対象として資格認定に関する授業科目の学年配当を割り当てている。

d) 創造力を養う実験・実習・研究の充実

平成15年度から、創造性育成のためのものづくり教育を実践するため、3学年後期にもものづくり授業「プロジェクトワーク」を導入している。この授業の目的は、製作技術の習得だけでなく、学生自らが設計・製作した作品の問題点を明らかにし、その問題を解決するために必要な知識を調べ、作品の改良を行うことによって問題解決能力を身に付けることである。また、この授業は1学年から3学年前期までの実験内容を総括し、高学年次における実験および卒業研究等に活用できる内容として位置づけられている。高学年（4・5年次）では実験においても、各コースに重要であるテーマを独自に設定できるようにコース別実験を配置している。これらの実験実習授業と、5学年における高専教育の集大成科目と位置づけている卒業研究を通じて、創造力に加えコミュニケーション能力・国際感覚など実践的技術者としての資質を養う教育を実施している。

4. 電子制御工学科

教育目標

専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実に図る。専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識・技術を修得させる。専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と

最新知識を習得させ、卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

カリキュラム概要

高度情報化社会を支える電子・計測・制御・情報などの工学分野で活躍できる技術者を育成することを教育目標として、(1) 低学年で開講する専門基礎科目（電子制御基礎、コンピュータ基礎、システム演習、電気回路、プログラム、工学実験等）を通じて、電子制御工学科への興味を育成しつつ本学科への導入教育を行う。特に基礎学力の充実を図り、専門応用科目の習得への基礎を確立する。(2) 中学年で開講する専門科目（応用物理、電磁気、電子回路、コンピュータ、プログラム、電子制御基礎、システム演習、工学実験等）では、繰り返し復習を行うことで基礎学力の補完および更なる向上に努めながら、専門応用科目の導入教育を行う。(3) 高学年で開講する専門応用科目（電子工学、デジタル工学、計測工学、制御工学、ソフトウェア工学、情報工学、電磁工学、量子工学、システム工学等）では、目標とする技術者として必要な電子制御工学分野に関する既存知識のみならず最新知識をも習得させる。また、自立能力、解決能力、発表能力、創造能力、実践能力、倫理能力等の育成を卒業研究、輪講、専門座学を通じて達成していく。

5. 物質工学科

教育目標

新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を習得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。最終学年では教員の直接指導により、発表能力を向上させ創造的な卒業研究の完成を目指す。

カリキュラム概要

物質工学科では、1年から3年次までに無機化学・有機化学・物理化学・生物化学・化学工学などの基礎教育を修得させ、4年次以降の高度な専門的内容に対応できる基礎力を付ける。4年次では物質（材料化学）コース（必修科目：材料工学・化学装置工学・高分子材料・表面工学・工業材料・材料化学実験）と生物（生物工学コース）（必修科目：微生物工学・酵素工学・生物有機化学・生物反応工学・細胞・遺伝子工学・生物工学実験）にコース分けされており、学生の希望に応じてコース選択できるように配慮されている。しかし、コース分けにより学生の専門知識が極端に偏らないように4年～5年次には、コース共通の選択科目が設けられており、各コースの学生が材料化学系科目及び生物工学系科目を自由に選択できるように設定されている。

6. 建築学科

教育目標

低学年からの実習を通じて建築学の基本を習得させ、建築学と工学の基礎学力の向上のみならず、プロジェクトの企画能力の育成を目指す。高学年では専門基礎科目の習得の重要性を強く認識させ、最終学年の卒業研究を通じて、建築学の諸分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。

カリキュラム概要

建築学科における専門科目の教育内容は、「計画」、「歴史・意匠」、「構造・材料」、「環境・設備」、「生産・構法」、「工学基礎」の六つの分野と、これらの知識を総合化し建築空間としてまとめあげる「設計・製図」の合計七つの柱から成り立っており、それぞれを段階的に配列している。

a) 建築学の導入部分として、1 学年で学科教員が分担して建築学の全般を紹介する「建築概論」を通じて、さらに建築設計製図の基本である「図学」、「建築製図 I」の早い時期からの実習を通じて、建築の基本を習得させる。2 学年で、建築物の構成を学ぶ「建築一般構造」と建築構造の基本である「建築構造力学 I」を配し、また、「建築製図 2」において創造性とモノづくりの実践を交えたワークショップを配し、これらの科目の習得により建築学と工学の基礎学力の向上を目指す。

b) 高学年の 4, 5 学年では、3 学年までの基礎科目および専門基礎科目の習得の重要性を強く認識させ、建築学諸分野の計画・意匠、環境・設備、構造・材料、設計等の専門学力の向上を目指す。c) 4 学年に「実務研修」を配し、学生へ積極参加を推奨する。d) 5 学年の「卒業研究」を通じて、各学生が各々の個性にあう分野で創造力と問題解決能力およびコミュニケーション能力を発揮できる実践的技術者の養成を目指す。

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

学科の構成は高等専門学校設置基準に沿っている。一般科と各専門学科の教育内容はバランスが取れており、本校の教育目標実現のために適切な教育課程が編成されている。以上のことから、学科の構成は教育の目的を達成するうえで適切なものであると言える。

観点 2-1-②： 専攻科を設置している場合には、専攻科の構成が、教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

専攻科課程には、準学士課程の機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科を基盤とする電子システム工学専攻、物質工学科を基盤とする物質工学専攻、建築科を基盤とする建築学専攻の 3 専攻が設置されている(資料 2-1-②-1)。各専攻は専攻科教育目標を達成するためにそれぞれの分野の特色を踏まえた教育目標(資料 2-1-②-2)を定め、それに沿った教育課程を編成し、より高度な専門知識と技術を身に付けた、開発型技術者の養成を行っている。建築学専攻のカリキュラム表を資料 2-1-②-3 に示す。

資料 2-1-②-1 : 専攻科の構成・定員

小山工業高等専門学校学則

第 8 章 専攻科

第 4 1 条 専攻科の専攻及び入学定員は次のとおりとする。

学 科	入学定員
電子システム工学専攻	12 人
物質工学専攻	4 人
建築学専攻	4 人

(出典：平成 19 年度学生便覧 p.13)

資料 2-1-②-2 : 各専攻の教育目標

電子システム工学専攻

機械系、電気・電子・情報系準学士課程の各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会の構造に適した知識や技術を講義・演習・実験を通じて修得させる。具体的には、産業機械のロボット化技術、情報通信システム、計測制御システム、光・電子デバイス等の高度化した技術の基礎および応用力の修得を目指す。さらに、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

物質工学専攻

化学を基礎として材料工学、生物工学、及び化学工学等の諸分野に柔軟に対応できる基礎学力を養成し、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。さらに、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

建築学専攻

建築学の諸分野である計画・意匠、構造・材料、環境・設備、設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得させ、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。さらに、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）を通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 2-1-②-3 : 平成19年度 建築学専攻カリキュラム表

専攻科の学年別配当単位数

建築学専攻

授 業 科 目	必修選 択の別	単位数	学 年 別 配 当				備 考
			1 年前期	1 年後期	2 年前期	2 年後期	
一般科目	応用英語 1	選択	2	2			
	応用英語 2	選択	2		2		
	日本語概説	選択	2	2			
	技術者倫理	必修	2			2	
一 般 科 目 開 設 単 位 計			8	4	2	2	
一 般 科 目 修 得 単 位			6 単位以上修得				
専門基礎 科 目	複素関数論	選択	2	2			
	応用解析学	選択	2		2		
	応用科学	選択	2		2		
	建築数学	選択	2		2		
専門基礎科目開設単位計			8	2	6		
専門基礎科目修得単位			4 単位以上修得				
専門科目	まちづくり論	選択	2		2		
	近代建築思潮史	選択	2	2			
	文化財保存論	選択	2			2	
	地域施設計画論	選択	2	2			
	バリアフリー・デザイン論	選択	2				2
	居住地計画論	選択	2			2	
	計画システム論	選択	2	2			
	合成構造論	選択	2		2		
	建築耐震設計論	選択	2			2	
	建築構造解析学	選択	2		2		
	都市防災論	選択	2	2			
	建築弾塑性力学	選択	2	2			
	建築高機能材料工学	選択	2			2	
	システムデザイン	必修	2	2			
	電子情報通信概論	必修	2	2			内 1 科目選
	工学システム概論	必修	2		2		択
	環境技術	必修	2		2		
経営工学	必修	2			2		

	地域設計1	選択	2	2				
	地域設計2	選択	2		2			
	建築CAD・CG	選択	2	2				
	特別研究	必修	14		2	6	6	
	実務研修	選択	2	2				
専門科目開設単位計			58	20	14	16	8	
専門科目修得単位			48単位以上修得					
開設単位合計			74	26	22	18	8	
修得単位合計			62単位以上修得					

(出典：平成18年度学生便覧 p.28)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科の構成は、準学士課程の学科を基盤とする3専攻からなり、更に高度な専門知識・技術の教育を実現するものになっている。専攻科の目的・内容は学校教育法（第70条の6）の規定に適合しており、本校の教育目標を達成する上で適切なものとなっている。

観点2-1-③： 全学的なセンター等を設置している場合には、それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

(観点に係る状況)

本校には全学的センターとして情報科学教育研究センター、地域共同開発センター、ものづくり教育研究センターの3つが設置されている。

A. 情報科学教育研究センターは、本校における情報処理教育・研究を推進すると共に、学外の諸機関との連絡・調整及び情報ネットワークの管理運営を目的として設置された。当センターは本校の教育目標のひとつである高度な実践的・開発型技術者を育成するための情報教育や卒業研究、特別研究の場を提供し、教育活動の支援を行っている(資料2-1-③-1～5)。

B. ものづくり教育研究センターは、総合的なものづくり教育・研究を実施するために、学内共同利用施設として設置された。当センターは、安全性を重視した実習教育や工学実験、研究活動を支援するための学内共同利用施設である。実習では機械工学科の1～3年、電気情報工学科の2年の学生が基本的な工具類の安全で正しい使用方法を学び、最新のCNC工作機械による高度な加工方法までを習得する。また、当センターでは卒業研究における実験装置の制作、ロボコンやエコランカー製作等の課外授業の場としても活用されている(資料2-1-③-6～8)。

C. 地域共同開発センターは、本校における先端技術の実践、教育・研究並びに地域企業など民間

機関との共同研究や技術交流などを総合的に推進するために設置された。特に、本校における学内共同研究の推進及び実践的・開発型技術者の育成に関しては大きな教育的役割りを果たしている(資料 2-1-③-9~15)。

資料 2-1-③-1 :

小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則

制 定 平成 15 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)における、情報処理教育・研究を推進すると共に、学外の諸機関との連絡・調整及び情報ネットワークの管理運営を行うために、情報科学教育研究センター(以下「センター」という。)を置く。

(業務)

第 2 条 情報センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 情報センター内の施設・設備に関する管理運営及び保守に関すること。
- 二 情報ネットワークの管理運営及び保守に関すること。
- 三 情報処理及び関連技術に関する教育・研究及び助言を行うこと。
- 四 情報処理に関する外部機関との連絡・調整を行うこと。
- 五 情報処理に関連した公開講座の実施及び課外活動等の支援に関すること。

(センター長)

第 3 条 情報センターに情報科学教育研究センター長(以下「センター長」という。)を置き、本校の専任教員のうちから校長が任命する。

2 センター長は、前条の業務を掌理する。

3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第 4 条 センターの管理運営を円滑に行うために情報科学教育研究センター員(以下「センター員」という。)を置く。

2 センター員は、センター長を補佐するとともに、第 2 条のセンター業務の企画立案及びその業務の遂行に当たる。

3 センター員は、本校の教職員のうちから校長が任命する。

4 センター員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター職員)

第 5 条 情報センター担当の技術職員を技術室に置く。

2 技術職員は、センター長の指示を受けて、センター員とともに第 2 条のセンター業務の遂行及び援助を行う。

(運営委員会)

第6条 情報センターの管理運営に関する事項を審議するため、情報科学教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関する必要な事項は、別に定める。

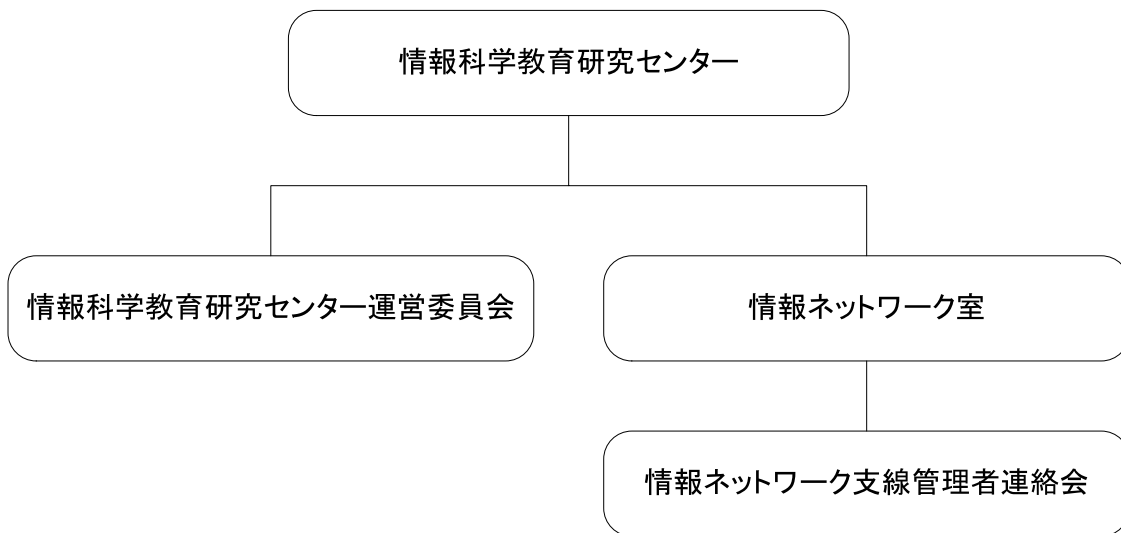
（事務）

第8条 情報センターに関する事務は、技術室第2グループが行う。

（出典：小山高専ホームページより抜粋）

資料2-1-③-2：

情報科学教育研究センター組織図



（出典：情報科学教育研究センター運営委員会議事要録）

資料2-1-③-3：情報センターを利用した研究

情報センターを利用した研究には次のものがある。

1. 平成17年度電子制御工学科卒業研究「グリッドコンピューティングに関する研究」
2. 平成18年度電子制御工学科卒業研究「分散並列処理システムの構築」

（出典：情報科学教育研究センター運営委員会議事要録）

資料 2-1-③-4 :

情報科学教育研究センター第 1 演習室授業時間外利用者数

06年 9月	06年 10月	06年 11月	06年 12月	07年 1月	07年 2月	07年 3月	07年 4月
17名	28名	1名	12名	5名	3名	5名	20名

(出典：第 1 演習室入室記録簿より抜粋)

資料 2-1-③-5 : 部屋別利用状況 [情報科学教育研究センター]

部屋名称		(情報センター) 第 1 演習室					
【平成 18 年度前期】							
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考	
1 時限	3E 情報工学 II 40	3A 情報処理 II 43 人 (山本(嘉)、山本(貴)、大島)	1E 電気電子製図 41 人 (大嶋)	2E 情報工学 I 39 人 (小林)	2C 電子計算機実習 43 人 (川越)		
2	人 (今成, 佐藤(智))						
3	1C 製図 40 人 (吉田)	3M 情報処理 38 人 (山下)		2A 情報処理 I 39			
4			人(白石、山本(貴))	1E 情報工学 I 41 人 (大嶋)			
5				5E 集積回路設計			
6		5M 数値解析 37 人 (山下)		42 人 (今成)			
7	3M 工作実習 8 人 (川村)		3E コース別実験 (各教員)		5E 情報ネットワ		
8				ーク論 42 人 (石原)			
【平成 18 年度後期】							
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考	
1 時限	3E 情報工学 II 40	3A 情報処理 II 43 人 (山本(嘉)、山本(貴)、大島)	1E 電気電子製図 41 人 (大嶋)	2E 情報工学 I 39 人 (小林)	2C 電子計算機実習 43 人 (川越)		
2	人 (今成, 佐藤(智))						
3	1C 製図 40 人 (吉田)	3M 情報処理 38 人 (山下)		2A 情報処理 I 39			
4			人(白石、山本(貴))	1E 情報工学 I 41 人 (大嶋)			
5			4E 情報工学 III				
6	3M 工作実習 8 人 (川村)	5M 数値解析 37 人 (山下)	38 人 (石原, 佐藤(智))	5M 機械設計製図 III 37 人 (川村)	5E 数値計算法 42 人 (原田)		
7						4M 機械設計製図 II 42 人 (川村)	2M 情報処理 42 人 (山下)
8							

部 屋 名 称						
(情報センター) マルチメディア実習室						
【平成18年度前期】						
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考
1時限	3E 情報工学 II 40	3A 情報処理 II 43 人 (山本	1E 電気電子製図	2E 情報工学 I 39	2C 電子計算機実習 43 人 (川	
2	人 (今成, 佐藤 (智))	(嘉)、山本 (貴)、大島)	41 人 (大嶋)	人 (小林)	越)	
3	1C 製図 40 人 (吉	3M 情報処理 38 人 (山下)		2A 情報処理 I 39		
4	田)			人 (白石、山本 (貴))	1E 情報工学 I 41 人 (大嶋)	
5				5E 集積回路設計		
6		5M 数値解析 37 人 (山下)		42 人 (今成)		
7	3M 工作実習 8 人	3E コース別実験 (各教員)	情報センター会	5E 情報ネットワ		
8	(川村)		議等情報センタ	ーク論 42 人 (石		
放課後			一関連各種会議	原)		
【平成18年度後期】						
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考
1時限	3E 情報工学 II 40	3A 情報処理 II 43 人 (山本	1E 電気電子製図	2E 情報工学 I 39	2C 電子計算機実習 43 人 (川	
2	人 (今成, 佐藤 (智))	(嘉)、山本 (貴)、大島)	41 人 (大嶋)	人 (小林)	越)	
3	1C 製図 40 人 (吉	3M 情報処理 38 人 (山下)		2A 情報処理 I 39		
4	田)			人 (白石、山本 (貴))	1E 情報工学 I 41 人 (大嶋)	
5			4E 情報工学 III			
6		5M 数値解析 37 人 (山下)	38 人 (石原, 佐藤	5M 機械設計製図	5E 数値計算法 42 人 (原田)	
7	3M 工作実習 8 人		(智))	III 37 人 (川村)		
8	(川村)	4M 機械設計製図 II 42 人 (川	情報センター会		2M 情報処理 42 人 (山下)	
放課後		村)	議等情報センタ			
			一関連各種会議			
部 屋 名 称						
(情報センター) ネットワーク実習室						
【平成18年度前期】						
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考
1時限	3E 情報工学 II 40	3A 情報処理 II 43 人 (山本	1E 電気電子製図	2E 情報工学 I 39	2C 電子計算機実習 43 人 (川	
2	人 (今成, 佐藤 (智))	(嘉)、山本 (貴)、大島)	41 人 (大嶋)	人 (小林)	越)	
3	1C 製図 40 人 (吉	3M 情報処理 38 人 (山下)		2A 情報処理 I 39		

4	田)			人(白石、山本(貴))	1E 情報工学 I 41 人 (大嶋)	
5						
6						
7	3M 工作実習 8 人 (川村)	3E コース別実験 (各教員)	シスコネットワ ークアカデミー 5 名 (情報センタ ー)	4D 工学実験 8 人 (各教員)		
8						
【平成 18 年度後期】						
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	備考
1 時限	3E 情報工学 II 40 人 (今成, 佐藤 (智))	3A 情報処理 II 43 人 (山本 (嘉)、山本 (貴)、大島)	1E 電気電子製図 41 人 (大嶋)	2E 情報工学 I 39 人 (小林)	2C 電子計算機実習 43 人 (川 越)	
2						
3	1C 製図 40 人 (吉 田)	3M 情報処理 38 人 (山下)		2A 情報処理 I 39 人(白石、山本(貴))	1E 情報工学 I 41 人 (大嶋)	
4						
5			4E 情報工学 III 38 人 (石原, 佐藤 (智))		5E 数値計算法 42 人 (原田)	
6		5M 数値解析 37 人 (山下)				
7	3M 工作実習 8 人 (川村)	4M 機械設計製図 II 42 人 (川 村)	シスコネットワ ークアカデミー 5 名 (情報センタ ー)	4D 工学実験 8 人 (各教員)	2M 情報処理 42 人 (山下)	
8						

(出典：時間割表より抜粋)

資料 2 - 1 - ③ - 6 :

小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター規則

制 定 平成 15 年 4 月 1 日

最終改正 平成 16 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校 (以下「本校」という。)に、総合的なものづくり教育・研究を実施するために、学内共同利用施設としてのものづくり教育研究センター (以下「センター」という。)を置く。

(業務)

第 2 条 センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 センターにおける学生の教育指導に関すること。
- 二 ものづくりに関する技術の研究・開発及び普及に関すること。
- 三 センターを利用した公開講座の実施に関すること。
- 四 センターを利用するにあたっての技術支援に関すること。
- 五 センターの機械・機器類・諸材料の運用及び保守に関すること。

六 その他必要と認めること。

(センター長)

第3条 センターにもものづくり教育研究センター長（以下「センター長」という。）を置き、本校専任教員のうちから校長が任命する。

2 センター長は前条の業務を掌理し、技術指導教員及び技術室長並びに第1グループ長との連絡調整に当たる。

3 センター長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第4条 センターの管理運営を円滑に行うためにセンター員を置く。

2 センター員は、センター長を補佐するとともに、第2条のセンター業務の企画立案及びその業務の遂行に当たる。

3 センター員は、本校の教職員のうちから校長が任命する。

(センター職員)

第5条 センター担当の技術職員を技術室に置く。

2 技術職員は、センター長の指示を受けて第2条の業務に従事する。

(設備担当者)

第6条 センター設備の安全運用及び保全管理を行うために設備毎に設備担当者を設置する。

2 設備担当者は、技術職員のうちからセンター長が任命する。

(運営委員会)

第7条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料2-1-③-7

ものづくり教育研究センター時間割

前期	月	火	水	木	金
1		特別研究	卒業研究		
2		特別研究	及		
3		特別研究	び	2年電気	
4		特別研究	特別研究	実験	
5					4M実験
6	3M実習	2M実習		1M実習	4M実験
7	3M実習	2M実習		1M実習	4M実験
8	3M実習	2M実習		1M実習	4M実験

後期	月	火	水	木	金
----	---	---	---	---	---

1	特別研究				
2	特別研究				
3	特別研究		卒業研究		
4	特別研究		及		
5		2M 実習	び	1M 実習	4M 実験
6	3M 実習	2M 実習	特別研究	1M 実習	4M 実験
7	3M 実習	2M 実習		1M 実習	4M 実験
8	3M 実習				4M 実験

(出典：時間割表より抜粋)

資料 2-1-③-8 :

ものづくり教育研究センターを利用した卒業研究・特別研究一覧

平成 17 年度

卒業研究テーマ

● 遠隔操作開閉機構の試作
● 車椅子の連結機構に関する研究
● 自動化を考慮したネジ検査装置の製作
● 異種材料に付着するスパッタの接合現象について
● 鉄スクラップ材からの銅の分離、除去に関する研究（その 1：ろう付けについて）
● ソーラーパネルの有効利用について
● SUS316SENB 試験片の疲労と CTOA 解析 1
● SUS316SENB 試験片の疲労と CTOA 解析 2
● 軸力と曲げを受ける SUS316 複数切欠材の塑性崩壊評価 1（光弾性皮膜法評価）
● 軸力と曲げを受ける SUS316 複数切欠材の塑性崩壊評価 2（荷重-変位線図評価）
● 乱流域管内流れ実験装置の改良と評価
● 非金属融体の蒸気爆発時の圧力測定に関する研究
● バイオメタルを用いた小型ポンプの性能向上
● 蠕動運動による移動機構の試作
● バイオメタルを利用した移動装置の研究
● セイルウイング風車のブレード形状と始動トルクの関係
● ブレードの張りによるセイルウイング風車の回転速さの調整
● シーケンス制御基礎教材の制作

特別研究テーマ

● 自動化を考慮したネジ検査システムの開発
● 固体ブレードとシート構造ブレードのマイクロ風車に関する実験的研究

- | |
|------------------------------|
| ● 溶接母材表面に付着するスパッタの接合現象に関する研究 |
| ● III - C 型小型 ACV の方向制御特性 |

平成 18 年度

卒業研究テーマ

- | |
|-----------------------------------|
| ● ダストボックス遠隔開放機構の製作 |
| ● 管内清掃機の試作 |
| ● 多脚步行機構に関する基礎的研究 |
| ● 歩脚のセンサ機能に関する基礎的研究 |
| ● バイオメタルを用いた小型シリンダーの開発 |
| ● 断面形状の変化する管内流れの損失測定 |
| ● 車椅子の連結機構の試作 |
| ● V - A 型小型 ACV の設計と製作 |
| ● ショットピーニング SUS 316 鋼の応力腐食割れと疲労特性 |
| ● ショットピーニング SUS304 SENB 試験片の疲労特性 |
| ● SUS304SENB 試験片の疲労とき裂進展評価 |
| ● ベーストリガー型蒸気爆発の研究 |
| ● 高温固体面上の液滴の温度測定に関する研究 |
| ● 外部擾乱による蒸気膜の不安定化と破壊 |
| ● 鉄と銅のロウ付けとその分離に関する基礎研究 |
| ● 溶接母材表面に付着するスパッタの除去力測定装置の製作 |
| ● 異種材料に付着するスパッタの接合現象について |

特別研究テーマ

- | |
|---------------------------|
| ● V - A 型小型 ACV の設計と製作 |
| ● 蠕動運動ロボットに関する研究 |
| ● 短繊維強化 SMC の損傷と機械的特性 |
| ● 油性液滴の高温固体面上での蒸発挙動 |
| ● 小型ポンプの基礎的研究 |
| ● マイクロ風車の動力性能の改善に関する実験的検討 |

(出典：ものづくり教育研究センター運営委員会資料)

資料 2 - 1 - ③ - 9 :

小山工業高等専門学校地域共同開発センター規則

制 定 平成 15 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、本校における先端技術の実践、教育・研究並びに地域企業など民間機関との共同研究や技術交流などを総合的に推進するために、地域共同開発センター（以下「センター」という。）を置く。

(業務)

第 2 条 センターにおいては、次に掲げる業務を行う。

- 一 学内共同研究の推進及び実践的技術者の育成
- 二 民間企業等との共同研究、受託研究及び技術相談の実施
- 三 専門的な技術に関する公開講座の実施
- 四 センター内の施設・設備の管理運営

(センター長)

第 3 条 センターに地域共同開発センター長（以下「センター長」という。）を置き、本校専任教員のうちから校長が任命する。

2 センター長は、前条の業務を掌理する。

3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第 4 条 センターの管理運営を円滑に行うために地域共同開発センター員（以下「センター員」という。）を置く。

2 センター員は、センター長を補佐する。

3 センター員は、本校専任教員のうちから校長が任命する。

(運営委員会)

第 7 条 センターの運営に関する重要事項を審議するため、小山工業高等専門学校地域共同開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料 2 - 1 - ③ - 10 :

小山工業高等専門学校地域共同開発センター運営委員会細則

制 定 平成15年 4 月 1 日

最終改正 平成17年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この細則は、小山工業高等専門学校地域共同開発センター規則（平成15年 4 月 1 日制定）第 7 条第 2 項の規定に基づき、地域共同開発センター運営委員会（以下「委員会」という。）の運営について定める。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 地域共同開発センター長(以下「センター長」という。)
- 二 本校の各学科専任教員から各 1 名
- 三 技術室長
- 四 技術室第 3 グループ長
- 五 学生課長

(委員の任命)

第 3 条 前条第 1 項第 2 号の委員は、校長が任命する。

(委員長及び会議の開催)

第 4 条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- 4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(審議事項)

第 5 条 委員会は、次に掲げる事項を審議する。

- 一 センターの管理・運営の基本方針に関すること。
- 二 センターにおいて行う教育・研究等の企画立案及び実施計画に関すること。
- 三 民間企業等他の機関とセンターの連携協力に関すること。
- 四 センターに係る規則、規程、細則等に関すること。
- 五 その他センター長が必要と認めること。

(委員会の事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課教務係で行う。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料 2 - 1 - ③ - 11 :

小山工業高等専門学校地域共同開発センター利用規定を次のように定める。

制 定 平成 15 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校地域共同開発センター規則(平成15年4月1日制定)第 9 条の規定に基づき、地域共同開発センター(以下「センター」という。)の利用に関し、必要な事項を定める。

(利用資格)

第 2 条 センターを利用することができる者(以下「利用者」という。)は、次のとおりとする。

- 一 本校の教職員及び名誉教授
- 二 本校の学生
- 三 本校と共同研究などを行う民間企業等の研究員
- 四 その他地域共同開発センター長(以下「センター長」という。)が小山工業高等専門学校地域共同開発センター委員会(以下「委員会」という。)の議を経て適当と認めた者

(利用の日時)

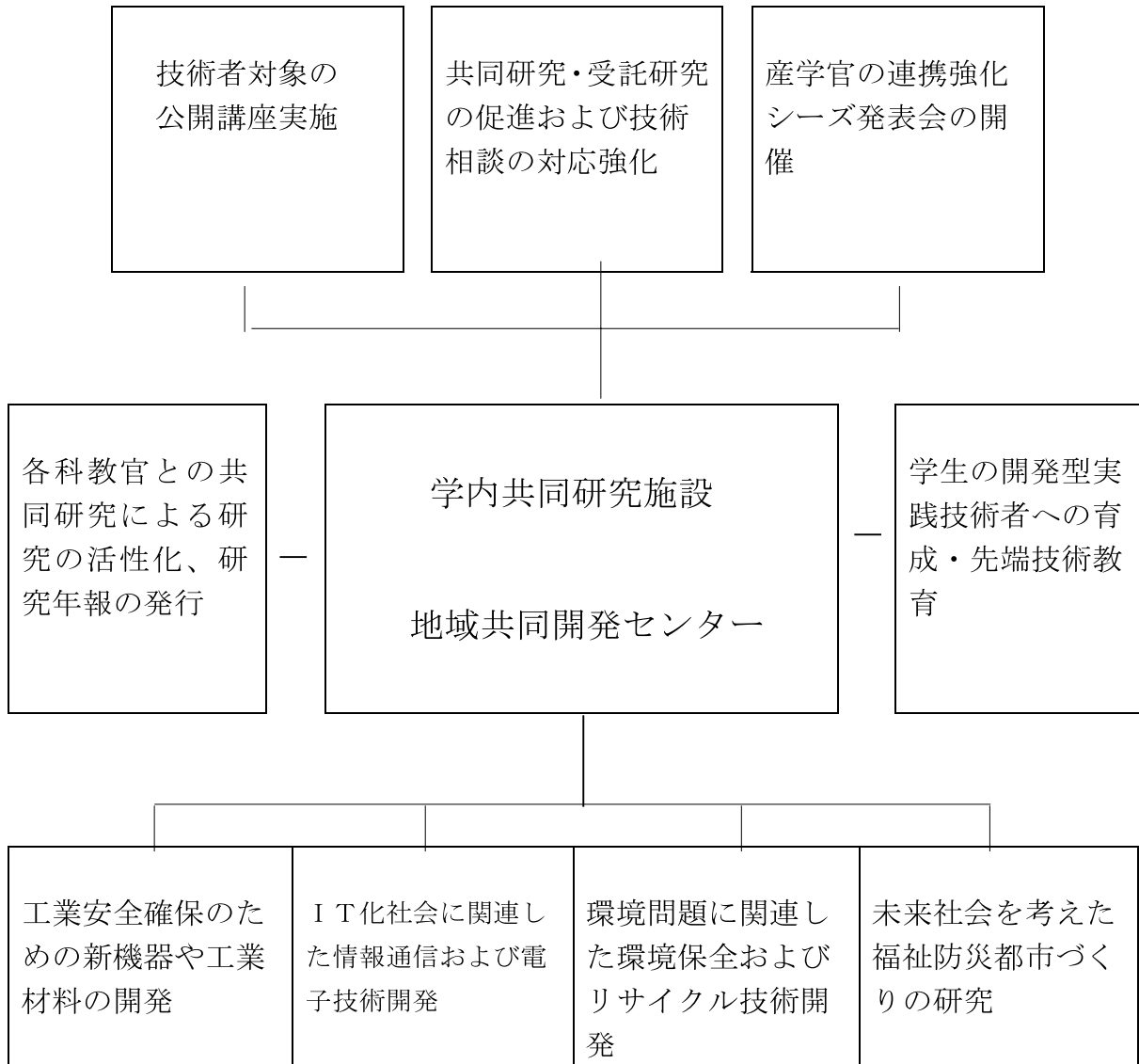
第 3 条 センターを利用できる日及び時間は、次のとおりとする。

- 一 利用できる日は、月曜日から金曜日までとする。ただし、国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第 178号)に規定する休日及び年末年始(12月28日から翌年の1月4日まで)は除く。
- 二 利用できる時間は、8時30分から17時までとする。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料 2 - 1 - ③ - 12 :

地域共同開発センターの教育研究活動組織図



(出典：地域共同開発センター運営委員会資料)

資料 2-1-③-13 :

地域共同開発センターを利用した教職員研究プロジェクト

平成 18 年度

1. クレアチン摂取が高齢者の低強度筋力トレーニングの効果に及ぼす影響
2. ショットピーニング加工によるステンレス鋼 S E N B 試験片の疲労強度改善
3. 電子デバイスを用いたエネルギー生成・変換技術の開発研究
4. アコーステック・エミッション法による先端材料の信頼性評価技術の開発
5. 沿面放電におけるオゾン精製に関する研究
6. 電熱変換素子を利用した電力変換システムの効率改善に関する研究
7. H I D の開発
8. 分光計による人間の身体特徴測定
9. インキの高性能化に関する研究
10. 局部腐食モニタリングのための電気化学ノイズ法の開発
11. α -アミノオキシカルボン酸誘導体の反応性
12. イオン液体中でのグリーンな有機合成反応の開発
13. A1 拡散浸透処理被覆材の高温耐食性評価
14. コラーゲンの機能化と応用に関する研究
15. I C P による簡易な水質分析の評価

地域共同開発センターを利用している教職員研究プロジェクト

平成 19 年度

1. クレアチン摂取が長時間間欠的運動に及ぼす影響
2. ショットピーニング加工によるステンレス鋼 S E N B 試験片の疲労強度改善
3. エキゾマチック・マテリアル開発の研究
4. アコーステック・エミッション法による先端材料の信頼性評価技術の開発
5. 超音波によるオゾン分解に関する研究
6. 光電変換素子を利用した電力変換システムの基礎研究
7. 固有ジョセフソン接合を用いた磁束フロー発信機の基礎研究
8. H I D (Human Interface Device) の開発
9. 近赤外線分光分析計による人間の特性測定
10. 局部腐食モニタリングのための電気化学ノイズ法の開発
11. アミノ酸誘導体の光学分割
12. meso-2,4-ジメチルグルタルアルデヒドへの立体選択的求核付加
13. 魚類由来コラーゲンの機能化に関する研究
14. 骨組モデルによる簡易振動実験法の提案
15. 飲料水の簡易な分析評価
16. 地球環境問題対応のための分析技術の検討

(出典：地域共同開発センター運営委員会資料より抜粋)

資料 2-1-③-14 :

地域共同開発センターを利用した卒業研究 ・ 特別研究

平成 18 年度 (卒業研究)

1. ショットピーニング SUS 316 鋼の応力腐食割れと疲労特性
2. SUS 304 SENB 試験片の疲労とき裂進展評価
3. ショットピーニング SUS 304 試験片の疲労特性
4. 超伝導厚膜に対する短波長揺らぎ伝導率の考察
5. バイオセラミックス破断時のアコースティック・エミッション特性
6. YBa₂Cu₃O_{7-σ} whisker 単結晶の作製と特性評価
7. 電子ドーピング型セラミックス材料の熱電特性
8. 温度応答性及び生体親和性を有する PNIPAM-b-PHEMA の合成
9. 温度応答性及び pH 応答性を有するブロックポリマーの合成と応用
10. ソフトコンタクトレンズへの応用を目指した PHEMA マクロモノマーの精密合成
11. 金属基ハイドロキシアパタイトコーティングの耐久性評価
12. フェニルトリクロロスズとイオン液体の分子間相互作用
13. 水道水中に強制拡散させた溶存オゾン濃度に対する磁気処理効果
14. Al 耐食性コーティングの作成及び溶融硫酸塩薄膜下における腐食過程の観察
15. ステンレス基ハイドロキシアパタイト・チタン複合コーティングの開発
16. マグネシウム局部腐食に起因する電位振動に対する周波数特性
17. プラスチックに対する UV 硬化性インキの開発
18. フェナシルマロノニトリルを用いる合成的研究

平成 18 年度 (特別研究)

1. 導電性酸化物を含む多結晶 (Bi, Pb)₂Sr₂Ca₂Cu₃O₁₀ 系の超伝導特性
2. 電子ドーピング型とホールドーピング型酸化物系における熱電特性の比較研究
3. 短繊維強化 SMC の損傷と機械的特性
4. 末端反応性ポリエチレングリコール (PEG) 誘導体によるフラレン (C₆₀) の機能化と応用
5. 交流インピーダンス法による溶融硫酸塩薄膜下における Al 拡散浸透処理コーティングの耐食性評価
6. 生体用 SUS 316 L 基プラズマ溶射 ハイドロキシアパタイト・チタン複合コーティングの後処理に関する研究

(出典：地域共同開発センター運営委員会資料)

資料 2-1-③-15:

地域共同開発センター設備機器一覧

設備機種名	規格	機器の説明
分析電子顕微鏡	日本電子製・max 80万倍 J E O L 100CXII	Na以上の原子量の元素分析が可能
走査型電子顕微鏡	日本電子製・max 20万倍 J E O L T-300	低倍から高倍までの画像が簡易に得られる。
20トンの疲労試験機	島津製作所製・max 20トン E H F-E A 2 0	動的静的試験が可能。疲労試験、クリープ試験等。
5トンの疲労試験機	島津製作所製・max 5トン E H F-E A 5	動的静的試験が可能。疲労試験、クリープ試験等。
1トンの疲労試験機	島津製作所製・max 1トン E H F-E A 1	動的静的試験が可能。疲労試験、クリープ試験等。
曲げ捻り試験機	島津製作所製・T B-10B 1000rpm	簡易な疲労試験に最適。
核磁気共鳴装置	日本電子製・e x-270	適当な溶媒に可溶な物質の構造等の分析が可能。
リサイクル分取液体クロマトグラフ	日本分析工業製 L C-908	示差屈折計及び紫外線による検出が可能。
電子分光分析装置	E S C A-750	光電子のエネルギー分布を測定し、その物質の化学結合に関するデータを取得。
I C P発光分光分析装置	セイコー電子工業製・s p s 1200AR	無機・有機物の微量元素分析が可能。
極低温クライオスタット	太陽計測(株)製	超伝導体の臨界温度(15~300K)を測定。
プラズマ容赦装置	プラズマダイン社製 S G-100	アルゴンやヘリウムガスをプラズマ化し、高融点粉体を導入、溶射し、基材に吹きつけ、表面をコーティングする。
超高温ホットプレス	島津製作所製 V H L-G R 18/15	セラミックの製造装置、max 20トンのプレスで、2000℃で焼結。
X線回折装置	マックサイエンス社製 M X P-3V	X線を試料に当て、回折散乱線を計測し、構造解析が可能。

	KH-2、90万画素	画像が可能。
近赤外分析計	東陽テクニカ製 HN1100型	電磁波を可変振動させて定量分析ができる。

(出典：共同センター設備一覧表より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

優れている。いずれのセンターも卒業研究・特別研究及び教員の研究などに全学的に活用され、教育目標達成のために成果をあげている。特に情報科学教育研究センターは本校の情報教育の全学的な中心となっており、ものづくり教育研究センターは実習教育や課外授業の場として有効に活用されている。さらに、地域共同開発センターは地域の企業との連携の中で技術者教育を効果的に行うという役割も果たしている。

観点 2-2-①： 教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され、教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

(観点に係る状況)

本校における教育課程全体を企画調整するための組織として準学士課程については教務委員会が、専攻科課程については専攻科委員会が設置され、毎月開催されている。教務委員会は校長補佐(教務担当)、教務補佐、各学科からの代表、学生課長及び教務係長から構成され、校長補佐(教務担当)がこれを統括する(資料 2-2-①-1)。専攻科委員会は専攻科長、各校長補佐、各専攻主任、各専門学科及び一般科で専攻科を担当する教員各 1 名、学生課長から構成され、専攻科長がこれを統括する(資料 2-2-①-2、3)。両者とも構成・規模は全学的な意見を集約するのに適切なものであり、それぞれ教育課程全体にかかわる企画調整や重要事項の審議などを行っている(資料 2-2-①-4、5)。教務委員会および専攻科委員会において審議された内容は運営会議(資料 2-2-①-6)で協議され、校長の決定を経て各学科各専攻において実施に移される(資料 2-2-①-7)。教務委員会、専攻科委員会及び運営会議それぞれの構成、規程等を資料により示す。

資料 2 - 2 - ① - 1 :

小山工業高等専門学校教務委員会規程

制 定 昭和 42 年 4 月 1 日

最終改正 平成 16 年 11 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校に、小山工業高等専門学校教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長補佐（教務担当）
- 二 教務補佐
- 三 各学科から各 1 名及び一般科から 2 名
- 四 学生課長
- 五 教務係長
- 六 その他校長が必要と認めたもの

(審議事項)

第 3 条 委員会は、校長の諮問に応じ次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び改廃に関すること。
- 二 授業時間割の編成に関すること。
- 三 学校の行事に関すること。
- 四 入学者の選抜に関すること。
- 五 学生の試験に関すること。
- 六 教育改善に関すること。
- 七 その他教務に関すること。

(会議)

第 4 条 委員会は、校長補佐（教務担当）が招集し、その議長となる。

(事務)

第 6 条 委員会に関する事務は、学生課教務係において処理する。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料 2 - 2 - ① - 2 :

小山工業高等専門学校専攻科運営規則

制 定 平成 11 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、小山工業高等専門学校学則第 49 条の規定に基づき、専攻科の組織及び運営に関し必要な事項を定めるものとする。

(専攻科長)

第2条 専攻科に、専攻科長を置く。

- 2 専攻科長は、校長の命を受け、専攻科に関する事項を掌理する。
- 3 専攻科長は、専攻科を担当する教授の中から、校長が選任する。
- 4 専攻科長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(専攻主任)

第3条 専攻毎に専攻主任を置く。

- 2 専攻主任は、専攻科長の職務を助け、専攻の運営に関することを総括する。
- 3 専攻主任は、専攻を担当する教授または准教授の中から、専攻科長の推薦に基づき、校長が指名する

(専攻科委員会)

第4条 専攻科に、校長の諮問に応じて、専攻科に関する基本的事項を審議し、その円滑な運営を図るため、小山工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 2 委員会に関し必要な事項は、別に定める。

(雑則)

第5条 この規則に定めるもののほか、専攻科の運営に関し必要な事項は、委員会の議を経て校長が定める。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料 2 - 2 - ① - 3

小山工業高等専門学校専攻科委員会規則

制 定 平成 11 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

(目的)

第1条 この規則は、小山工業高等専門学校専攻科運営規則第4条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- 三 入学者選抜に関すること。
- 四 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- 五 試験及び学業成績に関すること。
- 六 学生の進学及び就職に関すること。
- 七 学生の厚生補導に関すること。
- 八 その他専攻科の運営に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 各校長補佐
- 三 各専攻主任
- 四 各専門学科及び一般科で、専攻科を担当する教員各1名
- 五 学生課長

2 前項第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会には委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

第8条 委員会の事務は、学生課において処理する。

(出典：小山高専ホームページより抜粋)

資料2-2-①-4： 教務委員会議事要録（抜粋）

平成18年度 4月教務委員会議事要録

日 時 平成18年4月12日（水） 15:00～17:00

場 所 管理棟301ゼミ室

出席者 瀧澤・川上・須甲・胸組・上村・小野・伊澤・千田・笠原・糸井・高橋(大)・川本・新井・(小林(悟))

議 事

[依頼事項]

1. 平成18年度校外研修及び専門研修実施計画について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、実施計画書（概要で可）を5月2日（火）までに学生課教務係に提出してほしい旨の依頼があった。なお日程は1，2年は3日まで3～5年は2日までの日程でなるべく年間行事予定表で木・金に授業日の余裕があるので、できる限り木、金を使って計画実施されるよう依頼された。

2. 平成18年度特別講演実施計画について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、実施計画書（概要でも可）を5月2日（火）までに学生課教務係まで提出してほしい旨の依頼があった。

予算は、各学科謝金25,000円、旅費5,000円計3万円とし、不足の場合は当該学科で対応して欲しい旨の依頼があった。

[審議事項]

1. 平成19年度募集要項(案)について

瀧澤校長補佐(教務担当)及び川上教務補佐より、平成19年度募集要項の改正点について

て説明があり、審議の結果原案通り了承された。なお、年間行事予定表で5年生の判定会議と栃木県内出身者の入学手続き日が重なってしまったため、茨城県の入試日がわかった時点で判定会議の日程を調整したい旨説明があった。

2. 特別演習の取扱について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、資格単位認定の専門・一般の区別を明確に規定するため別表の学科名欄に追加すること等の改正について審議し、了承された。

4. その他

物質科委員より物質工学科の資格認定別表の一部改正について説明があり、審議の結果了承された。

[報告事項]

入学者対策室からの報告

川上対策室長より学校案内の原稿について各科委員に対し内容確認と、中学校訪問への各科の協力が依頼された。中学校訪問は5月に訪問予定中学校のリストを出し各科の協力で6月に実施していく予定が報告された。

教育改善推進室報告

胸組推進室長より授業評価集計結果に4月中にコメントを記入することと授業実施記録の17年度未提出分について各科に提出の依頼があった。

なお、18年度分の授業実施記録の提出については後日全教員にメールで依頼することになった。 以上

平成18年度11月教務委員会議事要録

日 時 平成18年11月8日(水) 15:00～17:15

場 所 管理棟301ゼミ室

出席者 瀧澤・川上・須甲・胸組・上村・小野・伊澤・千田・笠原・糸井・高橋大
川本・新井・(小林<悟>)

議 事

[報告事項]

1. 年末・年始行事予定について

須甲教務補佐より資料に基づき例年どおり実施したい旨説明があり了承された。

- ・全教員にはメール、12月26日の木曜振り替えの関係非常勤講師には連絡ポスト、学生には後日ホームルーム掲示により通知される。
- ・12月26日(火)は木曜の日課に振り替えて行うので、授業時間が不足する場合は予備日に補講を行うなど考慮願いたい。

なお、「学生表彰」については、学生委員会で年度末に行うことを検討中であり、年度末実施となれば削除することとした。(その後、学生委員会で検討した結果、「学生表彰」は年末には行わず、年度末に一括して行うこととなった。)

2. 読書体験発表会実施報告について

瀧澤校長補佐より資料に基づき実施した旨報告があった。

〔審議事項〕

1. 平成19年度年間行事予定(案)について

瀧澤校長補佐(教務担当)より資料に基づき、来年度は中間試験を5日間実施、12月の全校集会は止め、避難訓練については12月中の水曜日に実施してもらう等とすること等、例年と異なる点について説明があった。審議の結果、学年末試験の時期を2日間繰り下げて実施することにした他は、原案通り了承された。

また、開校記念特別講演については、委員会意見としては「特に毎年実施しなくてもよい」とし、この件については総務会議、運営会議に諮り、決定後に修正した予定表(案)を各委員宛Eメールにて配布することとした。

〔依頼事項〕

1. 平成19年度入学者推薦選抜検査「面接教員」について

3. 学習到達度試験の実施について

川上教務補佐より、学習到達度試験を実施する際に、監督教員各2名については当日の1, 2時限担当教員にお願いすること、また当該時限を非常勤講師が担当している場合は各科で対応をお願いしたい旨、依頼があった。また、本部詰教員は学科順で担当を回し、今年度は機械工学科及び電気情報工学科より各1名を出していただきたい旨、依頼があった。なお、本件についての監督教員及び本部詰め教員名は、11月17日(金)までに教務係にお知らせ願いたい。

5. 放送大学との単位互換協定について

瀧澤校長補佐(教務担当)より、放送大学との単位互換協定について説明があり、委員会の意見としては「協定手続きが煩雑でなければ締結する」こととし、この件については総務会議、運営会議に諮ることとした。

6. 資格関係の見直しについて

須甲教務補佐より資格取得に係わる単位一覧表、高専生が取得できる主な資格についての内容に各科で変更があれば1月末までに教務係へ提出するよう依頼された。

7. 3年生保護者懇談会(2月3日(土)実施)

須甲教務補佐より3年生保護者懇談会(担任宛には別途連絡)に関し、保護者への案内文に連絡事項を付記したい学科があればその旨、11月中に教務係へ提出するよう依頼された。

入学者対策室報告

川上教務補佐より、中学校訪問等の各科の協力に対するお礼があった。なお、まだ高専について正しく認識していない中学校もあるので機会ある毎に説明していきたい旨、併せて報告された。

教育改善推進室報告

胸組教務補佐より、①時間割作成資料の提出について依頼があり、記入用紙はEメールの掲示板に掲示してあるが一部修正して委員宛メール送信するので、12月15日(金)までに提出願いたい。

②教育改善研修会について、11月29日(水)に会議室を会場に予定しているので、資料を参考に各科10分程度発表していただきたい。

その他

一般科委員より、来年度入学生から1年生1単位減としたいとの提案があり、それに伴う各科の対応と、一般科としての再考状況について、臨時教務委員会を11月22日(水)に開き審議することとなった。

以上

平成18年度2月教務委員会議事要録

日 時 平成19年2月7日(水) 15:00~17:10

場 所 管理棟301ゼミ室

出席者 瀧澤・川上・須甲・胸組・上村・小野・伊澤・千田・笠原・糸井・高橋(大)
川本・新井・(小林<悟>)

議 事

[報告事項]

冒頭、瀧澤校長補佐(教務担当)より19年度入学者学力選抜の本校、茨城高専及び群馬高専の志願者状況が報告され、いずれも漸減傾向がみられ今後の対応を検討していくことが報告された。

2. 平成19年度新入生ガイダンス日程表(案)について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、内容の確認並びに学級担任及び専門学科等の協力が依頼された。

[審議事項]

1. 平成20年度編入学者募集要項(案)について

川上教務補佐より資料に基づき変更点について説明があり、各科の選抜方法等を確認の上出題範囲の変更等意見があれば2月16日(金)までに教務係まで連絡の旨、依頼された。

2. 学則別表の一部改正(案)について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、内容の確認と修正があれば2月7日中に教務係まで連絡の旨、依頼された。

3. 資格取得に係わる単位認定に関する規程の別表の一部改正(案)について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、内容の確認と修正があれば2月7日中に教務係まで連絡の旨、依頼された。なお末尾文章の単位取得の例は機械工学科の内容変更に伴い削除することとなった。

4. 開校記念行事について

瀧澤校長補佐(教務担当)より各科の意見を求められ、審議の結果、次回は創立45周年の年度に開催することとし、その後5年に1回、事務部総務課で担当のうえ実施することが了承された。

5. 入試制度の見直しについて

瀧澤校長補佐(教務担当)より資料に基づき説明があり、来年度(H20年度)募集要項から1中学校あたり各学科につき2名までとする推薦の制限を廃止する案と、今後検討すべき入試制度の見直しについて各科の意見を次回の委員会で検討することとなった。

[依頼事項]

5. 学生からの成績に関する意見等のある場合について

瀧澤校長補佐(教務担当)より主旨説明があり、「成績等に関する学生の意見」を3月2日を期限とし、対応していただく様依頼があった。なお、学生にも教室等への掲示により周知する旨説明があった。

以上

平成18年度3月教務委員会議事要録

日 時 平成19年3月7日(水) 15:00~17:00
 場 所 管理棟301ゼミ室
 出席者 瀧澤・川上・須甲・胸組・上村・小野・伊澤・千田・笠原・糸井・高橋(大)
 川本・新井・(小林<悟>)

議 事

[報告事項]

1. 平成19年度入学者選抜検査志願者及び合格者状況について

川上教務補佐より資料に基づき説明があり、傾向として県内の受検者数の大幅な減少が報告された。併せて本日行われた入学手続きについては、全員の手続きが完了したことが報告された。

2. 3年生保護者会の報告について

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、開催時期については19年度年間行事予定により決定しているため、開催時期以外の内容については今後の参考にしていくことが報告された。

3. 平成18年度学術優秀賞該当学生の推薦について

瀧澤校長補佐(教務担当)より該当学生を教務担当が規則に基づき判定会議後に推薦する旨説明があり、了承された。なお、5年生は卒業式に、1~4年生は始業式の際表彰を行うので、受賞時のマナーについて新学年担任から事前指導を該当学生に行って欲しい旨依頼された。

[審議事項]

1. 平成20年度編入学者募集要項(案)について

川上教務補佐より資料に基づき説明があり、出題範囲に変更がない旨の確認と案内図の変更について確認を行い、原案とおりに了承された。

2. 平成20年度入学者選抜検査実施計画(案)について

川上教務補佐より資料に基づき説明があり、審議の結果、了承された。

[依頼事項]

1. カリキュラム変更に関する依頼について

須甲教務補佐より、カリキュラム変更に伴い、留年者に影響が出る、再履修免除・先取り科目の単位数、科目の読替等について各学科の対応を5月の教務委員会で提出することが依頼された。

以上

(出典：平成18年度教務委員会議事要録より抜粋)

資料2-2-①-5： 専攻科委員会議事要録（抜粋）

平成18年度 第7回専攻科委員会議事要録

日時 平成18年11月8日（水）15：10～16：20

場所 多目的ホール（専攻科棟4F）

出席者 尾立、土田、亀山、高橋、松島、中山、泉山

1. 大学院合同説明会（茨城、筑波、北陸先端）について

11月29日（水）に実施することで以下のとおり決定し、時間等を確認した。

茨城大学大学院 13：00～14：00 多目的ホール

筑波大学大学院 14：00～15：00 多目的ホール

北陸先端科学技術大学院大学 15：00～16：00 多目的ホール

（筑波大学 対象本科4年 15：00～16：00 多目的メディアホール）

2. 専攻科生9月期修了申し合わせについて

案のとおり決定し運営会議に諮ることとした。

3. 専攻科19年度行事予定について

教務委員会の方で作成される本科の行事予定を基に案を作成し、次回委員会で検討することとした。

・専攻科選抜検査、判定会議の合理化について委員長より提案があり、各学科で検討してもらうこととした。提案内容概略は文書にして各委員へ後日渡す。

・選抜検査の日程は今年度と同じ時期に開催する。

・本科の推薦入試時は専攻科は休業日とする

・来年度から大学院説明会も日程を決め、行事予定に含める。

4. 専攻科説明会について

12月6日の本科4年生を対象とした専攻科説明会について委員長のみ出席・説明する。当日開催

予定の第8回専攻科委員会は調整し、委員にはのちほど連絡することとした。

5. 専攻科特別研究・概要書作成要領（案）について

今年度も昨年度と同じ作成方法で作ることになった。なお、専攻によりどうしても要領どおり行かない場合はこの限りでなくても良いこととした。

平成18年度 第8回専攻科委員会議事要録

日 時 平成18年12月6日（水）15：10～16：00

場 所 専攻科演習室（専攻科棟4F）

出席者 尾立、土田、亀山、高橋、小林（一）、中山、泉山

1. 専攻科入学者選抜検査判定会議の改定について

各学科で検討してもらった結果以下のような意見が出された。

E科：現行の判定会議の形式を指示。機関別認証評価等の絡みもあり今の時期にやらなくても良い。保留を指示。

C科：改定案賛成。ただ、学則の変更の必要性を懸念。

A科：改定案賛成。

一般科：改定案賛成。

なお、M科及びD科は学科の意向が定まっていないため次回委員会で出してもらい審議することとした。

2. 平成20年度専攻科学生募集要項について

委員に確認依頼がなされた。

3. 学生便覧掲載記事の検討について

各委員で検討してもらい何かあれば次回出して貰うこととした

4. 専攻科19年度年間行事予定表について

本科の予定表をもとに専攻科の予定表を作成した。

5. その他

- ・委員長より長岡技大のVOS特待生に関する話があった。
- ・大学院説明会について、進学希望の専攻科生が少ないことから来年度やり方を変える方向で検討していくこととした。
- ・専攻科学力選抜検査実施要領の変更点について各委員に確認依頼があった。

平成18年度 第9回専攻科委員会議事要録

日 時 平成19年1月10日（水）15：10～16：10

場 所 専攻科演習室（専攻科棟4F）

出席者 尾立、土田、亀山、高橋、松島、小林（一）、渡邊、中山、泉山

1. 専攻科入学者選抜検査判定会議の改定について

前回保留となっていたM科及びD科から以下のような検討結果が出された。

M科：現行の判定会議の形式を指示。“判定本会議を実施しない”ということに問題を感じる。また、認証評価等を控えている状況なので今検討しなくても良いのでは？

D科：改定案賛成。

前回出された他の4学科の意見を踏まえ検討した結果、判定会議の改定は2学科反対のため見送ることとした。

2. 平成20年度専攻科学生募集要項について

平成20年度専攻科募集要項について素案が提出され、各委員へ確認依頼がなされた。また、学力選抜検査実施の時期について意見があり、学力選抜検査の日程を例年より1週間遅らせる形で日程を組むこととした。(1月末までに原稿作成し、2月初旬に印刷発注)

3. 専攻科リーフレットの作成について

平成19年度版のリーフレットの作成について、掲載する内容・写真等について変更があれば2月末までに事務へ提出することとし、あとは去年と同様に事務的に作成することとした。(3月初旬印刷発注)

5. その他

・平成19年度専攻科授業科目「経営工学」についての対応について委員長より提案があった。大学コンソーシアムで開講している白鷗大学の経営学関連の科目を履修し読み替えて対応する方向で検討することとした。

・平成19年度専攻科授業科目「システムデザイン」の開講形態について委員長より提案があった。これまでの社長シリーズによる講義に加え非常勤講師による講義を併せたスタイルを検討していくこととした。

・専攻科19年度年間行事予定表について

① 進学説明会(大学院)日程について

あらかじめ日程を決めておき(19年度は11月21日及び12月5日)、今年度来校した学校については事前に日程を提示し調整を行う方向で決定した。

② 学位申請説明会の日程について

19年度は7月11日に実施することとした。

平成18年度 第10回専攻科委員会議事要録

日 時 平成19年2月7日(水) 15:10～16:00

場 所 専攻科演習室(専攻科棟4F)

出席者 尾立、土田、亀山、高橋(純)、松島、小林(一)、渡邊、中山、泉山

1. 平成20年度専攻科学生募集の公開について
掲示板及びHPへ載せることとした。
2. 専攻科リーフレットの作成について
平成19年度版のリーフレットの作成について、掲載する内容・写真等について変更があれば2月末までに事務へ提出することとし、あとは去年と同様に事務的に作成することとした。(3月初旬印刷発注)
3. ティーチング・アシスタント (T・A) について
委員長より説明があり、他高専の状況等を確認した。
4. 大学コンソーシアムについて
コンソーシアムにおける科目受講についてガイダンスを4月初めに実施し、受講希望者をまとめ白鷗大学へ報告することにした。

(出典：平成18年度専攻科委員会議事要録より抜粋)

資料2-2-①-6：

小山工業高等専門学校運営会議規程

制 定 昭和56年4月1日

最終改正 平成18年4月1日

(審議事項)

第1条 小山工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）は、校長の諮問建議機関として次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学校の運営組織の設置・廃止に関する事項
- 二 他の運営組織の所管に属さない事項
- 三 校務運営上重要でかつ連絡・調整を要する事項

(組織)

第2条 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 副校長
- 二 校長補佐（教務担当）、校長補佐（学生担当）及び校長補佐（寮務担当）
- 三 専攻科長
- 四 学科長及び一般科長
- 五 図書情報センター長
- 六 情報科学教育研究センター長
- 七 地域共同開発センター長
- 八 ものづくり教育研究センター長
- 九 地域連携室長
- 十 事務部長
- 十一 総務課長及び学生課長

十二 技術室長

(会議)

第3条 運営会議は、校長が招集し、主宰する。

2 運営会議は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。

3 校長が必要と認めるときは、関係職員の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第4条 運営会議に関する事務は、総務課総務係が処理する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料2-2-①-7：

第8回運営会議議事要旨

日時 平成18年 12月13日(水) 13:10～14:30

場所 校長室

議事

【審議事項】

1. 教務関係

1) 平成18年度国立高等専門学校学習到達度試験監督教員心得について(案)
校長補佐(教)より資料に沿って説明があり了承された。

2) 平成19年度入学者選抜検査実施要領(案)について
校長補佐(教)より資料に沿って説明があり了承された。

第9回運営会議議事要旨

日時 平成19年 1月17日(水) 13:10～14:15

場所 校長室

議事

【審議事項】

1. 教務関係

1) 平成20年度編入学者選抜検査関係日程表(案)について
校長補佐(教)より資料に沿って説明があり了承された。

2) 「卒業研究抄録集」の名称について
校長補佐(教)より前回の運営会議の審議を踏まえて、教務委員会で検討した結果「卒業研究概要集」と名称を変更したい旨説明があり了承された。
なお平成18年度からの実施で併せて了承された。

第10回運営会議議事要旨

日時 平成19年 2月14日(水) 13:10～14:05

場所 校長室

議事

【審議事項】

1. 専攻科関係

1) 平成20年度専攻科募集要項(案)について

専攻科長より、資料に沿って説明があり、募集要項の表紙中と学校所在地略図中「小山工業高等専門学校」の前に「国立」の文字を加えることで了承された。

2. 教務関係

1) 学則別表の一部改正(案)について

校長補佐(教)より、資料に沿って説明があり了承された。

2) 資格取得に係わる単位認定に関する規程の別表の一部改正(案)について校長補佐(教)より、資料に沿って説明があり了承された。

3) 開校記念行事について

校長補佐(教)より、運営会議の決定を受けて、教務委員会で審議(二回)の結果、次回は創立45周年の年度に開催することとし、その後5年に一回、担当部署は総務課で実施する旨の説明があり了承された。

【報告事項】

1. 専攻科関係

1) 平成20年度専攻科入学者選抜検査関係日程表】

専攻科長より、資料に沿って説明があり了承された。

2) 大学コンソーシアム受講について

専攻科長より、専攻科の経営工学(白鷗大学の教員による非常勤)が開講できなくなつたため、平成19年4月から前期2年生、後期1、2年生を対象に開講科目を受講することとなった。4月から24~25名程度を6科目に分散して試行的に受講することとなった旨の報告があった。

2. 教務関係

1) 教室の施錠について

校長補佐(教)より、教室の施錠については、既に実施しているが、休みの日に鍵を借りて学生が教室にいたこと、学生だけである状況を避けること、徳山高専の事件のこと等もあり、警備員室での対応も含めて、施錠の対応を周知していきたい旨の説明があった。

第11回運営会議議事要旨(案)

日時 平成19年 3月13日(火) 13:10~14:50

場所 校長室

議事

【審議事項】

1. 教務関係

1) 平成20年度編入学者募集要項(案)について

校長補佐(教)より、資料に沿って説明があり了承された。

2) 平成20年度入学者選抜検査実施計画(案)について

校長補佐(教)より、資料に沿って説明があり了承された。

3) 入試制度の見直しについて

校長補佐(教)より、資料に沿って説明があり了承された。

(出典:平成18年運営会議議事要旨より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制の中心として、準学士課程においては教務委員会、専攻科課程においては専攻科委員会がそれぞれ適切に構成され、意思決定プロセス、責任の所在などが明確化されており、重要事項の審議などに関して有効に機能している。

観点 2-2-②： 一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が、機能的に行われているか。

(観点に係る状況)

本校では一般科目と専門科目の担当者間の連携を図る常設組織は構成していないが、教務委員会を中心として必要に応じて随時連携が取られ、機能している。以下に連携の例を資料と共に示す(資料 2-2-②-1)。

資料 2-2-②-1：一般科目担当教員と専門科目担当教員との連携の記録等

(A) 教務連携メモ 2006

一般 ⇄ 専門		
・日時： 2006.10.26 (木), 17:40~17:50		
場所や方法：機械科棟 1 階 伊澤教員室		
連携した教員：機械工学科 伊澤 一般科 須甲		
・内容： 平成 19 年度における 4ME 確率統計の授業改変に伴う E 科の情報を伝え、両学科に関わる調整事項を含む打合せを実施。		

(B) 教務連携メモ 2006

一般 ⇄ 専門		
・日時： 2006.11.2 (木), 11:00		
場所や方法：メール		
・連携した教員： 電気情報工学科 千田 → 一般科 須甲		
・内容： 平成 19 年度における 4ME 確率統計の授業改変の数学科からの再提案に対して、E 科での再検討した最終回答の連絡。数学科案が了承された。		

(C) 教務連携メモ 2006

一般 ⇄ 専門		
・ 日時：2006.02.～03 ()		
<ul style="list-style-type: none"> ・ 場所や方法：物質工学科糸井教員室・G科講師控室(3F) ・ 面談，電話，メール，など 		
・ 連携した教員：物質工学科糸井康彦，非常勤講師 西郷 敏		
<p>・ 内容：</p> <p>平成 19 年度における 3C および 4C～5C の物理系の授業内容について話し合った。 物質工学科の科目の体系性，一般物理の要望について意見交換した。</p> <p>結論・結果など</p> <p>H19 の応物 2 単位を物質で負担(1 単位応用物理負担，1 単位を 2C の化学演習へ) 3C の 1 単位の応用物理の内容を電気・電磁気とする。</p>		

(D) 教務連携メモ 2006

一般 ⇄ 専門		
・ 日時：2006.10.19(木)15:00～16:30		
・ 場所や方法：物質工学科糸井教員室，面談		
・ 連携した教員：物質工学科 糸井康彦，一般科 柴田洋一		
<p>・ <u>内容</u>：</p> <p>平成 19 年度における 3C および 4C の応用物理の授業内容について話し合った。物質工学科の科目の体系性，一般物理の要望について意見交換した。</p> <p><u>結果・結論</u></p> <ol style="list-style-type: none"> 1. シラバス確認(JABEE 対応の確認) 2. 4C 応用物理の内容吟味(核化学と力学) 3. 3C と 4C の負担(学科負担と応物負担について) 		

(E) 小山高専数学科カリキュラム改訂 (2001 年度～2004 年度) について (経緯)

2001.10.16 「数学カリキュラム改革案」提示

小山高専数学カリキュラム全体の改革案を教務委員会と各専門学科に提示。本科および専攻科の全体にわたる提案であり、この案に従って、2002 年度は本科 1～2 年、2003 年度は本科 3 年カリキュラム変更を提案。

2001 年 10 月～11 月にかけて、数学科カリキュラム担当者が各学科毎の集まりに出向き、上記改革案を叩き台として討議・検討を行い、ほぼ原案通り了承された。

2003.5.7

「小山高専数学カリキュラムの変更について」

ME D科、C科、及びA科の3区分の資料作成し、教務委員会および各専門学科に提示。既に2002～2003年度に1～3年までのカリキュラム変更は終了。2004年度に実施予定の本科4年と専攻科の変更に伴い、各学科との調整を行う。

2003年5月中に、数学科カリキュラム担当者が各学科の担当者と上記変更案について討議・検討を行い、D科を除いた4学科には、ほぼ原案通り了承された。

2004.2.13「小山高専 数学カリキュラム(平成16年度)について」(最終)数学科案に対して大きな変更を求めてきた電子科と2003.5月～翌年1月まで、半年以上かけて、何度にも渡る担当者同士の会合を開き、調整作業をした。最終的に全体の案が完成したのは、2004年2月。

(出典：教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

一般科目担当教員及び専門科目担当教員間の連携は、常設的な組織化はされていないものの、教務委員会を中心として必要に応じて機能的に行われていると判断できる。

観点2-2-③： 教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

(観点到に係る状況)

本校では1、2学年の担任を一般科に属する教員が担当し、第3学年以上では各専門学科教員が担当している(資料2-2-③-1)。各学科では定例会議に於いて各担任からクラスの状況に関する報告を受け、相互の情報交換、担任へのアドバイス等が行われている(資料2-2-③-2)。第1学年入学直後のオリエンテーションには各専門学科教員と一般科教員が参加し、それぞれの立場から新入生に対してアドバイスを行うことにより担任を支援している(資料2-2-③-3)。なお、電気情報工学科では1、2学年担任のサポートとして専門アドバイザーを配置し、担任では対応しにくい専門にかかわる質問や進路に関する相談にのっている(資料2-2-③-4)。

学生の精神面での問題等、担任のみでは対応できないような内容に関しては学生支援室及び非常勤カウンセラーが担任の支援に当たっている(資料2-2-③-5, 6)。

課外活動においては、学生会及び各部・同好会などに複数の顧問教員を配置し(資料2-2-③-7)、分担して指導に当たっている。顧問教員に対する支援として外部顧問(資料2-2-③-8)や事務部学生課が教員の活動を支援している。また、保護者が組織する後援会は各種の学生行事や部活動等に対して予算面での支援を行っている(資料2-2-③-9)。

授業を中心とした教育活動に対する支援としては公開授業(資料2-2-③-10)、教育改善研修会(資料2-2-③-11)などを通して各教員の質の向上が支援されており、事務部学生課は学生の成績処理や出欠の記録、定期試験関連の時間割作成、新入生の一日研修等の準備などさまざまな形の支援体制により教員の教育活動を支えている(資料2-2-③-12)。

資料 2 - 2 - ③ - 1 :

平成 19 年度 小山工業高等専門学校学級担任一覧

◎ 学級担任 (○ : 学年主任)

学科名	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機械工学科	柴田洋一	森田英章	田中好一	朱 勤	菊地吉郎
電気情報工学科	杉山桂子	三原大介	北野達也	甲斐隆章	土田英一
電子制御工学科	○松島隆裕	上村 孝	市村智康	金野茂男	渡邊達男
物質工学科	有坂顕二	石崎聡之	糸井康彦	飯島道弘	渥美太郎
建築学科	柴田美由紀	○長谷川 誠	奥富利幸	川上勝弥	高橋純一

(出典 : 平成 19 年度学生便覧 p.161)

資料 2 - 2 - ③ - 2 : 学科会議における担任支援状況 (例)

A. 建築学科会議における、クラス担任への支援についての議事録と支援内容 (抜粋)

a) 進級について

本校では定期的な試験を年間 4 回実施する。各試験の前後に出席状況や成績について、科目担当教員が情報を提供して学生の現状を把握し、責任者の担任を補佐している。これにより、留年生を減らしたり、適切な進路変更を可能としている。

b) 進路について

5 年生と専攻科の担任が中心になって進路指導をしている。それを各教員が企業の状況を提供して、可能な限り、学生の希望職種に就職できるように情報を密に共有している。

c) 生活指導について

進級の項と情報の共有の方法は重複するが、授業態度やクラブ活動等を通して情報が提供される。指導が必要な学生が生じたら、担任と学科で話し合い学生支援室やカウンセラーを活用できるような体制を整えている。

B. 物質工学科会議における、クラス担任への支援についての議事録と支援内容 (抜粋)

日時 : 4 月 12 日 (水) 10:40~12:40

場所 : 401 ゼミ室

議題 :

- 5C 受講届けの確認と修正について
- 学生便覧の取得資格とその単位認定について
- レポート提出期限の確認
- (卒論などの) 冊子作成要領
- 3C のホームルームに行く「安全工学」の割り振りについて。
- 3C コース分けについて。

11. 1～3C の出前授業
 学科のコース分け、進路、研究内容などについて（各担任の学生指導に関する情報を含む）。
13. 5C 専攻科推薦の規定の確認
 進路に関して 5C 担任への情報提供。
14. 5C 学生の体調について
 表題に関して議論した（個人情報に関するもので詳細は示さない）。

C. 一般科会議メモ

日時：平成 19 年 2 月 14 日 場所：一般科会議室 司会：中田

1. 教務委員会報告(小野)
2. 学生委員会（有坂）
3. 寮務委員会（三原）
 ——中略——
8. 各クラス情報交換、研修旅行報告
 - (1) 2C の学生について
 - (2) 1M の学生について
 - (3) 1D の学生について
 - (4) 2 年生の研修旅行報告

(出典：各学科会議議事録及び議事要旨メモより抜粋)

資料 2 - 2 - ③ - 3 : 平成 18 年度新入生ガイダンス日程表

4 月 6 日

- | | | | |
|-----------------|--|-----------------|--------------|
| 9 : 00～9 : 45 | 場所：視聴覚室、 | 校長補佐(教務担当)、 | 学業について |
| 9 : 55～10 : 35 | 場所：視聴覚室、 | 校長補佐(学生担当)、 | 学生生活について |
| 10 : 50～11 : 10 | 場所：視聴覚室、 | 専攻科長、 | 専攻科について |
| 11 : 10～11 : 30 | 場所：視聴覚室、 | 図書情報センター長、 | 図書情報センターについて |
| 11 : 30～11 : 50 | 場所：視聴覚室、 | 学生支援室長、 | 学生支援室について |
| 13:05～13:55 | 場所：視聴覚室、 | 一般科授業担当教員(5名)の話 | |
| 14 : 00～ | 学内施設等見学（事務部学生課、保健室、図書情報センター、学生支援室、体育施設、合宿所、寮、駐輪場、屋上太陽光発電施設、各センター、食堂、売店、学生会室、ロボット保管庫等
終了後担任によりホームルーム | | |

4 月 7 日

- | | | | |
|----------------|--|--|--|
| 8 : 50～11 : 50 | 各ホームルーム教室にて学科ガイダンス
学科長以下学科の教員によるガイダンス、 学科概要の説明、施設見学等
——休憩——
学科学生代表の話、各教職員の話、自己紹介（担当科目、研究分野） | | |
| 13 : 05～ | 日帰り研修についての説明、学生会からの話
終了後担任によりホームルーム | | |

(出典：教務係資料より抜粋)

資料 2-2-③-4 : 電気情報工学科「専門アドバイザー」について

《学科会議(H18.5.10)議事要旨》

日時：5月10日(水) 午前11時～

場所：電気情報工学科・会議室

議題：「○」印の箇所が、報告事項・審議事項・決定事項・提案事項など。

1. 学科長宛依頼事項など

——中略——

1/2年の「専門アドバイザー」

○1年：大嶋教員、2年：小林教員

(出典：平成18年度電気情報工学科学科会議議事要旨)

資料 2-2-③-5 :

小山工業高等専門学校学生支援室規則

制 定 平成13年1月15日

最終改正 平成16年4月1日

(設置の目的)

第1条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、学生の様々な悩みに応えることにより、学生が本校において円滑な学生生活を送ることができるように、適切な助言及び援助等を行うこと(以下「学生支援」という。)を目的として学生支援室(以下「支援室」という。)を置く。

(支援室の業務)

第2条 支援室においては次に掲げる業務を行う。

- 一 修学に係る学生の個人的な相談・支援に関すること。
- 二 奨学金や学費等の経済的な問題の相談・支援に関すること。
- 三 進学や就職等の進路の相談・支援に関すること。
- 四 セクシュアル・ハラスメントの相談・支援に関すること。
- 五 学生の個人的な精神・心理的な心因性の問題の相談に関すること。
- 六 前各号の業務の実施に必要な資料の作成及び調査研究に関すること。
- 七 その他学生の相談・支援に関すること。

(相談員)

第3条 支援室には次の相談員を置く。

- 一 室長 1名
- 二 カウンセラー 若干名
- 三 室員 若干名

2 室長及び室員は、本校教員の中から校長が任命する。

3 カウンセラーは、カウンセリングに関する専門的知識や経験を有する者を当て、校長が委嘱する。

(支援室業務の処理)

第 5 条 室長は、校長の命を受け、支援室の業務を掌理する。

2 室員は室長を補佐し、支援室の業務に従事する。
(相談員の義務)

第 6 条 相談員は、業務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。相談員を退いた後といえども同様とする。

2 相談員は、必要に応じてカウンセリング等に関する専門的な研修を受けるものとする。
(委員会の設置)

第 7 条 支援室の運営に関する事項を審議するため、本校に学生支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。
(委員会の組織)

第 8 条 委員会は次の委員をもって組織する。

- 一 室長
- 二 室員
- 三 学生課長
- 四 学生係長
(委員長)

第 9 条 委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。
(会議)

第 10 条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

2 委員長は、必要があると認めたときは委員以外の者を委員会に出席させることができる。
(事務)

第 11 条 支援室及び委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 2-2-③-6：カウンセラー活動記録（平成 18 年度）

A カウンセラーのカウンセリング記録

勤務月	カウンセリング数
4 月	0 件
5 月	0 件
6 月	1 件（学校生活について）
7 月	1 件（女の子との出会いについて）
9 月	1 件（自身の不安傾向について）
10 月	0 件
11 月	0 件
12 月	0 件

B カウンセラーのカウンセリング記録

月	件数	相談内容
4月	1件(1名)	保護者→最近の様子 1年の教室で支援室紹介
5月	6件(4名)	学校生活・その他
6月	5件(3名) 教員との話し合い	学校生活・進路・ 保護者→今後の方針
7月	3件(3名)	学校生活・性格診断・自分について
9月	7件(5名)	進路・不安傾向・人間関係・うつ・学校生活
10月	18件(8名) 職員4件	将来と現状・人間関係・うつ・今後について
11月	24件(9名) 職員1名 教員打合せ3件	学校生活・体調・自己コントロールの仕方・心理 テスト・不登校
12月	15件(8名) 教員打合せ 5件	現状と今後について 心理検査・イライラ感 学校生活・寮生活
1月	16件	
2月		

(出典：平成18年度支援室活動記録より抜粋)

資料2-2-③-7：

平成18年度学生会各部指導教員一覧

部名(体育部)	指導教員
硬式野球部	川上勝弥・山本嘉孝・玉木正一・有坂頭二・土田英一 高島武雄・山下進
柔道部	高橋純一・島田勉・今成一雄・川村荘司・千田正勝・市村智康
剣道部	塩入俊次・有坂夏菜子・笠原雅人・亀山雅之・小林幸夫
陸上競技部	三原大介・土田英一・渥美太郎・田中好一・甲斐隆章
卓球部	渡利久規・宇津木晨晴・胸組虎胤・大嶋建次・中田伸一・北野達也
バスケットボール部	須甲克也・武成祥・小野雄一・山本昇・久保和良・菊池吉郎 中山光幸
サッカー部	石崎聡之・伊澤悟・南斉清己・高橋大輔・白石光昭・平田克己
バレーボール部	佐藤巖・尾立弘史・田中孝国・奥富利幸・石原学・山本貴正
ワンダーフォーゲル部	糸井康彦・堤欣三・須甲克也・増淵寿・金野茂男・伊藤久夫
水泳部	鹿野文久・長谷川誠・笹沼いづみ・飯島道弘・新井一道

空 手 道 部	瀧澤雄三・酒入陽子・新井一道・杉山桂子・笹沼いづみ・森田英章
テ ニ ス 部	鈴木真ノ介・吉田裕志・田中昭雄・西野 聡・大島隆一・井上次夫 川越大輔
バドミントン部	小野雄一・渡邊達男・斉藤光司・松島隆裕・山崎敬則
ソフトテニス部	白石光昭・祇園寺則夫・森 夏樹・朱 勤

部 名 (文化部)	指 導 教 員
吹 奏 楽 部	猪瀬善郊・田中孝国・柴田洋一・柴田美由紀
写 真 部	山下 進・森 夏樹・田中昭雄
軽 音 楽 部	松島隆裕・小林幸夫・久保和良
シ ネ マ 研 究 部	松島隆裕・小林幸夫・柴田美由紀・笠原雅人
エレクトロニクス研究部	今成一雄・平田克己・南斉清巳
機械工作研究部	山下 進・伊澤 悟・増淵 寿・田中昭雄
自然生物研究部	上村 孝・浦田克郎
文 芸 部	柴田美由紀・渥美太郎・松島隆裕

部 名 (同好会)	指 導 教 員
ビデオゲーム研究同好会	平田克己
将棋同好会	山本嘉孝・島田 勉・笠原雅人・胸組虎胤・高島武雄

(出典：平成 19 年度学生便覧 p.162)

資料 2 - 2 - ③ - 8 :

外部顧問関係一覧

外部顧問に関する規程等は特になし。

現在、以下のような外部コーチ等の指導者が顧問教員と一緒に指導等を実施している。

部・会名	指導者名	所 属	連絡先	備考 (指導内容等)
ハンドベル 愛好会		本校非常勤講師 (音 楽)		ハンドベルの演奏指導
サッカー部		株式会社 NID・IE		週末や試合時のチーム 帯同、技術指導
バスケット ボール部		日本バスケットボー ル協会公認コーチ		日常的技術指導、試合に おける指揮・指導

(出典：学生委員会資料)

資料2-2-③-9:

平成18年度後援会助成実績

	日付	大会名	旅費(円)	備考
1	平成18年4月11日	栃木県高校南部地区バレーボール春季選手権監督会議出席	2,260	
2	平成18年4月13日	平成18年度栃木県高校野球連盟第1回部長会議出席	2,260	
3	平成18年4月15日	第59回春季栃木県高校野球大会南部地区予選引率	2,040	
4	平成18年4月15日	平成18年度栃木県高等学校体育連盟テニス専門部顧問講習会出席	1,900	
5	平成18年4月15日	栃木南部支部春期バレーボール大会引率	1,560	
6	平成18年4月16日	第52回春季陸上大会引率	2,460	
7	平成18年4月20日	平成18年度栃木県高校総合体育大会権関東大会栃木県予選会代表者会議出席	2,060	
8	平成18年4月22日	関東高等学校卓球大会南部支部大会参加学生の引率のため	2,040	
9	平成18年4月22日	課外活動(バスケットボール部対外試合引率)のため	2,540	
10	平成18年4月23日	市民団体対抗卓球大会参加学生の引率のため	2,780	
11	平成18年4月25日	課外活動(栃木県高体連バスケットボール競技 専門部総会出席)のため	2,260	
12	平成18年4月29日	平成18年度栃木県高校総体兼関東大会栃木県予選会バドミントン競技 引率	2,060	
13	平成18年4月30日	第1回県ジュニア陸上大会の引率	2,460	
14	平成18年4月30日	部内活動:ハンドベル愛好会 関東地区演奏会引率	4,640	
15	平成18年4月30日	平成18年度栃木県高校総体兼関東大会栃木県予選会 引率	2,260	
16	平成18年4月30日	高校野球練習試合	2,440	
17	平成18年5月3日	部内活動:栃木県高校総体卓球大会引率	2,440	
18	平成18年5月4日	部内活動:県高校総合体育大会兼関東高校テニス大会栃木県予選会の団体戦参加・引率	1,800	
19	平成18年5月5日	硬式野球部練習試合引率	1,760	
20	平成18年5月6日	課外活動(バスケットボール部対外試合引率)のため	2,780	
21	平成18年5月7日	部内活動:インターハイ全国高校総合体育大会テニス栃木県南部地区予選会	1,560	
22	平成18年5月9日	教育:栃木県高等学校体育連盟柔道専門部顧問会議	2,100	
23	平成18年5月11日	部内活動:インターハイ全国高校総合体育大会テニス栃木県南部地区予選会	1,560	
24	平成18年5月13日	栃木県高等学校総合体育大会剣道参加学生引率	4,260	
25	平成18年5月13日	教育:平成18年度栃木県高等学校体育大会兼第54回関東高校柔道大会栃木県予選会	2,100	

26	平成 18 年 5 月 14 日	第 27 回関東高専春季剣道大会学生引率	5,120	
27	平成 18 年 5 月 14 日	第 47 回県高校総体陸上競技大会の引率	2,460	
28	平成 18 年 5 月 14 日	教育:練習試合引率	2,740	
29	平成 18 年 5 月 20 日	野球練習試合	3,420	
30	平成 18 年 5 月 21 日	部内活動:引率	4,600	
31	平成 18 年 5 月 22 日	選手登録申請のため	4,600	
32	平成 18 年 5 月 22 日	打ち合せ:秩父宮賜杯第 59 回全国陸上競技対校選手権北関東地区予選会 会議の参加のため	2,460	
33	平成 18 年 5 月 24 日	課外活動(栃木県高体連バスケットボール競技南部支部代表者会議出席のため)	2,040	
34	平成 18 年 5 月 28 日	練習試合	1,760	
35	平成 18 年 5 月 29 日	栃木県高野連監督会出席	2,260	

}

161	平成 19 年 3 月 1 日	ワンダーフォーゲル部スキー引率	5,660	
162	平成 19 年 3 月 4 日	自然生物研究部引率	11,840	
163	平成 19 年 3 月 4 日	練習試合	1,560	
164	平成 19 年 3 月 4 日	第 2 回 JIA 北関東甲信越「学生課題設計コンクール」2007 の学生参加引率	3,920	
165	平成 19 年 3 月 10 日	教育:吹奏楽部引率	14,960	
166	平成 19 年 3 月 11 日	関東高専新人剣道大会参加学生引率	5,120	
167	平成 19 年 3 月 11 日	サッカー部練習試合引率	1,680	
168	平成 19 年 3 月 17 日	高校野球試合(小山市長杯)	1,760	
169	平成 19 年 3 月 21 日	練習試合	3,860	
170	平成 19 年 3 月 23 日	交流ロボコンの引率	38,180	
171	平成 19 年 3 月 24 日	エコノカーのテスト走行	4,260	
172	平成 19 年 3 月 25 日	野球練習試合	2,920	
173	平成 19 年 3 月 25 日	高校野球練習試合	3,340	
		合計	1,269,755	

(出典:小山工業高等専門学校後援会支出決議書より抜粋)

資料 2-2-③-10: 公開授業

平成 17 年 11 月 14 日

平成 17 年度後期 公開授業実施要綱

教育改善推進室長 胸組虎胤 作成

1. 公開授業の実施期間:平成 17 年 11 月 18 日(金)~12 月 1 日(木)

2. 対象授業：平成16年度後期の「学生による授業評価」の高得点者リストから、各学科が選定した授業を対象とする。
3. 参観者：小山高専の常勤の教員。
4. 公開授業実施の流れ
 - (1) 平成16年度後期「学生による授業評価」の高順位者リストを各学科教務委員に提示する。
 - (2) 教務委員が中心となり、学科毎に公開授業の対象者および対象授業を選定し、そのリストを教務に連絡する。
 - (3) 各教員、学生に公開授業について通知し、公開授業のリストを全教員に提示する。
 - (4) 対象者が公開授業を実施し、公開授業報告書を教務係に提出する（12月16日（金）ㄨ切）。
 - (5) 参観者は参観者アンケートを教務係に提出する（12月16日（金）ㄨ切）。
 - (6) 報告書、アンケート結果のフィードバックについては、教育改善推進室で作成した具体案を教務委員会で教務委員会で審議し、公開授業結果として全学生、教員に通知する。

平成19年度公開授業実施要綱

2007.6.6

教員各位

教育改善推進室

公開授業の実施及び参観のお願い

教員が互いの授業を自由に参観する期間を、前期・後期それぞれ1週間設けることとします。公開のために特別な授業を設定する必要はありません。普段の授業を互いに参観することで、授業改善のヒントやアイデアの獲得と自由な情報交換を目的とします。

実施期間：前期 6月25日（月）～29日（金）

後期 10月15日（月）～19日（金）

上記期間中は教室出入口等に、告知掲示を予定しています。

対象授業：上記期間に本校で実施されているすべての授業（講義・実験・実習）

この期間は原則として、参観者は、授業担当者に事前連絡することなく、自由に授業参観をできることとしますので、授業担当者はその旨をご承知おき下さい。

ただし、授業担当者の都合、例えば参観者への配布物を用意する等で参観者人数を知りたい場合や、授業を参観する際の注意事項等がある場合は、ご面倒でも、事前にその旨をメール等で全教員へ配信願います。（非常勤講師の方は、教務係へご連絡下さい）

なお、公開授業に際し、以下の書類を提出願います。（様式は次ページ以降）

(1) 公開授業 参観者アンケート

参観者は記入後、メールボックス等を利用して授業担当者にお渡し下さい。

(2) 公開授業 実施記録

(3) 授業担当者は、実施記録を記入後、参観者からの受け取ったアンケートとともに、左上隅を綴じて、教務係へ提出願います。

(出典：教務委員会資料)

資料 2 - 2 - ③ - 11 : 教育改善研修会

2006.11.13

平成 18 年度 第 1 回 小山高専教育改善研修会

小山高専教員各位

FD ステップアップの年間計画にありましたように、下記のように教育改善研修会を開催しますので、多くの方々の出席をお願いいたします。

今回のテーマは「各学科の学修単位導入の現状と問題点」としたいと思えます。

教育改善推進室長 胸組虎胤

記

○ 日時：平成 18 年 11 月 29 日 (水) 15:10 ~ 16:40

(教職員会議がある場合、その終了後)

○ 場所：管理棟 2F 会議室

○ プログラム：

1. 挨拶： 教務担当校長補佐 瀧澤雄三

2. 各学科の発表 (各科発表 10 分程度 + 質疑 5 分)：

(1) 機械工学科 (2) 電気情報工学科 (3) 電子制御工学科 (4) 物質工学科 (5) 建築学科

3. 総合討論

(出典：教務委員会資料)

資料 2 - 2 - ③ - 12 :

小山工業高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和 40 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

第 1 章 総則

第 1 条 独立行政法人国立高等専門学校機構法 (平成 15 年 10 月 1 日制定) 第 12 条及び小山工業高等専門学校学則 (昭和 40 年 4 月 1 日制定) 第 11 条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第 2 章 事務組織

第 2 条 事務部に総務課、学生課を置く。

中略

第 4 条 学生課に教務係、学生係、寮務係及び技術室を置く。

中略

第3章 事務分掌

中略

第9条 学生課課長補佐は、次の事務をつかさどる。

- 一 学生課事務の総括及び連絡調整に関すること。
- 二 その他学生課所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 技術専門職員は、次の事務をつかさどる。

- 一 教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
- 二 学生の技術指導に関すること。
- 三 技術の継承及び保存に関すること。
- 四 技術研修に関する調査研究に関すること。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 教育課程に関すること。
- 二 学生の入学、休学、復学、転学、退学及び卒業・修了に関すること。
- 三 授業及び試験に関すること。
- 四 指導要録に関すること。
- 五 在学成績及び卒業等の証明に関すること。
- 六 教科書及び教材に関すること。
- 七 学生の校外研修及び専門研修に関すること。
- 八 インターンシップに関すること。
- 九 外国人留学生の受入及び教育に関すること。
- 十 研究生及び聴講生に関すること。
- 十一 外部からの学生支援に関すること。
- 十二 教育改革の支援プログラムに関すること。
- 十三 専攻科教育の実施状況等の審査に関すること。
- 十四 J A B E E の審査に関すること。
- 十五 学生課職員及び非常勤講師の労働時間、休暇及び出張に関すること。
- 十六 教務委員会に関すること。
- 十七 専攻科委員会に関すること。
- 十八 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
- 十九 その他他の係の所掌に属さない事務に関すること。

4 学生係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
- 二 外国人留学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
- 三 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関すること。
- 四 学生の諸願届に関すること。
- 五 学生の集会、行事及び掲示に関すること。
- 六 学生の奨学資金に関すること。

- 七 入学料、授業料及び寄宿料の減免並びに徴収猶予に関する事。
- 八 学生の健康管理及び安全保持に関する事。
- 九 日本スポーツ振興センターに関する事。
- 十 学生の団体活動、オリエンテーション、課外活動及び諸行事に関する事。
- 十一 学生の進路に関する事。
- 十二 学生食堂の管理運営に関する事。
- 十三 学生の賞罰に関する事。
- 十四 カウンセラーの労働時間に関する事。
- 十五 教員の労働時間の補助業務に関する事。
- 十六 学生委員会に関する事。
- 十七 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
- 十八 その他学生の厚生補導に関する事。

(出典：本校規程より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

一般科会議、各専門学科会議、学生支援室、学生課を中心とした事務部など様々な角度からの、担
任業務をはじめとする教育活動全般についての幅広い機能的な支援が行われていると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・ 三つのセンターはいずれも本校の教育目標を実現する上で重要な役割を果たしており、特に卒業研究・特別研究に対する支援は大きなものがある。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 2 の自己評価の概要

本校準学士課程の学科の構成は高等専門学校設置基準に沿っている。一般科と各専門学科の教育内容のバランスが良く取れており、教育目標の実現のために適切な教育課程が編成されている。専攻科課程には準学士課程を基盤とする 3 つの専攻が設置されており、専攻科教育目標を達成するためにそれぞれの分野の特色を踏まえた教育目標のもと教育課程を編成し、高度な専門知識・技術の教育を実現している。専攻科の目的・内容は学校教育法の規定に適合し、教育目標達成のため適切なものとなっている。

3 つの全学的なセンターはいずれも教育目標達成のために重要な働きをし、教育的な成果をあげている。

教育課程全体を企画調整あるいは有効に展開するための検討・運営体制の中心として、準学士課程では教務委員会、専攻科課程では専攻科委員会が構成され有効に機能している。

一般科目と専門科目それぞれの担当教員相互の連携は常設的には組織化されていないが、教務委員会を中心として必要に応じて行われている。教育活動を実施するために各学科会議、学生支援室、事務部学生課などを中心とした様々な角度からの幅広い支援が機能的に行われている。

基準3 教員及び教育支援者

(1) 観点ごとの分析

観点3-1-①： 教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点到に係る状況)

一般科目は、人文系科目である国語と文学，社会科学系科目である地理，歴史，政治経済，哲学，倫理社会，芸術科目である美術と音楽，自然科学系科目である数学，物理，化学，一般理科，外国語科目である英語とドイツ語，そして保健体育という様々な教養科目から構成され，それぞれの専門を担当する専任教員23名，非常勤講師26名が教育の目的（教育方針）を達成するために配置されている（資料3-1-①-1，2）。

教育方針のうち「①豊かな人間性の涵養」の達成には人文，社会，芸術が関連し，1年から4年までの必修科目を担当する教員が，5年生では人文，社会系の選択科目である人間と科学I，II及び保健体育IIを担当する教員が配置され，幅広い教養科目を展開している。

「③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上」には自然科学系科目と外国語のうちの英語が関係し，自然科学系科目としては数学6名，物理，化学，一般理科各1名ずつが配置されている。一般理科は主に生物学に関連する内容であり，理科では実質3科目が専任教員によって行われている。また，専門基礎科目の応用数学には数学教員が配置されている。英語の基礎には5名の英語専任教員が配置されている。

「⑥コミュニケーション能力と国際感覚」には3名の国語と5名の英語の教員が当たり，前者は日本語によるコミュニケーションの教育，後者は英語によるコミュニケーションの教育を行なっている。英語では1名の非常勤のネイティブスピーカーが1年，3年の英会話の授業を担当している。英語教員のうち1名は博士（言語学）である。また，保健体育もコミュニケーション能力の育成のために配置している。一般科目専任教員はすべて講師以上であり，教員の専門分野はすべて授業科目に適合している（資料3-1-①-1，2）。

資料3-1-①-1：一般科目教員の配置						
教員の研究分野と担当科目（二重下線は専攻科科目）						
（一般科）						
科目等	職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成19年度担当科目
国語	教授	文学士	中田 伸一	中国古典学	後漢・三国時代を中心とした文化史 および技術史	国語、文学
	准教授	修士(言語・文化学)	井上 次夫	日本語学	言語形式に託された語彙の意味と文法的意味の関係性	<u>日本語概説</u> 国語
	准教授	文学修士	柴田美由紀	日本近代文学	泉鏡花研究	国語、文学

社会	教授	文学修士	松島 隆裕	日本古代・近世倫理思想史	陰陽五行思想の日本的展開 近世後期の農学思想	哲学・倫理社会・人間と科学(倫理学)・ <u>技術者倫理</u>
	准教授	修士(史学)	酒入 陽子	在地構造論	日本中近世移行期における支配層の交代と在地社会の変容	歴史、歴史学、人間と科学Ⅰ・Ⅱ、 <u>技術者倫理</u>
数学	教授	理学修士	玉木 正一	整数論	保型関数論、エクセルによる整数基底の計算	基礎数学B、代数学幾何学、解析学、確率統計
	教授	博士(理学)	新井 一道	数学・数理システム理論	可換環上の線形システム理論	基礎数学A, 代数学・幾何学, 解析学, 応用数学
	教授	博士(理学)	佐藤 巖	グラフ理論	グラフのゼータ関数	基礎数学A 微分積分学
	教授	博士(理学)	島田 勉	代数的整数論	単数群の構造とp進単数基準	基礎数学, 微分積分学, 線形代数, 応用数学
	准教授	理学修士	須甲 克也	数学教育・教育工学	学習者の数学問題解法時における方略的知識について	基礎数学A・B・微分積分学・線形代数学
	准教授	博士(理学)	森田 英章	表現論・組合せ論	鏡映群の次数表現の組合せ論的研究	基礎数学A, 微分積分学, 代数学・幾何学, 確率・統計
理科	特任教授	理学博士	宇津木晨晴	有機化学	シッフ塩基を用いる合成化学	化学Ⅰ、化学Ⅱ、 <u>応用科学</u>
	准教授	理学修士	上村 孝	酵素工学	プロテアーゼの逆反応を利用した有用ペプチドの合成と食品科学への応用	一般理科・化学Ⅰ <u>応用科学</u>
	准教授	理学博士	柴田 洋一	音響物理学	楽器の構造と音響特性に関する解析	物理、 <u>応用科学</u>
保健体育	教授	体育学士	塩入 俊次	剣道	剣道試合の分析 竹刀VSカーボンシナイ	保健体育Ⅰ、Ⅱ
	准教授	教育学博士	三原 大介	体育社会学	子どものスポーツ集団の問題点について	保健体育Ⅰ、Ⅱ

外国語	講師	修士(スポーツ健康科学)	石崎 聡之	運動生理学	クレアチンサプリメントの生理・生化学的研究	保健体育Ⅰ、Ⅱ
	教授	教育学 修士	長谷川 誠	言語学、英語 教育学	日英語の文法比較とその英語教育への応用	英語Ⅰ、Ⅱ 英語演習Ⅱ
	准教授	教育学 修士	有坂 顕二	(日英)比較 言語学	各国語、特に日本語と英語の所有構文の統語的比較	英語Ⅰ 英語演習Ⅰ
	講師	修士 (教育学)	小野 雄一	英語学(統語論・意味論)	英語の諸構文に関する統語的意味的分析	英語Ⅰ、英語演習Ⅰ、Ⅱ、英語ⅡA、B
	講師	博士 (言語学)	杉山 桂子	英語学	英語法助動詞の用法	英語Ⅰ、英語演習Ⅰ、 <u>応用英語Ⅰ</u>
	講師	修士 (文学)	有坂 夏菜子	中世英文学	中世のロマンスについて	英語Ⅰ <u>応用英語Ⅱ</u>
	教授	法学修士	祇園寺 則夫	ドイツ政治史	第一次大戦以前のドイツ社民党史	ドイツ語 人間と科学(政治学)

(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-①-2：一般科目非常勤講師の配置

●非常勤講師

科目	氏名	担当科目	備考
国語	島田裕子	国語	元神奈川県立希望ヶ丘高等学校教諭
社会	種村剛	倫理社会, 人間と科学Ⅰ, Ⅱ	中央大学文学部非常勤講師
	岡田一郎	政治経済	社会経済生産性本部社会労働部労働研究センター研究員
	山本大	政治経済, 人間と科学Ⅰ, Ⅱ	駿台予備学校論文科添削講師
	岩佐富男	政治経済, 人間と科学Ⅰ, Ⅱ	足利短期大学教授
	田村航	歴史学	博士(史学), 成城大学短期大学部非常勤講師
	山田康弘	歴史学	博士(史学), 学習院大学非常勤講師
	原啓介	地理	立正大学非常勤講師
	横山俊一	地理	立正大学地球環境学部外部研究員
数学	岡部章	解析学, 応用数学, 複素関数論, 応用解析学	小山工業高等専門学校名誉教授
	直井敬	基礎数学B	元栃木県立員岡女子高等学校校長
	編見庄二	基礎数学B, 微分積分学	元茨城県立下館第一高等学校校長
理科	西郷敦	物理	自治医科大学非常勤講師
	加藤光伸	物理	元栃木県立喜連川高等学校校長
	広瀬正徳	化学Ⅰ	平成理研株式会社顧問
保健体育	多賀健	保健体育Ⅰ	筑波大学大学院博士課程
	廣瀬文彦	保健体育Ⅰ, Ⅱ	筑波大学大学院博士課程
	土居進	保健体育Ⅱ	順天堂大学運動生理学研究室特別研究員
芸術	齋藤千明	美術	TBC国専テクニカルデザイン専門学校講師
	鈴木久美子	音楽	ピアノ教育家
外国語	藤田貞雄	英語ⅡA	元栃木県立塩谷高等学校校長
	足立綾	英語Ⅰ, 英語ⅡA, B	淑徳大学非常勤講師
	D. R. ヤズダニ	英会話	ニューアースクール教師
	高瀬誠	独語Ⅰ	学習院大学非常勤講師
	佐藤千裕	独語Ⅱ	ハイデルベルグ大学修了
日本語	足立サカエ	日本語日本事情(留学生)	白鷗大学非常勤講師

(出典：2007学校要覧p.9)

(分析結果とその根拠理由)

教育目標に対応し、常勤教員と非常勤講師が各専門分野に沿った教科科目を教育するように適切に配置されている。今後、教育方針の「⑥コミュニケーション能力と国際感覚」の達成をさらに十分とするためには、ネイティブスピーカーによる授業を増やすことや、英語の単位数を増やすこと等の対応が望まれる。

観点 3-1-②： 教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

専門学科は機械工学科、電気情報工学科、電子制御工学科、物質工学科、建築学科の5学科で構成されている(資料3-1-②-1, 2)。主に教育方針「②豊かな感性と創造力の育成」のうちの「創造力」、「④高度な専門知識と問題解決能力の育成」、「⑤情報技術力」、「⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成」の達成のための専任教員が配置されている。

「②豊かな感性と創造力の育成」のうちの「創造力」については、卒業研究での適切な指導を可能にするため、自ら価値あるものを創造した経験のある博士号取得者47名(専任教員の81%)を各学科に多数配置している。また、同じ目的で技術士取得者1名、1級建築士取得者等も関連学科に配置している(資料3-1-②-3)。

「④高度な専門知識と問題解決能力の育成」の達成のため、高度な専門知識を有する博士号、技術士、1級建築士取得者を配置している。

「⑤情報技術力」については、情報技術者1種取得者(資料3-1-②-3)を関連学科に数名配置しており、これらの教員のうち1名は情報科学教育研究センター長を務めるとともに、情報関係の授業を担当している。

資料 3-1-②-1：専門学科の教員の研究分野と担当科目 (二重下線は専攻科科目)

教員の研究分野と担当科目

(機械工学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成19年度 担当科目
教授	工学士	猪瀬 善郊	強度設計	機構設計応用	機械製図 機械設計法 I
教授	工学博士	菊地 吉郎	バイオメカ	蠕動運動など生物の運動を模擬する 移動体の製作研究	熱力学、熱機関
教授	工学博士	高島 武雄	伝熱工学	蒸気爆発に関する研究	伝熱工学 機械設計法 II <u>熱移動論</u>
教授	工学博士	小林 一光	メカトロニクス	超磁歪素子を使った高速アクチュエータの研究	電子工学概論 電気工学概論

准教授	博士 (工学)	田中 好一	機械工作	アーク溶接時に発生するスパッタに関する研究	機械工作法 工作実習
准教授	博士 (工学)	朱 勤	非線形振動・ 制御	非線形システムに発生するカオス振動と制御	機械力学、制御工学 <u>力学特論</u>
准教授	工学修士	山下 進	計算力学	異材接合体の応力解析	情報処理、数値解析 <u>計算力学</u>
准教授	博士 (工学)	伊澤 悟	材料強度学	ショットピーニングステンレス鋼S E N B試験片の疲労特性	材料力学 機械工学基礎
准教授	博士 (工学)	北條 恵司	機械材料学	セラミックスの酸化挙動およびき裂治癒	材料学 材料強度学
講 師	博士 (工学)	増淵 寿	流体工学	振動する平板まわりの流れに関する研究	水力学、工業数理、 <u>流体力学</u>
助 教	博士 (工学)	山崎 敬則	制御工学	工作機械の運動制御	工業力学 応用物理 <u>現代制御理論</u>
助 教	博士 (工学)	川村 壮司	破壊力学	き裂および切欠き材の強度評価パラメータ決定手法に関する研究	材料力学演習 機械設計製図 I <u>CAE・CAE 演習</u>

(電気情報工学科)

職 名	学 位	氏 名	研究分野	主な研究テーマ	平成 19 年度 担当科目
教 授	工学博士	森 夏樹	電子物性工学	揺らぎ伝導率理論解析による高温超伝導体の特性評価	電気磁気学 I 電子デバイス工学 <u>固体電子論</u>
教 授	博士(工学)	中山 光幸	生体情報工学	アコースティック・エミッションを用いたバイオセラミックスの機械特性の改善	電気磁気学 I、生体工学 <u>プレゼンテーション論</u>
教 授		大嶋 建次	電子情報工学	ヒューマンインタフェースに関する研究	情報工学 I デジタル回路 <u>情報伝送工学</u>
教 授	工学博士 技術士	甲斐 隆章	電力工学	風力発電機の制御方式	電気回路学 I 電力システム工学 <u>電気エネルギー工学</u>

教授	工学博士	土田 英一	レーザ工学	可視光造形における高精度化	光デバイス工学 光応用計測 <u>光デバイス工学</u>
准教授	博士 (工学)	小林 幸夫	音響工学	調波複合音の位相変化が音色に及ぼす影響	マルチメディア工学 情報工学 <u>画像情報解析学</u>
准教授	博士 (工学)	石原 学	情報工学	ネットワークを利用した場合の仮想現実とヒューマン特性に関する研究	電子計算機 情報ネットワーク論 <u>環境技術</u>
准教授	博士 (工学)	千田 正勝	電気情報計測	高周波非線形特性を利用した電磁界センサの研究	電磁波工学 電磁伝送工学 <u>情報記録工学</u>
講師	工学修士	今成 一雄	情報工学	高機能情報処理集積回路を応用した教育実習機器の開発・評価	情報工学Ⅱ 集積回路設計 <u>電子システム工学</u> <u>演習B</u>
講師	工学修士	田中 昭雄	放電工学	放電法を利用したオゾン発生器の高効率化	電子物性 情報デバイス工学 <u>電気材料特論</u>
講師	博士 (工学)	北野 達也	電力工学	電力平衡に基づく新エネルギー有効活用小型分散電源システム	電気回路学Ⅱ 電気数学Ⅰ <u>電機システム制御</u>
助教	博士 (工学)	鈴木 真ノ介	医工学	電磁界・超音波を用いた非侵襲電力・情報伝送システムの開発	応用物理 電気電子工学演習Ⅰ <u>環境技術</u>
助教	博士(情報科学)	山田 靖幸	電子物性工学	高温超伝導体におけるボルテクスダイナミクスの研究	工業英語 電気情報工学実験 <u>電子システム工学</u> <u>演習B</u>

(電子制御工学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成19年度 担当科目
教授	工学修士	西野 聡	情報工学	赤外線画像による男女識別	論理回路Ⅰ デジタル工学
教授	理学博士	金野 茂男	電子物性工学	ヒューマンインターフェースデバイス	応用物理Ⅲ <u>電子工学特論</u>

教授	理学博士	伊藤 久夫	電子デバイス 計測制御工学	センシングデバイスとシステム制御	電子工学Ⅱ 制御工学Ⅰ <u>工学システム概論</u>
准教授		南斉 清巳	情報工学	分散処理計算機	ソフトウェア工学 プログラム
准教授	博士 (理学)	渡邊 達男	非線形物理 プラズマ物理	カオス時系列の予測問題	電磁気学Ⅰ 電気回路Ⅲ
准教授	博士 (工学)	久保 和良	計測制御工学	瞬時周波数の推定	システム工学 計測工学Ⅰ <u>計測システム論</u>
准教授	工学修士	鹿野 文久	半導体工学 エネルギー工 学	太陽光発電システムの高効率化 燃料電池を用いた省エネルギーシ テム	電磁気学Ⅲ 電磁気学Ⅳ <u>光波応用工学</u>
講 師	工学修士	笠原 雅人	制御工学	空調システムへの自動制御の適用	制御工学Ⅲ、計測工 学Ⅱ、 <u>電子システム工 学演習</u>
講 師	博士 (工学)	市村 智康	ロボット工学	オドメトリを用いる曲面上自己位置 推定	電子回路Ⅰ 応用制御工学 <u>情報科学</u>
助 教	博士 (工学)	平田 克己	信号処理	音環境認識システムの構築	プログラミング言語 先端技術特論

* 平田 克己 平成19年4月1日付、高専間教員交流制度により転出(平成20年3月31日まで)

(物質工学科)

職 名	学 位	氏 名	研究分野	主な研究テーマ	平成19年度 担当科目
特任教授	理学博士	堤 欣三	光化学	シクロデキストリン、界面活性剤等 による芳香族有機分子の蛍光増強に 関する研究	分子運動論、量子化 学、機器分析Ⅱ、 <u>分子構造論</u>
教授	理学博士	齊藤光司	有機工業化学	光硬化性インキの開発、 コラーゲンの機能化	工業化学 天然物化学 <u>有機合成化学</u>
教授	工学博士	吉田裕志	固液分離技術	界面導電現象を応用する微粒子分散 系の固液分離操作	化学装置工学 生物化学工学 <u>分離工学</u>

教授	博士 (工学)	糸井康彦	腐食工学	電気化学ノイズ解析法による金属の 局部腐食評価に関する研究	金属化学 <u>金属化学特論</u>
教授	理学博士	胸組虎胤	生物有機化学	酵素を用いたアミノ酸・ペプチド誘 導体の合成	酵素工学 I 生物有機化学 <u>生物機能化学</u>
准教授	理学博士	浦田克郎	微生物生理学	細菌の嫌気呼吸におけるエネルギー 変換機構	微生物工学 生物資源工学 <u>生体エネルギー論</u>
准教授	理学博士	亀山雅之	有機合成化学	環境負荷の無い溶媒中での新規有機 合成反応の開発	有機化学 I~III、 <u>有機金属化学</u>
准教授	博士 (工学)	武成祥	金属工学	生体適合プラズマ熔射 HA _p コーティ ングに関する研究	材料工学 <u>腐食工学</u>
准教授	博士 (農学)	笹沼いづみ	生物化学	生物間でのβ-グルコシダーゼの多 様性とその役割	細胞遺伝子工学 食品化学 <u>免疫工学</u>
講師	博士 (工学)	渥美太郎	固体物理	新規セラミックスの合成と電気的性 質の解明	物理化学 化学熱力学 <u>機器分析特論</u>
講師	博士 (工学)	飯島道弘	高分子化学	機能性高分子化合物の精密合成と応 用	高分子化学 高分子材料 <u>有機材料</u>
助教	博士 (工学)	田中孝国	生物化学工学	エンドトキシン除去を目的とした新 規複合膜の開発	生物反応工学、 材料化学実験
助教	博士 (学術)	川越大輔	セラミックス 工学	再生医療に向けたバイオセラミック スの作製	電子計算機実習 焼結工学

教員の研究分野と担当科目

(建築学科)

職名	学位	氏名	研究分野	主な研究テーマ	平成 19 年度 担当科目
教授	博士 (工学)	山本 昇	建築構造学	鋼構造の接合部の応力解析と接合方 法に関する研究	建築概論、構造力学 II、建築構造計画、 <u>合成構造論、建築耐 震設計論</u>

教授	工学博士	高橋 純一	建築構造学	建築構造物の地震時特性 地震動特性、都市防災	建築構造力学Ⅰ、鉄筋コンクリート構造、建築耐震構造、構造設計、 <u>都市防災論</u> 、 <u>建築構造解析学</u>
教授	博士 (工学)	瀧澤 雄三	建築計画 地域計画	高齢者の生活環境整備計画 高齢者関連施設計画	建築概論、建築計画Ⅱ、地域施設計画論・地域設計Ⅰ、 <u>バリアフリーデザイン論</u> 、 <u>環境技術</u>
教授	博士 (工学)	尾立 弘史	建築計画 農村計画	ユニバーサルデザインと建築計画 地域施設の配置方式について	建築計画Ⅰ、建築製図Ⅱ、建築意匠、 <u>居住地計画論</u>
教授	工学修士	山本 嘉孝	建築構造	鉛直落下衝撃荷重の柱に加わる応力の緩和に関する研究	構造力学、応用力学 建築実験、 <u>弾塑性力学</u> 、 <u>建築数学</u>
准教授	工学士	川上 勝弥	材料・施工	熔融スラグ骨材のコンクリートへの有効利用	建築材料、建築施工、木構造、建築実験、 <u>建築高機能材料工学</u> 、 <u>環境技術</u>
准教授	博士 (工学)	白石 光昭	建築人間工学 インテリア	家具やインテリア空間の人間工学 (ユニバーサルデザイン含む) および感性工学的研究	建築環境工学、空間計画原論、インテリアデザイン、設計ⅠA、情報処理Ⅰ、 <u>計画システム論</u>
准教授	博士 (工学)	奥富 利幸	建築歴史・意匠	能舞台、能楽堂の歴史的研究。栃木県内旧日光道中沿いの歴史的建造物の研究。	近代建築思潮史、 <u>文化財保存論</u> 、 <u>地域設計2</u> 、建築史、建築製図2
講師	博士 (工学)	大島 隆一	建築構法計画	建材、建築部品、建築構法に関する性能等に関する研究	建築一般構造、建築設計製図、情報処理
助教	博士 (工学)	山本 貴正	鋼コンクリート合成構造 建築構造・材料力学	コンクリート充填鋼管短柱の復元力特性、環境負荷低減型ポーラスコンクリートの調合設計法	構造設計、建築実験 応用物理、情報処理Ⅱ、情報処理Ⅰ、構造力学演習、建築概論

(出典：総務課人事係資料)

資料 3-1-②-2 : 専門科目非常勤講師の配置

教員（非常勤講師）の研究分野と担当科目

(機械工学科)

学 位	氏 名	研究分野	(本務先、経歴、等)	担当科目
工学修士	安ヶ平 和一	流体工学	宇都宮大学工学部	流体機械 機械設計製図Ⅲ
工学博士	山城 光雄	生産システム工学	足利工業大学工学部システム情報工学科	生産工学 生産システム工学
工学修士	井田 晋	流体力学	小山工業高等専門学校名誉教授	技術論 応用物理 技術者倫理

(電気情報工学科)

学 位	氏 名	研究分野	本務先、経歴、等	担当科目
工学博士	田村 吉章	パワーエレクトロニクス	小山工業高等専門学校名誉教授	電気機器工学
工学修士	三石 孟	電子物性	宇都宮大学工学部	電気材料
工学士	小林 眞彦	電気機器	株式会社高岳製作所(技術部技術開発センター)	電磁エネルギー工学
工学博士	上村 佳嗣	電磁環境	宇都宮大学工学部	電磁環境工学

(電子制御工学科)

学 位	氏 名	研究分野	本務先、経歴、等	担当科目
工学博士	佐藤 太一	アンテナ工学	小山工業高等専門学校名誉教授	通信工学Ⅰ・Ⅱ
理学博士	内藤 一郎	物性物理	筑波技術大学	物性工学 量子工学
工学修士	飯島 洋祐	回路工学	筑波大学大学院博士課程システム情報工学研究科コンピュータサイエンス専攻	コンピュータ基礎 プログラムⅠ・Ⅱ
技術士	金子 聞司	メカトロニクス	金子技術士事務所	システム演習Ⅳ 制御工学Ⅳ

工学修士	金原 昭臣	制御工学	小山工業高等専門学校名誉教授	応用物理 I・II
(物質工学科)				
学 位	氏 名	研究分野	本務先、経歴、等	担当科目
工学博士	奥山 優	無機化学 金属化学	小山工業高等専門学校名誉教授	工業化学
工学博士	西脇 昭雄	化学工学	小山工業高等専門学校名誉教授	化学工学 反応工学
工学博士	小林 秀彦	セラミックス化学	埼玉大学大学院理工学研究科(物質科学 部門物質基礎領域)	工業材料
工学士	山崎 一雄	化学プロセス工学	日化設備エンジニアリング	プロセス工学
教員(非常勤講師)の研究分野と担当科目				
(建築学科)				
学 位	氏 名	研究(専門)分野	本務先、経歴、等	担当科目
工学士	稲見 崇司	情報数理工学	佐野短期大学経営情報科(教授)	応用物理
修士(工学)	羽鳥 芳之	建築設計計画	羽鳥芳之設計事務所	建築設計 I A 建築計画 III
工学士	慶野 正司	建築設計計画	アトリエ慶野正司	建築設計 II A
修士(工学)	大塚 正宏	建築・都市設計計 画	日本設計(株)	都市・地区計画
準学士	松本 悟	家屋調査	土地家屋調査士協会栃木支所	建築測量
準学士	市川 悦郎	建築指導・確認申 請	栃木市役所	建築法規
工学士	金子 周作	建築設備	梅郷不動産	建築設備
博士(工学)	高橋 大輔	建築設計計画	共立女子大学家政学部	図学
(出典：総務課人事係資料)				

資料3-1-②-3：技術士等技術関係資格者

専門知識に関する資格を有する教員(平成19年5月)

資格名	技術士	1級建築士	1種情報処理技術者
人数(人)	1	4	3
所属学科	電気情報工学科	建築学科	一般学科, 電気情報工学科, 電子制御工学科

(出典：総務課人事係資料)

(分析結果とその根拠理由)

資料3-1-②-1, 2に示すように, どの学科においても, 担当する教員はその専門に合った授業科目を担当しており, 教員は適切に配置されているといえる。高度な知識を有する博士号取得者, および実務関連の資格を有する教員が適切に配置されていることがその根拠である。

観点3-1-③： 専攻科を設置している場合には, 教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

(観点に係る状況)

教員の専門分野と専攻科の授業科目は整合している(資料3-1-②-1：既出)。

教育方針①-Sの「社会・経済と工業技術の共生に配慮し, 工業技術者として社会的責任と倫理観を自覚すること。」を達成するため, 専攻科共通科目である技術者倫理担当者として, 技術倫理の教科書を執筆して体系的な知識を有する社会科の教員を当てている。

教育方針②-Sの「専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき, 工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。」を達成するために, デザインについての豊富な実務経験を持つ非常勤講師を「システムデザイン」担当として配置し, また, 工業技術に関する知識を有する実務経験者の専任教員を数名配置している。

教育方針③-Sの「自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ, 専門分野の工学理論を理解していること。」を達成するために, 自然科学・数学・英語の応用知識については「応用科学」で3名(うち2名は博士号取得者)の一般科理科教員, 「複素関数論」と「応用解析学」には博士号をもつ数学の非常勤講師(資料3-1-①-2：既出), 「応用英語1」には英語学の博士号をもつ専任教員を配置している(資料3-1-①-1：既出)。

教育方針④-Sの「高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し, その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力」を学生に身につけさせるために, 博士号を有する教員を多数配置し, 指導に当たらせている。

教育方針⑤-Sの「情報技術の応用力を身につけ, コンピュータを利用して解析力と設計力を身

につけること。」を達成するため、1種情報処理技術者資格を有する教員（資料3-1-②-3：既出）が情報関係の授業を担当している。

教育方針⑥-Sの「特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑ができること」を達成するため、学会等で自ら多数の口頭発表・質疑応答を経験している教員が専攻科の授業を担当し、多くは特別研究を指導している。また、「高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。」を達成するため、「ゼミナール」, 「特別研究」では、長期海外勤務経験あるいは国際学会での発表経験のある教員が多く配置されている。

専攻科では、5年毎の大学評価・学位授与機構の審査で可とされた教員が、講義科目、特別研究等を担当し、審査以降に採用された教員は、採用時における教育研究業績等により判定している。

（分析結果とその根拠理由）

教員の専門分野に対応して専攻科の授業科目が適切に配置されている。専門知識と研究能力については各教育目的に応じた適切な教員配置となっている。たとえば、技術者倫理には専門の社会科の専任教員を、デザイン能力の養成には非常勤の実務経験者を、高度な専門知識と研究能力の育成には多くの博士号取得者を配置している。そのほか技術士、1級建築士、情報処理技術者等も配置されている。コミュニケーション能力の育成には、海外勤務、長期海外在留経験者等も配置されている。したがって、専攻科の授業科目担当教員はほぼ適切に配置されている。

観点3-1-④： 学校の目的に応じて、教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば、均衡ある年齢構成への配慮、教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

専任教員は男性76名女性5名でありほとんどが男性である。技術士資格をもつ教員は1名、1級建築士資格をもつ教員は4名、1種情報処理技術者資格を持つ教員は3名配置されている（資料3-1-②-3：既出）。外国人の専任教員は配置されていない。

教員の年齢構成を示した図（資料3-1-④-1）により、31才から64才まですべての年齢の教員が配置されているが、20才代の教員はいない。尚、64才の2人は昨年度定年退職者の再雇用である。次に、年齢層別で見ると30才代19人、40才代22人、50才代23人、60才代17人で、平均年齢は48.2才である。しかし、55才から64才までに全教員の約36パーセントに当たる29人が集中しているため、教育・研究の活力が低下することが懸念される。今後は計画的に若年層を採用していく、教員の年齢構成をさらに均衡させることが望まれる。

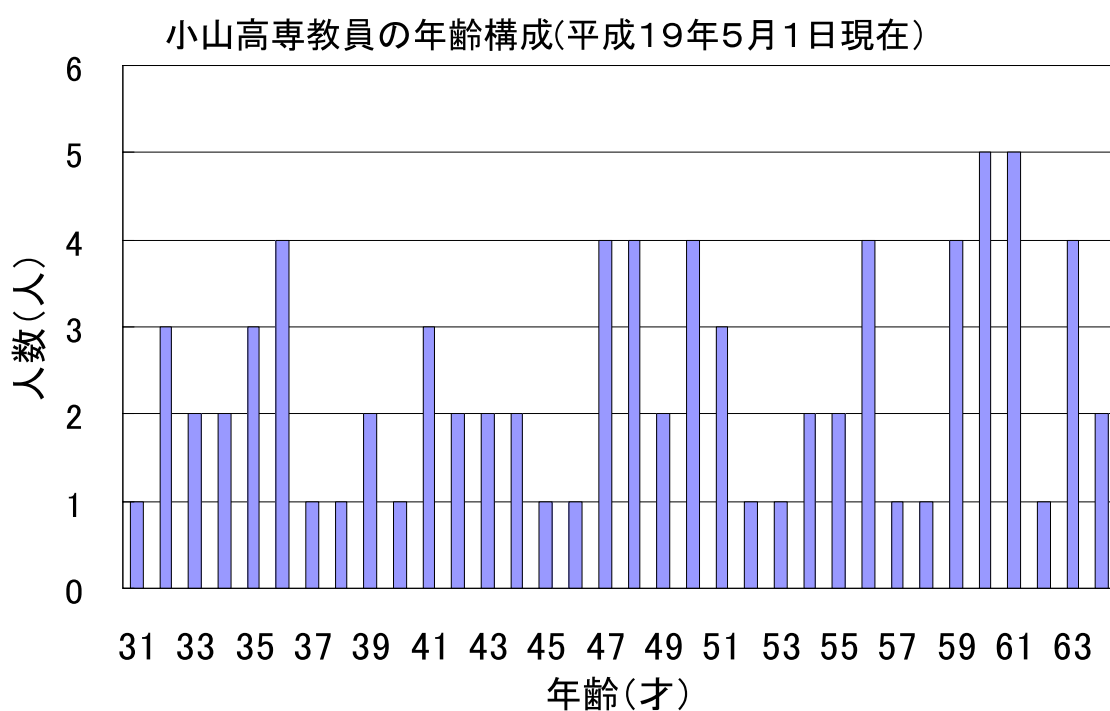
教員の年齢構成の均衡を保つための具体的な規程はないが、人事係保存の学科毎の年齢構成図（現地閲覧資料3-1）を基礎にして、特定の年齢に偏らないような採用がなされてきた結果、31才以上のすべての年齢に教員が配置されている。しかし、学科毎の年齢構成を考慮したため結果的に高齢化が進んだと見ることができる。また、教員の採用に際しての公募条件（例示：資料3-1-④-2）には必ず年齢制限が設けられ、年齢構成に均衡を持たせるための意図が示され

ている。

本校では任期制は採用されていない。教員の選考については公募が原則である（資料3-1-④-3）。少なくとも過去4年間の教員採用については、すべて公募で決定されている。また、教育経験や実務経験を持つ者の採用については、公募要綱に示されている。教育については「高等専門学校の教育、研究、学生指導に熱意ある者」と明示されている。実務経験についても「博士の学位を有する方または技術士の資格を保有する方」とあり、考慮されている。

本校には優れた教員に対する表彰制度が導入されており、表彰規則を資料3-1-④-4に、小山高専表彰規則による表彰の実績を資料3-1-④-5に示す。

資料3-1-④-1：教員の年齢構成



(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-④-2：教員公募要綱の例

建築学科教員公募

1. 公募人員 助教 1名
2. 所属学科 建築学科
3. 専門分野 建築の計画及び設計に関する分野
4. 担当科目 建築設計・意匠、図学、現代建築論、建築計画、卒業研究、特別研究など
5. 応募資格
 - 1) 年齢 35歳未満の方
 - 2) 博士の学位を有する方または技術士資格を保有する方
(いずれの場合も、着任時までに取得できる方を含む)
 - 3) 高等専門学校の教育、研究、学生指導に熱意のある方
6. 採用予定年月日 平成19年7月1日
7. 提出書類
 - 1) [履歴書](#)
 - 2) [著書・論文、作品等\(研究業績\)一覧](#)
 - 3) [著書・論文等\(研究業績\)の概要](#)
 - 4) [教育業績一覧](#)
 - 5) [教育・研究上の業績](#)
 - 6) [着任後の教育・研究についての抱負](#)
 - 7) 現職のある方は、上司等の推薦書があれば望ましい。
(推薦書の有無については、可否に関係ありません。)

[記入要領へ](#)
8. 応募締切 平成19年5月8日(火)必着
9. 選考方法
 - 1) 書類審査により第一次選考を行う。
 - 2) 書類審査合格者に対して面接を実施する。
10. 書類の送付先 〒323-0808 栃木県小山市大字中久喜771番地
小山工業高等専門学校総務課人事係
(郵送の場合は簡易書留で封筒に「建築学科教員応募」と朱書すること)
11. 問い合わせ先 応募に関して不明な点については、郵便、電話又はメールで照会してください。
照会先
12. 追加情報 上記「7. 提出書類」はワード形式で添付してありますが、開けない場合は次のPDFファイルをご利用ください。
 - 1) [履歴書](#)
 - 2) [著書・論文、作品等\(研究業績\)一覧](#)
 - 3) [著書・論文等\(研究業績\)の概要](#)
 - 4) [教育業績一覧](#)
 - 5) [教育・研究上の業績](#)
 - 6) [着任後の教育・研究についての抱負](#)

[記入要領へ](#)

(出典：教員公募要綱)

資料3-1-④-3：教員公募の実施状況

平成16年度以降教員の公募状況

- 平成16年度採用者 2名
平成15年度退職教員2名の欠員補充に伴う教員公募 2件
- 平成17年度採用者 7名
平成16年度退職教員7名の欠員補充に伴う教員公募 7件
- 平成18年度採用者 6名
平成17年度退職教員6名の欠員補充に伴う教員公募 6件
- 平成19年度採用者 1名
平成18年度退職教員1名の欠員補充に伴う教員公募 1件

(出典：総務課人事係資料)

資料3-1-④-4：小山高専教職員表彰規則

小山工業高等専門学校教職員表彰規則

制 定 平成16年9月15日

(趣旨)

第1条 この規則は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育、学校運営及び社会貢献 に関して、特に顕著な功績を挙げた者を表彰するため定めるものである。

(表彰を受ける者)

第2条 表彰は、本校の教職員であって、次に掲げる各号の一に該当する者の中から教職員表彰選考委 員会（以下「選考委員会」という。）において選考を行い、校長が決定する。

- 一 講義、演習、実験・実習及びクラス運営等において新たな方法を創案し、その実践を行い、特に 教育効果を高めた者
- 二 学生の課外活動への監督・指導を通して、学生への教育に特に功績のあった者
- 三 本校の学習・教育目標を達成するために、特に顕著な貢献があった者
- 四 社会貢献に関し、特に本校の名誉を高めた者
- 五 その他本校の学校運営等に特に功績があった者

(選考委員会)

第3条 選考委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織し、校長を委員長とする。

- 一 校長
- 二 人事委員会委員
- 三 その他校長が必要と認めた者

(表彰)

第4条 表彰は、校長が表彰状を授与することにより行う。

- 2 前項の表彰状にあわせて記念品を贈呈することができる。

(事務)

第5条 表彰に関する事務は、庶務課において処理する。

(雑則)

第6条 この規則に定めるもののほか、表彰の実施に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(出典：小山高専規程)

資料3-1-④-5：小山高専表彰規則による表彰の実績

教員の表彰について

教員の表彰については、機構が行う教員顕彰の実施結果を基に、本校教職員表彰規則に基づく教職員表彰選考委員会を開催し、表彰を受ける者を決定している。

(機構が行う教員顕彰への推薦者)

平成16年度 1名

平成17年度 1名

平成18年度 1名

(本校教職員表彰規則に基づき表彰を受けた者)

平成16年度 2名

平成17年度 1名

平成18年度 1名

(出典：総務課人事係資料)

(分析結果とその根拠理由)

教員は学科毎の年齢構成表にしたがって、均衡ある採用が実施されてきたが、現在のところ平均年齢は48.2歳であり、55歳以上の教員の比率が約36パーセントと高くなっている。このような偏りは、今後数年間にわたって若手を計画的に採用することで解消すると考えられ、このことによって学校全体の教育・研究を活性化することが可能であろう。

「高専における教育・研究・学生指導への熱意」をもつこと、「博士の学位を有することや技術士を有すること」が、教員の採用方針として公募要綱に明示されており、教育経験、実務経験への配慮がなされていると言える。また、優秀教員評価制度を導入しており、すぐれた教育をしている教員に対しての配慮がなされている。

観点3-2-①： 教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ、適切に運用がなされているか。

(観点に係る状況)

常勤教員の採用の手続きについては、人事委員会規程(資料3-2-①-1)、教員選考委員会規程(資料3-2-①-2)、教員選考規則(資料3-2-①-3)に示されている。また、教員選考規則(資料3-2-①-3)には各職位に応じた資格、能力が示されている。教員の教育上の具体的な能力は教員選考委員会規程5条の二と三には、それぞれ「本校の教育、研究に強い意欲があること」、「学生の指導に理解と情熱があること」とあるだけであるが、別に定める教員公募要綱(資料3-1-④-2:既出)には選考に必要とされる7種類の書類が定められ、経歴、教育能力、研究能力等から多面的に選考されることが明記されている。このうち、「教育業績一覧」(資料3-2-①-4)と「教育・研究上の業績」(資料3-2-①-5)が教育上の能力を確認する根拠としての提出が求められている。また、研究業績等についても教員公募要綱(資料3-1-④-2)には必要とされる書類の提出が求められている。昇任についても公募と基本的に同様な手続き(資料3-2-①-3)を経て選考される。

一方、規程に従った手続きを経て、少なくとも平成16年度以降すべての採用人事選考において公募が行われ(資料3-1-④-2, 3), 16名が採用された。このうち、一般科目3名中1名は博士、他の2名は修士の学位を持っている。また、専門学科で採用された13名全員が博士の学位を持っている。この間採用されたすべての教員は本校に適応し、教育研究を継続している。

非常勤講師についても採用基準が定められている(資料3-2-①-6)。非常勤講師の公募は行われていない。

資料3-2-①-1：人事委員会規程

小山工業高等専門学校人事委員会規程

制 定 平成16年4月1日
最終改正 平成18年4月1日

(趣旨)

第1条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、教職員の採用及び配置計画等を円滑に進めるため、小山工業高等専門学校人事委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(任務)

第3条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- 一 教職員の採用に係る基本方針に関すること。
- 二 人事評価の方針及び基準に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 副校長
- 二 本校教員 若干名
- 三 事務部長、総務課長
- 四 その他校長が必要と認めた者

2 前項第二号及び第四号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

3 委員会に、専門の事項を審議するため、専門委員会を置くことができる。

第4条 委員会は、副校長が招集し、その委員長となる。

第5条 委員会は、必要と認めるときは、委員以外の者に所掌事項について説明を求めることができる。

(事務)

第6条 委員会に関する事務は、総務課人事係が行う。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典:小山高専ホームページ)

資料3-2-①-2：小山高専教員選考委員会規程

小山工業高等専門学校教員選考委員会規程

制 定 平成14年3月13日

最終改正 平成19年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校教員選考規則（平成14年3月13日制定）第5条第2項に基づき、小山工業高等専門学校教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）の組織及び任務について定める。

(選考委員会の構成)

第2条 選考委員会の構成は、次のとおりとする。

- 一 校長
- 二 副校長
- 三 校長補佐（教務担当）
- 四 選考を行おうとする学科長
- 五 選考を行おうとする学科の教授又は選考しようとする専門分野の教授若干名
- 六 その他校長が必要と認めたもの

2 講師、助教又は助手を選考する場合は、前項第5号に定める教授を教授又は准教授と読み替えるものとする。

3 選考委員会は、選考を行おうとする学科毎に設置するものとする。

(委員長)

第3条 選考委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

(任務)

第4条 選考委員会は、次の事項を処理する。

- 一 公募に関すること。
- 二 応募者の書類審査及び資格審査に関すること。
- 三 候補適任者の選出に関すること。
- 四 昇任及び配置換に関すること。

2 前項第1号に定める公募の方法は、別に定める。

(審査の基準)

第5条 書類及び資格審査の基準は、次によるものとする。

- 一 選考される者の資格が、教員選考規則第11条から第14条に掲げる資格のいずれかを満たしていること。
- 二 本校の教育、研究に強い意欲があること。
- 三 学生の指導に理解と情熱があること。
- 四 その他選考委員会が必要と認めること。

(事務)

第6条 選考委員会の事務は、総務課において処理する。

(その他)

第7条 この規程に定めるもののほか、選考委員会に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規程は、平成14年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年 1月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年 4月 1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年 4月 1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料3-2-①-3：小山高専教員選考規則

小山工業高等専門学校教員選考規則

制 定 平成14年3月13日
最終改正 平成19年4月1日

第1章 総則

(趣旨)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教員の選考は、高等専門学校設置基準（昭和36年8月30日文部省令第23号）によるもののほか、この規則に定めるところによる。

(定義)

第2条 この規則において「教員」とは、独立行政法人国立高等専門学校機構教職員就業規則第3条第2号に掲げる者をいう。

2 この規則において「選考」とは、教員の採用、昇任及び配置換をいう。

(公募の原則)

第3条 前条第2項に規定する採用の選考は原則として公募とする。

第2章 教員選考の手続き

(申し出)

第4条 学科長は、教員選考の必要が生じた場合は、校長に申し出るものとする。

(選考委員会の設置)

第5条 校長は、第4条に掲げる申し出があったときは、速やかに教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）を設置するものとする。

2 選考委員会に関し必要な事項は、校長が別に定める。

(選考)

第6条 教員の選考は、校長が行う。

(候補適任者の選出)

第7条 選考委員会は、原則として候補適任者を複数選出するものとする。

(面接)

第8条 校長は、前条により選出された候補適任者について面接を行うものとする。

2 面接官は、校長、副校長、校長補佐（教務担当）、学科長及びその他校長が必要と認めた者とする。

(候補者の決定)

第9条 校長は、前条により面接をした者の中から候補者1名を決定するものとする。

第3章 教員の資格

(総則)

第10条 本校の教員となることのできる者は、次の各条のいずれかに該当する者とする。

(教授の資格)

第11条 教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 二 学位規則（昭和28年文部省令第9号）第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者
- 三 大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授、准教授又は専任の

- 講師の経歴（外国におけるこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者
- 四 学校、研究所、試験所、調査所等に在職し、教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し、技術に関する業務についての実績を有する者
 - 五 特定の分野について、特に優れた知識及び経験を有すると認められる者
 - 六 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（准教授の資格）

第12条 准教授となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 前条各号のいずれかに該当する者
- 二 大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国におけるこれらに相当する職員としての経歴を含む。）のある者
- 三 修士の学位又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者
- 四 特定の分野について、優れた知識及び経験を有すると認められる者
- 五 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（講師の資格）

第13条 講師となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 第11条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者
- 二 高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者
- 三 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（助教の資格）

第13条の2 助教となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当し、かつ、高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

- 一 第11条各号又は第12条各号のいずれかに該当する者
- 二 修士の学位（医学を履修する課程、歯学を履修する課程、薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については、学士の学位）又は学位規則第5条の2に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者
- 三 特定の分野について、知識及び経験を有すると認められる者

（助手の資格）

第14条 助手となることのできる者は、次の各号のいずれかに該当する者とする。

- 一 学士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）又は準学士の称号（外国におけるこれに相当する称号を含む。）を有する者
- 二 前号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

第4章 雑則

（その他）

第15条 この規則に定めるもののほか、教員の選考に関し必要な事項は、校長が別に定める。

附 則

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年1月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（出典：小山高専ホームページ）

資料 3 - 2 - ① - 4 : 教育業績一覧の様式

様式 2 - 5

期 間				事 項				備 考			
<p style="text-align: center;">教 育 業 績 一 覧</p> <p style="text-align: right;">平成 年 月 日</p> <p style="text-align: right;">氏 名 印</p>											
学校等における教職歴等											
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
高等専門学校における主事・主事補歴											
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
高等専門学校における上記以外の学生指導歴等											
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
教育内容・方法等の改善に関する取り組み状況											
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								
自：平成	年	月	日								
至：平成	年	月	日								

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-①-5：教育・研究上の業績の様式

様式2-6

教育・研究上の業績（教育・研究上、顕著な業績について記入すること。なお、企業の各部門における実践を含む。）

その他特記すべき事項

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-①-6：非常勤講師の採用規則

○小山工業高等専門学校非常勤講師任用 等の基準

制 定 昭和54年11月24日

(趣旨)

- 1 非常勤講師の任用については、教育効果の向上と適切な人事管理を図るため、この基準の定めるところによる。

(任用基準)

- 2 非常勤講師は、すぐれた識見をもち、本校の教育方針に添った教育指導のできる者で、おおむね次の各号に該当する者とする。
 - 一 高等専門学校講師となる資格を有していること。
 - 二 69歳未満であること。
 - 三 心身共に健全であること。

(選考)

- 3 任用は、選考により行う。
- 4 選考は、年度計画に基づき作成された「任用候補者一覧表」(以下「一覧表」という。)の中から、校長が行う。
- 5 一覧表は、教務主事が学科主任等の協力を得て、作成するものとする。
- 6 選考に必要な書類は、次の各号に掲げるものとする。
 - 一 履歴書(教育指導歴・研究歴を含む。)
 - 二 健康診断書。ただし、本務官署等で定期的に健康診断を受診している者は、除く。
 - 三 その他必要と認める書類
- 7 この事務処理は、庶務課人事係において行う。ただし、一覧表作成に関する事務は、学生課教務係において行う。

(経過措置)

- 8 この基準の裁定の日から昭和57年度の間は、第2項第2号の基準にかかわらず、別表の区分により任用することができる。

(出典：小山高専規程)

(分析結果とその根拠)

教員の採用、昇格等に関する基準は、人事委員会規程、教員選考委員会規程、教員選考規則及び公募要綱に定められている。そのうち、各職位の教員になることができる者の能力等については、学校教育法及び高等専門学校設置基準に従う内容が、教員の職位毎に教員選考規則に定められている。また、高等専門学校設置基準にある「高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力」については、公募要綱にある教育業績一覧、教育・研究上の業績、着任後の教育・研究についての抱負で審査される。さらに、公募要綱にはその審査基準として「高等専門学校の教育、研究、学生指導に熱意があること」とあり、教育上の能力が示されている。

したがって、教員の採用や昇格等に関する規程等が、明確にかつ適切に定められ、教員選考委員会規程に定められた手続きに従い適切に運用されている。また、平成16年度から平成19年度までに採用された教員16名のうち、2名は修士の学位、14名は博士の学位を持つなど優れた教員の採用がなされ、彼らは本校に適応し、現在も継続して教育研究に励んでいる。これらの点から、高等専門学校に適した教員が採用され、規則は適切に運用されている。

観点3-2-②： 教員の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され、実際に評価が行われているか。また、その結果把握された事項に対して適切な取組がなされているか。

(観点到に係る状況)

点検評価規程(資料3-2-②-1)には、点検評価の趣旨、点検評価委員会の組織、点検項目等が定められている。本校では「点検及び評価の結果を、3年を超えない範囲でとりまとめ、報告書等として公表」することになっている。最近では平成18年度に自己点検報告書が作成され、これに関して平成19年度中に外部評価を受けることが決まっている。

点検評価委員会は校長、副校長、各校長補佐、専攻科長、各学科長、各センター長、地域連携室長、事務部長、事務部の各課長等から構成されている。点検内容は学校の理念と目標、教育、研究、施設、国際交流、財務、社会との連携、自己評価体制に関すること等多岐にわたっている。

この中で第9条に「校長は委員会が行なった点検及び評価の結果については、教育研究等の改善にこれを反映させるものとする。」とあり、また、第9条の2には「校長は、委員会が行った点検及び評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、関連する委員会等にその改善策の検討を付託する。」とある。このように点検評価規程では教育研究の点検に関する総合的な規則が定められている。

教育改善推進室(資料3-2-②-2)は、教育方法の評価と改善等についての業務を行う。具体的には平成18年度の活動記録(資料3-2-②-3)で示すように、授業アンケートの実施計画、教員への連絡、結果集計、コメント提出の依頼等を行う。学生による授業評価アンケートは平成16年度、17年度には通年科目と後期科目について、平成18年度には前期と後期開設の科目を対象として実施された。平成16,17年度の授業評価アンケートの集計結果とそれに対する教員のコメントが記入された冊子(現地閲覧資料3-2)をまとめて開示した。

教員の自己評価については小山高専教職員顕彰（資料3-1-④-4：既出）との関係から人事委員会が担当している。年度毎に教員の自己評価書の提出がなされている。その評価項目を示す（資料3-2-②-4, 5）。評価方法の基礎となる評価表は高専機構による教員顕彰者を推薦するための根拠ともなるものである。自己評価書提出実績（資料3-2-②-6）では教育業績を170点満点で示した評価表（資料3-2-②-4, 5）を70点で換算した値を示してある。提出率は全体で82%であり、多くの教員が提出している。

3-2-②-1：点検評価規程

小山工業高等専門学校点検評価規程

制 定 平成10年4月22日

最終改正 平成18年4月1日

（趣旨）

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）が、本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

（委員会）

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項を行うため、小山工業高等専門学校点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 一 点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
- 二 点検及び評価の実施に関すること。
- 三 点検及び評価に関する取りまとめ並びに報告書の作成及び公表に関すること。
- 四 その他委員会が必要と認める事項。

（組織）

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 副校長
- 三 各校長補佐
- 四 専攻科長
- 五 各学科長
- 六 各センター長
- 七 地域連携室長
- 八 事務部長
- 九 各課長
- 十 技術室長

（委員長）

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故あるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

（委員以外の者の出席）

第5条 委員長が必要と認めるときは、第3条に定める委員以外の者を委員会に出席させることができる。

（点検評価事項等）

第6条 委員会は、次の各号に掲げる事項について点検及び評価を行う。

- 一 本校の教育理念及び目標に関すること。
- 二 教育活動に関すること。
- 三 研究活動に関すること。

- 四 施設設備に関すること。
- 五 国際交流に関すること。
- 六 生涯学習への対応に関すること。
- 七 社会との連携に関すること。
- 八 学校運営及び財政に関すること。
- 九 自己評価体制に関すること。

2 前項各号に掲げる具体的な点検項目及び実施主体は、別表のとおりとする。

(点検評価の実施)

第7条 点検及び評価は、毎年度行うものとする。

2 委員会は、点検項目のうちから、当該年度に行う点検項目を定めるものとする。

(報告書等の作成及び公表)

第8条 委員会は、点検及び評価の結果を、3年を越えない範囲でとりまとめ、報告書等として公表し、本校の充実・発展に活用するものとする。

(点検評価結果の対応)

第9条 校長は、委員会が行った点検及び評価の結果については、教育研究等の改善にこれを反映させるものとする。

2 校長は、委員会が行った点検及び評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、関連する委員会等にその改善策の検討を付託する。

(事務)

第10条 委員会の事務は、企画・地域連携係において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

(出典：小山高専ホームページ)

3-2-②-2：教育改善推進室規程

小山工業高等専門学校教育改善推進室規程

制 定 平成16年11月1日

(設置の目的)

第1条 教育の改善活動に対して組織的・継続的に支援し、教授方法の改善・向上を促進することを目的として、小山工業高等専門学校教育改善推進室(以下「推進室」という。)を置く。

(組織)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務補佐
 - 二 教務委員 若干名
 - 三 その他校長が必要と認めた者
- 2 室員は、校長が任命する。
 - 3 第1項各号の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。
 - 4 推進室に室長を置き、教務補佐をもって充てる。

(任務)

第3条 推進室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 教育方法の評価と改善に関すること。
- 二 教育技術の向上に関すること。
- 三 研修に関すること。
- 四 教育貢献評価方法の調査研究に関すること。
- 五 カリキュラム改革に関すること。
- 六 その他教育改善の推進に関すること。

(事務)

第4条 推進室に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、推進室の運営に関し必要な事項は、推進室が別に定める。

附 則

この規程は、平成16年11月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料3-2-②-3：教育改善推進室活動記録

教育改善推進室記録

16 年 度	年月日	曜日	事項	備考	る 評 価	学 生 に よ る	同 僚 に よ る	自 己 評 価	研 修 会	そ の 他 計 画
--------------	-----	----	----	----	-------------	-----------------------	-----------------------	------------------	-------------	-----------------------

(中略)

H 18 年 度	H18.4.3	月	平成18年度教育改善推進室長駒組虎嵐、白石、田中(昭)、渡邊							◎
	H18.5.19	金	<室員にメール>平成18年度第1回教育改善推進室会議(5月23日)の通知						○	
	H18.5.23	水	平成18年度第1回教育改善推進室会議が開催。授業評価アンケートの公表につき、担当者名、非常勤の結果は公表しないことが決定。FDステップアップ、ホームページについて話し合った。		○					○
	H18.8.28	月	平成18年度前期授業評価アンケートの対象科目一覧を専攻科長、各科教務委員に送り、修正を求めた。		○					
	H18.9.11	月	平成18年度前期授業評価アンケート実施		◎					
	H18.11.29	木	平成18年度教育改善研修会を開催。テーマ：学修単位についての各学科の実施状況。機械工学科(高島)、電気情報工学科(小林(幸)、北野)、電子制御工学科(笠原)、物質工学科(瀧美、田中(孝))、建築学科(瀧澤)	参加者 32名			◎		◎	
	H18.12.26	火	<教務委員にメール連絡>平成18年度後期、通年科目授業評価アンケートの実施計画、対象授業科目の確認を各科教務委員に要請。		○					
	H19.1.28	金	平成18年度授業評価アンケートの実施について、要綱、担当表を掲示、連絡。ホームルームにも実施案内を掲示。		○					
	H19.1.28	月	平成17年度分授業評価アンケート報告書の冊子20冊が到着。各科教務委員に配布。		◎					
H19.1.29	月	平成18年度授業評価アンケートを実施	2月8日 まで	◎						

* ◎：強い関連、○：やや関連

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料3-2-②-4：教員の教育業績の評価項目

2. 教員の教育業績等評価

第1部 教員の自己評価

自己評価項目についての留意事項

- (1) 多くの項目は5年間の平均値を基に記入して下さい。
- (2) 着任後5年未満の教員は、その年数の平均値を基に記入して下さい。
- (3) 完全にあてはまらないような設問、回答に対しては適宜判断して答えて下さい。
- (4) 小数点が出るような場合、四捨五入して下さい。

	配点
A. 授業等の担当	[49]
1. 授業について	[6]
(1) 適当な授業単位数はどれくらいですか？最近5年間の平均値で答えて下さい。(1単位時間；約50分。実験、実習等を含む。専攻科の授業を含む。卒業研究は含まない。)	
1) 15単位時間以上：[3点]	
2) 12～14単位時間：[2点]	
3) 11単位時間以下：[1点]	
(2) 正規の授業のほかに補習授業をやっていますか？(不定期に実施しているものを含む。)	
1) 進学・就職希望者、資格試験受験者及び達成度の低い学生に実施している：[3点]	
2) 進学・就職希望者及び資格試験受験者について実施している：[2点]	
3) 達成度の低い学生についてのみ実施している：[2点]	
4) 正規の授業で十分理解されていると自信をもっているため、補習授業は行っていない：[1点]	
5) 補習授業をまったく考えていない：[0点]	
2. 授業内容・方法	[11]
(1) シラバスはありますか？また、有効に利用していますか？	
1) シラバスの内容を学生によく説明し、講義や成績判定に利用している：[3点]	
2) シラバスはあり、およその目安としている：[2点]	
3) シラバスはあるが、あまり利用していない：[1点]	
4) シラバスはまだ作成配布していない：[0点]	
(2) 教科書及び参考書は使用していますか？	
1) 自著の教科書・参考書及び自分で開発した最新の教材を使用している：[3点]	
2) 標準的な教科書あるいは参考書と自分で開発した教材を使用している：[2点]	

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-②-5：教員の教育業績の評価集計表

評 価 集 計 表

学校名：_____ 高専 学科：_____ 科

氏名：_____

第1部

(注) 各項目内の小数字は満点を示す。A. 5～6を除く場合は合計153点。

A. 授業等の担当

1. 授業について

(1)	3	(2)	3			計	6
-----	---	-----	---	--	--	---	---

2. 授業内容・方法

(1)	3	(2)	3	(3)	3	(4)	2	計	11
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

3. 成績評価

(1)	3	(2)	3	(3)	3			計	9
-----	---	-----	---	-----	---	--	--	---	---

4. 授業に関連する指導

(1)	3	(2)	3					計	6
-----	---	-----	---	--	--	--	--	---	---

5. 卒業論文指導の状況等

(1)	2	(2)	3	(3)	3	(4)	3	計	11
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

6. 留学生の指導等

(1)	2	(2)	2	(3)	2			計	6
-----	---	-----	---	-----	---	--	--	---	---

Aの合計	49
------	----

B. FD活動，地域貢献

1	10	2	10	3	12	4	8	Bの合計	40
---	----	---	----	---	----	---	---	------	----

C. 学生生活指導

1. 課外活動

(1)	2	(2)	8	(3)	2	(4)	2	計	14
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	----

2. 厚生補導

(1)	2	(2)	2	(3)	3	(4)	6		
				(5)	2	(6)	4	計	19

3. 進路指導及び学外活動

(1)	2	(2)	2	(3)	2	(4)	2	計	8
-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	---	---

Cの合計	41
------	----

D. 経歴関係

1	5	2	5	3	20	4	10	Dの合計	40
---	---	---	---	---	----	---	----	------	----

集 計 表

A	49	B	40	C	41	D	40	合 計	170
---	----	---	----	---	----	---	----	-----	-----

(出典：総務課人事係資料)

資料3-2-②-6：自己評価書提出実績

教員の教育業績等の自己評価(平成18年度)

学 科 名	教員数 (人)	提出者数 (人)	提出率 (%)	教育業績 (70点満点) (平均点)	研究業績 (30点満点) (平均点)	合 計 (100点満点) (平均点)
一般科	23	18	78	44	6	50
機械工学科	12	9	75	35	10	45
電気情報工学科	13	13	100	41	10	51
電子制御工学科	10	5	50	46	8	54
物質工学科	13	12	92	46	11	57
建築学科	11	10	91	51	11	62
合 計	82	67	82	44	9	53

(出典：総務課人事係資料)

(分析結果とその根拠理由)

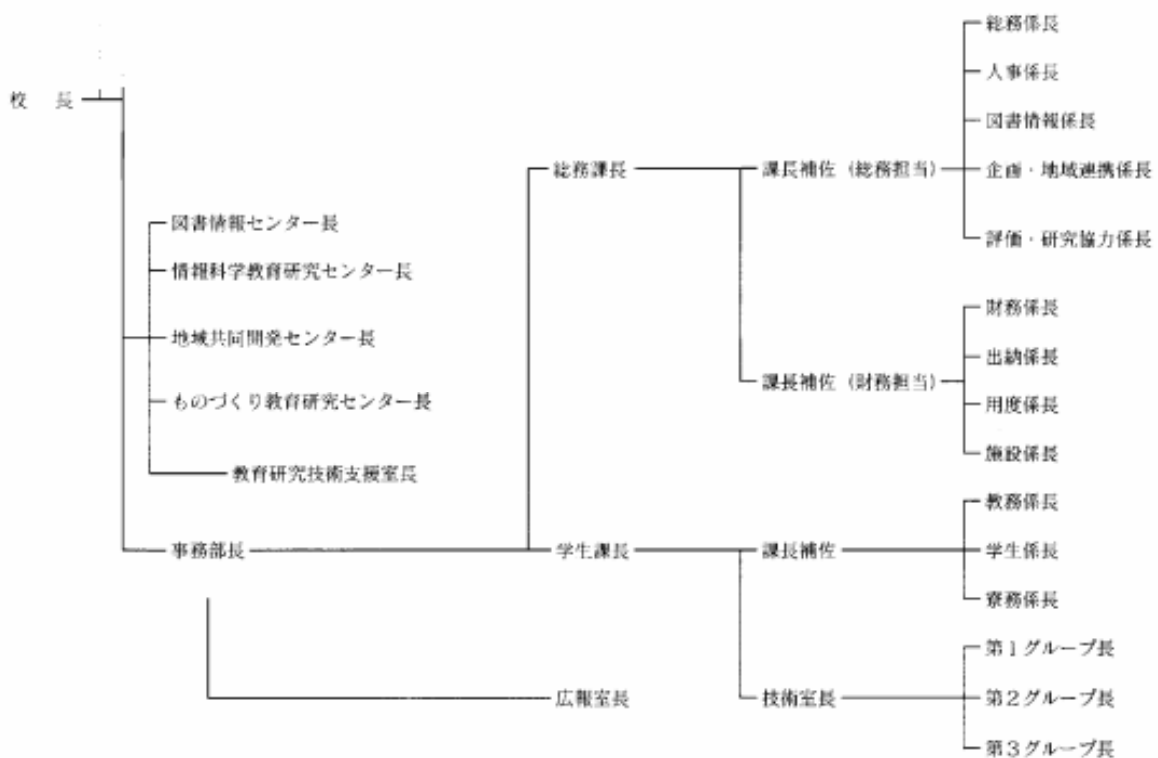
教員の教育活動に関する総括的な評価は点検評価委員会を中心に行われている。資料の収集は、教育改善推進室及び人事委員会によって行われており、その資料を基礎にして評価を実施するための体制が整っていると考えられる。教育改善推進室を中心に、授業評価アンケートの結果は教員にフィードバックされ、コメント提出の依頼等が行われている。教員の自己評価も毎年提出されている。これらによって把握された事項に基づき、教員顕彰が実施されるなど適切な取組がなされている。

観点3-3-①： 学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員、技術職員等の教育支援者が適切に配置されているか。

(観点到係る状況)

事務職員、技術職員等の教育支援者の配置状況を資料3-3-①-1に示す。事務組織は規程(資料3-3-①-2)に明示された学習支援等を行う。学生課に課長補佐1名、教務係4名、学生係3名が配置されている。図書情報センターには事務職員2名、情報科学教育研究センターには1名の技術職員が配置されている。技術室には10名の技術職員が配置され、3グループに分かれてその専門性に応じて学生の実習の支援を行なっている(資料3-3-①-2, 3)。司書の配置については、総務課図書情報係に配置する職員は特に司書の資格は必要としないが、平成19年4月1日現在、同係に配置されている職員2名のうち1名は司書資格を保有している。

資料3-3-①-1：小山工業高等専門学校の事務組織と学習支援のための組織



(出典：2007学校要覧p.4)

資料3-3-①-2：小山高専事務組織規程

小山工業高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和40年4月1日

最終改正 平成19年4月1日

第1章 総則

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年10月1日制定）第12条及び小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第11条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第2章 事務組織

第2条 事務部に総務課、学生課を置く。

第3条 総務課に総務係、人事係、図書情報係、企画・地域連携係、評価・研究協力係、財務係、出納係、用度係 及び施設係を置く。

第4条 学生課に教務係、学生係、寮務係及び技術室を置く。

第5条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第6条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第6条の2 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け課の事務を処理する。

第6条の3 総務課及び学生課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第6条の4 学生課に技術専門職員を置く。

2 技術専門職員は、上司の命を受け高度の専門的な技術を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第7条 係に係長又は主任を置く。

2 係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第3章 事務分掌

第8条 総務課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 総務関係事務の総括及び連絡調整に関すること。

二 その他総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 総務課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 財務関係事務の総括及び連絡調整に関すること。

二 その他財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

3 総務係においては、次の事務をつかさどる。

一 学則その他諸規程の制定改廃に関すること。

二 儀式及び他の係に属さない諸行事に関すること。

- 5 図書情報係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料（以下「図書」という。）の選択及び収集に関すること。
 - 二 図書の契約及び支払決議に関すること。
 - 三 図書の分類、目録作成・編成及び装備、配架並びに整理に関すること。
 - 四 図書の受贈、交換及び除籍等に関すること。
 - 五 図書の閲覧、貸出及び保管に関すること。
 - 六 文献の相互利用、複写及び参考調査に関すること。
 - 七 研究紀要に関すること。
 - 八 著作権に関すること。
 - 九 図書情報センター運営委員会に関すること。
 - 十 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十一 その他図書情報に関すること。

第9条 学生課課長補佐は、次の事務をつかさどる。

- 一 学生課事務の総括及び連絡調整に関すること。
 - 二 その他学生課所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。
- 2 技術専門職員は、次の事務をつかさどる。
- 一 教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に関すること。
 - 二 学生の技術指導に関すること。
 - 三 技術の継承及び保存に関すること。
 - 四 技術研修に関する調査研究に関すること。
- 3 教務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 教育課程に関すること。
 - 二 学生の入学、休学、復学、転学、退学及び卒業・修了に関すること。
 - 三 授業及び試験に関すること。
 - 四 指導要録に関すること。
 - 五 在学成績及び卒業等の証明に関すること。
 - 六 教科書及び教材に関すること。
 - 七 学生の校外研修及び専門研修に関すること。
 - 八 インターンシップに関すること。
 - 九 外国人留学生の受入及び教育に関すること。
 - 十 研究生及び聴講生に関すること。
 - 十一 外部からの学生支援に関すること。
 - 十二 教育改革の支援プログラムに関すること。
 - 十三 専攻科教育の実施状況等の審査に関すること。
 - 十四 J A B E E の審査に関すること。
 - 十五 学生課職員及び非常勤講師の労働時間、休暇及び出張に関すること。
 - 十六 教務委員会に関すること。
 - 十七 専攻科委員会に関すること。
 - 十八 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十九 その他他の係の所掌に属さない事務に関すること。
- 4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
 - 二 外国人留学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関すること。
 - 三 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関すること。
 - 四 学生の諸願届に関すること。
 - 五 学生の集会、行事及び掲示に関すること。
 - 六 学生の奨学資金に関すること。
 - 七 入学料、授業料及び寄宿料の減免並びに徴収猶予に関すること。
 - 八 学生の健康管理及び安全保持に関すること。
 - 九 日本スポーツ振興センターに関すること。

- 十 学生の団体活動、オリエンテーション、課外活動及び諸行事に関する事。
- 十一 学生の進路に関する事。
- 十二 学生食堂の管理運営に関する事。
- 十三 学生の賞罰に関する事。
- 十四 カウンセラーの労働時間に関する事。
- 十五 教員の労働時間の補助業務に関する事。
- 十六 学生委員会に関する事。
- 十七 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
- 十八 その他学生の厚生補導に関する事。
- 5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 寄宿舎の管理運営に関する事。
 - 二 寄宿舎の諸経費に係る経理に関する事。
 - 三 入寮及び退寮に関する事。
 - 四 学寮における学生の厚生補導に関する事。
 - 五 学寮における外国人留学生の厚生補導に関する事。
 - 六 寮生の栄養指導及び衛生に関する事。
 - 七 教員の宿日直に関する事。
 - 八 寮務委員会に関する事。
 - 九 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十 その他寄宿舎に関する事。
- 6 技術室においては、次の事務をつかさどる。
 - 一 学生の実験実習の技術的指導に関する事。
 - 二 卒業研究に関する技術的指導に関する事。
 - 三 教育教材作成の支援に関する事。
 - 四 教員の研究活動に伴う技術的支援に関する事。
 - 五 技術の研究、改善、継承及び保存に関する事。
 - 六 技術研修に関する事。
 - 七 民間等との共同研究等に伴う技術的支援に関する事。
 - 八 学生の課外活動の技術的支援に関する事。
 - 九 実験室等の維持管理に関する事。
 - 十 技術室職員の労働時間、休暇及び出張に関する事。
 - 十一 情報科学教育研究センターに関する事。
 - 十二 地域共同開発センターに関する事。
 - 十三 ものづくり教育研究センターに関する事。
 - 十四 その他教育及び研究の支援に関する事。
- 6の2 技術室に関し必要な事項は、別に定める。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 3-3-①-3 : 技術室規程

小山工業高等専門学校技術室規程

制 定 平成 14 年 3 月 13 日
最終改正 平成 17 年 4 月 1 日

(設置の目的)

第 1 条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)学則第 11 条の規定に基づき、本校の教育研究活動を支援し、技術に関する専門的業務を円滑かつ効率的に処理するために、本校事務部に技術室を置く。

(組 織)

第 2 条 技術室に、技術室長、グループ長を置く。

- 一 技術室長は、上司の命を受け、技術室の事務を総括する。
- 二 技術室長は、原則として技術専門員又は技術専門職員をもって充てる。
- 三 グループ長は、上司の命を受け、グループの業務を処理する。
- 四 グループ長は、原則として技術専門職員をもって充てる。なお、各グループ相互の連絡調整を行う者を、グループ長の中から校長が指名する。
- 五 技術室長及びグループ長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(グループ)

第 3 条 技術室に次のグループを置く。

- 一 第 1 グループ
- 二 第 2 グループ
- 三 第 3 グループ

(業 務)

第 4 条 グループにおいては、次の業務を行う。

- 一 学生の実験実習の技術的指導に関すること。
- 二 卒業研究に関する技術的指導に関すること。
- 三 教育教材作成の支援に関すること。
- 四 教員の研究活動に伴う技術的支援に関すること。
- 五 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
- 六 技術研修に関すること。
- 七 民間等との共同研究等に伴う技術的支援に関すること。
- 八 学生の課外活動の技術的支援に関すること。
- 九 実験室等の維持管理に関すること。
- 十 その他教育及び研究の支援に関すること。

(グループの業務分掌)

- 第 5 条 第 1 グループは、主として機械工学科及びものづくり教育研究センターの前条に掲げる業務を行う。
- 2 第 2 グループは、主として電気情報工学科、電子制御工学科及び情報科学教育研究センターの前条に掲げる業務を行う。
- 3 第 3 グループは、主として物質工学科、建築学科、一般科及び地域共同開発センターの前条に掲げる業務を行う。
- 4 各グループは、他のグループから業務に関する協力依頼があった場合は、可能な限り他グループの業務を支援するものとする。

(研 修)

第 6 条 技術室長は、技術室の職員の研修に務めなければならない。

- 2 研修は、職務の遂行に必要な知識及び技術等を修得させ、職員の能力及び資質等を向上させる内容のものとする。

(事 務)

第 7 条 技術室に関する事務は、同室において処理する。

(その他)

第 8 条 技術室に関し必要な事項については、別に定めることができる。

(出典：小山高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の支援者が適切に配置されていることは、事務職員の仕事内容に関する規程、技術職員の教育支援と組織構成に関する規程によって明らかである。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準3の自己評価の概要

一般科目、専門科目ともに学校の教育目標に適合した教員配置となっている。「⑥コミュニケーション能力と国際感覚」の達成をさらに十分とするには、ネイティブスピーカーによる授業を増やすことや、英語の単位数を増やすこと等の対応が望まれる。

専攻科においても高度な知識を有する博士号取得者、実務関連の資格を有する教員が教育の目標を達成するため適切に配置されている。

技術士資格をもつ教員は1名配置され、外国人の専任教員は配置されていない。教員の年齢構成では、55～64才までに全教員の約36パーセントに当たる29人が集中し、教員の高齢化が進んでいる。若年層を計画的に採用して、年齢構成の均衡を図ることが必要である。また、優れた教員に配慮した優秀教員評価制度が設けられている。

常勤教員の採用、昇任の過程と各職位に応じた資格、能力は、教員選考規則等に示されている。教員選考に際し、7種類の書類が定められ、経歴、教育能力、研究能力等から多面的に選考されている。その結果、高等専門学校の教育に適した教員が採用されているため、教員の採用や昇格等に関する規程等が明確かつ適切に定められ、適切に運用されている。

点検評価委員会の規則は、趣旨、組織、点検項目等を定めている。教員の授業評価と授業改善については教育改善推進室が担当し、教員の自己評価については教員顕彰との関係から人事委員会が担当している。学生による授業評価アンケートは平成16から18年度には前期あるいは後期および通年開設の科目を対象として実施された。平成17年度の授業評価アンケートの集計結果とそれに対する教員のコメントが記入された冊子が開示されている。平成18年度の自己評価書提出率は82%で、多くの教員が提出している。

事務組織の学生支援の内容は規程によって定められ、学生課に課長補佐1名、教務係4名、学生係3名が配置されている。図書情報センターには事務職員2名、情報科学教育研究センターには1名の技術職員が配置されている。技術室には10名の技術職員が配置され、3グループに分かれてその専門性に応じて学生の実習の支援を行っている。図書情報系の職員に司書の資格は必要としないが、職員2名のうち1名は司書資格を保有している。教育課程を展開するために必要な事務職員、技術職員等の支援者が適切に配置されている。

基準 4 学生の受入

(1) 観点ごとの分析

観点 4-1-①： 教育の目的に沿って、求める学生像や入学者選抜（例えば、準学士課程入学者選抜、編入学生選抜、留学生選抜、専攻科入学者選抜等が考えられる。）の基本方針などが記載された入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ、学校の教職員に周知されているか。また、将来の学生を含め社会に公表されているか。

（観点到に係る状況）

本校では「技術者である前に人間であれ」という教育方針をふまえ、社会で活躍・貢献できる豊かな人間性を有し、創意・工夫できる技術者の育成を目指し、教育方針の各項目と対応した入学者受入方針を定めている（資料 4-1-①-1）。

準学士課程の入学者受入方針はわかりやすく明文化されており、その要点を校内に掲示（資料 4-1-①-2）して、教職員に周知されるとともに、入学者募集要項（資料 4-1-①-3）やホームページ（資料 4-1-①-4）に掲載され、社会に対して公表されている。また、中学校訪問や入試説明会、学校説明会等においても、入学者受入方針を明記した募集要項、学校案内、リーフレットを配付するとともに、受験希望者および将来入学の可能性のある中学生に対して準学士課程の入学者受入方針を説明している（資料 4-1-①-5～8）。

留学生の入学者受入方針は準学士課程の入学者受入方針を準用している。

第 4 学年への編入学に関しても入学者受入方針を明文化し、編入学者募集要項及びホームページに掲載している（資料 4-1-①-9）。

専攻科課程の入学者受入方針についても明文化され、校内掲示（資料 4-1-①-2：既出）を通じて教職員に周知されている。また、専攻科募集要項と専攻科リーフレットに掲載され、ホームページを通して公開されている（資料 4-1-①-10）。

アンケート結果から、常勤教員においては準学士課程および専攻科課程の入学者受入方針はともに 5 段階で 4 以上の周知度評価を得ている。また、職員についても準学士課程および専攻科課程について約 3.5 の周知度評価を得ている（資料 4-1-①-11）。

以上のことから、入学者受入方針は教職員に概ね周知されている。

資料 4 - 1 - ① - 1 : 入学者受入方針全文

【準学士課程入学者受入方針】

開校以来、本校では“技術者である前に人間であれ”を教育方針として、人間教育に基づく実践的技術者の育成に努めてきました。この教育方針をふまえ、社会で活躍貢献できる豊かな人間性を有し、創意・工夫できる技術者を育成することを目指します。この目標を達成するために、つぎのような若人の入学を望みます。

- (1) 科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人
- (2) モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人
- (3) 部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人

◆機械技術を活かしたモノづくりを学ぶ機械工学科

機械工学科では、力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と、加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ①数学、理科、技術が好きで、得意な人
- ②自ら考え、手を使って行動できる人
- ③環境や資源を配慮した機械作りに取り組みたい人

◆電気や情報技術を生かしたモノづくりを学ぶ電気情報工学科

電気情報工学科では、電気、エネルギー、情報、通信、半導体などに関する基礎と、ロボットやコンピュータ・プログラム、携帯電話や超L S Iなどのモノづくりへの応用技術を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ①数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人
- ②小さなものから大きなものまで、自分のアイデアを実現したい人
- ③最先端技術分野に関心があり、福祉・環境に関心がある人

◆電子技術や制御技術を活かしたモノづくりを学ぶ電子制御工学科

電子制御工学科では、電子回路、電子材料、コンピュータなどのハードウェアの基礎と、情報、通信、プログラムなどのソフトウェアの基礎を学び、それらを活かしたシステム作りとその応用を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ①数学、理科が好きな人。
- ②自分で考えることができる人、モノを作ることが好きな人、アイデアをたくさん出せる人。
- ③電気製品、乗り物、コンピュータなどの本格的なシステムに興味があり、将来自分で作ってみたい人。

◆化学や生物に関する科学技術を活かしたモノづくりを学ぶ物質工学科

物質工学科では、化学および生物の基礎と、それを応用することを勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ①化学や生物に興味を持つ人
- ②自然現象に興味を持ち、好奇心旺盛で、実験が好きな人
- ③人間生活と自然環境との関わりについて関心のある人

資料 4-1-①-1 (続き)

◆建築技術を活かしたモノづくりを学ぶ建築学科

建築学科では、すまい、都市などを計画・設計するための知識と、建物のしくみ、造り方などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ①数学、理科に興味があり、技術や美術が好きな人
- ②人々の生活環境を学び、快適な建物を設計してみたい人
- ③建物のしくみに関心を持ち、安全な建物づくりに取り組みたい人

【編入学者受入方針】

開校以来、本校では、“技術者である前に人間であれ”を教育方針として、人間教育に基づく実践的技術者の育成に努めてきました。この教育方針をふまえ、地域社会や産業界とともに、国際社会で活躍貢献できる豊かな人間性を有し、創意・工夫できる技術者を育成することを目指します。この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

- (1) 自然科学及び工業技術に対する興味・関心が高く、その基礎学力を有し、学ぶ意欲がある人
- (2) モノづくりに対する関心が高く、自らのアイデアで、主体的に取り組める人
- (3) 日本語及び英語の基礎学力を有し、自分の考えを伝えることのできる人

【専攻科課程入学者受入方針】

本校専攻科では、教育方針“技術者である前に人間であれ”を堅持し、地域社会や産業界とともに、21世紀の国際社会で活躍貢献できる個性と人間性豊かで実践的能力を備えた高度な技術者を育成することをめざします。

この目標を達成するために、つぎの学力を有し、人間性豊かな人の入学を望みます。

- (1) 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- (2) モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
- (3) 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力、および英語の基礎学力を有している人

(出典：小山高専ホームページ)

資料 4-1-①-2 : 入学者受入方針の校内掲示 (正面玄関入口)



(出典：校内掲示 写真)

資料 4-1-①-3 : 入学者受入方針の掲載

入学者受け入れ方針 (アドミッションポリシー)

開校以来、本校では、“技術者である前に人間であれ”を教育方針として、人間教育に基づく実践的技術者の育成に努めてきました。この教育方針をふまえ、社会で活躍貢献できる豊かな人間性を有し、創意・工夫できる技術者を育成することを目指します。この目標を達成するために、つぎのような若人の入学を望みます。(キーワード)

- (1) 科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人(科学技術への興味と基礎的学力)
- (2) モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人(モノづくりや実験への積極性)
- (3) 部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人(課外活動と協調性)

機械技術を活かしたモノづくりを学ぶ機械工学科

機械工学科では、力、エネルギー、熱、流れなどに関する基礎と、加工技術や製図などのモノづくりの基礎を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ① 数学、理科、技術が好きで、得意な人
- ② 自ら考え、手を使って、行動できる人
- ③ 環境や資源を配慮した機械作りに取り組みたい人

電気や情報技術を生かしたモノづくりを学ぶ電気情報工学科

電気情報工学科では、電気・エネルギー、情報、通信、半導体などに関する基礎と、ロボットやコンピュータ・プログラム、携帯電話や超小型などのモノづくりへの応用技術を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

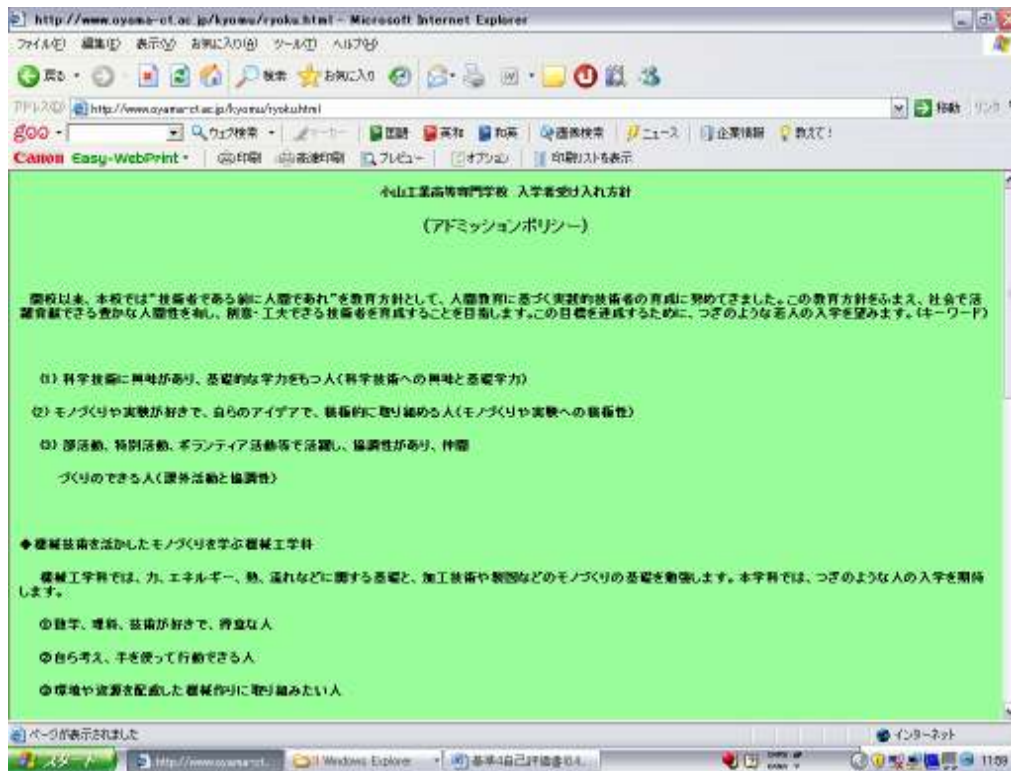
- ① 数学、理科、技術が好きで、好奇心旺盛な人
- ② 小さなものから大きなものまで、自分のアイデアを実現したい人
- ③ 最先端技術分野に興味があり、福祉・環境に関心がある人

電子技術や制御技術を活かしたモノづくりを学ぶ電子制御工学科

電子制御工学科では、電子回路、電子材料、コンピュータなどのハードウェアの基礎と、情報、通信、プログラムなどのソフトウェアの基礎を学び、それらを活かしたシステム作りとその応用を勉強します。本学科では、つぎのような人の入学を期待します。

- ① 数学、理科が好きな人
- ② 自分で考えることができる人、モノを作ることが好きな人、アイデアをたくさん出せる人
- ③ 電気製品、乗り物、コンピュータなどの本格的なシステムに興味があり、将来自分で作ってみたい人

資料 4-1-①-4 : 準学士課程入学者受入方針



(出典：小山高専ホームページ)

資料 4-1-①-5 : 入学者受入方針の公表

入学者受入方針の公表(平成18年度)

公表の方法	受入方針を明記した冊子			ホームページ
	冊子名	配布方法	参加者数または学校数	
準学士課程	募集要項 学校案内 リーフレット	中学校訪問	167校	掲載
		入試説明会 (2回)	118名	
		学校説明会 (5回)	415名	
		学校説明会(学習塾1回)	46名	
		合同説明会 (1回)	70名	
		一日体験入学 (1回)	874名	
		入試相談コーナー (2回)	232名	
		郵送	297校	
編入学	募集要項	高校訪問	30校	掲載
		郵送	460校	
専攻科課程	募集要項 専攻科リーフレット	中学校・高校訪問	197校	掲載
		進学説明会	4年生対象	
		郵送	62校	

(出典：学生課教務係資料)

資料 4 - 1 - ① - 6 : 入試に関する説明会日程表

小山高専 入試に関する説明会

☆平成18年度は下記のとおり入試に関する説明会等を開催する予定です。皆様の参加をお待ちしております。

高専合同説明会

日 程	会 場 等	内 容	対 象	備 考
6月11日(日):本校担当	大宮ソニックシティ	関東地区の国公立高専主催の高専制度についての説明会です。	中学校教諭 生徒保護者	14:00～16:00
7月23日～8月23日	筑西、柏、甲府、横浜市			

彩の国高校進学フェア

7月29日(土)・30日(日)	さいたま スーパーアリーナ	読売新聞さいたま支局主催の高校進学に関する催しです。	埼玉県内の生徒・保護者	本校は資料展示のみ
-----------------	------------------	----------------------------	-------------	-----------

一日体験入学 (学校紹介)

8月 1日(火)	本 校	本校の概要説明と校内展示や実験を自由に見学、各学科の特徴を体験できます。	中学校教諭 生徒・保護者	午前は、栃木県内を中心とし、午後は主に県外が対象です。
----------	------------	--------------------------------------	-----------------	-----------------------------

☆入試相談コーナーを開設。詳しくは下記を参照下さい。

入試説明会

9月28日(木)	本 校	主に中学校教諭を対象とし入試に関する詳しい説明を行います。	学習塾	10:30～受付 11:00～13:00
9月29日(金)	宇都宮会場 豊郷地区市民センター 那須塩原会場 いきいきふれあいセンター 佐野会場 佐野市文化会館 筑西会場 しもだて地域交流センター 鷲宮会場 東コミュニティセンター(さくら)		中学校教諭	14:00～受付 14:30～16:30
		中学校教諭	9:00～受付 9:30～11:30	
			14:00～受付 14:30～16:30	
		生徒・保護者	9:00～受付 9:30～11:30 14:00～受付 14:30～16:30 14:00～受付 14:30～16:30	

学校説明会

6月18日(日)	本 校	本校の概要及び入試に関する詳しい説明を行います。	生徒・保護者 (中学校 教諭)	10:00～12:00
10月15日(日)	宇都宮会場 豊郷地区市民センター 筑西会場 しもだて地域交流センター			9:00～受付 9:30～11:30
				14:00～受付 14:30～16:30
11月 5日(日) 工慶祭期間中	本 校			9:30～受付 10:00～12:00
12月 3日(日)	本 校	9:30～受付 10:00～12:00		

工 慶 祭 (学校祭)

11月 4日(土)	本 校	学校祭	どなたでも自由に見学できます。	9:00～16:00
11月 5日(日)				

☆入試相談コーナーを開設。詳しくは下記を参照下さい。

入試相談コーナー

8月 1日(火) 一日体験入学開催中	本 校	個別に、本校の概要及び入試に関する詳しい説明を行い、相談にも応じます。	生徒・保護者	10:00～12:00
11月 4日(土)				14:00～16:00
11月 5日(日) 工慶祭期間中				9:00～16:00 13:00～16:00

☆ 詳細については、随時、HPに掲載し、また中学校等に案内をお送りいたします。

☆ 人数の多少にかかわらず、また県の内外を問わず、中学校まで説明に伺います。

また、個人の学校見学も随時受け付けておりますので、詳細は下記にお問い合わせ下さい。

問い合わせ先	小山工業高等専門学校 学生課 教務係	TEL <input style="width: 100%;" type="text"/>	FAX <input style="width: 100%;" type="text"/>	Email <input style="width: 100%;" type="text"/>
--------	-----------------------	---	---	---

(出典：平成19年度入試関係説明資料)

資料 4 - 1 - ① - 7 : 平成18年度入試説明会、学校説明会実施状況

入 試 説 明 会 実 施 状 況

(平成18年9月28日、29日)

1 県別参加人数

単位：人

区 分	栃木県	茨城県	群馬県	埼玉県	千葉県	計
埼玉県鷲宮町会場				1		1
〃 中学生と保護者		3		23		26
茨城県筑西市会場		7				7
〃 中学生と保護者		10				10
栃木県宇都宮市会場	10					10
栃木県那須塩原市会場	3	1				4
栃木県佐野市会場	4		4			8
小山高専会場	46	5			1	52
計	63	26	4	24	1	118

2 実施年度別参加中学校数の推移

単位：校

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度	
鷲宮町会場	5	4	19	
筑西市会場	12	9	12	
つくば市会場	4	—	—	
宇都宮市会場	44	27	10	
那須塩原市会場	2	2	4	
佐野市会場	20	5	8	
小山高専会場	16	51	52	
計	103	98	105	
案 内 発 送 校 数	栃木県	178	181	171
	茨城県	239	239	239
	埼玉県	429	430	430
	群馬県	30	38	0
	千葉県	33	25	0
その他				
計	909	913	840	

学 校 説 明 会 (学 習 塾 対 象) 実 施 状 況

1 実施年度別参加学習塾数の推移

単位：校

区 分	平成16年度	平成17年度	平成18年度
小山高専会場	61校(63名)	80校(82名)	46校(46名)
学習塾宛案内発送数	805	1,048	80

資料 4-1-①-7 (続き)

学校説明会実施状況

(平成18年6月18日、10月15日、11月5日、12月3日)

1 県別参加人数 単位: 人

区 分	栃木県	茨城県	群馬県	埼玉県	千葉県その他	計
小山高専会場6/18(日)	146	18		7	2	173
宇都宮会場10/15(日)	52			3		55
筑西会場10/15(日)		18				18
小山高専会場11/5(日)	66	16	3	18	7	110
小山高専会場12/3(日)	33	12	4	7	3	59
計	297	64	7	35	12	415

2 参加者内訳 単位: 人

区 分	中学生	保護者	教員	計
小山高専会場6/18(日)	91	80	2	173
宇都宮会場10/15(日)	22	33	0	55
筑西会場10/15(日)	8	10	0	18
小山高専会場11/5(日)	49	61	0	110
小山高専会場12/3(日)	24	35	0	59
計	194	219	2	415

入試相談コーナー(工陵祭)実施状況

(平成18年11月4日・5日)

1 実施年度別参加者数の推移 単位: 組

区 分	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
1日目	—	—	30	16	21	35
2日目	—	—	36	49	38	31
計	0	0	66	65	59	66

2 県別参加組数 単位: 組

区 分	栃木県	茨城県	群馬県	埼玉県	福島県その他	計
11月4日(土)	13	5	2	15		35
11月5日(日)	18	6	1	4	2	31
計	31	11	3	19	2	66

3 参加者内訳 単位: 人

区 分	中学生	保護者	計
11月4日(土)	34	42	76
11月5日(日)	26	30	56
計	60	72	132

参考:8/1一日体験入学
入試相談コーナー

中学生	53
保護者	47
計	100

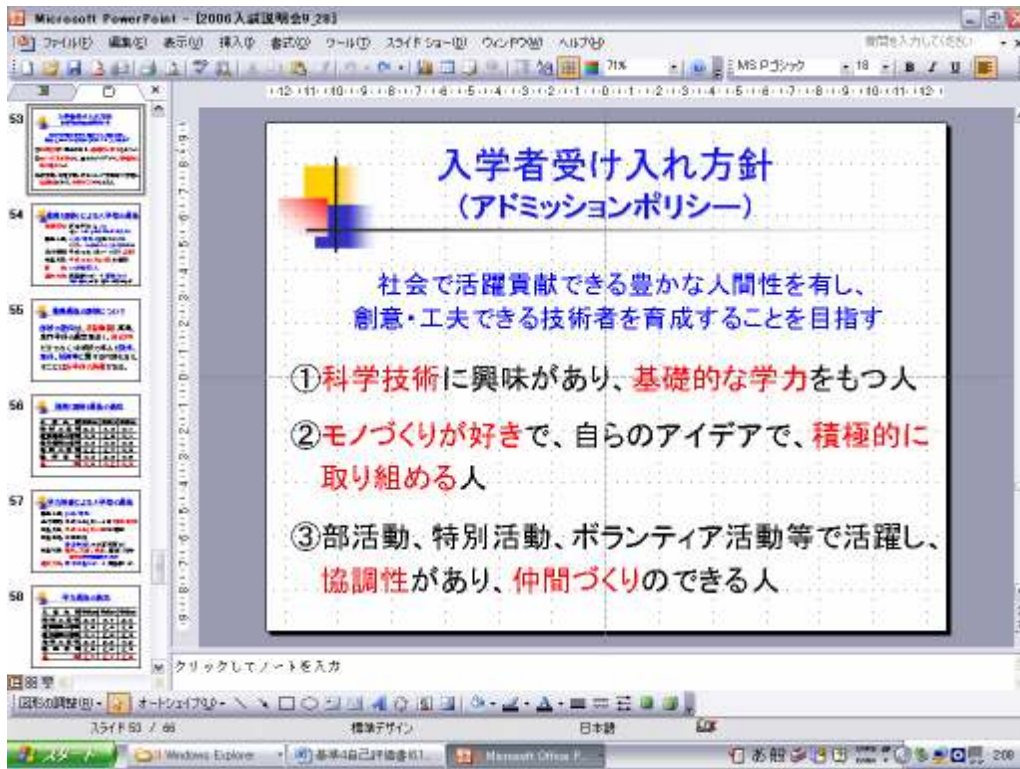
合同説明会実施状況

単位: 人

会 場 名	大宮会場	筑西会場	甲府会場	柏会場	横浜会場
担 当 校	小 山	茨 城	長 野	木更津	東 京
実 施 日	6月11日	7月23日	7月27日	7月31日	8月23日
場 所	大宮 ソニックシティ	県西生涯学習センター	甲府市社会教育 センター	東葛テクノプラザ	横浜市教育会館
参 加 者 数	70				
内 訳	中学校関係	0			
	保護者・生徒	70			
	学習塾他	0			

(出典:平成18年度教務委員会資料)

資料 4-1-①-8 : 入試説明会用パワーポイント



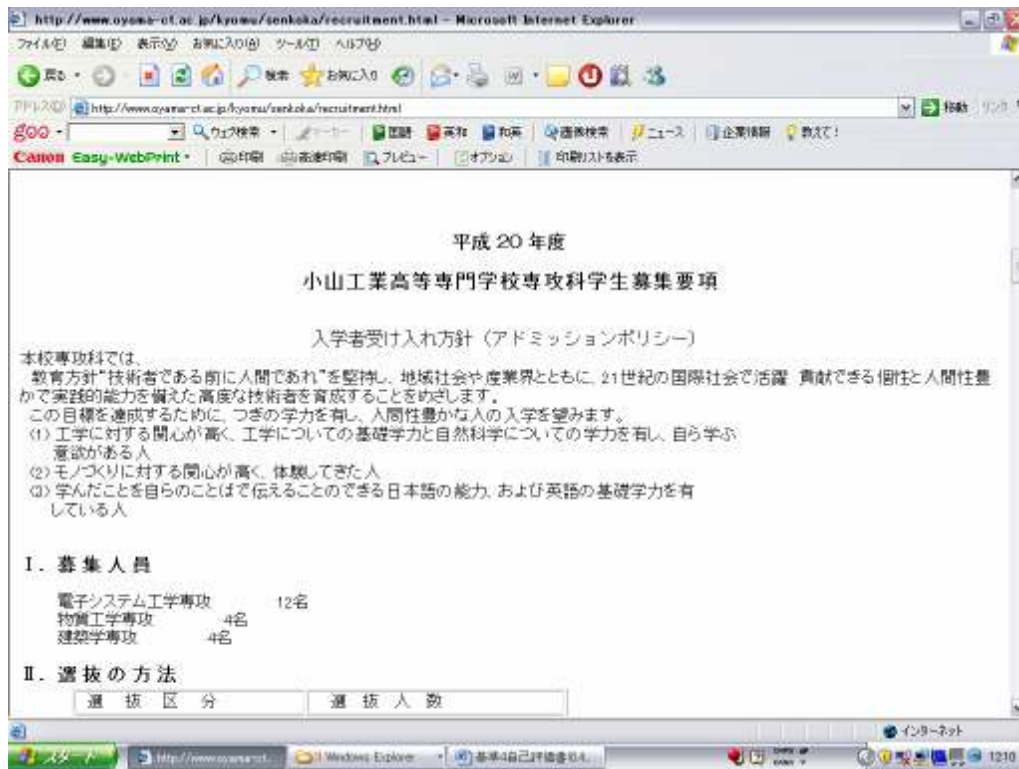
(出典：入試説明会用パワーポイント)

資料 4-1-①-9 : 編入学生受入方針



(出典：小山高専ホームページ)

資料 4 - 1 - ① - 10 : 専攻科課程入学者受入方針



(出典：小山高専ホームページ)

資料 4-1-①-11：入学者受入方針周知のアンケート結果

■平成18年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果■ 《労働教員 集計》										
設問内容	全くその通りである	そのとおりである	ややその通りである	ややその通りでない	その通りでない	無回答	計	有効率	回答率	集計
I. 教育目標										
小山高専の教育目標を知っていますか。										
1 詳細まで知らずとも理解できていると答えている。	62	4	1	1	0	0	68	4.87		
2 「ざっくりとした内容」は分かるが、入学者の学習態度や授業内容などは分からない。	40	16	11	1	0	0	68	4.40		
3 以下の項目は分からない。	28	20	17	2	1	0	68	4.06		
II. 入学者受入方針										
小山高専の入学者受入方針について下の5つの項目について回答してください。										
4 学科別進学課程は、入学者受入の観点から考慮されている。学科別進学課程と専門課程の学力差を十分に考慮し、各課程間の学力差を適切に評価する。	27	24	15	2	0	0	68	4.12		
5 専攻別入学者受入方針の考慮が適切に行われている。各課程間の学力差を十分に考慮し、各課程間の学力差を適切に評価する。	24	26	12	5	0	0	68	4.01		

■平成18年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果■ 《観員 集計》										
設問内容	全くその通りである	そのとおりである	ややその通りである	ややその通りでない	その通りでない	無回答	計	有効率	回答率	集計
I. 教育目標										
小山高専の教育目標を知っていますか。										
1 詳細まで知らずとも理解できていると答えている。	31	3	11	1	1	0	47	4.32		
2 「ざっくりとした内容」は分かるが、入学者の学習態度や授業内容などは分からない。	21	9	14	2	1	0	47	4.00		
3 以下の項目は分からない。	11	11	15	5	1	1	47	3.57		
II. 入学者受入方針										
小山高専の入学者受入方針について下の5つの項目について回答してください。										
4 学科別進学課程は、入学者受入の観点から考慮されている。学科別進学課程と専門課程の学力差を十分に考慮し、各課程間の学力差を適切に評価する。	12	10	16	5	2	2	47	3.58		
5 専攻別入学者受入方針の考慮が適切に行われている。各課程間の学力差を十分に考慮し、各課程間の学力差を適切に評価する。	10	9	17	7	2	2	47	3.40		

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

入学者受入方針は全てわかりやすく明確に定められ文章化されており、冊子、ホームページ、各種説明会など多様な手段を通じて周知・公表が図られているので、優れていると判断する。

観点 4-2-①： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており、実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の推薦選抜については面接を重視し、口頭試問の内容に入学者受入方針を反映させている（資料 4-2-①-1）。調査書については数学、理科、英語の評価に「傾斜配点」を行っている（資料 4-2-①-2）。

準学士課程の学力選抜については、学力試験が全国の国立高専で統一の問題を使用して行われるため、問題そのものに本校独自の入学者受入方針を反映することは困難である。ただし、技術者として

の素養として数学、理科、英語を重視するという観点から、学力試験において、数学、理科、英語の点数および調査書の評定について「傾斜配点」を行うことにより、入学者受入方針を反映させている。

(資料 4-2-①-2 : 既出)

留学生受入を積極的に行っている。受入に当たり、文部科学省試験成績資料や独立行政法人日本学生支援機構の日本語教育センター試験結果に基づく基礎学力を確認し、事務連絡を目的とした面談を行っている。

第 4 学年への編入学については、入学者受入方針の各項目を試験科目及び面接時の質問内容へ反映させている (資料 4-2-①-3, 4)。

専攻科課程の推薦選抜、学力選抜については、面接と小論文の問題に入学者受入方針を反映させ (資料 4-2-①-5)、受入方針に関係する観点からそれぞれを点数化して、入学者選抜判定用資料としている (現地閲覧資料 4-1)。

資料 4-2-①-1 : 入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接質問内容(準学士課程入学者選抜)

【準学士課程入学者選抜試験】

小山高専の入学者受け入れ方針(準学士課程)

- A① 科学技術に興味があり、基礎的な学力をもつ人
- A② モノづくりや実験が好きで、自らのアイデアで、積極的に取り組める人
- A③ 部活動、特別活動、ボランティア活動等で活躍し、協調性があり、仲間づくりのできる人

入学者受け入れ方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

	項目	質問内容
機械 工学 科	A①	・本校を志望した理由、学科を志望した理由について説明してください。・得意な教科、興味のある教科について説明してください。・どのような機械に興味がありますか。 専門適正面接：アルミニウムの密度測定課題を通じて、数学や理科に関する基礎学力の調査。
	A②	・中学時代のモノづくり体験について説明してください。・将来どのような機械をつくってみたいですか。・専門適正面接：アルミニウムの密度測定課題を通じて、展開図による図形認識の調査。はんだ付け課題を通じて、実技への取り組み方や関連する知識の調査。
	A③	・中学時代の部活動、学級活動、生徒会活動、ボランティア活動体験について説明してください。・新しい学校に入るにあたり仲間づくりを自ら出来ますか。
電気 情報 工学 科	A①	・数学、電気回路、に関する設問・オームの法則に関する質問。・コンピュータを使って情報発信しているか。・科学技術に興味があるか(具体例を挙げよ)。・電気工学のどの分野に興味ある(好き)か。
	A②	・工具を用意し、その使い方や、ある作業に必要な工具を選択させる。・調書に「ものづくりが好き」と記載されている場合、作ったもので思い出に残っているもの(技術家庭以外でもよい)。 ・中学校時代に取り組んだモノづくりに関する質問・中学校時代に興味をもって取り組んだことは何か。
	A③	・クラブ活動、語学学習に関してどのように取り組んだか(成果はどうであったか)。・ボランティア活動などを行っている場合は、そのボランティアに興味を持った理由。・部活動における入賞経歴、他部員との研鑽を行っているかどうか。・生徒会・クラブ活動の実績と、その役割・苦労した点・等についての質問。
電子 制御 工学 科	A①	・好きな科目、得意な科目はなんですか、その科目のどのようなところが好きですか? 数学は好きですか?・科学でどんなものにも興味をもっていますか、なぜそれに興味を持ちましたか? たとえば、発電に関して知っていることは何かありますか?・わからないことがあったとき、どのようにして調べますか?
	A②	・ものづくりは好きですか?・どのようなものを作ったことがありますか? たとえば、ハンダ付けで何かモノを作ったことはありますか?
	A③	・部活動は何をしましたか?その部活動ではどのような役割をしましたか?・特別活動で何かしましたか?その活動ではどのような役割をしましたか?・ボランティアには興味ありますか?ボランティアで何かしましたか?どのような活動か、もう少し詳しく話してください。
物質 工学 科	A①	・最近読んだ科学関連の本の内容を説明してください。・最近のニュースで気になるものを挙げて、説明してください。
	A②	・理科の実験は好きですか。・グループで実験をやるときのあなたの役割を説明してください。 ・この実験器具(実際の化学実験器具を見せながら)の使い方を想像して、それを説明してください。
	A③	・部活動では活躍しましたか。・部活動でのあなたの役割を説明してください。・ボランティア活動をしたことがあれば、それについて話してください。
建 築 学 科	A①	・実際に見た建物とその感想。・力の釣合計算。・モノの強さや重心の考え方。
	A②	・立体物の想像力と表現力。・道具や材料の使い方・測り方と説明力。
	A③	・最近のニュースで関心のある事柄や職業や資格について・中学時代の力を注いだこと(クラブ活動や委員)。 ・自己PR。

(出典：入試面接調査)

資料 4-2-①-2 : 準学士課程入学者選抜方法

A. 推薦選抜

選抜方法

面接及び調査書の総合判定により合格者を選考する。ただし、面接と調査書の配点比率は、面接点 %、調査書 %とする。

※補足

①調査書の評定合計点の算出について

調査書の評定合計点は、1年、2年及び3年の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科を対象とし、数学、理科および英語を傾斜配点（評定点を 倍する）して算出する。

B. 学力選抜

選抜方法

学力試験（国語、社会、数学、理科、英語）の成績および調査書により選抜する。

学力試験の配点（数学、理科および英語は、 倍する傾斜配点とする）は、数学（ 点）、理科（ 点）、英語（ 点）、国語（ 点）、社会（ 点）の計 点満点とする。

また、調査書の評定合計点は、1年、2年及び3年の国語、社会、数学、理科及び英語の5教科を対象とし、数学、理科および英語を傾斜配点（評定点を 倍する）して算出する。

従って、学力試験と調査書の配点比率は、学力試験 %、調査書 %となる。

（出典：平成19年度入試関係説明資料）

資料 4-2-①-3 : 編入学者選抜方法

1. 編入学試験について

学力検査科目は、専門科目、数学及び英語の3教科とし、その得点は、専門科目 点、数学 点、英語 点、合計 点満点とする。学力検査の出題範囲は、高等学校の指導要領の範囲とし、具体的な出題範囲については平成19年度編入学者募集要項を参照のこと。

合否の判定は、学力検査の得点（満点 点）を最優先し、面接の結果を参考に行う。

（出典：平成19年度高等学校訪問資料）

資料 4-2-①-4：入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接質問内容(編入学者選抜)

【編入学者選抜試験】

小山高専の入学者受け入れ方針（編入学）

- T① 自然科学及び工業技術に対する興味・関心が高く、その基礎学力を有し、学ぶ意欲がある人
- T② モノづくりに対する関心が高く、自らのアイデアで、主体的に取り組める人
- T③ 日本語及び英語の基礎学力を有し、自分の考えを伝えることのできる人

入学者受け入れ方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

	項目	質問内容
機械工学科	T①	・本校を志望した理由、学科を志望した理由について説明してください。・得意な教科、興味のある教科について説明してください。・数学、理科（物理）は得意ですか。・高専に編入学してどのような学習をしたいですか。・将来どのような仕事に就きたいですか。
	T②	・高校時代のモノづくり体験について説明してください。・高校時代にどのような実習や製図を行ってきましたか。・高校時代にどのような部活動や課外活動を行ってきましたか。・将来、どのような機械を設計、またはつくってみたいですか。
	T③	・最近の内外のニュースで関心をもっているものについての質問から、日本語で自分の考えをしっかりと伝えることが出来るかを判断。・編入するに当たり他者とのコミュニケーションを自ら取ることが出来ますか。・英語は得意ですか。
電気情報工学科	T①	・高専で勉強したい科目・分野についての質問、またその分野・科目に興味を持った理由は何か。・意欲的に勉学に取り組めるか。・試験で実力が出せたか。出せなかったとしたらその理由は何か。
	T②	・実験・実習（その他のこと）において自分自身で創意・工夫した点があるか。・高校の専門科目で何に力を注いで勉強したか。・実験と講義とどちらが好きか。
	T③	・小山高専の本学科を志望した動機について述べよ。・高専を卒業した後の進路・将来の仕事への希望について述べよ。・他大学などを受ける予定があるか。どちらも合格した場合、どのように判断するか。
電子制御工学科	T①	・好きな科目、得意な科目はなんですか、その科目のどのようなところが好きですか？・数学は好きですか？・科学でどんなものに興味をもっていますか、なぜそれに興味を持ちましたか？・わからないことがあったとき、どのようにして調べますか？
	T②	・ものづくりは好きですか？・どのようなものを作ったことがありますか？ 苦労したところは、どのような点ですか？
	T③	・今の勉強を将来どのように活かしていきたいと考えていますか？・将来はどのような職業につきたいですか？
物質工学科	T①	・化学実験は好きですか。・どのような化学実験が記憶に残っていますか。
	T②	・化学実験を行ったときに、いつもどのような点に気をつけますか。・新しいことを発明したいと思いませんか。それはどのようなことですか。
	T③	・作文は得意ですか。・実験レポートまとめることは苦になりませんか。・研究発表の経験はありますか。
建築学科	T①	・得意科目、好きな科目。・今までの数学・物理に対する取り組み方と今後の対応の仕方。・本校で学びたい科目。・クラブ活動について。
	T②	・最近見学した建築物とその感想。・高校で自ら作成した物についての感想。
	T③	・数学検定、英語検定を受けているか。・何級を持っていますか。・最近のニュースで関心のある事柄は。

(出典：入試面接調査)

資料 4-2-①-5：入学者受入方針と入学者選抜試験時の面接質問内容(専攻科課程入学者選抜)

【専攻科課程入学者選抜試験】

小山高専の入学者受け入れ方針（専攻科課程）

- S① 工学に対する関心が高く、工学についての基礎学力と自然科学についての学力を有し、自ら学ぶ意欲がある人
- S② モノづくりに対する関心が高く、体験してきた人
- S③ 学んだことを自らのことばで伝えることのできる日本語の能力、および英語の基礎学力を有している人

入学者受け入れ方針と入学者選抜試験時の面接質問内容

項目	質問内容	
電子システム テム 工学専攻	S①	・将来、どのようなエンジニアになりたいか。・システムの安定化法について説明しなさい。・青色発光ダイオードの独創性について知っていることを述べなさい。・『特別研究』にどのように取り組むのか。・自然科学、工学の中でどのような科目・分野に興味がありますか？・ものの仕組みに興味はありますか？たとえば、デジタルカメラはどのような仕組みですか？
	S②	・モノづくりに興味をもっていることを述べなさい。・日本のモノづくり技術はこれから先どうなるだろうか。・インターンシップ、知っていますか、経験しましたか。・これまでにどのようなものを作ってきましたか？ 苦労した点、工夫した点はなんですか？・卒業研究では、どんなものを作るのですか？
	S③	・小論文は筋道たてて書きましたか。・口語調、文語調、わかりますか。・人前で話すことに慣れていますか。・英語についてアレルギーはありませんか。・卒業研究でどのようなことを行っていますか？・今の勉強を将来どのように活かしていきたいと考えていますか？ 将来はどのような職業につきたいですか？
物質 工学専攻	S①	・なぜ専攻科を受験しようと思ったのか説明してください。 ・専攻科に入ってから研究したいことを説明してください。
	S②	・本学専攻科を志望した理由 ・専攻科入学後の特別研究のテーマ。
	S③	・卒業研究のテーマと内容の概要について説明してください。 ・小論文で書いた内容の概要を説明してください。
建築 工学専攻	S①	・得意科目、好きな科目。・本科での成績。 ・卒業研究の内容。
	S②	・最近見学した建築物とその感想。・高専で自ら作成した物についての感想。
	S③	・最近の内外のニュースで関心を持った事柄

(出典：入試面接調査)

現地閲覧資料 4-1：専攻科課程入学者選抜方法

非公開資料

(出典：平成19年度専攻科入学者学力選抜検査合格の判定について)

(分析結果とその根拠理由)

入学者受入方針に沿う選抜検査を実施するために、準学士課程の学力選抜においては、試験科目の点数および調査書の評価について「傾斜配点」を行い、推薦選抜では、面接時の質問内容に入学者受

入方針を反映させている。編入学試験では、試験科目および面接時の質問内容に入学者受入方針を反映させている。また、専攻科課程の推薦選抜と学力選抜については、面接時の口頭試問および小論文試験の内容に入学者受入方針を反映させている。以上のように、本校では、入学者受入方針を反映させた入学者選抜方法が採用され、適切に実施されている。

観点 4-2-②： 入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証しており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者受入方針に沿った学生の受入についての検証は、新入生対象のアンケート調査によって行っている。まず、入学者受入方針の周知については、5段階評価で準学士課程入学生および専攻科課程入学生がともに3.3を示し、3以上の評価点を得ている。また、新入生が入学者受入方針にあてはまる人物であるかの自己評価アンケート結果は、入学者受入方針の3項目について5段階評価で概ね3点台後半の数字を示し、新入生が入学者受入方針に沿う資質を身につけていることを検証している（資料4-2-②-1）。

入学者選抜検査制度を検証し改善するために、入学者対策室が設置されている。毎年4月から入試制度の問題点、推薦選抜による入学者の成績に関する追跡調査などについて段階的に検討している（資料4-2-②-2）。さらに、入学者対策室と教務委員会の両方で前年度の検証・反省を活かして改善策を検討している（資料4-2-②-3）。

資料 4-2-②-1：入学者受入方針周知および検証のアンケート結果

■平成19年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果集										《準学士入学生全体・集計》			様式1-新入生対象		
質問内容	とても満足	満足	普通	あまり満足しない	全く満足しない	回答数	合計	平均	標準偏差	■全くその通りである	■かなりその通りである	■普通	■あまりその通りでない	■全くその通りでない	
I. 教育目標										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
小山高専の教育目標を知っていますか。										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
1 授業で最初と人間で説明が聞かれています。	75	53	64	7	2	3	204	3.96	4.00						
2 「専門的な知識」獲得は入学生が科学技術の発展に貢献できることである。	28	44	98	23	8	3	204	3.30	3.34						
3 以下の目標を知っています。 ① 専門的な知識の獲得、② 専門知識の活用による発展 ③ 国際的な活躍、④ 高度な専門知識の獲得による発展 ⑤ 高度な専門知識の活用による発展、⑥ 国際的な活躍による発展	22	43	90	38	8	3	204	3.16	3.18						
II. 入学者受入方針										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
小山高専の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を知っていますか。										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
4 準学士課程(情報)の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を知っています。 ① 専門知識の獲得による発展、② 国際的な活躍 ③ 高度な専門知識の活用による発展、④ 国際的な活躍による発展	25	68	74	24	13	0	204	3.33	3.25						
5 専攻科の入学者受入方針(アドミッション・ポリシー)を知っています。 ① 専門知識の獲得による発展、② 国際的な活躍 ③ 高度な専門知識の活用による発展、④ 国際的な活躍による発展	14	35	75	42	31	4	204	2.80	2.86						
学科(準学士課程)の入学者受入方針の項目にあてはまる人物ですか。										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
6 自然科学に興味があり、進修が好きな方の人	61	64	67	4	5	3	204	3.86	3.86						
7 応用ITや実験が好きで、最新のITやITで、積極的に取り組める人	59	67	62	9	3	4	204	3.85	3.85						
8 応用技術、特別活動、ボランティア活動などで活躍し、実践力がたまり、仲間づくりができる人	55	49	78	12	6	4	204	3.68	3.68						

資料 4-2-②-1 (続き)

■平成19年度 小山高専の教育に関するアンケート集計結果■										《専攻科入学生全体集計》			様式1：新入生対象		
質問内容	全く反対である	多少反対である	普通	多少賛成である	全く賛成である	無回答	合計	平均	標準偏差	■全くその通りである	■かなりその通りである	■普通	■あまりその通りでない	■全くその通りではない	
I. 教育目標										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
小山高専の教育目標を聞いていますか。										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
1 目標が明確で取り組んでいくべきだと感じています。	17	8	4	0	0	0	29	4.45	4.02						
2 「専門的な心算」・「豊かな人間性」・「科学的思考力」を身に付けてほしい。	6	11	9	1	2	0	29	3.62	3.34						
3 以下の目標を達成してほしい。	4	9	10	4	2	0	29	3.31	3.18						
II. 入学支援										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
小山高専の入学支援方針(入学支援センター)を知っていますか。										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
4 学校説明会・個別相談・入学支援センターのホームページを知っています。	1	9	10	5	4	0	29	2.93	3.28						
5 専攻科の入学支援センターのホームページを知っています。	2	12	9	4	2	0	29	3.28	2.86						
専攻科入学生支援の入学支援方針の項目においてはある人物ですか。										0% 20% 40% 60% 80% 100%					
6 工学に対する関心が高く、工学についての調査力と自由科学についての学力が高い。自分の夢を持っている人	8	12	8	1	0	0	29	3.93	3.93						
7 専攻科に対して関心が高く、行動してきた人	11	8	6	4	0	0	29	3.90	3.90						
8 専攻科の特色をしっかりと把握していることと併せて、自身の能力、および英語の学習力を持っている人	5	7	8	7	1	1	29	3.29	3.29						

(出典：アンケート結果 (一部抜粋))

資料 4-2-②-2：平成17年度入学者対策室の活動まとめ

1. 入学者対策室会議

第1回 日時 平成17年4月28日(木)

- 議題
1. 中学校訪問について
 2. 高校訪問について
 3. その他

第2回 日時 平成17年6月7日(火)

- 議題
1. 推薦選抜のあり方について
 2. Q&Aの作成について
 3. その他

第3回 日時 平成17年6月27日(月)

- 議題
1. Q&Aの作成について
 2. 推薦入試の追跡について
 3. 合同説明会・学校紹介応募状況について
 4. その他

第4回 日時 平成17年9月6日(火)

- 議題
1. 平成18年度入試判定基準について
 2. 平成19年度入試について

資料 4-2-②-2 (続き)

3. その他

第 5 回 日時 平成18年 1 月 23 日 (月)

- 議題
1. 入学選抜に関わる情報の開示について
 2. 学校案内のパンフレットの作成について
 3. 来年度のスケジュールについて
 4. その他

2. 中学校訪問について

第 1 回訪問中学校数 (6/6~9/20) 121校 (29名)

第 2 回訪問中学校数 (11/8~12/19) 80校 (15名)

3. 高等学校訪問について

訪問高等学校数 (6/6~7/15) 33校 (10名)

4. 入試説明会・学校説明会、入試相談コーナー、高専合同説明会

別紙の通り

5. 学校案内パンフレットの作成

(出典：平成 17 年度入学者対策室の活動まとめ)

資料 4-2-②-3 : 教務委員会議事要録 (抜粋)

平成 18 年度 2 月教務委員会議事要録

日 時 平成 19 年 2 月 7 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 10

場 所 管理棟 301 ゼミ室

出席者 瀧澤・川上・須甲・胸組・上村・小野・伊澤・千田・笠原・糸井・高橋(大)
川本・新井・(小林<悟>)

議 事

[審議事項]

5. 入試制度の見直しについて

瀧澤校長補佐(教務担当)より資料に基づき説明があり、来年度(H20 年度)募集要項から 1 中学校あたり各学科につき 2 名までとする推薦の制限を廃止する案と、今後検討すべき入試制度の見直しについて各科の意見を次回の委員会で検討することとなった。

(出典：平成18年度教務委員会議事要録より抜粋)

(分析結果とその根拠理由)

毎年の入学者対策室会議および教務委員会において必ず前年度の反省が行われ、その結果を踏まえて改善策が議論されており、入学者受入方針に沿う学生の受入について検証し改善する取り組みがなされている。

観点 4-3-①： 実入学者数が、入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況になっていないか。また、その場合には、これを改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

(観点に係る状況)

準学士課程の入学定員は各学科とも40名で、全学科合計の定員は200名である。また、専攻科の入学定員は、電子システム工学専攻12名、物質工学専攻4名、建築学専攻4名である。

準学士課程においては、最近5年間で選抜試験の合格者数と実入学者数は一致しており(資料4-3-①-1)、入学者数の適正化が図られている。したがって、合格者が入学定員を大幅に超える、又は大幅に下回る状況にはなっていない。

専攻科課程において一部の専攻の実入学者数が定員を超えているものの、教育上の支障はなく修了状況、修了者の就職および大学院進学状況はそれぞれ良好である(資料4-3-①-2~5)。

資料 4-3-①-1：準学士課程入学志願者数、合格者数

小山高専入学者選抜検査志願者数及び合格者数一覧(平成15年~19年度入学生)

<学 科 別>

年度	平成19年度		平成18年度		平成17年度		平成16年度		平成15年度	
学科名	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数	志願者数	合格者数
機械工学科	82	40	80	40	116	40	77	40	102	40
	39	12	37	12	52	12	29	12	54	12
電気情報工学科	58	40	90	40	84	40	89	40	77	40
	24	12	37	12	33	12	47	12	43	12
電子制御工学科	79	40	78	41	92	41	99	40	93	40
	41	12	46	13	42	13	40	12	50	12
物質工学科	60	40	102	40	74	40	76	40	59	40
	30	12	47	12	32	12	26	12	32	12
建築学科	76	40	75	40	67	40	90	40	70	40
	40	12	36	12	35	12	39	12	35	12
合 計	355	200	425	201	433	201	431	200	401	200
	174	60	203	61	194	61	181	60	214	60

合格者は、第2志望による合格者を含む * 合格者数と入学者数は同数
下欄は、推薦選抜検査で内数

(出典：小山高専準学士課程入学志願者数、合格者数調べ)

資料 4-3-①-2 : 専攻科志願者数、合格者数及び入学者数

専攻科志願者数、受験者数、合格者数及び入学者数（平成15～19年度入学生）

年度	専攻 区分	電子システム工学 定員 12名				物質工学 定員 4名				建築学 定員 4名				計 定員 20名							
		推薦	学力	社会	二次計	推薦	学力	社会	二次計	推薦	学力	社会	二次計	推薦	学力	社会	二次計				
15	志願者	6	23	1	0	30	2	5	2	0	9	2	10	0	0	12	10	38	3	0	51
	合格者	6	11	1	0	18	2	3	2	0	7	2	8	0	0	10	10	22	3	0	35
	入学者	6	7	1	0	14	2	2	2	0	6	2	2	0	0	4	10	11	3	0	24
16	志願者	1	11	1	6	19	4	3	0	0	7	4	5	0	0	9	9	19	1	6	35
	合格者	1	8	1	5	15	4	1	0	0	5	4	4	0	0	8	9	13	1	5	28
	入学者	1	5	0	5	11	4	1	0	0	5	4	2	0	0	6	9	8	0	5	22
17	志願者	10	12	1	0	23	4	2	0	0	6	4	5	0	0	9	18	19	1	0	38
	合格者	10	7	1	0	18	4	2	0	0	6	4	4	0	0	8	18	13	1	0	32
	入学者	10	2	1	0	13	4	2	0	0	6	4	2	0	0	6	18	6	1	0	25
18	志願者	4	11	1	5	21	3	6	0	3	12	4	6	0	1	11	11	23	1	9	44
	合格者	4	10	1	3	18	3	3	0	2	8	4	3	0	1	8	11	16	1	6	34
	入学者	4	4	1	3	12	3	2	0	2	7	3	1	0	1	5	10	7	1	6	24
19	志願者	11	18	0	—	29	7	2	0	—	9	4	6	1	—	11	22	26	1	—	49
	合格者	11	12	0	—	23	7	2	0	—	9	4	3	1	—	8	22	17	1	—	40
	入学者	11	5	0	—	16	7	1	0	—	8	4	1	1	—	6	22	7	1	—	30

(出典：小山高専専攻科課程入学志願者数、合格者数及び入学者数調べ)

資料 4-3-①-3 : 専攻科修了者数

専攻科修了者数（平成14～18年度修了者）

年度	専攻	電子システム工学 定員 12名	物質工学 定員 4名	建築学 定員 4名	計 定員 20名
14	修了者数	9	3	4	16
15	修了者数	15	4	3	22
16	修了者数	14	5	4	23
17	修了者数	11	5	6	22
18	修了者数	11	6	6	23

(出典：小山高専専攻科課程修了者数調べ)

資料 4-3-①-4 : 修了生の就職先一覧

平成17年度、18年度専攻科修了生の就職先一覧

就職先	平成17年度				平成18年度			
	SS	SC	SA	計	SS	SC	SA	計
SPAN設計			1	1				
アークテック	1			1				
アルパイン技研					1			1
カゴメ						1		1
菊池歯車						1		1
キャノンファインテック					1			1
グローリー工業	1			1				
小松製作所	1			1				
コマツ小山					1			1
サンテクノロジー					1			1
小の花工務店							1	1
大建設計			2	2			1	1
高岳製作所	1			1				
チノー					1			1
中外製薬		1		1				
デザインネットワーク					1			1
栃木セキスイハイム							1	1
納谷建築設計事務所			1	1				
日建アクトデザイン							1	1
日本色材工業研究所		1		1				
野村建設工業			1	1				
パナホーム北関東							1	1
日立化成工業		1		1	1	1		2
ヒタチハウス			1	1				
船井電機					1			1
平安建設							1	1
堀場エステック					1			1
三井金属工業	1			1				
山田製作所	1			1				
合 計	6	3	6	15	9	3	6	18

(出典：学生課学生係資料)

資料 4-3-①-5 : 修了生の大学院進学状況一覧

大学院進学状況一覧(年度別)

2007/5/1

大学院名		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
国立	茨城大学大学院	1 (1)	1				
	筑波大学大学院			1		1	1
	宇都宮大学大学院	1			1 (1)	4 (3)	1
	群馬大学大学院			1 (1)	1	1	
	埼玉大学大学院		1		1		
	東京工業大学大学院				1		
	長岡技術科学大学大学院	1 (1)	2 (2)	3 (3)	1 (1)		
	豊橋技術科学大学大学院						1
	北陸先端大学大学院						1 (1)
	九州工業大学大学院	1 (1)			1		
計	4 (3)	4 (2)	5 (4)	6 (2)	6 (3)	4 (1)	
私立	早稲田大学大学院			1 (1)			
	計	0	0	1 (1)	0	0	0
合計		4 (3)	4 (2)	6 (5)	6 (2)	6 (3)	4 (1)

() 内は推薦で内数

(出典：学校要覧2007p. 43)

(分析結果とその根拠理由)

準学士課程においては、入学定員と実入学者数は一致しており、適正化が図られている。専攻科課程においては、一つの専攻において入学者数が定員の2倍に達したことがあるが、教育上の支障は見られない。したがって、専攻科課程の入学定員と実入学者数との関係は概ね適正である。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・準学士課程の推薦選抜では、特定科目の「傾斜配点」の他、面接試験で数学、理科、技術に関する専門適性を評価することで、入学者受入方針に沿う学生を入学させている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準4の自己評価の概要

本校では、教育の目的に沿って準学士課程入学生、編入学生、専攻科入学生毎に明確に入学者受入方針を定めている。入学者受入方針は印刷物として配付し、あるいはホームページ上に掲載し、広く社会に公表している。また、入試説明会、学校説明会およびオープンキャンパス等において、受験希望者および将来入学の可能性のある中学生に入学者受入方針を説明している。

準学士課程の学力選抜では調査書及び試験科目の傾斜配点による評価を行い、推薦選抜では調査書の傾斜配点に加え、面接時に入学者受入方針に沿う口頭試問で評価している。編入学者選抜でも同様に面接時に入学者受入方針に沿う口頭試問で評価している。専攻科課程の学力選抜および推薦選抜では口頭試問及び小論文試験において入学者受入方針を反映させている。

それぞれの学生の受入が実際に適正に行われているかどうかを検証するためのアンケート調査を行っている。入学者対策室を設けて入学者選抜制度全般の検証を定期的に行い改善に役立てている。

準学士課程においては適正な実入学者数を確保している。専攻科課程では一部定員を上回る入学者の受入を行った例があるが、支障なく教育を実施している。

基準5 教育内容及び方法

(1) 観点ごとの分析

<準学士課程>

観点5-1-①： 教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置（例えば、一般科目及び専門科目のバランス、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

（観点到に係る状況）

本校では5学科とも準学士課程の学習・教育目標を達成するために、人間形成に重要な役割を果たす一般教養と専門科目の学習の基礎となる数学、物理などの基礎科目を低学年に多く配置し、科学技術の知識を修得させるための専門科目は高学年になるに従い増えるよう配置している。このことにより「くさび形」カリキュラムになるように編成されている。教育課程等は学則に定められ、一般科目の学年別開設単位数を資料5-1-①-1、専門の学年別開設単位数を5-1-①-2（機械工学科）、資料5-1-①-3（電気情報工学科）、資料5-1-①-4（電子制御工学科）、資料5-1-①-5（物質工学科）、資料5-1-①-6（建築学科）に示す。

準学士課程の学習・教育目標を学科ごとにまとめたものを資料5-1-①-7に示す。また、各学科の授業科目が適切に配置され体系性が保たれていることを示すため、学習・教育目標の細項目に分類した授業科目の流れを資料5-1-①-8（機械工学科）、資料5-1-①-9（電気情報工学科）、資料5-1-①-10（電子制御工学科）、資料5-1-①-11（物質工学科）、資料5-1-①-12（建築学科）に示す。

資料 5-1-①-1 : 一般科, 資料 5-1-①-2 : 機械工学科

別添第2

一般科目の学年別開設単位数 (各学科共通)

授業科目	単位数	学年別開設単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
国語	8	3	3	2			
文学	1				1		
倫理・社会	2			2			
政治・経済	2			2			
歴史	2			2			
教養学	2				2		
英語	3						
哲学	1				1		
人間と科学 I	1					1	
人間と科学 II	1					1	
基礎数学 A	4	4					
基礎数学 B	2	2					
微分積分学	4			4			
代数学・幾何学	2				2		
解析学	2					2	
線形代数学	2			2(0)	2		
一般理科	4	2	2				
化学 I	2	2					
化学 II	2	2(0)	2(0)				
保健・体育 I	9	3	2	2	2	1	
保健・体育 II	1					1	
英語 Ⅰ	10	4	3	3			
英語 Ⅱ	2			2			
英会話	2	1				1	
ドイツ語 I	2					2	
ドイツ語 II	2					2	
英語表現 I	3					3	
英語表現 II	1					1	内1単位以内
ドイツ語演習	1					1	選択
芸術(美術・音楽)	2	2					
開設単位数計	83	26	22	16	13	6	

注()内の数字は、物質工学科の場合を示す。

別添第2

機械工学科

専門科目の学年別開設単位数

授業科目	単位数	学年別開設単位数					備考
		1年	2年	3年	4年	5年	
数学 I	2				2		
数学 II	2				2		
応用物理	4				4		
機械工学基礎	1	1					
工学概論	1	1					
工学概論	2				2		
力学 I	2				2		
力学 II	2				2		
材料力学	4				4		
熱力学	2				2		
水力学	2				2		
機械工学概論	2				2		
電気工学概論	2				2		
材料力学演習	4				4		
機械製図 I	2				2		
機械製図 II	2				2		
機械設計概論 I	2				2		
機械設計概論 II	2				2		
機械設計概論 III	2				2		
機械設計法 I	2				2		
機械設計法 II	2				2		
入力・出力デバイス実習 I	2				2		
機械工学実習 I	2				2		
機械工学実習 II	2				2		
工作実習	9	3	3	3			
機械力学	2				2		
製造工学	2				2		
数値解析	2				2		
計測工学	2				2		
材料力学	2				2		
流体機械	2				2		
熱伝達	2				2		
伝熱工学	2				2		
生産工学	2				2		
技術英語	1				1		
工学概論	1				1		
卒業研究	11					11	
専門科目開設単位数	89	7	11	17	21	41	
一般科目開設単位数	83	26	22	16	13	6	
開設単位数計	172	33	33	33	34	47	

注()内の数字は、機械工学科の場合を示す。

講義：1単位＝授業1時間＋自学自習3時間

演習：1単位＝授業1時間＋自学自習1時間

実験・実習：1単位＝授業1時間

なお、この欄が1日の科目は選択単位の科目を示す。

(出典：平成18年度学生便覧p. 17, 18)

資料5-1-①-3：電気情報工学科

電気情報工学科(2-2) 専門科目の学年別開設単位数

区分	授業科目	学修単位の種別	単位数	学年別開設単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
Ⅰ	電気製造工学	-	2				2		4年次 他コースから 2単位履修
	電気機器工学	-	0				2		
	電気電子工学	-	2						4年次 他コースから 2単位履修
	電気情報工学	-	2						
	電気システム工学	-	2						
	電気法規	-	1					1	
	電気工学基礎	実務	4					2	
	電子計算機	-	2					2	
	マイクロニクス	-	2					2	
	情報理論	-	2					2	
マルチメディア工学	講義	2					2		
情報ネットワーク論	-	2					2		
Ⅱ	画像工学	-	1					1	4年次 他コースから 2単位履修
	情報工学実務	実務	4					2	
	電子デバイス工学	-	2					2	
	電子物性	-	2					2	
	電気材料	-	2					2	
	新媒田誘電計	-	2					2	
	デジタル回路	-	2					2	
	情報デバイス工学	-	1					1	
	電気工学基礎	実務	4					2	
	電気情報工学実務	実務	2					2	
専門科目開設単位数				119	7	11	17	37	52
一般科目開設単位数				53	24	23	18	13	6
開設単位数計				202	33	33	35	45	58

注1：学修単位の種別について 講義：1単位-授業1時間10分×10科目/時間
 実務：1単位-授業20時間10分×10科目/時間
 実験：1単位-授業15時間
 実務：1単位-授業10単位時間
 なお、この欄が1印の科目は履修単位：1単位-授業10単位時間

電気情報工学科(2-1) 専門科目の学年別開設単位数

区分	授業科目	学修単位の種別	単位数	学年別開設単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
Ⅰ	数学統計	-	2						継続
	応用数学	-	2						
	応用物理	-	4				2		
	電気情報工学実務	-	2						
	電気電子回路	-	2						
	情報工学Ⅰ	-	3						
	電子情報工学	-	1						
	電気技術実	-	1						
	電気電子工学講習Ⅰ	-	1						
	電気電気Ⅰ	-	4				2		
Ⅱ	電気回路Ⅰ	-	4				2		
	情報工学Ⅱ	-	2						
	電気制御Ⅰ	-	1						
	電気工学	-	2						
	電気工学	-	2						
	電子回路	-	2						
	電子回路	-	2						
	情報工学Ⅲ	-	1						
	電気工学Ⅱ	-	1						
	電子デバイス工学	-	2						
Ⅲ	電気情報工学実務	実務	2						
	情報工学	-	2						
	マイクロニクスⅡ	-	2						
	応用数学Ⅱ	-	1						
	電気情報工学Ⅱ	-	1						
	人工知能	講義	2						
	生体工学	-	1						
	環境気候	-	1						
	応用計測	講義	2						
	電気電子工学講習Ⅱ	-	1						
卒業実習Ⅱ	講義	2							
卒業研究	-	10							

(出典：平成18年度学生便覧p. 19, 20)

資料 5-1-①-4: 電子制御工学科

電子制御工学科 (2-2) 専門科目の学年別開設単位数

Table showing the number of units per year for various subjects in the Electronic Control Engineering Department. Includes subjects like Software Engineering I-II, Hardware Engineering I-II, and Control Engineering I-IV. Total units: 455.

注) **印は5年次選修科目を示す。
注2) **A, **Bは内1単位選別。
注3) 単位は1単位=授業日時間。
なお、この欄が1の科目は1単位=授業日時間

電子制御工学科 (2-1) 専門科目の学年別開設単位数

Table showing the number of units per year for various subjects in the Electronic Control Engineering Department. Includes subjects like Basic Mathematics, Applied Mathematics, Applied Physics, and Applied Chemistry. Total units: 455.

(出典: 平成18年度学生便覧p. 21, 22)

資料 5-1-①-5 : 物質工学科

物質工学科(2-2) 専門科目の学年別開設単位数

区分	授業科目	必修単位の 種類	単位数	学年別配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
Ⅰ	材料工学	-	2				2		
	化学装置工学	-	2				2		
	高分子材料	-	2					2	
	表面工学	講義	2					2	
	工業材料	-	2				2		
	材料化学実験	-	4				4		
	材料化学実験	実験	2					2	
	微生物工学	-	2				2		
	除染工学Ⅰ	-	1				1		
	除染工学Ⅱ	-	1				1		
Ⅱ	生物有機化学	講義	2					2	
	生物反応工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
	細胞・遺伝子工学	-	2					2	
Ⅲ	材料工学	-	2						
	物理合成化学	-	2						
	反応工学	-	2						
	生物装置工学	-	2						
	プロセス工学	-	2						
	英語科学	講義	2						
	英語科学	講義	2						
	英語科学	講義	2						
	英語科学	講義	2						
	英語科学	講義	2						
専門科目開設単位数				98	7	11	17	23	30
一般科目開設単位数				83	26	22	16	13	6
開設単位数合計				181	33	33	33	36	36

注1) 学年単位の種類について
 講義：1単位＝授業15時間＋自学自習20時間
 実習：1単位＝授業30時間＋自学自習15時間
 実験：1単位＝授業45時間
 なお、この欄の1日の科目日は開校単位：1単位＝授業30単位時間

物質工学科(2-1) 専門科目の学年別開設単位数

区分	授業科目	必修単位の 種類	単位数	学年別配当単位数					備考
				1年	2年	3年	4年	5年	
Ⅰ	数学統計	-	2						
	応用数学	-	1						
	応用物理	-	3				1	2	
	第1回	-	2	2					
	物質工学入門	-	2	2					
	基礎化学	-	2	2					
	分析化学	-	1	1					
	有機化学	-	3	1	2				
	無機化学	-	1	1					
	生物化学	-	2	2					
Ⅱ	化学熱力学	-	1					1	
	物理化学	-	2					2	
	生物工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
	化学工学	-	2					2	
Ⅲ	化学工学	-	1						
	化学工学	-	1						
	化学工学	-	1						
	電子情報工学	-	1						
	電子工学	-	1						
	分子運動論	-	1						
	統計分析Ⅰ	-	1						
	統計分析Ⅱ	-	1						
	高分子化学	-	1						
	高分子化学	-	1						
Ⅳ	工業化学	-	2						
	工業化学	-	2						
	環境化学	-	1						
	天然物化学	-	1						
	北学英語	-	1						
	北学英語	-	3						
	北学英語	-	3						
	電子計算機実習	-	3						
	化学基礎実習	-	3						
	分析化学実習	-	2						
物質工学実習	-	4							
総合工学実習	-	2							
卒業研究	-	18						18	

(出典：平成18年度学生便覧p. 23, 24)

資料5-1-①-7：準学士課程の学科ごとの教育目標

＜一般科の教育目標＞

一般科が主に担当する教育の中では、人間形成に必要な思考力、倫理的判断力や感性を育むと共に、各専門学科での教育に対する準備としての基礎学力を修得させる。これにより大学教養課程レベルの知識を養い、さらに、卒業後に技術者として継続的に学習をするために必要な基礎力（文章構成力、社会への正しい認識力、専門に適合した数理的能力、国際的コミュニケーション能力等）を養うことに重点をおいた教育を行う。

＜機械工学科の教育目標＞

ロボットやエンジンなどの機械と、機械を含むさまざまなシステムの設計・製造・制御などの分野で、実践的に活躍できる技術者の育成を目標としている。そのため、数学、物理などの基礎科目と機械工学の主要科目の連携による基礎学力の養成、工作実習や機械設計製図、機械工学実験を通じての技術力の錬磨、応用科目を通してのプロセス把握能力の教授を行う。卒業研究や輪講などを通して科学の研鑽と創造力の育成を目指す。

＜電気情報工学科の教育目標＞

電気情報工学の基礎知識について、演習を含めたスパイラル教育により修得させる。高学年では電気・電子・情報分野の3コースを設置し高度な専門知識を修得させる。ものづくりを主眼とするプロジェクトワーク・コース別実験・卒業研究等を通じて、創造力・問題解決能力・コミュニケーション能力に優れた実践的技術者の育成を目指す。

＜電子制御工学科の教育目標＞

専門基礎科目を通じて本学科導入教育を行い基礎学力の充実を図る。専門科目では基礎学力を補完し専門分野の知識技術を修得させる。専門応用科目では電子・計測・制御・情報分野の既存知識と最新知識を修得させ、卒業研究、輪講を通じて自立能力、解決能力、創造能力、発表能力、実践能力等の育成を目指す。

＜物質工学科の教育目標＞

新素材、化成品、生体物質等の関連分野で活躍する人材の育成を目指す。専門基礎、実験科目により化学と工学の基礎を修得させ、その上に材料や生物の専門的内容を選択させて、関連する学力の向上を図る。最終学年では、教員の直接指導により、発表能力を向上させ創造的な卒業研究の完成を目指す。

＜建築学科の教育目標＞

低学年からの実習を通じて建築学の基本を修得させ、建築学と工学の基礎学力の向上のみならず、プロジェクトの企画能力の育成を目指す。高学年では専門基礎科目の修得の重要性を強く認識させ、最終学年の卒業研究を通じて、建築学の諸分野において活躍できる、創造性と問題解決能力およびコミュニケーション能力を有する実践的技術者の育成を目指す。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5 - 1 - ① - 8 : 機械工学科

	1年	2年	3年	4年	5年
①豊かな 涵養 の 人間性	地理 芸術(美術・音楽)	→ 政治・経済	→ 倫理・社会 → 歴史	→ 哲学 → 歴史学 } → 歴史学 }	→ 人間と科学 I (選択) → 人間と科学 II
②豊かな 創造力 の 感性	工作実習 機械製図	→ 工作実習 → 機械製図	→ 工作実習 → 機械設計製図 I	→ 機械工学実験 I → 機械工学実験 II → 輪講 → 機械設計製図 II	→ 卒業研究 → メカトロニクス実験 → 工学演習 → 機械設計製図 III
③自然 科学・英 語の 基礎学 の 向上	基礎数学A 基礎数学B 一般理科 物理 化学 I 英語 I	→ 微分積分学 → 代数学・幾何学 → 物理 → 化学 II → 英語 I → 英語 II	→ 解析学 → 線形代数学 → 応用物理 → 英語 I	→ 確率統計 → 応用数学 → 応用物理	→ 数理工学
④各専門 分野に 関する 高度な 知識と 豊かな 感性の 育成	機械工学基礎 工業数理	→ 工業力学 I → 機械工作法	→ 工業力学 II → 材料力学 → 材料学 → 機械工作法 → 機械設計法 I	→ 材料力学 → 機械設計法 II 熱力学 水力学	→ 機械力学 → 材料力学演習 → 材料強度学 → 制御工学 → 計測工学 → 生産工学 → 熱機関 → 伝熱工学 → 流体機械 技術論
⑤情報 技術の 向上		情報処理		→ 電気工学概論	→ 電子工学概論 → 数値解析
⑥国際 感覚の 育成	国語 英会話 保健・体育 I	→ 国語 → 英会話 → 保健・体育 I	→ 国語 → 英会話 → 保健・体育 I	→ 文学 → 英語演習 I → ドイツ語 I → ドイツ語 II → 保健・体育 I	→ 英語演習 II → ドイツ語演習 → 保健・体育 I → 保健・体育 II

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5 - 1 - ① - 9 : 電気情報工学科

本科	1年	2年	3年	4年	5年
① 人間性の豊かな	地理 芸術	→ 政治・経済	倫理・社会 歴史	哲学 歴史学	人間と科学Ⅰ(1選択) 人間と科学Ⅱ(1選択)
② 個性の育成と豊かな創造力感	電気情報工学実験 電気電子製図	→ 電気情報工学実験 電気技術史	電気情報工学実験 プロジェクト・ワーク	電気情報工学実験 電磁工学実験 情報工学実験 物性工学実験	卒業研究 電磁工学実験(選択) 情報工学実験(選択) 物性工学実験(選択)
③ 自然科学・英語・専門基礎学力の向上	基礎数学A 基礎数学B 一般理科 物理 化学Ⅰ 英語Ⅰ 電気情報工学大系	→ 微分積分学 代数学・幾何学 → 物理 → 化学Ⅱ → 英語Ⅰ → 英語Ⅱ 電気電子工学演習Ⅰ → 電気回路学Ⅰ → 電気磁気学Ⅰ 電子情報工学	解析学 線形代数学 応用物理 → 英語Ⅰ → 電気回路学Ⅰ → 電気磁気学Ⅰ 電子回路 電子工学 → 電気計測	→ 確率統計 → 応用数学 → 応用物理 → 電子回路 → 電子計測	工業英語 → 電気電子工学演習Ⅱ
④ 各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成				電気回路学Ⅱ 電磁伝送工学 電子計算機 電子デバイス工学 電子物性 電気機器工学 制御工学 メカトロニクス	→ 電気磁気学Ⅱ → 電磁波工学 → 信号処理 → 人工知能 → デジタル回路 → 集積回路設計 → 情報理論 → マルチメディア工学 → 情報ネットワーク論 → 画像工学 → 情報デバイス工学 → 電気材料 → 光応用計測 生体工学 → 電磁エネルギー工学 → 電力システム工学 → 電磁環境工学 電気法規 (5年次配当科目は選択)
⑤ 技術の向上と向上	情報工学Ⅰ	→ 情報工学Ⅰ	→ 情報工学Ⅱ	→ 情報工学Ⅲ	→ 数値計算法 (5年次配当科目は選択)
⑥ 育成能力と国際感覚の向上	国語 英会話 保健・体育Ⅰ	→ 国語 → 保健・体育Ⅰ	→ 国語 → 英会話 → 保健・体育Ⅰ	→ 文学 → 英語演習Ⅰ ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ → 保健・体育Ⅰ	→ 英語演習Ⅱ → ドイツ語演習 → 保健・体育Ⅰ → 保健・体育Ⅱ (5年次配当科目は選択)

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5 - 1 - ① - 10 : 電子制御工学科

本科	1年	2年	3年	4年	5年
①豊かな人間性の涵養	地理 芸術	→ 政治・経済	→ 倫理・社会 → 歴史	→ 哲学 → 歴史学	→ 人間と科学 I (選択) → 人間と科学 II (選択)
②豊かな感性と創造力の育成	工学実験	→ 工学実験	→ 工学実験	→ 工学実験	→ 工学実験 → 輪講 I → 輪講 II → 卒業研究
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	一般理科 化学 I 基礎数学A 基礎数学B 物理 英語 I 電子制御基礎 I 電子制御基礎 II システム演習 I システム演習 II 回路工学基礎	→ 化学 II → 微分積分学 代数学・幾何学 → 物理 → 英語 I → 英語 II → 電子制御基礎 III 電子制御基礎 IV → システム演習 III システム演習 IV	→ 解析学 線形代数学 → 応用物理 I → 応用物理 II → 英語 I → 電子制御基礎 V 電子制御基礎 VI → システム演習 V システム演習 VI	→ 確率統計 応用数学 → 応用物理 III 応用物理 IV → 計測工学 I 計測工学 II → 制御工学 I 制御工学 II	→ 量子工学 → 電磁気学 I 電磁気学 II → 応用電子工学 I 応用電子工学 II → 物性工学 I 物性工学 II → デジタル工学 → 応用制御工学 I 応用制御工学 II → 制御工学 III 制御工学 IV 制御工学 V システム工学 I システム工学 II
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成		電気回路 I 電気回路 II	電磁気学 I 電磁気学 II → 電子回路 I 電子回路 II	→ 電磁気学 III 電磁気学 IV → 電気回路 III 電気回路 IV → 通信工学 I 通信工学 II → 電子工学 I 電子工学 II → 電子回路 III → 計測工学 I 計測工学 II → 制御工学 I 制御工学 II	→ 電磁気学 I 電磁気学 II → 応用電子工学 I 応用電子工学 II → 物性工学 I 物性工学 II → デジタル工学 → 応用制御工学 I 応用制御工学 II → 制御工学 III 制御工学 IV 制御工学 V システム工学 I システム工学 II
⑤情報技術の向上	コンピュータ基礎	→ 論理回路 I → 論理回路 II → プログラム I → プログラム II	→ アセンブラ コンピュータ → プログラム III プログラム IV	→ ソフトウェア工学 I ソフトウェア工学 II	→ 情報工学 I 情報工学 II → ソフトウェア工学 III ソフトウェア工学 IV
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	英会話 国語 保健・体育 I	→ 国語 → 保健・体育 I	→ 英会話 → 国語 → 保健・体育 I	→ 英語演習 I ドイツ語 I ドイツ語 II → 文学 → 保健・体育 I	→ 英語演習 II → ドイツ語演習 → 保健・体育 I → 保健・体育 II

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5 - 1 - ① - 11 : 物質工学科

	1年	2年	3年	4年	5年
① 豊かな 感性の 養成	地理 美術 音楽	→ 政治・経済	→ {倫理・社会 歴史}	→ {哲学 } 歴史学	→ {人間と科学 I 人間と科学 II}
② 豊かな 創造力 の育成	製図 化学基礎実験	→ 分析化学実験	→ 物質工学実験	→ 総合工学実験 材料化学実験 生物工学実験	→ 卒業研究 材料化学実験 生物工学実験
③ 自然科学・ 英語・ 専門基礎 学力の 向上	基礎数学 A } 基礎数学 B } 英語 I 物理 I 化学 II	→ 微分積分学 } 代数学・幾何学 } → {英語 I } {英語 II } → 物理 一般理科 化学演習 I	→ {解析学 } {線形代数学 } → 英語 I 応用物理 核化学 } → 化学演習 II	→ {確率統計 応用数学 } → 応用物理	
④ 各専門分野に 関する高度な 知識と豊かな 感性の育成		基礎化学 分析化学 有機化学 物質工学入門	→ 無機化学 → 有機化学 → 生物化学 → 物理化学 → {化学工学 } {工学概論 }	電子情報工学 → {金属化学 } 材料工学 → {機器分析 I } 高分子化学 → {酵素工学 I } 酵素工学 II 微生物工学 → {化学熱力学 } 分子運動論 量子化学 } → 化学装置工学	→ 電子材料 → {工業材料 } 機器分析 II 焼結工学 工業化学 → 物質合成化学 高分子材料 環境化学 天然物化学 → {生物有機化学 } 細胞・遺伝子工学 生物資源工学 食品化学 → 表面工学 → {生物反応工学 } プロセス工学 反応工学
⑤ 情報 技術の 向上	情報処理実習	→ 電子計算機実習			
⑥ 国際 感覚の 育成 と コミュニケーション 能力	国語 英会話 I 保健・体育 I	→ 国語 → 保健・体育 I	→ 国語 → 英会話 → 保健・体育 I	→ 文学 → 英語演習 I ドイツ語 I } ドイツ語 II }	化学英語 → 英語演習 II (選択) → ドイツ語演習 (選択) → {保健・体育 I } {保健・体育 II }

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5 - 1 - ① - 12 : 建築学科

目教習学 標育・	1年	2年	3年	4年	5年
① 性豊かな人間 の涵養	地理 芸術(美術・音楽)	政治・経済	倫理・社会 歴史	哲学 歴史学	人間と科学I 人間と科学II
② 豊かな感性と創造力 の育成	図学 建築製図I	建築製図II	インテリアデザイン 造形・意匠 建築設計I 建築材料	建築設計II 建築実験	卒業研究
③ 自然科学・英語・専門基礎学力 の向上	基礎数学A 基礎数学B 物理 化学I 一般理科 英語I 建築概論	微積分学 代数学・幾何学 物理 化学II 英語I 英語II 建築構造力学演習I 建築構造力学I 建築一般構造	解析学 線形代数学 応用物理 英語I 建築構造力学II 建築計画I	応用数学 応用物理 建築構造力学III 建築計画II	建築計画III 建築測量
④ 各専門分野に関する高度 な知識と豊かな感性の育成				鋼構造 鉄筋コンクリート構造 建築環境工学	建築構造計画 建築応用力学 木構造 建築耐震構造 建築施工 建築法規 建築設備 都市・地区計画 空間計画原論 建築ゼミナール
⑤ 向上の技術情報		情報処理I	情報処理II		
⑥ 能力と国際感覚の育成	国語 英会話 保健・体育I	国語 保健・体育I	国語 英会話 保健・体育I	文学 英語演習I ドイツ語I ドイツ語II 保健・体育I 建築史	英語演習II● ドイツ語演習● 保健・体育I 保健・体育II 現代建築論

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

低学年に一般科目の多くを配置し、高学年になるに従って専門科目を段階的に増やしていく授業配置は、中学卒業後の5年間で専門的な科学技術の知識を無理なく修得するのに適した編成となっている。

また、資料5-1-①-8~12より、各学科とも学習・教育目標の細項目を達成するのに適した体系性を持った授業科目の流れとなっている。

観点5-1-②： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他学科の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施、専攻科教育との連携等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズに応えるために、本校以外の大学・他高専における履修に関する規程が定められており、学生便覧に掲載することで学生への周知も図っている（資料5-1-②-1）。たとえば、宇都宮大学等の近隣大学との単位互換協定を実施するなどの整備を行っている（資料5-1-②-2）。さらに、長岡技術科学大学が実施しているインターネットを利用した遠隔授業（ウェブ講義）などもあげられる（資料5-1-②-3）。対象学生は準学士課程の4学年以上（専攻科課程生を含む）であり、平成18年度[1学期分]の講義に申し込んだ学生は準学士課程に在籍する17名で、[2学期分]の講義に申し込んだ学生は準学士課程に在籍する19名である。実際に受講した学生は17名である（資料5-1-②-4）。受講学生は単位認定書（資料5-1-②-1）を提出し及落判定会議で審議の上、単位が認定される。

この他にも、準学士課程の4学年以上を対象としたインターンシップについて明文化されており、学生便覧に記載されている（資料5-1-②-5）。平成18年度実施状況の資料を（資料5-1-②-6）に示す。学生の履修が増え、インターンシップの重要性が認識されている。

さらに、ある基準以上の資格を取得した学生に対しては、それを単位と認定する制度がある（資料5-1-②-7）。取得する学生も全学年にわたっている（資料5-1-②-8）。取得単位一覧表の変更調査等の依頼なども各科に随時行い、社会等のニーズを把握することに努めている（資料5-1-②-9）。

資料 5-1-②-1 : 他大学等の単位認定に関する規程

- (5) 大学、他高専における履修に係わる単位認定に関する規程
- (目 的)
- 第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第30条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校における大学、他高専における履修に係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。
- (認定の対象)
- 第 2 条 この規定において単位が認定される対象は、大学、または他高専によって単位が認定された科目であり、各学科及び校舎が認めた科目とする。
- (単位認定科目と認定の条件)
- 第 3 条 大学、他高専における履修により単位が認定された科目の認定科目名は、「特別演習（ ）」とし、認定される単位数は、大学、他高専が認定した単位数とする。
2. 当該科目の単位認定にあたっては、あらかじめ担当教員を定めて行うものとする。
3. 当該科目は、担当教員が所属する学科の科目の単位として認定される。
- (認定単位数)
- 第 4 条 認定される単位数は資格取得に係わる単位及びインターンシップに係わる単位と合わせて6単位以内とする。
- (単位認定申請)
- 第 5 条 学生は単位の認定を受けようとするときには、2月末までに成績証明書等の単位の修得を証明できる書類、またはその写しを添えて、校長に申請するものとする。
- ただし、5学年にあつては、1月末までに申請するものとする。
- (単位の認定)
- 第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議の議を経て、校長が行う。
2. 単位認定は、認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。
- ただし、上級学年への進級単位としては認めない。
- 附 則
- この規程は、平成15年4月1日から施行する。
- 解 則
- この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：平成18年度学生便覧 p. 53, 54)

校長 (代表者)	学生課長	教務部長	教務部長	学部長	学級担任

平成 年 月 日

大学、他高専における履修に係わる単位認定

小山工業高等専門学校長 殿
(所 属) 学科 年 生
(氏 名)

大学、他高専における履修に係わる単位認定に関する規程第5条に基づき、下記のとおり申請します。

記

区分	事 項
履修科目名	
単 位 数	単位
履修機関	大学
備 考	他高専

上記の科目の単位を認定します。

担当教員：所属学科

氏 名 印

- (注) 1. 成績証明書等の修得を証明できる書類を添付すること。
2. この書類は、担当教員に認定の署名をもらい、学級担任および学部長を経て提出すること。

資料 5-1-②-2 : 他大学等との単位互換に関する協議書 (1/2)

小山工業高等専門学校と宇都宮大学との間における単位互換に関する協議書

小山工業高等専門学校と宇都宮大学は、「栃木県内の高等教育機関相互における単位互換に関する協定書」に基づく単位互換の実施に関し、次の事項について合意に達したので、ここに協議書を取り交わす。

1 受け入れ

- (1) 小山工業高等専門学校の4学年及び5学年に在学する学生並びに専攻科に在学する学生が、宇都宮大学の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、宇都宮大学長は当該学生を受け入れることができる。
- (2) 宇都宮大学に在学する学生が、小山工業高等専門学校の授業科目の履修及び単位の修得を希望するときは、小山工業高等専門学校長は当該学生を受け入れることができる。
- (3) 両者が受け入れる学生は、それぞれ10名程度とする。

2 学生の身分

両者が受け入れる学生の身分は「特別聴講学生」とする。

3 履修できる授業科目の範囲及び修得できる単位数

- (1) 履修できる授業科目の範囲
両者は特別聴講学生が履修できる授業科目（以下「単位互換授業科目」という。）一覧表（別紙様式1）を作成し、シラバス及び授業時間割表等とともに前年度の3月下旬までに相手先に送付するものとする。
- (2) 修得できる単位数
特別聴講学生として、小山工業高等専門学校の4学年及び5学年の学生が宇都宮大学で修得できる単位数は6単位以内、専攻科の学生が宇都宮大学で修得できる単位数は16単位以内とし、宇都宮大学の学生が小山工業高等専門学校で修得できる単位数は当該学生の在学期間を通じて14単位以内とする。

4 出願手続等

特別聴講学生の出願手続及び受け入れの決定については、次の各号に掲げる要領により取り扱うものとする。

- (1) 派遣側は、単位互換授業科目の履修を希望する学生を取りまとめ、受入側が指定する期日までに関係書類を提出する。（別紙様式2又は受入側が指定する様式）
- (2) 受入側は、選考のうえ特別聴講学生を決定し、派遣側へ履修許可通知書（別紙様式3）及び授業科目の履修手続関係書類を併せて通知する。
- (3) 派遣側は、受入側が指定する授業科目の履修手続関係書類を指定日までに提出するものとする。

5 成績評価及び単位の認定

成績の評価及び単位の認定は、次の各号に掲げる要領により取り扱うものとする。

- (1) 受入側は、特別聴講学生として履修した授業科目について、受入側の学則等の定めるところにより成績の評価及び単位の認定を行うものとし、成績の評価及び単位の認定結果を、前期の授業科目については前期の試験終了後2週間以内に、後期の

資料 5-1-②-2 : 他大学等との単位互換に関する協議書 (2/2)

授業科目については後期の試験終了後 2 週間以内に派遣側に通知するものとする。
 ただし、卒業年次に該当する者については、派遣側の希望する日までに通知するものとする。(別紙様式 4)

(2) 派遣側は、受入側からの通知により、派遣側の学則等に定めるところにより、成績の評価及び単位の認定を行うものとする。

- 6 施設・設備の利用
特別聴講学生が履修上必要な施設・設備の利用については、便宜を供与する。
- 7 休学及び退学等の通知
派遣側は、派遣学生に休学又は退学等の身分異動が生じた場合は、受入側に通知するものとする。
- 8 授業料等
特別聴講学生の検定料、入学科及び授業料は、徴収しないものとする。
- 9 本協議書の改廃
この協議書の改廃は、小山工業高等専門学校長と宇都宮大学長との協議によるものとする。
- 10 随時協議
この協議書に定めるもののほか、運用に関し必要な事項又は疑義が生じた場合は、両者間で随時協議するものとする。
- 11 この協議書は、平成 15 年 10 月 1 日から発効し、両者間で異議が生じない限り継続するものとする。

平成 15 年 9 月 30 日

小山工業高等専門学校長

宇 都 宮 大 学 長

(出典：学生課教務係資料)

資料5-1-②-3 : eラーニング単位互換 (1/3)

校長	副校長	学長	副学長	教務部長	学生部長	事務部長

4.5年担任 各教担任
北へ渡し済

教務係 7/8(金)

長技大学第 81 号
平成18年7月11日

校長補佐(教務担当)

専攻科長

各高等専門学校長 殿

長岡技術科学大学長
小島 陽
【公印省略】

平成18年度〔2学期分〕インターネットを利用した遠隔授業(web 講義)
の実施について(依頼)

貴下ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。
 さて、本学では昨年度に引き続き、高等専門学校との連携を推進するため、全国の高等
 専門学校の学生に対し、別紙「平成18年度〔2学期分〕インターネットによる遠隔授業(web
 講義)実施要項」によりインターネットによる遠隔授業〔2学期分〕を配信することといた
 しました。
 つきましては本務御多用中の折、誠に恐縮ですが、貴校所属の学生に周知していただき、
 受講希望者がいましたら、別紙様式「平成18年度〔2学期分〕長岡技術科学大学インタ
 ーネット授業(web 講義)受講者名簿」(メールアドレスを教えてください添付ファイル
 にて送信いたします)により9月15日(金)までにご回答(FAX・Eメール可)くだ
 さるよう、よろしくお願いいたします。

本件に関する担当者

長岡技術科学大学
 教務部
 18.7.13
 第 40

(出典：学生課資料)

資料 5-1-②-3 : eラーニング単位互換 (2/3)

eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による
単位互換に関する実施要項

eラーニング高等教育連携に係る遠隔教育による単位互換に関する協定書（以下「本協定」という。）第 10 条に基づき、長岡技術科学大学、豊橋技術科学大学、九州工業大学、北陸先端科学技術大学院大学、仙台電波工業高等専門学校、福島工業高等専門学校、小山工業高等専門学校、群馬工業高等専門学校、木更津工業高等専門学校、岐阜工業高等専門学校、豊田工業高等専門学校、鈴鹿工業高等専門学校、松江工業高等専門学校、新居浜工業高等専門学校は、ここに、遠隔教育による単位互換に関する実施要項（以下「本実施要項」という。）に合意する。

1 申請資格

特別聴講学生として申請できる者は、本協定に参加する大学・高等専門学校（以下「大学・高専」という。）に在学する学生とし、科目等履修生及び研究生等の非正規学生を除く。

2 受入時期及び履修期間

- (1) 特別聴講学生の受入時期は、当該学生の履修する授業科目の開設期間の始めとする。
- (2) 特別聴講学生としての履修期間は、当該学生の履修する授業科目の開設期間とする。

3 履修科目及び単位数

- (1) 受入大学・高専は、特別聴講学生が履修できる授業科目を定め、所定の期日までに参加大学・高専に通知する。
- (2) 特別聴講学生が履修できる授業科目及び単位数の上限は、派遣大学・高専の定めるところによる。
- (3) 特別聴講学生が履修した授業科目の単位の計算については、派遣大学・高専の定めるところによる。

4 受入学生数

特別聴講学生数は、授業科目毎に受入大学・高専が決定し、所定の期日までに参加大学・高専に通知する。

5 特別聴講学生の受入手続

- (1) 特別聴講学生を希望する学生は、派遣大学・高専の定める期間内に申請手続を行う。
- (2) 派遣大学・高専は、授業科目毎に希望学生を取りまとめ、所定の期日までに受入大学・高等専門学校長へ受入依頼する。
- (3) 受入大学・高専は、所定の期日までに受入通知書を派遣大学・高専へ送付する。
- (4) 派遣大学・高専は、速やかに受入れの許可を希望学生に通知する。
- (5) 受入れを許可された学生は、所定の期日までに受入大学・高専の定める特別聴講学生の入学手続を行う。

資料5-1-②-3：eラーニング単位互換（3／3）

6 試験の実施方法

- (1) 試験の取扱い及び追試験等の実施については、受入大学・高専の定めるところによる。
- (2) 派遣大学・高専と受入大学・高専の試験日時が重複した場合は、派遣大学・高専の授業科目について追試験等の措置を講ずるものとする。

7 成績の通知及び管理

- (1) 受入大学・高専は、特別聴講学生の成績を所定の期日までに派遣大学・高専へ通知する。
- (2) 受入大学・高専は、特別聴講学生の成績原簿を保管する。

8 施設等の利用

受入大学・高専は、特別聴講学生の履修上必要な施設・設備の利用について便宜を供与する。

9 経費の負担

特別聴講学生が、授業科目を履修する上で必要となる教科書代、教材費等の個人的経費については、特別聴講学生の負担とする。

10 規則等の遵守

- (1) 特別聴講学生は、受入大学・高専の規則等を遵守しなければならない。
- (2) 受入大学・高専は、特別聴講学生が規則等に違反した場合、その身分を取り消すことができる。

11 特別聴講学生に係る通知

- (1) 特別聴講学生が履修を取り止めた場合及び派遣大学・高専を休学、退学等した場合は、派遣大学・高専は受入大学・高専へ通知する。
- (2) 特別聴講学生が履修している授業科目の日程変更等については、受入大学・高専が派遣大学・高専へ通知する。

12 その他

本実施要項に定めるもののほか、必要な事項は、本協定に参加する大学・高専間の協議により定める。

平成19年3月 / 日

長岡技術科学大学副学長

豊橋技術科学大学副学長

(出典：学生課資料)

資料 5 - 1 - ② - 4 : 遠隔授業の実施状況

平成18年度[1学期]長岡技術科学大学インターネットによる遠隔授業(Web講義)実施状況

【1学期】

受講科目名	ふりがな 学生氏名	所属学科	学年	結果	単位認定の有・無
経営情報学基礎		電子制御工学科	4	—	
経営情報学基礎		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	56	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	4	—	
経営情報学基礎		電子制御工学科	5	—	
経営情報学基礎		電子制御工学科	5	79	認定(単位数2)
情報技術基礎 I		電子制御工学科	5	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	5	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	5	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	5	—	
情報技術基礎 I		電子制御工学科	5	—	

【2学期】

受講科目名	ふりがな 学生氏名	所属学科	学年	結果	単位認定の有・無と単位数
システム思考論		物質工学科	4	28	
システム思考論		電気情報工学科	5	43	
経営情報数学 I		電気情報工学科	4	48	
経営情報数学 I		物質工学科	4	32	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	48	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	—	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	88	認定(2単位)
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	78	未申請
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	29	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	47	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	—	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	—	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	56	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	22	
経営情報数学 I		電気情報工学科	5	42	
情報技術基礎 II		電気情報工学科	5	47	
情報技術基礎 II		電気情報工学科	5	38	
情報技術基礎 II		電気情報工学科	5	37	
情報技術基礎 II		電気情報工学科	5	—	

※結果“—”はコンテンツ未履修、途中放棄

(出典：学生課教務係資料)

資料 5-1-②-5 : インターンシップ規程 (1/4)

<p>(4) インターンシップに係わる単位認定に関する規程</p>	<p>(目 的)</p>	<p>第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校(昭和40年4月1日制定)第28条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校におけるインターンシップに係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。</p>	<p>附 則 この規程は、平成10年10月1日から施行し、平成12年10月1日から適用する。</p>
<p>(認定の対象)</p>	<p>第 2 条 この規程におけるインターンシップによって単位と認定される対象は、企業、官公庁又は大学において行う実務研修並びにその他インターンシップにふさわしいと各学科長及び校長が認めたものとする。</p>	<p>(単位認定科目と認定の条件)</p>	<p>附 則 この規程は、平成15年4月1日から施行する。</p>
<p>(認定単位数)</p>	<p>第 3 条 インターンシップに対応する単位認定科目は、「特別演習()」とし、原則として6日間以上を1単位とする。また、単位認定に際しては、事前のガイダンスと事後の発表会を含むものとする。</p>	<p>(単位認定申請)</p>	<p>附 則 この規程は、平成17年1月15日から施行する。</p>
<p>(単位の認定)</p>	<p>第 4 条 認定される単位数は資格取得に係わる単位及び大学、他高等における履修に係わる単位と合わせて、6単位以内とする。</p>	<p>第 5 条 学生は、単位の認定を受けようとするときには、2月末までに修了証明書等を添えて校長に申請するものとする。</p>	<p>第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議の議を経て、校長が行う。</p>
<p>(特 則)</p>	<p>第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議の議を経て、校長が行う。</p>	<p>第 7 条 単位認定は、認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。ただし、上級学年への進級単位としては認めない。</p>	<p>第 7 条 この規程に定めるもののほか、企業又は官公庁において行う実務研修について必要な事項は別に定める。</p>

(出典：平成18年度学生便覧 p. 51, 52)

資料5-1-②-5：インターンシップ規程（2/4）

(6) 実務研修要項

(趣 旨)

第 1 条 小山工業高等専門学校定期第2条の3及びインターンシップに係わる単位認定に関する規程第7条に基づき行う実務研修は、この要項の定めるところによる。

(目 的)

第 2 条 実務研修は、企業又は官公庁において技術体験を通じて実践的技術感覚を体得させるとともに、技術体験で得たことを学修に生かすことを目的とする。

(計画・実施)

第 3 条 実務研修は、学科長及び学級担任が計画のうえ、実務研修実施計画書(様式1)を作成し、校長の許可を得て実施するものとする。

(実施の時期及び期間)

第 4 条 実務研修の時期は、原則として4年次とし、事前のガイダンスと事後の発表会を含んで原則として6日以上とする。

(経 費)

第 5 条 実務研修に要する費用は、原則として実務研修を行う学生(以下「実務研修生」という。)の負担とする。

(実施責任者)

第 6 条 実務研修を円滑に実施するため、学科長を実務責任者とする。

(指導教員の業務)

第 7 条 学級担任は、学科長の指示のもとに次の業務にあたる。

- 一 実務研修生の受入先事業所等の選定
- 二 実務研修生の受入先事業所等の実習指導者の指定
- 三 実務研修生の受入先事業所等への配属
- 四 実務研修内容、テーマ等に関する指導・助言
- 五 実務研修生における安全管理(傷害保険への加入指導を含む。)・就業心身の事前指導
- 六 実務研修中に発生した事故又は異常事態の処置及び報告

七 実務研修先事業所等との連絡調整

八 その他必要な事項

(実 施 指 導)

第 8 条 学科長又は学級担任は、必要に応じ実務研修生に対し、受入先事業所等において実地指導を行うものとする。

(報 告)

第 9 条 実務研修生は、実務研修終了後直ちに、次に掲げる書類を学級担任、学科長及び校長補佐(教務担当)を経て校長に提出しなければならない。

- 一 実務研修証明書(様式2)
- 二 実務研修報告書(様式3)
- 三 実務研修日誌(様式4)

第 10 条 所定の実務研修を修了した学生の評価は、次によるものとする。ただし、第4条に定める実務研修期間を満了しない場合は、この限りでない。

- 一 実務研修の成績は、前条に定める内容等に基づき、学級担任が総合的に判断し評価する。
- 二 評価は、台否とし、合格の場合は、実務研修の単位を認定する。

(事 務)

第 11 条 実務研修に関する事務は、学生課教務係が処理する。

(様 則)

第 12 条 この要項に定めるもののほか、実務研修に関し必要な事項は、校長補佐(教務担当)と学科長が協議し校長が定めるものとする。

附 則

この要項は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：平成18年度学生便覧 p. 55-60)

資料 5-1-②-5 : インターンシップ規程 (3/4)

様式 2

平成 年 月 日

実務研修証明書

小山工業高等専門学校長 殿

事業所名
責任者名
印

下記のとおり当所において実務研修したことを証明します。

学 校	小山工業高等専門学校	学科	第 学年
氏 名		期	平成 年 月 日
実務研修場		期	平成 年 月 日 ~平成 年 月 日 実務研修
実務研修内容			
概 要	評 価	<input type="checkbox"/> 優れている <input type="checkbox"/> 良好 <input type="checkbox"/> 普通 <input type="checkbox"/> やや劣る <input type="checkbox"/> 劣る	
	研修態度 についての 総合所見		
そ の 他 特 記 事 項	出席状況	出 席	欠 席
	今後本人を推薦するうえで参考となる事項等	日	回

平成 年 月 日

実務研修実施計画書

小山工業高等専門学校長 殿

学科名
学科長
印

別紙のとおり実務研修を実施してよろしいか伺います。

氏 名	実務研修事業場名	指導教員名

(出典：平成18年度学生便覧 p. 55-60)

資料5-1-②-5：インターンシップ規程（4/4）

様式3

学務課長 （事務担当）	学科長	学級担任
----------------	-----	------

平成 年 月 日

実務研修報告書

小山工業高等専門学校長 殿

学科 第 学年 印
氏 名

下記のとおり実務研修を終了しましたので報告します。

事業所名	
責任者名	
実務研修事業場	
期 間	平成 年 月 日～平成 年 月 日 実務研修 日 時間
実務研修内容	

※実務研修証書及び実務研修日報添付

様式4

No. 平成 年 月 日

実務研修 日誌
学科 第 学年 印
氏 名

事業所名

実務研修期間	平成 年 月 日～平成 年 月 日 (日 時間)
実務研修期日	
月 - 日 曜日	
実務研修内容	
実務研修事業場	

(出典：平成18年度学生便覧 p. 55-60)

資料5-1-②-6：インターンシップ実施状況の記録

平成16～18年度インターンシップ実施状況（準学士課程）

16年度		大学	企業	計	17年度		大学	企業	計	18年度		大学	企業	計
4年	M	5	0	5	4年	M	3	14	17	4年	M	4	10	14
	E	1	0	1		E	5	10	15		E	9	12	21
	D	2	0	2		D	0	0	0		D	2	16	18
	C	7	1	8		C	6	11	17		C	0	6	6
	A	4	0	4		A	0	3	3		A	5	12	17
	計	19	1	20		計	14	38	52		計	20	56	76
5年	M	0	0	0	5年	M	0	0	0	5年	M	0	1	1
	E	2	0	2		E	2	0	2		E	2	0	2
	D	5	0	5		D	5	0	5		D	0	0	0
	C	0	0	0		C	0	1	1		C	0	0	0
	A	0	0	0		A	0	0	0		A	0	1	1
	計	7	0	7		計	7	1	8		計	2	2	4
計	26	1	27	計	21	39	60	計	22	58	80			

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5 - 1 - ② - 7 : 資格取得単位関係 (1 / 4)

別 表

資格取得に係わる単位一覧表

○ 以下の資格を取併し認定を受けた場合、単位認定科目は「特別講習 (1)」として認定されます。(1) 内には資格名が入ります。

なほ、単位の認定を申請する際には、後の注意事項をよく読んでください。

機械工学科

取 得 資 格 名	単位数	備 考
TOEIC	○ 2	
TOEIC	○ 1	
TOEIC	○ 2	
TOEFL	1	
TOEFL	2	
工業英語能力検定	1級	
工業英語能力検定	2級	
工業英語能力検定	3級	
実用英語技能検定	1級又は準1級	
実用英語技能検定	2級	
実用英語技能検定	準2級	
(平成10年度までに取得した者は2単位を認める)		
実用英語技能検定	準2級	
(平成10年度までに取得した者は認める)		
機械設計技術者試験	○ 2	
技術士第1種	○ 2	
電卓・パソコン技能検定	1級	
電卓・パソコン技能検定	2級	
電卓・パソコン技能検定	3級	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
電卓・パソコン技能検定プログラム級	○ 1	
情報処理技術者 基本情報技術者	○ 1	
情報処理技術者 応用情報技術者	1級	
情報処理技術者 応用情報技術者	2級	
情報処理技術者 応用情報技術者	3級	
情報処理技術者 応用情報技術者	2級	
CAD利用技術者試験	○ 1	
ホイラー技士	○ 1	
危険物取扱者	1	丙種 (1類)
危険物取扱者	1	乙種 (2類)
危険物取扱者	1	乙種 (3類)
危険物取扱者	2	乙種 (4類)
危険物取扱者	1	乙種 (5類)
危険物取扱者	2	乙種 (6類)

※単位の○印は取得することが望ましいもの、◎印は特に取得することが望ましいものを示す。

(3) 資格取得に係わる単位認定に関する規程

目 的

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校 (昭和40年4月1日制定) 第1条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校 (以下「本校」という。) における資格取得に係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。

(認定の対象)

第 2 条 この規程における資格取得によって単位と認定される対象は、本校が適切と認める別表の技能検定及び資格試験で合格したものをいう。

(単位認定科目と認定単位数)

第 3 条 取得資格に対応する単位認定科目と認定単位数については、別表に定める。

(単位認定学年と単位数)

第 4 条 認定される学年は5学年とし、単位数はインターンシップに係わる単位及び大学、短大等における履修に係わる単位と合わせて6単位以内とする。

(単位認定申請)

第 5 条 学生は、単位の認定を受けようとするときは、5年次の1月末までに合格証明書又は成績証明書等を添えて校長に申請するものとする。

(単位の認定)

第 6 条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議を経て、校長が行う。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：平成18年度学生便覧 p. 44-50)

資料 5 - 1 - ② - 7 : 資格取得単位関係 (2 / 4)

取 得 単 位 名	単 位 数	備 考
TOEIC 550以上	2	
TOEIC 420以上	1	
TOEIC 490以上	2	
TOEFL 440以上	1	
工業英語能力検定 1級	2	
工業英語能力検定 2級	2	
工業英語能力検定 3級	1	
実用英語技能検定 1級又は準1級	2	
実用英語技能検定 2級	1	
実用英語技能検定 3級	2	
情報処理技術者 基本情報技術者	1	
情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	2	
情報処理技術者 テクニカルエンジニア (各種)	2	
ソフトウェア開発技術者	2	
1級	2	
2級	1	
3級	1	
画像情報技術検定 CG部門	2	
画像情報技術検定 CG部門	1	
画像情報技術検定 CG部門	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
画像情報技術検定 画像処理部門	2	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	1	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	2	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	1	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
情報処理活用能力検定	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
デジタル技術検定	2	
デジタル技術検定	1	
第1種 電気主任技術者	2	
第2種 電気主任技術者	1	
第3種 電気主任技術者	2	
第1種 電気工事士	2	
第2種 電気工事士	1	
アマチュア無線技士	1	
アマチュア無線技士	1	
院上無線技士	2	
院上無線技士	2	
危険物取扱者	2	
危険物取扱者	1	
エンジニア総作業主任者	2	
技術士補	2	

取 得 単 位 名	単 位 数	備 考
TOEIC 550以上	2	
TOEIC 420以上	1	
TOEIC 490以上	2	
TOEFL 440以上	1	
工業英語能力検定 1級又は準1級	2	
工業英語能力検定 2級	1	
工業英語能力検定 3級	2	
実用英語技能検定 1級又は準1級	2	
実用英語技能検定 2級	1	
実用英語技能検定 3級	2	
情報処理技術者 基本情報技術者	1	
情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	2	
情報処理技術者 テクニカルエンジニア (各種)	2	
ソフトウェア開発技術者	2	
1級	2	
2級	1	
3級	1	
画像情報技術検定 CG部門	2	
画像情報技術検定 CG部門	1	
画像情報技術検定 CG部門	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
画像情報技術検定 画像処理部門	2	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	1	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	2	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	1	
画像情報技術検定 マルチメディア部門	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
情報処理活用能力検定	1	
(平成15年度までに取得した者は認める)		
電気通信主任技術者	2	
電気通信主任技術者	2	
第1種 電気主任技術者	1	
第2種 電気主任技術者	2	
アナログ・デジタル総合種	1	
アナログ第1種	1	
アナログ第2種	1	
デジタル第1種	1	
デジタル第2種	1	
デジタル第1種	1	
デジタル第2種	1	
ラジオ・音響技術検定	2	
ラジオ・音響技術検定	1	
情報処理技術者 基本情報技術者	2	
情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	2	
情報処理技術者 テクニカルエンジニア (各種)	2	
情報処理技術者 ソフトウェア開発技術者	2	

(出典：平成18年度学生便覧 p. 44-50)

資料5-1-②-7：資格取得単位関係（3/4）

特異工学科	取得資格名	単位数	備考
	TOEIC 550以上	2	
	TOEIC 420以上	1	
	TOEFL 490以上	2	
	TOEFL 440以上	1	
	実用英語技能検定 1級又は準1級	2	
	実用英語技能検定 2級	1	
	実用英語技能検定 1級	2	
	実用英語技能検定 準1級	1	
	測量士	2	
	測量士補	1	
	第1種電気工事士	1	
	第2種電気工事士	1	
	土地測量調査士	2	
	宅地建物取引主任者	2	
	CAD利用技術者試験	1	
	色彩能力検定	1	
	技術士補	2	
	技能検定試験	2	
	危険物取扱者	1	
	情報処理技術者 基本情報技術者	2	
	エクステリア・プランナー	1	
	建築施工技術者	1	
	インテリア・コーディネーター	1	
	福祉住環境コーディネーター	2	
	福祉住環境コーディネーター	2	
	福祉住環境コーディネーター	1	
	上記以外の資格については、学生の申請に応じて、学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。	1	

建築学科	取得資格名	単位数	備考
	TOEIC 550以上	2	
	TOEIC 420以上	1	
	TOEFL 490以上	2	
	TOEFL 440以上	1	
	実用英語技能検定 1級又は準1級	2	
	実用英語技能検定 2級	1	
	公務防止管理者	2	
	火災予防管理責任者	1	
	火災予防管理責任者	2	
	火災予防管理責任者	1	
	火災予防管理責任者	1	
	火災予防管理責任者	2	
	火災予防管理責任者	1	
	危険物取扱者	2	
	危険物取扱者	2	
	計量士	1	
	計量士	2	
	臭気判定士	1	
	放射線取扱主任者	2	
	放射線取扱主任者	2	
	放射線取扱主任者	2	
	エックス線作業主任者	1	
	ガンマ線透過写真撮影作業主任者	1	
	ガス主任技術者	1	
	ガス主任技術者	1	
	ガス主任技術者	1	
	上級・パイオ技術認定試験	2	
	中級・パイオ技術認定試験	1	
	情報処理技術者 基本情報技術者	2	
	情報処理検定	1	
	情報処理検定	1	
	情報処理検定	2	
	情報処理検定	1	

(出典：平成18年度学生便覧 p. 44-50)

資料5-1-②-7：資格取得単位関係（4/4）

一般科目

取得資格名	単位数	備考
日本語能力検定 1級・準1級	1	
日本語文章能力検定 2級	1	
気象予報士試験	2	

◎注意事項

※申請する資格は、指定がない場合には、いつ取得した資格でもかまいません。

※申請書を学生課教務係で受け取り、必要事項を記入のうえ学級担任・学科長・科目担当教員の印を得てから、資格の合格証明書又は成績証明書を添えて、教務係に提出してください。

※ある資格の低位ランクを取得した後、同じ資格の上位のランクを取得した場合は、上位のランクの単位数となります。

例・○○能力検定3級（1単位）を取得した後、同じ○○能力検定1級（2単位）に合格したので3単位を取得できるか。この場合は同じ資格であるので、1級の2単位を認定することになり、単純に加算して3単位とはなりません。

※同じ資格でも、上位・下位の関係ではなく、その内容が異なる場合は、それぞれ独立した単位とされます。

例・機械工学科の資格というと、危険物取扱者乙種は1類から6類まで異なる内容なので、単位数は単純に加算して計算されます。

※不明な点は、担当教員に尋ねてその指示に従ってください。

（出典：平成18年度学生便覧 p.44-50）

資料 5-1-②-8：資格取得者数と単位認定者数

平成13年度取得資格に1名以上の認定者数
認定人数

種別	M	L	D	C	A	B	H
英語リーディング検定準1級	28						4
英語リーディング検定	3						1
英語検定3級	28		4	10	1		4
英語検定1級(英検)	1						
第二種電気工事士		3					3
コンピュータ検定2級		1					
情報処理技術者 基本情報技術者		3	1				5
情報処理技術者 応用システムアドミニストレータ		1					1
情報処理技術者 情報セキュリティスペシャリスト		1					1
情報処理技術者 検定システムアドミニストレータ			3				6
情報処理技術者 検定ネットワークスペシャリスト			1				1
情報処理技術者 検定ネットワークスペシャリスト			4				4
コンピュータ検定2級			1				1
コンピュータ検定1級			3				3
情報処理技術者			1				1
情報処理技術者 検定システムアドミニストレータ			1				1
情報処理技術者 検定ネットワークスペシャリスト							4
情報処理技術者 検定ネットワークスペシャリスト							1
コンピュータ検定2級							1
コンピュータ検定1級							3
情報処理技術者							1
情報処理技術者 検定システムアドミニストレータ							1
情報処理技術者 検定ネットワークスペシャリスト							1
情報処理技術者		28	1	1			30
情報処理技術者	3	1	2	1			7
情報処理技術者			1				1
情報処理技術者			1				1
計	28	31	16	14	1		91

(出典：学生課教務係資料)

資料5-1-②-9：教務委員会資料・学科会議資料

平成18年度2月教務委員会議事要録

日 時 平成19年2月7日(水) 15:00～17:10
 場 所 管理棟301ゼミ室
 出席者 瀧澤・川上・須甲・胸組・上村・小野・伊澤・千田・笠原・糸井・高橋(大)
 川本・新井・(小林<悟>)

議 事

[報告事項]

冒頭、瀧澤校長補佐(教務担当)より19年度入学者学力選抜の本校、茨城高専及び群馬高専の志願者状況が報告され、いずれも漸減傾向がみられ今後の対応を検討していくことが報告された。

省略

[審議事項]

省略

3. 資格取得に係わる単位認定に関する規程の別表の一部改正(案)について【資料-6】

須甲教務補佐より資料に基づき説明があり、内容の確認と修正があれば2月7日中に教務係まで連絡の旨、依頼された。なお末尾文章の単位取得の例は機械工学科の内容変更に伴い削除することとなった。

省略

[依頼事項]

省略

4. 高専生が取得できる主な資格について

須甲教務補佐より早急の確認依頼があった。

以上

(出典：平成19年2月教務委員会議事録)

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様なニーズに合わせて、他の教育機関の授業を受講することを認め少数ではあるが、その仕組みを利用して単位を取得している学生が存在する。また、学校では得られない実務経験を得る機会として4学年以上にインターンシップの実施の機会を設け、単位取得の機会を与え、積極的に実施できるように指導をしている。その結果、インターンシップを経験する学生が増加している。また、資格取得後の単位認定を行うことで、社会のニーズに合わせた資格取得の方向性を指導している。認定資格については、毎年教務委員会より各学科に科目状況の変更等を問い合わせしており、社会のニーズについて議論する場が提供されている。

観点 5-2-①： 教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用、基礎学力不足の学生に対する配慮等が考えられる。）

（観点に係る状況）

資料 5-1-①-8～12 に示したように、各学科とも教育の目標達成を考慮した授業配置をとり、その授業形態は講義、演習・実験・実習に分類できる。

学習・教育目標にもある専門分野の知識の修得と、ものづくりに必要な力を身に付けるには、専門科目の講義は当然だが、卒業研究を含む演習・実験・実習を通じて専門分野の工学的現象および問題点の解析や解く力を育成する必要がある。そのような観点から、各学科とも演習・実験・実習のいずれかの科目を1学年から4学年まで通して配置している。5学年には卒業研究を配置している（資料 5-2-①-1）。学科の特徴上、演習・実験・実習単位の若干の上下や開設の有無はあるが、各学科で5年間を通して演習・実験・実習を実施することで講義の理解を助け、また、ものづくりの基礎を養うように段階的に配置されている。

各科の授業に際して教科ごとに工夫されている。たとえば、電気情報工学科の電子工学の授業では使用するプリントに工夫をしている（資料 5-2-①-2）。また、情報ネットワーク論では、授業の理解を助けるために e-learning を利用した Web 教材を利用している。Web 教材にはテキストの提示やテストを実施することができる（資料 5-2-①-3）。最近の入学学生は、ものづくり経験が少ないので、実験内容を大幅に変更し観察実験等とテキスト等を工夫した。その内容は高専教育に掲載されている（資料 5-2-①-4）。

情報教育のために情報科学教育研究センターの実習室では、受講学生の一人に一台のコンピュータで授業が出来るように配慮している（資料 5-2-①-5）。

特別な学生への配慮として、3学年に編入してくる留学生の日本語読解力と作文能力の向上を図るために「日本語」「日本事情」（資料 5-2-①-6）を開講している。また、4学年への編入学生に対して、入学前準備として、3学年までの学習内容に照らし、入学までに重点的に学習すべき内容等についてのアドバイス等を入学前に通知し実施している（資料 5-2-①-7）。

資料 5-2-①-1：一般科の実験・実習・演習科目（1／6）

	1年	2年	3年	4年	5年
実験 演習 実習	芸術(美術・音楽) 英会話 I 保健・体育 I 英語 I	保健・体育 I 英語 I 英語 II	英会話 I 保健・体育 I 英語 I	英語演習 I 保健体育 I ドイツ語 I ドイツ語 II	ドイツ語演習 英語演習 II 保健体育 I 保健体育 II

（出典：平成18年度学生便覧より整理）

資料 5-2-①-1 : 機械工学科の実験・実習・演習科目 (2 / 6)

	1年	2年	3年	4年	5年
実験 実習 演習	工作実習 機械製図	工作実習 機械製図	機械設計製図 I 工作実習	機械工学実験 I 機械工学実験 II 輪講 機械設計製図 II	メカトロニクス実験<選> 卒業研究 機械設計製図 III 材料力学演習 工学演習

(出典：平成18年度学生便覧より整理)

資料 5-2-①-1 : 電気情報工学科の実験・実習・演習科目 (3 / 6)

	1年	2年	3年	4年	5年
実験 演習 実習	電気情報工学実験 電気電子製図	電気情報工学実験 電気電子工学演習 I	電気情報工学実験 プロジェクト・ワーク 情報工学 II	電気情報工学実験 電磁工学実験 情報工学実験 物性工学実験 情報工学 III	卒業研究 電磁工学実験 情報工学実験 物性工学実験 電気電子工学演習 II

(出典：平成18年度学生便覧より整理)

資料 5-2-①-1 : 電子制御工学科の実験・実習・演習科目 (4 / 6)

	1年	2年	3年	4年	5年
実験 演習 実習	工学実験 システム演習 I システム演習 II	工学実験 システム演習 III システム演習 IV	工学実験 システム演習 V システム演習 VI	工学実験	工学実験 卒業研究 輪講 I 輪講 II

(出典：平成18年度学生便覧より整理)

資料 5 - 2 - ① - 1 : 物質工学科の実験・実習・演習科目 (5 / 6)

	1年	2年	3年	4年	5年
実験 演習 実習	化学基礎実験	分析化学実験	物質工学実験	総合工学実験 材料化学実験 生物工学実験	卒業研究 材料化学実験 生物工学実験
	製図 情報処理実習	電子計算機実習 化学演習 I	化学演習 II		

(出典：平成18年度学生便覧より整理)

資料 5 - 2 - ① - 1 : 建築学科の実験・実習・演習科目 (6 / 6)

	1年	2年	3年	4年	5年
実験 実習 演習	建築製図I 図学	建築製図II	建築設計I 造形・意匠	建築実験 建築設計II	卒業研究 建築測量
		情報処理I 建築構造力学演習	情報処理II		

(出典：平成18年度学生便覧より整理)

資料 5 - 2 - ① - 2 : 教材の工夫の例

<授業に使用した教材の例>

③授業の効率化・理解度の促進を目的として、以下のようなプロセスを経て授業を進めている。

- 1) 最初に基礎事項をまとめ、重要事項を記述して、授業のポイントを把握させる。
- 2) その基礎理論に即した、「基礎的問題」を与えて演習を実施する。
- 3) 応用力を養うために、「発展問題」として各自が考える問題を用意する。

3 E 電子工学プリント (真空電子工学-3)

____番 氏名_____

I - 2. 磁界中の電子の運動

— 一部省略 —

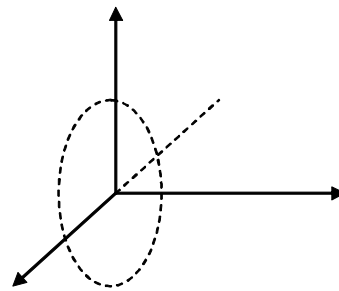
D. 磁界と角度 θ で入射した電子の運動

磁束密度 $B = (0, 0, B)$: z 方向、電子の初速度 v_0

電子の運動 → $\left\{ \begin{array}{l} \text{磁界に垂直平面内 (} x-y \text{ 平面)} \\ \text{磁界方向 (} z \text{ 方向)} \end{array} \right.$
(分離)

初速度 v_0 の

(I.2.13) $\left\{ \begin{array}{l} \text{磁界に垂直な成分:} \\ \text{磁界方向の成分:} \end{array} \right.$



1) 磁界に垂直な ($x-y$ 平面) 内の運動: ① _____

この運動は、② _____ とおけば、C. の垂直磁界中の電子の運動と同じ。

従って、円運動の半径 r とサイクロトロン角速度 ω_c は

(I.2.14) $r =$ _____

(I.2.15) $\omega_c =$ _____

2) 磁界に平行方向 (z 方向) の運動: ③ _____

z 方向には電子は力を受けないから、一定速度④ _____ で

電子は⑤ _____。

以上、1)、2) より、電子は磁界中で⑥ _____ を行う

[問 I.2.3] 速度 $v_0 = 1 \times 10^7$ [m/s] で磁束密度 $B = 0.01$ [T] の一様磁界中に、角度 $\theta = \pi/6$ で入射した電子の描く螺旋運動の半径 r とピッチ d の値を求めよ。

[発展問題] 速度 $v_0 = 1 \times 10^7$ [m/s] を持つ電子が点 P から一様磁界中に、角度 $\theta = \pi/6$ で入射したとき、点 P から距離 $L = 0.1$ [m] 離れた点 R を通過するために必要な磁束密度 B の値 (幾つもある) を求めよ。

(出典: 電気情報工学科、電子工学のプリント)

資料 5 - 2 - ① - 3 : 教材の工夫の例

Class Information																
Class Name: [REDACTED]																
Class ID: [REDACTED]																
Course: [REDACTED] rking Basics																
Version: [REDACTED]																
Gradebook																
	Module 1 Exam	Module 2 Exam	Module 3 Exam	Module 4 Exam	Module 5 Exam	Module 6 Exam	Module 7 Exam	Module 8 Exam	Module 9 Exam	Module 10 Exam	Module 11 Exam	Final Exam	Course Feedback	Case Study	Skills Exam	Custom Scores
View [REDACTED] 100%	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7		7	9	0
[REDACTED] [REDACTED]																
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			-
	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-			-

(出典：電気情報工学科、e-learningの資料)

資料 5 - 2 - ① - 4 : 教材の工夫の例

表 1 電気情報工学実験の改変内容

学年	期	17-18週数 (時間)	平成17年度以前				平成18年度			
			No	テーマ	No	テーマ				
1	通年	4 (8h)	前期	1	テスターキット製作および実験	4	前期	1	電気情報工学科および実験	
				2	観測実験Ⅰ：①静電電圧計 ②静電電圧計 ③電流計 ④電圧計			2	LEGO MINDSTORMS によるロボティクス導入教育Ⅰ	
2	通年	3 (6h)	前期	3	観測実験Ⅱ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方	2 (4h)	前期	3	観測実験Ⅱ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方	
				4	LEGO MINDSTORMS によるロボティクス導入教育Ⅱ					
2	通年	1 (2h)	後期	1	観測実験Ⅰ：①コンデンサの共振 (C-R直列・並列回路) ②音の計測 一音の発生と分析 ③誘導起電力 (交流回路の動き)	2 (4h)	後期	1	観測実験Ⅰ：①コンデンサの共振 (C-R直列・並列回路) ②音の計測 一音の発生と分析 ③誘導起電力 (交流回路の動き)	
				2	観測実験Ⅱ：①電圧・交流 R-L-C 回路特性 ②ヘルツの実験 (電圧波の検出)			2	LEGO MINDSTORMS によるロボティクス導入教育Ⅱ	
2	通年	1 (2h)	後期	3	①ヘルツの実験 (電圧波の検出) ②ジュール熱の実験	2 (4h)	後期	3	観測実験Ⅲ：①電圧計 ②電流計 ③マークシート式プログラムロボット ④ラジコンの構造 (マルコーニ式電流カー)	
				4	観測実験Ⅲ：①電圧計 ②電流計 ③マークシート式プログラムロボット ④ラジコンの構造 (マルコーニ式電流カー)					
2	通年	1 (2h)	後期	5	観測実験Ⅳ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方 ④ヘルツの実験 (電圧波の検出)	2 (4h)	後期	5	観測実験Ⅳ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方 ④ヘルツの実験 (電圧波の検出)	
				6	観測実験Ⅴ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方 ④ヘルツの実験 (電圧波の検出)			6	観測実験Ⅴ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方 ④ヘルツの実験 (電圧波の検出)	
2	通年	1 (2h)	後期	7	交流ブリッジによるインピーダンスの測定	2 (4h)	後期	7	交流ブリッジによるインピーダンスの測定	
				8	Qメータによるインピーダンスの測定			8	Qメータによるインピーダンスの測定	
2	通年	1 (2h)	後期	9	異相回路の電力測定	2 (4h)	後期	9	異相回路の電力測定	
				10	DLR回路の製作			10	DLR回路の製作	
2	通年	1 (2h)	後期	11	Pspice による電気回路解析の初歩	2 (4h)	後期	11	Pspice による電気回路解析の初歩	
				12	観測実験Ⅵ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方 ④ヘルツの実験 (電圧波の検出)			12	観測実験Ⅵ：①電圧計 ②電流計 ③オシロスコープの使い方 ④ヘルツの実験 (電圧波の検出)	

(出典：平成19年3月高専教育)

資料5-2-①-5：コンピュータの利用について（1/2）

情報教育のアンケートより

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計	全体平均
「情報技術力」が身についた。	146	311	417	113	52	163	1202	3.4
授業でコンピュータを使用する時に、1人1台で使用している。	595	109	165	16	37	280	1202	4.3
演習室のコンピュータの処理能力(性能)は十分である。	112	188	416	111	93	282	1202	3.1
演習室のコンピュータに入っているソフトウェアは十分である。	123	167	513	60	54	285	1202	3.3

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料5-2-①-5：コンピュータの利用について（2/2）

コンピュータの配置台数

名称	面積(m ²)	収容人数	一人当面積(m ²)	場所	主要設備等
第1演習室	116	43	2.7	情報科学センター	教育用電子計算機システム(*)、スクリーン、LANコンセント、空調設備
第2演習室(電子計算機実習室)	121	44	2.8	電子棟4F	教育用電子計算機システム、スクリーン、LANコンセント、空調設備
第3演習室(多目的マルチメディア教育室)	79	21	3.8	電物棟2F 【再掲】	教育用電子計算機システム、電動スクリーン、プロジェクタ、LANコンセント、空調設備
マルチメディア実習室	53	13	4.1	情報科学センター	パソコン、LANコンセント、空調設備
ネットワーク実習室	53	20	2.7	情報科学センター	UNIX実験システム、ネットワーク実験システム、LANコンセント、空調設備

第一演習室	49台
第二演習室	49台
第三演習室	21台

(出典：総務課施設係資料)

資料 5 - 2 - ① - 6 : 留学生用シラバス (1 / 2)

科目名	日本語	英語科目名	Japanese
開講年度・学期	平成18年度・通年	対象学科・専攻・学年	3年 留学生
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	3単位	単位種類	
担当教員	足 [] 講師	居室 (もしくは所属)	
電話		E-mail	a.s [] jp
授業の達成目標			
国際学友会や母国で学んできた日本語のブラッシュアップを計り専門教科の日本語習得にリンクさせる。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
各人の言語4スキルズ(reading, writing, listening, speaking)の達成度を評価基準に基づいて行う。			
評価方法			
定期試験および受講態度で評価する。			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
下記の教科書に加え、新聞記事・雑誌などを使用し、日本語の読解・聴解・作文・会話・文法などを学ぶ。 その際、各課ごとに担当者を決めて、担当者の発表後、全員で質疑応答を行う。			
キーワード	自然な日本語		
教科書	「日本語上級読解」(アルク)		
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
JABEE 基準 1 の (1) との関係			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
学生へのメッセージ 日常生活が即、勉強です。 楽しく学びましょう。			
シラバス作成年月日：平成18年 2月12日			

(出典：平成18年度小山高専ホームページ)

資料 5 - 2 - ① - 6 : 留学生用シラバス (2 / 2)

科目名	日本事情	英語科目名	Views of Japanese
開講年度・学期	平成18年度・通年	対象学科・専攻・学年	3年 留学生
授業形態	講義	必修 or 選択	必修
単位数	3単位	単位種類	
担当教員	足 [] 講	居室 (もしくは所属)	
電話		E-mail	a. [] .jp
授業の達成目標			
日本の文化・社会を比較文化の視点から捉え、改めて自分の国をも考える。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
担当レポーターとしての授業への準備度を評価基準に基づいて評価する。			
評価方法			
定期試験および受講態度で評価する。			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
下記の教科書に加え、ビデオや新聞記事・雑誌などを使用し、日本および日本人を理解する。 その際には、日本の伝統的側面と、現代日本の問題点を学ぶ。また、論理的思考による学術的文章の作成技術の獲得を目指す。			
キーワード	外から自分の国を考えよう		
教科書	「日本を話そう 15のテーマで学ぶ日本事情」(The Japan Times) 「大学・大学院 留学生の日本語4 論文作成編」(アルク)		
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
JABEE 基準1の(1)との関係			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
学生へのメッセージ 日常生活が即、勉強です。 鋭い視点を忘れずに、楽しく学びましょう。			
シラバス作成年月日:平成18年 2月12日			

(出典:平成18年度小山高専ホームページ)

資料5-2-①-7：編入学生の入学準備（1/2）

18.2.27
平成18年12月25日

編入学予定学生 各位

小山工業高等専門学校
校長補佐（教務担当）
瀬澤 雄三
【公印省略】

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは本校編入学試験に合格され、高校最後の勉学に励んでいる頃と
思います。

つきましては、来春の本校4年生と同じスタートに向け、これから入学ま
での間に同封内容の勉強をしてくださるようお願いいたします。

また、本校では、学生会主催の学園祭（工慶祭）を来る11月4日（土）
5日（日）の両日に別紙のとおり開催します。本校を遊覧してもらううえで
大変良い機会ですから、学内を自由に見学し、各種イベントに参加し本校入
学後の学生生活の参考にされるよう希望します。

なお、入学手続き日は、3月7日の予定です。詳細については、2月中旬
頃連絡いたします。その他、ご不明の点がありましたら下記にご連絡くださ
い。

敬 具

問い合わせ先
担 当 学生課教務係

（出典：教務課編入学生用資料）

資料5-2-①-7：編入学生の入学準備（2/2）

平成19年度小山工業高等専門学校に編入学された諸君へ

小山工業高等専門学校の1年生から3年生までは、一般科系の授業の教科書のほとんどは高等学校の教科書と同じです。

しかし数学に関しては、専門とのつながりからかなり高度な高専独自の教科書を用いています。これは、高等学校の数学ABCにあるような図形や教養的なものよりも、微分積分学、線形代数などの直接に科学に結びつく内容が重要だからです。

おそらく諸君は、最初の授業で随分と戸惑うことになるでしょう。その教室を埋めるために、数学科では諸君が入学までに準備しておく教材をCDで配布しています。

諸君は最初にこのようなフォルダに出会うでしょう。



このフォルダを開くと



このようなアイコンの列に出会います。先ず開いて欲しいのは、編入学生を課題、平成18年編入生線形代数の二つです。編入生線形代数の方は、行列および行列式についてのテキストからの抜粋です。ヒントと解答をつけました。順序通りうまくできないかもしれませんが、全体に目をおしてみてください。

(出典：教務課編入学生用資料一部)

(分析結果とその根拠理由)

教育の目的を達成するために準学士課程の5年間を通して講義、演習・実験・実習が適切に組み合わせられており、授業形態のバランスは適切なものとなっている。

教材の工夫として、プリントの活用例や e-learning の活用例がある。また、実験も最近の学生を配慮して、カリキュラムを改定しテキストを作成して教材の工夫をしている。

コンピュータは一人一台の活用がなされている。留学生の日本語能力向上を目的とした講義を開設するなど特別な学生に対する配慮がなされている。

観点5-2-②： 教育課程の編成の趣旨に沿って、適切なシラバスが作成され、活用されているか。

(観点に係る状況)

教育課程は教育方針(資料1-1-①-3:既出)に基づいて授業科目を組織的に配置したものであり、シラバスは教育課程の中の各授業について担当教員が授業内容を詳細に示したものである。その意図に沿って、シラバスの記述内容が指示されており(資料5-2-②-1)、本校のホームページにて公開している。

授業担当者は、教務委員会がとりまとめた「教務関係資料(取扱注意)」(現地閲覧資料5-1)およびシラバスの作成資料(資料5-2-②-1)に基づいて、シラバスの作成、授業評価アンケートの実施(資料5-2-②-4)、授業実施記録の作成を行っており、非常勤講師を含めた全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。

学生のシラバス利用状況についてアンケートを実施したのでその結果を示す(資料5-2-②-2,3)。学年が進行するごとに少しずつではあるが、利用率が向上している。教員においてはFDの一環としてシラバスの重要性を認識しているが、学生による活用の度合いが低い。しかし、これについては学生の「授業評価アンケート」中の「シラバスによる授業の進行確認」において、授業がシラバスに沿っているという結果を得ている。このことから、授業進行に対して教員がシラバスを重要視し(資料5-2-②-4)、学生もシラバスを確認していることを示している。これらを踏まえ、18年度の教務委員会として、学生のシラバスの活用について、19年度への教務委員会へ申し送りがされている(資料5-2-②-5)。

5-2-②-1 : 教務委員会からの18年度シラバス作成方法 (1/6)

平成17年12月26日

新シラバスフォーマット記入方法

1. 新シラバスは原則として、以下のフォーマットとしてください。

ファイル形式：マイクロソフト ワード2004 ワード文章

(ワード97?ワード2003でもOK)

ページ属性 : 用紙サイズ A4

ページ数 原則として1ページ。2ページ以上も可。

余白 上25mm、右20mm、左20mm、下20mm。

フォント MS明朝9ポイント

改行幅 11ポイント

線の太さ 1ポイント

最後のページに添付してあります、新シラバス空 format.doc ファイルは上記フォーマットになっています
 なお、一太郎、その他のワープロ用にリッチテキストのフォーマットファイルを用意していますので、ワープロを使う環境に無い方は、リッチテキスト(新シラバス空 format.rtf)をお使いください。

2. シラバス空フォーマットファイルはワードの表の機能を用いて作られています。表の枠内に書き込む内容が収まりきれない場合、枠内でリターンキーを押すと、枠が下方向にのびて、枠が広がります。必要なだけ枠を下方向に広げて、ご記入ください。枠を広げていくと、ページが2ページ以上になりますが、かまいませんので、必要なだけ下方向に広げてください。

なお、シラバスのワードのファイルはホームページに載せるため後でHTMLファイルに変換します。このとき、上記方法で枠を広げていくと、ページが2ページ以上にわたっても、WEB上は1ページになりホームページでも見やすくなります。

3. 新シラバスの大部分は平成17年度までのシラバスと同じ項目です。平成17年度までのシラバスをコピー、ペーストしていただければ、大部分が埋まります。ただし、単にコピーペーストすると、元のフォーマットが適用されて、うまく収まりません。ペーストするときには、2つの方法があります。

1) ワードの「編集」メニューの「形式を選択してペースト」メニューを使いペーストしてください。このとき、ペーストする形式を<テキスト>を選んで、ペーストしてください。そうすると、新しいシラバスフォーマットに従いペーストされます。

2) まず、普通にペーストします。この状態では、シラバスはフォントの大きさ等がバラバラで見にくいはずですが、その後、「編集」メニューから「すべてを選択」を行い、全体を選択してから、フォントをMS明朝9ポイントを指定します。また、改行幅も11ポイントにします。こうすると形が整います。

以下省略

(出典：教務委員会シラバス作成資料)

5-2-②-1: 教務委員会シラバスの18年度フォーマット (2/6)

科目名	(1)	英語科目名	(2)
開講年度・学期	(3)	対象学科・専攻・学年	(4)
授業形態	(5)	必修 or 選択	(6)
単位数	(7)	単位種類	(8)
担当教員	(9)	居室 (もしくは所属)	(10)
電話	(11)	E-mail	(12)
授業の達成目標			
(13)			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
(14)			
評価方法			
(15)			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
(16)		(17)	
キーワード	(18)		
教科書	(19)		
参考書	(20)		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(21)			
JABEE 基準 1 の (1) との関係	(22)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	(23)		
現学年の関連科目	(24)		
次年度以降の関連科目	(25)		
連絡事項			
(26)			
シラバス作成年月日: (27)			

(出典: 教務委員会シラバス作成資料)

5-2-②-1: 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (3/6)

1年から5年までの履修単位

科目名	生物有機化学	英語科目名	Bioorganic Chemistry
開講年度・学期	平成19年度・前期	対象学科・専攻・学年	物質工学科5年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	1単位	単位種類	履修単位 (30h)
担当教員	胸組虎胤	居室 (もしくは所属)	物質工学科実験棟2階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般酸、一般塩基の概念について説明できること。 2. 酵素の活性中心にある基質結合部位、触媒部位の働きについて説明できること。 3. 分子認識に必要とされる作用と化学構造との関係を説明できること。 4. 代表的な酵素 (少なくとも5種類) の触媒機構を説明できること。 5. 人工酵素設計の基礎を説明できること。 			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標1~5: 試験での関連問題について60%以上の成績で達成とする。			
評価方法			
2回の試験 (各90分) の相加平均で評価する。 試験における参考書、コピー、携帯電話、電卓、ノート、メモ等の持ち込みは不可。			
授業内容			
1. 生体分子の構造と機能: タンパク質、脂質、核酸、糖質			
2. 触媒作用の基礎: 一般酸触媒、一般塩基触媒、ブレンステッド則			
3. 生体反応と分子間力: クーロン力、水素結合、分子間力、疎水結合			
4. 酵素の構造と機能: 基質結合部位、触媒部位			
5. 酵素反応の動力学: ミカエリスメンテンの式、反応速度、動力学パラメーター			
6. 代表的な酵素の触媒作用: セリンプロテアーゼ、リボヌクレアーゼ、リゾチーム			
7. 酵素の固定化とその利用: 固定化のメリット、酵素固定、細胞固定、微生物固定			
8. (前期中間試験)			

(出典: 教務委員会シラバス作成資料)

5-2-②-1 : 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (4/6)

1年から5年までの履修単位

9. 補酵素 : ビタミンと補酵素、ピロドキサール、ATP	
10. 金属イオンと金属錯体の化学の基礎 : 金属イオンと生体分子、配位子交換	
11. 金属酵素 : カルボキシペプチターゼ、カルボニックアンヒドラーゼ、	
12. 分子内触媒作用 : 分子内、分子間触媒、分子配向、エントロピー、エンタルピー	
13. 協同触媒作用 : 分子内での協同触媒、	
14. 人工ホスト化合物 : シクロデキストリン、クラウンエーテル、シクロフ	
15. 人工酵素の構築 : 包摂化合物、人工酵素 (前期期末試験)	
キーワード	タンパク質、酵素、人工酵素、反応機構、酵素モデル
教科書	小宮山、八代著、「生命化学 I」(丸善)
参考書	1. 田宮 他訳「ヴォート生化学(上)(下)」第2版、「生化学同人(2005)
小山高専の教育方針①～⑥との対応 ① ②	
技術者教育プログラムの学習・教育目標	
(B-3) (C-1)	
JABEE 基準 1 の (1) との関係	(b) (d (1)) (e)
カリキュラム中の位置づけ	
前年度までの関連科目	生物有機化学
現学年の関連科目	物質工学実験
次年度以降の関連科目	
連絡事項	
シラバス作成年月日 : 平成 18 年 12 月 26 日	

小山高専の教育方針①～⑥で該当するものを記入。4, 5年以上については JABEE との対応表から該当する番号を記入。1-3年については各科で作成する分類表に従って記入。

この2項目は JABEE との関連を記入、1-3年は記入不要。

(出典 : 教務委員会シラバス作成資料)

5-2-②-1: 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (5/6)

4年・5年 (学修単位) ・専攻科

科目名	生物有機化学	英語科目名	Bioorganic Chemistry
開講年度・学期	平成19年度・前期	対象学科・専攻・学年	物質工学科5年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位 (15+30) h
担当教員	胸組虎胤	居室 (もしくは所属)	物質工学科実験棟2階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般酸、一般塩基の概念について説明できること。 2. 酵素の活性中心にある基質結合部位、触媒部位の働き 3. 分子認識に必要とされる作用と化学構造との関係の説明 4. 代表的な酵素 (少なくとも5種類) の触媒機構を説明 5. 人工酵素設計の基礎を説明できること。 			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標1~5: 試験での関連問題について60%以上の成績で達成とする			
評価方法			
2回の試験 (各90分) の相加重平均で評価する。 試験における参考書、コピー、携帯電話、電卓、ノート、メモ等の持ち込みは不可			
授業内容	授業内容に対する自宅学習項目	自宅学習時間 (時間)	
1. 生体分子の構造と機能: タンパク質、脂質、核酸、糖質	第1章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。復習として4つの生体物質の機能と構造との関連が分かる対応表を完成する。	4	
2. 触媒作用の基礎: 一般酸触媒、一般塩基触媒、プレンステッド則	第2章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。一般酸、一般塩基の具体例を各10個以上挙げ、各々についてその理由を説明する。	4	
3. 生体反応と分子間力: クーロン力、水素結合、分子間力、疎水結合	第3章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。左記の分子間に働く力が生体内で働いている各々5例ずつ挙げ、その理由を説明する。		
4. 酵素の構造と機能: 基質結合部位、触媒部位	第4章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。酵素を1つ選び、その活性中心の構造をできるだけ詳しく、図示し、そのポイントを説明する。		
5. 酵素反応の動力学: ミカエリスメンテンの式、反応速度、動力学パラメーター	第5章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。ミカエリスメンテンの式に合わない酵素が存在するか調べ、その具体例を挙げて説明する。	4	
6. 代表的な酵素の触媒作用: セリンプロテアーゼ、リボヌクレアーゼ、リゾチーム	第6章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。セリンプロテアーゼに当てはまる具体的な酵素名を5つ挙げ、EC番号、活性中心の構造で分類せよ。	4	
7. 酵素の固定化とその利用: 固定化のメリット、酵素固定、細胞固定、微生物固定	第7章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。固定化酵素を用いた工業生産法を3つ調べ、それぞれの利点について説明する。	4	
(前期中間試験)			

学修単位は以下のように記入。
講義Aの場合: (15+30)h
講義Bおよび演習の場合: (30+15)h
実験実習: 45h

予習および復習項目を具体的に記入。
実験実習については記入しない。下記の内容はあくまで例です。各教員で適宜記入ください。

自宅学習に要する時間を具体的に記入。
実験実習については記入しない。

専攻科科目については記入しない。
4, 5年の科目で、中間試験を含めなければ授業回数15回に達しない場合は、自宅学習時間に適切な時間を記入し、自宅学習時間が合計として適切に成るようにする。

(出典: 教務委員会シラバス作成資料)

5-2-②-1: 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (6/6)

8. 補酵素: ビタミンと補酵素、ピロドキサル、ATP	第8章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。水溶性ビタミン、脂溶性ビタミンの例をできるだけ多く挙げ、生体内での働きを記す。	4
9. 金属イオンと金属錯体の化学の基礎: 金属イオンと生体分子、配位子交換	第9章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。タンパク質中の官能基で配位子となるものをすべて挙げ、それらが配位する金属イオンを記す。	4
10. 金属酵素: カルボキシペプチターゼ、カルボニックアンヒドラーゼ、	第10章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。左記二つの酵素の推定反応機構を順序だてて書く。	4
11. 分子内触媒作用: 分子内、分子間触媒、分子配向、エントロピー、エンタルピー	第11章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。分子内反応と分子間反応の速度差が生じる理由を、詳しく札明視なさい。	4
12. 協同触媒作用: 分子内での協同触媒、	第12章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。酵素中における協同触媒効果の具体例を3つ挙げ、それぞれを図示し説明する。	4
13. 人工ホスト化合物: シクロデキストリン、クラウンエーテル、シクロファン	第13章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。左記の包摂化合物の分子認識作用、対応するゲストを分類した表を完成する。	4
14. 人工酵素の構築: 包摂化合物、人工酵素	第14章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。1つの天然酵素を選び、それに対応する人工酵素の作り方を詳しく述べる。	4
15. 人工ホスト化合物と人工酵素の応用: 光学分割	第15章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。光学分割に最近利用されている包摂化合物を5つ調べ、その分子認識能について説明する。	4
(前期期末試験)	自宅学習時間合計	6.0
キーワード	タンパク質、酵素、人工酵素、反応機構、酵素モデル、一般酸塩基触媒	
教科書	小宮山、八代著、「生命化学I」(丸善)	
参考書	1. 田宮 他訳「ヴォート生化学(上)(下)」第2版、東京化学同人(2005)	
小山高専の教育方針①~⑥との対応	① ②	
技術者教育プログラムの学習・教育目標	(B-3) (C-1)	
JABEE 基準 1 の (1) との関係	(b) (d (1)) (e)	
カリキュラム中の位置づけ		
前年度までの関連科目	生物有機化学	
現学年の関連科目	物質工学実験	
次年度以降の関連科目		
連絡事項		
予習は各章の要約を600から800字で書き、毎回提出する。 復習は章末の問題を含む課題を翌週までに行い、レポートとして提出する。		
シラバス作成年月日: 平成 18 年 12 月 26 日		

全学修時間から授業時間を除いた時間を記入。

JABEE 科目については認証評価との対応表に従い記入。
1~3年の科目については、各学科の科目の体系図における分類に従い記入。

(出典: 教務委員会シラバス作成資料)

5-2-②-2：シラバスの利用について

	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計	全体平均
シラバスを良く活用した。	95	122	295	213	306	171	1202	2.5

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

5-2-②-3：シラバスの利用について（学年ごとと教員に分類）

シラバスを良く活用した。

	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計	全体平均
1年	14	15	56	41	68	5	199	2.3
2年	11	8	48	43	75	2	187	2.1
3年	11	11	41	38	78	2	181	2.1
4年	10	14	61	43	38	6	172	2.5
5年	15	20	47	37	42	4	165	2.6
教員	23	26	16	3	0	0	68	4

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

5-2-②-4：授業評価アンケートからのシラバスの活用

■平成18年度前期 授業アンケート結果集計表

小山工業高等専門学校 10041

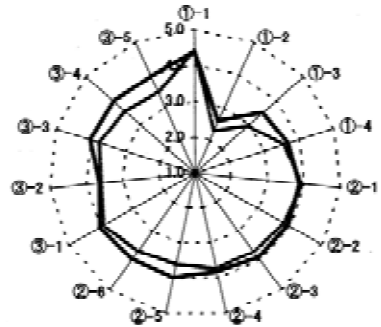
■集計グループ

授業科目別集計

■評価平均レーダーチャート

<集計明細>

■授業科目名 電子回路Ⅲ
 ■アンケート回答者数 38人
 ■受講者数 43人
 ■担当教員名
 ■クラス名 D4
 ■学科名 D



所属	件数
①M	0
②E	0
③D	30
④C	2
⑤A	0
⑥SS	0
⑦SC	0
⑧SA	0
無回答	6

学年	件数
①1年	0
②2年	0
③3年	1
④4年	30
⑤5年	1
⑥専攻1年	0
⑦専攻2年	0
無回答	6

— 学校全体平均
 — 該当科目平均

(設問別評価集計表) ※全体平均は全回答者データの合計を全回答者数で除して算出しています。(無効回答は除く)

区分	アンケート設問内容	評価平均					無効データ	全体平均
		評価6	評価5	評価4	評価3	評価2		
①あなた自身について	①-1 この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか?	4.4	21	11	6	0	0	4.4
	①-2 この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか?	2.6	6	5	9	3	15	2.3
	①-3 わからないことや興味を持ったことを質問したり調べたりしましたか?	3.5	10	7	16	2	3	2.9
	①-4 あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか?	3.7	13	6	15	2	2	3.6
②この授業科目について	②-1 この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。	3.9	14	7	15	2	0	3.9
	②-2 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。	3.9	13	12	10	3	0	3.8
	②-3 この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。	3.9	13	11	12	2	0	3.7
	②-4 シラバス(授業要目)に沿って、授業が行われた。	3.8	12	10	13	3	0	3.7
	②-5 この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。	4.0	17	6	12	3	0	3.6
	②-6 この授業に総合的に満足している。	4.0	15	9	10	3	0	3.7
③教員について	③-1 この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。	4.0	16	9	11	2	0	3.9
	③-2 教材・テキスト等は学習する上で適切だった。	3.6	10	9	15	3	1	3.6
	③-3 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。	4.0	15	10	12	1	0	3.8
	③-4 授業のポイントがわかりやすかった。	4.0	16	8	12	2	0	3.6
	③-5 板書やプロジェクター等の図像は見やすく、わかりやすかった。	3.9	15	7	15	1	0	3.5
④その他の実務	④-1 技能または技術の修得が十分にできた。	3.6	1	1	3	0	0	3.7
	④-2 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。	3.6	1	1	3	0	0	3.9
	④-3 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。	3.8	2	0	3	0	0	3.8
	④-4 同じチーム(グループ)になった仲間と協力して行動した。	3.6	1	1	3	0	0	3.9
	④-5 (体育のみ回答)授業中に課せられた運動量は適切なものだった。	4.0	1	0	1	0	0	3.8

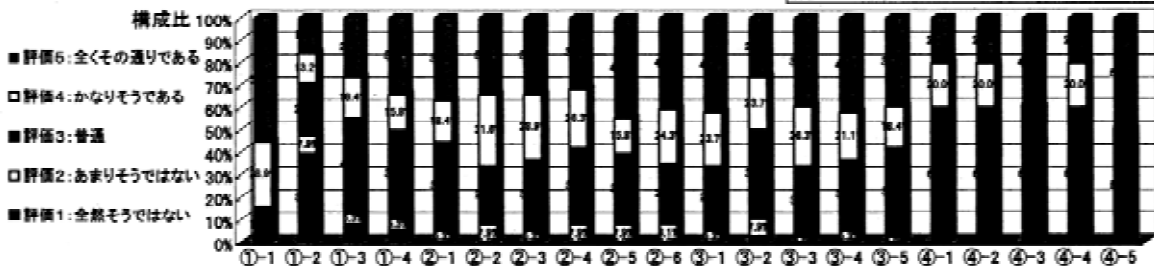
■設問グループ別評価平均

設問グループ	当科目	全体
設問①-1～①-4合計評価平均	①あなた自身について	3.5 3.3
設問②-1～②-6合計評価平均	②この授業科目について	3.9 3.7
設問③-1～③-5合計評価平均	③教員について	3.9 3.7

※設問①-1の評価回答は以下
 評価5:10割 / 評価4:10-9割 / 評価3:9-8割 /
 評価2:8-7割 / 評価1:7割以下

※設問①-2の評価回答は以下
 評価6:2時間以上 / 評価4:2-1.5時間 /
 評価3:1.5-1時間 / 評価2:1-0.5時間 /
 評価1:0.5時間以下

■設問別評価構成グラフ



(出典：平成18年度授業評価アンケート)

5-2-②-5：授業評価アンケートへの学生のシラバス利用度の調査の追加

アンケート設問	アンケート項目を5段階で評価してマークして下さい
<p>①あなた自身について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか？ 2. この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか？ 3. シラバス（授業要目）を活用していますか？ 4. わからないことや興味をもったことを質問したり調べたりしましたか？ 5. あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか？ <p>②この授業科目について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この授業科目では、開始、終了時間が守られていた。 2. 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。 3. この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。 4. シラバス（授業要目）に沿って、授業が行われた。 5. この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。 6. この授業に総合的に満足している。 	<p>追加設問</p>

(出典：平成19年度4月教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの作成方法等が示されており、学生がシラバスを活用できるような形式を整えている。シラバスの利用は全体で5段階のうち2.5と平均的であった。学生の活用の度合いは若干低いので、利用が向上するような対策が施されている。教員は、シラバスの作成方法の詳細が「教務関係資料」およびシラバス作成資料に示されており、全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。

観点5-2-③： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

（観点に係る状況）

本校では、学生の創造性を育む教育方法として、5学年の卒業研究を各学科とも重要視している。これは、本校の学科ごとの教育目標に示されており（資料1-1-①-4：既出）、各教員の下で卒業研究を行うことで学生の創造性を育てている（資料5-2-③-1）。また、配属される研究室によっては学会発表や各種コンテスト・コンペティションに参加するなど、卒業研究室での成果を学外で公表するようにしている（資料5-2-③-2）。また、（独）国立高専機構の創造性を育む「卒業研究」集への掲載も行われている。

卒業生が就職した企業を対象にしたアンケート調査と、5年生へのアンケート調査を実施した中で、創造性や問題解決能力の部分についての結果を示す（資料5-2-③-3）。企業からは平均以上の評価を得ている。学生のアンケート結果も3.3以上を得ている。この他にも学科によっては創造性を育む科目が設定されている（資料5-2-③-4）。

また、観点5-1-②で述べたように、4学年以上にインターンシップが開設されており、学生が会社での貴重な経験をする機会を設けている。また、インターンシップ経験談を3学年生に聞かせる機会を設けている（資料5-2-③-5）。

資料 5-2-③-1 : 18 年度の電気情報工学科の一例 (1 / 2)

科目名	卒業研究	英語科目名	Graduation Research
開講年度・学期	平成 18 年度・通期	対象学科・専攻・学年	電気情報工学科 5 年
授業形態	卒業研究	必修 or 選択	必修
単位数	10 単位	単位種類	履修単位 (30 時間単位)
担当教員	全教員	居室(もしくは所属)	専攻科棟 5 階 電気・物質棟 1・2 階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
各自が企画し、研究を進め、最終発表までを各自の責任で達成する。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
目標の到達度を設定水準で評価する。			
評価方法			
ゼミ、中間発表、最終発表、卒業研究の総合評価を行い採点し、合格、不合格の最終評価を行う。			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
研究課題の意義、研究手法及びその実施に関する指導を受けると同時に自学自習を重ねて研究を進める。その主な目的は、電気情報工学上の諸問題についての研究の進め方、論文のまとめ方、発表の方法などの習得である。			
キーワード			
教科書	指導教員が指定するもの		
参考書	電気情報科すべての授業科目の教科書、参考書		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-3) 専門分野の課題や問題点を把握して解決方法が考えられる。 (D-2) 実験や調査結果を口頭発表して議論できる。			
JABEE 基準 1 の (1) との関係	(c), (d(2-c))		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	履修科目全般		
現学年の関連科目	履修科目全般		
次年度以降の関連科目	履修科目全般		
連絡事項			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究室において学生の適性と希望に応じ、また、テーマに応じて個別の指導がなされる。 2. 電気情報工学科、5 年間に於いて学ぶ専門科目の集大成科目となっている。 3. 5 年間で学んだことを基に、各学生の実力を十分に発揮して欲しい。 4. 基本的には学生自身が計画を立てて、研究を進めることになる。 5. 卒業研究発表会において発表することが義務づけられている。 			
シラバス作成年月日 : 平成 18 年 2 月 7 日			

(出典 : 平成 18 年度小山高専ホームページ)

資料 5-2-③-1 : 19 年度の電気情報工学科の一例 (2/2)

科目名	卒業研究	英語科目名	Graduation Research
開講年度・学期	平成 19 年度・通年	対象学科・専攻・学年	電気情報工学科 5 年
授業形態	実験・実習	必修 or 選択	必修
単位数	10 単位	単位種類	履修単位 (30h)
担当教員	電気情報工学科・教員 全員	居室 (もしくは所属)	各教員の居室
電話	各教員の内線	E-mail	各教員の E-mail
授業の達成目標			
1. 与えられたテーマについて、目的などを理解し研究計画を立案出来ること。 2. 研究に自主的に取り組み、創意工夫をする習慣を身につけること。 3. 研究テーマに関する日本語および英語の文献を理解出来ること。 4. 研究過程において生じた問題点を把握して、その解決策を考える能力を有すること。 5. 研究内容を論文としてまとめ上げ、文章化する表現力を身につけること。 6. 研究内容を口頭発表し質疑応答が出来る能力を有すること。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標 1~4 について、 ○1~6 の全てについて、指導教員が点数化して評価する。 ○5, 6 については、複数の学科教員が点数化して評価する。			
評価方法			
指導教員による研究内容全般の評価 60%。電気情報工学科教員による中間発表・最終発表の評価 40%。 以上を総合して、卒業研究の評価として採点し、合格・不合格の最終判定を行う。			
授業内容			
4 年次末において、基本的に所属するコース担当の教員の研究室に配属される。電気情報工学科で 4 年間学習した内容を基礎に、配属された研究室において指導教員から与えられた課題を個人あるいは複数で研究を行う、高専教育の集大成科目と位置づけている。教員とのゼミナールなどを通して、研究課題の意義・研究手法及びその実施に関する指導を受けると同時に結果の評価・分析などについて自学自習を重ねて、実践的技術者としての問題解決能力を養う。その主な目的は、電気・電子・情報工学上の諸課題についての研究の進め方・論文のまとめ方・発表の方法などの習得である。			
キーワード	研究、計画性、自主性、創造力、問題解決能力、技術論文、プレゼンテーション		
教科書	指導教員が指定する資料・文献		
参考書	電気情報工学科の授業で使用した教科書・参考書		
小山高専の教育方針①~⑥との対応		②	
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-3) 専門分野の課題や問題点を把握して解決方法が考えられる。 (D-2) 実験や調査結果を口頭発表して議論できる。			
JABEE 基準 1 の (1) との関係		(c), (d(2-c))	
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目		開設科目全般	
現学年の関連科目		開設科目全般	
次年度以降の関連科目		開設科目全般	
連絡事項			
1. 研究室において学生の適性と希望に応じ、また、テーマに応じて個別の指導がなされる。 2. 電気情報工学科、5 年間に於いて学ぶ専門科目の集大成科目となっている。 3. 5 年間で学んだことを基に、各学生の実力を十分に発揮して欲しい。 4. 基本的には学生自身が計画を立てて、研究を進めることになる。 5. 卒業研究発表会において発表することが義務づけられている。			
シラバス作成年月日：平成 19 年 2 月 28 日			

(出典：平成 19 年度小山高専ホームページ)

資料 5 - 2 - ③ - 2 : 卒研学生の学会発表の例(電気情報工学科) (1 / 2)

学科名 電気情報 工学科	発表学生氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等 (コンペティショ ン名等)	ページ、発表年 月(平成)、査読 の有無の記入
① 準学士 課程 口頭発表	<input type="text"/> (森 夏樹)	高温超伝導体の c 軸方 向揺らぎ伝導率の理論 解析	第 52 回応用物理 学関係連合講演 会講演予稿集 1	p. 269 (H17. 3) 査読 無
	<input type="text"/> (森 夏樹)	Ginzburg-Landau 理論に 基づく 2-band 超伝導体 の揺らぎ伝導率	第 53 回応用物理 学関係連合講演 会講演予稿集 1	p. 253 (H18. 3). 査読 無
	<input type="text"/> (森 夏樹) , (2006. 3).	LaBaCaCu ₃ O _{7-δ} 超伝導体 の交流帯磁率と揺らぎ 伝導率	第 53 回応用物理 学関係連合講演 会講演予稿集 1	p. 254 (H18. 3). 査読 無
	<input type="text"/> (大嶋建次)	パソコン内仮想空間と の入出力インターフェ ース構築の研究	電気学会研究発 表会資料 (ETT-06-15)	pp36-39, (H19. 3) 査読 無
	<input type="text"/> (石原 学)	知育教材の製作	電気学会研究発 表会資料 (ETT-06- 16)	(pp. 36-37) (H19. 3) 査読 無

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5-2-③-2 : 卒研学生の学外コンペティション・学会発表の例(建築学科 (17年度)
(2/2)

名前(指導教員)	題目	発表講演会名等<受賞>
[] (大島隆一)	次世紀に向けた複合都市計画(設計) - 既存ストック活用における新しいコミュニティ空間と住居のコンバージョン -	日本建築学会全国大学・ 高専卒業設計展示会
[] (高橋大輔)	地場産業技術者育成センター計画 (設計) 愛知万博跡地の活用・	JIA 栃木クラブ卒業 設計・学生賞
[] (尾立弘史)	Activity Square KOGA(設計) - ス リートスポーツコンプレックスの計画	JIA 栃木クラブ卒業 設計・学生賞
[] (大島隆一)、 [] (尾立弘史)	卒業設計(次世紀に向けた複合都市計 画 - 既存ストック活用における新しい コミュニティ空間と住居のコンバー ジョン -、秋葉原ペントハウス計画 - 単身者を対象とした集合住宅 -)	栃木県建設展 (第 15 回 AP 展) 学生作品部門
[] (尾立弘史)	秋葉原ペントハウス計画(設計) - 単 身者を対象とした集合住宅 -	DAS 学生デザイン設計展 (毎日新聞社)
[] (高橋大輔)	Bridge Architecture(設計) 渋川市利 根川流域における「道の駅」計画	DAS 学生デザイン設計展 (毎日新聞社)

卒業研究室単位での学外参加コンペティション・コンテスト受賞例(電気情報工学科)

学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
電気情報 工学科	[]	全国高等専門学校プログ ラミングコンテスト	全国大会：敢闘賞 (課題部門) 平成 16 年	石原研究室
電気情報 工学科		全国高等専門学校プログ ラミングコンテスト	全国大会：敢闘賞 (課題部門) 平成 17 年	石原研究室
電気情報 工学科		全国高等専門学校プログ ラミングコンテスト	全国大会：審査委員 特別賞(課題部門) 平成 18 年度	石原研究室
電気情報 工学科		BCN 主催 BCN AWORD 2007	BCN「ITジュニ ア賞」受賞 平成 18 年度	石原研究室

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料5-2-③-3：卒業生の就職先による企業アンケートより（1/2）

	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計
感性や創造力が豊かである。	2	16	20	0	0	2	40
専門領域における基礎的能力が高い。	4	24	10	0	0	2	40
専門領域における問題解決能力が高い。	3	20	14	1	0	2	40

（出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書のデータより）

資料5-2-③-3：在学生の教育目標達成アンケートより（2/2）

学習達成度

小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。(5年生を対象)

設問内容	全くその通りである	かなりそう	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計	当該平均
「創造力」が身についた。	24	50	65	14	12	0	165	3.4
「専門基礎科目」の学力が身についた。	31	61	54	13	6	0	165	3.6
「専門知識」が身についた。	36	65	49	10	5	0	165	3.7
「問題解決能力」が身についた。	20	51	68	17	8	1	165	3.4

（出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書のデータより）

資料 5 - 2 - ③ - 4 : PBL 科目の一例 (電気情報工学科のシラバス) (1 / 3)

科目名	プロジェクトワーク	英語科目名	Project Work
開講年度・学期	平成18年度・後期	対象学科・専攻・学年	電気情報工学科3年
授業形態	実験・実習	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	履修単位 (60 時間単位)
担当教員	大田 鈴 (大田 雄)	居室 (もしくは所属)	大田 鈴 (大田 雄) 階
電話	大田 鈴	E-mail	大田 鈴 @ac.jp @ac.jp @ac.jp
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 機械工作、電子回路工作に関する基本的な製作技術を習得する。 2. デジタル回路の動作を理解できる。 3. プログラミング技術を習得する。 			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1～3. 報告書, 授業態度, 競技会の成績を合算, 考慮し, 総合評価とする。			
評価方法			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 台車部の設計、回路製作、プログラミング実習、最終報告書作成において報告書を提出する。 2. 成績は完成作品の性能(競技会)、実験報告書の内容および実験態度により総合的に評価する。 3. 全ての実験報告書が期限内に提出されていることが必須条件である。 			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス……………(1週) 2. 台車部の設計……………(1週) 3. 台車および基板の製作……………(3週) 4. 回路製作……………(2週) 5. プログラミング実習……………(1週) 6. トレースカープログラム作成……………(4週) 7. プログラム作成, シャーシ調整……………(1週) 8. 競技会(タイムトライアル)……………(1週) 9. 最終報告書作成……………(1週) 			
キーワード	機械工作、センサ、デジタル回路、コンピュータ、プログラミング		
教科書	小山高専電気情報工学科編「プロジェクトワーク実験資料」(毎回テーマごとに配布)		
参考書	専門教科で使用している各種テキスト(電気回路、電子回路等)		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-1) 科学や工学の基本原理や法則を身につける。 (B-1) 実験や観察、調査、製作を行って結果や結論が導ける。			

(出典 : 平成 18 年度小山高専ホームページ)

資料5-2-③-4：PBL科目の授業主題について（電気情報工学科の例）（2/3）

＜「プロジェクトワーク」の授業内容＞

製作課題は、基本的な機械・電子工作およびプログラミング実習を取り入れた内容として、PICマイコンを用いたライントレースカーの製作とした。トレースカーは以下の表の規定に従うものとし、台車の形状や部品配置については制限がなく、できるだけ設計に自由度を与えている。

製作は1班4人のグループに分かれ、毎週4時間×15週で行う。以下の表に授業スケジュールを示す。第6週目までに台車の設計および電子回路の製作（エッチング、ハンダ付け作業）、組立などハードウェア部分を完成させる。第7週目以降は、PICマイコンのアセンブリ言語について説明した後、例題演習を行う。その例題内容は、LEDの点滅制御、モーターのPWM制御、光センサ信号の入力制御等である。最終的に各例題のプログラムを組み合わせることによって、基本的なトレース用プログラムを作成することができる。授業の最終日には、規定コースの走行時間を計測し、トレースカーの性能を評価している。競技形式にすることで、学生自らが、トレースカーの走行時間を短縮するため、どのようにプログラムを改良すれば良いかを考え、問題解決能力の向上につながる。

以下省略

（出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書）

資料5-2-③-4：学生の受講アンケート（電気情報工学科の例）（3／3）

		H15	H16	H17
深まりましたか	大変深まった	15	36	52
	深まった	56	45	39
	どちらとも いえない	23	17	9
	あまり深ま らなかった	3	0	0
	ほとんど深 まらなかった	3	2	0
械工作、電子回路工作、プログラミングなどに挑戦したいと思えますか	是非、や てみたい	31	45	61
	やってみ たい	46	32	32
	どちらとも いえない	15	21	7
	あまりや りたくない	8	0	0
	やりたく ない	0	2	0

数値は%表示としている。

（出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書）

資料5-2-③-5：インターンシップ報告会の開催例（電気情報工学科）

電気情報工学科4年

平成18年度 インターンシップ報告会

日時：平成18年10月11日（水）13:00～

場所：3EHR

1件あたり実施概要2分、感想3分

発表順番	時間	学生氏名	研修先
1	13:10～13:15		中外製薬（宇都宮市）
2	13:15～13:23		カゴメ（那須塩原市）
3	13:23～13:31		三桜工業（古河市）
4	13:31～13:39		三桜工業（古河市）、日立化成（下館市）
5	13:39～13:44		カルビー（宇都宮市）
6	13:44～13:52		カルビー（宇都宮市）、中外製薬（宇都宮市）
7	13:52～13:57		グローリー工業（埼玉県加須市）
8	13:57～14:02		日本電設工業（東京都内）
9	14:07～14:15		長岡技術科学大学
10	14:15～14:20		長岡技術科学大学
11	14:20～14:25		長岡技術科学大学
12	14:25～14:30		長岡技術科学大学
13	14:30～14:35		豊橋技術科学大学
14	14:35～14:40		宇都宮大学
15	14:40～14:45		宇都宮大学
16	14:45～14:50		宇都宮大学

（出典：電気情報工学科資料）

（分析結果とその根拠理由）

主に卒業研究が創造力を育む授業として位置づけられ、各教員が指導を行っている。その他にも、学科ごとに実践的・創造的科目として実験・実習科目を配置し創造力を育む教育を行っている。インターンシップの終了後に報告会を行うことで、新しく得た知識と経験を整理すると共に他の学生へ伝える機会を設けるといった活用を行っている。

観点 5-3-①： 成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定、進級（各学年の修了）、再評価及び卒業の認定についての学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程が定められており、「学生便覧」に記載され、学生への周知がなされている（資料 5-3-①-1）。また、各授業の評価方法は明確に定められたシラバス（資料 5-3-①-2）に記載されており、学生への周知がなされている。また、教員は定期試験終了から 10 日以内に成績一覧表を教務係に提出するか、または Web 上の成績入力システム（教務システム）から入力することになっている。この間に各教員は答案の返却を行い、成績に対する学生の異議申し立てを受付けている。及落判定会議（含む、卒業判定）は原則として全教員が参加して行い（資料 5-3-①-3）、及落判定会議資料（含む、卒業認定）（現地閲覧資料 5-2）に基づいて学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程に従って行われている。また、年度末試験については、別途試験終了後に異議申し立て期間を設けて受付けている（資料 5-3-①-4）。

資料5-3-①-1：成績判定の規程（1/2）

14

- 2 平常の成績で評価できる科目にあっては、試験の一部又は全部を行わないことがある。
- 第6条 朝氣その他やむを得ない事情により試験を受けられなかった者については、本人の願い出により担当教員が許可した者に対し、追試験を行うことがある。
- 第7条 正当の理由がなく試験を受けなかった者又は懲戒処分のため試験を受けなかった者の当該試験の成績は、0点とする。
- 第8条 試験中不正行為をした者は、その時間以降の登校を停止し、当該試験期間中の全試験の成績を0点とする。
- (特別活動の判定)
- 第9条 特別活動は、出席状況、活動状況により、合否を判定する。(学年課程修了の認定)
- 第10条 学年課程修了の認定は、学年末における判定会議を経て、校長が行うものとする。
- 2 第1学年、第2学年及び第3学年で次の各号のいずれかに該当する者は、修了を認めない。
- 一 年間授業時数の3分の1を超えて欠履した科目がある場合
 - 二 年間授業時数の4分の1を超えて欠履した科目が5科目以上ある場合
 - 三 学年成績の中に30点未満の科目が2科目以上且つ4単位以上ある場合
 - 四 当該学年までの累積不合格単位数が7単位を超える場合
 - 五 必修科目中に不合格科目がある場合
 - 六 特別活動の判定が不合格である場合
- 3 第4学年で次の各号のいずれかに該当する者は、修了を認めない。
- 一 当該学年までの累積不合格単位数が7単位を超える場合
 - 二 必修科目中に不合格科目がある場合
 - 4 第5学年で次の各号のいずれかに該当する者は、修了を認めない。
 - 一 必修科目中に不合格科目がある場合
 - 二 当該学年までの累積合格単位数が17単位未満（うち一般科目について75単位未満、専門科目について82単位未満）である場合
 - 三 卒業研究の評価が不合格である場合

2 規 程
(1) 卒業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程

- (目 的)
- 第1条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定、以下「学則」という。）第14条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校における成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定について定めることとを目的とする。
- (成績の評価)
- 第2条 成績の評価は、卒業の成績、出席状況及び試験、学習報告書、作品等により、担当教員が決定する。
- 第3条 成績は、学期成績と学年成績に区分し、授業科目（以下「科目」という。）ごとに評価する。
- 2 学年成績の評価は、毎学期の成績を総合して、担当教員が決定する。
- 第4条 科目の成績は、年間授業時数の3分の2以上出席し、かつ100点法による評価で、60点以上を合格とする。
- 2 成績は、評価を次のとおり区分し、評価で表わす。
- | 評 価 | 評 価 |
|-----|-------------|
| S | 90点以上 |
| A | 80点以上 90点未満 |
| B | 70点以上 80点未満 |
| C | 60点以上 70点未満 |
| D | 60点未満 |
- 3 卒業研究の評価は、合否による。
- 4 校外実習を行う場合には、その評価は合否による。
- 5 資格取得による単位認定科目の評価は、合否による。(試 験)
- 第5条 定期試験は、各学期末に行う。ただし、科目によっては適宜中間試験を行うことがある。

(出典：平成18年度学生便覧p. 39, 40)

資料5-3-①-1：成績判定の規程（2/2）

5 前3項の条件に該当する者についても、特別な理由がある場合は、校長が学年課程の修了を認定することができる。

(再 評 価)

第11条 不合格単位を有し学年課程修了を認められた者に対して、不合格科目の再評価を行うことがある。

2 前項の再評価の成績は、0点を上限とする。

(再 試 験)

第11条の2 学年成績で0点未満の科目がある者に対して、再試験を行うことがある。

2 前項の再試験の成績は、60点を上限とする。

第12条 休学の場合を除き、引き続き2回際学年にとどまることができない。

(卒業の認定)

第13条 卒業の認定は、第5学年の課程修了の認定を受け、学則第13条第2項に規定する授業科目のうち107単位以上（うち一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上）の科目に合格した者について行う。

2 前項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、学則第26条の3の授業方法により修得する単位数は30単位を超えないものとする。

附 則 (抄)

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年7月1日から施行する。

(出典：平成18年度学生便覧p. 41)

5-3-①-2: 評価方法記入例、1年から5年までの履修単位

科目名	電子計算機	英語科目名	Computer Engineering
開講年度・学期	平成18年度・通年	対象学科・専攻・学年	電気情報工学科・4年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	履修単位 (60時間単位)
担当教員	石	居室 (もしくは所属)	電 棟2階
電話	02	E-mail	Is
授 業 の 達 成 目 標			
<p>1. コンピュータの中核をなすCPUとメモリからなる内部構造について、その構成法および制御方法を理解する。</p> <p>2. 外部メモリや入出力機器を含めたコンピュータシステム全体の構成法について理解する。</p>			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
<p>1. コンピュータ技術の歴史について簡単に説明できること。</p> <p>2. ノイマン型コンピュータの基本ハードウェア構成について説明できること。</p> <p>3. コンピュータにおける数表現について簡単に説明できること。</p> <p>4. 制御アーキテクチャについて説明できること。</p> <p>5. 演算アーキテクチャについて説明できること。</p> <p>6. メモリアーキテクチャについて説明できること。</p> <p>7. 入出力アーキテクチャについて説明できること。</p>			
評価方法			
<p>1. 定期試験 80%</p> <p>2. 課題 (提出レポート) 20%</p> <p>上記の総得点の60%以上で合格となる。</p>			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
<p>1. 情報の基礎理論 (5週)</p> <p>2. データ構造とアルゴリズム (5週)</p> <p>3. ハードウェア (5週)</p> <p>4. 基本ソフトウェア (5週)</p> <p>5. システムの構成と方式 (5週)</p> <p>6. システム応用 (5週)</p>		<p>事前に指示された内容について調査して授業に取り組むこと。</p>	
キーワード	基数変換, データ構造, アルゴリズム, CPU, アドレッシング, 入出力装置		
教科書	情報処理の基礎と演習, 近代科学社, 小高知宏		
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-1) 科学や工学の基本原則や法則を身につける。			
JABEE 基準1の(1)との関係	d(2-a)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	情報工学 I、II		
現学年の関連科目	情報工学実験		
次年度以降の関連科目	ディジタル回路, マルチメディア工学, 人工知能, 信号処理		
連絡事項			
<p>1. 講義を中心に行う。</p> <p>2. 講義時間以外でも質問がある場合は応じる。</p> <p>3. 本人の欠席等による授業内容の欠損部分は本人の自習等による獲得を強く求める。</p> <p>4. コンピュータのハードウェアに関する種々のアーキテクチャを理解し各種の資格試験に挑戦することを望む。</p>			
シラバス作成年月日: 平成 18年 2月 14日			

(出典: 平成18年度小山高専ホームページ)

資料5-3-①-3：及落判定会議の開催通知

平成18年度及落判定会議の開催について

【5年生】 予 備 会 議

日 時 ; 平成19年3月8日(木) 9時00分～

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 副校長, 校長補佐(教務担当), 教務補佐, 一般科・各学科長,
5年学級担任,

【5年生】 判 定 会 議

日 時 ; 平成19年3月8日(木) 10時00分～

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 副校長, 校長補佐(教務担当), 教務補佐, 一般科・各学科長,
各 教 員

【1～4年生】 予 備 会 議

日 時 ; 平成19年3月14日(水) 9時00分～

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 副校長, 校長補佐(教務担当), 教務補佐, 一般科・各学科長

◎1学年から順に行います。1学年の学級担任は、9時までに集合願います。

◎2学年以上の学級担任は順次連絡次第集合願います。

【1～4年生】 判 定 会 議

日 時 ; 平成19年3月14日(水) 13時10分～

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 副校長, 校長補佐(教務担当), 教務補佐, 一般科・各学科長,
各 教 員

(出典：学内掲示板より)

資料5-3-①-4：学年末成績の教員に対する注意通知の一部（1/2）

平成19年1月

教員各位

学年末の日程等について

校長補佐(教務担当) 瀧澤 雄三

学年末の日程等について連絡いたします。

1. 後期期末試験

- ・後期期末試験は、2月9日(金)～2月16日(金)です。
学生が成績に関して意見等がある場合は、再試験最終日(3/2)までに科目担当教員まで申し出ることになっていますので、対応方よろしくお願ひします。

2. 再試験、再評価について

- ・学年成績が60点未満の場合、担当教員の判断によって再試験を行うことができます。再試験の結果、学年成績として60点の評価が得られれば、その科目は合格となります。再試験の結果の点数は60点が上限となります。
- ・再試験を行うかどうかは、担当教員の裁量に任されます。学生に対しては、実施の有無を伝えておくことが適切かと考えます。
- ・再試験該当者の掲示の締切は、2月21(水)正午です。掲示は、管理棟北側の学生用掲示板にて行います。各教員は、締切までに所定の用紙(別紙参照)に記入の上、教務係に提出してください。学生はこの掲示を見ることを原則としますので、教員が学生に直接連絡する必要はありません。もし掲示締切に間に合わなかった場合には、各教員自身の責任において、直接学生に連絡してください。
- ・再試験期間は、2月26日(月)～3月2日(金)です。再試験の時間割は、原則として後期期末試験に対応するものとします。例えば、期末試験の1日目の1時限の科目は、再試験の1日目の1時限になります。
- ・再試験の監督は、担当教員が行うこととします。担当教員が非常勤講師の場合は、各学科、各教科で対応してください。

(出典：学生課資料)

資料5-3-①-4：学年末成績の学生に対する通知（2/2）

平成19年1月

学生の皆さんへ

学年末の日程等について

校長補佐(教務担当) 瀧澤 雄三

学年末の日程、進級などについてお知らせします。

1. 進級判定の基準について

1年生～4年生の学年課程修了が認められるのは、単位数については、当該学年までの不合格単位が累積7単位を超えない場合です。(累積不合格単位が8単位以上になったら、進級は不可)その他の欠課や平均点などの基準については、学生便覧を見てください。40ページの第10条を読み直しておいてください。

2. 再試験

学年成績が60点未満の科目は、担当教員の判断で再試験を行うことがあります。再試験の結果、学年成績が60点の評価を得られれば、その科目は合格になります。

3. 再評価

7単位までの不合格単位を持って進級した場合、担当教員の判断で進級後に不合格科目の再評価を行うことがあります。

4. 後期期末試験、再試験、再評価の日程

後期期末試験：2月9日(金)～2月16日(金)

成績に関して意見等がある場合は、再試験最終日(3/2)までに科目担当教員まで申し出てください。

↓

再試験の掲示：2月21日(水)15：00に、図書情報センター南側の学生向け掲示板に発表

再試験については、2月21日以前に担当教員から学生個人に連絡することは、原則としてありませんので、この掲示を確認してください。すべての科目で再試験が実施されるとは限りません。再試験がないからといって、その科目が合格したとは限りません。

↓

再試験の実施：2月26日(月)～3月2日(金)

再試験の日程は原則として後期期末試験に対応します。期末試験の1日目の1時限目の科目は、再試験でも1日目の1時限目ということです。変更もありますので、掲示で日時、場所、出題範囲は、確認してください。

↓

判定会議：3月14日(水)

進級できない場合には、学級担任教員から連絡がいきます。進級できる場合には特に連絡はありません。学年の成績は、郵送されます。

↓

再評価：新学期(4月)

不合格単位を持って進級した学生には、再評価の機会があります。再評価の実施は担当教員の判断によりますので、担当教員にたずねてください。再評価を受ける場合には、教務係で用紙を受け取り、教科担当教員、学級担任教員の承認を得て、教務係へ4月中に提出してください。

(出典：学生課資料)

(分析結果とその根拠理由)

学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程により、成績評価・単位認定、進級、再評価及び卒業の認定についての規程が明確に定められており、学生便覧に記載されている。同様の内容を学生にも分かりやすくしたものとして「キャンパスライフ」が学生便覧に記載されており、学生への周知がなされている。また、定期試験終了から成績一覧提出までの期間を設け、学生の異議申し立てを受け付ける配慮がなされている。及落判定会議（含む、卒業認定）は原則として全教員が参加して行い、学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程に従って厳正に行われている。

観点5-4-①： 教育課程の編成において、特別活動の実施など人間の素養の涵養がなされるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校で専任教員に配布している、「教務関係資料」(現地閲覧資料5-1)中に学級担任業務について箇条書きされている。これには、学級担任が行うクラス運営に係わる様々な事柄について項目別に記載されており、学級運営を行うための資料として活用されている(資料5-4-①-1)。また、学級担任の仕事として物質工学科の場合を例にまとめて公表しており担任業務に供している(資料5-4-①-1)。

1～3学年までは週1時間の特別活動(HR)の時間を設けている(資料5-4-①-2)。また、4学年・5学年においても、各科で独自に担任の下で3学年までのようなHR活動を実施している。特別活動は学級担任が中心となって、生活指導、成績指導、諸連絡、環境整備(学内及び周辺清掃)、スポーツ等を企画し実施している(資料5-4-①-3)。その他、入学直後に仲間作りと高専生活への適応を目標として新入生日帰り研修(資料5-4-①-4)、1学年～5学年を対象に心身の鍛錬を目的とした春・秋の球技大会(資料5-4-①-5)、3学年～5学年を対象に専門研修(学科別)を実施している。この事例として3学年を対象とした工場見学を含む専門別研修(資料5-4-①-6)。4学年を対象とした工場見学を含む見学旅行を計画し、実社会における技術を見聞する機会を設けている(資料5-4-①-7)。また、学科会議等を通して担任は参考意見の聴取や議論などをしており、学科構成教員も積極的にクラス運営に参加している(資料5-4-①-8)。

資料5-4-①-1：学級担任の業務（1/2）

昭和47年4月1日	
学級担任業務	
<p>I 各教科授業に関係あるもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学業成績についての授業科目担当教員との連絡助言 2 出席状況についての助言 3 学級日誌および出席簿の点検 4 工場見学の計画と実施 5 工場実習についての助言 6 指導要録の作成 	
<p>II 各教科授業以外に関係あるもの</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 ホームルーム活動・学友会活動・クラブ活動等の奨励 2 学級会主催の指導ならびに助言（HR室等の整理、整頓、清掃および掲示物に対する助言） 3 学校行事への参加 4 学生準則の理解と学生会活動についての助言 5 非行誘因研究とその対策および指導 6 交通違反行為の防止と補導 7 校則等に定められた諸届・願等提出に関する助言 	
<p>III 厚生関係</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 奨学生および授業料免除生の選考・推薦 2 入寮希望者の理由調査とその連絡 3 就職その他の進路指導の連絡調整 	
<p>IV その他</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 学生の個性観察とその記録 2 必要ある場合の家庭連絡 3 父兄会等での保護者との懇談 4 卒業生との連絡（同窓意識の高揚） 5 その他 	

（出典：教務関係資料の一部を転載 p.10）

資料 5 - 4 - ① - 1 : 学級担任の業務 (2 / 2)

小山工業高等専門学校研究紀要
第 37 号 (2005) 197 - 202

197

高等専門学校の専門学科における担任の仕事と工学教育での役割 —物質工学科の場合を例に

胸組虎胤

The Jobs of Class Room Teachers of a Special Course in a College of Technology
and Their Roles in the Education of Technology
Toratane Munegumi

後期中等教育と高等教育の両方を包含する教育機関である高等専門学校では、クラス担任の仕事には高等学校と大学の両方の担任に課せられる仕事が含まれる。専門学科の担任はそれらをうまく融合しながら業務をこなす必要がある。担任の業務が成文化していないため担任は手探りであり失敗しやすい。そのため、担任の業務を経時的に示したカレンダー的のものを作製した。また、担任業務の工学教育における役割で重要なものは勇気付けと動機付けであり、これらは教員の専門における自己研鑽がなければあまり有効でないと考えられる。

(出典：小山高専紀要 (2005) p.197-転載)

資料5-4-①-2：特別活動（HR）の時間割例
電気情報工学科の例

平成18年度前期時間割

電気情報工学科

		電気情報工学科 1年		電気情報工学科 2年		電気情報工学科 3年		電気情報工学科 4年				電気情報工学科 5年		
		科目名	教員名	科目名	教員名	科目名	教員名	科目名	教員名	科目名	教員名	科目名	教員名	科目名
月	1	国語	井上	微分積分学	玉木	情報工学Ⅱ	今成	ドイツ語Ⅱ	祇園寺			電気磁気学Ⅱ	中山	
	2	国語	井上	微分積分学	玉木	情報工学Ⅱ	今成	ドイツ語Ⅱ	祇園寺			電気磁気学Ⅱ	中山	
	3	基礎数学A	稲見	英語Ⅱ	速水	保健体育Ⅰ	石崎	電気機器工学	田村	電子計算機	石原	電磁環境工学	上村	情報理論
	4	基礎数学A	稲見	英語Ⅱ	速水	保健体育Ⅰ	石崎	電気機器工学	田村	電子計算機	石原	電磁環境工学	上村	情報理論
	5	美術	齊藤(千)	国語	中田	英会話	ヤズダニ	哲学		松島		信号処理		石原
	6	美術	齊藤(千)	英語Ⅰ	有坂(顕)	英語Ⅰ	小野	文学		中田		信号処理		石原
	7							英語演習Ⅰ		杉山		生体工学	中山	情報デバイス工学
	8											生体工学	中山	情報デバイス工学
火	1	英語Ⅰ	有坂(夏)	電気回路学Ⅰ	小林(幸)	電子工学	森	応用物理		鈴木		人間と科学Ⅰ	酒入・松島・岩佐・山原・種村	
	2	英語Ⅰ	有坂(夏)	電気回路学Ⅰ	小林(幸)	電子工学	森	応用物理		鈴木		人間と科学Ⅰ	酒入・松島・岩佐・山原・種村	
	3	化学Ⅰ	猿山	政治経済	岩佐	倫理社会	種村	電子デバイス工学	森	メカトロニクス	北野	電力システム工学	甲斐	マルチメド.工学
	4	化学Ⅰ	猿山	政治経済	岩佐	倫理社会	種村	電子デバイス工学	森	メカトロニクス	北野	電力システム工学	甲斐	マルチメド.工学
	5	地理	横山	英語Ⅰ	有坂(顕)	国語	井上	歴史学		田村(航)		コース別実験		森
	6	地理	横山	保健体育Ⅰ	三原	国語	井上	歴史学		田村(航)		コース別実験		
	7	電気情報工学実験	土田	保健体育Ⅰ	三原	歴史	酒入	確率統計		森田		コース別実験		中山・大嶋
	8	電気情報工学実験	石原・鈴木									コース別実験		
水	1	電気電子製図	大嶋	電気磁気学Ⅰ	中山	電気磁気学Ⅰ	森	電磁伝送工学	千田	電子物性	田中(昭)	英語演習Ⅱ・ドイツ語演習	ヤズダニ・速水・長谷川小野・祇園寺	
	2	一般理科	上村	化学Ⅱ	宇津木	解析学	佐藤(巖)	保健体育Ⅰ		石崎		電気材料	三石	
	3	一般理科	上村	化学Ⅱ	宇津木	解析学	佐藤(巖)	保健体育Ⅰ		石崎		電気材料	三石	
	4	国語	井上	微分積分学	玉木	HR	甲斐	電気回路学Ⅱ		北野		卒業研究	全教員	
	5	HR	三原	HR	玉木			電子回路		土田		卒業研究	全教員	
	6											卒業研究	全教員	
	7											卒業研究	全教員	
	8											卒業研究	全教員	
木	1	物理	田(洋)	情報工学Ⅰ	小林(幸)	歴史	酒入	ドイツ語Ⅰ		祇園寺		電磁波工学	千田	
	2	物理	田(洋)	情報工学Ⅰ	小林(幸)	電気計測	青木	ドイツ語Ⅰ		祇園寺		電磁波工学	千田	
	3	英語Ⅰ	有坂(夏)	電気情報工学実験	今成	応用物理	西郷	電子計測		陣内		電磁エネルギー工学	小林(真) 小林(真)	デジタル回路
	4	英語Ⅰ	有坂(夏)	電気情報工学実験	今成	応用物理	西郷	確率統計		森田		電磁エネルギー工学	小林(真) 小林(真)	デジタル回路
	5	基礎数学B	直井	物理	加藤	電気情報工学実験	田中・千田	応用数学		佐藤(巖)		集積回路設計		今成
	6	基礎数学B	直井	物理	加藤	電気情報工学実験	田中・千田	応用数学		佐藤(巖)		集積回路設計		今成
	7	保健体育Ⅰ	三原	微分積分学	玉木	電気情報工学実験	鈴木・甲斐	電気情報工学実験		北野・森		情報ネットワーク論		石原
	8	保健体育Ⅰ	三原	微分積分学	玉木	電気情報工学実験	鈴木・甲斐	電気情報工学実験		北野・森		情報ネットワーク論		石原
金	1	基礎数学A	稲見	国語	中田	電子回路	土田	英語演習Ⅰ		杉山		電気電子工学演習Ⅱ	北野・鈴木	
	2	基礎数学A	稲見	国語	野口	電子回路	土田	英語演習Ⅰ		杉山		電気電子工学演習Ⅱ	北野・鈴木	
	3	英会話	ヤズダニ	英語Ⅰ	有坂(顕)	英語Ⅰ	小野	制御工学		北城		保健体育Ⅰ	塩入・三原・石崎土居・広瀬・津	
	4	情報工学Ⅰ	大嶋	電気電子工学演習Ⅰ	北野・鈴木	英語Ⅰ	小野	制御工学		北城		保健体育Ⅰ	塩入・三原・石崎土居・広瀬・津	
	5	電気情報工学大系	土田	代数幾何学	今井	線形代数学	島田	電気情報工学実験		小林		卒業研究	全教員	
	6	電気情報工学大系	土田	代数幾何学	今井	線形代数学	島田	電気情報工学実験		小林		卒業研究	全教員	
	7			電子情報工学	大嶋	電気回路学Ⅰ	甲斐	電気情報工学実験		森		卒業研究	全教員	
	8			電子情報工学	大嶋	電気回路学Ⅰ	甲斐	電気情報工学実験		森		卒業研究	全教員	

(出典：学生課教務係資料)

資料5-4-①-3: HR授業実施記録(1/5)

平成18年度 授業実施記録(通年用)				
単位種別(※):		単位数: 2		
クラス: 1E		科目: HR		担当教員: 三 <input type="text"/>
	月/日	授業内容	授業形態(※※)	備考
1	4/5	入学式・始業式		
2	/12	合同HR・学業についてなどオリエンテーション		
3	/19	クラスの役員を決める		
4	/26	諸連絡		
5	5/10	春季球技大会のメンバーを決める		
6	/17	工陵祭実行委員会からの連絡		
7	/24	工陵祭クラス企画の話し合い		
8	/31	前期中間試験の直前指導		
9	6/7	中間試験		
10	/14	諸連絡		
11	/21	中間試験成績連絡表の配布		
12	/28	保護者会の連絡と説明		
13	7/5	夏休みの諸注意と諸連絡		
14	/12	夏休み前の整理・整頓		
15	9/6	諸連絡		
16	/13	前期定期試験の直前指導		
17	/20	予備日のため授業無し		
18	/27	諸連絡		
19	10/4	合同ホームルーム、読書感想発表会		
20	/11	秋季球技大会のメンバーを決める		
21	/18	保護者懇談会の説明、諸連絡		
22	/25	諸連絡		
23	11/1	諸連絡、工陵祭準備		
24	/8	諸連絡		
25	/15	諸連絡		
26	/22	諸連絡		
27	/29	後期中間試験の直前指導		
28	12/6	中間試験		
29	/13	諸連絡		
30	/20	冬休み前の整理・整頓・諸連絡		
31	1/10	後期期末試験の流れ説明		
32	/17	成績評価・再試験・進級判定などの説明		
33	/24	推薦入学選抜試験		
34	/31	講演会「性教育について」		
35	2/7	後期期末試験の直前指導		
36	/16	教室の大掃除・整頓		

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。 (※※) A:講義 B:演習 C:実験 D:実習 E:その他

(出典: 学生課教務係資料)

資料 5 - 4 - ① - 3 : 授業実施記録 (2 / 5)

平成 18 年度 授業実施記録 (通年用)

単位種別 (※) : 履修単位

単位数 : 1

クラス : 科目 : 2C HR

担当教員 : 浦

	月/日	授 業 内 容	授業形態 (※※)	備 考
1	4/5	成績返却、学生証・学生便覧配布、通学届、諸連絡	E	始業式
2	4/12	2年生になるにあたっての心構え、諸連絡(健康診断等) クラス役員・係の決定	E	プリント配布
3	4/19	アンケート(通学・生活・1年を振り返って・2年が始まって)	E	アンケート配布
4	4/26	新2年生 数学実力テスト	E	
5	5/10	球技大会のメンバー決め、工陵祭に関する話し合い	E	
6	5/17	研修旅行に関するアンケート、諸連絡	E	アンケート配布
7	5/24	出川助手より授業補足、工陵祭についての話し合い	E	
8	5/31	中間試験に関する諸注意、生活面での諸注意	E	
9	6/14	中間試験・夏休みの過ごし方等に関するアンケート	E	アンケート配布
10	6/21	諸連絡、アンケート結果について、席替え	E	
11	6/28	成績返却、工陵祭についての話し合い、諸連絡	E	
12	7/5	2年 特別講演会 (木更津高専 高遠節夫教授)	E	
13	7/12	夏休みの過ごし方について、諸連絡	E	プリント配布
14	9/1	今後の予定、教室清掃・出席簿等生活面の諸注意	E	夏期休業後初登校日
14	9/6	2年 薬物乱用に関する講演会	E	
15	9/13	研修旅行グループ分け、行き先の選定、諸注意など	E	プリント配布
16	10/4	授業アンケート 研修旅行グループ行動の計画 (計画表配布) 保護者懇談会について (面談希望日程表配布)	E	研修旅行参加同意書回収、費用振込案内配布
17	10/11	球技大会メンバー決め、席替え、	E	
18	10/18	研修旅行概要説明・諸注意、グループ行動の計画 保護者会面談予定表の配布と確認	E	研修旅行諸注意プリント配布
1	10/25	成績返却、工陵祭についての話し合い	E	
2	11/1	工陵祭についての話し合い、研修旅行ホテル部屋割り等	E	
3	11/8	研修旅行についての諸注意	E	研修旅行のしおり配布
4	11/15	研修旅行(関西方面 11/13~15)	E	
5	11/22	学校生活・成績に関する諸注意	E	
6	11/29	研修旅行決算報告、中間試験前の諸注意	E	保護者用プリント配布
7	12/13	諸連絡、いじめに関するアンケート	E	
8	12/20	成績返却、諸連絡、冬休みの過ごし方等	E	
9	12/26	諸注意、諸連絡	E	授業最終日
10	1/10	席替え、諸連絡	E	
11	1/17	退学する学生からの挨拶、諸連絡	E	
12	2/7	小山高専の教育に関するアンケート 授業評価アンケート 年度末・新年度の予定 および諸注意	E	プリント配布
13	2/16	期末試験に関する諸注意、2年を終えて	E	試験最終日

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。 (※※) A: 講義 B: 演習 C: 実験 D: 実習 E: その他

(出典: 学生課教務係資料)

資料 5 - 4 - ① - 3 : 授業実施記録 (3 / 5)

平成 1 8 年度授業実施記録 (通年用)

単位種別 (※) :

単位数 :

クラス : 3E 科目 : HR

担当教員 :

	月/日	授 業 内 容	授業形態 (※※)	備 考
1	4/5	各自自己紹介 (高専志望動機、クラブ、住所、その他)	E	
2	4/12	各自自己紹介、学習・生活指導	E	
3	4/19	各自自己紹介、委員選出、研修旅行	E	
4	4/26	球技大会協議	E	
5	5/10	各自自己紹介、連絡事項、学習・生活指導	E	
6	5/24	各自自己紹介、連絡事項、学習・生活指導	E	
7	5/31	各自自己紹介、学習・生活指導、中間試験注意・遵守事項	E	
8	6/14	各自自己紹介、連絡事項、学習・生活指導	E	
9	6/21	各自自己紹介、連絡事項、学習・生活指導	E	
10	6/23	特別講演	E	
11	6/28	各自自己紹介、連絡事項、学習・生活指導	E	
12	7/5	各自自己紹介、連絡事項、3E 実験レポートの提出指導	E	
13	7/12	各自自己紹介、連絡事項、夏休み学習・生活指導	E	
14	9/6	各自自己紹介、連絡事項	E	
15	9/13	各自自己紹介、連絡事項、期末試験注意・遵守事項	E	
16	10/4	連絡事項、学習・生活指導	E	
17	10/11	球技大会協議、連絡事項、学習・生活指導	E	
18	10/18	保護者懇談会、研修旅行、工陵祭	E	
19	10/25	保護者懇談会、研修旅行、工陵祭	E	
20	11/8	研修旅行連絡、連絡事項、成績不振者指導	E	
21	11/15	研修旅行連絡、連絡事項、成績不振者指導	E	
22	11/22	連絡事項、学習・生活指導	E	
23	11/29	連絡事項、学習・生活指導、中間試験注意・厳守事項	E	
24	12/13	連絡事項、学習・生活指導	E	
25	12/20	連絡事項、冬休み学習・生活指導	E	
26	1/10	連絡事項、学習・生活指導、保護者会連絡	E	
27	1/17	連絡事項、学習・生活指導	E	
28	1/31	連絡事項、学習・生活指導、コース別選択	E	
29	2/7	連絡事項、学習・生活指導、コース別選択、期末試験注意	E	
30	2/16	試験後の生活について		
13	/			
14	/			
15	/			
16	/			
17	/			
18	/			

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。 (※※) A : 講義 B : 演習 C : 実験 D : 実習 E : その他

(出典 : 学生課教務係資料)

資料 5 - 4 - ① - 3 : 授業実施記録 (4 / 5)

4 学年 建築学科の例

平成 18 年度 4 年建築学科 学生数 46 名

担任

随時、学生が質問に来られるように、昼休みや放課後に教員室で仕事をするように配慮している。行事予定、注意事項はクラスの掲示板に張って、学生に連絡している。

全般指導

4 月	学生会役員選出、通学届等書類指導、健康診断受検、日本学生支援機構奨学生申込指導
5 月	前期球技大会、学生総会への参加指導
6 月	健康診断受検結果通知と治療指導、開校記念行事参加指導
7 月	大掃除、全校集会、夏季休業中の諸注意
9 月	海外研修募集説明、後期車両通学許可申請指導
10 月	保護者面談の案内及び日程調整、工陵祭準備指導、後期球技大会参加指導、後期授業料免除申請指導
11 月	保護者面談の実施、
12 月	5 年卒業研究配属研究室希望調査、学生会選挙参加指導、建築学科特別講演参加指導、大掃除、消防避難訓練指導、冬季休業中の諸注意
1 月	5 年卒業研究配属研究室調整と個人面談、次年度前期車両通学許可申請指導
2 月	5 年卒業研究配属研究室発表、大掃除、全校集会
随時	各種引受アンケートの実施、欠席届のチェック、学生の諸手続き指導

学業指導

4 月	科目履修上の注意、教務係への受講届、再評価・再履修免除申請の指導、未修得単位の多い学生への学習指導
6 月、9 月、11 月、2 月	中間試験、期末試験への準備指導
7 月、11 月	中間試験、期末試験の成績不振及び、欠課時数の多い学生に対する個別面談と指導
2 月	資格に係る単位認定申請指導
随時	学科会議で報告された成績不振学生への指導

進路指導

9 月	進路希望調査、進路関係資料に関する説明
10 月	進路に関する相談に受付と個別面談
11 月	保護者と学生との進路に関する個別面談指導
12 月～	就職希望学生への就職採用試験へのエントリー啓発指導
随時	進路に関する相談受付と個別指導

(出典：学生課教務係資料)

資料5-4-①-3：授業実施記録（5／5）

5学年 電気情報工学科の例

平成18年度5Eホームルーム

平成18年4月19日（水）

<連絡事項>

- ・各委員の選出
- ・通学届の提出
- ・茨城大学の説明会について
日時 4/24 13:00～、場所 学生課の部屋
- ・受講届の回収
- ・教育用パソコンの新しくなっているが、IDとパスワードはそのまま利用できる。
- ・就職活動・授業のため、電子メールを各自利用できるようにしておくこと。

<配布物>

- ・通学届

（出典：学生課教務係資料）

資料5-4-①-4：日帰り研修実施要領

平成18年度1年生日帰り研修実施要項

1. 意義と目的： 1年生ガイダンス行事の一環として、2日間の校内ガイダンスの後に実施する。
埼玉県羽生市の藍染ふる里資料館や群馬県太田市の富士重工業㈱矢島工場を見学し、伝統文化と先端技術の一端にふれ、見識を持った技術者としての自らの進路について考える機会とする。
また、1日の研修を通して学生相互の親睦を深め、相互理解を進める場として活用する。
2. 日 時： 平成18年4月11日（火）
3. 行 き 先： 藍染ふる里資料館（埼玉県羽生市）
富士重工業㈱矢島工場（群馬県太田市）
4. 参 加 者： 1年生全員
5. 引 率 者： 1年生学級担任5名
校長補佐（学生担当）
学生担当補佐（小林・鹿野・石崎（担任と兼務））
学生係長・学生係主任
旅行社係乗員 計11名
6. 交通手段： 借り上げバス5台
7. 行 程： 8時30分 高専発（8時25分高専玄関前集合）
10時00分 藍染ふる里資料館（埼玉県羽生市）着
10時00分～
12時00分 藍染ふる里資料館にて藍染実習・昼食
12時00分 藍染ふる里資料館発
12時50分 富士重工業㈱矢島工場（群馬県太田市）着
12時50分～
15時30分 富士重工業㈱矢島工場見学
15時30分 富士重工業㈱矢島工場発
17時00分 高専着・解散
8. そ の 他： 参加学生には「1年生日帰り研修のしおり」を配布
引率者打合せ 3月23日（木）13時10～

（出典：学生課資料）

資料 5 - 4 - ① - 5 : 球技大会開催

平成18年度

春季球技大会

5月16日(火)

<各クラスの参加球技>

	M	E	D	C	A
1	ソフト バレー	ソフト バスケ	ソフト バスケ	サッカー バレー	サッカー バスケ
2	サッカー バレー	ソフト バスケ	ソフト バスケ	ソフト バレー	サッカー バレー
3	ソフト バレー	サッカー バレー	ソフト バスケ	ソフト バスケ	サッカー バレー
4	サッカー バスケ	サッカー バレー	サッカー バレー	サッカー バレー	ソフト バスケ
5	ソフト バスケ	サッカー バレー	サッカー バレー	サッカー バスケ	ソフト バスケ
教職員専攻科混成チーム			ソフト	バスケ	

<場所>

サッカー	グラウンド
ソフトボール	陸上競技場
バスケットボール	第1体育館
バレーボール	第2体育館
開閉会式	第1体育館

(出典：学生課教務係資料)

資料 5 - 4 - ① - 6 : 電気情報工学科の例

実施年度	学年	見学先
平成16年度	3年	ツイリンクもてぎ (ASIMO館)
	4年	松下技術館, 京都仏閣 (大阪・京都)
平成17年度	3年	愛知万博 (名古屋)
	4年	豊田自動車・愛知万博 (愛知)
平成18年度	3年	東芝科学館 (川崎)
	4年	江差風力発電所 (札幌・函館)

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料5-4-①-7：専門研修先

平成18年度 専門研修

学科・学年・人数	実施期間	研修先	引率
機械工学科 4学年 37名	平成18年11月9日(木) ～ 平成18年11月11日(土)	パナソニックセンター大阪 (大阪市中央区城見2丁目1番61号)	
電気情報工学科 4学年 35名	平成18年10月18日(水) ～ 平成18年10月21日(土)	江差風力発電所 (北海道 札幌市・函館市)	
電子制御工学科 4学年 43名	平成18年10月26日(木) ～ 平成18年10月28日(土)	北海道キッコーマン(株)/道内観光 (北海道 千歳市泉沢1007-53)	
物質工学科 4学年 33名	平成18年10月19日(木) ～ 平成18年10月22日(日)	大阪科学技術館/朝日新聞大阪本社 京都・大阪・神戸市内	
建築学科 4学年 35名	平成18年12月14日(木) ～ 平成18年12月16日(土)	沖縄 首里城・識名園・沖縄海洋博覧会施設 名護市庁舎	
電気情報工学科 3学年 40名	平成18年10月23日(月)	東芝科学館 (神奈川県川崎市)	
物質工学科 3学年 44名	平成18年10月23日(月)	ヤクルト茨城工場 キュービー五霞工場 (茨城県猿島郡五霞町)	

(出典：教務課資料)

資料5-4-①-8 学科会議資料 クラス行事等に関して
電気情報工学科の議事要旨の例

《学科会議(H18.5.10)議事要旨》

日時：5月10日(水) 午前11時～

場所：電気情報工学科・会議室

議題：「○」印の箇所が、報告事項・審議事項・決定事項・提案事項など。

1. 学科長宛依頼事項など

1) 特別講演・専門研修について(予定)教務に提出済み

○専門研修：3E(10月・東芝科学館)、4E(9月・北海道方面)、5E(無し)

○特別講演：「ベンチャー創業とカオスの関わり」五 氏
10月の水曜日/午後(回覧済み)

2) 学校要覧の修正<締切：5月10日(水)>(資料A)

○各教員により訂正依頼済み

その他

《学科会議(H18.7.05)議事要旨》

日時：7月5日(水) 午前10時45分～12時10分

場所：電気情報工学科・会議室

略

4) その他

・各クラスからの報告：○5E進路報告(残り：就職1名、進学5名)

○1E、2E：学生への意識調査など実施して、アドバイス。

・後援会の報告：○再試験・再評価に関する質問など。

○専攻科特別研究指導教員の決定手続きについて考えるべき。

→3月のガイダンス時に確認する。

2. 学科長連絡事項

1) ～ 3) 略

(出典：平成18年度電気情報工学科議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

1 学年～3 学年は週 1 時間の特別活動（HR）の時間を設け、さまざまな活動を通して人間の素養の涵養がなされるように配慮されている。その際、活動の内容に偏りをなくするため、学級担任は学科会議等において意見を聞きながらバランスのよい活動計画を立てている。この他にも、新入生研修、球技大会、見学旅行といった多くの行事が実施されている。

観点5-4-②： 教育の目的に照らして、生活指導面や課外活動等において、人間の素養の涵養が図られるよう配慮されているか。

(観点に係る状況)

本校の教育理念の「技術者である前に人間であれ」(資料1-1-②-1：既出)を達成するために、生活指導面では担任が(既出：資料5-4-①-3)指導を行い、全体生活指導面では校長補佐(学生担当)、4名の学生担当補佐及び各学科の委員によって構成される学生委員会(資料5-4-②-1)が中心となり、学級担任及び他の教員と協力して指導に当たっている。

また、学生支援室(資料5-4-②-2)が組織されており、学校生活に係わる様々な不安、家庭問題や健康問題に不安を感じる学生の相談に乗っている(資料5-4-②-3)。この他、交通安全教育の一環として、車両通学を許可された学生のうち希望者に対して安全運転教習を自動車教習所で実施している(資料5-4-②-4)。

本校には、学生組織としての学生会が存在し、学生会規約(資料5-4-②-5)に基づいて活発な課外活動を行っている。学生会には文化部(8)、運動部(14)、同好会(2)及び愛好会(5)が結成され指導教員の下で活動を行っている(資料5-4-②-6)。一例として具体的な活動状況を示す資料として施設使用予定及び活動実績を示す(資料5-4-②-7)(資料2-2-③-9：既出)。

本学の教育目標の中の「人間性」や「感性」が身についたかを、本校の5年生と卒業後に就職した企業等にアンケート調査を行っている(資料5-4-②-8)。評価は共に平均3以上を得ている。

資料5-4-②-1:校務分掌(1/2)

平成18年度 小山工業高等専門学校校務分掌一覧表

平成18年11月 1日現在

◎副校長

副校長	重瀬 善彦
-----	-------

◎校長補佐・担当補佐

分掌	氏名等	校長補佐	担当補佐
教務担当	重瀬 善彦	川上 勝 弥	須 甲 克 也
			駒 組 虎 胤
			小 林 幸 夫
学生担当	※ 吉田 裕 志	※ 吉田 裕 志	石 崎 聡 之 司
			川 村 壮 司
			白 石 光 昭
寮務担当	※ 新井 一 道	※ 新井 一 道	井 上 次 夫
			鈴木 真ノ介

(※印:任期は平成20年3月31日まで)

◎学科長等

学 科 名	氏 名
一 般 科	中 田 伸 一
機 械 工 学 科	高 橋 大 輔
電 気 情 報 工 学 科	高 橋 大 輔
電 子 情 報 工 学 科	高 橋 大 輔
電 子 制 御 工 学 科	伊 藤 久 太 朗
物 質 工 学 科	高 橋 大 輔
建 築 学 科	山 本 貴 正

◎専攻科長・主任

専攻科長	専攻主任
尾立 弘史	電子システム工学専攻 土田 英一
	物質工学専攻 堀 成三
	建築学専攻 高橋 純一

(※印:任期は平成20年3月31日まで)

◎センター長

センター名	センター長
図書情報センター	※ 大嶋 謙 次
情報科学教育研究センター	※ 高 橋 大 輔
地域共同開発センター	齊 藤 光 司
ものづくり教育研究センター	田 中 好 一

(※印:任期は平成20年3月31日まで)

◎情報科学教育研究センター員

◎石原 学	◎玉木 正一
◎山口 繁夫	◎山崎 敬 剛
◎井手尾 光臣	◎平田 克 己
◎小林 康浩	◎田中 孝 国
◎佐藤 智一	◎大島 隆一

(◎印:情報ネットワーク室長)

(◎印:情報ネットワーク室主任)

◎地域共同開発センター員

◎佐藤 謙	◎島山 雅之
◎伊藤 伸	◎武 成 祥
◎漆 夏樹	◎飯島 清 弘
◎金野 茂男	◎山本 貴 正
◎糸井 康彦	

◎ものづくり教育研究センター員

◎川村 壮司	◎川越 大輔
◎今成 一 雄	◎高橋 大輔
◎鹿野 文久	

◎学級担任(○:学年主任)

学 科 名	学 年	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機 械 工 学 科		高田 英彦	佐藤 康	朱 勉	菊池 吉郎	山下 進
電 気 情 報 工 学 科		三原 大介	◎玉木 正一	甲斐 裕 幸	土田 英一	田中 昭 輝
電 子 制 御 工 学 科		上村 孝	有坂 夏 菜 子	金野 茂 男	渡邊 達 男	西 野 謙
物 質 工 学 科		石崎 聡之	酒入 陽 子	飯島 清 弘	堀 美 太 郎	笠原 いづみ
建 築 学 科		◎長谷川 誠	小野 雅一	山本 貴 孝	奥 夏 司 幸	高橋 純一

◎企画室

室 長	斎 藤 善 彦
室 員	齊 藤 光 司
＊	森 夏 樹
＊	尾立 弘 史
＊	川上 勝 弥
＊	駒 組 虎 胤
＊	小 林 幸 夫
＊	井 上 次 夫
＊	小 川 三 男

◎学生支援室

室 長	松 島 隆 裕
室 員	渡 邊 達 男
＊	酒 入 陽 子
＊	有 坂 夏 菜 子

◎キャンパス安全衛生管理室

室 長	鹿 野 文 久
室 員	山 本 高 孝
＊	森 田 英 章
＊	藤 田 智 子

◎地域連携室

室 長	武 成 祥	室 員	山 下 進
室 長 補 佐	中 山 光 幸	＊	佐 藤 節 夫
室 員	川 越 大 輔	＊	小 川 三 男
＊	田 中 孝 国	＊	北 毛 教 子
＊	高 橋 大 輔	＊	本 橋 宜 久
＊	松 島 隆 裕	＊	佐 藤 智 一
＊	酒 入 陽 子	＊	山 下 信

◎広報室

室 長	高 橋 大 輔	室 員	大 島 隆 一
＊	須 甲 克 也	＊	佐 藤 節 夫
＊	小 林 幸 夫	＊	川 本 信 次
＊	鈴木 真ノ介	＊	井手尾 光臣

◎入学者対策室

室 長	川 上 勝 弥
室 員	伊 藤 伸
＊	小 野 雅 一
＊	土 田 英 一

◎建路支援室

室 長	小 林 幸 夫
室 員	鹿 野 文 久
＊	菊 池 吉 郎
＊	土 田 英 一
＊	渡 邊 達 男
＊	堀 美 太 郎
＊	奥 富 利 幸

◎教育改善推進室

室 長	駒 組 虎 胤
室 員	渡 邊 達 男
＊	白 石 光 昭
＊	田 中 昭 輝

◎教育研究技術支援室

室 長	齊 藤 光 司	室 員	武 成 祥
室 員	酒 入 陽 子	室 員	山 本 貴 正
室 員	山 崎 敬 剛	室 員	上 村 孝
室 員	北 野 達 也	室 員	高 橋 大 輔
室 員	市 村 智 康		

(出典:平成18年度校務分掌資料)

資料5-4-②-1：校務分掌（2/2）

◎運営会議

校長	副校長	校長補佐 (教務担当)	校長補佐 (学生担当)	校長補佐 (設備担当)	専攻科長	一般科長	一般科長
機械学科長	電気学科長	電子学科長	物質学科長	建築学科長	図書センター長	情報センター長	共同センター長
ものづくりセンター長	注進室長	事務部長	総務部長	学生部長	技術室長		

◎委員会

委員会名	学科等 委員長等	校長補佐 (担当補佐) 等	一般科	機械工学科	電気情報 工学科	電子制御 工学科	物質工学科	建築学科	事務部
教務委員会	藤澤雄三	川上 勝 須甲 史 胸祖 虎 小野 雄一	上村 孝 小野 雄一 森田 英章	伊藤 悟	千田 正勝	笠原 隆人	糸井 康彦	高橋 大輔	川本 信次 新井たか子 日本 信次 藤田美紀
学生委員会	吉田 裕志	小林 幸夫 野文 久 石崎 穂之 川村 社司	森田 英章 有坂夏菜子	山下 進	田中 昭雄	西野 聡	飯島 道弘	山本 嘉幸	日本 信次 藤田美紀
事務委員会	新井 一浩	白石 充周 井上 次夫 鈴木 真ノ介	三原 大介 酒入 陽子	朱 勲	甲斐 隆章	金野 茂男	深美 太郎	奥富 利幸	川本 信次 山中 隆雄
専攻科 委員会	尾立 弘史	土田 英一 堤 欣三 高橋 純一	松島 隆裕	淵村 久規	土田 英一	鎌邊 達男	亀山 雅之 (堤 欣三)	高橋 純一	日本 信次
図書情報 センター 運営委員会	大嶋 建次	-----	佐藤 謙 壁田 洋一	菊地 吉郎	山田 晴希	久保 和良	川越 大輔	山本 昇	佐藤 節夫
情報科学教育 研究センター 運営委員会	南 斉清巳	石原 学	玉木 正一	山崎 敬剛	北野 達也	平田 克己	田中 孝国	大島 隆一	日本 信次 枝道 繁夫 山口 繁夫 川本 信次 技術室長 植木 忠司
地域共同 開発センター 運営委員会	斉藤 光司	-----	上村 孝	伊藤 悟	中山 光幸	金野 茂男	亀山 雅之 (糸井康彦)	山本 貴正	日本 信次 技術室長 植木 忠司
ものづくり教育 研究センター 運営委員会	田中 好一	-----	堀入 俊次	川村 壮司	今成 一雄	鹿野 文久	川越 大輔	高橋 大輔	日本 信次 技術室長 矢島 直樹 恵田 康男 佐藤 節夫 川本 信次
設備整備 委員会	猪瀬 善郎	藤澤 雄三 古田 裕志 新井 一浩	松島 隆裕 三原 大介	山崎 敬剛	甲斐 隆章	鹿野 文久	笹沼 いづみ	尾立 弘史	佐藤 節夫 川本 信次
国際交流 委員会	藤本 光宏	藤澤 雄三 古田 裕志 新井 一浩 尾立 弘史	中田 伸一 山本 昇 金野 茂男 山本 嘉幸	高田 勉 朱 勲 菊地 吉郎 渡邊 達男 西野 聡 飯島 道弘 奥富 利幸 恵田 康男 佐藤 節夫	高島 武雄 菊地 吉郎 山下 進 西野 聡 飯島 道弘 佐藤 節夫	森 夏樹 伊藤 久夫 甲斐 隆章 土田 英一 田中 昭雄 笹沼 いづみ	糸井 康彦 深美 太郎 深美 太郎 田中 昭雄 川本 信次	田中 昭雄 大島 隆一 山本 貴正	佐藤 節夫 小杉 得之 明石 康三
安全衛生 委員会 会 事	藤本 光宏	糸井 康彦	坂岡 守則夫	山崎 敬剛	北野 達也	久保 和良	糸井 康彦	山本 貴正	佐藤 節夫 小杉 得之 明石 康三
委員会 事	猪瀬 善郎	藤澤 雄三	古田 裕志	新井 一浩	尾立 弘史	恵田 康男	佐藤 節夫		
委員会 事	猪瀬 善郎	尾立 弘史	有坂 龍二	高島 武雄	今成 一雄	笠原 隆人	糸井 康彦	奥富 利幸	恵田 康男 佐藤 節夫
委員会 事	猪瀬 善郎	大嶋 建次	南 斉清巳	斉藤 光司	田中 好一	武 成祥			
委員会 事	猪瀬 善郎	佐藤 節夫	技術室長						
委員会 事	猪瀬 善郎	武 成祥	杉山 祥子	田中 好一	中山 光幸	鹿野 文久	飯島 道弘	大島 隆一	佐藤 節夫 小川 三男
委員会 事	猪瀬 善郎	猪瀬 善郎	藤澤 雄三	古田 裕志	新井 一浩	尾立 弘史	森 夏樹	胸祖 虎	土田 英一
委員会 事	猪瀬 善郎	山本 嘉幸	恵田 康男	佐藤 節夫	川本 信次				
委員会 事	猪瀬 善郎	高田 勉	菊地 吉郎	石原 学	伊藤 久夫	糸井 康彦	高橋 純一	森 夏樹	胸祖 虎
委員会 事	猪瀬 善郎	恵田 康男	佐藤 節夫	川本 信次					
委員会 事	猪瀬 善郎	尾立 弘史	猪瀬 善郎	藤澤 雄三	松島 隆裕	増崎 寿	土田 英一	渡邊 達男	
委員会 事	猪瀬 善郎	亀山 雅之	(深美太郎)	山本 嘉幸	恵田 康男	川本 信次			
委員会 事	猪瀬 善郎	南 斉清巳	山口 繁夫	井上 尾光臣	小林 康彦	佐藤 節夫	川本 信次		
委員会 事	猪瀬 善郎	石原 学	(文線管理者) 玉木正一	山崎 敬剛	北野 達也	平田 克己	田中 孝国	大島 隆一	
委員会 事	猪瀬 善郎	-----	長谷川 誠	田中 好一	鈴木 真ノ介	伊藤 久夫	吉田 裕志	大島 隆一	藤見 美智子 五郎丸 明子 大野 和隆 植木 忠司

(出典：平成18年度校務分掌資料)

資料 5 - 4 - ② - 2 : 支援室規程 (1 / 2)

小山工業高等専門学校学生支援室規則

制 定 平成13年1月15日

最終改正 平成16年4月1日

〈設置の目的〉

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生の様々な悩みに応えることにより、学生が本校において円滑な学生生活を送ることができるように、適切な助言及び援助等を行うこと（以下「学生支援」という。）を目的として学生支援室（以下「支援室」という。）を置く。

〈支援室の業務〉

第2条 支援室においては次に掲げる業務を行う。

- 一 修学に係る学生の個人的な相談・支援に関すること。
- 二 奨学金や学費等の経済的な問題の相談・支援に関すること。
- 三 進学や就職等の進路の相談・支援に関すること。
- 四 セクシュアル・ハラスメントの相談・支援に関すること。
- 五 学生の個人的な精神・心理的な心因性の問題の相談に関すること。
- 六 前各号の業務の実施に必要な資料の作成及び調査研究に関すること。
- 七 その他学生の相談・支援に関すること。

〈相談員〉

第3条 支援室には次の相談員を置く。

- 一 室長 1名
 - 二 カウンセラー 若干名
 - 三 室員 若干名
- 2 室長及び室員は、本校教員の中から校長が任命する。
- 3 カウンセラーは、カウンセリングに関する専門的知識や経験を有する者を当て、校長が委嘱する。

〈任期〉

第4条 室長の任期は2年とし、室員及びカウンセラーの任期は1年とする。

- 2 相談員は、これを再任することができる。

〈支援室業務の処理〉

第5条 室長は、校長の命を受け、支援室の業務を掌理する。

- 2 室員は室長を補佐し、支援室の業務に従事する。

〈相談員の義務〉

第6条 相談員は、業務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。相談員を退いた後といえども同様とする。

- 2 相談員は、必要に応じてカウンセリング等に関する専門的な研修を受けるものとする。

〈委員会の設置〉

第7条 支援室の運営に関する事項を審議するため、本校に学生支援室運営委員会（以下「委員会」という。）を置く。

〈委員会の組織〉

第8条 委員会は次の委員をもって組織する。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料5-4-②-2：支援室規程（2／2）

- 一 室長
- 二 室員
- 三 学生課長
- 四 学生係長
（委員長）

第9条 委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。

（会議）

第10条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

2. 委員長は、必要があると認めるときは委員以外の者を委員会に出席させることができる。

（事務）

第11条 支援室及び委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

（出典：平成18年度学生便覧）

資料5-4-②-3：支援室の利用

平成18年度 支援室の相談件数

勤務月	カウンセリング数
4月	0件
5月	1件
6月	6件
7月	5件
9月	1件
10月	0件
11月	0件
12月	0件
1月	0件
2月	0件

(出典：学生支援室資料)

資料5-4-②-4：交通安全教育研修会（1/2）

別紙1
27

平成18年度交通安全教育講習会実施要項（案）

1. 日 時 平成18年9月27日（水） 13時50分～16時10分
2. 場 所 小金井自動車学校（下野市柴255-2）
3. 目 的 本校学生の二輪車運転技術の向上及び交通事故防止
4. 対象者 通学生及び寮生
5. 講 師 栃木県小山警察署交通課他
6. 内 容

13:55	学校長訓辞
14:00	講師紹介
14:05	バイク点検
14:10	実 技（休憩時間10分間含む）
15:50	講 評
7. 申 込 通学生は、各クラスの選番もしくは代表学生が学生係に申し込む。
寮生は、各人が寮務係に申し込む。
平成18年9月15日（金）を申込締切とする。
8. 修了証 学校から交付する。
9. その他
 - （1）バイク・ヘルメット・手袋（軍手可）は、学生各自に持参させる。
 - （2）服装は、長袖・長ズボン・運動靴とし、サンダル履きでの受講は認めない。
 - （3）雨天時（小雨程度）でも実施する。
 - （4）定期試験最終日なので、授業等に支障なし。
 - （5）学校側の出席者
 - ①学生委員会 校長補佐（学）及び学生担当補佐
 - ②寮務委員会 校長補佐（寮）
 - ③事 務 学生課長・学生係長・寮務係長・学生主任

（出典：学生課資料）

資料5-4-②-4：交通安全教育研修会（2/2）

平成18年9月1日

学生各位

校長補佐（学生担当）

校長補佐（寮務担当）

平成18年度交通安全教育講習会の開催について

交通安全対策の一環として、二輪車の安全な乗り方の実技教育講習会を下記のとおり実施しますので、バイク通学許可者（通学生）及びバイク持込み許可者（寮生）は必ず受講してください。

記

日 時 平成18年9月27日(水)13時50分～16時10分
場 所 小金井自動車学校（下野市柴255-2）

自動車等による通学に関する規則（学生便覧からの抜粋）

（遵守事項）

第7条 車両通学の許可を受けた学生は、交通法規を遵守し常に安全運転に留意するほか、次の各号に掲げる事項を守らなければならない。

- 一 許可シールを他人に使用させないこと。
- 二 通学許可車両を他人との間で貸借しないこと。
- 三 二輪車で通学する場合は、必ずヘルメットを着用し、2人乗りはしないこと。
- 四 校内に乗り入れを許可された車両は、本校が指定した場所に駐車すること。
- 五 **本校が行う交通安全教育の講習を受けること。**
- 六 許可シールを紛失または汚損したときは、学生係にすみやかに届け出て再交付を受けること。
- 七 車両の校内通行は、登校及び下校時のみとし、徐行運転すること。

（出典：学生課資料）

資料 5 - 4 - ② - 5 : 学生会規約

28

(1) 学生会規約

第 1 章 総 則

- 第 1 条 本会は、学生準則第21条に基づくもので、小山工業高等専門学校学生会と称する。
- 第 2 条 本会は、学校の教育方針にのっとり、学生の自発的な活動を通してその人間形成を助長し、相互の親和と尊厳に努め、学生生活の向上を図ることを目的とする。
- 第 3 条 本会は、本校の学生全員をもって構成し、教員を顧問とする。
- 第 4 条 校長補佐（学生担当）及び本会の顧問教員は、総会、評議会等の各種会議に出席して本会の運営、活動について指導助言することができる。
- 第 5 条 会員は、学年を問わず会員としての平等な権利を持つとともに、その責任と義務を負わなければならない。
- 第 6 条 本会の活動は、総会の承認を得た予算及び事業計画に基づいて実施するものとする。

第 2 章 役 員

- 第 7 条 本会に次の役員を置く。
会長、副会長、会計局長、渉外局長、広報局長、庶務局長。
- 第 8 条 役員は、4月1日から3月末日までとし、欠員補充などによって任命された役員は任期は前任者の在任期間とする。（なお、1～3月は引継ぎ期間とし、新旧役員は協力して活動を行う）
- 第 9 条 会長は、本会を代表し、会務を執行する。
- 第 10 条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時はこれに代わる。
- 第 11 条 会長及び副会長は、全会員の選挙により選出し、校長の承認を受ける。

第 2 節 会 計 局 員

- 第 12 条 会計局員は、次のことをつかさどる。
一 学生会の予算案及び決算書の作成
二 決算及び会計監査に必要な書類の整備
三 その他、会計に関する事務
- 第 13 条 会計局員は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。
- 第 3 節 渉 外 局 員
- 第 14 条 渉外局員は、次のことをつかさどる。

- 一 他校学生会との情報交換
 - 二 学生会に届く各種書類の処理
 - 三 その他、渉外に関する事務
- 第 15 条 渉外局員は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第 4 節 広 報 局 員

- 第 16 条 広報局員は、次のことをつかさどる。
一 学生会活動の会員への報告
- 二 広報委員会との連絡、機関新聞の発行
- 三 その他、広報に関する事務

第 17 条 広報局員は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第 5 節 庶 務 局 員

- 第 18 条 庶務局員は、次のことをつかさどる。
一 学生総会及び各種運営委員会の記録
- 二 各種実行委員会、各部との連絡、調整
- 三 その他、庶務に関する事務

第 19 条 庶務局員は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。

第 20 条 庶務局員は、本会の主要行事に関する記録（写真を含む）を資料として保存しておくなければならない。保存する記録の基準は、次のとおりとする。

- 一 役員名簿
- 二 規約約、予算決算報告書、事業計画及び同報告
- 三 各部の対外試合、発表会等の記録
- 四 文化祭等本会が実施した行事の記録
- 五 その他、本校の学生関係行事の記録

第 3 章 機 関

第 21 条 本会の目的を達成するため、次の機関を置く。

- 一 総 会
 - 二 評議会
 - 三 執行部
 - 四 実行委員会
 - 五 監査委員会
- 第 1 節 総 会
- 第 22 条 総会は、本会の最高決議機関である。

(出典：平成18年度学生便覧p.106, 107)

資料 5-4-②-6 : クラブ顧問一覧表

(参考)

平成18年度 学生会各部指導教員一覧

部 名 (体育部)	指 導 教 員
硬式野球部	川上勝弥・山本嘉孝・玉木正一・有坂顕二・土田英一 高島武雄・山下 進・山田靖幸
柔道部	高橋純一・島田 勉・今成一雄・川村荘司・千田正勝・市村晋康
剣道部	塩入俊次・有坂夏菜子・笠原雅人・亀山雅之・小林幸夫・小林一光
陸上競技部	三原大介・土田英一・瀧美太郎・田中好一・甲斐隆章
卓球部	渡利久規・宇津木晨晴・胸組虎胤・大嶋建次・中田伸一・北野達也
バスケットボール部	須甲克也・武 成祥・小野雄一・山本 昇・久保和良・菊池吉郎・中山光幸
サッカー部	石崎聡之・伊澤 悟・南斉清巳・高橋大輔・白石光昭・平田克己
バレーボール部	佐藤 敏・尾立弘史・田中孝国・奥富利幸・石原 学・山本貴正
ワンダーフォーゲル部	糸井康彦・堤 欣三・須甲克也・増淵 寿・金野茂男・伊藤久夫
水泳部	鹿野文久・長谷川 誠・笹沼いづみ・飯島道弘・新井一道
空手道部	瀧澤雄三・酒入陽子・新井一道・杉山桂子・笹沼いづみ・森田英章
テニス部	鈴木真ノ介・吉田裕志・田中昭雄・西野 聰・大島隆一・井上次夫・川越大輔
バドミントン部	小野雄一・渡邊達男・斉藤光司・松島隆裕・山崎敬則
ソフトテニス部	朱 勤・白石光昭・祇園寺則夫・森 夏樹

部 名 (文化部)	指 導 教 員
吹奏楽部	柴田洋一・猪瀬善郊・田中孝国・柴田美由紀
写真部	山下 進・森 夏樹・田中昭雄
軽音楽部	松島隆裕・小林幸夫・久保和良
シネマ研究部	松島隆裕・小林幸夫・柴田美由紀・笠原雅人
エレクトロニクス研究部	今成一雄・平田克己・南斉清巳
機械工作研究部	山下 進・伊澤 悟・増淵 寿・田中昭雄
自然生物研究部	上村 孝・浦田克郎
文芸部	松島隆裕・柴田美由紀・瀧美太郎






部 名 (同好会)	指 導 教 員
ビデオゲーム研究同好会	平田克己
将棋同好会	山本嘉孝・島田 勉・笠原雅人・胸組虎胤・高島武雄

部 名 (愛好会)	指 導 教 員
弓道愛好会	有坂顕二
女子サッカー愛好会	飯島道弘
ハンドベル愛好会	杉山桂子・酒入陽子・柴田洋一
二次創作研究会	朱 勤
航空技術研究愛好会	朱 勤

※この一覧表は参考に掲載したものであり、平成19年度の各部指導教員は変更があることもあります。

資料 5 - 4 - ② - 7 : 施設利用願

※ 印を捺印


校 長	校長補佐 (学生担当)	学生課長	学生係長	学 生 係	学級担任
					

平成 18 年 4 月 4 日

施設・設備使用願

小山工業高等専門学校長 殿

クラブ等名 バスケットボール部

指導教員氏名 須 甲 克 也 

クラブ等責任者

所属・氏名 _____

下記のとおり施設・設備を使用したいので、ご許可くださるようお願いいたします。
ただし、学生主事が許可内容の変更を必要と認める場合は、それに従います。

記

1 使用施設・設備 第1体育館 (西側半面 ; 玄関側の半面)

2 使用目的 バスケットボール部練習

3 使用日時 自：平成18年 4月 5日 (水曜日)

至：平成19年 3月 31日 (土曜日)

学校行事等で第1体育館を使用する場合、そちらを優先します。

また、右記時間帯を超えて活動する場合や、新入部員が増え、使用メンバーが変わる場合には、再度、使用願を提出し直します。

月曜日	放 課 後 ~ 20時30分 (授業がない場合 8時30分 ~ 14時00分)
火曜日	放 課 後 ~ 20時30分 (授業がない場合 8時30分 ~ 14時00分)
水曜日	放 課 後 ~ 20時30分 (授業がない場合 8時30分 ~ 14時00分)
木曜日	放 課 後 ~ 20時30分 (授業がない場合 8時30分 ~ 14時00分)
金曜日	放 課 後 ~ 20時30分 (授業がない場合 8時30分 ~ 14時00分)
土曜日	8時30分 ~ 14時00分
日曜日	時 分 ~ 時 分

4 使用人数 20 人

※ 提出期限 使用予定日の1週間前までに学生係に提出

(出典：学生課資料)

資料 5 - 4 - ② - 8 : 人間性についてのアンケート

小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。(5年生を対象)

設問内容	全くその通りであ	かなりそ	普通	あまりそう	ない	無効回答	合計	当該平均
「豊かな人間性」が身についた。	25	45	69	10	16	0	165	3.3
「豊かな感性」が身についた。	32	45	67	9	12	0	165	3.5

小山高専卒業生の資質・能力

入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修生)の資質・能力についてご質問致します。

設問内容	全くその通りである	かなりそ	普通	あまりそう	ない	無効回答	合計	当該平均
感性や創造力が豊かである。	2	16	20	0	0	2	40	3.5
御社・貴学にふさわしい人間性を有している。	9	20	8	0	0	3	40	4

(出典：平成19年自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

生活指導面では学級担任を中心とした学生支援体制が整っており、学生の生活指導を行っている。悩みや不安を抱える学生に対しては、学生支援室が組織されると共にカウンセラーが週2回(月・水曜日)来校し、学生の相談に乗ることで不安や悩みの解消に努めている。この他にも、通学で車両を使用する学生に対して実技実習を義務づけて交通安全に関する知識と技術を身につけてもらい安全に通学できるよう配慮している。また、学生組織である学生会が存在し、規約に従って活発な課外活動がなされている。就職先の企業と5年生に行ったアンケート調査の結果、共に3以上の評価を得ており、人間の素養の涵養が図られている。

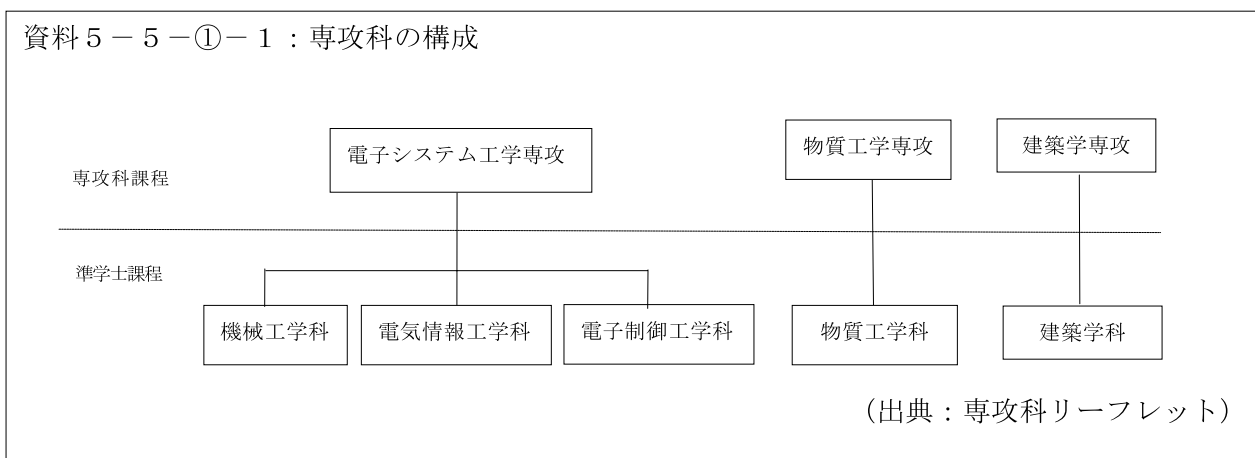
<専攻科課程>

観点 5-5-①： 準学士課程の教育との連携を考慮した教育課程となっているか。

(観点に係る状況)

本校の各学科の準学士課程の4、5学年と専攻科課程とで構成される技術者教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けている。本校の専攻科は、機械工学科、電気情報工学科、電子情報工学科の3学科を基礎とする「電子システム工学専攻」、物質工学科を基礎とする「物質工学専攻」と建築学科を基礎とする「建築学専攻」の3専攻より構成されている（資料5-5-①-1）。技術者教育プログラムの修了要件を（資料5-5-①-2）に示す。この技術者教育プログラムの、準学士課程の4、5学年と専攻科課程の授業科目の流れについて、「電子システム工学専攻」の機械系、電気系、電子制御系を（資料5-5-①-3～5）に、「物質工学専攻」を（資料5-5-①-6）に、「建築学専攻」を（資料5-5-①-7）に示す。

資料 5-5-①-1：専攻科の構成



資料 5 - 5 - ① - 2 : 技術者教育プログラムの学習・教育目標、履修および終了要件

2) 技術者教育プログラムの学習・教育目標、履修および修了要件

(1) 技術者教育プログラム名 :

複合工学系 (電子システム工学専攻、物質工学専攻、建築学専攻)

(2) 教育プログラムの学習・教育目標

本校技術者教育プログラムは、高専本科 (4年、5年) 教育プログラムと専攻科教育プログラムから成る継続的な教育プログラムであり、プログラムの学習・教育目標は以下のとおりである。

- (A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。
- (A-1) 科学や工学の基本的原理や法則の基礎知識を身につけること。
 - (A-2) 基礎知識を専門工学分野の問題に応用して解くことができること。
 - (A-3) 専門分野の課題や問題点を考えるとともに、問題解決の目的と方法を明らかにして自主的に研究を進めることができること。
- (B) 技術者としての素養を身につける。
- (B-1) 実験や観察、調査、製作を自ら行い、データ採取や解析、考察を通して結論を導くことができること。
 - (B-2) 数学の知識と、数学と工学をつなぐ基礎的知識を身につけること。
 - (B-3) 技術的課題に広く関心をもち、課題や問題を解決するための全体のプロセスを考察して具現化 (デザイン) することができること。
- (C) 技術と自然や社会とのかかわりを理解する。
- (C-1) 工業技術が自然や社会環境に与える影響を認識でき、資源やエネルギー、環境を考慮した技術を指向できるようになること。
 - (C-2) 社会・経済と技術の共生の可能性を把握、理解することができること。
 - (C-3) 工業技術者としての社会的責任や倫理観を自覚できること。
- (D) コミュニケーション能力を身につける。
- (D-1) 言語の知識を習得すると同時に、語学力や会話力を身につけること。
 - (D-2) 研究調査や実験の計画を立て、実施し、結果をまとめ、それを口頭で発表して質疑応答ができること。
 - (D-3) 実社会の中で体験したことについて、自分の考えをまとめて発表、報告することができること。
- (E) 国際的な感覚を身につける。
- (E-1) 外国の文化や価値観について知り、国際性を身につけること。
 - (E-2) IT社会やネットワーク社会の国際的な構造や問題点を理解することができること。
 - (E-3) 国際的な情報化社会の中で有用な情報を入手して、問題解決のための分析や考察に活用することができること。

(3) 教育プログラムの履修対象者

本教育プログラムは、**本科4年、5年および専攻科1年、2年間のカリキュラム**で構成されており、本専攻科に入学した者は教育プログラムの履修対象者となる。

(4) 教育プログラムの修了要件

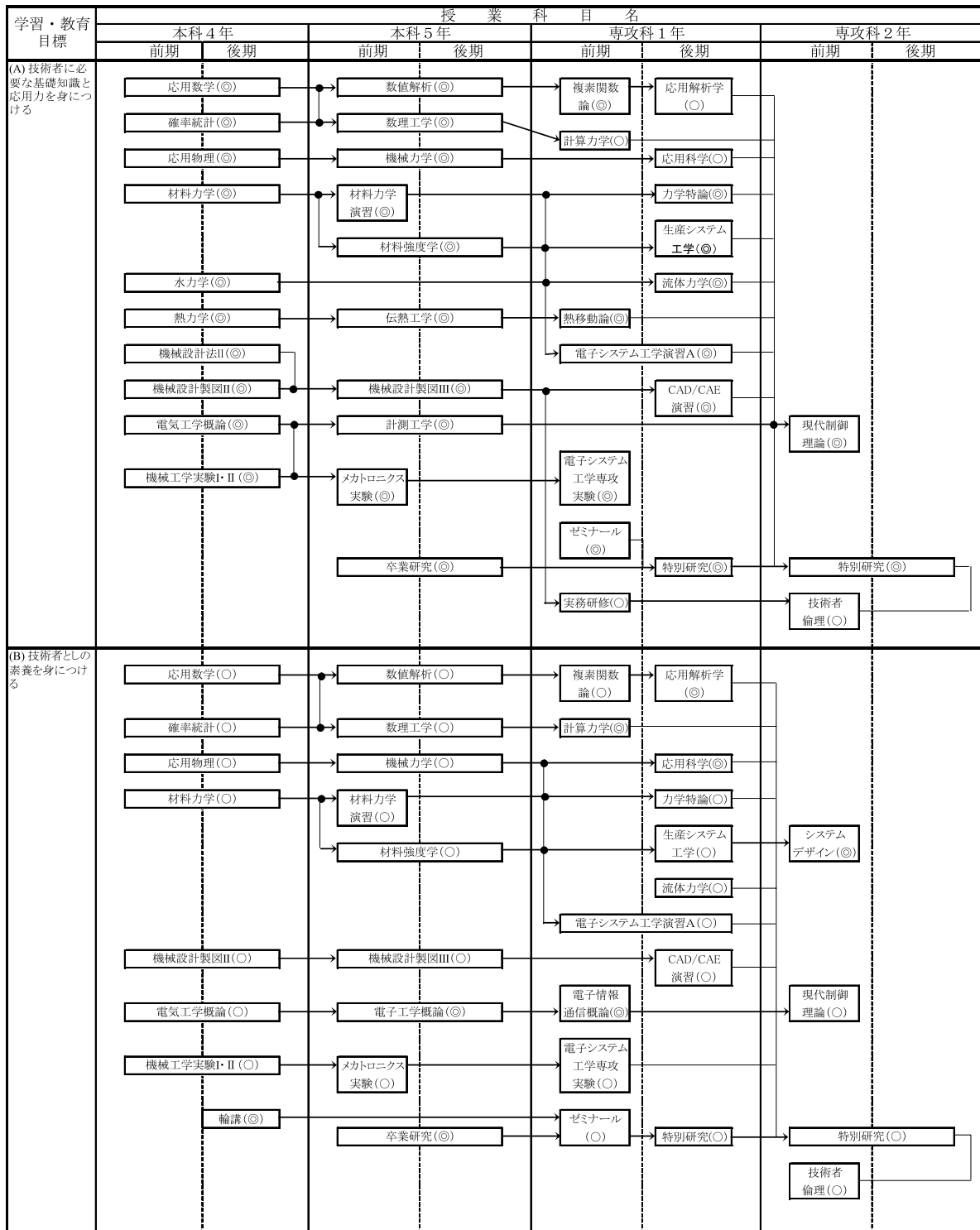
- ① 学士の学位を取得すること。
- ② 専攻科において62単位以上修得し、専攻科を修了すること。
- ③ 専攻科および本科4、5年を含めて計124単位以上修得すること。
- ④ 専攻科および本科4、5年において1800時間以上の総学習時間を経ていること。
その中には、250時間以上の人文科学・社会科学等 (語学教育を含む) の学習、250時間以上の数学・自然科学・情報技術の学習、および900時間以上の専門工学分野に関する学習の各学習時間を含んでいること。
- ⑤ 専攻科および本科4、5年において、プログラムが設定する次の基礎工学に関する科目群の中から少なくとも1科目、合計6科目以上の単位を修得すること。
 - ①設計・システム系科目群、②情報・論理系科目群、③材料・バイオ系科目群、④力学系科目群、⑤社会技術系科目群、⑥プログラムが指定する下記の必修科目 (⑤と⑥は、どちらか1科目選択でもよい) 10単位 (5科目) 以上修得すること。
 - ① システムデザイン、②環境技術、③技術者倫理、④経営工学、⑤電子情報通信概論、⑥工学システム概論

(注) 上記 (2) の「・・・、専攻科を修了すること。」には、本技術者教育プログラムの修了を必要とする。

(出典 : 平成 18 年度専攻科履修の手引き p. 2-3)

資料5-5-①-3 1/2 : 電子システム工学専攻 (機械工学科)

表6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [電子システム専攻(機械系)]



(出典：JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-3 2/2 : 電子システム工学専攻 (機械工学科) (続き)

表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [電子システム専攻(機械系)]

学習・教育 目標	授 業 科 目 名									
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年			
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期		
(C) 技術と自然や 社会とのかかわり を理解する。		歴史学(O)								
		哲学(O)								
		電気工学概論(O)					応用科学(O)			
		水力学(O)						経営工学(O)		
		熱力学(O)		伝熱工学(O)		熱移動論(O)			環境技術(O) エネルギー工学(O)	
		機械設計法II(O)		機械設計製図III(O)		機構設計論(O)		システム デザイン(O)		
				技術論(O)				技術者 倫理(O)		
						実務研修(O)				
	(D) コミュニケー ション能力を身に つける。		文学(O)		人間と科学I・II(O)		日本語 概説(O)		経営工学(O)	
			英語演習I(O)				応用英語1・2(O)		システム デザイン(O)	
		ドイツ語I・II(O)								
		輪講(O)				ゼミナル(O)				
				卒業研究(O)			特別研究(O)		特別研究(O)	
						実務研修(O)				
(E) 国際的な感 覚を身につける。		文学(O)		人間と科学I・II(O)		日本語 概説(O)				
		歴史学(O)								
		英語演習I(O)				応用英語1・2(O)				
		ドイツ語I・II(O)								
		輪講(O)				ゼミナル(O)				

(出典：JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-4 : 電子システム工学専攻 (電気情報工学科)

表6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ[電子システム工学専攻(電気系)]

学習・教育目標	授 業 科 目 名								
	本科4年		本科5年		専攻科1年		専攻科2年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(A)技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける。	電気回路Ⅱ(◎) 制御工学(◎) 電子回路(◎) 電子物性(◎) メカトロニクス(◎) 情報工学Ⅲ(◎) 電子計算機(◎) 電子デバイス工学(◎)		デジタル回路(O) 電気材料(O) 光応用計測(O) 情報理論(◎) 生体工学(O) 信号処理(O) 電気材料(O)		電機システム制御(O) システム制御論(O) 電機システム工学(◎) 電磁エネルギー工学(◎) 卒業研究(◎) 電気電子工学演習Ⅱ(O) 確率統計(◎) 応用数学(◎) 応用物理(O)		ネットワーク構成論(O) 情報伝送工学(O) 固体電子論(O) 光制御工学(O) 電気材料特論(O) 電子システム工学専攻実験(O) プレゼンテーション論(O) 電子システム工学演習B(O) 実務研修(◎) ゼミナール(◎) 特別研究(◎) 複素関数論(◎) 応用解析学(◎) 応用科学(O)		エネルギー変換応用工学(O) パワーエレクトロニクス(O) 生体情報解析学(O) 画像情報解析学(O) 光デバイス工学(O) 電気磁気学特論(O) 特別研究(◎) 技術者倫理(O)
(B)技術者としての素養を身につける。	情報工学Ⅲ(O) 電磁伝送工学(◎) 電磁工学実験(◎) 情報工学実験(◎) 物性工学実験(◎) 電子計測(O)		電気磁気学Ⅱ(O) オペレーティングシステム(◎) 情報理論(O) 電磁波工学(◎) マルチメディア工学(O) 情報ネットワーク論(O) 画像工学(O) 数値計算法(◎) 集積回路設計(O) 人工知能(O) 情報デバイス工学(O) 電磁工学実験(◎) 電気工学実験(◎) 物性工学実験(◎)		電子情報通信概論(◎) ネットワーク構成論(O) 電子システム工学演習B(O) 電子システム工学専攻実験(O) 特別研究(◎) 応用科学(O)		特別研究(◎) 特別研究(◎) システムデザイン(O) 技術者倫理(O)		
(C)技術と自然社会とのかかわりを理解する。	制御工学(O) 電気回路(O) 電子回路(O) 電子物性(O) 電気機器工学(O) 電磁工学実験(O) 情報工学実験(O) 物性工学実験(O)		光応用計測(O) 電力システム工学(O) 電磁環境工学(◎) 電気法規(O) 電磁工学実験(O) 情報工学実験(O) 物性工学実験(O) 卒業研究(◎)		電機システム制御(O) システム制御特論(O) 固体電子論(O) 光制御工学(O) 電気材料特論(O) 電気システム工学専攻実験(O) 特別研究(◎) 特別研究(◎) 応用科学(O)		エネルギー変換応用工学(O) パワーエレクトロニクス(O) 光デバイス工学(O) 電気磁気学特論(O) 特別研究(◎) 特別研究(◎) 経営工学(◎) システムデザイン(O) 技術者倫理(O) 環境技術(◎)		
(D)コミュニケーション能力を身につける。	電子計測(O)		電気電子工学演習Ⅱ(O)		電子システム工学専攻実験(O) 実務研修(◎) プレゼンテーション論(O) ゼミナール(◎) 特別研究(◎)		生体情報解析学(O) 画像情報解析学(O) 光デバイス工学(O) 特別研究(◎) 特別研究(◎) システムデザイン(O) 技術者倫理(O)		
(E)国際的な感覚を身につける。			卒業研究(O) 工業英語(◎)		ゼミナール(◎) 特別研究(◎)		特別研究(◎) 特別研究(◎)		

(出典：JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-5 1/2 : 電子システム工学専攻 (電子制御工学科)

表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [電子システム専攻 (電子制御系)]

学習・教育目標	授業科目名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(A) 技術者に必要な基礎知識と応用力を身につける	確率統計(◎)					複素関数論(◎)	応用解析学(◎)	技術者倫理(◎)
	応用数学(◎)						応用科学	
	応用物理Ⅲ(◎)	応用物理Ⅳ(◎)		量子工学(学)	電子工学特論		力学特論	
	電磁気学Ⅲ	電磁気学Ⅳ	電磁工学Ⅰ	電磁工学Ⅱ				電磁エネ工学
	電気回路Ⅲ	電気回路Ⅳ	応用電子工学Ⅰ	応用電子工学Ⅱ				
	通信工学Ⅰ(◎)	通信工学Ⅱ(◎)						
	電子工学Ⅰ(◎)	電子工学Ⅱ(◎)	物性工学Ⅰ	物性工学Ⅱ				光波応用工学
	電子回路Ⅲ			デジタル工学(学)	電子回路特論			
	計測工学Ⅰ(◎)	計測工学Ⅱ(◎)	応用制御工学Ⅰ	応用制御工学Ⅱ		計測システム論		
	制御工学Ⅰ	制御工学Ⅱ	制御工学Ⅲ(学)					
			制御工学Ⅳ	制御工学Ⅴ		システム同定論		
			システム工学Ⅰ	システム工学Ⅱ				
	ソフトウェア工学Ⅰ	ソフトウェア工学Ⅱ	ソフトウェア工学Ⅲ	ソフトウェア工学Ⅳ		計算機応用論		
			情報工学Ⅰ	情報工学Ⅱ		情報科学		
	工学実験(◎)		工学実験(◎)		電子シス実験			
			輪講Ⅰ(◎)	輪講Ⅱ(◎)	電子システム工学演習 B(◎)			
				卒業研究(◎)	ゼミナール(◎)			特別研究(◎)
	(B) 技術者としての素養を身につける	哲学						
保健体育Ⅰ			保健体育Ⅰ	保健体育Ⅱ				
確率統計						応用科学		
応用数学								
			物性工学Ⅰ	物性工学Ⅱ	電子情報通信概論			
			電子回路Ⅲ		電子工学特論			
			計測工学Ⅰ	計測工学Ⅱ				
ソフトウェア工学Ⅰ			ソフトウェア工学Ⅲ		計算機応用論			
			制御工学Ⅲ(学)		システム同定論			
			システム工学Ⅱ	システムデザイン(◎)	工学システム概論			
工学実験			工学実験		電子シス実験(◎)			
			輪講Ⅰ	輪講Ⅱ	電子システム工学演習 B			
			卒業研究(◎)	ゼミナール(◎)				
				実務研修			特別研究(◎)	

(出典：JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-5 2/2 : 電子システム工学専攻 (電子制御工学科) (続き)

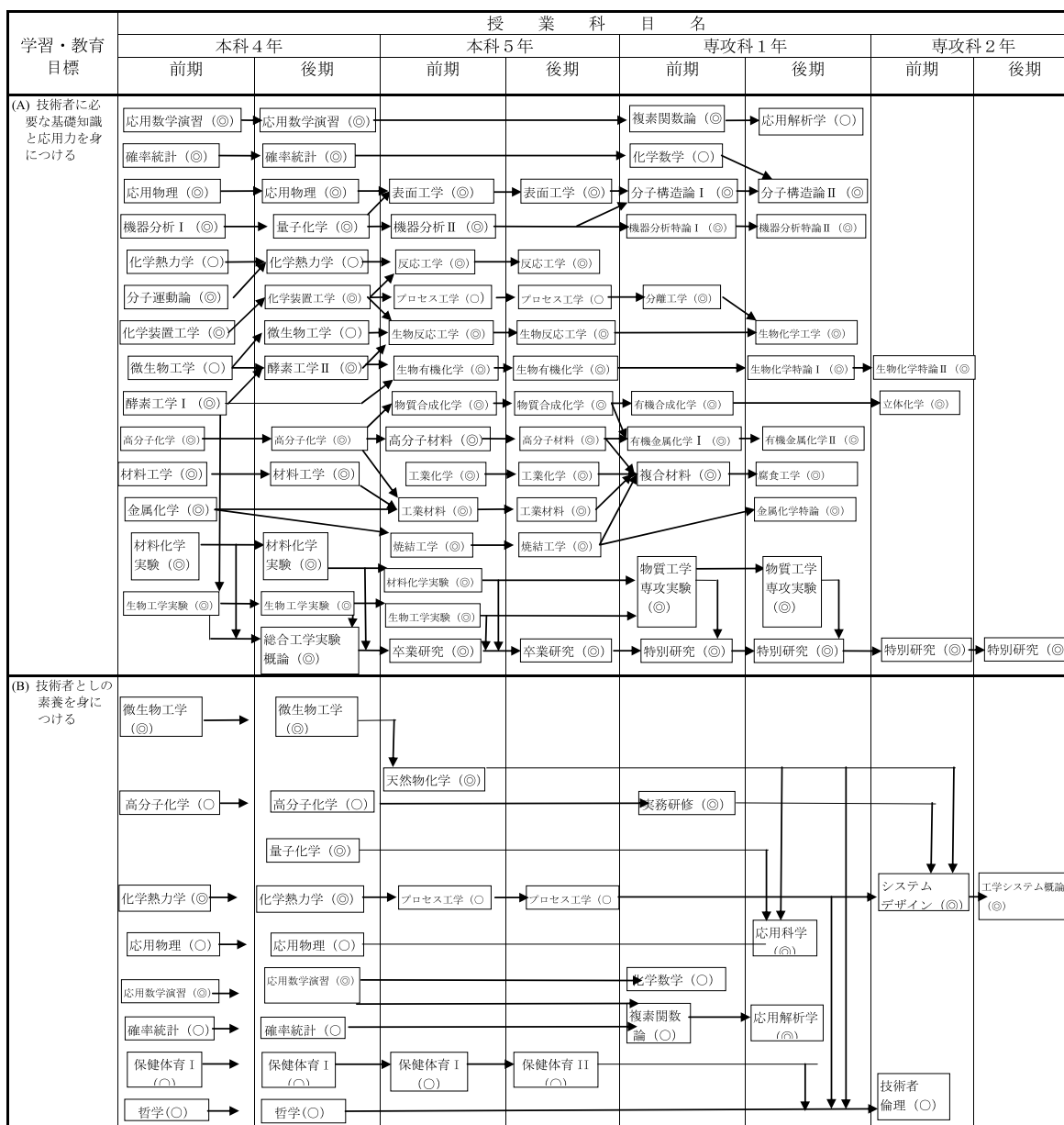
表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [電子システム専攻 (電子制御系)]

学習・教育目標	授業科目名							
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
(C) 技術と自然や社会とのかかわりを理解する。	歴史学 哲学	応用物理Ⅲ → 応用物理Ⅳ ソフトウェア工学Ⅱ	人間と科学Ⅰ (倫理学) 人間と科学Ⅰ (社会学) 人間と科学Ⅰ (法学) 人間と科学Ⅰ (経済学) 人間と科学Ⅰ (歴史学)	人間と科学Ⅱ (中国古典) 人間と科学Ⅱ (政治学) 人間と科学Ⅱ (法学) 人間と科学Ⅱ (経済学) 人間と科学Ⅱ (歴史学)	複素関数論(◎) 実務研修	環境技術 計測システム論 力学特論 応用科学 応用解析学(◎) 情報科学	技術者倫理 システムデザイン(◎) 電磁エネ工学 経営工学	
(D) コミュニケーション能力を身につける。	文学 歴史学 保健体育Ⅰ ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 英語演習Ⅰ		人間と科学Ⅰ (人文地理学) 保健体育Ⅰ	人間と科学Ⅱ (中国古典) 保健体育Ⅱ	応用英語Ⅰ 日本語概説 実務研修(◎)	応用英語Ⅱ 特別研究(◎)	経営工学 技術者倫理(◎) システムデザイン(◎) 特別研究(◎)	
(E) 国際的な感覚を身につける。	文学 ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ 英語演習Ⅰ		人間と科学Ⅰ (人文地理学) 人間と科学Ⅰ (人文地理学) 人間と科学Ⅰ (人文地理学) 人間と科学Ⅰ (人文地理学)	人間と科学Ⅰ (人文地理学) 人間と科学Ⅰ (人文地理学) 人間と科学Ⅰ (人文地理学) 人間と科学Ⅰ (人文地理学)	応用英語Ⅰ 特別研究(◎)	応用英語Ⅱ 特別研究(◎)	特別研究(◎)	

(出典 : JABEE 自己点検書)

資料 5 - 5 - ① - 6 1 / 2 : 物質工学専攻 (物質工学科)

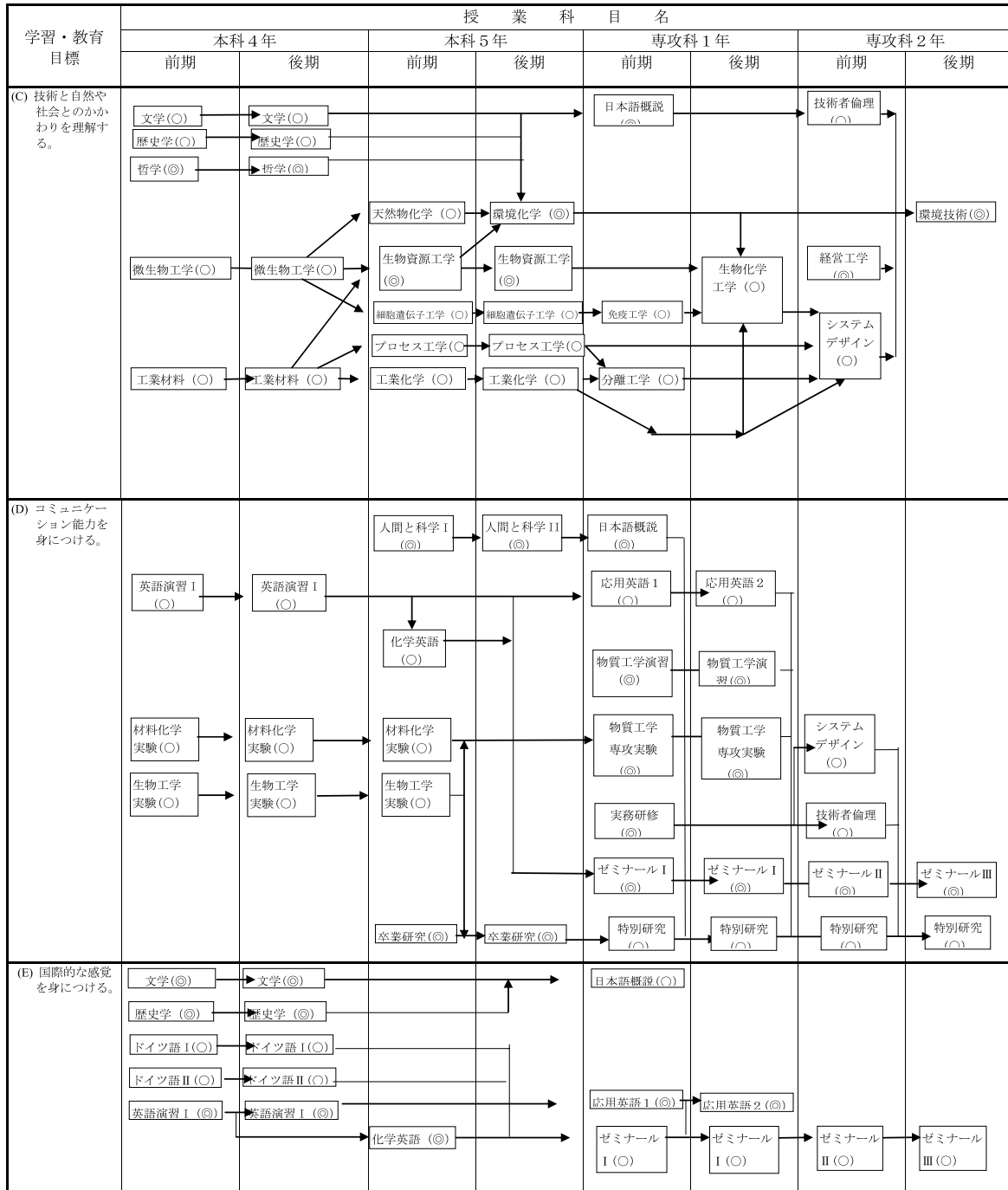
表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [物質工学専攻]



(出典 : JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-6 2/2 : 物質工学専攻 (物質工学科) (続き)

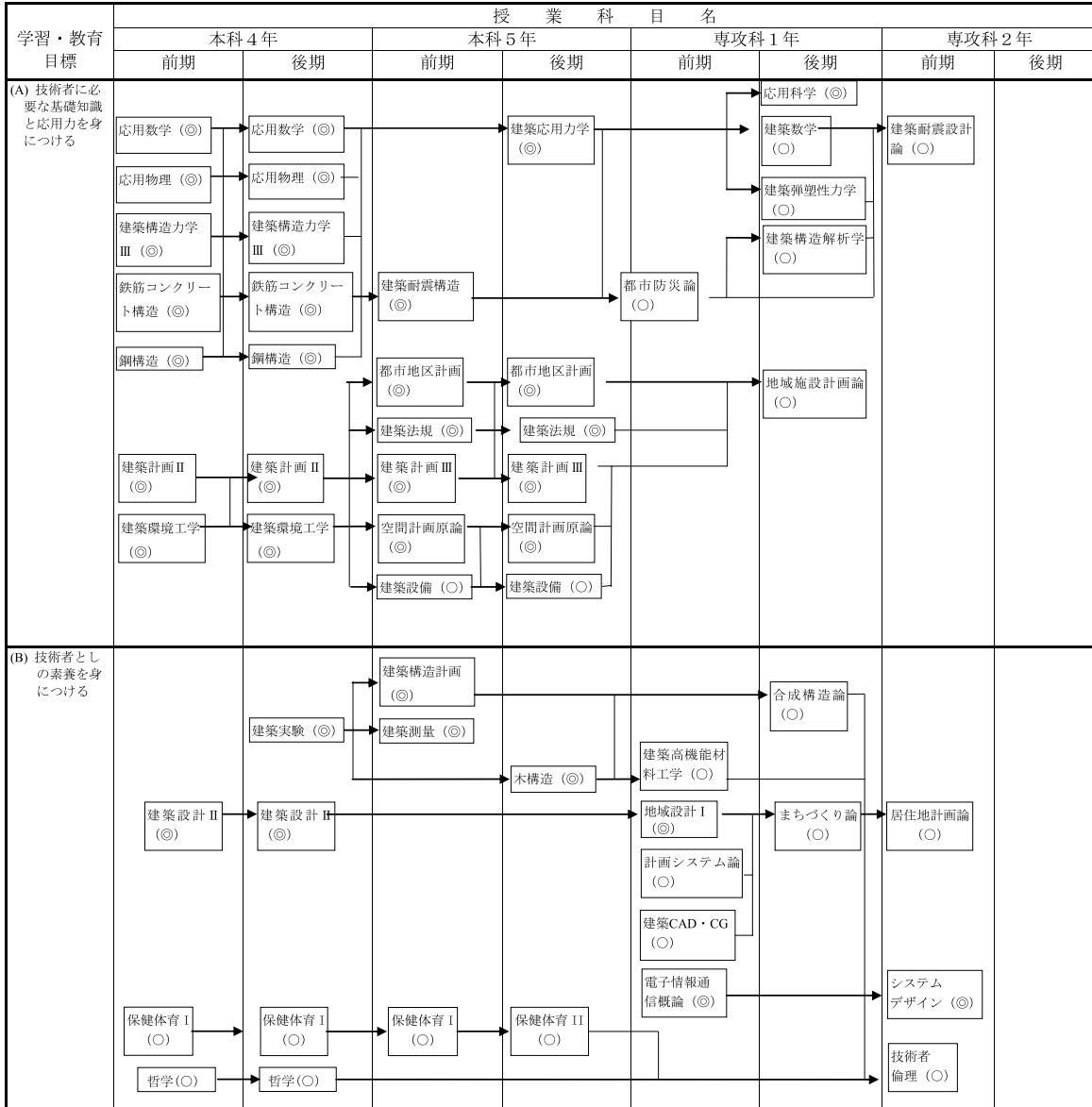
表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [物質工学専攻]



(出典：JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-7 1/2 : 建築学専攻 (建築学科)

表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [建築学専攻]



(出典：JABEE 自己点検書)

資料 5-5-①-7 2/2 : 建築学専攻 (建築学科) (続き)

表 6 学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ [建築学専攻]

学習・教育 目標	授 業 科 目 名								
	本科 4 年		本科 5 年		専攻科 1 年		専攻科 2 年		
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
(C) 技術と自然や 社会とのかかわりを理解する。	鉄筋コンクリート構造 (◎)	鉄筋コンクリート構造 (◎)	建築施工 (○)	建築施工 (○)	建築高機能材料工学 (○)				
		建築実験 (◎)	建築耐震構造 (◎)		都市防災論 (○)	建築構造解析学 (○)	建築耐震設計論 (○)		
			建築法規 (◎)	建築法規 (◎)		まちづくり論 (○)	居住地計画論 (○)		
			建築計画Ⅲ (◎)	建築計画Ⅲ (◎)					
	建築環境工学 (◎)	建築環境工学 (◎)	建築設備 (○)	建築設備 (○)					
			空間計画原論 (◎)	空間計画原論 (◎)					
	文学 (○)	文学 (○)			実務研修 (○)		経営工学 (○)		
	歴史学 (○)	歴史学 (○)					システムデザイン (◎)		
	哲学 (◎)	哲学 (◎)			日本語概説 (◎)		技術者倫理 (○)		
								環境技術 (◎)	
(D) コミュニケーション能力を身につける。	英語演習 I (○)	英語演習 I (○)	人間と科学 I (◎)	人間と科学 II (◎)	日本語概説 (◎)	応用英語 1 (◎)	応用英語 2 (◎)		
	建築設計 II (◎)	建築設計 II (◎)			地域設計 I (◎)	地域設計 II (◎)			
		建築実験 (◎)							
			卒業研究 (◎)	卒業研究 (◎)		特別研究 (○)	特別研究 (○)	特別研究 (○)	
(E) 国際的な感覚を身につける。	文学 (◎)	文学 (◎)			日本語概説 (○)				
	歴史学 (◎)	歴史学 (◎)							
	ドイツ語 I (○)	ドイツ語 I (○)							
	ドイツ語 II (○)	ドイツ語 II (○)							
	英語演習 I (◎)	英語演習 I (◎)			応用英語 1 (◎)	応用英語 2 (◎)			
	建築史 (◎)	建築史 (◎)	現代建築論 (○)	近代建築思潮史 (○)			文化財保存論 (○)		

(出典 : JABEE 自己点検書)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科修了要件として、準学士課程の4、5学年と専攻科の教育課程で構成される本校設定の技術者教育プログラムの修了を必要としている。この技術者教育プログラムは、日本技術者教育認定機構によって、準学士課程4年から専攻科課程に至る一貫した教育として認定されている。したがって、準学士課程と専攻科課程との教育課程が連携を考慮したものであるといえる。

観点5-5-②： 教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置（例えば、必修科目、選択科目等の配当等が考えられる。）され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものになっているか。

(観点到に係る状況)

本校の専攻科には、電子システム工学専攻、物質工学専攻、建築学専攻の3専攻があり、準学士課程で修得した知識を基にして、より高度な教育・研究指導を行っている。特に専攻科課程では各学科で学んだ専門分野だけでなく、異分野にも積極的にふれ、幅広い分野に対応できる人材を育成することをめざしたカリキュラム設計を行っている。専攻科課程には、一般科目、専門共通科目、専門科目があり、一般科目では人文・社会学系科目、専門共通科目で異分野の専門科目、専門科目では準学士課程で学んだ分野についてより高度な内容の専門科目を学ぶ。専攻科課程の学習・教育目標を達成するために必要な教育方針（資料1-1-①-3：既出）と専攻別の教育目的（資料1-1-①-5：既出）を示す。各専攻の授業科目が適切に配置され体系性が保たれていることを示すため、学習・教育目標の各項目に分類した授業科目の流れを、電子システム工学専攻（資料5-5-②-1）、物質工学専攻（資料5-5-②-2）、建築学専攻（資料5-5-②-3）ごとに示す。

全専攻において、「特別研究」を必修科目に、「実務研修」を電子システム工学専攻および物質工学専攻の2専攻で必修科目としており、建築学専攻では選択科目としている。なお、建築学専攻では平成19年度より「実務研修」を必修科目に指定している。さらに、全専攻共通必修科目として、「技術者倫理」、「環境技術」、「システムデザイン論」、「経営工学」を、また選択必修科目（以下の2科目中1科目を必修）として、「工学システム概論」、「電子情報通信概論」を指定している。全専攻共通必修科目中の「環境技術」と「技術者倫理」のシラバスを（資料5-5-②-4）に示す。

資料1-1-①-3 (既出) : 教育方針・育成する人材像に関する記述 (専攻科部分を抜粋)

■教育方針と育成する人材像(S:専攻科課程)

① 豊かな人間性の涵養 ;

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

S★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。

② 豊かな感性と創造力の育成 ;

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指している。

S★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。

③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上 ;

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指している。

S★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成 ;

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指している。

S★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。

⑤ 情報技術力の向上 ;

コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指している。

S★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成 ;

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指している。

S★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典：平成19年度学生便覧)

資料 1-1-①-5 : (既出) 専攻科課程の専攻毎の教育目標

専攻	教育目標
電子システム工学専攻	機械系、電気・電子・情報系準学士課程の各専門性を深めつつ、技術の複合化・高度化の進む産業社会の構造に適した知識や技術を講義・演習・実験を通じて修得させる。具体的には、産業機械のロボット化技術、情報通信システム、計測制御システム、光・電子デバイス等の高度化した技術の基礎および応用力の修得を目指す。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。
物質工学専攻	化学を基礎として材料工学、生物工学、及び化学工学等の諸分野に柔軟に対応できる基礎学力を養成し、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）・ゼミナールを通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。
建築学専攻	建築学の諸分野である計画・意匠・構造・材料・環境・設備・設計、まちづくり等に柔軟に対応できる基礎学力を講義・設計を通じて修得させ、それらを発展させた専門知識および技術の修得を目指す。また、特別研究に加え実務研修（インターンシップ）を通じて、研究目標に関する課題の提起・研究の実施と結果の評価および成果の分析までを自ら遂行する能力を養い、チャレンジ精神とリーダーシップを有する開発型技術者の育成を目指す。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書より作成)

資料 5 - 5 - ② - 1 :

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子システム工学専攻)

電子システム工学専攻

学習・教育目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
①豊かな人間性の涵養	日本語概説(選択) システムデザイン(必修)	環境技術(必修) 工学システム概論(選択必修)	技術者倫理(必修) 経営工学(必修)	
②豊かな感性と創造力の育成	ゼミナール(必修) 電子システム工学専攻実験(必修) 実務研修(必修)	ゼミナール(必修) 特別研究(必修)	特別研究(必修)	特別研究(必修)
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	応用英語1(選択) 複素関数論(選択) 計算力学(選択) 電子システム工学演習A(選択) 電子システム工学演習B(選択)	応用英語2(選択) 応用解析学(選択) 応用科学(選択) CAD/CAE演習(選択) 電子システム工学演習A(選択) 電子システム工学演習B(選択)		
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	流体力学(選択) 熱移動論(選択) 塑性加工学(選択) 電子回路特論(選択) 電子工学特論(選択) システム制御論(選択) 電機システム制御(選択)	機構設計論(選択) 力学特論(選択) 計測システム論(選択) 計算機応用論(選択) 情報伝送工学(選択) 光制御工学(選択) 固体電子論(選択) 電気材料特論(選択) 生産システム工学(選択) システム同定論(選択)	機械システム制御(選択) 電気磁気学特論(選択) 電磁エネルギー工学(選択) 生体情報解析学(選択) 画像情報解析学(選択) 光デバイス工学(選択) 光波応用工学(選択) パワーエレクトロニクス(選択) エネルギー変換応用工学(選択)	エネルギー工学(選択) 現代制御理論(選択) シーケンス制御(選択)
⑤情報技術の向上	電子情報通信概論(選択必修)	情報科学(選択) ネットワーク構成論(選択)		
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	応用英語1(選択)	応用英語2(選択) プレゼンテーション論(選択)		

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料5-5-②-2：学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（物質工学専攻）

物質工学専攻

学習・教育目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
①豊かな人間性の涵養	日本語概説(選択) システムデザイン(必修)	環境技術(必修) 工学システム概論(選択必修)	技術者倫理(必修) 経営工学(必修)	
②豊かな感性と創造力の育成	物質工学専攻実験(必修) 実務研修(必修)	物質工学専攻実験(必修) 特別研究(必修)	特別研究(必修)	特別研究(必修)
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	応用英語1(選択) 複素関数論(選択) 化学数学I(選択) 物質工学演習(必修)	応用英語2(選択) 応用解析学(選択) 応用科学(選択) 物質工学演習(必修)		
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	有機合成化学(選択) 生体エネルギー論(選択)	金属化学特論(選択) 複合材料(選択) 有機材料(選択) 免疫工学(選択) 生物化学工学(選択) 分離工学(選択)	腐食工学(選択) 有機金属化学(選択) 代謝生理学(選択) 分子構造論(選択)	生物機能化学(選択) 機器分析特論(選択)
⑤情報技術の向上	電子情報通信概論(選択必修)			
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	応用英語1(選択) ゼミナールI(必修)	応用英語2(選択) ゼミナールII(必修)	ゼミナールIII(選択)	ゼミナールIII(選択)

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料5-5-②-3：学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ（建築学専攻）

建築学専攻

学習・教育目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
①豊かな人間性の涵養	日本語概説(選択) システムデザイン(必修)	環境技術(必修) 工学システム概論(選択必修)	技術者倫理(必修) 経営工学(必修)	
②豊かな感性と創造力の育成	計画システム論(選択) 地域施設計画論(選択) 地域設計1(選択) 実務研修(選択)	まちづくり論(選択) 地域設計2(選択) 特別研究(必修)	居住地計画論(選択) 建築高機能材料工学(選択) 特別研究(必修)	バリアフリー・デザイン論(選択) 特別研究(必修)
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	応用英語1(選択) 複素関数論(選択) 応用科学(選択)	応用英語2(選択) 応用解析学(選択) 建築数学(選択)		
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	建築弾塑性力学(選択) 都市防災論(選択)	建築構造解析学(選択) 合成構造論(選択)	建築耐震設計論(選択)	
⑤情報技術の向上	電子情報通信概論(選択必修) 建築CAD・CG(選択)			
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	応用英語1(選択)	応用英語2(選択)	文化財保存論(選択)	

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5-5-②-4 1/2 : 全専攻共通必修科目シラバス
環境技術

<p>環境技術</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 353 263 1146"> <p>科目名</p> </td> <td data-bbox="263 353 327 1146"> <p>環境技術</p> </td> <td data-bbox="327 353 391 1146"> <p>英語科目名 Environmental Technology</p> </td> <td data-bbox="391 353 1101 1146"> <p>開講年度・学期 平成18年度・後期</p> <p>対象学科・専攻・学年 専攻科・電子システム専攻、物質工学専攻、建築学専攻・1, 2年</p> <p>授業形態 講義</p> <p>単位数 2単位</p> <p>担当教員 ①小林幸夫・②石原学・③土田英・④鈴木帆ノ介・⑤田中孝司・⑥若藤光司・⑦瀧澤雄三・⑧川上勝弥</p> <p>電話 代表・川上・</p> <p>E-mail</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 638 263 1146"> <p>授業の達成目標</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 638 1101 1146"> <p>1. 地球環境問題に関し観測衛星から得られる画像情報の利用方法について簡単に説明できること。(小林)</p> <p>2. 騒音と遮蔽について説明できる。(石原)</p> <p>3. 労働安全衛生法と音の関係について説明できる。(石原)</p> <p>4. 雷の発生原理を説明できる。(土田)</p> <p>5. レーザ誘音の原理を説明できる。(土田)</p> <p>6. 身近に存在するどんな電化製品から電磁波が発生するか説明できる。(鈴木)</p> <p>7. 電磁波による生体への影響例が説明できる。(鈴木)</p> <p>8. 土壌及び水環境の汚染の現状と対策について説明できる。(田中)</p> <p>9. NO_x, NO, CO, CFC などの大気汚染の現状と対策が説明できる。(瀧澤)</p> <p>10. 高齢者の身体と心の特性の概要を説明できる。(瀧澤)</p> <p>11. 今後の高齢社会に向け、環境整備の基本的な在り方を述べる事ができる。(川上)</p> <p>12. 室内環境の汚染度合いの判定、並びに室内環境汚染を引き起こす材料の分別ができる。(川上)</p> <p>13. 再生資源のリサイクルにおける問題点について説明できる。(川上)</p> <p>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</p> <p>1. 提出したレポートの採点結果(小林)</p> <p>2. 及び3. 提出したレポートの採点結果(石原)</p> <p>4. 及び5. 確認テストで評価する。(土田)</p> <p>6. 及び7. 日常における電磁波の発生源とその諸影響に関して口頭で簡単に説明できる。(鈴木)</p> <p>8. 課題に関する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(田中)</p> <p>9. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(若藤)</p> <p>10. 及び11. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(瀧澤)</p> <p>12. 及び13. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(川上)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 772 263 1146"> <p>評価方法</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 772 1101 1146"> <p>課題に対する提出レポートの解答内容で評価する。(各担当教員)</p> <p>最終の成績は、各教員の評価を担当時間の重みをつけて成績を計算する。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 907 263 1146"> <p>授業内容</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 907 1101 1146"> <p>1. 地球環境問題を解決するために必要不可欠な地球観測衛星と、それによって得られる画像情報を紹介し、現在の地球環境が有する問題点について講義する。(小林、1週)</p> <p>2. 音響工学と環境(石原、0.5週)</p> <p>3. 知覚される音での環境問題と、範囲外の音との環境問題について考える。建築音響を始め、生活環境の改善手法について考える。</p> <p>4. 労働安全衛生法(石原、0.5週)</p> <p>5. 労働安全衛生法で扱われる作業安全と音の関わる法的問題の取り組み(土田、1週)</p> <p>6. 自然環境の分類、雷の発生原理、レーザ誘音の原理と実用化への電磁波とは?(鈴木、1週)</p> <p>7. 電磁波とは?(鈴木、1週)</p> <p>(1) 各種電化製品から発生する電磁波の性質</p> <p>(2) 電磁波による症例</p> </td> </tr> </table>	<p>科目名</p>	<p>環境技術</p>	<p>英語科目名 Environmental Technology</p>	<p>開講年度・学期 平成18年度・後期</p> <p>対象学科・専攻・学年 専攻科・電子システム専攻、物質工学専攻、建築学専攻・1, 2年</p> <p>授業形態 講義</p> <p>単位数 2単位</p> <p>担当教員 ①小林幸夫・②石原学・③土田英・④鈴木帆ノ介・⑤田中孝司・⑥若藤光司・⑦瀧澤雄三・⑧川上勝弥</p> <p>電話 代表・川上・</p> <p>E-mail</p>	<p>授業の達成目標</p>	<p>1. 地球環境問題に関し観測衛星から得られる画像情報の利用方法について簡単に説明できること。(小林)</p> <p>2. 騒音と遮蔽について説明できる。(石原)</p> <p>3. 労働安全衛生法と音の関係について説明できる。(石原)</p> <p>4. 雷の発生原理を説明できる。(土田)</p> <p>5. レーザ誘音の原理を説明できる。(土田)</p> <p>6. 身近に存在するどんな電化製品から電磁波が発生するか説明できる。(鈴木)</p> <p>7. 電磁波による生体への影響例が説明できる。(鈴木)</p> <p>8. 土壌及び水環境の汚染の現状と対策について説明できる。(田中)</p> <p>9. NO_x, NO, CO, CFC などの大気汚染の現状と対策が説明できる。(瀧澤)</p> <p>10. 高齢者の身体と心の特性の概要を説明できる。(瀧澤)</p> <p>11. 今後の高齢社会に向け、環境整備の基本的な在り方を述べる事ができる。(川上)</p> <p>12. 室内環境の汚染度合いの判定、並びに室内環境汚染を引き起こす材料の分別ができる。(川上)</p> <p>13. 再生資源のリサイクルにおける問題点について説明できる。(川上)</p> <p>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</p> <p>1. 提出したレポートの採点結果(小林)</p> <p>2. 及び3. 提出したレポートの採点結果(石原)</p> <p>4. 及び5. 確認テストで評価する。(土田)</p> <p>6. 及び7. 日常における電磁波の発生源とその諸影響に関して口頭で簡単に説明できる。(鈴木)</p> <p>8. 課題に関する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(田中)</p> <p>9. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(若藤)</p> <p>10. 及び11. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(瀧澤)</p> <p>12. 及び13. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(川上)</p>			<p>評価方法</p>	<p>課題に対する提出レポートの解答内容で評価する。(各担当教員)</p> <p>最終の成績は、各教員の評価を担当時間の重みをつけて成績を計算する。</p>			<p>授業内容</p>	<p>1. 地球環境問題を解決するために必要不可欠な地球観測衛星と、それによって得られる画像情報を紹介し、現在の地球環境が有する問題点について講義する。(小林、1週)</p> <p>2. 音響工学と環境(石原、0.5週)</p> <p>3. 知覚される音での環境問題と、範囲外の音との環境問題について考える。建築音響を始め、生活環境の改善手法について考える。</p> <p>4. 労働安全衛生法(石原、0.5週)</p> <p>5. 労働安全衛生法で扱われる作業安全と音の関わる法的問題の取り組み(土田、1週)</p> <p>6. 自然環境の分類、雷の発生原理、レーザ誘音の原理と実用化への電磁波とは?(鈴木、1週)</p> <p>7. 電磁波とは?(鈴木、1週)</p> <p>(1) 各種電化製品から発生する電磁波の性質</p> <p>(2) 電磁波による症例</p>																						
<p>科目名</p>	<p>環境技術</p>	<p>英語科目名 Environmental Technology</p>	<p>開講年度・学期 平成18年度・後期</p> <p>対象学科・専攻・学年 専攻科・電子システム専攻、物質工学専攻、建築学専攻・1, 2年</p> <p>授業形態 講義</p> <p>単位数 2単位</p> <p>担当教員 ①小林幸夫・②石原学・③土田英・④鈴木帆ノ介・⑤田中孝司・⑥若藤光司・⑦瀧澤雄三・⑧川上勝弥</p> <p>電話 代表・川上・</p> <p>E-mail</p>																																		
<p>授業の達成目標</p>	<p>1. 地球環境問題に関し観測衛星から得られる画像情報の利用方法について簡単に説明できること。(小林)</p> <p>2. 騒音と遮蔽について説明できる。(石原)</p> <p>3. 労働安全衛生法と音の関係について説明できる。(石原)</p> <p>4. 雷の発生原理を説明できる。(土田)</p> <p>5. レーザ誘音の原理を説明できる。(土田)</p> <p>6. 身近に存在するどんな電化製品から電磁波が発生するか説明できる。(鈴木)</p> <p>7. 電磁波による生体への影響例が説明できる。(鈴木)</p> <p>8. 土壌及び水環境の汚染の現状と対策について説明できる。(田中)</p> <p>9. NO_x, NO, CO, CFC などの大気汚染の現状と対策が説明できる。(瀧澤)</p> <p>10. 高齢者の身体と心の特性の概要を説明できる。(瀧澤)</p> <p>11. 今後の高齢社会に向け、環境整備の基本的な在り方を述べる事ができる。(川上)</p> <p>12. 室内環境の汚染度合いの判定、並びに室内環境汚染を引き起こす材料の分別ができる。(川上)</p> <p>13. 再生資源のリサイクルにおける問題点について説明できる。(川上)</p> <p>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</p> <p>1. 提出したレポートの採点結果(小林)</p> <p>2. 及び3. 提出したレポートの採点結果(石原)</p> <p>4. 及び5. 確認テストで評価する。(土田)</p> <p>6. 及び7. 日常における電磁波の発生源とその諸影響に関して口頭で簡単に説明できる。(鈴木)</p> <p>8. 課題に関する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(田中)</p> <p>9. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(若藤)</p> <p>10. 及び11. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(瀧澤)</p> <p>12. 及び13. 課題に対する提出レポートの内容を設定水準で評価する。(川上)</p>																																				
<p>評価方法</p>	<p>課題に対する提出レポートの解答内容で評価する。(各担当教員)</p> <p>最終の成績は、各教員の評価を担当時間の重みをつけて成績を計算する。</p>																																				
<p>授業内容</p>	<p>1. 地球環境問題を解決するために必要不可欠な地球観測衛星と、それによって得られる画像情報を紹介し、現在の地球環境が有する問題点について講義する。(小林、1週)</p> <p>2. 音響工学と環境(石原、0.5週)</p> <p>3. 知覚される音での環境問題と、範囲外の音との環境問題について考える。建築音響を始め、生活環境の改善手法について考える。</p> <p>4. 労働安全衛生法(石原、0.5週)</p> <p>5. 労働安全衛生法で扱われる作業安全と音の関わる法的問題の取り組み(土田、1週)</p> <p>6. 自然環境の分類、雷の発生原理、レーザ誘音の原理と実用化への電磁波とは?(鈴木、1週)</p> <p>7. 電磁波とは?(鈴木、1週)</p> <p>(1) 各種電化製品から発生する電磁波の性質</p> <p>(2) 電磁波による症例</p>																																				
<p>環境技術</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="231 1198 263 2007"> <p>6. 電磁波の有効利用、今後の対策(鈴木、1週)</p> <p>(1) 電磁波の有効利用</p> <p>(2) 今後の対策と代用通信手段</p> </td> <td data-bbox="263 1198 327 2007"> <p>7. 土壌汚染、水汚染の対策及び処理技術(田中、2週)</p> </td> <td data-bbox="327 1198 391 2007"> <p>8. 環境汚染物質 SO₂, NO_x, CO, CFC などの発生原因、汚染状況、環境への影響、対策と処理技術(若藤、3週)</p> </td> <td data-bbox="391 1198 454 2007"> <p>9. 課題の内容を理解し、他の高齢者・障害者関連用語等も調べておく。</p> <p>10. 各自の生活空間の環境汚染について分析し、対応策について考察する。</p> <p>11. 廃棄物の種類及び定義、並びに再生資源の実態について理解しておく。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1355 263 2007"> <p>キーワード</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 1355 1101 2007"> <p>リモートセンシング、電磁波、公害、異常気象、高齢者、室内環境汚染、廃棄物</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1489 263 2007"> <p>教科書</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 1489 1101 2007"> <p>1. 船瀬俊介「電磁波曝露」双葉社(2003) (鈴木)</p> <p>2. 萩野光也「厄ない携帯電話」緑風出版(2002) (鈴木)</p> <p>3. 携帯電話から電磁波を中心として電磁界が生体へ及ぼす影響に関する小研究 三浦正悦(トランジスタ技術 2003年1月号特設記事) (鈴木)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1624 263 2007"> <p>参考書</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 1624 1101 2007"> <p>1. 児玉徹「地球環境問題に挑戦する」培風館(1997) (田中)</p> <p>2. 安藤亨平・他「環境の化学」日新出版(1996) (若藤)</p> <p>3. 厚生白書「高齢者のための建築環境(日本建築学会編、韓国社)その他の高齢者関連図書多数あり(瀧澤)</p> <p>4. 池田耕二「室内空気汚染の原因と対策」日刊工業新聞社(川上)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1758 263 2007"> <p>技術者教育プログラムの学習・教育目標</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 1758 1101 2007"> <p>(C-1)資源やエネルギー、環境を考慮した技術を指向できる。</p> <p>(C-3)技術者として社会的責任や倫理観を自覚できる。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 1892 263 2007"> <p>ABET基準1の(1)との関係</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 1892 1101 2007"> <p>(a), (b)</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 2027 263 2007"> <p>前年度までの関連科目</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 2027 1101 2007"> <p>電磁波工学、環境化学、</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 2161 263 2007"> <p>現年度の関連科目</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 2161 1101 2007"> <p>技術者倫理、画像情報解析学、</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="231 2296 263 2007"> <p>通称事項</p> </td> <td colspan="3" data-bbox="263 2296 1101 2007"> <p>1. 地球環境というグローバルな視点から環境問題を考える。(小林)</p> <p>2. 学生へのメッセージ(鈴木)</p> <p>3. 普及しすぎて使っている携帯電話や身近にある電化製品から発生する電磁波が生体や心臓ペースメーカー等の埋込型医療機器に及ぼす各種影響を紹介する。これを機に電車内の携帯電話の使用を控えてもらえると有難い。</p> <p>4. 講義時間以外でも質問がある場合は応じる。(若藤、田中)</p> <p>5. 近い将来65歳以上の高齢者は我が国の人口の25%を占めるようになる。各種製品開発にあたっては高齢者の特性、思いやりのある設計が必要になる。本講義がその一助となることを願っています。(川上)</p> </td> </tr> </table>	<p>6. 電磁波の有効利用、今後の対策(鈴木、1週)</p> <p>(1) 電磁波の有効利用</p> <p>(2) 今後の対策と代用通信手段</p>	<p>7. 土壌汚染、水汚染の対策及び処理技術(田中、2週)</p>	<p>8. 環境汚染物質 SO₂, NO_x, CO, CFC などの発生原因、汚染状況、環境への影響、対策と処理技術(若藤、3週)</p>	<p>9. 課題の内容を理解し、他の高齢者・障害者関連用語等も調べておく。</p> <p>10. 各自の生活空間の環境汚染について分析し、対応策について考察する。</p> <p>11. 廃棄物の種類及び定義、並びに再生資源の実態について理解しておく。</p>	<p>キーワード</p>	<p>リモートセンシング、電磁波、公害、異常気象、高齢者、室内環境汚染、廃棄物</p>			<p>教科書</p>	<p>1. 船瀬俊介「電磁波曝露」双葉社(2003) (鈴木)</p> <p>2. 萩野光也「厄ない携帯電話」緑風出版(2002) (鈴木)</p> <p>3. 携帯電話から電磁波を中心として電磁界が生体へ及ぼす影響に関する小研究 三浦正悦(トランジスタ技術 2003年1月号特設記事) (鈴木)</p>			<p>参考書</p>	<p>1. 児玉徹「地球環境問題に挑戦する」培風館(1997) (田中)</p> <p>2. 安藤亨平・他「環境の化学」日新出版(1996) (若藤)</p> <p>3. 厚生白書「高齢者のための建築環境(日本建築学会編、韓国社)その他の高齢者関連図書多数あり(瀧澤)</p> <p>4. 池田耕二「室内空気汚染の原因と対策」日刊工業新聞社(川上)</p>			<p>技術者教育プログラムの学習・教育目標</p>	<p>(C-1)資源やエネルギー、環境を考慮した技術を指向できる。</p> <p>(C-3)技術者として社会的責任や倫理観を自覚できる。</p>			<p>ABET基準1の(1)との関係</p>	<p>(a), (b)</p>			<p>前年度までの関連科目</p>	<p>電磁波工学、環境化学、</p>			<p>現年度の関連科目</p>	<p>技術者倫理、画像情報解析学、</p>			<p>通称事項</p>	<p>1. 地球環境というグローバルな視点から環境問題を考える。(小林)</p> <p>2. 学生へのメッセージ(鈴木)</p> <p>3. 普及しすぎて使っている携帯電話や身近にある電化製品から発生する電磁波が生体や心臓ペースメーカー等の埋込型医療機器に及ぼす各種影響を紹介する。これを機に電車内の携帯電話の使用を控えてもらえると有難い。</p> <p>4. 講義時間以外でも質問がある場合は応じる。(若藤、田中)</p> <p>5. 近い将来65歳以上の高齢者は我が国の人口の25%を占めるようになる。各種製品開発にあたっては高齢者の特性、思いやりのある設計が必要になる。本講義がその一助となることを願っています。(川上)</p>		
<p>6. 電磁波の有効利用、今後の対策(鈴木、1週)</p> <p>(1) 電磁波の有効利用</p> <p>(2) 今後の対策と代用通信手段</p>	<p>7. 土壌汚染、水汚染の対策及び処理技術(田中、2週)</p>	<p>8. 環境汚染物質 SO₂, NO_x, CO, CFC などの発生原因、汚染状況、環境への影響、対策と処理技術(若藤、3週)</p>	<p>9. 課題の内容を理解し、他の高齢者・障害者関連用語等も調べておく。</p> <p>10. 各自の生活空間の環境汚染について分析し、対応策について考察する。</p> <p>11. 廃棄物の種類及び定義、並びに再生資源の実態について理解しておく。</p>																																		
<p>キーワード</p>	<p>リモートセンシング、電磁波、公害、異常気象、高齢者、室内環境汚染、廃棄物</p>																																				
<p>教科書</p>	<p>1. 船瀬俊介「電磁波曝露」双葉社(2003) (鈴木)</p> <p>2. 萩野光也「厄ない携帯電話」緑風出版(2002) (鈴木)</p> <p>3. 携帯電話から電磁波を中心として電磁界が生体へ及ぼす影響に関する小研究 三浦正悦(トランジスタ技術 2003年1月号特設記事) (鈴木)</p>																																				
<p>参考書</p>	<p>1. 児玉徹「地球環境問題に挑戦する」培風館(1997) (田中)</p> <p>2. 安藤亨平・他「環境の化学」日新出版(1996) (若藤)</p> <p>3. 厚生白書「高齢者のための建築環境(日本建築学会編、韓国社)その他の高齢者関連図書多数あり(瀧澤)</p> <p>4. 池田耕二「室内空気汚染の原因と対策」日刊工業新聞社(川上)</p>																																				
<p>技術者教育プログラムの学習・教育目標</p>	<p>(C-1)資源やエネルギー、環境を考慮した技術を指向できる。</p> <p>(C-3)技術者として社会的責任や倫理観を自覚できる。</p>																																				
<p>ABET基準1の(1)との関係</p>	<p>(a), (b)</p>																																				
<p>前年度までの関連科目</p>	<p>電磁波工学、環境化学、</p>																																				
<p>現年度の関連科目</p>	<p>技術者倫理、画像情報解析学、</p>																																				
<p>通称事項</p>	<p>1. 地球環境というグローバルな視点から環境問題を考える。(小林)</p> <p>2. 学生へのメッセージ(鈴木)</p> <p>3. 普及しすぎて使っている携帯電話や身近にある電化製品から発生する電磁波が生体や心臓ペースメーカー等の埋込型医療機器に及ぼす各種影響を紹介する。これを機に電車内の携帯電話の使用を控えてもらえると有難い。</p> <p>4. 講義時間以外でも質問がある場合は応じる。(若藤、田中)</p> <p>5. 近い将来65歳以上の高齢者は我が国の人口の25%を占めるようになる。各種製品開発にあたっては高齢者の特性、思いやりのある設計が必要になる。本講義がその一助となることを願っています。(川上)</p>																																				
<p>シラバス作成年月日</p>	<p>平成18年 2月17日</p>																																				

(出典：小山高専ホームページ)

資料 5-5-②-4 2/2 : 全専攻共通必修科目シラバス (続き)

技術者倫理

技術者倫理

科目名	技術者倫理	英語科目名	Ethics of Engineers
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科全科 2年
授業形態	講義	必修の選択	必修
単位数	2単位	学修単位 (4.5時間単位)	松島; 講義棟2階
担当教員	松島隆裕 酒入暢子 井田 晋 (非常勤講師)	居室 (もしくは所属)	酒入; 専攻科棟2階
電話	松島 酒入	E-mail	松島 酒入
<p>授業の達成目標</p> <p>1. 近代現代の科学技術とその根底にある哲学倫理について展開過程を説明できる。 2. 20世紀の社会的諸問題とそこで登場した倫理的課題について説明できる。 3. 21世紀の技術者のとりくむべき課題について説明できる。 4. 事故などの具体的な事例を選んでその問題点について説明できる。 5. 技術者の倫理的課題とあり方について説明できる。 6. 歴史的文献のなかで、科学技術の発展と技術者のあるべき姿を客観的に考察できる。 7. アジアの中における日本の歴史的な位置付けができる。</p> <p>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</p> <p>課題に対する口頭発表と提出レポートの内容を設定水準で評価する。</p> <p>評価方法</p> <p>1. 試験 (60%) 2. 演習問題や課題の解答内容 (40%) ただし、試験問題や課題の解答内容が60%未満のものについては評価の対象としない。なお、欠席が著しい場合には、上記の詳細に出席率を加えることがある。</p> <p>授業内容</p> <p>1. 近代科学技術と哲学倫理、科学革命、演繹法と帰納法、産業革命 2. 近代科学技術と合理主義哲学の限界、知の転換点 3. 20世紀という時代、二度の世界大戦と科学技術、現代社会の諸問題、地球環境から地域の問題まで 4. 新しい倫理の課題、環境倫理、生命倫理、経済倫理、技術者倫理など。 5. (特別講義) 企業と倫理、経営者と倫理 6. 技術者としてどう生きるか、技能と技術、専門的職業人として 7. 事例研究 8. 戦争と科学者・技術者 9. アジアの中の日本 ~日本とアジアの近現代史</p> <p>キーワード 技術と技能、科学革命、知の転換点、技術革新、環境倫理、技術者倫理、企業倫理、事例研究</p> <p>教科書 松島隆裕編『技術者倫理』学術図書出版社、松島隆裕編『技術者入門』学術図書出版社、他に適宜プリント配布。</p> <p>参考書 必要に応じて指示する。</p> <p>技術者教育プログラムの学習・教育目標</p> <p>(A-2) 基礎知識を専門工学分野の問題に応用して解ける。 (B-2) 数学の知識と工学をつなぐ基礎的知識を身につける。 (C-2) 社会・経済と技術の共生の可能性を理解できる。 (C-3) 技術者として社会的責任や倫理観を自覚できる。 (D-3) 美社会の体験についての自らの考えを発表、報告できる。</p> <p>JABEE 基準1の (1) との関係 (a) (b) (d) (e) (f)</p> <p>カリキュラム中の位置づけ 3年の倫理社会、4年の哲学</p> <p>前年度までの関連科目 ---</p> <p>現年度の関連科目 ---</p> <p>次年度以降の関連科目 ---</p> <p>連絡事項 理解困難な内容については随時学習相談に応じる。電子メールでも受け付ける。 学生へのメッセージ： 技術者倫理は、これからの技術者にとって必須の事項である。地球規模の問題から日常生活の問題まで、まず自分らどうするかというところから考え始めてほしい。回答が一律的にあるかどうかとも分らない問題に取り組んで、自分で悩んでみるのが、技術者倫理の第一歩である。</p>			

(出典：小山高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

専攻ごとに専攻科の学習・教育目標を達成することを目的とした授業科目の流れが、体系性を持ち構築されている。

観点 5-5-③： 学生の多様なニーズ、学術の発展動向、社会からの要請等に対応した教育課程の編成（例えば、他専攻の授業科目の履修、他高等教育機関との単位互換、インターンシップによる単位認定、補充教育の実施等が考えられる。）に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の他分野の専門を学習したいといったニーズに応えるため、専攻科では他専攻で開設されている専門科目について4単位を超えない範囲で履修することを認めている。他にも、他の高等教育機関で開設されている授業科目についても最大で16単位まで専攻科課程における単位として認定することができる。これらのことは学生便覧記載の「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」の第5条及び「専攻科の履修の手引」の（3. 修了要件）に明記されている（資料5-5-③-1）。

他高等教育機関との単位互換協定の基本となる栃木県内の大学、短大計14機関とのコンソーシアム協定を締結している。各高等教育機関との単位互換はそれぞれの機関との単位互換協定が必要で、本校においては宇都宮大学との間で単位互換協定を締結している（資料5-1-②-2：既出）。

資料5-5-③-1：他専攻科目の履修規程および他教育機関との単位互換規程

専攻科履修の手引き

3. 修了要件

専攻科を修了するためには「一般科目」及び「専門基礎科目」をあわせて10単位以上、「専門科目」を48単位以上修得する必要があります(合計62単位以上修得)。

科目区分	一般科目		専門科目		
	一般科目		専門基礎科目	専門科目	
	必修	選択	選択	必修	選択
専攻名	単位数				
電子システム工学専攻	開設単位数 2単位	6単位	6単位	30単位	72単位
	修得単位数 2単位以上	4単位以上	4単位以上	28 単位以上	20単位以上
物質工学専攻	開設単位数 2単位	6単位	8単位	33単位	30単位
	修得単位数 2単位以上	4単位以上	4単位以上	31単位以上	17単位以上
建築学専攻	開設単位数 2単位	6単位	8単位	24単位	34単位
	修得単位数 2単位以上	4単位以上	4単位以上	22単位以上	26単位以上

専門科目として他専攻の専門科目を選択履修でき、課程修了単位の中に4単位まで繰り入れることができます。

（出典：平成18年度専攻科履修の手引 p. 1）

専攻科の授業科目の履修等に関する規程

（大学等における授業科目の履修及び単位認定申請）

第5条 大学等で開設されている授業科目を履修した者が、当該科目の単位（以下「学外単位」という。）の認定を受けようとするときは、成績証明書等、単位の修得を証明する書類を添えて期限までに校長に申請するものとする。学外単位は、16単位を限度として、専攻科における授業科目を修得したものとみなすことができる。

（出典：平成18年度学生便覧 p. 103）

(分析結果とその根拠理由)

学生の多様なニーズに応え、専攻科課程の教育目標を達成する助けとなるように、他専攻の専門科目と他高等教育機関の修得単位を認定する仕組みが整っている。本校と宇都宮大学との間で単位互換協定を締結している。

観点5-6-①：教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。（例えば、教材の工夫、少人数授業、対話・討論型授業、フィールド型授業、情報機器の活用等が考えられる。）

(観点に係る状況)

専攻ごとの学年別配当単位数を(資料5-6-①-1~3)に示す。専攻科課程で開講されている授業の形態は講義、演習、実験、実習に分類される。専攻科課程では、深い専門性と職業に必要な能力を有する開発型技術者を育成するためには、専門分野の工学的現象や問題の解析及び解決能力を育成する必要があるといった考えから、実験実習科目である「特別研究」と「専攻実験」が重要視されている。そのため、3専攻とも必修科目として、「特別研究」を14単位と多くの単位数を設定している。実験、実習、演習科目一覧を(資料5-6-①-4)に示す。実験、実習科目としては、「電子システム工学専攻」及び「物質工学専攻」で「各専攻実験」が2単位の必修科目として設定している。これらのシラバスを(資料5-6-①-5)に示す。実験、実習、演習科目の単位として、「電子システム工学専攻」で24単位を、「物質工学専攻」で25単位を、「建築学専攻」で20単位を配当している。

その他、建築学専攻の「地域設計I」で、一部フィールド授業の形態をとり、学校建築の設計を課題とし、地域の小中学校に現場調査に赴き、問題点を抽出して設計に生かし、最後に設計発表会を行う等の工夫を行っている(資料5-6-①-6)。

資料 5 - 6 - ① - 1 : 専攻科の学年別配当単位数 (電子システム工学専攻)

専攻科の学年別配当単位数 (電子システム工学専攻)

専攻科の学年別配当単位数							
電子システム工学専攻							
授業科目	必修選択の別	単位数	学年別配当				備考
			1年前	1年後	2年前	2年後	
一般科目	応用英語1	選択	2	2			
	応用英語2	選択	2		2		
	日本語概説	選択	2	2			
	技術者倫理	必修	2			2	
一般科目開設単位数計			8	4	2	2	
一般科目修得単位数			6単位以上修得				
専門基礎科目	複素関数論	選択	2	2			
	応用解析学	選択	2		2		
	応用科学	選択	2		2		
専門基礎科目開設単位数計			6	2	4		
専門基礎科目修得単位数			4単位以上修得				
専門科目	流体力学	選択	2	2			
	熱移動論	選択	2	2			
	エネルギー工学	選択	2			2	
	塑性加工学	選択	2	2			
	計算力学	選択	2	2			
	機構設計論	選択	2		2		
	CAD/CAE演習	選択	2		2		
	力学特論	選択	2		2		
	生産システム工学	選択	2		2		
	システムデザイン	必修	2	2			
	機械システム制御	選択	2			2	
	現代制御理論	選択	2			2	
	シーケンス制御	選択	2			2	
	プレゼンテーション論	選択	2		2		
	電機システム制御	選択	2	2			
	システム制御論	選択	2	2			
	光制御工学	選択	2		2		
	情報伝送工学	選択	2		2		
	ネットワーク構成論	選択	2		2		
	生体情報解析学	選択	2			2	
	画像情報解析学	選択	2			2	
	電気磁気学特論	選択	2			2	
	パワーエレクトロニクス	選択	2			2	
	エネルギー変換応用工学	選択	2			2	
	固体電子論	選択	2		2		
	電気材料特論	選択	2		2		
	光デバイス工学	選択	2			2	
	電子回路特論	選択	2	2			
	電子工学特論	選択	2	2			
	計算機応用論	選択	2		2		
	情報科学	選択	2		2		
	計測システム論	選択	2		2		
	システム同定論	選択	2		2		
	電子情報通信概論	必修	2	2			
	工学システム概論	必修	2		2		内1科目選択
	電磁エネルギー工学	選択	2			2	
	光波応用工学	選択	2			2	
	経営工学	必修	2			2	
	環境技術	必修	2		2		
	電子システム工学演習A	選択	2	1	1		
	電子システム工学演習B	選択	2	1	1		
	ゼミナール	必修	2	1	1		
電子システム工学専攻実験	必修	2	2				
特別研究	必修	14		3	5	6	
実務研修	必修	2	2				
専門科目開設単位数計			102	27	38	25	12
専門科目修得単位数			48単位以上修得				
開設単位数合計			116	33	44	27	12
修得単位数合計			62単位以上修得				

(出典：平成 18 年度学生便覧 p. 26)

資料 5 - 6 - ① - 2 : 専攻科の学年別配当単位数 (物質工学専攻)

専攻科の学年別配当単位数 (物質工学専攻)

専攻科の学年別配当単位数

物質工学専攻

授 業 科 目	必修選 択の別	単位数	学 年 別 配 当				備 考
			1年前	1年後	2年前	2年後	
一般科目	応用英語1	選択	2	2			
	応用英語2	選択	2	2			
	日本語概説	選択	2	2			
	技術者倫理	必修	2		2		
一般科目開設単位計			8	4	2	2	
一般科目修得単位			6単位以上修得				
専門基礎科目	複素関数論	選択	2	2			
	応用解析学	選択	2	2			
	応用科学	選択	2	2			
	化学数学	選択	2	2			
専門基礎科目開設単位計			8	4	4		
専門基礎科目修得単位			4単位以上修得				
専門科目	分子構造論	選択	2		2		
	機器分析特論	選択	2			2	
	金属化学特論	選択	2	2			
	複合材料	選択	2	2			
	腐食工学	選択	2		2		
	分離工学	選択	2	2			
	有機金属化学	選択	2		2		
	有機合成化学	選択	2	2			
	有機材料	選択	2	2			
	生物機能化学	選択	2			2	
	生体エネルギー論	選択	2	2			
	代謝生理学	選択	2		2		
	生物化学工学	選択	2	2			
	免疫工学	選択	2	2			
	ゼミナールⅠ	必修	2	1	1		
	ゼミナールⅡ	選択	1			1	
	ゼミナールⅢ	選択	1				1
	システムデザイン	必修	2	2			
	電子情報通信概論	必修	2	2			
	工学システム概論	必修	2		2		内1科目選択
	環境技術	必修	2		2		
	経営工学	必修	2			2	
	物質工学演習	必修	2	1	1		
物質工学専攻実験	必修	2	1	1			
特別研究	必修	15	1	3	5	6	
実務研修	必修	2	2				
専門科目開設単位計			63	14	22	16	11
専門科目修得単位			48単位以上修得				
開設単位合計			79	22	28	18	11
修得単位合計			62単位以上修得				

(出典：平成 18 年度学生便覧 p. 27)

資料5-6-①-3：専攻科の学年別配当単位数（建築学専攻）

専攻科の学年別配当単位数（建築学専攻）

専攻科の学年別配当単位数							
建築学専攻							
授業科目	必修選択の別	単位数	学年別配当				備考
			1年前	1年後	2年前	2年後	
一般科目	応用英語1	選択	2	2			
	応用英語2	選択	2	2			
	日本語概説	選択	2	2			
	技術者倫理	必修	2		2		
一般科目開設単位計			8	4	2	2	
一般科目修得単位			6単位以上修得				
専門基礎科目	複素関数論	選択	2	2			
	応用解析学	選択	2	2			
	応用科学	選択	2	2			
	建築数学	選択	2	2			
専門基礎科目開設単位計			8	2	6		
専門基礎科目修得単位			4単位以上修得				
専門科目	まちづくり論	選択	2	2			
	近代建築思潮史	選択	2	2			
	文化財保存論	選択	2		2		
	地域施設計画論	選択	2	2			
	バリアフリー・デザイン論	選択	2			2	
	居住地区計画論	選択	2		2		
	計画システム論	選択	2	2			
	合成構造論	選択	2	2			
	建築耐震設計論	選択	2		2		
	建築構造解析学	選択	2	2			
	都市防災論	選択	2	2			
	建築弾塑性力学	選択	2	2			
	建築高機能材料工学	選択	2		2		
	システムデザイン	必修	2	2			
	電子情報通信概論	必修	2	2			
	工学システム概論	必修	2		2		内1科目選択
	環境技術	必修	2		2		
	経営工学	必修	2		2		
	地域設計1	選択	2	2			
	地域設計2	選択	2	2			
建築CAD・CG	選択	2	2				
特別研究	必修	14		2	6	6	
実務研修	選択	2	2				
専門科目開設単位計			58	20	14	16	8
専門科目修得単位			48単位以上修得				
開設単位合計			74	26	22	18	8
修得単位合計			62単位以上修得				

(出典：平成18年度学生便覧 p.28)

資料5-6-①-4：各専攻の実験、実習、演習科目の単位配当

各専攻の実験、実習、演習科目の単位配当

電子システム工学専攻

学年	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	電子システム工学専攻実験(2)<必修> ゼミナール(1)<必修>	特別研究(3)<必修> ゼミナール(1)<必修>	特別研究(5)<必修>	特別研究(6)<必修>	
単位小計	3	4	5	6	18
実習	実務研修<必修>				
単位小計	2	0	0	0	2
演習	電子システム工学演習A(1)<選択> 電子システム工学演習B(1)<選択>	電子システム工学演習A(1)<選択> 電子システム工学演習B(1)<選択>			
単位小計	2	2	0	0	4
単位合計	7	6	5	6	24

物質工学専攻

学年	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験	特別研究(1)<必修> 物質工学専攻実験(1)<必修>	特別研究(3)<必修> 物質工学専攻実験(1)<必修>	特別研究(5)<必修>	特別研究(6)<必修>	
単位小計	2	4	5	6	17
実習	実務研修(2)<必修>				
単位小計	2	0	0	0	2
演習	物質工学演習(1)<必修> ゼミナールⅠ(1)<必修>	物質工学演習(1)<必修> ゼミナールⅠ(1)<必修>	ゼミナールⅡ(1)<選択>	ゼミナールⅡ(1)<選択>	
単位小計	2	2	1	1	6
単位合計	6	6	6	7	25

建築学専攻

学年	1年		2年		単位合計
	前期	後期	前期	後期	
実験		特別研究(2)<必修>	特別研究(6)<必修>	特別研究(6)<必修>	
単位小計	0	2	6	6	14
実習	実務研修(2)<選択> 地域設計1(2)<選択>	地域設計2(2)<選択>			
単位小計	4	2	0	0	6
演習					
単位小計	0	0	0	0	0
単位合計	4	4	6	6	20

(出典：平成18年度学生便覧より作成)

資料5-6-①-5 1/2 : 実験実習科目シラバス

電子システム工学専攻 (機械工学系) 電子システム工学専攻実験

科目名	電子システム工学専攻実験	英語科目名	Laboratory in Advanced Course
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	電子システム工学専攻・(機械系)・1年
授業形態	実験	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位(45時間単位)
担当教員	伊藤・田中・菊池・高島	居室(もしくは所属)	機械工学科
電話		E-mail	
授業の達成目標	1. 電子計測機器の取扱いができること。 2. 計測装置の必要性を説明できること。 3. 必要に応じて新しい計測システムのプロ案を構成が行える。 各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法 1. 3 提出レポート等の内容で評価する。		
評価方法	実験の取り組み要領および提出レポート等の内容を各テーマごとに評価した上で、算術平均により評価する。		
授業内容	実験の進め方は、基本的に以下の通り。(前期) 第1週) 指導教員から各実験テーマに関する説明を受け、テーマの原理・実験方法などの与えられた課題を図書・文献などで調べ、ブレリポートを提出する。必要に応じて予備の実験を行う。 第2週) 第1週の報告書に基づき、実験を行う。得られた実験データを解析し、その結果について考察の上、所定の期日までレポートを提出する。場合によっては、プレゼンテーションを実施する。 <実験テーマ(前期)> ① 「高温超伝導体の作製とその物性評価」(森) ② 「フライングセラミックス評価技術へのアコースティック・エミッタの応用」(中山)> ③ 「PIDを用いたディジタル回路の設計」(大嶋) ④ 「レーザ干渉法」(土田) ⑤ 「画像情報処理実験(プログラムの作成と評価)」(小林幸) ⑥ 「音声情報処理の実験」(石原) ⑦ 「PC(Programmable Controller)による自動制御実験」(今成) ⑧ 「無声放電によるオゾン生成実験」(田中) ⑨ 「有限要素法による電磁界解析」(大嶋) ⑩ 「単相PWMインバータの系統連系手法」(北野)		
キーワード	ワイプル統計、表面粗さ、熱拡散、回電感		
教科書	自作テキスト		
参考書	機械工学実験Ⅱテキスト		
技術者教育プログラムの学習・教育目標	技術者教育プログラムの学習・教育目標		
(B-1) 実験や観察、調査、製作を行って結果や結論が導ける。			
JABEE 基準 1 の (1) との関係	d(2-b)		
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目		
前年度までの関連科目	機械工学実験Ⅱ、メカトロニクス実験		
現学年の関連科目	電子システム工学演習		
次年度以降の関連科目	なし		
連絡事項			
備考	試験は行わない。 実験一指導教員の指示にしたがって、手順よく実験を行う。 レポート一実験結果をまとめてレポートを作成し、指導教員の口頭試問を受け、理解を深める。 シラバス作成年月日：平成18年 3月28日		

電子システム工学専攻 (電気情報工学系) 電子システム工学専攻実験

科目名	電子システム工学専攻実験	英語科目名	Laboratory in Advanced Course
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	電子システム工学専攻(電気情報系)1年
授業形態	実験	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位(45時間単位)
担当教員	伊藤・田中・菊池・高島	居室(もしくは所属)	電気・物質棟1/2階
電話		E-mail	
授業の達成目標	1. 電子計測機器の取扱いができること。 2. 計測装置の必要性を説明できること。 3. 必要に応じて新しい計測システムのプロ案を構成が行える。 各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法 1. 3 提出レポート等の内容で評価する。		
評価方法	実験の取り組み要領および提出レポート等の内容を各テーマごとに評価した上で、算術平均により評価する。		
授業内容	実験の進め方は、基本的に以下の通り。(前期) 第1週) 指導教員から各実験テーマに関する説明を受け、テーマの原理・実験方法などの与えられた課題を図書・文献などで調べ、ブレリポートを提出する。必要に応じて予備の実験を行う。 第2週) 第1週の報告書に基づき、実験を行う。得られた実験データを解析し、その結果について考察の上、所定の期日までレポートを提出する。場合によっては、プレゼンテーションを実施する。 <実験テーマ(前期)> ① 「高温超伝導体の作製とその物性評価」(森) ② 「フライングセラミックス評価技術へのアコースティック・エミッタの応用」(中山)> ③ 「PIDを用いたディジタル回路の設計」(大嶋) ④ 「レーザ干渉法」(土田) ⑤ 「画像情報処理実験(プログラムの作成と評価)」(小林幸) ⑥ 「音声情報処理の実験」(石原) ⑦ 「PC(Programmable Controller)による自動制御実験」(今成) ⑧ 「無声放電によるオゾン生成実験」(田中) ⑨ 「有限要素法による電磁界解析」(大嶋) ⑩ 「単相PWMインバータの系統連系手法」(北野)		
キーワード	ワイプル統計、表面粗さ、熱拡散、回電感		
教科書	自作テキスト		
参考書	機械工学実験Ⅱテキスト		
技術者教育プログラムの学習・教育目標	技術者教育プログラムの学習・教育目標		
(A-1) 科学や工学の基本原理や法則を身に付ける。			
(B-1) 実験や観察、調査、製作を行って結果や結論が導ける。			
(D-2) 実験や調査結果を口頭発表して議論できる。			
JABEE 基準 1 の (1) との関係	(b),(c),(f)		
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目		
前年度までの関連科目	機械工学実験Ⅱ、メカトロニクス実験		
現学年の関連科目	電子システム工学演習		
次年度以降の関連科目	なし		
連絡事項			
備考	試験は行わない。 実験一指導教員の指示にしたがって、手順よく実験を行う。 レポート一実験結果をまとめてレポートを作成し、指導教員の口頭試問を受け、理解を深める。 シラバス作成年月日：平成18年2月15日		

(出典：小山高専ホームページ)

資料5-6-①-5 2/2: 実験実習科目シラバス (続き)

電子システム工学専攻 (電子制御工学系) 電子システム工学専攻実験

科目名	専攻実験	英語科目名	Experiment of Engineering
開講年度・学期	2006年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科電子システム工学専攻1年(電子系)
授業形態	実験	必修 or 選択	必修
単位数	2	単位種類	学習単位(90時間単位)
担当教員	金野茂男、市村智康、西野聡、久保和良	居室(もしくは所属)	電子制御科棟3階、その他
電話		E-mail	
授業の達成目標			
1. 電子システム専攻科生の中で、電子系の専攻生向けに開講するので、本科での実験力基を基礎に、更なる実験力を習得する。			
2. 実験分析はより高度に、かつ多岐におよぶが、しつかりと習得する。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1. 実験への出席、及び実験態度			
2. 報告書の提出、及び内容			
評価方法			
1. 実験への出席、及び実験態度			
2. 報告書の提出、及び内容			
授業内容			
1. ガイダンス			
2. 真空管 AMラジオの製作			
3. 半自作GPSの製作			
4. Z-801による入出力制御実験			
5. カラー画像システムと色彩計測			
キーワード			
実験			
教科書			
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(B-1)			
JABEE 基準1の(1)との関係 (d(2-b)), (f), (h)			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現年度の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
シラバス作成年月日: 2006年 3月 27日			

物質工学専攻 物質工学専攻実験

科目名	物質工学専攻実験	英語科目名	Experiments of Bioengineering
開講年度・学期	平成18年度・通年	対象学科・専攻・学年	物質工学専攻1年
授業形態	実験	必修 or 選択	必修
単位数	2	単位種類	履修単位(4.5h)
担当教員	前期: 横田正仁(非常勤) 後期: 魚山雄之	居室(もしくは所属)	電気・物質棟4階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
1. 細胞遺伝子工学および有機合成化学の2分野の実験を修得する。			
2. 微生物の無菌操作法、計画法、生体成分の分離定量法を修得する。			
3. 種々の反応系を用いた基本的な有機合成の技術を修得する。			
4. 実験の意義についての正確な知識と実験データの取り方を修得する。			
5. 実験データの記録の仕方、実験レポートの取り方を向上させる。			
6. 実験レポートの書き方に習熟する。			
7. 実験結果の良い発表方法を修得する。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1-6 実験および報告書を60%以上の成績で評価する。			
7 発表の内容を設定基準により評価する。			
評価方法			
実験実施状況(50%)、報告書(40%)、発表(10%)			
授業内容			
前期: 微生物実験			
1. 大腸菌の増殖速度の測定			
2. 酵母の増殖速度の測定			
3. DNAの分離と定量			
4. 比色分析法とタンパク質の定量			
5. 分子ふるいクロマトグラフィーによるタンパク質の分離			
後期: 有機合成化学実験			
7-1 クロマトグラフィーおよび薄層抽出による分離			
8. Friedel-Crafts 反応による1,4-dienyl-アゾベンゼンの合成			
9. Grignard 反応による1,1-ジフェニルエチレンの合成			
10. パン酵母によるアセト酢酸エチルの不斉還元			
11. 機器分析 (H NMR と IR による構造決定)			
キーワード			
各担当教員が作成			
教科書			
1. 泉屋伸夫 「生物化学序説」、化学同人			
2. 八木達彦 「コーンスタンプ化学」、東京化学同人			
3. D.T.Plummer 「実験で学ぶ生化学」、化学同人			
4. 伊東 聖玉 「マクマラー有機化学概説」、化学同人			
5. 後藤俊典 「ワイリアムソン マイクロスケール有機化学実験」、丸善			
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(B-1) 実験や観察、調査、製作を行って結果や結論が導ける。			
JABEE 基準1の(1)との関係 (d(2-b)), (f), (h)			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現年度の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
1. 理解が困難な場合は、その都度相談に応じる。			
2. 定期試験は行わない。			
3. 予習、復習は確実に行うこと。生体材料の取扱いは十分注意すること。すなわち、実験前日にはアセキストを五分に読み、内容を把握しておくこと。実験操作をノートにメモしておくこと。実験中には、実験に用いる器具、装置の使い方に慣れる。実験データをノートに逐次記録する。疑問点等もメモすること。また、定められた期間までに担当教員に実験レポートを提出する。			
シラバス作成年月日: 平成17年03月22日			

(出典: 小山高専ホームページ)

資料 5-6-①-6 : 教育に工夫を行っている科目のシラバス

建築学専攻 地域設計 I

科目名	地域設計1	英語科目名	Community Design 1
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	建築学専攻1年
授業形態	実験	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位
担当教員	高橋大輔	居室(もしくは所属)	建築学科棟2階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
1. 地域施設としての小学校建築の設計・計画について理解し、計画・設計することによりその機能とデザインの整合性、まちづくり的観点からの設計ができる。 2. 実際にある敷地やその周辺環境、まちの成り立ちなどを丹念に調査することで、計画対象敷地と周辺環境との関係を読みとり、デザインサーヴェイの結果をまとめ、プレゼンテーションすることが出来る。 3. デザインサーヴェイの手法を学び、建築設計のリソースとする方法を理解する 4. 建築形態の生成手法を理解し、それを図面と模型のプレゼンテーションによって表現することができる			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1~4. 各スケジュール内の進行による計画チェック時の提出物内容と質疑応答から理解度で評価し、また、口頭発表と提出作品の内容から設定水準で評価する。			
評価方法			
以下の4項目を加重平均で評価する。 1. 各スケジュール内の進行による計画チェック時の提出(10%) 2. 最終提出作品の計画内容(コンセプトや機能の構築)(60%) 3. 図面の正確さ(10%) 4. プレゼンテーション手法・発表(20%)			
授業内容		授業内容に対する予習項目	
1. 課題説明、及びサーベイ・分析方法の説明(1週) 2. 小学校建築に関する事例、および計画方法(1週) 3. デザインサーベイ調査(2週) 4. 調査レポート作成、及び調査結果プレゼンテーション(1週) 5. 機能構成・機能ダイアグラム検討(2週) 6. 配置計画(2週) 7. 平面計画(2週) 8. 断面・立面計画(2週) 9. 計画案提出(1週) 10. プレゼンテーション(1週)		1~5. 小学校の設計事例および参考書などの精読 4~9. 毎回必ずエスキース案と模型を用意すること。	
キーワード	小学校建築、景観デザイン、地域デザイン、空間構成		
教科書	自作プリント		
参考書	1. 小嶋一浩 著「エスキースシリーズI アクティビティを設計せよ! 学校空間を軸にしたスタディ」彰国社(2000) 2. 建築思潮研究所著「建築設計資料 67 学校I 小学校・中学校・高等学校」建築資料研究社(1998) 3. 上野淳著「学校を変えなくちゃ!! 学校の再構築がはじまった」ポイックス(2002) 4. 船越徹・寺嶋修康著、日本建築家協会編「DA 建築図集 学校II 小学校・小中学校」彰国社(2001)		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-3) 専門分野の課題や問題点を把握して解決方法が考えられる。 (B-1) 実験や観察、調査、製作を行って結果や結論が導ける。 (C-2) 社会・経済と技術の共生の可能性を理解できる。 (D-2) 実験や調査結果を口頭発表して議論できる。			
JABEE 基準1の(1)との関係	d(2-b)、(e)、(f)、(g)、(h)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	現代建築論、建築設計I・II、建築計画I・II・III		
現学年の関連科目	まちづくり論、地域設計2、近代建築思想史、地域施設計画論		
次年度以降の関連科目	居住地計画論、文化財保存論		
連絡事項			
1. 提出物の内容を評価していくため、未提出の場合には評価対象にならないので十分に注意すること。また、毎回エスキース図面と模型を併せて必ず用意すること。 2. 地域に開放される公共建築の設計を行うため、現代社会における地域施設のあり方を自分なりに考えた上で、計画敷地周辺を丹念に歩き、その場所の特性と建物との関係性を読み取ってほしい。 3. 様々な建築雑誌や私自信が計画・設計に関わった建築作品などに目を通し、興味を持った様々な建築物を実際に見て欲しい。			
シラバス作成年月日:平成18年2月16日			

(出典:小山高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

専攻科では、深い専門性を有する開発型技術者の育成をめざしていることから、実験、実習科目として「特別研究」が重要視された教育課程となっている。実験、実習、演習科目が重要視され、各専攻ともこれらに計20～25単位を配当している。したがって、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であるといえる。

その他の科目においても、建築学専攻において「地域設計Ⅰ」に授業内容に合わせた担当教員の工夫がみられる。

観点5-6-②： 創造性を育む教育方法（PBLなど）の工夫やインターンシップの活用が行われているか。

(観点に係る状況)

本校では、学生の創造力を育む教育として、各専攻とも1、2学年の必修科目である「特別研究」を重要視している。「特別研究」において各指導教員の下で研究を行うことで学生の創造力を育てている。「特別研究」のシラバスと発表会写真を(資料5-6-②-1)に示す。

さらに、専攻科課程におけるインターンシップ(本校では専攻科の科目名称を「実務研修」としている。)を専攻科設立以来、「電子システム工学専攻」および「物質工学専攻」において専門科目の必修科目として開設しており、選択科目としていた「建築学専攻」も平成19年度より必修科目に指定している。3専攻とも、2週間の実務研修と研修内容の発表を義務付け、1年前期に2単位を配当している。この「実務研修」は、学生が社会での実務経験を積む貴重な機会を与えており、学生の創造力を育む取り組みとしている。「実務研修」のシラバスと発表会プログラム・発表会写真を(資料5-6-②-2)に示す。また、「実務研修」を平成16～18年度において修得した学生数を(資料5-6-②-3)に示す。

専攻科修了生の就職先企業を対象に実施した、専攻科修了生の資質・能力に関するアンケート結果を(資料5-6-②-4)に示す。また、専攻科在學生に実施した、学習達成度の「創造力」、「問題解決能力」等に関するアンケート結果を(資料5-6-②-5)に示す。

資料5-6-②-1 1/3 : 特別研究シラバス

電子システム工学専攻 (電気情報工学系)

科目名	特別研究	英語科目名	Thesis Work
開講年度・学期	平成18年度・通年	対象学科・専攻・学年	1SS/2SS
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	3単位 (1SS) / 11単 位 (2SS)	単位種類	学修単位 (15時間単位)
担当教員	担当教員	居室 (もしくは所属)	電気・物質棟1/2階
電話		E-mail	
授業の達成目標	<p>研究分野の背景を理解できること。 具体的な研究テーマを立案できること。 研究スケジューリングを立案、実施できること。 結果を分析し、指導教員と討議できること。 筋道を立て、独創的な結論が導き出せること。 発表方法を決定し、第三者に理解してもらえようコミュニケーション力をつけること。 論文作成できること。</p>		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法	<p>1～5 指導教員の評価による。 6 特別研究発表会において各教員が評価する。 7 概要書の内容を各教員が評価する。</p>		
評価方法	<p>下記の要領により総合評価し、合否を判定する。 担当教員が評価する。(6.0%) 各教員が評価する。(4.0%)</p>		
授業内容	<p>＜研究テーマ＞ スタート時のガイドランスで詳細を提示する。以下に、テーマの概要を示す。 ○高温超伝導体の量子物理 (森) ○新しい電子発電・冷媒素子開発のための材料科学 (森) ○透明導電性材料の電子物性 (森) ○アークコート、エミシジョン (中山) ○信頼性評価システムの開発 (中山) ○超伝導球の放電特性の解析 (大嶋) ○超伝導体球の放電特性の解析 (大嶋) ○理型医療機器用非侵襲電力供給システムに関する研究 (大嶋) ○マルチメディア上の音声・聴覚特性の解析と評価 (石原) ○ネットワークを利用した遠隔制御に関する研究 (石原) ○高精度形状計測法に関する研究 (土田) ○高精度表面形状計測法に関する研究【理論解析】 (土田) ○多重分光画像の解析 (小林(幸)) ○人間の聴覚特性に関する研究 (小林(幸)) ○コンヒューションシミュレーションによるバルスバワーダイオードの解析と新シミュレーション技法の開発 (今成) ○高周波グロー放電によるオゾン生成に関する研究 (田中)</p>		
キーワード			
教科書			
参考書	<p>技術者教育プログラムの学習・教育目標 (A-1) 科学や工学の基本原理や法則を身につける。 (B) 技術者としての素養を身につける。 (C-3) 技術者としての社会的責任や倫理観を自覚できる。 (D-2) 実験や調査結果を口頭発表して議論できる。</p>		
技術者教育プログラムの学習・教育目標	<p>JABEE 基準1の(1)との関係 (a), (b), (c), (d), (e), (f), (g), (h)</p>		
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目		
前年度までの関連科目	現学年の関連科目		
現学年の関連科目	次年度以降の関連科目		
次年度以降の関連科目	連絡事項		
連絡事項	<p>1. 担当教員の指導の下に研究を行うが、研究課題に対する独自のアプローチや結果の分析など問題解決能力を高める意識を持つことが期待される。また研究室の後輩などの指導も積極的に行うよう心掛けること。研究成果を学研学会などに発表出来るまでの成果が期待される。 シラバス作成年月日：平成18年2月15日</p>		

電子システム工学専攻 (機械工学系)

科目名	特別研究	英語科目名	Thesis Work
開講年度・学期	平成18年度・1年後期 2年前後期	対象学科・専攻・学年	専攻科電子システム専攻1,2年
授業形態	特定テーマの研究	必修 or 選択	必修
単位数	1年3単位、2年5+6単位	単位種類	学習単位 (45時間単位)
担当教員	機械工学科 各教員	居室 (もしくは所属)	機械工学科棟・専攻科棟教員
電話		E-mail	
授業の達成目標	<p>自らテーマを設定して実験的手法や解析的手法を駆使して研究が出来るよう5つの基礎的素養を身につけることを目標とする。</p>		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法	<p>研究結果の口頭発表と提出論文の内容を設定基準で評価する。</p>		
評価方法	<p>研究態度、発表能力、質疑応答能力、論文の水準で合否を決める。</p>		
授業内容	<p>授業内容 1. 文献検索、選定、輪読などを行い、研究する目的や範囲を明確にする。 2. 計、製作を行う。 3. 実験系では実験を行いデータを取得する。解析系ではプログラムを作成して解析を行う。 4. 結果をまとめ考察を行う。 5. 論文または報告書にまとめる。</p>		
キーワード			
教科書	指定しない。		
参考書	指定しない。		
技術者教育プログラムの学習・教育目標	<p>(A-1), (A-2), (A-3), (B-1), (B-2) (d)-(2)-(a), (d)-(2)-(b), (d)-(2)-(c), (d)-(2)-(e), (f), (g), (h)</p>		
JABEE 基準1の(1)との関係			
カリキュラム中の位置づけ	前年度までの関連科目		
前年度までの関連科目	現学年の関連科目		
現学年の関連科目	次年度以降の関連科目		
次年度以降の関連科目	連絡事項		
連絡事項	<p>1. 安全面など研究を行うに当たって注意する点をあらかじめ学習しておく。 2. 実験は行わない。 シラバス作成年月日：平成 年 月 日</p>		

(出典：小山高専ホームページ)

資料5-6-②-1 2/3 : 特別研究シラバス (続き)

物質工学専攻

科目名	特別研究	英語科目名	Special Research Work
開講年度・学期	平成19年度・後期(ISC) 平成19年度・通年(2SC)	対象学科・専攻・学年	専攻物質工学専攻・電子制御系1年・2年
授業形態	実習(研究)	必修 or 選択	必修
単位数	15 単位	単位種類	物質工学専攻1年前期1単位、後期3単位、2年前期5単位、後期6単位
担当教員	全教員	居室(もしくは所属)	電気物質棟・物質工学科実験棟・専攻科棟
電話		E-mail	
授業の達成目標			
1. 自分で文献調査や資料収集・調査ができる。 2. 実験記録を正確に採れるようになる。 3. 自分が行っている研究の計画を立てられるようになる。 4. 研究結果を論文としてまとめることができる。 5. 研究結果を学内の発表会で発表できる。 6. 研究成果を学会等の学外での発表会で発表できる。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
1. 研究に関連して調査した文献や資料の内容を評価する。 2. 研究の実施記録で評価する。 3. 指導教員とのディスカッションを通じて評価する。 4. 提出される論文報告書の内容で評価する。 5. 研究結果の学内における発表で評価する。 6. 研究成果の学外における発表で評価する。			
評価方法			
1年次の4単位分(前期1単位、後期3単位)については年度末の中間発表会で研究発表を行わせ、文献調査や研究実施状況、口頭発表および発表要旨原稿の内容について複数の教員で総合的に評価し、60%以上の成績で単位の認定を行う。 2年次の場合は2年生の特別研究には入れない。 2年次にも同様に最終的な年度末の特別研究発表会で研究発表を行わせ、文献調査や研究実施状況、口頭発表および特別研究報告書の内容について複数の教員で総合的に評価し、60%以上の成績で11単位(前期5単位、後期6単位)を認定する。			
授業内容			
指導教員のもとで選定した特定分野やテーマに関する研究を行い、研究発表および研究成果報告書の作成を行う。			
キーワード	特になし		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-3)、(D-2)	(d)(2)-(e)、(f)、(g)		
JABEE基準1の(1)との関係	カリキュラム中の位置づけ		
前年度までの関連科目	各研究室の専門分野科目		
現学年の関連科目	各研究室の専門分野科目		
次年度以降の関連科目	なし		
連絡事項			
1. 研究テーマに対する目的を十分に理解し、関連文献の資料調査、目的達成のための具体的な方法や手段を自ら考え、自主的、計画的に研究を遂行して結論を導き、研究結果の口頭発表および報告書作成を通じて、技術的課題や問題解決の方法を身につけて欲しい。 2. 単位および出席時間数は下記の通り。 ・1 単位分は45時間の研究に相当する。 ・1 年生の出席時間は(前期1単位=45時間、後期3単位=135時間)で合計180時間である。 ・2 年生の出席時間は(前期5時間=225時間、後期6時間=270時間)で合計495時間である。			
シラバス作成年月日:平成18年3月1日			

電子システム工学専攻 (電子制御工学系)

科目名	特別研究	英語科目名	Thesis Work
開講年度・学期	平成18年度・後期(1SS) 平成18年度・通年(2SS)	対象学科・専攻・学年	専攻電子システム専攻・電子制御系・1年・2年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	3 単位(1SS) 11 単位(2SS)	単位種類	学修単位(4.5時間単位)
担当教員	全教員	居室(もしくは所属)	電子制御工学科棟・専攻科棟
電話		E-mail	
授業の達成目標			
研究技術者としてテーマを解決するために必要な研究態度、研究技術の普遍性を確定するための理論解析および実験等の研究方法について具体的な研究テーマをもとに教授し、さらに研究成果の論文へのまとめ方および発表会について指導し、創造性のある開発研究技術者を育成する。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
研究室の指導教員による。			
評価方法			
研究室の指導教員による。特に、特別研究中間発表会の発表状況を重視し、主査・副査との合計点で評価する。			
授業内容			
指導教員による			
前年度の研究テーマ			
「赤外線画像を用いた男女識別の検討」(指導教員 西野)			
「ウエーブレット解析による音源の3次元位置推定」(指導教員 平田、久保)			
キーワード			
教科書			
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標			
(A-1)科学の基本原理・法則の理解と工学への応用、			
(B)技術者養育			
(C)技術と自然・社会との関係の理解、			
(D)コミュニケーション能力			
JABEE基準1の(1)との関係	(a)、(c)、(f)、(g)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
教員の指導の下に研究を行うが、研究課題に対する独自のアプローチや結果の分析など問題解決能力を高める意識を持つことが期待される。また研究室の後輩などの指導も積極的に行うよう心掛けること。研究結果を学術学会などに発表出来るまでの成果が期待される。			
シラバス作成年月日:平成 年 月 日			

(出典: 小山高専ホームページ)

資料5-6-②-1 3/3 : 特別研究シラバス (続き)

建築学専攻

科目名	特別研究	英語科目名	Thesis Works
開講年度・学期	平成18年度・前期、通年	対象学科・専攻・学年	建築学専攻・1年、2年
授業形態	演習	必修 or 選択	必修
単位数	2、6、6単位	履修単位(30時間単位)	履修単位(30時間単位)
担当教員	建築学専攻全教員	居室(もしくは所属)	建築棟
電話	E-mail		
<p>授業の達成目標</p> <p>1. 各教員の設定した達成目標(別欄)に従い、各自具体的な研究テーマを設定し、</p> <p>2. そのテーマに従い実験・調査計画を立て、実験・調査・解析を行い、問題点の発見から解決に至るプロセスを体験する。</p> <p>3. その結果をとりまとめ、研究論文として発表する。</p> <p>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</p> <p>1～3. 1年後期の中間発表会、2年後期の特別研究発表会において60%以上の成績で評価する。</p>			
<p>評価方法</p> <p>1. 評価は各期ごとに行うが、最終的には建築学専攻全教員の合意により合否を判定する。</p> <p>2. 評価項目は以下とする。研究の進め方、研究の独創性、論文のまとめ方、発表方法・内容。</p>			
<p>授業内容</p> <p>1年後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 既往研究の調査 2. ゼミによる研究課題の掘り下げ 3. 調査研究方法の検討・研究スケジュールの調整 4. 中間審査として全教員に発表 <p>2年前期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験・調査・解析 2. 「学習成果」のとりまとめ <p>2年後期：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「学習成果」に基づく中間審査 2. 研究計画の再立案 3. 実験・調査・解析 <p>各教員の研究テーマ、達成目標 *** (省略) ***</p>			
キーワード	研究計画、調査、実験、解析、研究論文		
教科書	建築に関する書籍		
参考書	建築に関する書籍		
<p>技術者教育プログラムの学習・教育目標</p> <p>(B-1) 実験や観察、調査、製作を行って結果や結論が導ける。</p> <p>(D-2) 実験や調査結果を口頭発表して議論できる。</p>			
<p>JABEE 基準1の(f)との関係</p> <p>d(2-c)、(f)、(h)</p>			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	建築学科4.5年全科目		
現学年の関連科目	建築学専攻全科目		
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
<p>1. テーマの設定、実験調査、まとめまで原則として学生が自主的に行うこと。</p> <p>2. 長期にわたるためスケジュールを十分吟味すること。</p> <p>シラバス作成年月日：平成18年1月30日</p>			

(出典：小山高専ホームページ)

特別研究発表会 (物質工学専攻)



(出典：平成18年度専攻科リフレット)

資料5-6-②-2 1/4 : 実務研修シラバス

電子システム工学専攻 (電気情報系)

科目名	実務研修	英語科目名	Internship
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	電子システム工学専攻・1年
授業形態	実習	必修or選択	必修
単位数	2単位	単位種別	学修単位(45時間単位)
担当教員	居室 (もしくは所属)		
電話		E-mail	
授業の達成目標			
1. 理論の学習および実験を通じて修得した知識と技能を専攻に活かすにはどうしたらよいかを学ぶ。 2. 設計や製造現場における工学の適用状況を説明できること。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
評価方法 1. 研修先の指導者の評価による。 2. 研修後の報告会の内容により評価する。			
授業内容 研修中における指導者の評価 (研修成果・積極性・理解度・職場規律遵守など) と、研修後の報告会の内容により合否を判定する。			
授業内容 ＜研修テーマ＞ (研修先) とこれまでの実施例＞ 示す。 研修先および研修テーマは希望により決まる。これまでの実施例を以下に示す。 -機械系- ○シケンサ・リレー回路等の理解 (三協システム㈱) ○細微鏡の製作と検査 (同上) ○配電盤の組立 (同上) ○NCラインにおける実作業およびNC旋盤設置取りプログラム作成 (樹立工業) ○プログラムを作り製品を作る (同上) ○3.5インチMOハブ接着装置の精度評価 (ソニー梅本㈱) ○リチウムイオンバッテリー電解液の注入条件の最適化 (同上) -電気情報系- ○GaaS L S I の特性評価 (富士通㈱) ○2.4G/s 光インターフェースボードの評価 (同上) ○デバイス機器生産に関する評価データ測定、資料作成 (平河ヒューテック) 水質汚濁防止法に基づく水質分析 (平成理研)			
キーワード			
教科書			
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標 (A-1) 科学や工学の基本原理や法則を身につける。 (B-3) 実社会の体験についての自らの考えを発表、報告できる。 (b), (c), (f)			
JABEE基準1の(1)との関係 (b), (c), (f)			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
事前に研修予定企業と打ち合わせを行い、研修の内容を決定する。研修時期は原則として夏休み期間中とし、2週間(90時間以上)の期間を必要とする。 学生へのメッセージ： 社会人として企業などに就職する前に、短期間ながら企業の仕事に携わることが出来るので、将来の仕事への適応性などを念頭に置きつつ研修を行うと良い。また、学校とは異なる視点から評価されることから、社会人としての資質などを考える良い機会となる。			
シラバス作成年月日：平成18年2月15日			

電子システム工学専攻 (機械工学系)

科目名	実務研修	英語科目名	Internship
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科電子システム専攻1年
授業形態	企業での実務研修	必修or選択	必修
単位数	2単位	単位種別	学習単位(45時間単位)
担当教員	山下 進	居室 (もしくは所属)	機械工学科333
電話		E-mail	
授業の達成目標			
本科で学んだ専門科目の知識を活かし、技術者としての基礎的な問題解決能力を身に付けることを目標とする。			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
実務研修の報告書、発表と質疑応答の能力で評価する。			
評価方法			
研修態度、発表能力、質疑応答能力、報告書の水準で合否を決める。			
授業内容 研修先の指導者及び指導教官の指示に従う。 研修先によるが、以下の流れとなる。 1. 指導教官と相談の上研修先を決める。 2. 研修先と協議して研修内容を決める。 3. 研修を行う。 4. 研修終了後報告会を行い、報告書提出する。			
キーワード			
教科書	指定しない。		
参考書	指定しない。		
技術者教育プログラムの学習・教育目標 (A-2), (C-2), (D-3) (b), (d), (2)-(d), (e), (f)			
JABEE基準1の(1)との関係 (b), (d), (2)-(d), (e), (f)			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項			
・ 試験は実施しない。 ・ 研修を受ける立場であることを自覚し、社会的規範を逸脱しない。 シラバス作成年月日：平成 年 月 日			

(出典：小山高専ホームページ)

資料 5-6-②-2 2/4 : 実務研修シラバス (続き)

物質工学専攻

科目名	実務研修	英語科目名	Internship
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	物質工学専攻1年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位(45:時間単位)
担当教員	全教員	居室(もしくは所属)	
電話		E-mail	
授業の達成目標	1. 学校で修得した知識と実務経験との関係性を説明できる。 2. 実務経験から問題や課題の解決あるいは発明方法について体験した範囲で説明できる。 3. 実務経験で広く学んだことを社会的視点で説明できる。		
評価方法	1~3. 実務研修発表会における発表内容を設定水準で評価する。		
評価内容	研修中の実務指導担当者の評価と研修後の発表、報告内容で総合的に評価する。		
授業内容	1. 実務研修の事前指導(研修企業等の予備調査と内容把握) 2. 研修企業等における指導者の下での実務研修 3. 研修内容の報告書作成、および発表会での口頭発表		
キーワード	特になし		
教科書	特になし		
参考書	特になし		
技術者教育プログラムの学習・教育目標	(C-2),(D-3)		
JABEE 基準1の(1)との関係	(G)(2)-(d),(h)		
カリキュラム中の位置づけ	物質工学科4.5年全科目		
前年度までの関連科目	物質工学専攻1年全科目		
現学年の関連科目	物質工学専攻1年全科目		
次年度以降の関連科目	物質工学専攻1年全科目		
連絡事項	1. 1学期間ではあるが実社会での実務経験によって学校で修得した知識について認識する良い機会であるので有意義な研修にしてほしい。 2. 企業等における実務研修は原則として夏季休業期間中に実施する。 3. 企業等における研修は2週間(8時間/日×10日)以上の期間とし、研修前の事前指導5時間と研修後の報告書作成および発表会等の5時間を含んで研修総時間は90時間以上とする。 シラバス作成年月日:		

電子システム工学専攻 (電子制御系)

科目名	実務研修	英語科目名	Internship
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	専攻科電子システム専攻・電子制御系・1年
授業形態	実習	必修 or 選択	必修
単位数	2単位	単位種類	学修単位(4.5時間単位)
担当教員	全教員	居室(もしくは所属)	電子制御工学科棟・専攻科棟
電話		E-mail	
授業の達成目標	企業および研究機関等の研究・技術開発等、製造工程部署等において、専攻課程で修得した知識の通用方法・研究および技術の実態を、現場担当者の指導の下に実務経験を積ませ、実社会において協働性および創造性のある幅広い開発研究技術者を養成する。 1. 理論の学習および実験を通して修得した知識と技能を実地に生かすことにより、実社会で活躍できること。 2. 設計・製造現場における工学の適用状況を説明できること。		
評価方法	各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法		
評価内容	上記事項を研修中における指導者の評価(研修成果・積極性・理解度・職場規律など)と、研修後の報告などによって評価。		
授業内容	研修中における指導者の評価(研修成果・積極性・理解度・職場規律など)と、研修後の報告書及び報告会による総合評価。		
キーワード	電子制御系 実務研修先		
教科書			
参考書			
技術者教育プログラムの学習・教育目標	(A-1)科学の基本原理・法則の理解と工学への応用 (D)コミュニケーション能力		
JABEE 基準1の(1)との関係	(b),(c),(f)		
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目			
現学年の関連科目			
次年度以降の関連科目			
連絡事項	事前に研修予定企業と打ち合わせを行い、研修の内容を決定する。 研修時期は原則として夏休み期間中とし、2週間(90時間以上)の期間を必要とする。 社会人として企業などに就職する前に、短期間ながら企業の仕事に携わることが出来ることから、将来の仕事への適応性などを念頭に置きつつ研修を行うと良い。また、学校、学校とは異なる視点から評価されることから、社会人としての資質などを養える良い機会となろう。 シラバス作成年月日:平成 年 月 日		

(出典: 小山高専ホームページ)

資料 5 - 6 - ② - 2 3 / 4 : 実務研修シラバス (続き)

建築学専攻

科目名	実務研修	英語科目名	Internship
開講年度・学期	平成18年度・前期	対象学科・専攻・学年	建築学専攻・1年
授業形態	演習	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位(15時間単位)
担当教員	建築学専攻全教員	居室(もしくは所属)	建築棟
電話		E-mail	
<p>授業の達成目標</p> <p>企業および研究機関等の研究室・技術開発室・設計部・現場管理部・製造部などにおいて、実務担当者等の指導のもとに実務経験を積ませ、専攻課程で習得した知識の適用方法を体得させることを目的としている。</p> <p>1. 実務と高専での学習の相違を自分の経験から説明できる。</p> <p>2. 問題・課題発見から解決・発明に至るプロセスを体験した範囲で理解し、それを、表現できる。</p> <p>3. 自分の行ったきた取り組みを客観的に振り返しそれを表現できる。</p>			
<p>各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法</p> <p>1～3. 実務研修発表会において60%以上の成績で評価する。</p>			
<p>評価方法</p> <p>研修中の指導者の評価と研修後の報告発表会内容による。</p>			
<p>研修内容</p> <p>1. 対象企業等の基礎スタディ(5時間)</p> <p>2. 対象企業等で指導者の指導の下に実務研修(8時間 * 10日)</p> <p>3. 研修内容をとりまとめ、発表を行う(5時間)</p>			
キーワード	企業、実務、研修		
教科書			
参考書			
<p>技術者教育プログラムの学習・教育目標</p> <p>(C-2)社会・経済と技術の共生の可能性を理解できる。</p> <p>(D-3)実社会の体験についての自らの考えを発表、報告できる。</p>			
<p>JABEE 基準1の(1)との関係</p> <p>(C2-0), (6)</p>			
カリキュラム中の位置づけ			
前年度までの関連科目	建築学科4,5年全科目		
理学年の関連科目	建築学専攻1年全科目		
次年度以降の関連科目	建築学専攻2年全科目		
連絡事項			
<p>1. 建築学専攻は必修ではないので、原則として研修先を専攻では輪流しない。</p> <p>2. 各自で先方と交渉の上、専攻の許可を得ること</p>			
<p>シラバス作成年月日:平成18年1月30日</p>			

(出典：小山高専ホームページ)



(出典：平成18年度専攻科リーフレット)

資料5-6-②-2 4/4 : 実務研修 発表会プログラム (学生氏名白抜き)

平成18年度

建築学専攻 実務研修報告会

日時：平成18年10月25日(水)

場所：建築学科 デザインスタジオ

番号	時間	氏名	研修先
1	15:00~15:10		小川ハウジング
2	15:10~15:20		玉野建築設計事務所
3	15:20~15:30		塚田建築士事務所
4	15:30~15:40		伊藤豊雄建築設計事務所
5	15:40~15:50		石嶋設計室

(発表6分、質疑4分)

平成18年度

専攻科電子システム工学専攻(SS)・物質工学専攻(SC)

実務研修報告会

日時：平成18年10月11日(水) 13:10~

場所：専攻科棟 多目的メディアホール

司会：堤、渡利、渡邊、土田

報告者：専攻科生 (SS11名、SC5名、計16名)

※発表 (Power Point) ; C科、M科、D・E科でそれぞれ事前に準備しておくこと。

学生1名あたり10分 (発表7分、質問3分)

発表順番	時間	専攻	学生氏名	研修先
1	13:10~13:20	SC		森永製菓(株)小山工場
2	13:20~13:30	SC		ホッカイエムアイン
3	13:30~13:40	SC		(株)小松製作所 小山工場
4	13:40~13:50	SC		長谷川香料(株)深谷事業所
5	13:50~14:00	SC		カゴメ(株)那須工場
休憩 10分				
6	14:10~14:20	SS(M)		(株)ニッコークリエート
7	14:20~14:30	SS(M)		(株)高岳製作所
8	14:30~14:40	SS(M)		(株)小松製作所 小山工場
9	14:40~14:50	SS(M)		(株)M3宇都宮事業所
10	14:50~15:00	SS(M)		(株)澤本製作所 宇都宮工場
休憩 10分				
発表順番	時間	専攻	学生氏名	研修先
11	15:10~15:20	SS(D)		(株)小松製作所 小山工場
12	15:20~15:30	SS(D)		産総研 つくば第2次世代半導体研究センター
13	15:30~15:40	SS(E)		日本信号 宇都宮事業所
14	15:40~15:50	SS(E)		(株)栃木富士通アソ
15	15:50~16:00	SS(E)		(株)高岳製作所
16	16:00~16:10	SS(E)		(株)物質・材料研究機構 ナノ有機センター

(出典：専攻科委員会資料)

資料 5-6-②-3 : 「実務研修」の修得状況

16年度				17年度				18年度						
		大学	企業	計		大学	企業	計		大学	企業	計		
1年	SS	2	8	10	1年	SS	1	12	13	1年	SS	0	9	9
	SC	1	5	6		SC	0	6	6		SC	0	5	5
	SA	0	6	6		SA	0	6	6		SA	0	5	5
	計	3	19	22		計	1	24	25		計	0	19	19

電子システム専攻：SS、物質工学専攻：SC、建築学専攻：SA

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5-6-②-4 : 専攻科生就職先企業の専攻科修了生の資質・能力に関するアンケート結果

専攻科修了生就職先企業の専攻科修了生の資質・能力に関するアンケート結果

設問内容	全くその通りである 5	かなりそうである 4	普通 3	あまりそうではない 2	ない 1	無効回答	合計	平均
感性や創造力が豊かである。	1	5	6	0	0	2	14	3.6
専門領域における基礎的能力が高い。	3	5	4	0	0	2	14	3.9
専門領域における問題解決能力が高い。	3	4	4	1	0	2	14	3.8
情報技術力が高い。	2	7	3	0	0	2	14	3.9
御社・貴学にふさわしい人間性を有している。	2	8	2	0	0	2	14	4.0

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5-6-②-5 : 専攻科学生の学習達成度に関する自己評価アンケート結果

専攻科学生の学習達成度に関する自己評価アンケート結果
小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。

学年	設問内容	全くその通りである 5	かなりそうである 4	普通 3	あまりそうではない 2	ない 1	無効回答	合計	平均
1年	「創造力」が身についた。	6	8	3	0	1	0	18	4.0
	「専門知識」が身についた。	7	9	2	0	0	0	18	4.3
	「問題解決能力」が身についた。	6	6	6	0	0	0	18	4.0
	「情報技術力」が身についた。	7	4	6	0	1	0	18	3.9
2年	「創造力」が身についた。	5	10	6	1	0	0	22	3.9
	「専門知識」が身についた。	6	15	1	0	0	0	22	4.2
	「問題解決能力」が身についた。	4	6	12	0	0	0	22	3.6
	「情報技術力」が身についた。	4	10	7	0	1	0	22	3.7

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

主に「特別研究」が創造力を育む授業として本校の教育目標に指定しており、各教員が指導を行っている。さらに、専攻科開設以来「実務研修」を授業科目として開設し、学生の創造力を育む取り組みを充実させている。「実務研修」を必修科目としている「電子システム工学専攻」、「物質工学専攻」、選択科目としている「建築学専攻」ともに、平成16～18年度において全学生がこの科目を修得している。

専攻科修了生の就職先企業に対して実施したアンケート結果において、調査対象企業は少なかったが、本科修了生は、「創造性」、「問題解決能力」を持つ学生と評価されている。また、専攻科在校生に対して実施した「学習達成度」に関するアンケート調査において、「創造性」、「問題解決能力」が身に付いたかの質問に対して、専攻科在學生は、それぞれ3.6以上の高い値を示している。これらから、専攻科における授業科目中最も単位数を配当している「特別研究」と「実務研修」が、創造力を育む授業科目としてよいといえる。

観点5-6-③： 教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示など内容が適切に整備され、活用されているか。

(観点に係る状況)

教育課程表は教育方針に基づいて組織的に授業科目を配置したものであり、シラバスは教育課程表の中の各授業について担当教員が授業内容に関する詳細な情報を示したものであるということが準学士課程のシラバスと同様に学生に周知されている。授業科目のシラバスは、本校ホームページ上に掲載されており、どこからでも閲覧できるようになっている。

授業担当者は、教務委員会の作成依頼書(資料5-2-②-1:既出)に基づいて、シラバスの作成、授業評価アンケートの実施、次年度のシラバスの作成を行っており、非常勤講師を含めた全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。シラバスには、授業計画、参考図書、履修上の注意や担当教員の連絡先が記載され、学生が授業をスムーズに受講できるような工夫がなされている。また、評価方法と評価基準に加え達成目標と評価基準の関係が明記され、学生にも分かり易い透明性の高い評価が行われている。

専攻科学生のシラバス活用に関するアンケート結果を(資料5-6-③-1)に示す。アンケート結果は、5段階評価で、全学生、全教員についての平均2.5に対して、1年生が3.7、2年生が3.0の高い値を示している。

資料5-6-③-1：専攻科学生のシラバス活用のアンケート結果

専攻科学生のシラバス活用のアンケート結果

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計	平均
	5	4	3	2	1			
専攻科1年	3	8	6	0	1	0	18	3.7
専攻科2年	1	7	7	4	3	0	22	3.0

平均は5段階表示

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスの作成方法が教員に対する教務委員会の依頼書に示されており、全教員が教育課程に沿った適切なシラバスの作成と活用を行っている。また、シラバスには授業計画、履修上の注意、評価方法など授業を円滑に履修する上で必要な内容が十分に記載されている。専攻科学生のシラバス活用アンケート結果より、専攻科学生はシラバスを十分に活用しているといえる。

観点5-7-①： 専攻科で修学するにふさわしい研究指導（例えば、技術職員などの教育的機能の活用、複数教員指導体制や研究テーマ決定に対する指導などが考えられる。）が行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科における「特別研究」の研究テーマの決定は、基本的に3専攻とも指導教員が教員の専門性を考慮したテーマを提示した後、学生が配属を希望する研究室の教員を訪ねて説明を受け、研究テーマを含め配属する研究室を決める手順をとっている。平成18年度修了生の研究テーマと指導教員を（資料5-7-①-1）に示す。

1学年の終了時に、特別研究の進捗状況を各専攻教員、専攻科学生を対象とした特別研究中間発表（資料5-7-①-2）を義務づけている。この中間発表会において指導教員以外の教員が各学生の研究の進め方等の指導を行っている。

「特別研究」の活性化を目的として、多くの学生が研究成果を学外等で発表している（資料5-7-①-3）。

資料 5-7-①-1 :

平成 18 年度専攻科特別研究概要集 目次・発表プログラム (学生名白抜き)

《電子システム工学専攻》

(機械工学系)

1. V-A型小型ACVの設計と製作 () 1
2. 蠕動運動ロボットに関する研究 () 5
3. 短繊維強化SMCの損傷と機械的特性 () 9
4. 油性液滴の高温固体面上での蒸発挙動 () 13
5. 小型ポンプの基礎的研究 () 17
6. マイクロ風車の動力性能の改善に関する実験的検討 () 21

(電子材料工学系)

7. バイスベクトル解析を用いた本規則音波の3次元位置測定 () 25

(電気情報工学系)

8. 導電性酸化物を含む多結晶(Bi,Pb)SrCaCuO系の高伝導特性 () 29
9. 電子ドーパ型とホールドーパ型酸化物系における熱電特性の比較研究 () 33
10. 磁気浮遊制御系の設計と試作 () 37
11. 調波複合音の位相変化が音色に与える影響 () 41
12. 沿面放電によるオゾン生成に関する研究 () 45

《物質工学専攻》

1. N-保護アミノ酸活性エステルとD-アミノ酸ベンジルエステルとの縮合反応の立体化学 () 49
2. 蠟虫 *Glaucocysta chartaria* を死滅させる死滅因子の分離 () 53
3. ペプチドの立体特異的縮合 () 57
4. 末端反応性ポリエチレングリコール (PEG) 誘導体によるプラチレン (C₆₀) の機能化と応用 () 63
5. 交流インピーダンス法による溶融融液電極下におけるAlは酸浸透処理コーティングの耐食性評価 () 65
6. 主体層Si/SiO₂基板上の有機高分子膜の形成に関する研究 () 69

《建築学専攻》

1. ケアハウス入居者の身体状況変化と施設運営について () 73
2. 侵入犯罪の複数の手口に対する建具の防犯対策について - ドアと窓の防犯性能・コスト - () 77
3. 断熱材への生分解性プラスチックの代替評価について - 断熱材ライフサイクルの体系的整理による検討 - () 83
4. 内部断熱材を用いた角形鋼管柱-11形鋼梁接合部のウェブ応力伝達機構に関する研究 () 87
5. 大谷の岩肌と共に生きる - 静止山を中心とした賑わいの創造 - () 91
6. 見知らずから生まれる連綿的なコミュニティ空間 - 習い事を通じた介護予防 - () 95

電子システム工学専攻

発表プログラム

日時：平成19年2月23日(金)

場所：視聴覚室(図書館等)

番号	テーマ	学生名	指導教員	時間
M1	V-A型小型ACVの設計と製作		山下 進	10:15~10:30
M2	蠕動運動ロボットに関する研究		菊地 吉郎	10:30~10:45
M3	短繊維強化SMCの損傷と機械的特性		伊澤 悟	10:45~11:00
M4	油性液滴の高温固体面上での蒸発挙動		高島 武雄	11:00~11:15
M5	小型ポンプの基礎的研究		菊地 吉郎	11:15~11:30
M6	マイクロ風車の動力性能の改善に関する実験的検討		篠瀬 善弥	11:30~11:45

番号	テーマ	学生名	指導教員	時間
D1	バイスベクトル解析を用いた不規則音源の3次元位置推定		平田 克己 久保 和良	13:15~13:30
E1	導電性酸化物を含む多結晶(Bi,Pb)SrCaCuO _{0.9} 系の高伝導特性		森 夏樹	13:30~13:45
E2	電子ドーパ型とホールドーパ型酸化物系における熱電特性の比較研究		森 夏樹	13:45~14:00
E3	磁気浮遊制御系の設計と試作		田中 昭雄 小林 幸夫	14:00~14:15
E4	調波複合音の位相変化が音色に与える影響		小林 幸夫	14:15~14:30
E5	沿面放電によるオゾン生成		田中 昭雄 小林 幸夫	14:30~14:45

物質工学専攻

発表プログラム

日時：平成19年2月23日(金)

場所：多目的メディアホール(専攻科棟4階)

発表番号	学生名	発表時間	指導教員
1		9:10-9:30	藤越 虎哉
2		9:30-9:45	前田 光晴 (永倉 廣彦)
3		9:50-10:10	藤越 虎哉
4		10:20-10:40	駒島 遼平
5		10:40-11:00	武 成彦
6		11:00-11:20	武 成彦

建築学専攻

発表プログラム

平成19(2007)年2月20日(火)
於：建築学科棟1F101ゼミ室

発表番号	学生名	時間	指導教員	計時
開会の挨拶 学科長 山本 昇 (10:00 ~ 10:05)				
1		10:05 ~ 10:20	瀧澤 雄三	司会：山本貴正 計時：小林一彦
2		10:20 ~ 10:35	大島 隆一	
3		10:35 ~ 10:50	尾立 弘史	
4		10:50 ~ 11:05	山本 昇	
5		11:05 ~ 11:20	尾立 弘史	
6		11:20 ~ 11:35	尾立 弘史	
閉会の挨拶 専攻科主任 高橋 純一 (11:35 ~ 11:40)				

発表時間：10分、質疑応答：5分

(出典：平成18年度専攻科特別研究概要書 p.1-2)

資料 5-7-①-2 : 平成 18 年度専攻科 1 年 特別研究中間発表会 目次・発表プログラム

電子システム工学専攻

発表要領:

発表時間 15 分 (講演時間=10 分, 質疑応答: 5 分)
 振 鈴 (第 1 振鈴: 7 分経過, 第 2: 10 分経過, 第 3: 15 分経過)
 (注意: 第 2 振鈴後は, 直ちに講演を終了すること)

電気・電子・情報系 司会: D 科教員, E 科教員 補佐: D 系専攻学生, E 系専攻学生

番号	テ ー マ	学 生 名	指 導 教 員	時 間	ペ ージ
D1	電磁波の反射による動体検知と検知信号の伝送		鹿野 文久	10:15~10:30	1-2
D2	競技用小型燃料電池車両の開発		鹿野 文久	10:30~10:45	3-4
E1	ヒューマノイドロボットを用いた人間の歩行に関する研究		鈴木 真ノ介 大嶋 建次	10:45~11:00	5-6
E2	方覚ディスプレイの遅延時間と操作範囲の線形性について		石原 学	11:00~11:15	7-8
E3	多結晶 LaBaCaCu ₃ O _{7-x} 系の超伝導揺らぎ領域における特性評価		森 夏樹	11:15~11:30	9-10
E4	高温超伝導体における c 軸方向電気伝導率に対する短波長揺らぎの効果		森 夏樹	11:30~11:45	11-12

機械系 司会: M 科教員, 補佐: M 系専攻学生

番号	テ ー マ	学 生 名	指 導 教 員	時 間	ペ ージ
M1	遠隔開放機構の実用化		猪瀬 善郷	13:15~13:30	13-14
M2	異材接合体の応力解析		山下 進	13:30~13:45	15-16
M3	ねじ検査システムの開発		田中 好一	13:45~14:00	17-18
M4	ショットピーニング SUS 316SE NB 試験片の疲労特性		伊澤 悟	14:00~14:15	19-20

物質工学専攻

発 表 プ ロ グ ラ ム

発表番号	学 生 名	発 表 時 間	指 導 教 員	タイトル
1		13:00-13:20	笹沼 いづみ	金属組織の分化における Ca-ghuosidase 遺伝子の役割
2		13:20-13:40	亀山 雅之	欠陥
3		13:40-14:00	笹沼 いづみ	Orobancha minor に対するワクチンの設計
4		14:00-14:20	亀山 雅之	新しい媒体中の遷移金属錯体によるアルタンへの付加反応
5		14:30-14:50	田中 孝国 吉田 裕志	固定化生物発光バイオセンサーの開発
6		14:50-15:10	齋藤 光司	11-ヒドロキシ-1,3,13-トリスベンチアゾール誘導体の合成
7		15:10-15:30	吉田 裕志	積層面積を小さくした場合の電気伝導率特性

日時: 平成 19 年 2 月 23 日 (金)

場所: 多目的メディアホール (専攻科棟 4 階)

発表番号	学 生 名	発 表 時 間	指 導 教 員
1		13:00-13:20	笹沼 いづみ
2		13:20-13:40	亀山 雅之
3		13:40-14:00	笹沼 いづみ
4		14:00-14:20	亀山 雅之
5		14:30-14:50	田中 孝国 吉田 裕志
6		14:50-15:10	齋藤 光司
7		15:10-15:30	吉田 裕志

建築学専攻

目 次

1. 既存鉄筋コンクリート造学校建築の耐震補強費用効果に関する研究.....
2. 福祉系及び医療系短期入所施設の利用者の属性と出現状況について.....
3. アクティブシニアの居住性に関する研究.....
4. 用途別・構造種別から見たコンバージョンに関する基礎的研究.....

発表プログラム

平成 19(2007)年 3 月 15 日(木)
 会場: 建築学科棟 1 階 101 ゼミ室

発表番号	学 生 名	発 表 時 間	指 導 教 員	司 会 計 時
開会の挨拶 学科長 山本 昇 (10:00~10:05)				
1		10:05~10:20	高橋 純一	高橋大輔 小林一彦
2		10:20~10:35	瀧澤 雄三	
3		10:35~10:50	尾立 弘史	
4		10:50~11:05	大島 隆一 (尾立 弘史)	
閉会の挨拶 専攻科主任 高橋 純一 (11:05~11:10)				

発表時間: 10 分 1 鈴 9 分. 発表終了 1 分前
 質問時間: 5 分 2 鈴 10 分. 発表終了
 1 人あたり計: 15 分 3 鈴 15 分. 質疑終了

(出典: 各専攻発表会予稿集 p. 1-2)

資料 5-7-①-3 1/2 : 専攻科学生の学会等での発表 (学生氏名白抜き)

電子システム工学専攻 (電子制御工学系)	発表者氏名 (指導教員)	書名・発表題目	発表講演会名等	ページ・発表年月 査読の有無
口頭発表	(西野健)	赤外線画像を用いた男女別の歩行	電子情報通信学会・パタニオン学 議・メテア・理研研究会技術研 究会 (PROMO)・PROMO2005-30 発表 (2006.3)	p.10-105 査読 無
	(西野健)	赤外線画像による男女別の歩行	電子情報通信学会・パタニオン学 議・メテア・理研研究会技術研 究会 (PROMO)・PROMO2005-30 発表 (2006.3)	p.10-105 査読 無
口頭発表	(西野健)	赤外線画像を用いた男女別の歩行	電子情報通信学会・パタニオン学 議・メテア・理研研究会技術研 究会 (PROMO)・PROMO2005-30 発表 (2006.3)	p.10-105 査読 無
	(西野健)	赤外線画像を用いた男女別の歩行	電子情報通信学会・パタニオン学 議・メテア・理研研究会技術研 究会 (PROMO)・PROMO2005-30 発表 (2006.3)	p.10-105 査読 無
物理工学専攻	発表者氏名 (指導教員)	書名・発表題目	発表講演会名等	ページ・発表年月 査読の有無
	(岡田尚胤)	「アミノオキニカルボン酸の化学的性質と反応性」	第9回高専シンポジウム	講演要旨集 p.49 (H16・11) 査読 無
口頭発表	(岡田尚胤)	「アミノオキニカルボン酸の化学的性質と反応性」	第9回高専シンポジウム	講演要旨集 p.49 (H16・11) 査読 無
	(岡田尚胤)	「アミノオキニカルボン酸の化学的性質と反応性」	第9回高専シンポジウム	講演要旨集 p.49 (H16・11) 査読 無
口頭発表	高山伸人 (岡田尚胤)	「ペプチドの立体特異的阻害」	平成18年度化学系学協会東北大会	講演者集集 p.136 (2P048) (H18・9) 査読 無
	(岡田尚胤)	「ペプチドの立体特異的阻害」	平成18年度化学系学協会東北大会	講演者集集 p.136 (2P048) (H18・9) 査読 無
建築学専攻	発表者氏名 (指導教員)	書名・発表題目	発表講演会名等	ページ・発表年月 査読の有無
	(飯沼利博)	明治期の行幸における能楽の役割について	日本建築学会大会	F-2分冊 p.371-372 (H16) 査読なし
口頭発表	(高橋大輔)	明治期の行幸における能楽の役割について	日本建築学会大会	F-2分冊 p.371-372 (H16) 査読なし
	(高橋大輔)	明治期の行幸における能楽の役割について	日本建築学会大会	F-2分冊 p.371-372 (H16) 査読なし
口頭発表	(桂立弘史)	ユニバーサルデザイン研究プロシエクト報告	おやま産学ネットワーク/第3回フォーラム	(H16/11) 査読なし
	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.387-388 (H17) 査読なし
口頭発表	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.387-388 (H17) 査読なし
	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.387-388 (H17) 査読なし
口頭発表	(津澤雄三)	管理・運用ガイドからみたテナントに関する研究	日本建築学会大会	E-1分冊 p.831-832 (H17) 査読なし
	(高橋大輔)	断熱材の性能向上と断熱性能の向上に関する研究	日本建築学会大会	E-1分冊 p.389-390 (H17) 査読なし
口頭発表	(高橋大輔)	断熱材の性能向上と断熱性能の向上に関する研究	日本建築学会大会	E-1分冊 p.389-390 (H17) 査読なし
	(高橋大輔)	断熱材の性能向上と断熱性能の向上に関する研究	日本建築学会大会	E-1分冊 p.389-390 (H17) 査読なし
口頭発表	(水島隆一)	侵入犯罪の手口に対する鍵の防犯対策について	日本建築学会大会	E-1分冊 p.428-430 (H17) 査読なし
	(水島隆一)	侵入犯罪の手口に対する鍵の防犯対策について	日本建築学会大会	E-1分冊 p.428-430 (H17) 査読なし
口頭発表	(水島隆一)	侵入犯罪の手口に対する鍵の防犯対策について	日本建築学会大会	E-1分冊 p.428-430 (H17) 査読なし
	(水島隆一)	侵入犯罪の手口に対する鍵の防犯対策について	日本建築学会大会	E-1分冊 p.428-430 (H17) 査読なし
口頭発表	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.241-242 (H18) 査読なし
	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.241-242 (H18) 査読なし
口頭発表	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.241-242 (H18) 査読なし
	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.241-242 (H18) 査読なし
口頭発表	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.853-854 (H18) 査読なし
	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の影響	日本建築学会大会	D-1分冊 p.853-854 (H18) 査読なし

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

観点5-8-①： 成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

(観点に係る状況)

成績評価・単位認定、再履修及び修了について「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」が定められており、学生便覧に記載されている(資料5-8-①-1)。この他にも同様の内容が「専攻科の履修の手引」に記述されており、学生への周知がなされている。特に1単位の履修時間は、授業時間以外の学修をあわせた時間であることを周知するため、「専攻科の履修の手引」には、講義科目、演習科目、実験・実習科目ごとに1単位当たりの授業時間とそれに課せられる予習復習の時間数が明記されている(資料5-8-①-2)。また、各授業の評価方法は明確に定められシラバスに記載されており、学生への周知がなされている(資料5-2-②-1：既出)。

専攻科課程の修了認定のための判定会議(資料5-8-①-3)は、原則として全教員が参加して行い、修了認定は、「専攻科 判定会議(修了認定) 会議資料」(資料5-8-①-4：現地閲覧資料5-3)に基づいて「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」(資料5-8-①-1：既出)に従って適切に行われている。

資料 5 - 8 - ① - 1 1 / 2 : 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

小山工業高等専門学校 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

制 定 平成11年 4月1日

改 正 平成17年 4月1日

(目的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校学則(昭和40年4月1日制定)第46条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定について定めることを目的とする。

(授業)

第2条 専攻科の授業は、1単位時間を標準50分とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

(単位)

第3条 各授業科目の1単位あたりの履修時間は、45単位時間を標準とするが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の各号により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(履修方法)

第4条 授業科目の受講に当たっては、各学期の始めに各科目毎の受講届を提出しなければならない。

(大学等における授業科目の履修及び単位認定申請)

第5条 大学等で開設されている授業科目を履修した者が、当該科目の単位（以下「学外単位」という。）の認定を受けようとするときは、成績証明書等、単位の修得を証明する書類を添えて期限までに校長に申請するものとする。学外単位は、16単位を限度として、専攻科における授業科目を修得したものとみなすことができる。

(成績の評価)

第6条 学業成績は、授業科目毎に評価する。

2 成績の評価は、試験の成績及び平素の成績等を総合して、100点法により評価する。

3 特別研究及び実務研修の成績は、合否で評価する。

4 各科目とも欠課時数が授業時間数の3分の1を超えるものに対しては、評価は行わない。

7条 各授業科目の成績は、評価を次のとおり区分し、評語で表す。

評 語	評 価
A	80点以上
B	70点以上80点未満
C	60点以上70点未満
D	60点未満

資料 5 - 8 - ① - 1 2 / 2 : 専攻科の授業科目の履修等に関する規程 (続き)

(単位の認定)

第8条 前条の規定に基づき、A、B及びCに評価された授業科目については、当該単位数を認定する。

- 2 学業成績を学外に通知する場合は、修得科目のみ単位数及び評語で通知する。
- 3 単位が認定されなかった授業科目については、次年度以降に再履修することができる。
- 4 本科4年及び5年における開講科目について、科目担当教員の許可を受けて履修することができる。

ただし、当該認定単位数は専攻科修了要件のための修得単位数には含めない。しかし、技術者教育プログラム中の科目修得単位(学習保証時間数)として認めることができる。

- 5 前項3及び4により再履修する場合も、第4条に規定する手続きを行うものとする。

(試験)

第9条 定期試験は、各学期末に実施する。なお、平素の成績で評価し得る授業科目については定期試験を実施しないことがある。

- 2 定期試験に病気(医師の診断書がある場合に限る。)、忌引き、その他止むを得ない理由により試験を受けられなかった者については、本人の願い出により担当教員が許可した場合、追試験を受けることができる。
- 3 正当の理由がなく試験を受けなかった者又は懲戒処分のため試験を受けなかった者の当該成績は、0点とする。
- 4 試験中不正行為を行った者は、当該試験期間中における全科目の試験成績を0点とする。

(修了の認定)

第10条 修了の認定は、小山工業高等専門学校判定会議の議を経て校長が行う。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則 抄

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

(出典：平成18年度学生便覧 p. 103-104)

資料 5 - 8 - ① - 2 : 講義・演習・実験・実習科目の単位の定義

小山工業高等専門学校 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

(単位)

第3条 各授業科目の1単位あたりの履修時間は、45単位時間を標準とするが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の各号により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15単位時間の授業をもって1単位とする。
- 二 演習については、30単位時間の授業をもって1単位とする。
- 三 実験及び実習については、45単位時間の授業をもって1単位とする。

(出典：平成 18 年度学生便覧 p. 103)

1) 単位の計算方法

専攻科の授業は、講義、演習、実験のいずれか、又はこれらの併用により行われます。1単位の履修時間は、教室及び教室外合わせて45単位時間として、次の基準により計算されます。なお、1単位時間は、標準50分です。

- (1) 講義は、毎週1単位時間の授業、15週をもって1単位とする。この場合、1単位時間の講義に対して、教室外における2単位時間の学習が必要であることが考慮されている。
- (2) 演習は、毎週2単位時間の授業、15週をもって1単位とする。この場合、2単位時間の演習に対して、教室外における1単位時間の学習が必要であることが考慮されている。
- (3) 実験及び特別研究は、毎週3単位時間の授業、15週をもって1単位とする。この場合、実験は実験室等で行われるので、教室外における学習は考慮されていない。

(出典：平成 18 年度専攻科の履修の手引 p. 2)

資料 5 - 8 - ① - 3 : 小山工業高等専門学校判定会議規程

小山工業高等専門学校判定会議規程

制 定 平成 1 6 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校に、小山工業高等専門学校判定会議（以下「判定会議」という。）を置く。

(組織)

第 2 条 判定会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

一 校長

二 教員

(審議事項)

第 3 条 判定会議は、次の各号に掲げる事項を審議する。

一 入学者選抜検査合否の判定に関する事項

二 学科の学年課程修了及び卒業の認定に関する事項

三 専攻科の修了の認定に関する事項

(会議)

第 4 条 判定会議は、校長が招集し、その議長となる。

2 前条第 1 号に係る判定会議は、次の選抜検査実施時に開催する。

一 入学者選抜検査

二 編入学者選抜検査

三 専攻科入学者選抜検査

3 前条第 2 号及び第 3 号に係る判定会議は、学年末試験終了後開催する。

4 前 2 項に定める判定会議前に予備会議を開催するものとする。

5 予備会議の構成員は、別に定める。

(事務)

第 5 条 判定会議に関する事務は、学生課教務係が処理する。

附 則

この規程は、平成 1 6 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：小山高専規程)

資料 5-8-①-4 : 専攻科修了判定会議資料 (現地閲覧資料 5-3)

平成18年度
専攻科修了判定資料

小山工業高等専門学校

平成19年3月8日

表紙

電子システム工学専攻の例

1 年前期

氏名	一般 専門基礎科目				専 攻 科												目 録		修 得 単 位 数				
	応用英語1	技術者倫理	情報数学論	流体力学	熱力学	システム制御特論	エネルギー変換応用工学	光デバイス工学	電子工学特論	電子システム論	計算機システム論	システムデザイン	情報工学	経営工学	電子システム工学専攻実務	必修	一般 専門基礎	専 門	計				
単位数	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0				
93	82	78	87		72	85	81	88	61	100		75	74	80		82	合	60/60	29/29	22/22	30/30		
47	83	74			68	75	85					66	80	70		82	合	2.0/2.0	2.0/2.0	16/16	20/20		
85	72	88	100		65	85	90	88	75	100		85	80	90		83	合	6.0/6.0	2.0/2.0	22/22	30/30		
95	80	84			95	87						97	80	100		87	合	4.0/4.0	2.0/2.0	14/14	20/20		
90	72	74			82	85						77	84	80		84	合	4.0/4.0	2.0/2.0	14/14	20/20		
45	81	89			37	80	0	53	0	0		40	75	70		72	合	2.0/2.0	2.0/2.0	10/10	14/14		
67	81	78	100		0	78	78	86	76	85		81	74	85		87	合	6.0/6.0	2.0/2.0	20/20	28/28		
98	84	89			83	93	81					83	80	80		86	合	4.0/4.0	2.0/2.0	16/16	22/22		
83	80	81			86	71	83					70	89	80		82	合	4.0/4.0	2.0/2.0	16/16	22/22		
92	78	87	100					80	93	81	100	0	85	78	85		86	合	6.0/6.0	2.0/2.0	18/18	26/26	
96	84	75	100					80				85	100	73	78	75		100	合	6.0/6.0	2.0/2.0	16/16	24/24
74	85	79	89		0	85	80	88	70	100		72	78	70		84	合	6.0/6.0	2.0/2.0	20/20	28/28		

1 年後期

氏名	一般 専門基礎科目				専 攻 科												目 録		修 得 単 位 数			
	応用英語2	応用物理学	応用化学	機構設計論	生産システム工学	光波応用工学	電子システム工学演習A	電子システム工学演習B	CAD/CAM演習	電子システム工学演習C	情報伝達工学	工学システム概論	フレッズシステム概論	ゼミナール	特別研究(1)	必修	一般 専門基礎	専 門	計			
単位数	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0			
52		100	88		81		86	171				83				85	合	0.0/0.0	4.0/6.0	9/31	13/43	
64		100	84		85		88	75	90	61		85				85	合	0.0/2.0	4.0/6.0	17/33	21/41	
68		80	82	85	80							80	81	80	78		85	合	2.0/6.0	4.0/6.0	17/31	23/43
47		80	78	75	63							84	80	85	78		85	合	2.0/6.0	4.0/6.0	17/31	23/43
84		80	60	70	29							75	77	75	55		85	合	0.0/2.0	4.0/6.0	13/23	17/31
98		0	0	0	0							0	0	0	70		70	合	0.0/0.0	0.0/2.0	0/29	9/31
98		100	77	90	70							89	81	95	79		85	合	2.0/6.0	4.0/6.0	17/33	23/43
84		80	74	93	60							83	78	55	70		80	合	2.0/6.0	4.0/6.0	15/31	21/43
98		100	88									85	80	85	77		80	合	0.0/0.0	2.0/4.0	13/31	15/41
98		100	88									85	95	93	78		90	合	0.0/0.0	4.0/6.0	19/35	23/47
98		100	72	96								0	83	79			75	合	0.0/6.0	4.0/6.0	15/33	17/45

2 年前期

氏名	一般 専門基礎科目				専 攻 科												目 録		修 得 単 位 数		
	応用英語1	技術者倫理	応用物理学	応用化学	流体力学	生体情報科学	電気回路特論	マイクロコンピュータ構成論	現代制御理論	画像処理	電子情報通信概論	電子システム概論	経営工学	特別研究(2)	必修	一般 専門基礎	専 門	計			
単位数	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0			
80	85				71		100					85				85	合	0.0/6.0	0.0/6.0	4/35	4/47
95					100		80					85				85	合	4.0/6.0	0.0/6.0	6/39	10/51
85					87							85				85	合	2.0/8.0	0.0/6.0	4/35	6/49
88					0		0					80				80	合	2.0/4.0	0.0/6.0	4/23	6/37
85					80		80					85				85	合	0.0/0.0	0.0/2.0	4/33	4/41
80					80		80					85				85	合	2.0/8.0	0.0/6.0	6/39	8/53
80					80		85					85				85	合	2.0/8.0	0.0/6.0	4/35	6/49
80					87		85	100				85				85	合	0.0/0.0	0.0/4.0	5/37	6/47
80					70		66					85				85	合	0.0/6.0	0.0/6.0	4/39	4/51
80					73		76					85				85	合	0.0/6.0	0.0/6.0	4/31	4/49

2 年後期

氏名	一般 専門基礎科目				専 攻 科												目 録		修 得 単 位 数		
	応用英語2	応用物理学	応用化学	生産システム工学	光波工学	画像処理	電子情報通信概論	電子システム概論	経営工学	エネルギー工学	特別研究(2)	必修	一般 専門基礎	専 門	計						
単位数	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0			
94					74		84	94				83				84	合	2.0/8.0	0.0/6.0	17/52	19/66
95					87		85	94				88				88	合	0.0/6.0	0.0/6.0	17/52	19/66
80					86		86					88				88	合	2.0/8.0	0.0/6.0	15/50	15/64
80					79		78					80				80	合	0.0/8.0	0.0/6.0	15/50	15/64
77					82		80					77				78	合	2.0/6.0	0.0/6.0	17/44	19/66
80					82		80					85				85	合	2.0/8.0	4.0/6.0	17/50	23/64
80					72		83					88				88	合	0.0/8.0	0.0/6.0	17/56	17/70
80					80		83					87				87	合	0.0/8.0	0.0/6.0	15/50	15/64
80					80		83					81				81	合	0.0/8.0	2.0/6.0	17/54	19/66
80					80		80					81				81	合	0.0/6.0	0.0/6.0	17/56	17/68
74					80		76					81				81	合	2.0/8.0	0.0/6.0	15/52	17/68

(出典：専攻科委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」により、試験、成績評価、単位認定、修了の認定についての規程が明確に定められており、これが学生便覧に記載されている。同様の内容が学生にも分かりやすくしたものとして「専攻科の修了の手引」に記載されており、学生への周知がなされている。特にこの「専攻科の修了の手引」には各授業形態の1単位当たりに課せられる予習復習の時間数が、学生にもわかり易い形で明記されている。

修了認定のための判定会議は原則として全教員が参加して行い、「専攻科（修了認定）判定会議資料」に基づき「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」に従って適切に行われている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準5の自己評価の概要

準学士課程では、5学科とも学習・教育目標を達成するために、人間形成に重要な役割を果たす人文科目と専門科目の学習の基礎となる数学、物理など基礎科目を低学年に多く配置し、専門科目は高学年になるに従い段階的に増えていく「くさび形」カリキュラムの配置とし、科学技術の修得が無理なく行える授業科目の編成となっている。

学生の多様なニーズに応えるために、本校以外の教育施設における履修に関する規程が定められており、学生への周知も図っている。その他、準学士課程の4学年以上を対象としたインターンシップは選択科目であるが各学科の学生が履修している。

専門分野の修得とものづくりに必要な力を身につけるために、卒業研究を含む実験・実習を通じて専門分野の工学的現象および問題点を理解し解析または解く力の育成を重視している。各学科は、実験や実習の科目を1学年から4学年まで通して配置し、5学年には卒業研究を配置している。また、卒業研究や卒業研究室で行われた実験・実習の成果を学外に積極的に公表している。

教材の工夫については科目ごとに実施されており、プリントの改良、e-learningの活用、実験の活用に伴う工夫など随時実施し配慮されている。特別な学生に対する配慮の例として、3学年に編入してくる留学生の日本語の読解力や日本事情の向上を目的として、「日本語」「日本事情」を開講している。また、4学年に編入予定の学生に対して、入学後の教育が滞らないように、準備学習の指示をして入学に備えさせている。

シラバスの作成、授業評価のアンケートなどを実施し、シラバスの作成と活用を図っている。

準学士課程では学生の創造力を育む教育方法として、各学科とも卒業研究を重視している。各科によって実施されている卒業研究は、最終的にはその成果を学内で口頭発表する形式をとっており、学生の創造性を育成するような教育方法をとっている。PBL科目についても学科によってばらつきはあるが実施するように配慮している。

成績評価・単位認定、進級、再評価および卒業の認定について学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程が定められており、学生に周知している。また、成績の評価方法は明確に定められシラバスに記載されており、学生へ周知されている。及落（含む卒業）判定会議および修

了判定会議は原則として全教員が参加し、学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程に従って厳正に行われている。

1～3学年までは週1時間の特別活動（HR）の時間を設けている。特別活動は学級担任が中心となり、生活指導・成績指導・諸連絡、環境整備（学内外の清掃）等を企画し実施している。その他、新入生日帰り研修や球技大会・工陵祭等の行事を実施し、人間の素養の涵養がなされるように配慮している。

生活指導面では学級担任を中心とした学生支援体制を整え、学生指導にあたっている。さらに、学科会議や学生課においてサポート体制を整えている。また、学生組織である学生会が存在し、規約に従って活発な課外活動が行われている。

専攻科課程の科目は、専攻科修了時に学位授与申請ができるように、準学士課程と専攻科課程の連携が考慮されて編成されている。さらに、本校の教育目標を達成するために、授業科目の流れが体系的に構築されている。全科目のシラバスが適切に作成されて、教員と学生に活用されている。

学生のニーズに応えるため、他専攻で開設されている専門科目や他の高等教育機関で開設されている授業科目についても履修を認めている。他にも、「実務研修」を専門科目として開設し、学生が会社での実務経験を積む貴重な機会を提供している。

専攻科課程では、開発型技術者の育成をめざしていることから、「実験・実習科目」、「実務研修」、「特別研究」が重要視されている。その中で「実務研修」、「特別研究」が創造力を育む主な授業と考えられている。「特別研究」の研究テーマの決定は学生の希望を尊重し、研究意欲に配慮したものとなっている。また、1学年終了時に「特別研究中間発表」を義務づけ、学生が研究を計画的に進めるために活用するとともに、専攻として研究の指導に活用している。さらに、「特別研究」の活性化を目的として学会発表を推奨している。専攻科修了生の就職先企業に対する修了生の資質・能力に関するアンケート結果は、修了生が「創造性」、「問題解決能力」を持つ学生と評価されている。

専攻科の試験、成績評価、単位認定、修了認定については、「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」に明確に定められており、これらのことは学生に周知されている。修了認定のための判定会議は原則として全教員の参加により、「専攻科の授業科目の履修等に関する規程」に従って適切に行われている。

(1) 観点ごとの分析

観点 6-1-①： 高等専門学校として、その目的に沿った形で、課程に応じて、学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力、養成する人材像等について、その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

(1) 準学士課程

本校の学生が身に付けるべき学力や資質・能力は準学士課程卒業時に達成すべき教育目標①A～⑥Aで示している（資料 1-1-①-3：既出）。

そのために、それぞれの専門分野に応じた科目間の流れ図（資料 5-1-①-9：既出）が編成されており、シラバス（資料 5-2-②-1：既出）には科目ごとにそれぞれの達成すべき目標と達成度評価方法が明記されている。

各学年においては進級に必要な単位を、また卒業時には5年間の集大成を評価するために、単位修得状況、出欠席状況などの一定の判定基準のもとに審議、評価し（資料 5-3-①-1：既出）（資料 5-3-①-3, 4：既出）、身に付けるべき学力や資質・能力を保証している。また、それらの評価結果は保存されている。

(2) 専攻科課程

本校の学生が身に付けるべき学力や資質・能力は専攻科課程修了時に達成すべき教育目標で示している。準学士課程と対比し①S～⑥Sに明記されている（資料 1-1-①-3：既出）。

そのために、それぞれの専門分野に応じた科目間の流れ図（資料 5-5-②-1：既出）が編成されており、シラバス（資料 5-2-②-1：既出）には科目ごとにそれぞれ達成すべき目標と成績評価方法が明記されている。

課程修了時には2年間の集大成を評価するために、単位修得状況、学習保証時間の確認などの一定の判定基準のもとに審議、評価し（資料 5-8-①-1：既出）、専攻科の授業科目の履修等に関する規程で定められている専攻科生が身に付けるべき学力や資質・能力を保証している。また、それらの評価結果は保存され、必要に応じて開示できる準備が整っている。

資料 1 - 1 - ① - 3 (既出) 教育方針・育成する人材像に関する記述

■教育方針と育成する人材像(A:準学士課程、S:専攻科課程)

① 豊かな人間性の涵養；

豊かな教養と専門知識を基礎にして、技術者としてふさわしい人格を有し、社会に貢献できる人材の育成を目指している。

①-A★社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。

①-S★社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。

② 豊かな感性と創造力の育成；

ものづくりを基本とする実験実習を通じて製作・設計能力を育むことに加え、新しい工学的発想につながる感性とチャレンジ精神を培い、豊かな創造力・デザイン能力・実践力を有する人材の育成を目指している。

②-A★実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。

②-S★専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。

③ 自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上；

高度化する専門知識・技術の修得に必要な自然科学・数学・英語・専門基礎科目の十分な学力を有する人材の育成を目指している。

③-A★自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。

③-S★自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。

④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成；

専門分野に関する高度な知識と問題解決能力を有し、技術革新に柔軟に対応できる人材の育成を目指している。

④-A★実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。

④-S★開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。

⑤ 情報技術力の向上；

コンピュータの利用能力に留まらず、新しいアイデアを具体化し設計するための情報技術力を有する人材の育成を目指している。

⑤-A★情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。

⑤-S★情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。

⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成；

優れたコミュニケーション能力とプレゼンテーション能力を養い、社会環境や文化の枠を超えて活躍出来る、国際感覚豊かな人材の育成を目指している。

⑥-A★講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。

⑥-S★特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。

(出典：平成 19 年度学生便覧)

資料 5 - 1 - ① - 9 (既出) 電気情報工学科

本科	1年	2年	3年	4年	5年
① 涵養 豊かな 人間性	地理(2) 芸術(2)	→ 政治・経済(2)	→ 倫理・社会(2) → 歴史(2)	→ 哲学(1) → 歴史学(2)	→ 人間と科学Ⅰ(1選択) → 人間と科学Ⅱ(1選択)
② 個性 の育成 と豊かな 創造力 の育成	電気情報工学実験 電気電子製図	→ 電気情報工学実験 電気技術史	→ 電気情報工学実験 → プロジェクト・ワーク	→ 電気情報工学実験 → 電磁工学実験 → 情報工学実験 → 物性工学実験	→ 卒業研究 → 電磁工学実験(選択) → 情報工学実験(選択) → 物性工学実験(選択)
③ 自然科学・英語・専門基礎学力の向上	基礎数学A 基礎数学B 一般理科 物理 化学Ⅰ 英語Ⅰ 電気情報工学大系	→ 微積分学 → 代数学・幾何学 → 物理 → 化学Ⅱ → 英語Ⅰ → 英語Ⅱ → 電気電子工学演習Ⅰ → 電気回路学Ⅰ → 電気磁気学Ⅰ → 電子情報工学	→ 解析学 → 線形代数学 → 応用物理 → 英語Ⅰ → 電気回路学Ⅰ → 電気磁気学Ⅰ → 電子回路 → 電子工学 → 電気計測	→ 確率統計 → 応用数学 → 応用物理 → 電子回路 → 電子計測	→ 工業英語 → 電気電子工学演習Ⅱ
④ 各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成				→ 電気回路学Ⅱ → 電磁伝送工学 → 電子計算機 → 電子デバイス工学 → 電子物性 → 電気機器工学 → 制御工学 → メカトロニクス	→ 電気磁気学Ⅱ → 電磁波工学 → 信号処理 → 人工知能 → デジタル回路 → 集積回路設計 → 情報理論 → マルチメディア工学 → 情報ネットワーク論 → 画像工学 → 情報デバイス工学 → 電気材料 → 光応用計測 → 生体工学 → 電磁エネルギー工学 → 電力システム工学 → 電磁環境工学 → 電気法規 (5年次配当科目は選択)
⑤ 術の情 向報 上技	情報工学Ⅰ	→ 情報工学Ⅰ	→ 情報工学Ⅱ	→ 情報工学Ⅲ	→ 数値計算法 (5年次配当科目は選択)
⑥ 育ン 成能 力と 国際 感覚 の 育	国語 英会話 保健・体育Ⅰ	→ 国語 → 保健・体育Ⅰ	→ 国語 → 英会話 → 保健・体育Ⅰ	→ 文学 → 英語演習Ⅰ → ドイツ語Ⅰ → ドイツ語Ⅱ → 保健・体育Ⅰ	→ 英語演習Ⅱ → ドイツ語演習 → 保健・体育Ⅰ → 保健・体育Ⅱ (5年次配当科目は選択)

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5-2-②-1 (既出) 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (3/6)

1年から5年までの履修単位

科目名	生物有機化学	英語科目名	Bioorganic Chemistry
開講年度・学期	平成19年度・前期	対象学科・専攻・学年	物質工学科5年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	1単位	単位種類	履修単位 (30h)
担当教員	胸組虎胤	居室 (もしくは所属)	物質工学科実験棟2階
電話		E-mail	
授業の達成目標			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般酸、一般塩基の概念について説明できること。 2. 酵素の活性中心にある基質結合部位、触媒部位の働きについて説明できること。 3. 分子認識に必要とされる作用と化学構造との関係を説明できること。 4. 代表的な酵素 (少なくとも5種類) の触媒機構を説明できること。 5. 人工酵素設計の基礎を説明できること。 			
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法			
達成目標 1～5 : 試験での関連問題について60%以上の成績で達成とする。			
評価方法			
2回の試験 (各90分) の相加平均で評価する。 試験における参考書、コピー、携帯電話、電卓、ノート、メモ等の持ち込みは不可。			
授業内容			
1. 生体分子の構造と機能 : タンパク質、脂質、核酸、糖質			
2. 触媒作用の基礎 : 一般酸触媒、一般塩基触媒、ブレンステッド則			
3. 生体反応と分子間力 : クーロン力、水素結合、分子間力、疎水結合			
4. 酵素の構造と機能 : 基質結合部位、触媒部位			
5. 酵素反応の動力学 : ミカエリスメンテンの式、反応速度、動力学パラメーター			
6. 代表的な酵素の触媒作用 : セリンプロテアーゼ、リボヌクレアーゼ、リゾチーム			
7. 酵素の固定化とその利用 : 固定化のメリット、酵素固定、細胞固定、微生物固定			
8. (前期中間試験)			

(出典 : 教務委員会シラバス作成資料)

資料 5-2-②-1 (既出) 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (4/6)
1年から5年までの履修単位

9. 補酵素：ビタミンと補酵素、ピロドキサール、ATP	
10. 金属イオンと金属錯体の化学の基礎：金属イオンと生体分子、配位子交換	
11. 金属酵素：カルボキシペプチターゼ、カルボニックアンヒドラーゼ、	
12. 分子内触媒作用：分子内、分子間触媒、分子配向、エントロピー、エンタルピー	
13. 協同触媒作用：分子内での協同触媒、	
14. 人工ホスト化合物：シクロデキストリン、クラウンエーテル、シクロフ	
15. 人工酵素の構築：包摂化合物、人工酵素 (前期期末試験)	
キーワード	タンパク質、酵素、人工酵素、反応機構、酵素モデル
教科書	小宮山、八代著、「生命化学Ⅰ」(丸善)
参考書	1. 田宮 他訳「ヴォート生化学(上)(下)」第2版、「ア」化学同人(2005)
小山高専の教育方針①～⑥との対応 ① ②	
技術者教育プログラムの学習・教育目標	
(B-3) (C-1)	
JABEE 基準 1 の (1) との関係	(b) (d (1)) (e)
カリキュラム中の位置づけ	
前年度までの関連科目	生物有機化学
現学年の関連科目	物質工学実験
次年度以降の関連科目	
連絡事項	
シラバス作成年月日：平成 18 年 12 月 26 日	

小山高専の教育方針①～⑥で該当するものを記入。4, 5年以上については JABEE との対応表から該当する番号を記入。1-3年については各科で作成する分類表に従って記入。

この 2 項目は JABEE との関連を記入、1-3年は記入不要。

(出典：教務委員会シラバス作成資料)

資料 5 - 3 - ① - 1 (既出) 成績判定の規程 (1 / 2)

2 語 規 程

(1) 卒業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程

(目 的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校(昭和40年4月1日制定。以下「学則」という。)第14条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校における成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定について定めることを目的とする。

(成績の評価)

第 2 条 成績の評価は、卒業の成績、出席状況及び試験、学習報告書、作品等により、担当教員が決定する。

第 3 条 成績は、学期成績と学年成績に区分し、授業科目(以下「科目」という。)ごとに評価する。

2 学年成績の評価は、毎学期の成績を総合して、担当教員が決定する。

第 4 条 科目の成績は、年間授業時数の3分の2以上出席し、かつ100点法による評価で、60点以上を合格とする。

3 成績は、評価を次のとおり区分し、評価で表わす。

評 価	評 価
S	90点以上
A	80点以上 90点未満
B	70点以上 80点未満
C	60点以上 70点未満
D	60点未満

3 卒業研究の評価は、合否による。

4 校外実習を行う場合には、その評価は合否による。

5 資格取得による単位認定科目の評価は、合否による。

(試 験)

第 5 条 定期試験は、各学期末に行う。ただし、科目によっては適宜中間試験を行うことがある。

2 平常の成績で評価できる科目にあっては、試験の一部又は全部を行わないことがある。

第 6 条 病気その他やむを得ない事情により試験を受けられなかった者については、本人の願い出により担当教員が許可した者に対し、追試験を行うことがある。

第 7 条 正当の理由がなく試験を受けなかった者又は懲戒処分のため試験を受けなかった者の当該試験の成績は、0点とする。

第 8 条 試験中不正行為をした者は、その時間以降の登校を停止し、当該試験期間中の全試験の成績を0点とする。

(特別活動の判定)

第 9 条 特別活動は、出席状況、活動状況により、合否を判定する。

(学年課程修了の認定)

第 10 条 学年課程修了の認定は、学年末における判定会議を経て、校長が行うものとする。

2 第1学年、第2学年及び第3学年で次の各号のいずれかに該当する者は、修了を認めない。

一 年間授業時数の3分の1を超えて欠席した科目がある場合

二 年間授業時数の4分の1を超えて欠席した科目が5科目以上ある場合

三 学年成績の中に30点未満の科目が2科目以上かつ4単位以上ある場合

四 当該学年までの累積不合格単位が7単位を超える場合

五 必修科目中に不合格科目がある場合

六 特別活動の判定が不合格である場合

3 第4学年で次の各号のいずれかに該当する者は、修了を認めない。

一 当該学年までの累積不合格単位が7単位を超える場合

二 必修科目中に不合格科目がある場合

4 第5学年で次の各号のいずれかに該当する者は、修了を認めない。

一 必修科目中に不合格科目がある場合

二 当該学年までの累積合格単位が107単位未満(うち一般科目について75単位未満、専門科目について32単位未満)である場合

三 卒業研究の評価が不合格である場合

(出典：平成18年度学生便覧p. 39, 40)

資料 5-3-①-1 (既出) 成績判定の規程 (2/2)

5. 前3項の条件に該当する者についても、特別な理由がある場合は、校長が学年課程の修了を認定することができる。

(再 評 価)

第 11 条 不合格単位を有し学年課程修了を認められた者に対して、不合格科目の再評価を行うことがある。

2. 前項の再評価の成績は、00点を上限とする。

(再 試 験)

第 11 条の 2 学年成績で60点未満の科目がある者に対して、再試験を行うことがある。

2. 前項の再試験の成績は、60点を上限とする。

第 12 条 休学の機会を除き、引き続き2回原学年にとどまることはできない。

(卒業の認定)

第 13 条 卒業の認定は、第5学年の課程修了の認定を受け、学則第13条第2項に規定する授業科目のうち167単位以上(うち一般科目については75単位以上、専門科目については82単位以上)の科目に合格した者について行う。

2. 前項の規定により卒業の要件として修得すべき単位数のうち、学則第20条の3の授業方法により修得する単位数は30単位を超えないものとする。

附 則 (抄)

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年7月1日から施行する。

(出典：平成18年度学生便覧p. 41)

資料 5 - 3 - ① - 3 (既出) 及落判定会議の開催通知

平成 18 年度及落判定会議の開催について

【5 年生】 予 備 会 議

日 時 ; 平成 19 年 3 月 8 日 (木) 9 時 00 分～

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 副校長, 校長補佐(教務担当), 教務補佐, 一般科・各学科長,
5 年学級担任,

【専攻科】 予 備 会 議

日 時 ; 平成 19 年 3 月 8 日 (木) 5 年生予備会議終了後

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 専攻科委員会委員,

【5 年生】 判 定 会 議

日 時 ; 平成 19 年 3 月 8 日 (木) 10 時 00 分～

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 副校長, 校長補佐(教務担当), 教務補佐, 一般科・各学科長,
各 教 員

【専攻科】 判 定 会 議

日 時 ; 平成 19 年 3 月 8 日 (木) 5 年生判定会議終了後

場 所 ; 管理棟会議室

出席者 ; 校 長, 専攻科委員会委員, 各教員

(出典 : 学内掲示板より)

資料 5 - 3 - ① - 4 (既出) 学年末成績の教員に対する注意通知の一部 (1 / 2)

平成 19 年 1 月

教員各位

学年末の日程等について

校長補佐(教務担当) 瀧澤 雄三

学年末の日程等について連絡いたします。

1. 後期期末試験

- ・後期期末試験は、2月9日(金)～2月16日(金)です。
学生が成績に関して意見等がある場合は、再試験最終日(3/2)までに科目担当教員まで申し出るようになっておりますので、対応方よろしくをお願いします。

2. 再試験、再評価について

- ・学年成績が 60 点未満の場合、担当教員の判断によって再試験を行うことができます。再試験の結果、学年成績として 60 点の評価が得られれば、その科目は合格となります。再試験の結果の点数は 60 点が上限となります。
- ・再試験を行うかどうかは、担当教員の裁量に任せられます。学生に対しては、実施の有無を伝えておくことが適切かと考えます。
- ・再試験該当者の掲示の締切は、2月21(水)正午です。掲示は、管理棟北側の学生用掲示板にて行います。各教員は、締切までに所定の用紙(別紙参照)に記入の上、教務係に提出してください。学生はこの掲示を見ることを原則としますので、教員が学生に直接連絡する必要はありません。もし掲示締切に間に合わなかった場合には、各教員自身の責任において、直接学生に連絡してください。
- ・再試験期間は、2月26日(月)～3月2日(金)です。再試験の時間割は、原則として後期期末試験に対応するものとします。例えば、期末試験の1日目の1時限の科目は、再試験の1日目の1時限になります。
- ・再試験の監督は、担当教員が行うこととします。担当教員が非常勤講師の場合は、各学科、各教科で対応してください。

(出典：学生課資料)

資料 5-3-①-4 (既出) 学年末成績の学生に対する通知 (2/2)

平成 19 年 1 月

学生の皆さんへ

学年末の日程等について

校長補佐(教務担当) 瀧澤 雄三

学年末の日程、進級などについてお知らせします。

1. 進級判定の基準について

1 年生～4 年生の学年課程修了が認められるのは、単位数については、当該学年までの不合格単位が累積 7 単位を超えない場合です。(累積不合格単位が 8 単位以上になったら、進級は不可)その他の欠課や平均点などの基準については、学生便覧をご覧ください。40 ページの第 10 条を読み直しておいてください。

2. 再試験

学年成績が 60 点未満の科目は、担当教員の判断で再試験を行うことがあります。再試験の結果、学年成績が 60 点の評価を得られれば、その科目は合格になります。

3. 再評価

7 単位までの不合格単位を持って進級した場合、担当教員の判断で進級後に不合格科目の再評価を行うことがあります。

4. 後期期末試験、再試験、再評価の日程

後期期末試験 : 2 月 9 日(金)～2 月 16 日(金)

成績に関して意見等がある場合は、再試験最終日(3/2)までに科目担当教員まで申し出てください。

↓

再試験の掲示 : 2 月 21 日(水) 15 : 00 に、図書情報センター南側の学生向け掲示板に発表

再試験については、2 月 21 日以前に担当教員から学生個人に連絡することは、原則としてありませんので、この掲示を確認してください。すべての科目で再試験が実施されるとは限りません。再試験がないからといって、その科目が合格したとは限りません。

↓

再試験の実施 : 2 月 26 日(月)～3 月 2 日(金)

再試験の日程は原則として後期期末試験に対応します。期末試験の 1 日目の 1 時限目の科目は、再試験でも 1 日目の 1 時限目ということです。変更もありますので、掲示で日時、場所、出題範囲は、確認してください。

↓

判定会議 : 3 月 14 日(水)

進級できない場合には、学級担任教員から連絡がいきます。進級できる場合には特に連絡はありません。学年の成績は、郵送されます。

↓

再評価 : 新学期(4 月)

不合格単位を持って進級した学生には、再評価の機会があります。再評価の実施は担当教員の判断によりますので、担当教員にたずねてください。再評価を受ける場合には、教務係で用紙を受け取り、教科担当教員、学級担任教員の承認を得て、教務係へ 4 月中に提出してください。

(出典 : 学生課資料)

資料 5 - 5 - ② - 1 (既出)

学習・教育目標を達成するために必要な授業科目の流れ (電子システム工学専攻)

電子システム工学専攻

学習・教育目標	1年		2年	
	前期	後期	前期	後期
①豊かな人間性の涵養	日本語概説(選択) システムデザイン(必修)	環境技術(必修) 工学システム概論(選択必修)	技術者倫理(必修) 経営工学(必修)	
②豊かな感性と創造力の育成	ゼミナール(必修) 電子システム工学専攻実験(必修) 実務研修(必修)	ゼミナール(必修) 特別研究(必修)	特別研究(必修)	特別研究(必修)
③自然科学・英語・専門基礎学力の向上	応用英語1(選択) 複素関数論(選択) 計算力学(選択) 電子システム工学演習A(選択) 電子システム工学演習B(選択)	応用英語2(選択) 応用解析学(選択) 応用科学(選択) CAD/CAE演習(選択) 電子システム工学演習A(選択) 電子システム工学演習B(選択)		
④各専門分野に関する高度な知識と豊かな感性の育成	流体力学(選択) 熱移動論(選択) 塑性加工学(選択) 電子回路特論(選択) 電子工学特論(選択) システム制御論(選択) 電機システム制御(選択)	機構設計論(選択) 力学特論(選択) 計測システム論(選択) 計算機応用論(選択) 情報伝送工学(選択) 光制御工学(選択) 固体電子論(選択) 電気材料特論(選択) 生産システム工学(選択) システム同定論(選択)	機械システム制御(選択) 電気磁気学特論(選択) 電磁エネルギー工学(選択) 生体情報解析学(選択) 画像情報解析学(選択) 光デバイス工学(選択) 光波応用工学(選択) パワーエレクトロニクス(選択) エネルギー変換応用工学(選択)	エネルギー工学(選択) 現代制御理論(選択) シーケンス制御(選択)
⑤情報技術の向上	電子情報通信概論(選択必修)	情報科学(選択) ネットワーク構成論(選択)		
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	応用英語1(選択)	応用英語2(選択) プレゼンテーション論(選択)		

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 5-2-②-1 (既出) 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (5/6)
4年・5年 (学修単位) ・専攻科

科目名	生物有機化学	英語科目名	Bioorganic Chemistry
開講年度・学期	平成19年度・前期	対象学科・専攻・学年	物質工学科5年
授業形態	講義	必修 or 選択	選択
単位数	2単位	単位種類	学修単位 (15+30) h
担当教員	胸組虎胤	居室 (もしくは所属)	物質工学科実験棟 2階
電話		E-mail	
授業の達成目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 一般酸、一般塩基の概念について説明できること。 2. 酵素の活性中心にある基質結合部位、触媒部位の働き分子認識に必要とされる作用と化学構造との関係を説明できること。 3. 代表的な酵素 (少なくとも5種類) の触媒機構を説明できること。 4. 人工酵素設計の基礎を説明できること。 		
各達成目標に対する達成度の具体的な評価方法	達成目標 1~5: 試験での関連問題について60%以上の成績で達成とする		
評価方法	2回の試験 (各90分) の相加重平均で評価する。 試験における参考書、コピー、携帯電話、電卓、ノート、メモ等の持ち込みは不可		
授業内容	授業内容に対する自宅学習項目	自宅学習時間 (時間)	
1. 生体分子の構造と機能: タンパク質、脂質、核酸、糖質	第1章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。復習として4つの生体物質の機能と構造との関連が分かる対応表を完成する。	4	
2. 触媒作用の基礎: 一般酸触媒、一般塩基触媒、プレンステッド則	第2章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。一般酸、一般塩基の具体例を各10個以上挙げ、各々についてその理由を説明する。	4	
3. 生体反応と分子間力: クーロン力、水素結合、分子間力、疎水結合	第3章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。左記の分子間に働く力が生体内で働いている各々5例ずつ挙げ、その理由を説明する。		自宅学習に要する時間を具体的に記入。実験実習については記入しない。
4. 酵素の構造と機能: 基質結合部位、触媒部位	第4章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。酵素を1つ選び、その活性中心の構造をできるだけ詳しく、図示し、そのポイントを説明する。		
5. 酵素反応の動力学: ミカエリスメンテンの式、反応速度、動力学パラメーター	第5章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。ミカエリスメンテンの式に合わない酵素が存在するか調べ、その具体例を挙げて説明する。	4	
6. 代表的な酵素の触媒作用: セリンプロテアーゼ、リボヌクレアーゼ、リゾチーム	第6章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。セリンプロテアーゼに当てはまる具体的な酵素名を5つ挙げ、EC番号、活性中心の構造で分類せよ。	4	
7. 酵素の固定化とその利用: 固定化のメリット、酵素固定、細胞固定、微生物固定	第7章を600~800字で要約し、授業の前に提出する。固定化酵素を用いた工業生産法を3つ調べ、それぞれの利点について説明する。	4	
(前期中間試験)			

学修単位は以下のように記入。
講義 A の場合: (15+30)h
講義 B および演習の場合: (30+15)h
実験実習: 45h

予習および復習項目を具体的に記入。
実験実習については記入しない。下記の内容はあくまで例です。各教員で適宜記入ください。

自宅学習に要する時間を具体的に記入。
実験実習については記入しない。

専攻科目については記入しない。
4, 5年の科目で、中間試験を含めなければ授業回数15回に達しない場合は、自宅学習時間に適切な時間を記入し、自宅学習時間が合計として適切に成るようにする。

(出典: 教務委員会シラバス作成資料)

資料 5-2-②-1 (既出) 19年度シラバス作成例 (教務委員会) (6/6)

8. 補酵素：ビタミンと補酵素、ピロドキサル、ATP	第8章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。水溶性ビタミン、脂溶性ビタミンの例をできるだけ多く挙げ、生体内での働きを記す。	4
9. 金属イオンと金属錯体の化学の基礎：金属イオンと生体分子、配位子交換	第9章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。タンパク質中の官能基で配位子となるものをすべて挙げ、それらが配位する金属イオンを記す。	4
10. 金属酵素：カルボキシペプチターゼ、カルボニックアンヒドラーゼ、	第10章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。左記二つの酵素の推定反応機構を順序だてて書く。	4
11. 分子内触媒作用：分子内、分子間触媒、分子配向、エントロピー、エンタルピー	第11章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。分子内反応と分子間反応の速度差が生じる理由を、詳しく礼明視なさい。	4
12. 協同触媒作用：分子内での協同触媒、	第12章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。酵素中における協同触媒効果の具体例を3つ挙げ、それぞれを図示し説明する。	4
13. 人工ホスト化合物：シクロデキストリン、クラウンエーテル、シクロファン	第13章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。左記の包摂化合物の分子認識作用、対応するゲストを分類した表を完成する。	4
14. 人工酵素の構築：包摂化合物、人工酵素	第14章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。1つの天然酵素を選び、それに対応する人工酵素の作り方を詳しく述べる。	4
15. 人工ホスト化合物と人工酵素の応用：光学分割	第15章を600～800字で要約し、授業の前に提出する。光学分割に最近利用されている包摂化合物を5つ調べ、その分子認識能について説明する。	4
(前期末試験)	自宅学習時間合計	60
キーワード	タンパク質、酵素、人工酵素、反応機構、酵素モデル、一般酸塩基触媒	
教科書	小宮山、八代著、「生命化学Ⅰ」(丸善)	
参考書	1. 田宮 他訳「ヴォート生化学(上)(下)」第2版、東京化学同人(2005)	
小山高専の教育方針①～⑥との対応 ① ②		
技術者教育プログラムの学習・教育目標		
(B-3) (C-1)		
JABEE 基準1の(1)との関係	(b)(d(1))(e)	
カリキュラム中の位置づけ		
前年度までの関連科目	生物有機化学	
現学年の関連科目	物質工学実験	
次年度以降の関連科目		
連絡事項		
予習は各章の要約を600から800字で書き、毎回提出する。 復習は章末の問題を含む課題を翌週までに行い、レポートとして提出する。		
シラバス作成年月日：平成18年12月26日		

全学修時間から授業時間を除いた時間を記入。

JABEE 科目については認証評価との対応表に従い記入。
1～3年の科目については、各学科の科目の体系図における分類に従い記入。

(出典：教務委員会シラバス作成資料)

資料 5-8-①-1 (既出) 1/2 : 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

小山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程

制 定 平成 11 年 4 月 1 日

最終改正 平成 17 年 4 月 1 日

(目的)

第 1 条 この規程は、小山工業高等専門学校学則(昭和 40 年 4 月 1 日制定)第 46 条第 2 項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科における授業科目の履修方法及び成績の評価並びに修了の認定について定めることを目的とする。

(授業)

第 2 条 専攻科の授業は、1 単位時間を標準 50 分とする。

2 授業は講義、演習、実験及び実習のいずれか、又はこれらの併用により行うものとする。

(単位)

第 3 条 各授業科目の 1 単位あたりの学修時間は、45 単位時間を標準とするが、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮し、次の各号により単位数を計算するものとする。

- 一 講義については、15 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 二 演習については、30 単位時間の授業をもって 1 単位とする。
- 三 実験及び実習については、45 単位時間の授業をもって 1 単位とする。

(履修方法)

第 4 条 授業科目の受講に当たっては、各学期の始めに各科目毎の受講届を提出しなければならない。

(大学等における授業科目の履修及び単位認定申請)

第 5 条 大学等で開設されている授業科目を履修した者が、当該科目の単位（以下「学外単位」という。）の認定を受けようとするときは、成績証明書等、単位の修得を証明する書類を添えて期限までに校長に申請するものとする。学外単位は、16 単位を限度として、専攻科における授業科目を修得したものとみなすことができる。

(成績の評価)

第 6 条 学業成績は、授業科目毎に評価する。

- 2 成績の評価は、試験の成績及び平素の成績等を総合して、100 点法により評価する。
- 3 特別研究及び実務研修の成績は、合否で評価する。
- 4 各科目とも欠課時数が授業時間数の 3 分の 1 を超えるものに対しては、評価は行わない。

資料 5-8-①-1 (既出) 2/2 : (続き) 専攻科の授業科目の履修等に関する規程

第 7 条 各授業科目の成績は、評価を次のとおり区分し、評語で表わす。

評 語	評 価
A	80 点以上
B	70 点以上 80 点未満
C	60 点以上 70 点未満
D	60 点未満

(単位の認定)

第 8 条 前条の規定に基づき、A、B 及び C に評価された授業科目については、当該単位数を認定する。

- 2 学業成績を学外に通知する場合は、修得科目のみ単位数及び評語で通知する。
- 3 単位が認定されなかった授業科目については、次年度以降に再履修することができる。
- 4 本科 4 年及び 5 年における開講科目について、科目担当教員の許可を受けて履修することができる。ただし、当該認定単位数は専攻科修了要件のための修得単位数には含めない。しかし、技術者教育プログラム中の科目履修単位（学習保証時間数）として認めることができる。
- 5 前項 3 及び 4 により再履修する場合も、第 4 条に規定する手続きを行うものとする。

(試験)

第 9 条 定期試験は、各学期末に実施する。なお、平素の成績で評価し得る授業科目については、定期試験を実施しないことがある。

- 2 定期試験に病気（医師の診断書がある場合に限る。）、忌引、その他止むを得ない理由により試験を受けられなかった者については、本人の願い出により担当教員が許可した場合、追試験を受けることができる。
- 3 正当の理由がなく試験を受けなかった者又は懲戒処分の為試験を受けなかった者の当該試験の成績は 0 点とする。
- 4 試験中不正行為を行った者は、当該試験期間中における全科目の試験成績を 0 点とする。

(修了の認定)

第 10 条 修了の認定は、小山工業高等専門学校判定会議の議を経て、校長が行う。

附 則

この規程は、平成 11 年 4 月 1 日から施行する。

附 則 (抄)

この規程は、平成 17 年 4 月 1 日から施行する。

(出典：平成 18 年度学生便覧 p.103-104)

(分析結果とその根拠理由)

シラバスには各科目の達成目標と評価方法が明記されている。また、準学士課程卒業時と専攻科課程修了時には一定の判定基準のもとに達成度が審議、評価されている。

卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力は、本校の教育目標別に区分された必要科目を履修することで保証されている。

学生が卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力、養成される人材像は、以上のように評価され保証されており、取り組みとして適切であると判断される。

観点 6-1-②： 各学年や卒業（修了）時などにおいて学生が身に付ける学力や資質・能力について、単位修得状況、進級の状況、卒業（修了）時の状況、資格取得の状況等から、あるいは卒業研究、卒業制作などの内容・水準から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

過去5年間における退学率（休学・留年・退学）の推移状況を示した（資料6-1-②-1）。また、過去5年間の進級率を学年ごとに示した（資料6-1-②-2）。平成18年度については5学科5学年の進級状況を示した（資料6-1-②-3）。

平成18年度12月時点における資格取得状況を学科ごとに示した（資料6-1-②-5）。また、平成18年度の卒業研究・卒業制作の状況を学科ごとに示した（資料6-1-②-6）。そして、平成16年から平成18年の間における各種コンペティションへの参加状況および口頭発表の状況を学科ごとに示した（資料6-1-②-7, 8）。

(2) 専攻科課程

過去2年間の修了率を示した（資料6-1-②-4）。

平成18年度12月時点における資格取得状況を学科（専攻科生の取得状況を含む）ごとに示した（資料6-1-②-5）。また、平成18年度の特別研究の状況を学科（専攻科課程を併記した）ごとに示した（資料6-1-②-6）。そして、平成16年から平成18年の間における学会発表の参加状況を学科ごとに示した（資料6-1-②-7）。

資料 6 - 1 - ② - 1 退学率の推移状況

準学士課程の過去5年間の休学、留年及び退学者の各数と退学率					
異動事項	平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度
休学	8	1	9	7	4
留年	29	37	47	36	32
退学(a)	32	25	29	38	34
学生総数(b)	1018	1019	1018	1014	1012
退学率(a/b)(%)	3.1%	2.5%	2.8%	3.7%	3.4%
学生総数は各年度5月1日現在、f					
休学:休学により原級に留まった者の数					
留年:成績不振により原級に留まった者の数					
退学:退学により学籍を失った者の数					

(出典：学生課教務係資料)

6-1-②-2 過去5年間の進級率

本科学生の進級率(学年毎) 退学者を含む

学年	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1年生	97.5%	97.5%	96.6%	95.1%	96.2%
2年生	92.8%	94.2%	90.1%	91.8%	94.6%
3年生	92.0%	92.6%	89.3%	89.3%	90.8%
4年生	91.2%	88.0%	88.1%	89.2%	89.3%
5年生	96.9%	97.9%	98.5%	98.9%	96.8%

本科学生の進級率(学年毎) 退学者を含まない

学年	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度
1年生	98.5%	98.5%	98.5%	97.5%	98.5%
2年生	95.0%	97.0%	94.8%	95.0%	98.5%
3年生	98.5%	95.9%	91.5%	96.3%	96.4%
4年生	94.9%	91.8%	92.2%	93.6%	93.4%
5年生	98.4%	98.4%	99.0%	99.5%	96.8%

(出典：学生課教務係資料)

資料 6-1-②-3 平成 18 年度進級状況

平成 18 年度進級状況

平成 18 年度の名学年各クラスの進級状況

	平成 18 年度進級状況					平成 19 年 3 月 31 日				
	M	E	D	C	A	小計				
1	休学:退学(内職) 留年:退学(内職)	1 4		1		2 6	1 3			1 3
2	休学:退学(内職) 留年:退学(内職)	1 1		1		1 3	1 0	1 1		3 3
3	休学:退学(内職) 留年:退学(内職)	1 2	3			2 5	2 3	1 1	2 2	3 8
4	休学:退学(内職) 留年:退学(内職)	2 0	6	4	5	2 12	2 4	1 1	2 12	7 12
5	休学:退学(内職) 留年:退学(内職)	8 1	1	4	1	17 5	4 3	2 1	4 3	13 8
計	休学:退学(内職) 留年:退学(内職)	0 2	5	11	2	10 34	5 8	11 3	1 8	34 34

- ・「休学:退学(内職)」は「休学」により原級に留まった者の数、その内の退学者数(a)」を表す。
- ・「留年:退学(内職)」は「成績不振」により原級に留まった者の数、その内の退学者数(b)」を表す。
- ・「退学:退学合計」は、「上記(a)と(b)以外の退学者数(c)」を表す。

(出典：学生課教務係資料)

資料6-1-②-4 専攻科学生の修了率

専攻科学生の修了率

	平成16年度入学	平成17年度入学
電子システム工学	100.0%	84.6%
物質工学	100.0%	100.0%
建築学	100.0%	100.0%

(出典：学生課教務係資料)

資料 6 - 1 - ② - 5 資格取得状況 (一般科)			
学科名 : 一般科	取得資格名	取得学年・年・月	人数
1 学年	該当なし		
2 学年 :			
機械工学科	危険物取扱者 乙 4 類	2 学年, H18, 8 月	3 名
機械工学科	英検 準 2 級	1 学年, H17, 7 月	3 名
機械工学科	英検 準 2 級	2 学年, H18, 7 月	1 名
機械工学科	危険物取扱者 乙 1 類	2 学年, H19, 1 月	1 名
機械工学科	危険物取扱者 乙 2 類	2 学年, H19, 1 月	1 名
機械工学科	パソコン検定 4 級	1 学年, H17, 7 月	1 名
電気情報工学科	第二種電気工事士	1 年 H18	1
物質工学科	危険物取扱者 乙 4 類	2 学年, H19, 1 月	1 名
合計 12 件			
資格取得状況 (機械工学科)			
学科名 : 機械工学科	取得資格名	取得学年・年	人数
3 学年	英語検定二級	3 年, 2006 年	1
19 件	英語検定準二級	1 年, 2004 年	1
	英語検定準二級	2 年, 2005 年	1
	英語検定準二級	3 年, 2006 年	1
	英語検定三級	1 年, 2004 年	1
	二級ボイラー技師	3 年, 2006 年	4
	危険物取り扱い者乙種二類	2 年, 2005 年	1
	危険物取り扱い者乙種四類	3 年, 2006 年	6
	危険物取り扱い者乙種四類	3 年, 2006 年	1
	危険物取り扱い者乙種五類	3 年, 2006 年	1
	危険物取り扱い者乙種六類	3 年, 2006 年	1
4 学年	危険物取扱者乙種 4 類	2 年, 2004 年	2
12 件	危険物取扱者乙種 4 類	3 年, 2005 年	1
	危険物取扱者乙種 4 類	4 年, 2006 年	1
	ボイラー技士二級	3 年, 2005 年	4
	ボイラー技士二級	4 年, 2006 年	1

資料 6 - 1 - ② - 5 (続き) 資格取得状況 (機械工学科)			
	パソコン検定3級	3年, 2005年	1
	英検3級	1年, 2003年	1
	TOEIC525点	3年, 2005年	1
5学年	電卓・ポケコン技能検定2級	1年, 2002年	1
66件	英検3級	1年, 2002年	1
	電卓・ポケコン技能検定2級	2年, 2003年	26
	二級ボイラー技士	2年, 2003年	1
	二級ボイラー技士	3年, 2004年	6
	危険物取扱者 乙種(4類)	3年, 2004年	3
	生物分類技能検定3級	3年, 2004年	1
	危険物取扱者 乙種(2類)	4年, 2005年	1
	危険物取扱者 乙種(4類)	4年, 2005年	4
	危険物取扱者 乙種(5類)	4年, 2005年	2
	危険物取扱者 乙種(6類)	4年, 2005年	4
	パソコン検定試験(P検)4級	4年, 2005年	7
	家電製品エンジニア資格	4年, 2005年	1
	危険物取扱者 乙種(2類)	5年, 2006年	1
	危険物取扱者 乙種(3類)	5年, 2006年	1
	危険物取扱者 乙種(4類)	5年, 2006年	3
	危険物取扱者 乙種(5類)	5年, 2006年	1
	危険物取扱者 乙種(6類)	5年, 2006年	1
	家電製品アドバイザー資格	5年, 2006年	1
専攻科1学年	危険物取扱者乙種4類	5年, 2005年	1
5件	ボイラー技士二級	4年, 2004年	1
	ポケコン検定2級	1年, 2001年	3
専攻科2学年	電卓・ポケコン技能検定2級	1年, 2000年	1
13件	危険物取扱者 乙種(4類)	3年, 2002年	1
	二級ボイラー技士	4年, 2003年	2
	危険物取扱者 乙種(1類)	4年, 2003年	1
	危険物取扱者 乙種(2類)	4年, 2003年	2
	危険物取扱者 乙種(4類)	4年, 2003年	1
	危険物取扱者 乙種(5類)	4年, 2003年	1
	危険物取扱者 乙種(6類)	4年, 2003年	1
	危険物取扱者 乙種(4類)	5年, 2004年	2
	機械設計技術者3級	専1年, 2005年	1

資料 6 - 1 - ② - 5 (続き) 資格取得状況 (電気情報工学科)			
学科名 : 電気情報工学科	取得資格名	取得学年・年・月	人数
3 学 年 9 件	実用英語技能検定 2 級	1 年 H16	1
	実用英語技能検定 2 級	2 年 H17	1
	TOEIC 550 点以上	2 年 H17	1
	TOEIC 550 点以上	3 年 H18	1
	TOEIC 420 点以上	3 年 H18	3
	情報処理技術者 基本情報技術者	3 年 H18	1
	情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	3 年 H18	1
4 学 年 14 件	情報処理技術者 基本情報技術者	3 年 H17	1
	情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	3 年 H17	1
	TOEIC 420 点以上	4 年 H18	2
	第三種電気主任技術者	4 年 H18	1
	第二種電気工事士	4 年 H18	6
	情報処理技術者 基本情報技術者	4 年 H18	2
	情報処理技術者 ソフトウェア開発技術者	4 年 H18	1
5 学 年 15 件	第二種電気工事士	3 年 H16	1
	TOEIC 420 点以上	4 年 H17	2
	第二種電気工事士	4 年 H17	2
	ラジオ・音響技能検定	4 年 H17	1
	情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ	4 年 H17	2
	TOEIC 550 点以上	5 年 H18	1
	第三種電気主任技術者	5 年 H18	1
	情報処理技術者 基本情報技術者	5 年 H18	5
専攻科 1 学年 4 件	基本情報技術者	SS1 H18.11	1
	基本情報技術者	5 年 H17.4	1
	TOEIC 420 点以上	1SS H18.	1
	TOEIC 420 点以上	1SS H17.	1
専攻科 2 学年 2 件	TOEIC 420 点以上	2SS H18	1
	実用英語技能検定準 2 級	3 年 H14	1

資料 6 - 1 - ② - 5 (続き) 資格取得状況 (電子制御工学科)			
電子制御工学科	取得資格名	取得学年・年・月	人数
4 学年	情報処理活用能力検定 3 級		1
42 件	情報処理技術者 基本情報技術者		7
	情報処理技術者 初級システム アドミニストレータ		9
	ソフトウェア開発技術者		1
	危険物取扱者 乙種		3
	TOEIC		16
	英検 準 2 級		4
	英検 1 級		1
5 学年	デジタル検定 2 級		2
65 件	情報処理活用能力検定 3 級		4
	情報処理活用能力検定 2 級		1
	画像情報技能検定 マルチメディア部門 3 級		16
	画像情報技能検定 CG 部門 3 級		16
	情報処理技術者 基本情報技術者		7
	情報処理技術者 初級システム アドミニストレータ		5
	デジタル技術検定 2 級		4
	危険物取扱者 乙種		4
	第 1 種 電気工事士		1
	TOEIC 550 以上		2
	TOEIC 420 以上		1
	実用数学技能検定 準 1 級		1
	実用英語検定 2 級		1

資料 6 - 1 - ② - 5 (続き) 資格取得状況 (物質工学科)			
学科名 : 物質工学科	取得資格名	取得学年・年・月	人数
3 学年	危険物 乙 4 類	2	1
4 件	英検 準 2 級	2	1
	英検 3 級	1	1
	TOEIC 550 以上	2	1
4 学年	TOEIC (340 点と 730 点)	4	2
2 件			
5 学年	TOEIC	5.	2
13 件	危険物取扱者	5.	10
	実用英語検定		1
専攻科 1 学年 (H17 年度 C 科卒業生)	危険物取扱者 乙類 4 類	第 5 学年・平成 18 年 3 月	10
11 件	TOEIC 550 点以上	第 5 学年・平成 18 年 3 月	1
専攻科 2 学年	該当なし		

資料 6-1-②-5 (続き) 資格取得状況 (建築学科)			
学科名: 建築学科	取得資格名	取得学年・年・月	人数
3 学年	色彩能力検定 3 級	2 A	1
6 件	同上	3 A	2
	エクステリアプランナー 2 級	3 A	1
	英検準 2 級	2 A	1
	TOEIC 670 点	3 A	1
4 学年	色彩能力検定 2 級	4 A	2
12 件	色彩能力検定 3 級	4 A	4
	同上	1 A	1
	英検準 2 級	3 A	1
	英検 3 級	2 A	2
	漢字検定準 2 級	2 A	1
	TOEIC 480 点	4 A	1
5 学年	福祉環境コーディネーター 2 級	5 A	1
17 件	エクステリアプランナー 2 級	5 A	3
	CAD 利用技術者 2 級	5 A	2
	色彩能力検定 3 級	5 A	8
	危険物取扱者乙種 4 類	4 A	2
	漢字検定 2 級	3 A	1
専攻名: 建築学専攻			
1 学年	色彩能力検定 3 級	5 A	1
1 件			
2 学年	2 級建築士	1 S A	2
12 件	同上	2 S A	3
	福祉住環境コーディネーター 3 級	5 A	1
	同上	1 S A	1
	色彩能力検定 3 級	3 A	1
	同上	4 A	2
	危険物取扱者乙種 4 類	3 A	1
	2 級ボイラー技士	3 A	1

資料 6 - 1 - ② - 5 (続き) 資格取得状況のまとめ

	一般科	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
1 学年	5	9	1	-	1	1
2 学年	7	31	2	-	3	5
3 学年	-	33	9	-	0	9
4 学年	-	30	19	(42)	2	11
5 学年	-	11	7	(65)	24	16
専攻科 1 学年	-	1	4	0	0	3
専攻科 2 学年	-	0	2	0	0	3
合 計	12	115	38	107	30	48

(出典：各学科資格取得状況調査資料を整理)

資料 6-1-②-6 (続き) 卒業研究・卒業制作の状況

平成18年度

機械工学科	Max.	Min.	Average
卒業研究	95点	60点	75点
特別研究	90点	65点	80点

電気情報学科	Max.	Min.	Average
卒業研究	87点	60点	75点
特別研究	90点	76点	81点

電子制御工学科	Max.	Min.	Average
卒業研究	100点	62点	83点
特別研究	92点	92点	92点

物質工学科	Max.	Min.	Average
卒業研究	95点	63点	78点
特別研究	96点	87点	90点

建築学科	Max.	Min.	Average
卒業研究	81点	72点	76点
特別研究	82点	80点	81点

(出典：各学科成績資料を整理)

資料 6-1-②-6 (続き) 卒業研究評価結果一覧の一例

学科 5年	卒業研究 (A) 評 価 結 果									
	学生 1	学生 2	学生 3	学生 4	学生 5	学生 6	学生 7	学生 8	学生 9	学生 10
	出展番号	氏名	指導教員							
学生 1	1									
学生 2	14									
学生 3	15									
学生 4	7									
学生 5	9									
学生 6	11									
学生 7	19									
学生 8	27									
学生 9	12									
学生 10	62									
学生 11	25									
学生 12	28									
学生 13	2									
学生 14	32									
学生 15	33									
学生 16	8									
学生 17	21									
学生 18	20									
学生 19	30									
学生 20	4									
学生 21	13									
学生 22	18									
学生 23	35									
学生 24	54									
学生 25	41									
学生 26	3									
学生 27	6									
学生 28	10									
学生 29	14									
学生 30	34									
学生 31	17									
学生 32	14									

B: 特に優れている

A: 優れている

無: 平均

C: 十分でない

D: 不適切

① 卒業研究の指導・実施は、専任教員が担当するが、指導教員の専任化が図られている

② 卒業研究の指導・実施は、専任教員が担当するが、指導教員の専任化が図られている

③ 卒業研究の指導・実施は、専任教員が担当するが、指導教員の専任化が図られている

④ 卒業研究の指導・実施は、専任教員が担当するが、指導教員の専任化が図られている

資料 6-1-②-6 (続き) 専攻科特別研究の評価シートの一例

平成18(2006)年度 特別研究(SA)報告会 評価シート

平成18(2006)年度 平成19(2007)年12月30日(火)
 健康学専攻科101ゼミ室

評価者

健康学専攻科2年

研究番号	研究題目	指導教員	研究の目的や意義、研究に対する理解度、結果や考察に対する見識がわかりやすい程度と、研究内容は十分か？課題を認識できているか？又は、理解しているか？ 多や実験の計画性が適切か？	結果や考察が明確かつかつて書かれているか？又は、論理的にけた場合の回答は明確になっているか？	指導教員のみ視点 <自主性や積極度> (他の研究室には継続を記して下さい)		
論文1			A	A	A	C	A
論文2			A	A	A	B	
論文3			A	A	A	B	
論文4			B	B	B	B	
資料1			B	B	B	B	B
資料2			B	B	B	B	

評価者の日章

- | | | |
|----|----------|----|
| S: | 著に書かれている | 評価 |
| A: | 理解している | 評価 |
| B: | 良い | 評価 |
| C: | やや改善が必要 | 評価 |
| D: | 十分でない | 評価 |

※ 必ずアルファベットで記入して下さい

資料 6-1-②-6 (続き) 卒業研究評価結果一覧の一例

卒業研究						
出席	学生名	欠課時数 総時間数 300時間	得点		総合得点	合否
			中間	発表会		
		40	81	77	79	合
		74	66	61	63.5	合
		10	78	91	84.5	合
		13	77	89	83	合
		35	82	84	83	合
		14	86	90	88	合
		14	86	86	86	合
		10	82	84	83	合
		0	95	95	95	合
		0	70	71	70.5	合
		0	79	88	83.5	合
		15	86	82	84	合
		30	81	86	83.5	合
		20	75	82	78.5	合
		12	75	87	81	合
		12	77	78	77.5	合
		0	87	88	87.5	合
		40	79	89	84	合
		60	77	73	75	合
		37	73	75	74	合
		7	79	81	80	合
		50	75	69	72	合
		4	75	78	76.5	合
		3	80	80	80	合
		40	72	81	76.5	合
		20	66	83	74.5	合
		30	60	71	65.5	合
		26	70	76	73	合
		0	78	87	82.5	合
		4	90	92	91	合
		150	0	47	23.5	不合格
		34	68	67	67.5	合
		20	63	62	62.5	合
		25	72	80	76	合
		10	82	91	86.5	合
		17	76	68	72	合
		28	73	73	73	合
		40	83	80	81.5	合
		15	90	92	91	合
		3	94	88	91	合

資料 6-1-②-6 (続き) 専攻科特別研究評価シートの一例

特別研究採点表

学生氏名			審査員氏名		
審査員種別			主査(特別研究指導)		
審査員番号			合計		
1. 研究計画 心算書			14 / 30		30
細 目	目的性				
	理解度				
	文献調査				
2. 発表		20 / 20	18 / 20		40
細 目	目的・背景				
	方法				
	結果				
	考察				
3. 論文		10 / 10	10 / 20		30
細 目	目的・背景				
	方法				
	結果				
	考察				
合計点		30	22 / 20		100
卒業時総点			70 / 240		70 / 240

採点の目安

満点	30	20	10
特に優れている	30	20	10
優れている	24	18	8
良い	18	12	6
やや改善が必要	12	8	4
十分でない	6	4	2

(出典：各学科成績資料)

資料 6-1-②-7 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (機械工学科)				
学科名 機械工学科 口頭 16 件 論文 7 件	発表学生氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等 (コンペティション名 等)	ページ 発表年月(平成) 査読の有無の記入
① 本科 口頭発表	(高島武雄)	上部が加熱された垂直ガラス管内の水・蒸気柱の熱的自励振動	日本機械学会関東支部ブロック合同講演会-2004 宮代-	(2004.09) 査読 無
	(高島武雄)	熔融ガラスと水の蒸気爆発に関する実験的研究	第 42 回日本伝熱シンポジウム講演論文集 E211	pp. 267-268 (2005-6) 査読 無
	(高島武雄)	熔融ガラスを用いたマグマ水蒸気爆発の再現実験	火山爆発のダイナミックス 2004 年度研究成果報告書	pp. 238-241. (2005.3) 査読 無
	(高島武雄)	水・蒸気柱の熱的自励振動時の圧力変動	日本機械学会関東支部ブロック合同講演会-2005 足利-	(2005.09) 査読 無
	(菊地吉郎)	蠕動運動による移動機構	日本機械学会関東支部ブロック合同講演会	p. 151 (H17) 査読 無
	(高島武雄)	水平管内の水・蒸気柱の熱的自励振動	日本機械学会 2006 年度年次大会	(2006.09) 査読 無

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (機械工学科)				
	(菊地吉郎)	ザトウムシ の八脚歩行	日本機械学会関 東支部日本機械 学会関東支部卒 業研究発表講演 会	(H18) 査読 無
論文	(高島武雄)	マイクロ波照 射場での熱電 対による温度 測定に関する 研究	小山工業高等専門 学校研究紀要	第 37号 (2005), pp. 81-85. 査読 無
	(高島武雄)	Experimental Study of Vapor Explosion with Molten Glass and Water	Thermal Science & Engineering	13(4), pp. 59-60 (2005) 査読 有
② 専攻科 口頭発表	(田中 好一)	溶接母材表面 に付着するス パッタに関する 研究	日本機械学会関東 支部ブロック合 同講演会'04 宮代	pp. 45-46 (2004. 9) 査読 無
	(高島武雄)	自励振動ヒ ートパイプ 内の流体挙 動と伝熱	とちぎ大学連携 第 2 回学生 & 企 業研究発表会	pp. 46-47 (2005. 12) 査読 無
	(山下 進)	小型 A C V の 方向制御特性	日本機械学会関 東学生会第 45 回 学生員卒業研究 発表講演会	p. 175-176 (H18. 3) 査読 無
	(山下 進)	V-A 型小型 A C V の設計	日本機械学会関 東学生会第 46 回 学生員卒業研究 発表講演会	(H19. 3 予定) 査読 無

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (機械工学科)				
	(伊澤 悟)	短繊維強化 SMCの損 傷と機械的 特性	日本機械学会関 東支部ブロック 合同講演会 '05 足利	p. 61-62 (2005) 査読 無
	(菊地吉郎)	回転磁界を 利用したポ ンプ	日本機械学会関 東支部ブロック 合同講演会 '05 足利	p. 293 (H17) 査読 無
	(菊地吉郎)	動作補助椅 子	日本機械学会関 東支部ブロック 合同講演会 '05 足利	p. 149 (H17) 査読 無
	(菊地吉郎)	蠕動運動に よる移動装 置に関する 研究	日本機械学会関 東支部ブロック 合同講演会 '06 桐生	p. 197 (H18) 査読 無
	(菊地吉郎)	バイオメタ ルを利用し た小型ポン プ	日本機械学会関 東支部ブロック 合同講演会 '06 桐生	p. 11 (H18) 査読 無
論文	(高島武雄)	逆溶解性高分 子水溶液の伝 熱特性	小山工業高等専門 学校研究紀要	第 36号 (2004) pp. 61-65 査読 無
	(高島武雄)	水中油滴型エ マルジョン液 滴の加熱面上 での蒸発に関 する研究	日本機械学会論文 集 (B編)	第 70巻, 第 700 号, pp. 3190-3195 (2004-12) 査読 有
	(三田 純 義)	低風速域にお けるマイクロ 風車の動力性 能に関する実 験的研究	小山工業高等専門 学校研究紀要	第 37号 (2005) pp. 71-80 査読 無

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (機械工学科)				
	(高島武雄)	Evaporation of an Emulsion Droplet of Oil-in-Water Type on a Hot Surface	Heat Transfer Asian Research	34 (7), pp. 527-537 (2005). 査読 有
	(高島武雄)	液滴の蒸発におよぼす加熱面性状の影響	小山工業高等専門学校研究紀要	第 3 8 号 (2006) pp. 37-42 査読 無
学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (電気情報工学科)				
学科名 電気情報工学科 口頭 17 件	発表学生氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等 (コンペティション名等)	ページ 発表年月(平成) 査読の有無の記入
①本科 口頭発表	(森 夏樹)	高温超伝導体の c 軸方向揺らぎ伝導率の理論解析	第 52 回応用物理学関係連合講演会講演予稿集 1	p. 269 (H17. 3) 査読 無
	(森 夏樹)	Ginzburg-Landau 理論に基づく 2-band 超伝導体の揺らぎ伝導率	第 53 回応用物理学関係連合講演会講演予稿集 1	p. 253 (H18. 3). 査読 無
	(森 夏樹), (2006. 3).	LaBaCaCu ₃ O _{7-δ} 超伝導体の交流帯磁率と揺らぎ伝導率	第 53 回応用物理学関係連合講演会講演予稿集 1	p. 254 (H18. 3). 査読 無

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (電気情報工学科)				
②専攻科 口頭発表	(森 夏樹)	Thermoelectric power and resistivity in Nd _{2-x} Ce _x CuO ₄ system	International Conference on Rare Earths '04 in Nara, Japan	p. 79 (H16. 11) 査読 有
	(森 夏樹)	非晶質と微結晶 In ₂ O ₃ :Sn 薄膜における電子輸送特性への熱処理効果	薄膜材料デバイス研究会 (第 2 回研究集会) 予稿集	p. 71 (H17. 11) 査読 有
	(森 夏樹)	インジウム酸化物薄膜の光・電気特性に対するセリウム元素添加の効果	第 53 回応用物理学関係連合講演会講演予稿集 2	p. 662 (H18. 3) 査読 無
	(森 夏樹)	導電性酸化物を含む Bi2223 系焼結体の交流帯磁率による評価	第 53 回応用物理学関係連合講演会講演予稿集 1	p. 280 (H18. 3) 査読 無
	(森 夏樹)	A comparative study of thermoelectric properties in (Pr, Y)Ba ₂ Cu ₃ O ₇ and PrBa ₂ Cu ₃ O ₇ -Ag percolative systems	15 th International Conference on Ternary and Multinary Compounds '06 in Kyoto, Japan	Wed-P-40B (H18. 3) 査読 有

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (電気情報工学科)				
	(森 夏樹)	(Pr, Y)Ba ₂ Cu ₃ O ₇ 系と Ag-PrBa ₂ Cu ₃ O ₇ 系における熱電特性の比較研究	第 3 回「学生 & 企業研究発表会」 (宇都宮)	(H18.12) 査読 無 ポスターセッション部門【優秀賞】
	(土田英一)	CAD 設計モデルと光造形物との形状相関に及ぼすレーザ出力の依存性	応用物理学会	講演予稿集 30a-ZW-3 (H16) 査読 無
	(土田英一)	レーザ制御パラメータと画像解像度が加工物の加工精度に及ぼす影響	レーザー学会	講演予稿集 10a II 7 (H17) 査読 無
	(小林幸夫)	人間の聴覚心理現象と位相の関係 ~MF 現象における位相の影響~	栃木サテライトオフィス	p. 14 (H16) 査読 無 奨励賞受賞
	(小林幸夫)	位相変化が音色に与える影響について	第 11 回高専シンポジウム	p. 169 (H18) 査読 無
	(小林幸夫)	位相変化が音色に与える影響について	電気学会研究発表会	p. 9 (H18) 査読 無

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (電気情報工学科)				
	(Yukio KOBAYASHI)	The Influence on Timbre Perception by Phase Variation of Harmonic Complex Tone	AES Japan Section Conference in Fukuoka	p. 04 (H18) 査読 有
	(石原 学)	遅延が与えられた力覚ディスプレイの操作性について	電気学会 電子・情報・システム部門大会, GS4-2, pp. 858-861	2006. 9 査読・無
	(鈴木 真ノ介, 大嶋 建次)	ヒューマノイドを用いた人間の歩行に関する研究	第12回 高専シンポジウム	(H19. 1. 27 発表予定) 査読 無
学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (電子制御工学科)				
学科名 電子制御工学科 口頭 5件	発表学生氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等 (コンペティション名等)	ページ 発表年月(平成) 査読の有無の記入
①本科 口頭発表	(西野聰)	画素数変化と重心軌跡を併用した人物の行動認識”	2005 年電子情報通信学会総合大会	D-12-120 (2005. 3) 査読 無

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (電子制御工学科)				
	(西野聰)	画素数変化による人物の行動認識の検討	2006年電子情報通信学会総合大会,	D-12-62 (2006-3) 査読 無
②専攻科 口頭発表	(西野聰)	赤外線画像を用いた男女識別の試行	電子情報通信学会、パターン認識・メディア理解研究会技術報告書 (PRMU)、PRMU2005-80,	pp. 101-105 (2005.9) 査読 無
	(西野聰)	赤外線画像による男女識別の試行-II	2006年電子情報通信学会総合大会	D-12-109 (2006.3) 査読 無
	(西野聰)	赤外線画像を用いた男女識別の検討	とちぎ大学連携・サテライトオフィス運営協議会、第二回学生&企業研究発表会	(2005.12) 査読 無
学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (物質工学科)				
物質工学科 口頭 16 件	発表学生氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等 (コンペティション名等)	ページ 発表年月(平成)
①本科 口頭発表	(田中孝国)	活性汚泥の難分解性物質に対する分解・増殖特性の解析	第 12 回「高専シンポジウム	p. 9 (H19. 1. 27)

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (物質工学科)				
	(田中孝国)	アパタイト溶射膜によるエンドトキシンの除去	第 9 回 化学工学会学生発表会 (東京大会)	D21 (H19.3.3)
②専攻科 口頭発表	(飯島道弘)	種々ポリマー存在下及び固定化による機能性酵素の調製と応用	第 20 回高分子学会茨城地区若手の会交流会	H17/11/1~11/2
	(飯島道弘)	温度応答性を有する種々ブロックポリマーの合成と応用	第 20 回高分子学会茨城地区若手の会交流会	H17/11/1~11/2
	(飯島道弘)	末端反応性 PEG の合成と機能性材料としての応用	第 20 回高分子学会茨城地区若手の会交流会	H17/11/1~11/2
	(飯島道弘)	温度応答性を有する種々ブロックポリマーの精密合成と応用	とちぎサテライトオフィス 2005 学生発表会	H17/12/3 (ポスター賞入賞)
	(飯島道弘)	末端にフラーレンを有するヘテロテレケリック PEG の合成と評価	とちぎサテライトオフィス 2005 学生発表会	H17/12/3 (ポスター賞入賞)

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (物質工学科)				
論文	(飯島道弘)	末端反応性 ポリエチレ ングリコー ルによるフ ラーレンの 機能化と応 用	第 55 回高分子学 会年次大会	H18/5/24~5/26
②専攻科 口頭発表	(胸組虎胤)	「アミノオ キシカルボ ン酸の化学 的性質と反 応性」	第 9 回高専シンポ ジウム	講演要旨集 p 49 (H16・1) 査読 無
	(胸組虎胤)	「縮合反応 における N- 保護アミノ 酸活性エス テルの立体 特異性」	第 10 回高専シン ポジウム	講演要旨集 p 38 (H17・1) 査読 無
	(胸組虎胤)	「ペプチド の立体特異 的縮合反 応」	平成 18 年度化学 系学協会東北大会	講演予稿集 p.13 6 (2 P048) (H18・9) 査読 無
	(胸組虎胤)	「活性エス テルを用い たペプチド 生成反応の 立体化学」	平成 18 年度化学 系学協会東北大会	講演予稿集 p.180 (3P031) (H18 ・9) 査読 無
論文	論文なし			

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (建築学科)				
学科名 建築学科	発表学生 氏名 (指導教員)	書名・発表題目	発表講演会名等 (コンペティション名 等)	ページ 発表年月(平成) 査読の有無の記入
専攻科/口頭発表	(奥富利幸)	明治期の行幸啓における能楽場の分類について	日本建築学会大会	F-2 分冊 p.371-372(H16)査読なし
	(高橋大輔)	景観における日本らしさに関する研究-台東区谷中地区における調査・分析-	とちぎ大学連携サテライトオフィス/学生&企業研究発表会<入賞>	(H16/10)審査あり
	(尾立弘史)	ユニバーサルデザイン研究プロジェクト報告	おやま産学官ネットワーク/第3回フォーラム	(H16/11)査読なし
	(白石光昭)	照明器具の明るさ・色温度・位置の違いが印象評価に及ぼす影響 主照明と補助照明併用のリビング空間の検討 No.2	日本建築学会大会	D-1 分冊 p.387-388(H17)査読なし
	(白石光昭)	戦後オフィスチェアの機能性向上と座り心地評価の関係 座と背もたれの傾斜機構を中心に	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.831-832(H17)査読なし
	(瀧澤雄三)	管理・運営サイドからみたケアハウス併設施設のメリットに関する研究 その1 在宅支援施設のメリットについて	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.389-390(H17)査読なし
	(高橋大輔)	栃木県におけるショッピングセンター建築に関する基礎的研究 ショッピングセンター建築の空間構成に関する研究(その1)	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.429-430(H17)査読なし
	(大島隆一)	侵入犯罪の手口に対する建具の防犯対策について ドアと窓の防犯性能・コスト	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.729-730(H18)査読なし
	(大島隆一)	生分解性プラスチックの建材化に関する基礎的研究 断熱材への検証について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.677-678(H18)査読なし
	(白石光昭)	明・暗順応状態における照明器具の明るさ・色温度・位置が印象評価に及ぼす影響 主照明と補助照明併用のリビング空間の検討 No.3	日本建築学会大会	D-1 分冊 p.241-242(H18)査読なし
	(白石光昭)	戦後日本におけるオフィスチェアの形態の変遷	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.853-854(H18)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウス入所者の身体状況変化と施設退所について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.231-232(H18)査読なし
	(尾立弘史)	孫悟空プロジェクト	とちぎ大学連携サテライトオフィス/学生&企業研究発表会<奨励賞>	(H18/12)審査あり

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (建築学科)				
	(大島隆一)	侵入犯罪の手口に対する建具の防犯対策について	とちぎ大学連携サテライトオフィス/学生 & 企業研究発表会<金賞>	(H18/12)審査あり
専攻科/論文	(高橋純一)	地震被害想定における建物損害額推定手法の検討-1995年兵庫県南部地震を事例として-	櫛会(小山高専建築学科同窓会)特別研究表彰	(H17/3)学内審査あり
	(白石光昭)	主照明と補助照明を併用したリビング空間の印象評価-照明器具の明るさ・色温度・位置・種類の違いが印象に及ぼす影響-	櫛会(小山高専建築学科同窓会)特別研究表彰	(H18/3)学内審査あり
	(大島隆一)	一戸建住宅の建具等に施す防犯対策について	日本建築学会/優秀卒業論文賞の応募	(H19/3)審査あり
	(大島隆一)	断熱材への生分解性プラスチックの代替評価について-建材ライフサイクルの体系的整理による検討-	日本建築学会/優秀卒業論文賞の応募	(H19/3)審査あり
専攻科/論文(設計)	(高橋大輔)、 (高橋大輔)・ (尾立弘史)	コンペ(結婚式の出来る家、団塊の世代に送る街)	栃木県建設展(第15回 AP 展)学生作品部門	(H18/7)審査あり
	(尾立弘史)	見世から生まれる連続的なコミュニティ空間-習い事を通じた介護予防-	櫛会(小山高専建築学科同窓会)特別研究表彰	(H19/3)学内審査あり
	(尾立弘史)	大谷の岩肌と共に生きる-御止山を中心とした賑わいの創出-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞推薦<優秀賞>	(H19/3)審査あり
	(尾立弘史)	見世から生まれる連続的なコミュニティ空間-習い事を通じた介護予防-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞推薦<優秀賞>	(H19/3)審査あり
本科/口頭発表	(松村光太郎)	文学表現による過去の積雪深の推定-その2 校歌における雪言葉と積雪量との関係-	日本雪氷学会全国大会<優秀発表賞>	(H16/9)審査あり
	(高橋大輔)	写真投影法による「日本らしさ」の分析 景観における「日本らしさ」に関する研究 その2	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.1069-1070(H16)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウス併設施設とそのメリットについて	日本建築学会大会	E-2 分冊 p.279-280(H16)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウスにおける和室・洋室の設置状況	日本建築学会大会	E-2 分冊 p.275-276(H16)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウスの室構成と室機能兼用状況	日本建築学会大会	E-2 分冊 p.277-278(H16)査読なし

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (建築学科)				
	(白石光昭)	住宅における室内照明が雰囲気評価に及ぼす影響 主照明と補助照明併用のリビング空間の検討	日本建築学会大会	D-1 分冊 p.411-412(H16)査読なし
	(白石光昭)	戦後オフィスチェアにおける製品特性の変遷	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.781-782(H16)査読なし
	(高橋大輔)	デザイン・サーベイにおけるフリースクールの空間の使われ方の研究	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.127-128(H17)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウス入所者の ADL の実態と将来に対する意識について G ホームを事例として	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.393-394(H17)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウス入所者の施設選択傾向と室・設備に対する希望について G ホームを事例として	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.395-396(H17)査読なし
	(大島隆一)	一戸建住宅の侵入犯罪に対する建具等の対策傾向について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.729-730(H17)査読なし
	(大島隆一)	建設廃棄物の廃棄処理や利用方法、解体を考慮した設計等に関する研究動向	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.793-794(H17)査読なし
	(瀧澤雄三)	老人短期入所施設利用者の地域分布状況について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.239-240(H18)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウス入所者の施設認知及び施設選択傾向について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.233-234(H18)査読なし
	(瀧澤雄三)	ケアハウス入所者の将来意識と「特定施設入所者生活介護」について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.235-236(H18)査読なし
	(瀧澤雄三)	老人短期入所施設の利用者とその利用状況について	日本建築学会大会	E-1 分冊 p.237-238(H18)査読なし
	(奥富利幸)	壬生町壬生通り、上稲葉地区における歴史的建造物に関する考察	第 11 回建築史交流会(東洋大学工学部建築学科主催)<建築史研究賞>	(H19/3)審査あり
本科/論文(設計)	(高橋大輔)	Lost and Found (設計)-足尾銅山廃墟群の再生と銅(あかがね)の里-	日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会	(H16)学内審査あり
	(高橋大輔)	Life Stage (設計)-コクブンジマチ・コミュニティセンターと町営団地の計画-	DAS 学生デザイン設計展(毎日新聞社)<入選>	(H16/6)審査あり

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (建築学科)				
(高橋大輔)・ (尾立弘史)	卒業設計(Life Stage (設計)-コクブンジマチ・コミュニティセンターと町営団地の計画-、Lost and Found (設計)-足尾銅山廃墟群の再生と銅(あかがね)の里-、水上計画都市(設計)-漂泊者と定住者の共存-、Necropolis(設計)-葬祭殿-	栃木県建設展(第13回 AP展)学生作品部門<栃木県建築設計事務所協会長賞>	(H16/7)審査あり	
(高橋大輔)	もう一つの学校 子供たちの新しい居場所(設計)-もてぎ町那珂川河川敷におけるフリースクール計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞推薦<優秀賞>	(H17/3)審査あり	
(尾立弘史)	奥のえんてい(設計)-文化・伝統芸能継承の地、奥多摩湖計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞推薦<優秀賞>	(H17/3)審査あり	
(松村光太郎)	古河における雪のまちづくりと住民意識に関する研究	櫛会(小山高専建築学科同窓会)卒業研究表彰	(H17/3)学内審査あり	
(大島隆一)	建設廃棄物の廃棄処理や利用方法、解体を考慮した設計等に関する研究動	櫛会(小山高専建築学科同窓会)卒業研究表彰	(H17/3)学内審査あり	
(大島隆一)	一戸建住宅の侵入犯罪に対する建具等の対策傾向について	高専機構本部・創造性を育む「卒業研究」集、推薦	(H17/3)学内審査あり	
(高橋大輔)	池袋駅再構築(設計)	日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会	(H17)学内審査あり	
(高橋大輔)・ (尾立弘史)	卒業設計(池袋駅再構築(設計)、もう一つの学校 子供たちの新しい居場所(設計)-もてぎ町那珂川河川敷におけるフリースクール計画-、奥のえんてい(設計)-文化・伝統芸能継承の地、奥多摩湖計画-	栃木県建設展(第14回 AP展)学生作品部門	(H17/7)審査あり	
(尾立弘史)	都市のコートハウス	JIA 関東信越地区学生課題設計コンクール	(H18/3)審査あり	
(尾立弘史)	2世帯住宅	JIA 関東信越地区学生課題設計コンクール	(H18/3)審査あり	
(尾立弘史)	2世帯住宅	JIA 関東信越地区学生課題設計コンクール	(H18/3)審査あり	
(高橋大輔)	地場産業技術者育成センター計画(設計)-愛知万博跡地の活用-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞推薦<優秀賞>	(H18/3)審査あり	
(尾立弘史)	Activity Square KOGA(設計)-ストリートスポーツコンプレックスの計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞推薦<優秀賞>	(H18/3)審査あり	

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (建築学科)				
(川上勝弥)	廃棄物の建築用材料への有効利用に関する実験的研究-溶融スラグ及び貝殻を細骨材として用いたモルタルについて-	櫛会(小山高専建築学科同窓会)卒業研究表彰	(H18/3)学内審査あり	
(瀧澤雄三)	ケアハウス入所者の施設認知および施設選択傾向について	櫛会(小山高専建築学科同窓会)卒業研究表彰	(H18/3)学内審査あり	
(瀧澤雄三)	老人短期入所施設利用者の地域分布状況について	高専機構本部:創造性を育む「卒業研究」集、推薦	(H18/3)学内審査あり	
(大島隆一)	次世紀に向けた複合都市計画(設計)-既存ストック活用における新しいコミュニティ空間と住居のコンバージョン-	日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会	(H18)学内審査あり	
(尾立弘史)	秋葉原イベントハウス計画(設計)-単身者を対象とした集合住宅-	DAS 学生デザイン設計展(毎日新聞社)	(H18/6)審査あり	
(高橋大輔)	Bridge Architecture(設計)-渋川市利根川流域における「道の駅」計画-	DAS 学生デザイン設計展(毎日新聞社)	(H18/6)審査あり	
(大島隆一)、 (尾立弘史)	卒業設計(次世紀に向けた複合都市計画-既存ストック活用における新しいコミュニティ空間と住居のコンバージョン-、秋葉原イベントハウス計画-単身者を対象とした集合住宅-)	栃木県建設展(第15回 AP 展)学生作品部門	(H18/7)審査あり	
(尾立弘史)	2世帯住宅	JIA 関東信越地区学生課題設計コンクール	(H19/3)審査あり	
(尾立弘史)	2世帯住宅	JIA 関東信越地区学生課題設計コンクール	(H19/3)審査あり	
(尾立弘史)	2世帯住宅	JIA 関東信越地区学生課題設計コンクール	(H19/3)審査あり	
(高橋大輔)	Progressive Architecture(設計)-災害時におけるアルミニウム仮設シェルターの計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞公募型	(H19/3)審査あり	
(高橋大輔)	新宿ピロティ(設計)-新宿3丁目におけるデパートの計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞公募型	(H19/3)審査あり	
(大島隆一)	Utopia(設計)-ヒートアイランド現象緩和のための都市計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞公募型	(H19/3)審査あり	
(高橋大輔)	Town scape(設計)-飯田市における職業訓練学校を中心とした複合施設の計画-	JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞公募型<優秀賞>	(H19/3)審査あり	
(高橋大輔)	病院の内部空間の雰囲気に関する研究-写真投影法によるエントランスホール空間の分析-	櫛会(小山高専建築学科同窓会)卒業研究表彰	(H19/3)学内審査あり	

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査 (建築学科)				
	(山本昇)	充填コンクリートで補強したH形鋼柱梁接合部に関する研究-有限要素法による解析と考察-	櫛会(小山高専建築学科同窓会)卒業研究表彰	(H19/3)学内審査あり
	(白石光昭)	照度・色温度と観察距離の違いによる素材の見え方と印象評価の変化	高専機構本部:創造性を育む「卒業研究」集、推薦	(H19/3)学内審査あり
	(尾立弘史)	ごっこタウン(設計)-森に暮らす子供達-	日本建築学会全国大学・高専卒業設計展示会	(H19/3)学内審査あり

資料 6-1-②-7 (続き) 学会発表 (含:コンペティション) に関する調査					
口頭発表と論文の件数まとめ (件数)					
準学士課程					
	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
口頭発表	7	3	5	2	16
論文	2	—	—	—	14
専攻科課程					
	電子システム工学専攻			物質工学専攻	建築学専攻
	(機械工学科)	(電気情報工学科)	(電子制御工学科)		
口頭発表	9	14	—	14	31
論文	5	—	—	—	3
(出典:各学科の学会発表に関する調査資料のまとめ)					

資料 6 - 1 - ② - 8				
ロボコン、プロコン、アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況（機械工学科）				
平成 16 年度の結果 11 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
機械工学科 3 年		ホンダエコノパワー 燃焼競技大会	デザイン賞	
機械工学科 3 年		かわさきロボット競 技大会	ユニーク賞	
機械工学科 3 年		アイディアコンテス ト	アイデア大賞	
機械工学科 5 年		高専ロボコン 2004 地 区大会		
機械工学科 5 年		第 2 回校内アイデア コンテス	審査員特別賞	
機械工学科 5 年		高専ロボコン 2004 全 国大会		
機械工学科 5 年		科学技術コンクール 高校生部門	特別賞（3 年連 続出場）	
機械工学科 5 年		第 2 回校内アイデア コンテスト競技部門	審査員特別賞	
機械工学科 5 年		第 2 回校内アイデア コンテストプレゼンテー ション部門	最優秀賞	
機械工学科 5 年		第 11 回かわさきロボ ット競技大会	ユニーク賞	
機械工学科 5 年		第 2 回校内アイデア コンテスト競技部門		

資料 6-1-②-8 (続き)				
ロボコン、プロコン、アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (機械工学科)				
平成 17 年度の結果 7 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
機械工学科 3 年		アイデアコンテスト	アイデア大賞 準優勝	
機械工学科 3 年		チャレンジ トウザ リミット	優勝	
機械工学科 5 年		第 3 回校内アイデア コンテスト	デザイン賞	
機械工学科 5 年		第 3 回校内アイデア コンテスト	デザイン賞	
機械工学科 5 年		第 3 回校内アイデア コンテスト	審査員特別賞	
機械工学科 5 年		第 12 回かわさきロボ ット競技大会		
機械工学科 5 年		第 1 回マシンメイト (川口市機械工業会 主催ロボコン)	準優勝	
平成 18 年度の結果 5 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
機械工学科 3 年		アイデアコンテスト	優勝 最多得点賞	
機械工学科 3 年		アイデアコンテスト	チームワーク賞	
		第 4 回校内アイデア コンテスト	デザイン賞	
機械工学科 5 年		第 4 回校内アイデア コンテスト		
機械工学科 5 年		ロボットスカベンジ ャー		出場予 定

資料 6-1-②-8 (続き)				
ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (電気情報工学科)				
平成 16 年度の結果 2 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
電気情報工学科		全国高等専門学校プログラミングコンテスト	全国大会：敢闘賞 (課題部門)	指導教員：石原学
電気情報工学科		高専ロボットコンテスト 2004	関東甲信越地区大会：優勝	指導教員：田中昭雄
平成 17 年度の結果 3 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
電気情報工学科		全国高等専門学校プログラミングコンテスト	全国大会：敢闘賞 (課題部門)	指導教員：石原学
電気情報工学科		高専ロボットコンテスト 2005	全国大会：アイデア賞入賞	指導教員：田中昭雄
電気情報工学科		高専ロボットコンテスト 2005	関東甲信越地区大会：技術賞入賞	指導教員：田中昭雄
平成 18 年度の結果 2 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
電気情報工学科		全国高等専門学校プログラミングコンテスト	全国大会：審査委員特別賞 (課題部門) BCN「ITジュニア賞」受賞	指導教員：石原学

資料 6-1-②-8 (続き)				
ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (電気情報工学科)				
電気情報工学科		高専ロボットコンテスト 2006	関東甲信越地区 大会: アイデア 賞入賞 全国大会: 特別 賞	指導教 員: 田 中昭雄
ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (電子制御工学科)				
平成 18 年度の結果 1 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
電子制御工学科	5 D	全国高専第 17 回プロ グラミングコンテス ト (2006.10.7&8)	競技部門 特別賞	
ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (物質工学科)				
平成 16~18 年度の結果 0 件				
学科名	学生名	コンテスト名	表彰名・受賞名	備考
物質工学科	参加該当なし			

資料6-1-②-8 (続き)					
ポコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (建築学科)					
平成16年度の結果 8件					
学科名	学生名	コンペティション名	表彰 受賞名	備考	
建築学 専攻1年		校内アイデアコンテスト	ベストパネル 賞		
建築学科5 年			審査員奨励賞		
建築学科5 年			審査員奨励賞		
建築学 専攻1年		社団法人総合デザイン協会(毎日 新聞 DAS)学生デザイン賞	入選	LIFE STAGE	
建築学 専攻1年		全 国 高 専 デ ザ コ ン 2004inISHIKAWA/地域交流シンポ ジウム	佳作	わらの家	
建築学 専攻1年		全 国 高 専 デ ザ コ ン 2004inISHIKAWA/複合住居	最優秀賞	思川 cafe	
建築学 専攻1年		全 国 高 専 デ ザ コ ン 2004inISHIKAWA/複合住居	佳作	(無題)J	
建築学科2 年		全 国 高 専 デ ザ コ ン 2004inISHIKAWA/構造ブリッジコ ンテスト	佳作	ブリッジコン テスト	
建築学科3 年		小山市/思川アプローチデザイン コンペ			
建築学科3 年					
建築学科3 年					
建築学科3 年					
建築学科3 年					
建築学科3 年					
建築学科3 年					
建築学科3 年					
建築学科5 年					
建築学科5 年				優秀賞	Continue
建築学 専攻1年				小山商工会議 所会頭賞	CITY×GATE
建築学 専攻1年					
建築学科3 年		株式会社ナムラコンチネンタルホ ーム事業本部/住まいのデザイン コンテスト			
建築学科3 年			奨励賞	どーむ	

資料 6-1-②-8 (続き)				
ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (建築学科)				
建築学科 5年		日本電気硝子株式会社/第 11 回空間デザインコンペティション「ガラス質の生きた住まい」		
建築学科 5年		2004 年度日本建築学会設計競技支部共通事業/建築の転生・都市の転生		
建築学科 5年		(株)シェルター/シェルター学生設計競技 2004「1000m ³ ・木・住宅」		
建築学科 5年		JIA 栃木クラブ卒業設計・学生賞・公募		
建築学科 5年				
平成 17 年度の結果 8 件				
建築学科 3年		全国高専デザコン 2005inAKASHI/構造ブリッジコンテスト本選	本選出場	
建築学科 5年			本選出場	
建築学専攻 1年		全国高専デザコン 2005inAKASHI/構造ブリッジコンテスト学内予選		
建築学専攻 1年				
建築学科 5年		全国高専デザコン 2005inAKASHI/環境デザインコンペティション予選		
建築学科 5年		全国高専デザコン 2005inAKASHI/プロポーザルコンペティション本選	本選出場 9 位	
建築学科 5年		セントラル硝子株式会社/まちなかのランドマーク		
建築学科 5年				
建築学科 5年		有限会社 家・スタイル/結婚式の出来る家コンペ		
建築学科 5年				
建築学科 5年				
建築学科 5年				
建築学専攻 1年				
建築学専攻 2年			最優秀賞	結婚式のできる家
建築学専攻 2年				

資料6-1-②-8 (続き)				
味、コン、プロコン、アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (建築学科)				
建築学 専攻 2 年		株式会社コムデザイン/9 坪ハウス スコンペ 2005「こどもと暮らす 9 坪ハウス」プロ部門		
建築学科 3 年・2 年				
建築学科 4 年				
建築学科 4 年				
建築学科 5 年				
建築学科 5 年				
建築学科 5 年				
建築学科 5 年				
建築学科 5 年		大和ハウス工業株式会社/第 1 回 ダイワハウス住宅設計コンペ「21 世紀住宅」		
建築学科 5 年		株式会社新建築社/新建築住宅設 計競技 2005、ACTION for SUSTAINABILITY		
建築学 専攻 1 年		習志野市/spot, NARASHINO AWARDS 2005。都市アイデアの部	審査員賞(柘植 喜治賞)	Cart Town
建築学 専攻 1 年		有限会社 家・スタイル/団塊の 世代に送るこれからの街：宅地造 成計画の実施設計案	優秀賞	団塊の世代に 送るこれから の街
建築学 専攻 1 年		京都建築青年経済協議会/京の町 家学生設計コンペティション		
建築学 専攻 2 年				
平成 18 年度の結果 9 件				
建築学科 4 年		全国高専デザコン 2006in 都城/構 造ブリッジコンテスト本選	本選出場	
建築学 専攻 2 年/建 築学科 4 年			本選出場	
建築学 専攻 1 年		全国高専デザコン 2006in 都城/構 造ブリッジコンテスト学内予選		
建築学科 5 年		全国高専デザコン 2006in 都城/環 境デザインコンペティション予選		
建築学科 5 年		全国高専デザコン 2006in 都城/環 境デザインコンペティション予選		
建築学 専攻 1 年		全国高専デザコン 2006in 都城/ブ ロポーザルコンペティション予選		
建築学 専攻 1 年		日本たばこ産業株式会社 /SMOKERS' STYLE COMPETITION 2006		
建築学 専攻 2 年				
建築学科 5 年				

資料6-1-②-8 (続き)				
ポコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (建築学科)				
建築学科 5年		株式会社コムデザイン/9坪ハウスコンペ 2006「電 9 と暮らす。 “セカンドハウス”」プロ部門		
建築学科 5年				
建築学科 5年		大和ハウス工業株式会社/第2回ダイワハウス住宅設計コンペ「21世紀住宅Ⅱ」	選外佳作	合コンハウス
建築学専攻 2年				
建築学専攻 2年		小山市/祇園城通りまちづくりアイデアコンペ:一般の部Ⅰ 論文の部		
建築学科 4年				
建築学専攻 2年		小山市/祇園城通りまちづくりアイデアコンペ:一般の部Ⅰ 街並みデザインの部		
建築学専攻 2年				
建築学専攻 2年				
建築学専攻 1年			小山市商工会議所会頭賞 (特別賞)	エレベータ・歩道橋で繋ぐ現在と過去
建築学科 5年			アイデアコンペ特別賞 (特別賞)	Omoigawa Street
建築学科 5年				
建築学科 5年				
建築学科 5年				
建築学科 5年				
建築学科 4年			アイデア賞 (佳作)	GIONJO-DORI NEW PLAN
建築学科 4年				
建築学科 4年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				

資料6-1-②-8 (続き)				
ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (建築学科)				
建築学科 3年		小山市/祇園城通りまちづくりアイデアコンペ: 一般の部 I 街並みデザインの部		
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年				
建築学科 3年		ライトらいとコンペティション 2006		

資料6-1-②-8 (続き)

ロボコン, プロコン, アイコンなどのコンペティションなどへの参加状況 (参加件数まとめ)

参加件数まとめ

	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	物質工学科	建築学科
18年度	5	2	1	—	9
17年度	7	3	—	—	8
16年度	11	2	—	—	8

(出典: 各学科のコンペティションなどへの参加状況資料のまとめ)

(分析結果とその根拠理由)

(1) 準学士課程

学科ごとに多少のバラツキはあるが、ほぼ 90%以上の割合で進級していることが示され、進級時に学生が身に付ける学力や資質・能力が評価され、教育の成果や効果が上がっているといえる。

学科ごとに多少のバラツキはあるが、それぞれの専門分野に適合した資格を3～5年生中心に取得し活発である。また、それぞれの学科の判定基準に従って卒業研究・卒業制作が評価されている。以上のことから、卒業時に学生が身に付ける学力や資質・能力が評価され、教育の成果や効果が上がっているといえる。

(2) 専攻科課程

専攻ごとに多少のバラツキはあるが、それぞれの専門分野に適合した資格を取得し活発である。それぞれの学科の判定基準に従って特別研究が評価され、その一部が学会発表を通じて社会に公表され活発である。以上のことから、修了時に専攻科学生が身に付ける学力や資質・能力が評価され、養成される人材を保證しており、教育の成果や効果が上がっているといえる。

観点 6-1-③： 教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について、就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

(1) 準学士課程

最近 5 年間の就職先は県内および県外の企業において広く様々な分野に分布している（資料 6-1-③-1）。

また、進学においても県内および県外の理工系を中心とする大学に広範囲に分布している（資料 6-1-③-2）。

(2) 専攻科課程

平成 17 年度と平成 18 年度の状況を示した。専攻科生の就職先も県内および県外の企業において様々な広い分野に分布している（資料 6-1-③-3）。

また、大学院進学においても県内および県外の理工系を中心とする大学に広範囲に分布している（資料 6-1-③-4）。

資料 6-1-③-2 専攻科進学及び大学編入学状況一覧(年度別)

専攻科進学及び大学編入学状況一覧(年度別)

(平成19年度入学)

2007/5/1

大学等名	13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
高専						
小山高専専攻科	19 (9)	20 (10)	18 (9)	24 (18)	23 (10)	29 (22)
和歌山高専専攻科	1					
東京高専専攻科						1
計	20 (9)	20 (10)	18 (9)	24 (18)	23 (10)	30 (22)
国立						
北海道大学				1		
弘前大学	1 (1)				1	1
岩手大学				1	1 (1)	
東北大学		1		1	2	
秋田大学		1 (1)				
山形大学			1 (1)			
茨城大学	2 (1)	1 (1)	2 (1)	1 (1)	5 (1)	1
筑波大学	2	2	3	2	5	3
図書館情報大学	3					
宇都宮大学	4 (3)	3 (1)	8 (3)	11 (3)	4 (1)	7 (3)
群馬大学	4 (1)	2 (1)	2 (1)	7 (2)	7 (1)	7 (1)
埼玉大学	1			1	1	
千葉大学	5	6 (1)	6	3	2 (1)	1
東京大学		1				
東京工業大学	1	1 (1)			2 (1)	3
東京農工大学	4 (3)	2 (1)	3 (1)	5 (2)	4 (2)	8 (5)
電気通信大学	2 (1)		2 (2)	3 (3)		2 (2)
東京海洋大学					1 (1)	
横浜国立大学			1		1 (1)	
山梨大学	1		1	1		
新潟大学	2 (1)					
長岡技術科学大学	10 (9)	17 (13)	12 (10)	11 (9)	10 (7)	11 (7)
金沢大学						
信州大学			1 (1)		1 (1)	
岐阜大学						
豊橋技術科学大学	8 (6)	10 (6)	5 (4)	7 (6)	5 (3)	6 (3)
三重大学						
名古屋大学				1 (1)		
京都工芸繊維大学			1			
大阪大学		1				
神戸大学	1					
岡山大学	2					
山口大学			1 (1)			
九州大学			1		1	1
熊本大学	1					
富崎大学			1			
鹿屋体育大学				1		
計	54 (26)	48 (26)	51 (25)	57 (27)	53 (21)	51 (21)
公立						
前橋工科大学		1		1	2	3
東京都立大学		1 (1)				
東京都立科学技術大学		1				
愛知県立大学				1		
京都府立大学	1					
計	1	3 (1)		2	2	3
私立						
仙台大学			1			
つくば国際大学	1					
東京造形大学		1				
東京電機大学				1 (1)		1 (1)
日本大学	1					
豊田工業大学	1 (1)					
人間環境大学			1			
工学院大学						
計	3 (1)	1	2	1 (1)	0 (0)	1
合計	78 (36)	72 (37)	71 (34)	84 (46)	78 (31)	85 (43)

() 内は推薦で内数

(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-3 専攻科修了生の就職先一覧

平成17年度、18年度専攻科修了生の就職先一覧

就職先	平成17年度				平成18年度			
	SS	SC	SA	計	SS	SC	SA	計
SPAN設計			1	1				
アークテック	1			1				
アルパイン技研					1			1
カゴメ						1		1
菊池歯車						1		1
キャノンファインテック					1			1
グローリー工業	1			1				
小松製作所	1			1				
コマツ小山					1			1
サンテクノロジー					1			1
小の花工務店							1	1
大建設計			2	2			1	1
高岳製作所	1			1				
チノー					1			1
中外製薬		1		1				
デザインネットワーク					1			1
栃木セキスイハイム							1	1
納谷建築設計事務所			1	1				
日建アクトデザイン							1	1
日本色材工業研究所		1		1				
野村建設工業			1	1				
パナホーム北関東							1	1
日立化成工業		1		1	1	1		2
ヒタチハウス			1	1				
船井電機					1			1
平安建設							1	1
堀場エステック					1			1
三井金属工業	1			1				
山田製作所	1			1				
合 計	6	3	6	15	9	3	6	18

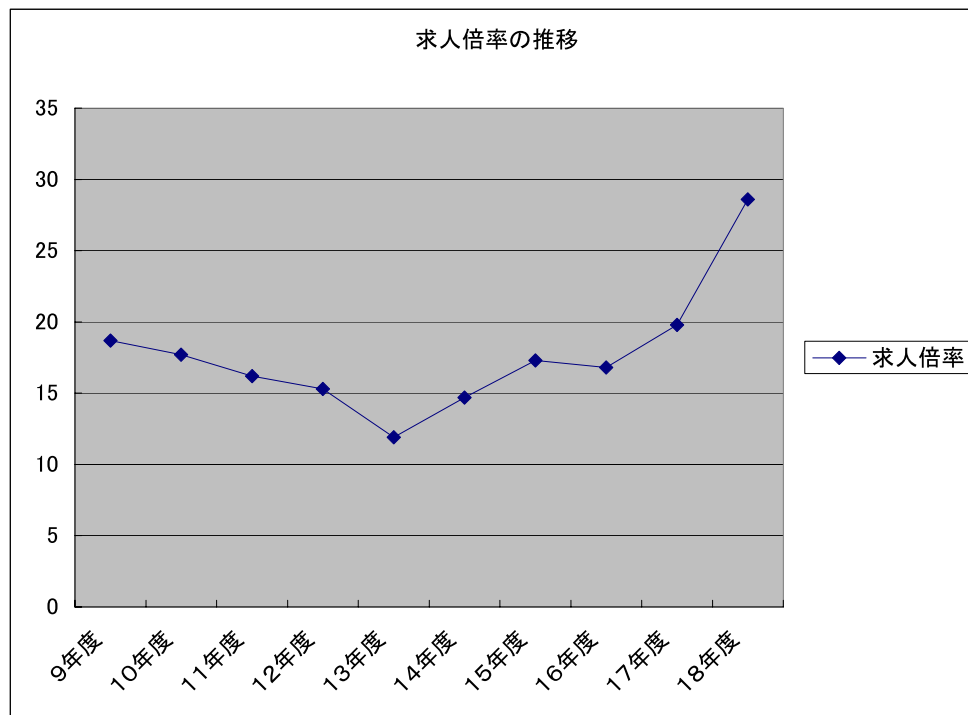
(出典：学生課学生係資料)

資料 6 - 1 - ③ - 4 大学院進学者状況一覧

大学院名		2007/5/1						
		13年度	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	
国立	茨城大学大学院	1 (1)	1					
	筑波大学大学院			1		1		1
	宇都宫大学大学院	1			1 (1)	4 (3)		1
	群馬大学大学院			1 (1)	1	1		
	埼玉大学大学院		1		1			
	東京工業大学大学院				1			
	長岡技術科学大学大学院	1 (1)	2 (2)	3 (3)	1 (1)			1
	豊橋技術科学大学大学院							1 (1)
	北陸先端大学大学院							
	九州工業大学大学院	1 (1)			1			
	計	4 (3)	4 (2)	5 (4)	6 (2)	6 (3)	4 (1)	
私立	早稲田大学大学院	0	0	1 (1)	0	0	0	0
	計	4 (3)	4 (2)	6 (5)	6 (2)	6 (3)	4 (1)	
	合計	4 (3)	4 (2)	6 (5)	6 (2)	6 (3)	4 (1)	()内は推薦で内数

(出典：2007 学校要覧 p. 43)

資料 6 - 1 - ③ - 5 求人倍率の推移



(出典：学生課学生係資料)

資料 6 - 1 - ③ - 6 卒業者の進路

進路状況

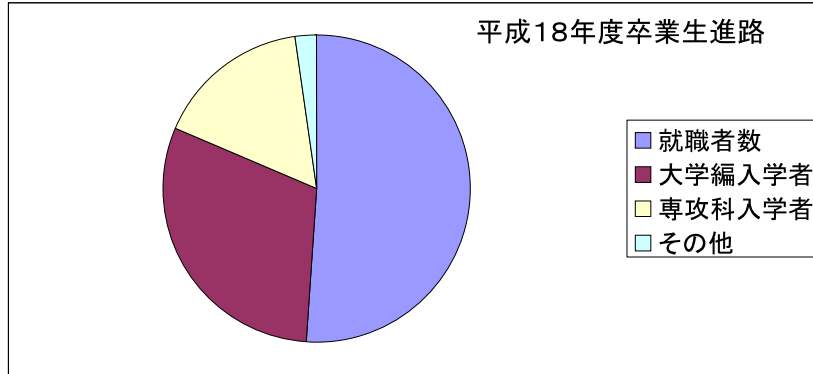
卒業者の進路

平成18年度卒業生

学科	卒業生数	就職者数	大学編入学者	専攻科入学者	その他
機械工学科	37	18	12	6	1
電気情報工学科	41	23	8	8	2
電子制御工学科	34	20	11	3	0
物質工学科	39	11	19	8	1
建築学科	31	21	5	5	0
計	182	93	55	30	4

(出典：学生課学生係資料)

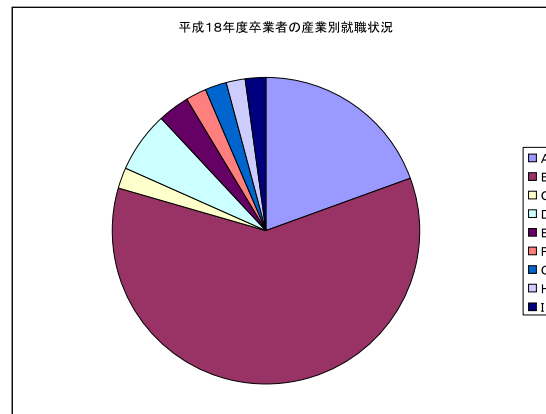
資料 6-1-③-7 平成 18 年度卒業生進路



(出典：学生課学生係資料)

資料 6-1-③-8

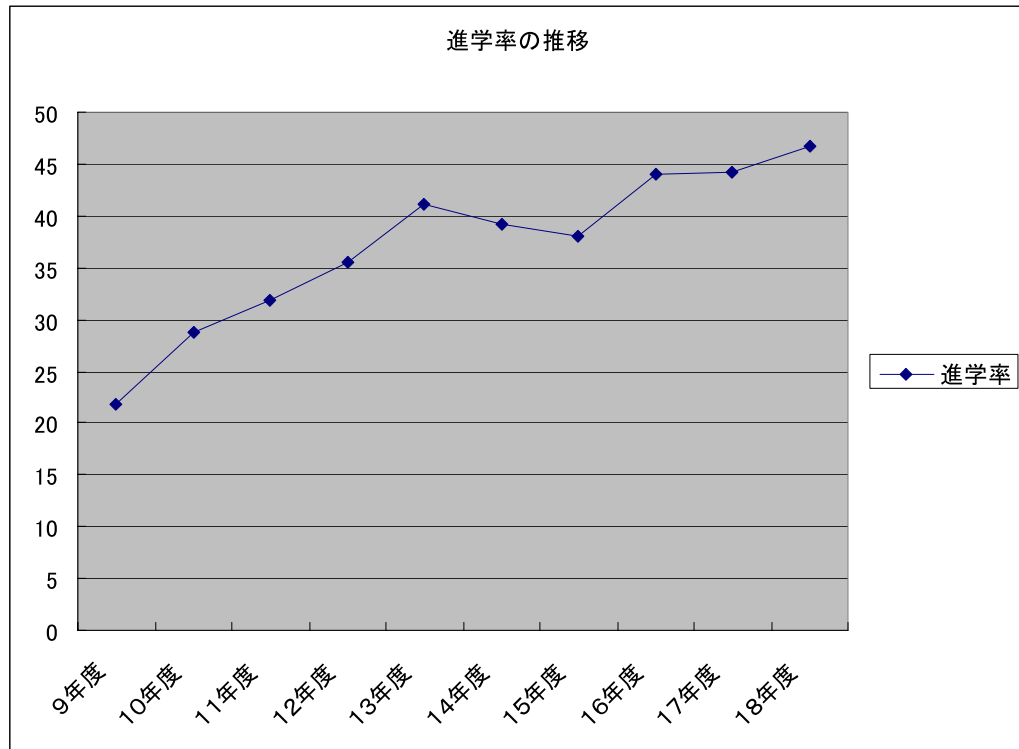
平成 18 年度卒業生の産業別就職状況



- A 建設業
- B 製造業
- C 電気、ガス、水道供給業
- D 情報通信
- E 運輸業
- F 不動産業
- G 教育関係
- H その他サービス業
- I 公務員

(出典：学生課学生係資料)

資料 6 - 1 - ③ - 9 進学率の推移



(出典：学生課学生係資料)

(分析結果とその根拠理由)

求人倍率は約 10~20 で推移してきており(資料 6-1-③-5) 最近は増加傾向にある。また、資料 6-1-③-6 及び資料 6-1-③-7 の中で、(就職者数+進学者数)/(卒業生数) \div 0.98 から、就職率は極めて高くほぼ全員が就職できており、本校の卒業生に対する期待および評価の高いことを示している。就職先企業の分野や業種は機械、電気、情報、制御、化学、建築、環境等の工業系企業(資料 6-1-③-8) でありそれぞれの専門性を生かした分野や業種である。以上のことから、教育の成果や効果は上がっており、養成しようとする人材が育ち、社会にほぼ適合しているといえる。

進学については、準学士課程の卒業生は本校専攻科および国・公・私立大学の 3 年次へ進学し(資料 6-1-③-2) また最近 10 年間の進学率も増加傾向を示している(資料 6-1-③-9)。また、専攻科課程修了生は国・公・私立大学大学院へ進学しており(資料 6-1-③-4)、本校のそれぞれの専門分野に関係した方向へ進学していることから、教育の成果や効果が上がっているといえる。

観点 6-1-④： 学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

(観点に係る状況)

平成 18 年度に準学士課程卒業生と専攻科課程修了生に対してアンケート(資料 6-1-④-1) を実施した。アンケート中の学習達成度についての集計結果を(資料 6-1-④-2) に示した。

資料 6-1-④-1 教育に関するアンケート (様式 1)

機関別認証評価専門委員会 資料 No. 1
平成 18 年度第 7 回 平成 18 年 10 月 25 日

H18 小山高専の教育に関するアンケート(様式 1: 在学生・卒業生・教職員対象)

このアンケートは本校の教育に関する調査と改善を目的として実施するものです。ご協力をお願いします。

■記入上の注意: (業者で記述)

■分類 1: [1]M科生 [2]E科生 [3]D科生 [4]C科生 [5]A科生 [6]SS科生 [7]SC科生 [8]SA科生 [9]教員 [10] 職員

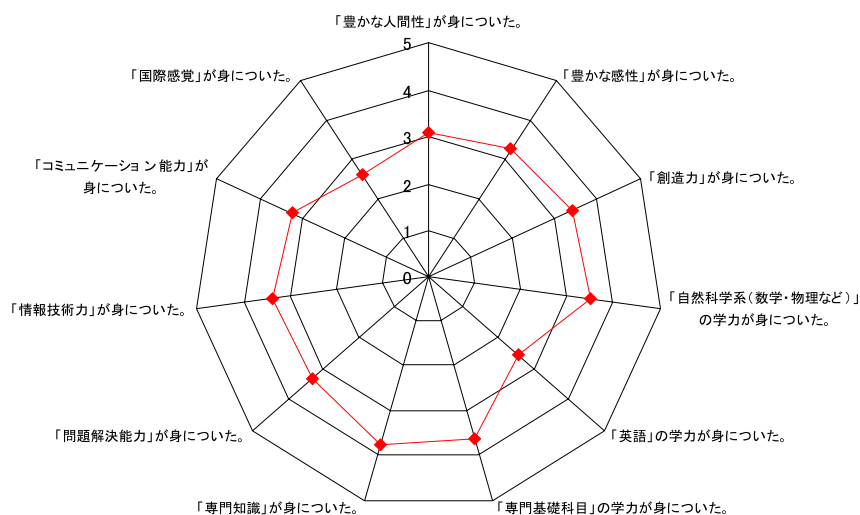
■分類 2: [1]1年 [2]2年 [3]3年 [4]4年 [5]5年
[6]専攻 1年 [7]専攻 2年 [8]卒業生

全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くない
-----------	----------	----	-----------	------

教育目標 (全員)	小山高専の教育目標を知っていますか。 1) 「技術者である前に人間であれ」をよく知っている。 2) 「健やかな心身」「豊かな人間性」「科学技術の研鑽と創造」をよく知っている。 3) 以下の目標をよく知っている。① 豊かな人間性の涵養、② 豊かな感性と創造力の育成、③ 自然科学・英語・専門基礎科目の学力向上、④ 高度な専門知識と問題解決能力の育成、⑤ 情報技術力の向上、⑥ コミュニケーション能力と国際感覚の育成。	[5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1]
入学者受入方針 (全員)	小山高専のと入学者受入方針(アドミッションポリシー)を知っていますか。 1) 学科(準学士課程)の入学者受入方針の次のキーワードをよく知っている。① 科学技術への興味と基礎的学力、② モノづくりや実験への積極性、③ 課外活動と協調性 2) 専攻科の入学者受入方針のキーワードをよく知っている。① 専門の基礎学力と自ら学ぶ意欲、② モノづくりへの関心と経験、③ 日本語の表現力と英語の基礎学力	[5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1]
(在学生・卒業生)	1) シラバスを良く活用した。	[5] [4] [3] [2] [1]
(在校学習達成度 卒業生)	小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いますか。 1) 「豊かな人間性」が身についた。 2) 「豊かな感性」が身についた。 3) 「創造力」が身についた。 4) 「自然科学系(数学・物理など)」の学力が身についた。 5) 「英語」の学力が身についた。 6) 「専門基礎科目」の学力が身についた。 7) 「専門知識」が身についた。 8) 「問題解決能力」が身についた。 9) 「情報技術力」が身についた。 10) 「コミュニケーション能力」が身についた。 11) 「国際感覚」が身についた。	[5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1]
施設満足度とニーズ (在校生)	小山高専の次の施設に満足していますか。 1) 「情報センター」に満足している。 2) 「図書センター」に満足している。 3) 「教室(HR)」に満足している。 4) 「実験・実習室」に満足している。 5) 「特別教室(視聴覚・メディアホール等)」に満足している。 6) 「体育施設」に満足している。 7) 「食堂」に満足している。 8) 施設についての要望があれば記述してください。 []	[5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1]
コンピュータについて (在校生)	コンピュータの利用状況などについて答え下さい。 1) 授業でコンピュータを使用するときに、1人1台で使用している。 2) 授業時間以外にコンピュータ演習室のコンピュータをよく使う。 3) 演習室のコンピュータの処理能力(性能)は十分である 4) 使用に満足出来るコンピュータを自分で所有している。 5) 演習室のコンピュータに入っているソフトウェアは十分である。 6) 5)で不十分と答えた人は、希望するソフトウェアを記述してください。 []	[5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1] [5] [4] [3] [2] [1]

(出典: 機関別認証評価専門委員会資料)

資料 6-1-④-2 教育に関するアンケート集計結果 (IV 学習到達度)



(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

11 項目中 9 項目において概ねポイント 3 以上を得ている。特に、「自然科学系(数学、物理など)」、「専門基礎科目」、「専門知識」のポイントが高く教育の成果や効果が上がっているといえる。一方で、「英語の学力」、「国際感覚」に関するポイントが低く、今後改善が必要である。

観点 6-1-⑤： 卒業(修了)生や進路先などの関係者から、卒業(修了)生が在学時に身に付けた学力や資質・能力等に関する意見を聴取するなどの取組を実施しているか。また、その結果から判断して、教育の成果や効果が上がっているか。

(観点到に係る状況)

平成 18 年度に就職先企業・進学先大学・インターンシップ受け入れ企業に対して、本校卒業生に関するアンケート(資料 6-1-⑤-1)を実施した。その集計結果を(資料 6-1-⑤-2)に示した。

資料 6 - 1 - ⑤ - 1 教育に関するアンケート (様式 2)

H18 小山高専の教育に関するアンケート(様式2:企業、大学・大学院対象)

このアンケートは、本校の学生の資質・能力を調査する目的として実施するものです。ご協力をお願い致します。

■ご記入上の注意(業者で記述)

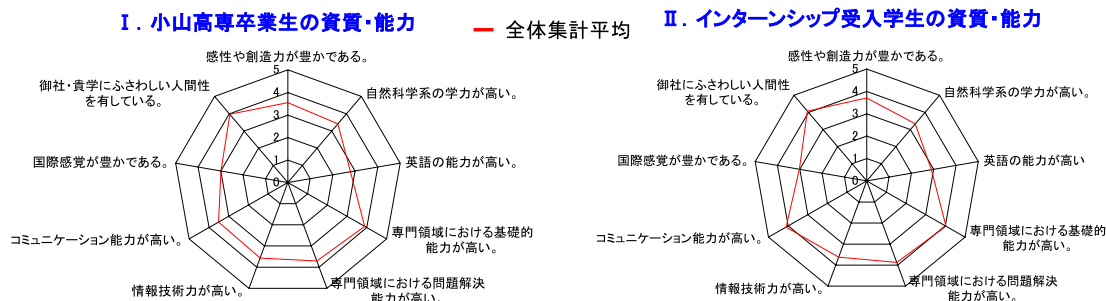
- 調査対象となる機関: [1]企業 [2]大学・大学院 [3]その他()
 ■対象となる卒業生(在校生): [1]準学士課程(学科)卒業生(在校生) [2]専攻科課程修了生(在校生)

全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	全くそうではない
-----------	----------	----	-----------	----------

(就職先企業、卒業生、進学生、先大学の資質・能力院)	入社あるいは入学している小山高専の卒業生(修了生)の資質・能力についてご質問致します。	
	1) 感性や創造力が豊かである。	[5] [4] [3] [2] [1]
	2) 自然科学系の学力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	3) 英語の能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	4) 専門領域における基礎的能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	5) 専門領域における問題解決能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	6) 情報技術力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	7) コミュニケーション能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	8) 国際感覚が豊かである。	[5] [4] [3] [2] [1]
	9) 御社・貴学にふさわしい人間性を有している。	[5] [4] [3] [2] [1]
	10) 御社・貴学が期待する学生の資質・能力についてご記入下さい。 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>	
(インターンシップ受入学生の資質・能力企業)	インターンシップを受け入れる際に期待する学生の資質・能力についてご質問致します。 (今後、受け入れる予定のある場合も含まれます。)	
	1) 感性や創造力が豊かである。	[5] [4] [3] [2] [1]
	2) 自然科学系の学力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	3) 英語の能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	4) 専門領域における基礎的能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	5) 専門領域における問題解決能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	6) 情報技術力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	7) コミュニケーション能力が高い。	[5] [4] [3] [2] [1]
	8) 国際感覚が豊かである。	[5] [4] [3] [2] [1]
	9) 御社にふさわしい人間性を有している。	[5] [4] [3] [2] [1]
	10) インターンシップの際に期待する学生の資質・能力についてご記入下さい。 <div style="border: 1px solid black; height: 20px; width: 100%; margin-top: 5px;"></div>	

(出典: 機関別認証評価専門委員会資料)

資料 6 - 1 - ⑤ - 2 教育に関するアンケート集計結果 (I、II)



(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

資質・能力については 9 項目中 7 項目において概ねポイント 3 以上の評価を得ている。特に、「専門領域における基礎的能力」, 「専門領域における問題解決能力」に加えて, 「情報処理能力・情報処理技術力」, 「コミュニケーション能力」の評価も高く, 本校の学生を受け入れている企業や大学およびインターンシップを受け入れている企業からの評価を勘案すると, 本校の教育の成果や効果が上がっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

学科によりバラツキはあるが資格の取得状況, 学会発表やコンペティションへの参加状況が活発である。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 6 の自己評価の概要

本校の教育目標を達成するために、授業科目の流れ図に従って準学士課程から専攻科課程へ至るカリキュラムが編成されており、各科目にはシラバスが明示されている。また、評価資料は適切に保管されている。学生はカリキュラム中の開講科目から卒業（修了）要件を満たすべく、学年ごとに単位を履修する。その達成状況は学年末に開催される判定会議の中で、一定の基準に従って判定される。こうして卒業（修了）時に身に付けるべき学力や資質・能力を評価し、養成する人材像を保証している。

準学士課程および専攻科課程のそれぞれの集大成として卒業研究と特別研究があり、いずれも指導教員による直接的指導を通じて教育目標が実行され、口頭発表会と論文提出によりその達成度を把握し、評価している。このような評価方法に従って判定された結果、両課程の学生の卒業率および修了率は極めて高く、教育の効果や成果が上がっている。

また、準学士課程には特別演習科目が用意されており、在学中に取得した各種資格に対して履修単位として認められている。これらの資格は教育目標の達成度を評価するに相応しく整合性のあるものとして厳選されており、資格取得の件数も増加傾向にあり、教育の効果や成果が上がっている。

就職における求人倍率は高く、企業からは高い評価を得ており、就職先も本校の各専門学科の専門性と深く関連した工業系企業がほとんどである。また、進学においても同様にそれぞれの専門性に整合した国・公・私立大学等の理工学系の学部および大学院に進んでいる。以上のことから教育の効果や成果が上がっている。

在校生・卒業生・教職員が行う学習達成度評価結果からは、いずれの項目においても概ね普通以上の評価を得ている。「英語の学力」と「国際感覚」についてはやや劣ると評価されている点に関しては改善を要する点として理解している。一方、「専門知識」に関する評価が高い点については、教育の効果や成果が上がっている。

企業・大学・大学院が行う資質・能力評価結果からは、いずれの項目においても概ね普通以上の評価を得ているが、「英語の学力」と「国際感覚」についてはやや低く評価されている点に関しては今後改善の必要がある。一方で、「専門知識」「コミュニケーション能力」に関する評価は高く、教育目標に対する学力や資質・能力はある程度高い評価を得ていると理解でき、養成しようとしている人材像に対して教育の効果や成果が上がっている。

基準7 学生支援等

(1) 観点ごとの分析

観点7-1-①： 学習を進める上でのガイダンスが整備され、適切に実施されているか。また、学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

1 学年に対し入学後新入生ガイダンスを行っている(資料7-1-①-1)。また、その一環として日帰り研修を実施している(資料7-1-①-2)。研修終了後にアンケートを実施しているが、おおむね好評である(資料7-1-①-3)。

各教員は必要に応じて、担当授業科目においてガイダンスを行っている(資料7-1-①-4)。また、全専門学科で卒業研究についてのガイダンスを行い、一部の学科ではコース分けガイダンスも行われている。

専攻科でも入学者ガイダンス(資料7-1-①-5)及び学位授与申請説明会(資料7-1-①-6)を実施している。学習の相談・助言体制として、全教員がオフィスアワーを設け、学生相談に応じている(資料7-1-①-7)。オフィスアワーの相談状況を資料7-1-①-8に示す。

資料7-1-①-1：新入生ガイダンス日程表

平成18年度新入生学内ガイダンス日程表

※4月6日～4月11日までの1年担任の授業時間については臨時時間割を参照

月日 時間	4月6日(木)	4月7日(金)	4月10日(月)	4月11日(火)
8:30				
8:40	H・R「学級担任」 学生便覧持参 【各H・R教室】	H・R「学級担任」 【各H・R教室】	健康診断	日帰り研修
8:50	移動	専門学科ガイダンス「各学科長」 ・学科専攻説明 ・専門学科施設見学 【各H・R教室及び各専門学科施設】		
9:00	校長の話 【視聴覚室】			
9:35	学業について「校長補佐(教務担当)」 【視聴覚室】			
10:25	休憩	休憩		
10:35	学生生活について「校長補佐(学生担当)」 学生便覧・技術者入門持参 【視聴覚室】	専門学科ガイダンス「各学科」 ・学科学生代表の話 ・各教職員の話 自己紹介 担当科目 研究分野 担当クラブ等 【各H・R教室】		
11:25	休憩			
11:30	専攻科について「専攻科長」 【視聴覚室】			
11:45	図書情報センターについて「図書情報センター長」 【視聴覚室】			
12:00	学生支援室について「学生支援室長」 【視聴覚室】			
12:15	昼食	昼食		
13:05	一般科授業担当教員の話 【視聴覚室】	合同HR 【視聴覚室】		
13:55	休憩	・1年生日帰り研修について ・学生会の話		
14:00	学内施設見学「各H・R担任」 ※計画は学年主任(各クラス別に順番にコースを設定する) 【事務部(学生課)・保健室・図書情報センター・学生支援室・体育施設・会館前・寮・駐輪場・電機棟上1大講堂 築電設備・ものづくり教育研究センター・情報科学教育研究センター・地域共同開発センター・食堂売店・学生会室 ・ロボット保管庫等】	H・R「学級担任」 【各H・R教室】		
	見学終了後 H・R「学級担任」 【各H・R教室】			

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-①-2：日帰り研修実施要項

平成18年度1年生日帰り研修実施要項

1. 意義と目的： 1年生ガイダンス行事の一環として、2日間の校内ガイダンスの後に実施する。
埼玉県羽生中の藍染ふる里資料館や群馬県太田市の富士重工業㈱矢島工場を見学し、伝統文化と先端技術の一端にふれ、見識を持った技術者としての自らの進路について考える機会とする。
また、1日の研修を通して学生相互の親睦を深め、相互理解を進める場として活用する。
2. 日 時： 平成18年4月11日（火）
3. 行 き 先： 藍染ふる里資料館（埼玉県羽生市）
富士重工業㈱矢島工場（群馬県太田市）
4. 参 加 者： 1年生全員
5. 引 率 者： 1年生学級担任5名
校長補佐（学生担当）
学生担当補佐（小林・鹿野・石崎（担任と兼務））
学生係長・学生係主任
旅行社添乗員 計11名
6. 交通手段： 借り上げバス5台
7. 行 程：

8時30分	高専発（8時25分高専玄関前集合）
10時00分	藍染ふる里資料館（埼玉県羽生市）着
10時00分～	
12時00分	藍染ふる里資料館にて藍染実習・昼食
12時00分	藍染ふる里資料館発
12時50分	富士重工業㈱矢島工場（群馬県太田市）着
12時50分～	
15時30分	富士重工業㈱矢島工場見学
15時30分	富士重工業㈱矢島工場発
17時00分	高専着・解散
8. そ の 他： 参加学生には「1年生日帰り研修のしおり」を配布
引率者打合せ 3月23日（木）13時10～

（出典：学生課学生係資料）

資料7-1-①-3：平成18年度日帰り研修アンケート結果

平成18年4月

1年生日帰り研修アンケート結果

質問項目

1. 日帰り研修を行って交友関係が親密になったり、広がったりしましたか。
 - 1) 大変親密になることができ、また会話をする人が大変増えた。
 - 2) 親密さが深まるとともに、会話をする人が少し増えた。
 - 3) あまり効果的とは思えなかった。
 - 4) 必要性を感じなかった。

- 2-1. 日帰り研修で話ができただ人数は全部で何人ですか。
 - 1) 6人以上
 - 2) 3～5人
 - 3) 1～2人
 - 4) 0人

- 2-2. 自分のクラス以外で話ができただ人数は。
 - 1) 6人以上
 - 2) 3～5人
 - 3) 1～2人
 - 4) 0人

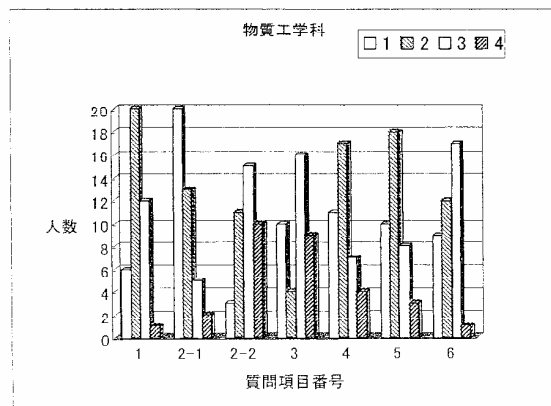
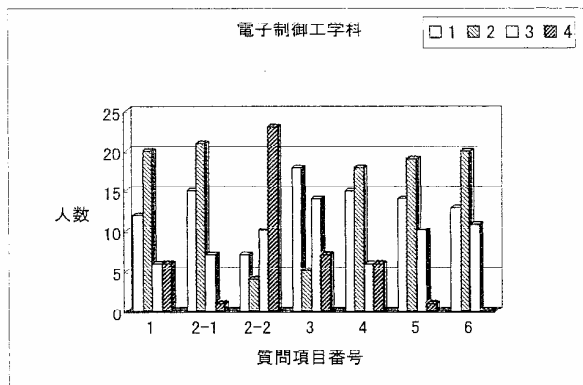
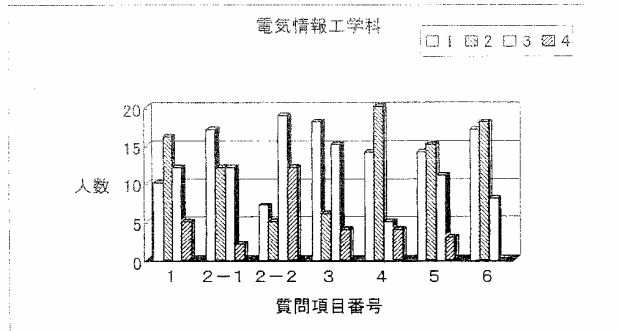
3. 藍染の実習と車の工場見学をしてどのように感じましたか。
 - 1) 両方とも良かった。
 - 2) 藍染の実習が良かった。
 - 3) 工場見学が良かった。
 - 4) 両方ともあまり興味や関心を持たなかった。

4. 研修中の疲れ具合はどのようでしたか。
 - 1) 疲れはほとんど感じなかった。
 - 2) バス移動で疲れを感じた。
 - 3) 藍染め実習で疲れを感じた。
 - 4) 工場見学で疲れを感じた。

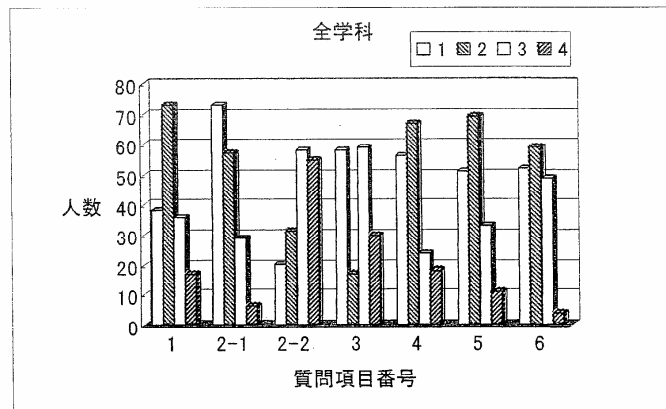
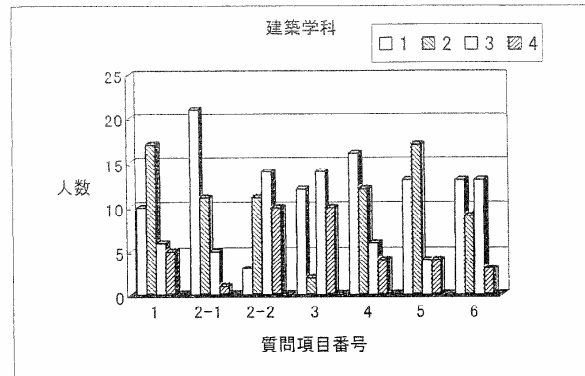
5. バスの中ではどうでしたか。
 - 1) 大変楽しかった。
 - 2) 楽しかった。
 - 3) 退屈した。
 - 4) あまり楽しくなかった。

6. 研修の目的に対して実施時期は適当でしたか。
 - 1) 時期はちょうど良かった。
 - 2) 今の段階では判断できない。
 - 3) もう少し遅い方が良かった。
 - 4) もう少し早い方が良かった。

資料7-1-①-3 (続き)

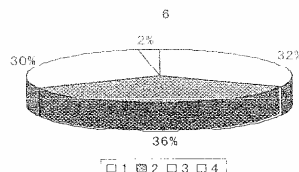
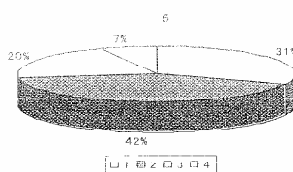
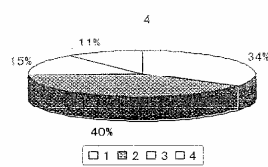
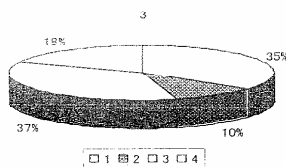
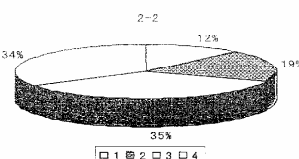
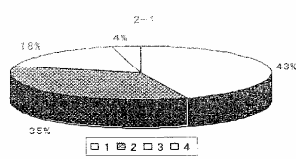
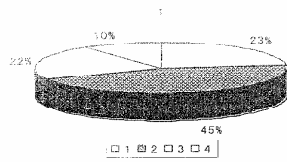


資料7-1-①-3 (続き)



資料7-1-①-3 (続き)

各履修項目に対する全学科の割合 (%)



(出典：学生課学生係資料)

資料 7-1-①-4 : 各種ガイダンス (電気情報工学科の例)

『各種カイダンス (電気情報工学科の例)』

＜コース分けガイダンス (3年終了時)＞

本科では広範囲な電気情報工学分野を次の3つに分類し、学生の個性に合った得意な分野を学べるような「3コース制」の教育を導入している。各コースの特色は以下の通りである。

(実施状況)

1. 電磁環境工学コース 電磁伝送工学および電磁エネルギー工学とその環境工学に関する教科
2. 情報計測工学コース 情報技術と計測技術のソフトウェア・ハードウェアに関する教科
3. 電気物性工学コース 新機能性電気材料とその材料物性工学に関する教科

コース制は第4学年から行われるため、例年2月上旬に3年生を対象として、コース分けガイダンスを実施している。ガイダンスでは、コースの特色、選択授業科目等について10分程度で教員から説明をし、学生と質疑を行う。コース定員は、各コースの所属する教員数の比率にしたがって設定される。ガイダンス後、クラス担任は、コース希望のアンケート調査を行い、その結果を学生に開示する。各年度によってコース希望の状況は異なり、希望が均等に分かれることもあれば、1つのコースに集中することもある。コース定員がオーバーしている場合、そのコースを希望している学生に再検討してもらい、あるいは学生とクラス担任の間での話し合いにより各コースの人数調整を行っている。

(問題点と改善策)

5年次の研究室配属において、所属コースと関係なく自由に研究室を選択できることから、約2～3割の学生が研究室の配属時にコース変更している。その場合、卒業研究に必要とされる専門科目を受講していないケースも生じている。各コースの専門性を継続するためにも4年次に所属しているコースに関連する研究室を選択することが望ましい。今後のコース分けガイダンスについては、5年次の各コースの研究内容も含めたコース分けガイダンスを行う必要があるだろう

＜卒業研究ガイダンス (4年次終了)＞

(実施状況)

本科4年生を対象に例年2月上旬に研究室配属ガイダンスを実施している。ガイダンスの内容については、各教員から研究テーマの概要について10分程度の説明が行われる。また、クラス担任からは、各コースの授業内容の継続性を考慮し、なるべく4年次に学生自身が所属しているコースに含まれる研究室を選択するように指導を行っている。研究室の定員は、学生定員：40人に対し、教員数：13人であることから一つの研究室につき3から4人である。ガイダンス終了後、研究室配属のためのアンケート調査を行う。学生は第1から第3希望まで研究室名を用紙に記入し提出する。クラス担任はアンケート結果をまとめ学生に開示する。希望者が多い研究室については、学生間の話し合い、あるいは指導教員の意見を参考にし、クラス担任が研究室の配属人数を調整する。平成17年度では9割以上の学生が、平成18年度においては8割程度の学生が第1希望の研究室に配属されている。

(問題点と改善策)

例年、希望者が集中してしまう研究室がある。学生の研究意欲を優先するためにも、第1希望の研究室への配属が望ましいと考えられるが、指導教員への負担も大きいと思われる。一方、希望通りの研究室に配属されたとしても、研究に対する意欲が、今ひとつ感じられない学生も見受けられる。これは、各研究室の専門分野によって研究の進め方や内容が異なることから、その点について良く理解せずに研究室を選択してしまった可能性がある。ガイダンスにおける教員からの研究概要説明だけでなく、各研究室に訪問して所属学生のアドバイスを受けることや、実験の様子を見学させてもらうなど、研究内容をしっかり把握した上で、研究室を選択してもらうよう指導を行う必要がある。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料7-1-①-5：専攻科入学者ガイダンス案内

平成18年度 専攻科入学者ガイダンス案内

日時 平成18年 3月 7日(火)

合同ガイダンス 10:30~11:00

場所 専攻科棟4階 多目的ホール

時間	事項
10:30~11:00	1. 専攻科長挨拶 2. 合同ガイダンス (1) JABEEについて (2) 学業について (3) 学生生活について (4) 年間行事予定について (5) 修了要件について (6) 学位(学士)の取得について ※ ガイダンスの内容については、変更になる場合があります。 ・日程説明

専攻別ガイダンス 11:10~11:50

場所 電子システム工学専攻・・・専攻科棟4階講義室I

物質工学専攻・・・物質工学会議室

建築学専攻・・・専攻科棟4階講義室II

時間	事項
11:10~11:50	履修方法並びに手続きについて ・履修計画 ・受講届 ・専攻実験 ・セミナー ・実務研修 ・特別研究 ※ ガイダンスの内容については、変更になる場合があります。

入学手続き 12:40~

場所 専攻科棟4階 多目的ホール

時間	事項
12:40~13:10	入学手続き 入学許可書交付 提出書類回収 入学式について (後援会入会・後援会総会案内)

入寮希望がない場合、今日のガイダンスはこれで修了となります。

入寮説明会(入寮希望者のみ) 13:30~

場所 専攻科棟4階 多目的メディアホール

時間	事項
13:30~	学寮説明
13:55~	郵便局口座開設
14:15	終了予定

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-①-6：学位授与申請説明会案内

専攻科2年生 各位

平成18年度学位授与申請手続き 説明会の開催について

このことについて、下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成18年7月12日（水）15：30～
2. 場 所 多目的ホール（専攻科棟4F）
3. 内 容 申請書類等の配布，申請書類作成上のポイント等
4. 対 象 専攻科2年生各位

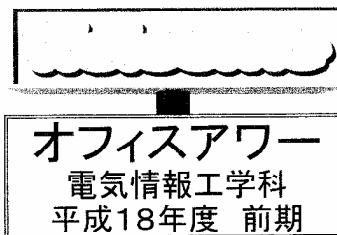
学位授与機構への学位申請は個人で申請します。手続き不備等で申請できなかつたなど無いよう説明会には必ず出席して下さい。

なお、どうしても出席できない学生は事前に学生課まで来ること。

平成18年7月5日
学 生 課 掲 示

（出典：学生課教務係資料）

資料 7-1-①-7 : オフィスアワー (電気情報工学科の例)



専攻科棟 5 F

教員名	森
曜日	火
時間帯	16:00-17:00

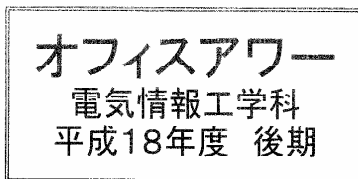
メールで質問・相談もできます
(各教員のメールアドレスは本校電気情報工学科のホームページ参照)

電物棟 2 F

教員名	千田	石原	今成	土田	大嶋	小林(幸)	鈴木	
曜日	月	月	木	月	金	木	木	西
時間帯	16:00-18:00	15:00-17:30	16:00-18:00	15:00-17:30	17:00-18:00	16:00-17:30	16:00-18:00	

電物棟 1 F

教員名	甲斐	北野	中山	田中		
曜日	木	火	木	月		西
時間帯	17:00-18:00	15:30-17:30	15:00-17:00	17:00-18:30		



メールで質問・相談もできます
(各教員のメールアドレスは本校電気情報工学科のホームページ参照)

専攻科棟 5 F

教員名	森
曜日	木
時間帯	16:00-18:00

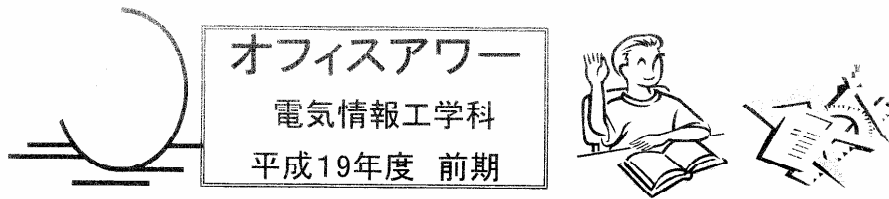
電物棟 2 F

教員名	千田	石原	今成	土田	大嶋	小林(幸)	鈴木	
曜日	月	火	木	月	木	木	月	西
時間帯	16:00-18:00	15:00-18:00	16:50-18:00	15:00-17:30	16:00-18:00	16:30-18:00	15:00-17:00	

電物棟 1 F

教員名	甲斐	北野	中山	田中	山田	
曜日	火	木	月	月	木	西
時間帯	15:00-17:00	16:00-17:15	16:00-18:00	16:00-18:00	16:00-18:00	

資料7-1-①-7 (続き)



メールで質問・相談もできます
(各教員のメールアドレスは本校電気情報工学科のホームページ参照)

専攻科棟5F

教員名	森
曜日	火
時間帯	16:30-18:30

電物棟2F

教員名	千田	石原	今成	土田	大嶋	小林(幸)	鈴木
曜日	月	月	木	月	金	木	木
時間帯	16:40-18:00	16:40-18:00	16:40-18:00	15:00-17:30	16:40-18:00	16:40-18:00	16:40-18:00

電物棟1F

教員名	甲斐	北野	中山	田中	山田
曜日	火	木	月	月	木
時間帯	15:00-18:00	16:40-18:00	15:00-18:00	16:40-18:00	15:00-17:30

(出典：電気情報工学科資料)

資料7-1-①-8 : オフィスアワー相談受付状況

オフィスアワー相談状況 (平成18年12月~19年2月)

相談内容	平成18年12月					平成19年1月					平成19年2月										
	準学士課程					専攻科課程		準学士課程					専攻科課程		準学士課程					専攻科課程	
	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年	1年	2年	3年	4年	5年	1年	2年
学習関係	47	40	55	133	88	29	17	34	41	42	130	73	36	25	41	48	61	167	140	41	37
進路関係	14	2	13	24	53	13	4	10	1	11	25	68	18	6	6	2	14	59	95	18	6
部活動関係	13	17	28	7	15	0	0	13	22	19	9	17	1	0	14	18	21	8	19	0	0
その他	5	8	11	8	15	20	21	0	8	3	2	19	21	21	0	6	2	1	25	28	2
合計	79	67	107	172	171	62	42	57	72	75	166	177	76	52	61	74	98	235	279	87	45

注) 相談件数は延べ件数である。

(出典：学生課学生課係資料)

(分析結果とその根拠理由)

入学時に、新入生ガイダンス、日帰り研修を実施しており、専攻科でも新入生のための説明会等を開催し、全学生に参加を義務づけている。全専門学科で卒業研究に関するガイダンスが行われており、各授業科目ならびにコース分けガイダンスも必要に応じ行われている。また、個々の教員がオフィスアワーを実施しており、学習に関するガイダンス及び相談・助言体制は整備され、十分機能している。

観点7-1-②： 自主的学習環境（例えば、自主学習スペース、図書館等が考えられる。）及び厚生施設、コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され、効果的に利用されているか。

(観点到に係る状況)

図書情報センター及び情報科学教育研究センターの施設・設備の概要を示す(資料7-1-②-1, 2)。また、両センターの利用状況を示す(資料7-1-②-3, 4)。図書情報センターは平日20時、土曜日17時まで開館し、学生の学習の便に供している。また、卒業研究・特別研究に携わる学生に対しては特に1ヶ月の館外貸出しを認めている(資料7-1-②-5)。情報科学教育研究センターの利用時間は17時15分までであるが、指導教員のもとであればそれ以降の利用も可能としている。また、同センター内の演習室は所定時間内であれば、授業で使用していない限り自由に利用できる(資料7-1-②-6)。両センターに係る満足度のアンケート結果を資料7-1-②-7に示す。満足度に対し否定的に回答しているのは図書情報センターにあっては約14%、情報科学教育研究センターにあっては約23%に止まっている。

ものづくり教育研究センターにおいては、卒業研究に使用する実験器具の製作などに平日の時間外、休日にも積極的に利用されている(資料7-1-②-8)。また、学生が安全に作業を行えるよう、利用者講習会などを開催している(資料7-1-②-9)。

学生のコミュニケーションスペースとしては、HR教室のほか図書情報センター内のブラウジングロビー及び学生課横の就職・進学コーナーを兼ねた学生ホールがあり、専攻科棟にも適宜学生がくつろげるスペースを配置している。また、厚生施設としては食堂(150席)及び売店がある(資料7-1-②-10)。

資料7-1-②-1：図書情報センターの施設設備の概要

①図書情報センター専有面積：962㎡（通路・階段含む）

2階	第一閲覧室・・・・・・・・・・	408㎡	
	第二閲覧室・・・・・・・・・・	65㎡	
	マルチメディア室・・・・・・・・	76㎡	
	グループ学習室・・・・・・・・	27㎡	2階計576㎡
1階	第一書庫・・・・・・・・・・	27㎡	
	第二書庫・・・・・・・・・・	21㎡	
	教材資料作成室・・・・・・・・	28㎡	
	国際交流室・・・・・・・・・・	29㎡	
	事務室・・・・・・・・・・	58㎡	
	ブラウジングロビー・・・・・・・・	114㎡	1階 計277㎡

②座席数：130席（グループ学習室：14席 マルチメディアルーム：20席
ブラウジングロビー：16席 を含む）

③図書館 LAN システム

ハード構成

サーバ：2台， クライアント：3台， OPAC用端末：2台

ソフト構成

「情報館95」OS:WindowsNT, CATP（国立情報学研究所接続用）

④マルチメディアルーム設置機器

パソコン：12台， DVD/LD/CD再生機：4台， VHSビデオ再生機：4台
プリンタ：1台

⑤開館時間

平日 9：00～20：00

土曜日・長期休業期間中の平日 9：00～17：00

閉館日 日曜日・国民の祝日（振替休日）、年末・年始、長期休業期間中の
土曜日、
特別整理期間

⑥年間開館日数

平成16年度	平成17年度	平成18年度(予定を含む)
260日	265日	262日

資料 7 - 1 - ② - 1 (続き)

⑦蔵書構成

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	
		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	計
学 生 用	和書	2,267	1,643	3,910	3,991	12,227	19,804	635	2,540	2,881	5,773	55,671
	洋書	165	12	22	43	753	677	5	18	703	255	2,653
	小計	2,432	1,655	3,932	4,034	12,980	20,481	640	2,558	3,584	6,028	58,324
教 員 用	和書	448	790	1,487	1,316	2,556	4,455	235	745	1,232	1,519	14,783
	洋書	19	4	19	17	392	627	1	19	556	99	1,753
	小計	467	794	1,506	1,333	2,948	5,082	236	764	1,788	1,618	16,536
合 計	和書	2,715	2,433	5,397	5,307	14,783	24,259	870	3,285	4,113	7,292	70,454
	洋書	184	16	41	60	1,145	1,304	6	37	1,259	354	4,406
	小計	2,899	2,449	5,438	5,367	15,928	25,563	876	3,322	5,372	7,646	74,860

平成 18 年 12 月 31 日現在

配架雑誌等

受入雑誌 335 誌, 所蔵雑誌 98 誌, 購読新聞 9 紙 (うち外国語 2 紙)

⑧マルチメディア資料 (平成 18 年 12 月現在)

VTR	DVD	LD	CD	CD-ROM
361	345	15	54	53

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料7-1-②-2：情報科学教育研究センターの施設・設備の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主要設備等
第1演習室	116	43	2.7	情報科学センター	教育用電子計算機システム (*)、スクリーン、LANコンセント、空調設備
第2演習室(電子 計算機実習室)	121	44	2.8	電子棟4F	教育用電子計算機システム、スク リーン、LANコンセント、空調設備
第3演習室(多目 的マルチメディア 教育室)	79	21	3.8	電物棟2F 【再掲】	教育用電子計算機システム、電 動スクリーン、プロジェクタ、 LANコンセント、空調設備
マルチメディア 実習室	53	13	4.1	情報科学センター	パソコン、LANコンセント、空調設備
ネットワーク 実習室	53	20	2.7	情報科学センター	UNIX実験システム、ネットワーク実験シ ステム、LANコンセント、空調設備

(*) 教育用電子計算機システムの構成

- | | |
|--------------------------|------|
| (1) システム用管理サーバ | 1台 |
| (2) システム用I/Oサーバ(Windows) | 5台 |
| (3) システム用NFSサーバ(Linux) | 2台 |
| (4) ファイルサーバ | 1台 |
| (5) 認証サーバ | 1台 |
| (6) システム専用端末 | 120台 |

内 訳

第一演習室	49台
第二演習室	49台
第三演習室	21台
予備機	1台

(出典：総務課施設係資料)

資料7-1-②-3：図書情報センターの利用状況

学年別貸出数

	平成16年度			平成17年度			平成18年度		
	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計
1年	393	72	465	371	12	383	338	4	342
2年	365	55	420	498	12	510	238	16	254
3年	1,452	33	1,485	1,042	140	1,182	981	146	1,127
4年	2,253	115	2,368	2,297	106	2,403	1,366	71	1,437
5年	1,647	90	1,737	1,307	97	1,404	1,198	85	1,283
専攻1年	259	18	277	398	21	419	186	8	194
専攻2年	166	1	167	154	8	162	320	7	327
教職員	572	82	654	571	91	662	645	59	704
一般	363	88	451	248	54	302	209	49	258
名誉教授・他	60	0	60	91	4	95	29	0	29
計	7,530	554	8,084	6,977	545	7,522	5,510	445	5,955

分類別貸出数

分類	平成16年度			平成17年度			平成18年度 (12月末現在)		
	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計
0	311	56	367	321	36	357	205	31	236
1	80		80	90		90	68		68
2	212	6	218	150	7	157	152	8	160
3	187	12	199	165	14	179	87	10	97
4	1,348	119	1,467	1,317	92	1,409	1,070	64	1,134
5	3,437	325	3,762	3,070	367	3,437	2,092	301	2,393
6	26		26	27		27	15		15
7	135	28	163	147	27	174	90	24	114
8	249	8	257	221	2	223	238	7	245
9	826		826	929		929	929		929
他	1,323		1,323	540		540	564		564
計	7,530	554	8,084	6,977	545	7,522	5,510	445	5,955

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料7-1-②-4：情報科学教育研究センターの時間外利用状況

情報科学教育研究センター時間外利用統計表

【学年別利用状況】

単位：人

	1年	2年	3年	4年	5年	不明	計
2006年8月		3		1	3	4	11
9月	1	15		1			17
10月	3	10	11	2	1	1	28
11月	1						1
12月	5	3		3		1	12
2007年1月			2	2		1	5
2月				1	2		3
3月				4		1	5
4月	13	1	1	1	4		20
5月	30	3	1	2			36
合計	53	35	15	17	10	8	138

【曜日別利用状況】

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	計
2006年8月		2	3	4	2	11
9月	10	3		2	2	17
10月	1	15	7		5	28
11月				1		1
12月	7			2	3	12
2007年1月	3		1	1		5
2月	1		1	1		3
3月	2			1	2	5
4月	2	4	5	1	8	20
5月	7	3	16	5	5	36
合計	33	27	33	18	27	138

【利用時間状況】

	0分～ 30分	30分～ 1時間	1時間～ 1時間30分	1時間30分 ～2時間	2時間～ 2時間30分	3時間 以上	計
2006年8月	6	1	2	1		1	11
9月	7	1		3	4	2	17
10月	11	4	10	1	2		28
11月		1					1
12月	5	4		3			12
2007年1月	3			1		1	5
2月	2					1	3
3月	5						5
4月	11	7		2			20
5月	21	1	7	7			36
合計	71	19	19	18	6	5	138

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料7-1-②-5：図書情報センター利用案内

本出入口2カ所には、ブック・ディスプレイ「システム」が設置されています。意外な高の系統が揃っている資料を持ち出すと、「システム」が鳴りますので注意してください。
 びー、アームが動いたときは、落ち着いて原形の指示に従ってください。

一般開放について

中学生以上の方ならどなたでも利用できます。貸出を希望される方は、「利用者カード交付申込書」に必要事項を記入の上、身分を証明するものを添えて申し込んでください。登録後「利用者カード」を発行します。

※貸出冊数・貸出期間

図書	3冊	2週間
雑誌	2冊	2週間

辞典・辞書等禁帯出ラベルの貼ってある資料、JADEEコーナーの図書、雑誌の最新号は貸出が出来ません。

詳細はカウンター職員にお問い合わせ下さい。

小山駅（南口）駅舎より約5km

乗用車で約10分

小山駅（西口）より

関東バス（土塔・高専・高専行）小山高専下車

関東バス（土塔・高専行）高専入口下車徒歩約5分

図書情報センター利用上のマナー

- ① 館内での飲食・及び飲食物の持ち込みは一切禁止です。
- ② ゴミは自分で持ち帰ってください。
- ③ 館内では静粛にし、携帯電話を使用しないで下さい。
- ④ 閲覧した資料、使用した椅子などは、元の位置に正しく戻してください。
- ⑤ その他、館内の掲示、係員の指示に従ってください。

図書情報センターのホームページをご覧ください。

<http://www.oyama-ct.ac.jp/>

ご意見ご希望等は

_____までどうぞ

小山工業高等専門学校 図書情報センター

〒323-0806

栃木県小山市入子久保1-1-1 5番地

TEL

FAX



H19-1009

図書情報センター 利用案内

開館時間

平日 9:00～20:00

土曜日・長期休業期間中の平日 9:00～17:00

閉館日

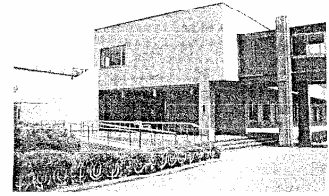
日曜日・国民の祝日（振替休日）

年末・年始

長期休業・臨時休業期間中の土曜日

特別整理期間

臨時の閉館はその都度掲示します



閲覧

図書・雑誌は、閲覧室（日本手帳券別室）に配置してあります。自由に閲覧できます。

音響、照明等の配慮を施してあります。カウンスターの職員に声をかけると良いでしょう。

貸出

借りたい図書・雑誌は「利用者カード」を一緒にカウンターの職員に提示してください。

※貸出冊数・貸出期間

区分	形態	冊数	期間
通常貸出	図書	3冊	2週間
	雑誌	2冊	2週間
特別貸出	辞典辞書類	1冊	16時～翌朝9時
	楽譜類	1冊	1ヶ月
常設貸出	図書	3冊	1ヶ月
	雑誌	2冊	2週間

- ・常設貸出は1年生と専攻科1、2年生対象です。
- ・JADEEコーナーの図書は「貸出のみ」です。

返却

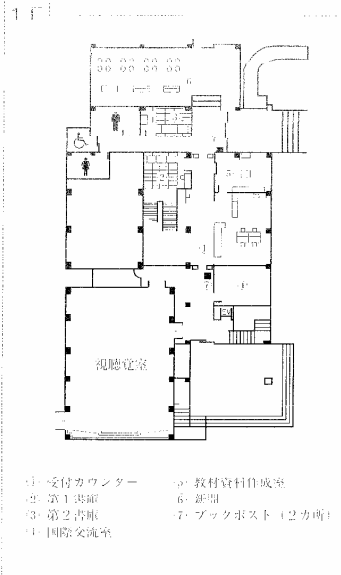
「図書（雑誌）」は、期限までにカウンターに返却してください。閉館時は図書情報センター内出入口の「ブックポスト」に入れてください。



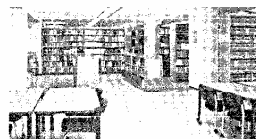
利用者カード

本人以外の利用はできません。紛失しないよう十分注意してください。

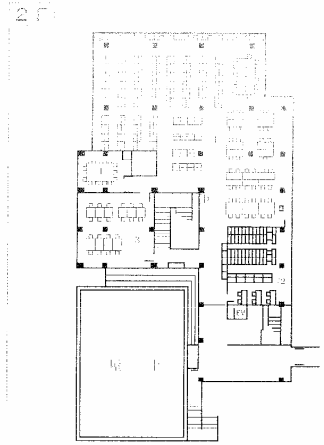
館内案内



- ① 受付カウンター
- ② 第1書庫
- ③ 第2書庫
- ④ 国際交流室
- ⑤ 教材資料自蔵室
- ⑥ 新聞
- ⑦ ブックポスト（2カ所）



閲覧・閲覧スペース（2F）



① 閲覧・閲覧スペース（2階）

② 第1閲覧室

③ 第2閲覧室

④ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑤ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑥ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑦ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑧ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑨ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑩ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑪ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑫ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑬ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑭ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑮ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑯ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑰ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑱ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑲ マルチメディア・PC、ネット学習室

⑳ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉑ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉒ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉓ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉔ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉕ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉖ マルチメディア・PC、ネット学習室

㉗ マルチメディア・PC、ネット学習室

(出典：図書情報センター資料)

資料 7-1-②-6 : 情報科学教育研究センターの利用について

○情報科学教育研究センターの利用について

まえがき

これは、小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター（以下「情報センター」という）を利用する人（以下「利用者」という）が、円滑に利用するため、知っておかなければならないことをまとめたものです。

第 1 条 利用の範囲

- (1) 学生に対する情報処理教育に関する授業並びにこれに伴う実習。
- (2) 卒業研究。
- (3) 教員研究。
- (4) その他、情報センター長が特に必要と認めたもの。

第 2 条 利用時間

- (1) 原則として、利用時間は本校勤務時間内とする。
- (2) 特に必要と認められた場合は、所定の手続き（様式 1）を経て時間外利用することができる。

第 3 条 利用優先順位

教育用計算機システムの利用は授業優先とし、授業時間中、他からの利用は原則として禁止する。

第 4 条 利用の不承認と停止

1. 情報センター長は、次に該当する利用申請については、これを承認しないことができる。
 - (1) 利用内容が「情報科学教育研究センター利用について」で定める利用の範囲外であるとき。
 - (2) その他教育用計算機システムの利用を不適当と認めるとき。
2. 情報センター長は利用者が教育用計算機システムの運営、操作に支障を生じさせる恐れのあるときは、その利用を停止させることができる。
3. 教育用計算機システムの保守のため停止することがある。

第 5 条 遵守事項

1. 利用者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - (1) 施設、設備、備品等を破損し、又は紛失しないこと。もし、紛失した場合、又は機械に故障を生じた場合は、速やかに情報センター職員に届けること。
 - (2) 利用後の後始末、整理、整頓を行うこと。

- (3) ネットワーク管理室への学生の立ち入りは、原則として禁止する。
- (4) 外部から持ち込んだ機器等をパソコンに接続しないこと。
- (5) 情報センター内に飲食物を持ち込まないこと。
- (6) 情報センター内でゲームをしないこと。
- (7) ゴミは必ず分別して捨てること。また、不要なプリンター用紙は必ず用紙入れに入れること。
- (8) 一人で複数のパソコンを占有しないこと。
- (9) コンピュータの誤作動の恐れがある為、演習室内での携帯電話、PHS、ポケットベル、無線機等の利用を禁止する。
- (10) 情報センター内での喫煙を禁止する。
- (11) プリンター用紙は、私的な使用に用いないこと。
- (12) 履き物は整理整頓をする。下足やスリッパを玄関に放置しないこと。

第 6 条 その他

1. パソコン使用上の注意

- (1) ハードディスク上のファイルを無断で消したり、書き換えたりしないこと。
- (2) パソコンにはハードディスクが内蔵されていますので振動を与えないこと。
- (3) HDD や FDD のランプが点灯している状態では電源を切らないこと。
- (4) センターのパソコンにインストールされているソフトウェアを持ち帰らないこと。

2. インターネット利用上の注意

- インターネットの利用は学術目的に限る。私的な使用には利用しないこと。
- (1) 各自自分のユーザアカウントを使うこと。
 - ・初期のパスワードは、各自直ちに変更すること。
 - ・他人のユーザアカウント (ID) を使わないこと。
 - ・パスワードは定期的に変更すること。
 - (2) 学校のコンピュータを商用目的に使用しないこと。
 - ・「売ります」「買います」といった情報を流さない。また、利用しないこと。
 - ・学校のコンピュータを利用して、オンラインショッピングで物を買わないこと。
3. 電子メール、www、電子ニュース等
- ・他人の誹謗中傷等の公序良俗に反する行為をしないこと。
 - ・情報発信の際の詐欺や、他人に迷惑をかける行為を行わないこと。

- ・営利目的の利用はしないこと。
 - ・画像、暴力的内容や違法な内容が掲載された Web ページや画像を見ないこと。
 - ・メーリングリスト等を使い、不特定多数の人に対して、ダイレクトメールや無意味な内容のメール (SPAM) を送信しないこと。
 - ・チャット等で妨害をしないこと。
4. 電子メールのマナー
- ・匿名のメールは出さないこと。
 - ・インターネットのメールは、安全ではありません。パスワードや暗証番号、クレジットカードの番号等は送らないこと。
 - ・あまりに大きなサイズのメールを送らない。特にメールにファイルを添付するときに注意すること。
 - ・添付ファイル付きのメールを送る場合、あらかじめ相手がそれを読めるかどうか確認しておくこと。
5. www の情報発信に関して
- ・他人の著作物 (画像、プログラムなど) を許可なく自分の Web ページに掲載しないこと。
 - ・コンピュータウイルス等、他人のコンピュータに被害を与えるようなプログラムを配布しないこと。
 - ・他人の Web ページに対して、許可なくリンクを張らないこと。
6. セキュリティに関して
- ・よそのコンピュータに侵入しないこと。また、それに類するような行為をしないこと。
 - ・コンピュータウイルスが侵入しているかもしれないので、得体の知れないファイルをダウンロードしないこと。

(様式 1)

発行年月日

情報科学教育研究センター時間外利用申請書

情報科学教育研究センター 殿

下記のとおり、情報科学教育研究センターの時間外使用を申請いたします。

申請年月日	平成	年	月	日	平成	年	月	日	
利用期間	平成	年	月	日	～	平成	年	月	日
利用申請者									
所属 (学科、学年)									
氏名									
指導教員 (学生の場合)									
利用機器 (台数)									
利用目的									

情報科学教育研究センター時間外利用許可書

下記の事項を責任を持って守ってください。

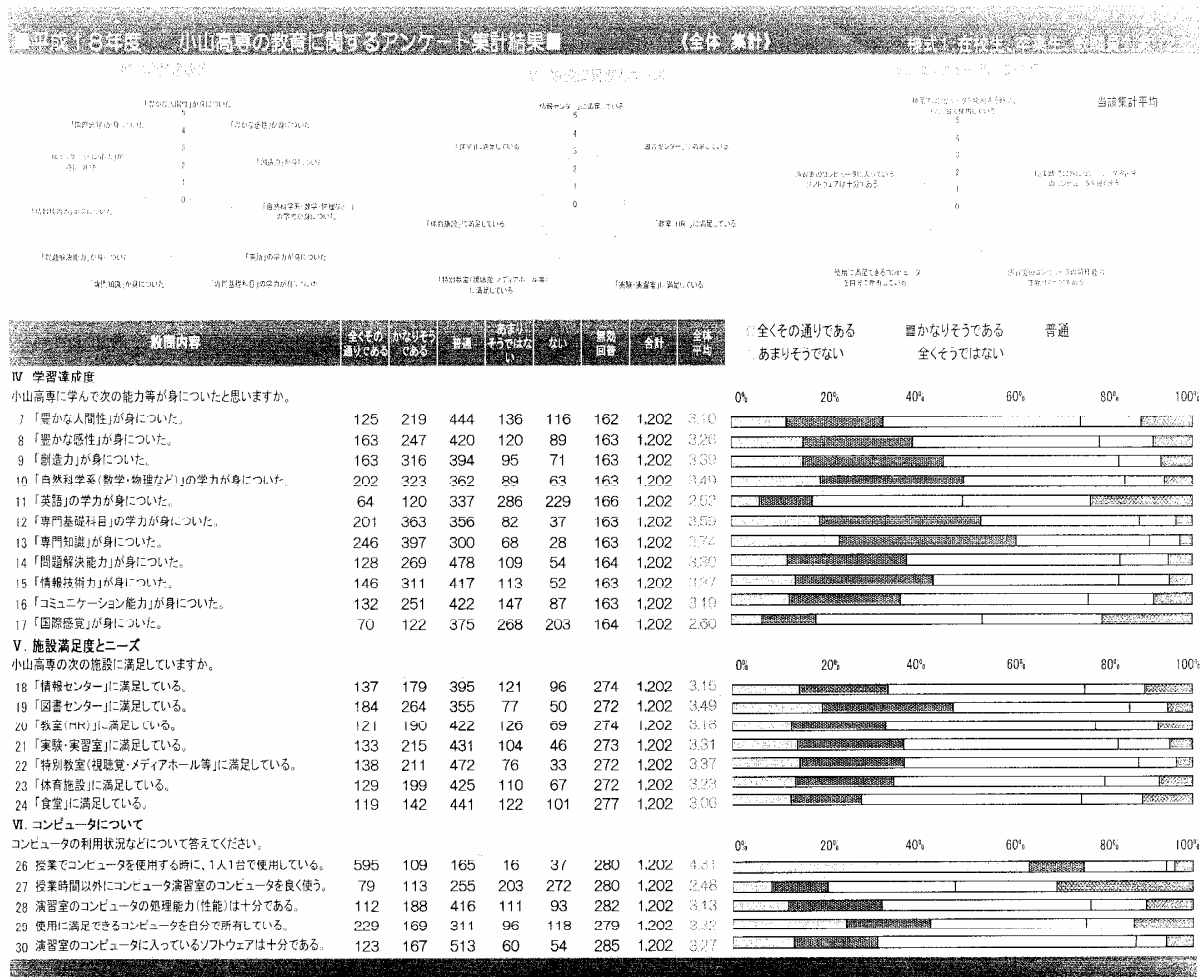
- (1) 時間外使用を開始する前に、必ずセンター員の指導を受けること。
- (2) 機器の操作は、利用申請した者が行わなければならないこと。
- (3) 機器利用中に異常動作が認められたときには、直ちに使用を中止して、適切な処理を行う。翌日、センター員に必ず報告をすること。
- (4) 利用終了後は定められた手順で、使用した機器の電源を忘れずに切ること。
- (5) 利用途中で一時退室するときは、玄関の施錠をすること。
- (6) 利用終了後、退室するときは必ず戸締りを確認すること。鍵は守衛室に返却すること。
- (7) 指導教員は、すべてにおいて責任を持つこと。

所属・氏名	利用日時
	年 月 日 ～ 年 月 日 時 分 ～ 時 分

- ・上記の申込みを許可する。
 - ・上記の申込みは ため許可しない。
- 情報科学教育研究センター長 印

(出典：平成 18 年度学生便覧 p140～142)

資料 7-1-②-7 : 学生の満足度アンケート



小山工業高等専門学校

(出典：平成 18 年度小山高専の教育に関するアンケート)

資料7-1-②-8：ものづくり教育研究センターの利用状況

ものづくりセンターの時間外利用・制作依頼状況（2005年度）

矢島 直樹*1 木下 淳*1 中澤 剛*1 原田 隆介*1

1. はじめに

ものづくりセンターでは、通常業務である実験・実習指導の他にも、卒業研究に使用する実験設備の製作などで学生指導を行っている。さらに、ロボコンなどの課外活動においては、共同利用施設として活用されている。

これらの活動において、学生にとって制作するのが困難な部品などは、ものづくりセンターの職員が制作依頼を受けて制作している。

ここでは、機械工作実習・実験以外の、ものづくりセンターの利用・活動状況についてまとめた。

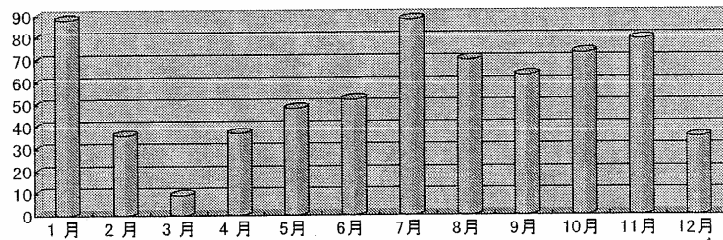
時から17時（時間内）に利用された件数のグラフをグラフ1に示す。

グラフから分かるように、実習時間以外にも、ものづくりセンターは非常に頻繁に利用されている。特に、卒業研究が追い込みになる1月とロボコンの製作が忙しくなる夏休み期間は利用者が多い。利用されている工具・設備はボール盤やコンタマシーンなどが多い。特に、ボール盤などは頻繁に利用されるだけでなく、取り扱いに当たって、安全に対する十分な注意が必要な工具であり、利用する学生が怪我なく安全に使えるよう指導を行う必要がある。

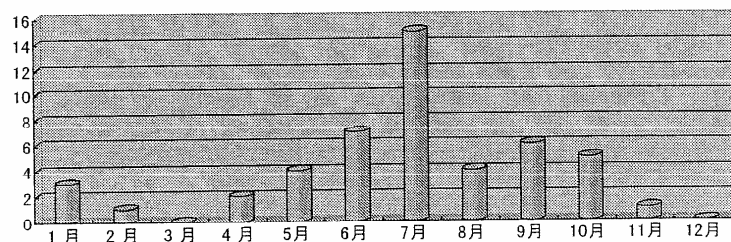
2. ものづくりセンターの利用状況

2.1 時間内利用

2005年に授業以外でもものづくりセンターが8



グラフ1 2005年のものづくりセンター利用件数（平日8時～17時）



グラフ2 2005年のものづくりセンター利用件数（平日17時以降、及び休日）

*1: 小山工業高等専門学校 技術室第1グループ 13

（出典：2007年度技術室年報 p13）

資料 7-1-②-9 : 講習会、説明会の案内

ロボコン学生向け機械加工講習会 (2005 年度)

矢島 直樹*1 木下 淳*1 中澤 剛*1 原田 隆介*1,

1. はじめに

全国の高専生がそのアイデアと技術を競う「アイデア対決・ロボットコンテスト」も、今年で18年目を迎えた。近年では、ロボコンをテーマにした映画も公開されるなど、ロボコンの盛り上がりは、年々大きくなっている。

本校の入学生の中にも、ロボコンをやってみたいという学生は多い。学生が、工学に対する純粋な興味・関心から、このようなコンテストに積極的に参加するのは、大変喜ばしいことである。

このような工学系の課外活動では、学生が工作機械を使うことが多い。学生がケガなく工作するためには、まず安全な工作作業を身につける必要がある。そこで、ものづくりセンターでは、ロボコンに参加する学生を対象に、機械工作の講習会を開催した。

2. 講習会概要

開催日時：平成17年6月29日
15:00~17:15
開催場所：ものづくり教育研究センター
受講学生：講習会 12名
 (旋盤 4名)
 (仕上げ作業 8名)

参加学生は、全て電子科の学生であった。



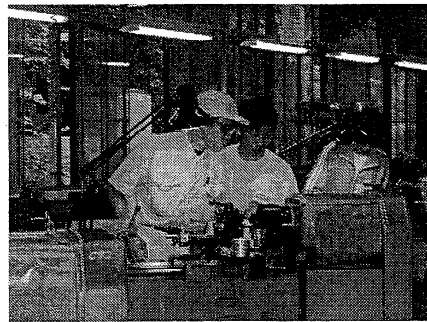
機械についての説明

工作機械を使った経験がほとんどない学生もいたので、初心者向けに基礎的な工作機械の使い

方を指導した。

基礎から丁寧に指導したため、予定よりも指導に時間が必要となり、予定を超えた18:30分頃に全ての講習会が終了した。内容も、安全作業に時間を割き指導を徹底させた。その一方で、作業の反復練習などは今後の課外活動の中でも行えると考え一部省略した。

3. 講習会を終えての感想



講習会の様子

ロボコン学生向けの講習会も本年度で3回目となる。

今回の受講生は、工作機械にふれた経験があまりない電子科の学生が多かった。機械工作の経験がほとんどない学生は、事故に遭いケガをする確率も高いので、課題の内容を簡単なわかりやすいものに変更して、事故の無いよう、慎重に指導した。

今回の製作課題は初心者向けの簡単なものであったが、経験のほとんどない学生にとってはまだ難しい点もあり、指導に時間もかかるようなので、より簡単な課題を用意しておく必要があると感じた。

今回の講習会で学んだ学生が安全に作業を行いながら、今後のコンテストで活躍してくれることを願っている。

*1: 小山工業高等専門学校 技術室第1グループ 11

資料 7-1-②-9 (続き)

利用者講習会 (アルミ溶接・旋盤上級)

伴 崇夫*1 矢島 直樹*1 木下 淳*1 中澤 剛*1 原田 降介*1

1. はじめに

2年前から、ものづくりセンターでは利用者向けの講習会を実施している。内容は機械工作の初心者向けであり、より多くの学生がセンターを利用するのに役立っている。

その一方で、卒業研究やロボコンなどではさらに進んだ技術も必要になる。学生や教員からも、もっと幅広い内容について講習会を開催して欲しいとの要望があったので、新たにアルミ溶接と旋盤 (上級) について講習会を実施することにした。

2. 講習会概要

2.2 開催概要

昨年度より幅広い内容について技能講習会を行うことになり。以下の内容で実施した。

開催日時：平成17年7月19、20日
 アルミ溶接講習会 (19日)
 9:30~12:00
 旋盤 (上級) 講習会
 13:00~18:00
 開催場所：ものづくり教育研究センター
 受講学生：アルミ溶接講習会 6名
 旋盤 (上級) 講習会 4名

講習会内容概略

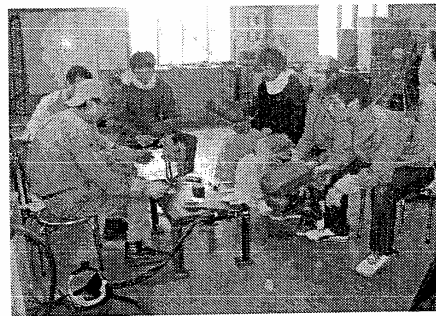
アルミ溶接講習会は、機械科・建築科の学生だけでなく、教員も受講生として受け入れ、活気あふれるものとなった。

講習会では、最初に基本的な溶接の方法について指導した。その後、受講生にはアルミ材を溶接した水槽を製作してもらった。最後に自分が製作した水槽に水を入れさせて、漏れないようにしっかり溶接できたか確かめさせた。

旋盤講習会の参加者は、全てロボコンに参加する学生であった。教材も、実際にロボコンで使用する部品とした。

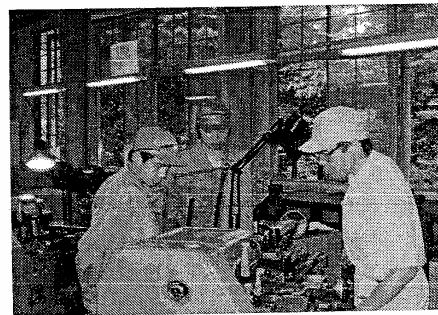
講習は、非常に実践的な内容であり、受講生も熱心であった。講習会で指導しきれなかった内容は、後日、部品製作指導の中で教授した。

3. 講習会を終えての感想



アルミ溶接講習会の様子

このようなより幅広い内容についての講習会を行うのは、本年度が最初である。アルミ溶接・旋盤 (上級) ともに、受講生の熱意が感じられる充実した講習会となった。



旋盤講習会の様子

今後も、必要に応じてこのような講習会を開催していきたい。

*1: 小山工業高等専門学校 技術室第1グループ 12

資料 7-1-②-9 (続き)

ものづくりセンター利用説明会・初心者講習会 (2005 年度)

伴 崇夫*1 矢島 直樹*1 木下 淳*1 中澤 剛*1 原田 隆介*1

1. はじめに

近年、工学分野はもちろん社会全体で、ものづくりが再評価されてきた。自らの手で製作する体験から学べる内容は大変貴重で、座学やパソコン上のシミュレーションでは得られないからである。

特に工学分野では、学生が早い時期にもものづくりを体験しておく必要がある。ものづくりの面白さ経験し、学生の工学に対する関心が高まれば、その後に行う座学や実習の学習効果が高まるからである。

少しでも多くの学生に、早い時期からものづくりを体験してもらうために、本年度も学生向けのものづくりセンターの利用説明会と初心者講習会を実施した。

2. 講習会概要

2.2 開催概要

昨年度は、ものづくりセンターの利用説明会と初心者講習会を別々に実施していたが、本年度は同時に開催した。

開催日時：平成 17 年 5 月 25 日
 14:00～17:15
 (利用説明：
 14:00～15:00)
 (初心者講習会
 15:00～17:15)
 開催場所：ものづくり教育研究センター
 受講学生：利用説明会 約 20 名
 初心者講習会 24 名
 (旋盤 6 名)
 (仕上げ作業 18 名)
 利用説明会は機械工学科の 5 年生が多かった。
 初心者講習会は
 旋盤の受講者
 2 E 4 名
 1 M 2 名
 仕上げ作業の受講者
 1 D 15 名
 1 M 3 名
 となっている。機械科 2 年生以上の学生は機械

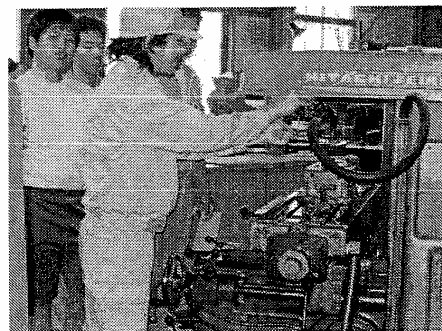
工作実習を受講するため対象外とした。
 初心者講習会は、1 時間以上延長して終了した。

3. 講習会を終えての感想



利用説明の様子

説明会は昨年度から実施している。この説明会を実施した甲斐あって、最近では学生の間センターの使い方が浸透してきた。



初心者講習会の様子

初心者講習会も昨年度から実施している。基本的な使い方は、今回の講習会で指導できた。さらに進んだ使い方も、日頃の学生指導で指導したい。

*1: 小山工業高等専門学校 技術室第 1 グループ 10

(出典：2007 年度技術室年報 p10～12)

資料7-1-②-10：コミュニケーションスペース及び厚生施設

ホームルーム教室



学生コーナー



ブラウジングロビー



資料 7-1-②-10 (続き)

一般食堂、売店



(出典：学生課学生係資料)

(分析結果とその根拠理由)

図書情報センター、情報科学教育研究センター及びものづくり教育研究センターとも施設・設備が整っており、時間外の利用の道も開かれ、有効に利用されている。また、コミュニケーションスペースも随所に確保されており、自主的な学習環境及びキャンパス生活環境は整備され、効果的に利用されている。

観点 7-1-③： 学習支援に関する学生のニーズ（例えば、資格試験や検定試験受講、外国留学等に関する学習支援等が考えられる。）が適切に把握されているか。

(観点に係る状況)

学生のニーズの把握は、クラス担任により HR 等を通じて日常的に行われている（資料 7-1-③-1）。そのほか教育面に関しては授業評価アンケートを行い、授業等に対する学生の意見、要望を聞いている（資料 7-1-③-2）。また、学生寮においては、毎月、校長補佐（寮務担当）及び寮務担当補佐と寮生との談話会を開催し、学生生活全般に係る意見及び要望をくみ取っている（資料 7-1-③-3）。平成 19 年度からは校長補佐（学生担当）等と学生会との定期的な懇談会を開催し、学生側の要望を聞くことを始めている（資料 7-1-③-4）。

なお、学生の保護者との懇談会を開催し、保護者からのニーズのくみ取りも行っている（資料 7-1-③-5）。

資料7-1-③-1 : ホームルーム実施記録

平成18年度 授業実施記録 (通年用)

単位種別 (※) : 履修単位

単位数 : 1

クラス : 科目 : 2C HR

担当教員 : ██████████

	月/日	授 業 内 容	授業形態 (※※)	備 考
1	4/5	成績返却、学生証・学生便覧配布、通学届、諸連絡	E	始業式
2	4/12	2年生になるにあたっての心構え、諸連絡(健康診断等) クラス役員・係の決定	E	プリント配布
3	4/19	アンケート(通学・生活・1年を振り返って・2年が始まって)	E	アンケート配布
4	4/26	新2年生 数学実力テスト	E	
5	5/10	球技大会のメンバー決め、工陵祭に関する話し合い	E	
6	5/17	研修旅行に関するアンケート、諸連絡	E	アンケート配布
7	5/24	出川助手より授業補足、工陵祭についての話し合い	E	
8	5/31	中間試験に関する諸注意、生活面での諸注意	E	
9	6/14	中間試験・夏休みの過ごし方等に関するアンケート	E	アンケート配布
10	6/21	諸連絡、アンケート結果について、席替え	E	
11	6/28	成績返却、工陵祭についての話し合い、諸連絡	E	
12	7/5	2年 特別講演会 (木更津高専 高遠節夫教授)	E	
13	7/12	夏休みの過ごし方について、諸連絡	E	プリント配布
14	9/1	今後の予定、教室清掃・出席簿等生活面の諸注意	E	夏期休業後初登校日
14	9/6	2年 薬物乱用に関する講演会	E	
15	9/13	研修旅行グループ分け、行き先の選定、諸注意など	E	プリント配布
16	10/4	授業アンケート 研修旅行グループ行動の計画 (計画表配布) 保護者懇談会について (面談希望日程表配布)	E	研修旅行参加同意書回収、費用振込案内配布
17	10/11	球技大会メンバー決め、席替え、	E	
18	10/18	研修旅行概要説明・諸注意、グループ行動の計画 保護者会面談予定表の配布と確認	E	研修旅行諸注意プリント配布
1	10/25	成績返却、工陵祭についての話し合い	E	
2	11/1	工陵祭についての話し合い、研修旅行ホテル部屋割り等	E	
3	11/8	研修旅行についての諸注意	E	研修旅行のしおり配布
4	11/15	研修旅行(関西方面 11/13~15)	E	
5	11/22	学校生活・成績に関する諸注意	E	
6	11/29	研修旅行決算報告、中間試験前の諸注意	E	保護者用プリント配布
7	12/13	諸連絡、いじめに関するアンケート	E	
8	12/20	成績返却、諸連絡、冬休みの過ごし方等	E	
9	12/26	諸注意、諸連絡	E	授業最終日
10	1/10	席替え、諸連絡	E	
11	1/17	退学する学生からの挨拶、諸連絡	E	
12	2/7	小山高専の教育に関するアンケート 授業評価アンケート 年度末・新年度の予定 および諸注意	E	プリント配布
13	2/16	期末試験に関する諸注意、2年を終えて	E	試験最終日

(※) 履修単位、学修単位の種別を記入する。 (※※) A:講義 B:演習 C:実験 D:実習 E:その他

資料7-1-③-2：学生の授業評価アンケート

「学生による授業評価」アンケート調査用紙〈小山工業高等専門学校 平成18年度〉

このアンケートは、授業担当教員が学生の皆さんとともに教育改善を図ることを目的として実施するものですので、ご協力ください。

■科目名

■記入上の注意

1 マークの方法：黒いペンかエンピツを使用してください。

正しい例



黒い例



2 マークし「直す」場合は、誤った方をはっきりと「縦の」2重線で消してください。

正しい修正



■あなたの所属年について

所属：学年についてお答えください。

■所属学科 [1] M [2] E [3] D [4] C [5] A [6] SS [7] SC [8] SA

■学年 [1] 1年 [2] 2年 [3] 3年 [4] 4年 [5] 5年 [6] 専攻1年 [7] 専攻2年

■アンケート設問

アンケートの項目を5段階で評価してマークして下さい。

全くの通り ありません	かなり満足 である	普通	あまり満足 ではない	全く満足 はない
----------------	--------------	----	---------------	-------------

①：あなた自身について

- | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|-------|---------|---------|---------|---------|
| 1. この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| | | 10割 | 10～9割 | 9～8割 | 8～7割 | 7割以下 |
| 2. この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| | | 2時間以上 | 2～1.5時間 | 1.5～1時間 | 1～0.5時間 | 0.5時間以下 |
| 3. わからないことや興味をもったことを質問したり調べたりしましたか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

②：この授業科目について

- | | | | | | | |
|------------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. シラバス（授業要目）に沿って、授業が行われた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 5. この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 6. この授業に総合的に満足している。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

③：教員について

- | | | | | | | |
|----------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. 教材・テキスト等は字音する上で適切だった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. 授業のポイントがわかりやすかった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 5. 板書やプロジェクター等の画像は見やすく、わかりやすかった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

④：その他ー実験と体育では次の質問にも答えてください

- | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. 技能または技術の習得が十分にできた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. 同じチーム（グループ）になった仲間と協力して行動した。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 5. (体育のみ回答) 授業中に課せられた運動量は適切なものだった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

■授業について

この授業に対する意見・要望およびアンケートに関する意見がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

小山工業高等専門学校

(出典：平成18年度授業評価アンケート)

資料 7 - 1 - ③ - 3 : 平成 18 年度学寮行事予定表

平成 18 年度

学寮行事予定表

日	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	水	木	金	土	日	月
2	木	金	土	日	月	火
3	金	土	日	月	火	水
4	土	日	月	火	水	木
5	日	月	火	水	木	金
6	月	火	水	木	金	土
7	火	水	木	金	土	日
8	水	木	金	土	日	月
9	木	金	土	日	月	火
10	金	土	日	月	火	水
11	土	日	月	火	水	木
12	日	月	火	水	木	金
13	月	火	水	木	金	土
14	火	水	木	金	土	日
15	水	木	金	土	日	月
16	木	金	土	日	月	火
17	金	土	日	月	火	水
18	土	日	月	火	水	木
19	日	月	火	水	木	金
20	月	火	水	木	金	土
21	火	水	木	金	土	日
22	水	木	金	土	日	月
23	木	金	土	日	月	火
24	金	土	日	月	火	水
25	土	日	月	火	水	木
26	日	月	火	水	木	金
27	月	火	水	木	金	土
28	火	水	木	金	土	日
29	水	木	金	土	日	月
30	木	金	土	日	月	火
31	金	土	日	月	火	水

4/6 談話会
 4/13 入学式・新入生歓迎会
 4/14 新入生歓迎会
 4/22 ノフトボール大会
 5/23 避難訓練
 6/10 ポーリング大会
 6/17 開寮
 7/15 開寮
 8/31 夏休最終
 9/7 夏休最終
 9/27 夏休最終

日	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	水	木	金	土	日	月
2	木	金	土	日	月	火
3	金	土	日	月	火	水
4	土	日	月	火	水	木
5	日	月	火	水	木	金
6	月	火	水	木	金	土
7	火	水	木	金	土	日
8	水	木	金	土	日	月
9	木	金	土	日	月	火
10	金	土	日	月	火	水
11	土	日	月	火	水	木
12	日	月	火	水	木	金
13	月	火	水	木	金	土
14	火	水	木	金	土	日
15	水	木	金	土	日	月
16	木	金	土	日	月	火
17	金	土	日	月	火	水
18	土	日	月	火	水	木
19	日	月	火	水	木	金
20	月	火	水	木	金	土
21	火	水	木	金	土	日
22	水	木	金	土	日	月
23	木	金	土	日	月	火
24	金	土	日	月	火	水
25	土	日	月	火	水	木
26	日	月	火	水	木	金
27	月	火	水	木	金	土
28	火	水	木	金	土	日
29	水	木	金	土	日	月
30	木	金	土	日	月	火
31	金	土	日	月	火	水

10/14 寮祭
 11/6 11/15 11/16 11/17 11/18 11/19 11/20 11/21 11/22 11/23 11/24 11/25 11/26 11/27 11/28 11/29 11/30
 12/6 12/7 12/8 12/9 12/10 12/11 12/12 12/13 12/14 12/15 12/16 12/17 12/18 12/19 12/20 12/21 12/22 12/23 12/24 12/25 12/26 12/27 12/28 12/29 12/30 12/31
 1/6 1/7 1/8 1/9 1/10 1/11 1/12 1/13 1/14 1/15 1/16 1/17 1/18 1/19 1/20 1/21 1/22 1/23 1/24 1/25 1/26 1/27 1/28 1/29 1/30 1/31
 2/6 2/7 2/8 2/9 2/10 2/11 2/12 2/13 2/14 2/15 2/16 2/17 2/18 2/19 2/20 2/21 2/22 2/23 2/24 2/25 2/26 2/27 2/28 2/29 2/30
 3/6 3/7 3/8 3/9 3/10 3/11 3/12 3/13 3/14 3/15 3/16 3/17 3/18 3/19 3/20 3/21 3/22 3/23 3/24 3/25 3/26 3/27 3/28 3/29 3/30 3/31

36

(出典：平成 18 年度寮生のしおり)

資料 7-1-③-4 : 学生会との懇談会要旨

学生会懇談会メモ

第 3 回 (2007.5.30) 17 時～19 時 10 分 : 201 ゼミ室

工陵祭実行委員会 ()

- ・ 一般企画の募集と選定の結果, 模擬店関係 24, 専門 18 の計 42 企画の希望があった。
- ・ 5/19, 20 の小山ブランド祭りで工陵祭活動を発表した。
- ・ 工陵祭期間中に栃木県若年者雇用促進機構による移動ジョブカフェ事業の参加に協力する。
- ・ 専攻科学生の模擬店の企画については評議会で審議するとともに, 学生会規約改正についてもアンケート等で検討する。
- ・ 学校オープンキャンパスへの工陵祭実行委員会の参加 (パネル展示等) が可能かどうか, 教務関係で検討してもらう。

クラス代表者委員会 ()

- ・ 盗難について学生新聞による呼びかけを行うとともに, 広報委員会にポスターの製作依頼を行う。
- ・ 省エネに関連して, エアコンの使用法の掲示物を各教室に掲示し, 学生新聞で省エネの呼びかけを行う。また, エアコンの集中管理 (授業開始前に切断等) について施設係に確認する。
- ・ 教室の清掃について, 現在 3E で試験的に週番に徹底させるようにしている。結果を見て学校全体に広げたい。

広報委員会 ()

- ・ 新聞記事用にクラス代表者委員会に各種アンケートを依頼する。
- ・ 盗難注意について新聞で取り上げる。

学生会本部

- ・ 工陵祭で中夜祭を一般者対象に花火の前に実施する予定 ()。
- ・ ごみ拾いを 6/27 (水) する予定。クラス代表者委員会を通じて参加学生を募っていく ()。

(渉外局:)

- ・ 地区交流会 : 7/7, 8, 木更津高専, 5 人参加予定
- ・ 全国交流会 : 8/22～24, 沼津高専
- ・ 文化発表会 : 準備会 (5/19, 20 ; 長岡高専, 参加)

参加サークル数 : 5, 約 90 名

7/20 : 全校集会後に事前説明会の実施予定, 引率教員の依頼

- ・ 3-5 年用駐輪場に止められないことがある。 ()
- ・ 開校記念日がなくなったのか。学生便覧では休業日になっている。
- ・ 電車遅延の場合に遅延証明がもらえない場合は学校側に対応してもらいたい。また, 学生への周知して欲しい。通学生が近くの住宅展示場内を通らないように学校で対応して欲しい。また, 推奨通学路については再考して欲しい。

(出典 : 学生会との懇談会要旨)

資料7-1-③-5：保護者懇談会開催案内

小高専学教第 号
平成18年 6月 日

1年生保護者各位

小山工業高等専門学校長
藤本光宏
[公印省略]

1年生保護者会の開催について

拝啓 青葉の候、保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。

日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、本校では、1年生の保護者の皆様に、本校の学校生活や教育活動についてますますのご理解をいただくために、下記の要領で保護者会を開催いたします。

校長補佐（教務・学生担当）の話のあと、各担任から日常のクラスの様子や、前期中間試験の結果等について話をさせていただく予定です。この機会に、保護者の皆様とご意見の交換ができれば幸いに存じます。なお、寮生の保護者の皆様には、校長補佐（寮務担当）との懇談の時間も設けております。

最後に、多くの保護者の皆様のご参加をお待ちしております。また、お車で来校の際は、教職員駐車場または外来駐車場をご利用下さい。

敬 具

記

日 時 平成18年 7月 1日(十) 10:00 ~ 12:00

場 所 図書館棟1階 視聴覚室、各科教室

日 程 9:30 ~ 受付（図書館棟1階 視聴覚室）
10:05 ~ 10:30 校長補佐（教務担当）説明
10:30 ~ 10:50 校長補佐（学生担当）説明
休憩、各科教室（専攻科棟2階）へ移動
11:00 ~ 11:50 担任説明、懇談

通学生の保護者の方は、以上で終了。

寮 生 寮生の保護者の方は、校長補佐（寮務担当）との懇談を行いますので、同じ建物4階「多目的メディアホール」へ移動願います。詳細については、別紙をご参照願います。

担当係 学生課教務係
TEL 0285-20-2142（直通）
FAX 0285-20-2882

資料7-1-③-5 (続き)

平成18年12月

3年生保護者各位

小山工業高等専門学校長
藤本光宏 [公印省略]

3年生保護者会の開催について

拝啓 新春の候 保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。日頃は本校の教育活動にご理解とご協力を賜り誠にありがとうございます。

さて、下記のとおり3年生保護者会を開催し、今後の学校生活や進路指導についての説明と意見の交換を行いますので、ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。

敬 具

記

日 時： 平成19年 2月 3日(土)
10:00 ~ 12:00

場 所： 図書館棟1階視聴覚室、各科教室

日 程：	9:30 ~	受付
	10:00 ~ 10:05	学校代表挨拶
	10:05 ~ 11:00	全体会
	休 憩	各科教室へ移動
	11:10 ~ 12:00	担任説明、懇談

なお、お車でご来校の際は、教職員駐車場または外来駐車場をご利用ください。

(出典：学生課教務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

ホームルーム、学生との懇談、学生アンケート及び保護者との懇談会など、種々の機会及び方法により学生のニーズのくみ取りや支援が適切に行われている。

観点7-1-④： 資格試験や検定試験受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

(観点に係る状況)

「資格取得に係わる単位認定に関する規程」により、資格試験等の合格者に対し単位認定することが制度化されている(資料7-1-④-1)。資格による単位認定状況を資料7-1-④-2に示す。各学科では、クラス担任が各種資格試験等の受験案内を行っているほか、必要に応じ関係教員が受験指導も行っている(資料7-1-④-3)。また、図書情報センターには、資格試験等に関する参考書が配架されている(資料7-1-④-4)。TOEICについては、本校を試験会場とし学生の受験の便を図っている。受験状況を資料7-1-④-5に示す。

専攻科では、毎年7月に学位授与申請の説明会を開催し、学位授与申請に係る手続き方法及び留意事項等について説明している(資料7-1-④-6)。

海外留学については、「留学規則」が定められており(資料7-1-④-7)、第1学年～第3学年については留学中に修得した単位を一括して30単位まで認めることとしている。また、英会話の実践的能力の涵養と異文化理解を目的とし、準学士課程3、4年生を対象にオーストラリアに海外研修生を派遣しており、毎年20名前後の学生が参加している(資料7-1-④-8, 9)。

資料7-1-④-1：資格取得に係わる単位認定に関する規程

(3) 資格取得に係わる単位認定に関する規程

- (目 的)
 第1条 この規程は、小山工業高等専門学校(昭和40年4月1日制定)第26条の4の規定に基づき、小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)における資格取得に係わる単位の認定に関する事項を定めることを目的とする。
 (認定の対象)
 第2条 この規程における資格取得によって単位と認定される対象は、本校が適切と認める別表の技能検定及び資格試験で合格したものをいう。
 (単位認定科目と認定単位数)
 第3条 取得資格に対応する単位認定科目と認定単位数については、別表に定める。
 (単位認定学年と単位数)
 第4条 認定される学年は5学年とし、単位数はインターンシップに係わる単位及び入学、他高等における履修に係わる単位と合わせて6単位以内とする。
 (単位認定申請)
 第5条 学生は、単位の認定を受けようとするときは、5年次の1月末までに合格証明書又は成績証明書等を添えて校長に申請するものとする。
 (単位の認定)
 第6条 前条の規定により申請のあった学修に関する単位の認定は、学年末における判定会議を経て、校長が行う。
 附 則
 この規程は、平成11年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成12年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成13年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成14年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成15年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成16年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成17年4月1日から施行する。
 附 則
 この規程は、平成18年4月1日から施行する。

別表

資格取得に係わる単位一覧表

◎ 以下の資格を取得し認定を受けた場合、単位認定科目は「特別演習(1)」として認定されます。()内には資格名が入ります。
 なお、単位の認定を申請する際には、後の注意事項をよく読んでください。

機械工学科

取 得 資 格 名	単位数	備 考
TOEIC	550以上	◎2
TOEIC	420以上	◎1
TOEFL	400以上	2
TOEFL	440以上	1
工業英語能力検定	1級	2
工業英語能力検定	2級	2
工業英語能力検定	3級	1
実用英語技能検定	1級又は準1級	2
実用英語技能検定	2級	1
実用英語技能検定	準2級	1
(平成10年度までに取得した者は2単位を認める)		
機械設計技術者試験	3級	◎2
技術士補		2
電卓・ポケコン技能検定	1級	◎1
電卓・ポケコン技能検定	2級	◎1
電卓・ポケコン技能検定	3級	1
(平成15年度までに取得した者は認める)		
電卓・ポケコン技能検定/プログラム級		◎1
情報処理技術者 基本情報技術者		2
情報処理活用能力検定	1級	2
情報処理活用能力検定	2級	1
情報処理活用能力検定	3級	1
CAD利用技術者試験	2級	1
ボイラー技士		◎1
危険物取扱者	丙種	1
危険物取扱者	乙種(1類)	1
危険物取扱者	乙種(2類)	1
危険物取扱者	乙種(3類)	1
危険物取扱者	乙種(4類)	2
危険物取扱者	乙種(5類)	1
危険物取扱者	乙種(6類)	2
上記以外の資格については、学生の申請に応じて5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。		1資格につき最大2単位

*単位数の◎印は取得することが望ましいもの、◎印は特取得することが望ましいものを示す。

電気情報工学科

取 得 資 格 名	単位数	備 考
TOEIC	550以上	2
TOEIC	420以上	2
TOEFL	400以上	2
TOEFL	440以上	1
工業英語能力検定	1級又は2級	2
工業英語能力検定	3級	1
実用英語技能検定	1級又は準1級	2
実用英語技能検定	2級	1
第1種 電気主任技術者	1	2
第2種 電気主任技術者	2	2
第3種 電気主任技術者	1	2
第1種 電気工事士	1	1
第2種 電気工事士	1	1
情報処理検定	1級	2
情報処理活用能力検定	1級	2
情報処理活用能力検定	2級	1
デジタル技術検定	1級	2
デジタル技術検定	2級	2
パーソナルコンピュータ利用技術認定試験	2級	2
画像情報生成処理者試験	1級	1
画像情報生成処理者試験	2級	1
画像情報技能検定CG部門	1級	2
画像情報技能検定CG部門	2級	2
画像情報技能検定CG部門	3級	1
(平成15年度までに取得した者は認める)		
電気通信主任技術者	線路主任	2
電気通信主任技術者	第1種	2
電気通信主任技術者	第2種	1
工事担任者 アナログ・デジタル総合種	2	2
工事担任者 アナログ第1種	1	1
工事担任者 アナログ第2種	1	1
工事担任者 デジタル第1種	1	1
工事担任者 デジタル第2種	1	1
ラジオ・音響技能検定	1級	2
ラジオ・音響技能検定	2級	1
情報処理技術者 基本情報技術者		2
情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ		2
情報処理技術者 テクニカルエンジニア(各種)		2
情報処理技術者 ソフトウェア開発技術者		2
上記以外の資格については、学生の申請に応じて5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。	1資格につき最大2単位	

電子制御工学科

取 得 資 格 名	単位数	備 考
TOEIC	550以上	2
TOEIC	420以上	1
TOEFL	400以上	1
TOEFL	440以上	1
工業英語能力検定	1級	2
工業英語能力検定	2級	2
工業英語能力検定	3級	1
実用英語技能検定	1級又は準1級	2
実用英語技能検定	2級	1
実用英語技能検定	準1級	1
実用数学技能検定	準1級	2
情報処理技術者 基本情報技術者		2
情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ		2
情報処理技術者 テクニカルエンジニア(各種)		2
情報処理技術者 ソフトウェア開発技術者		2
画像情報技能検定CG部門	1級	1
画像情報技能検定CG部門	2級	1
画像情報技能検定CG部門	3級	1
(平成15年度までに取得した者は認める)		
画像情報技能検定 画像処理部門	1級	2
画像情報技能検定 画像処理部門	2級	1
画像情報技能検定 マルチメディア部門	1級	2
画像情報技能検定 マルチメディア部門	2級	1
画像情報技能検定 マルチメディア部門	3級	1
(平成15年度までに取得した者は認める)		
情報処理活用能力検定	3級	2
(平成15年度までに取得した者は認める)		
ディジタル技術検定	1級	1
ディジタル技術検定	2級	2
第1種 電気主任技術者	1	2
第2種 電気主任技術者	2	2
第3種 電気主任技術者	1	1
第1種 電気工事士	1	1
第2種 電気工事士	1	2
アマチュア無線技士	1級	2
アマチュア無線技士	2級	1
陸上無線技術士	2級	2
陸上特殊無線技士	1級	2
危険物取扱者	甲種	1
危険物取扱者	乙種	1
エックス線作業主任者		2
技術士補		2
上記以外の資格については、学生の申請に応じて5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。	1資格につき最大2単位	

資料7-1-④-1(続き)

物質工学科

取得資格名	単位数	備考
TOEIC 550以上	2	
TOEIC 420以上	1	
TOEFL 490以上	2	
TOEFL 440以上	1	
実用英語技能検定 1級又は準1級	2	
実用英語技能検定 2級	1	
公害防止管理者	1	
火薬類製造保安責任者 甲種	2	
火薬類製造保安責任者 乙種	2	
火薬類製造保安責任者 丙種	1	
火薬類取扱保安責任者 甲種	1	
火薬類取扱保安責任者 乙種	1	
危険物取扱者 甲種	2	
危険物取扱者 乙種	1	
計量士 一般	2	
計量士 環境	2	
臭気判定士	1	
放射線取扱主任者 2種(一般)	2	
放射線取扱主任者 1種	2	
核燃料取扱主任者	2	
ワークス総作業士	1	
ガンマ線透過写真撮影作業主任者	1	
ガス主任技術者 甲種	1	
ガス主任技術者 乙種	1	
ガス主任技術者 丙種	1	
上級 バイオ技術認定試験	2	
中級 バイオ技術認定試験	1	
情報処理技術者 基本情報技術者	2	
情報処理検定 1級	1	
情報処理活用能力検定 1級	2	
情報処理活用能力検定 2級	1	

建築学科

取得資格名	単位数	備考
TOEIC 550以上	2	
TOEIC 420以上	1	
TOEFL 490以上	2	
TOEFL 440以上	1	
実用英語技能検定 1級又は準1級	2	
実用英語技能検定 2級	1	
実用数学技能検定 1級	2	
実用数学技能検定 準1級	1	
測量士	2	
測量士補	1	
第1種電気工事士	2	
第2種電気工事士	1	
土地家屋調査士	2	
宅地建物取引主任者	2	
CAD利用技術者試験 2級	1	
色彩能力検定	1	
技術士補	2	
技能検定試験	2	
危険物取扱者 乙種	1	
情報処理技術者 基本情報技術者	2	
エクステリア・プランナー 2級	1	
建築施工技術者	1	
インテリア・コーディネーター	1	
福祉住環境コーディネーター 1級	2	
福祉住環境コーディネーター 2級	2	
福祉住環境コーディネーター 3級	1	
上記以外の資格については、学生の申請に応じて5学年終了時に学科内で審査、単位認定を行う。単位数も審査時に資格に応じて認定する。	1資格につき最大2単位	

※取得内容、レベルにより単位は異なる。

一般科目

取得資格名	単位数	備考
日本語能力検定 1級・準1級	1	
日本語文章能力検定 2級	1	
気象予報士試験	2	

◎注意事項

- ※申請する資格は、指定がない場合には、いつ取得した資格でもかまいません。
- ※申請書を学生課教務係で受け取り、必要事項を記入のうえ学級担任・学科長・科目担当教員の印を得てから、資格の合格証明書又は成績証明書を添えて、教務係に提出してください。
- ※ある資格の下位ランクを断得した後、同じ資格の上位のランクを取得した場合は、上位のランクの単位数となります。
例・〇〇能力検定3級(1単位)を取得した後、同じ〇〇能力検定1級(2単位)に合格したので3単位を取得できるか。この場合は同じ資格であるので、1級の2単位を認定することになり、単純に加算して3単位とはなりません。
- ※同じ資格でも、上位・下位の関係ではなく、その内容が異なる場合は、それぞれ独立した単位とされます。
例・機械工学科の資格でいうと、危険物取扱者乙種は1類から6類まで異なる内容なので、単位数は単純に加算して計算されます。
- ※不明な点は、担当教員に尋ねてその指示に従ってください。

(出典：平成18年度学生便覧 p44～50)

資料7-1-④-2：資格取得による単位認定状況（平成18年度）

取得資格名	M	E	D	C	A	合計
電卓・ポケコン技能検定2級	24					24
ボイラー技士2級	5					5
危険物取扱者乙種	25		4	10	3	42
家電製品エンジニア（AV情報家電）	1					1
第2種電気工事士		3				3
ラジオ・音響技能検定2級		1				1
情報処理技術者 基本情報技術者		5	7			12
情報処理技術者 初級システムアドミニストレータ		2	5			7
第3種電気主任技術者		1				1
画像情報技能検定マルチメディア部門3級			15			15
画像情報技能検定CD部門3級			17			17
情報処理活用能力検定3級			4			4
デジタル技能検定2級情報			1			1
デジタル技能検定2級制御			3			3
電気工事従事者			1			1
情報処理活用能力検定3級情報リテラシー			1			1
色彩能力検定3級					8	8
建設施工技術者					2	2
エクステリアプランナー2級					4	4
CAD利用技術者試験2級					2	2
福祉住環境コーディネーター2級					1	1
福祉住環境コーディネーター3級					1	1
TOEIC420以上		2	1	3		6
TOEIC550以上	2	1	2	1		6
実用英語技能検定2級			1			1
実用数学技能検定準1級			1			1
合計	57	15	63	14	21	170

（出典：学生課教務係資料）

資料7-1-④-3：機械工学科補習授業

2004年度実施実績

回	内 容	実施日	時 間	担当者	場 所	対象学年
1	二級ボイラー技士資格 試験について	7/7 (水)	14:00から 16:30まで	伊澤	3MHR	3
2	地球環境はどうなる？ ①地球は持続できるか？ ②エネルギーと省エネ ③省エネ技術 ④リサイクルと自然エネルギー ⑤地球を持続させるために (または英文輪講)	7/12 (月)	17:00から	高島	301 ゼミ	全
3	HTMLタグ講座	7/14 (水)	15:00から 17:00まで	川村	情報 センター	1, 2
4	振動工学演習	7/20 (水)	9:30から 12:00まで	増淵	5MHR	5
5	P検対策講座 (その1:タイピングとパソコン基 礎知識)	9/11 (土)	9:30から 11:30まで 13:00から 15:00まで	山下	情報 センター	2~4

2005年度実施実績

回	内 容	日 時	場 所	学 年	担 当
1	2級ボイラー技士 資格試験について	6月22日(水) 14:00	3MHR	3年生	伊澤
2	機械製図の復習 (2次元CAD操作)	7月7日(木) 17:00	情報センター	1年生 2年生	川村
3	英文輪講	7月21日(木) 9:00~ 12:00	専攻科棟 4階 講義室1	全学年	高島

パソコン検定補習授業

回	月 日	時 間	内 容
1	7/4(月)	17:00-19:00	タイピング・パソコン基礎
2	7/6(水)	15:00-17:30	OS・インターネット
3	7/13(水)	15:00-17:30	情報モラルと情報セキュリティ ワープロ基礎
4	7/19(火)	10:00-12:30	表計算

5	7 / 26 (火)	13 : 30 - 15 : 00	模擬試験
6	7 / 29 (金)	13 : 30 - 14 : 30	本試験

2006 年度実施実績

機械工学 Q&A

担当 高島

ボイラー技士資格試験について 担当 伊澤

勉強会 (大学編入学希望者を対象に実施) 担当 山下

2004, 2005, 2006 年度実施実績

回	内 容	回	内 容
1	行列の演算	2	極限
3	行列式	4	微分法
5	逆行列	6	関数の展開
7	連立1次方程式	8	微分の応用
9	1次変換	10	積分法1
11	固有値と固有ベクトル	12	積分法2
13	2次形式と標準形	14	微分方程式1
15	いろいろな行列	16	微分方程式2
17	ベクトルの内積・外積	18	複素関数
19	補足問題	20	補足問題
21	総合演習1	22	総合演習1
23	総合演習2	24	総合演習2
予備1	予備日	予備2	予備日

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料7-1-④-4：各種資格試験等に関する参考書の配架状況（図書情報センター）



(出典：図書情報センター)

資料7-1-④-5：TOEIC 1P受験状況

区 分	平成16年度		平成17年度		平成18年度	
	7月	12月	7月	12月	7月	12月
本 科	54	81	43	83	102	109
専攻科	0	5	5	8	8	4
計	54	86	48	91	110	113

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料7-1-④-6：学位授与申請説明会開催案内

専攻科2年生 各位

平成18年度学位授与申請手続き 説明会の開催について

このことについて、下記のとおり開催します。

記

1. 日 時 平成18年7月12日（水）15：30～
2. 場 所 多目的ホール（専攻科棟4F）
3. 内 容 申請書類等の配布，申請書類作成上のポイント等
4. 対 象 専攻科2年生各位

学位授与機構への学位申請は個人で申請します。手続き不備等で申請できなかったなど無いよう説明会には必ず出席して下さい。

なお、どうしても出席できない学生は事前に学生課まで来ること。

平成18年7月5日
学 生 課 掲 示

(出典：学生課教務係資料)

資料 7 - 1 - ④ - 7 : 留学規則

(7) 留学規則

(通 則)

第 1 条 この規則は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定、以下「学則」という。）第29条の第4項の規定に基づき、本校の学生が外国の高等学校又は大学等（以下「学校」という。）への留学（以下「留学」という。）に関し、必要な事項を定めるものとする。

(許 可 基 準)

第 2 条 留学は、以下の各号に該当する場合に許可するものとする。
 一 留学先の学校が正規の教育機関であり、体系的な教育課程を有していること。
 二 前号の学校に在籍することが許可されていること。
 三 留学の目的、理由等が当該学生にとって教育上有益であると認められること。

(申請及び許可)

第 3 条 留学しようとする学生は、原則として出国3ヶ月前までに留学願（別紙様式1）に、次に掲げる書類を添えて校長に願い出なければならない。
 一 留学先の学校の規模、沿革、教育方針、教育課程等が記載されている書類
 二 その他、校長が必要とする書類
 2 前項の願い出があったとき、校長は教務委員会の議に付し、前条各号の基準を満たしているものについては、これを許可するものとする。
 3 前項の許可を受けた場合において、出国前に留学の許可基準に該当しなくなったときは、その許可を取り消すことがある。

(期 間)

第 4 条 留学期間は、10ヶ月以上1年未満とする。ただし、特別の理由があると認められる場合は、留学期間の短縮及び1年以内の延長を認めることがある。
 2 留学期間を短縮又は延長しようとするときは、留学期間変更願（別紙様式2）を校長に提出し、その許可を受けなければならない。

(終了及び復学)

第 5 条 留学期間が終了したときは、速やかに復学願（別紙様式3）に、次に掲げる書類を添えて校長に提出し、その許可を受けなければならない。

- 一 留学元の学校が発行する教科科目の履修、出席の状況及び成績等の証明書
- 二 本人の留学に関する報告書

第 6 条 復学の際の学年については、教務委員会の審議の結果に基づき、校長が決定するものとする。

(単位の認定)

第 7 条 留学中の履修に係わる単位の認定は、個々の科目については行わず、当該留学生が留学先の学校に良好に履修したと認められる場合は、原則として第1学年、第2学年及び第3学年については一括して30単位を認め、評価は行わない。

(卒業時の修得単位の特例)

第 8 条 留学中の履修に係わる単位の認定を受けたものについては、第5学年の課程修了の認定を受け167単位以上の単位を修得しているときは、卒業を認めることができる。（学業成績の評価並びに学年異課程修了及び卒業の認定に関する規程第10条第4項第二号の括弧書き及び第18条の括弧書きの適用を除外する。）

(雑 則)

第 9 条 この規則に関し必要な事項は別に定める。

附 則

この規則は、平成9年4月1日から施行する。

附 則

この規則の施行日に、学則第26条の5に基づく留学中の者については、この規則を適用し許可したものとみなす。

附 則

この規則は、平成14年7月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：平成 18 年度学生便覧 p61, 62)

資料 7-1-④-8 : 海外研修募集要項

平成 18 年度
小山工業高等専門学校学生海外研修募集要項

1. 目的

小山工業高等専門学校の学生を海外に派遣することにより、諸外国の生活、文化を通じて広く国際感覚を身につけさせ、あわせて英会話の実践的能力を涵養することを目的とします。

2. 募集内容

(1) 研修先

オーストラリア・ケアンズ ジェームズクック大学ケアンズ校

(2) 旅行に要する費用

288,000円

(3) 募集人員

第3学年及び第4学年の学生のうち派遣を希望する者25名迄(希望者多数の場合は選考することがあります。また、15名に満たない場合は中止することがあります。)

(4) 募集期間

平成18年9月26日(火)～平成18年10月10日(火)

(5) 応募方法

所定の申込書に記入の上、学生課教務係へ提出してください。

(6) 派遣者の決定等

派遣者の決定は10月中旬に行います。また、旅行に関する説明会は10月下旬とその後3回程度行う予定です。

(7) その他

- ・学生の指導・相談のため本校の職員が同行します。また帰国後体験発表会を行います。
- ・今後世界情勢が悪化した場合は、本研修を中止することもあります。

3. 日程

日数	月日	滞在地	スケジュール
1	3/17(土)	成田発	日本出発空路オーストラリアへ
2	3/18(日)	ケアンズ着	ジェームズクック大学へ ホストファミリーと対面、各ホスト宅へ 午前 午後
3	3/19(月)	ケアンズ	語学研修 市内観光
4	3/20(火)	ケアンズ	語学研修 アクティビティ
5	3/21(水)	ケアンズ	語学研修 アクティビティ
6	3/22(木)	ケアンズ	語学研修 トロピカル動物園
7	3/23(金)	ケアンズ	グリーン島(グレートバリアリーフ)
8	3/24(土)	ケアンズ	ホストファミリーと過ごす
9	3/25(日)	ケアンズ	ホストファミリーと過ごす
10	3/26(月)	ケアンズ	語学研修 アクティビティ
11	3/27(火)	ケアンズ	地元学校訪問
12	3/28(水)	ケアンズ	語学研修 アクティビティ
13	3/29(木)	ケアンズ	語学研修 サヨナラパーティ
14	3/30(金)	ケアンズ発	成田着

※運行機関のスケジュールの変更、気象条件その他の事情で日程が変わることがあります。

4. 旅行費用に含まれるもの

航空運賃、手荷物料金(20kgまで)、空港使用料、ETAS、航空保険料
ホームステイ宿泊・食事、日程の観光料金、日程の団体行動の乗り物料金
語学研修費用、サヨナラパーティ費用、燃油サーチャージ(¥16000)

5. 旅行費用に含まれないもの

小遣い飲食代など個人的性格の費用、旅券印紙代、クリーニング代
ホームステイ中の登校、帰宅の交通費
海外旅行傷害保険料(任意)、日本国内交通費

6. 本研修に関する問い合わせ先

小山工業高等専門学校学生課教務係 電話 0285-20-2142

7. その他

参加者決定後、旅行に関する説明会を行います。

(出典：学生課教務係資料)

資料 7 - 1 - ④ - 9 : 海外研修参加状況

小山工業高等専門学校

学生の海外研修実施状況

実施年度	引率者	参加学生	参加費用	学生負担額	補助金額
H 9	引率 1 名 オーストラリア	学生 13 名 シドニー工科大学	318,000 3/21~4/4	268,000	50,000
H 10	引率 2 名 オーストラリア	学生 15 名 シドニー工科大学	285,000 3/13~3/28	235,000	50,000
H 11	引率 2 名 オーストラリア	学生 23 名 シドニー工科大学	268,000 3/11~3/26	218,000	50,000
H 12	引率 2 名 オーストラリア	学生 26 名 シドニー工科大学	258,000 3/17~4/1	208,000	50,000
H 13	引率 2 名 オーストラリア	学生 21 名 シドニー工科大学	284,000 3/16~3/31	234,000	50,000
H 14	引率 1 名 オーストラリア	学生 17 名 シドニー工科大学	289,000 3/15~3/30	259,000	30,000
H 15	中止	希望者 (10 名)	389,000	389,000	0
H 16	引率 1 名 オーストラリア	学生 23 名 ブリスベンマイアミステイト高校	300,000 3/18~3/28 (今年度より日程変更)	300,000	0
H 17	中止	希望者 (9 名)	320,000	320,000	0
H 18	引率 1 名 オーストラリア	学生 9 名 ジェームズクック大学ケアンズ校	332,000 3/19~3/30 (日程変更)	300,000	32,000

(出典：学生課教務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

資格試験及び外国留学に係る単位認定の規程が整備されており、受験案内及び受験指導等も行われている。また、海外研修制度も設けており、資格試験や、検定試験受講及び外国留学のための支援体制は整備され、機能している。

観点7-1-⑤： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生，編入学生，社会人学生，障害のある学生等が考えられる。）への学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

(観点に係る状況)

留学生については、クラス担任が学習面及び生活面の指導並びに助言を行っているほか、留学生相談員（チューター）が配置され、就学上のハンディである日本語を指導するとともに、学習面及び生活面でのアドバイスを行っている。チューターにはチューターマニュアルを配付し（資料7-1-⑤-1）、毎月、指導報告書を提出させている（資料7-1-⑤-2）。また、カリキュラム面では、人文社会系科目及び第2外国語（ドイツ語）を免除し、代替科目として日本語及び日本事情を履修することとしている（資料7-1-⑤-3）。

編入学生については、合格決定後、参考資料や演習問題を送付し、あらかじめ学習しておくよう指導している（資料7-1-⑤-4）。また、入学後も必要に応じ補講などを行っている。

なお、外国人留学生及び編入学生の受け入れ状況を資料7-1-⑤-5，6に示す。

資料7-1-⑤-1 : チューターのためのマニュアル

チューターのためのマニュアル

小山工業高等専門学校

- 1 -

資料7-1-⑤-1 (続き)

1. チューターの皆さんに

はじめに：

皆さん、このたびは留学生のチューターをお引受けいただき、ありがとうございます。

皆さんの中には、チューターの経験があり、チューターの活動に大きな抱負を抱き、積極的に取り組む用意のある方もいるでしょう。しかし、おそらく皆さんの多くがチューターとして何をしたらよいのか、あれこれと思いをめぐらせ、一抹の不安を抱えているかも知れません。

チューター制度は、文部科学省の制度によって定められています。チューターとなった皆さんが、この制度の目的を理解され、その役目を不安や迷い、大きな負担を感じることなく果たせるよう、少しでも参考になり、指針になればと思っています。このマニュアルを活用し、この制度の美りあるものにするよう願っています。

ここに記された事項は、あくまでも参考にすぎませんので、これらにとらわれる必要はありません。若い皆さんの情熱・知性・感性と創意工夫を生かした活動を期待するとともに、チューター活動を通じて得た皆さんの貴重なご意見等を速慮なく、お聞かせください。

2. チューター制度とその目的

外国人留学生（以下「留学生」という。）が、来日後（又は自国において）、短期間に日本語を習熟し、日本の慣習に慣れ、学習・研究の効果を上げるためには、学習はいうに及ばず、日常生活にもきめ細かい長時間にわたる対話・助言・指導等の交流が必要です。このような助言、又は個別指導を行うのは教員だけでは困難な面もあり、これを補助するために、このチューター制度が設けられています。

したがって、本校では留学生が授業に関する理解や学生生活、あるいは地域の社会生活に一日も早く慣れるように積極的に、助力し、又は悩み事等の相談にのってあげたりするのが、チューター活動の目的と考えています。

以上述べた制度の目的から明らかなように、チューター活動の対象となる留学生は、3年次編入学の場合は、最初の2年間（4年次編入学の場合は、1年間）

資料 7-1-⑤-2 : 平成 18 年度留学生相談員指導報告書

平成 18 年度留学生相談員指導報告書

平成 18 年 6 月 7 日

小山工業高等専門学校長 殿

留学生氏名

留学生相談員

指導教員

--



平成 18 年 5 月分の指導を下記のとおり行いましたので報告いたします。

記

日	曜日	指導時間	時間数	指導内容
6	土	15:00 ~ 16:00	1	模型に必要は買物の指導等
7	日	19:00 ~ 21:00	2	(レポートの添削)
10	水	19:00 ~ 20:00	1	設計の発表のし方の説明
17	水	21:00 ~ 23:00	2	設計の説明
18	木	20:00 ~ 21:00	1	テストに7112, 設計
21	日	17:30 ~ 18:30	1	テストの過去問の説明等
27	土	18:00 ~ 20:00	2	テスト勉強の方法
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		: ~ :		
		合計	10	

※ 指導教員の確認印を受けてから
翌月 3 日までに学生係に必ず提出してください。

(出典 : 平成 18 年度学生課留学生相談員指導報告書)

資料7-1-⑤-3：外国人留学生規程

小山工業高等専門学校外国人留学生規程

制 定 昭和58年4月1日

最終改正 平成16年4月1日

(趣旨)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第51条の規定に基づき、小山工業高等専門学校に受け入れられる外国人留学生（以下「留学生」という。）に関する入学及び教育指導の特例を定めるものとする。

(入学)

第2条 校長は、文部科学省が定めた日本語教育の課程を修了した留学生に対して、特定の学年学科に入学を許可する。

(教育課程)

第3条 留学生については、本校の通常の授業を受ける上で必要な日本語その他の学力を養うため、別表のとおり、特別に編成された教育課程の学習をもって、通常の教育課程の一部の履修に代えることができる。

2 前項の特別な教育課程の編成は、学科長及び留学生指導教員の協力を得て校長補佐（教務担当）が行う。

(留学生指導教員)

第4条 留学生に対し、学習及び生活に関して、必要な指導助言を与えるため留学生指導教員を置く。

2 留学生指導教員は校長が委嘱するものとし、校長又はその補助機関に対して、必要な建議を行うことができる。

(留学生相談員)

第5条 留学生の日本語能力の不足等就学上の問題解決を援助するため、留学生相談員を置く。

2 前項の留学生相談員は、学生の中から学科主任の推薦に基づき、校長が委嘱する。

3 留学生相談員は、適宜、留学生の相談に応ずるとともに、定期的に留学生指導教員に連絡して、その指導を受けるものとする。

(対外事務)

第6条 留学生が、わが国の法令等に基づき、処理しなければならない事務手続等の助言については、学生課において行うものとする。

資料7-1-⑤-3 (続き)

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

別表

学年 事項	3		4		5	
免除科目	国語、歴史 倫理、社会 など	6単位 以上	ドイツ語Ⅰ ドイツ語Ⅱ	4単位		
代替科目	日本語 日本事情 など	6単位 以上	日本事情Ⅱ	2単位	日本事情Ⅲ	2単位

(出典：平成18年度学生便覧p84, 85)

資料7-1-⑤-4：編入学予定者への通知文

18.9.27

編入学予定学生 各位

小山工業高等専門学校
校長補佐（教務担当）
瀧澤 雄三
[公印省略]

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

このたびは本校編入学試験に合格され、高校最後の勉学に励んでいる頃と思います。

つきましては、来春の本校4年生と同じスタートに向け、これから入学までの間に同封内容の勉強をしてくださるようお願いいたします。

また、本校では、学生会主催の学園祭（工陵祭）を来る11月4日（土）5日（日）の両日に別紙のとおり開催します。本校を理解してもらううえで大変良い機会ですから、学内を自由に見学し、各種イベントに参加し本校入学後の学生生活の参考にされるよう希望します。

なお、入学手続き日は、3月7日の予定です。詳細については、2月中旬頃連絡いたします。その他、ご不明の点がありましたら下記にご連絡ください。

敬 具

問い合わせ先

担 当 学生課教務係

T E L

F A X

E-Mail

資料 7 - 1 - ⑤ - 4 (続き)

平成 19 年度小山工業高等専門学校に編入学された諸君へ

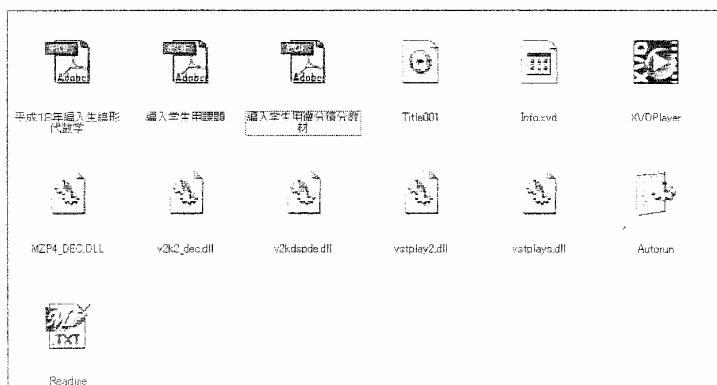
小山工業高等専門学校の 1 年生から 3 年生までは、一般科目の授業の教科書のほとんどは高等学校の教科書と同じです。
しかし数学に関しては、専門とのつながりからかなり高度な高専独自の教科書を用いています。これは、高等学校の数学 ABC にあるような図形や教養的なものよりも、微分積分学、線形代数などの直接に科学に結びつく内容が重要だからです。

おそらく諸君は、最初の授業で随分と戸惑うことになるでしょう。その較差を埋めるために、数学科では諸君が入学までに準備しておく教材を CD で配布しています。

諸君は最初にこのようなフォルダに出会うでしょう。



このフォルダを開くと



このようなアイコンの列に出会います。まず開いて欲しいのは、編入学生を課題、平成 18 年編入生線形代数学の……つです。編入生線形代数学の方は、行列および行列式についてのテキストからの抜粋です。ヒントと解答をつけました、順序通りうまくできないかもしれませんが、全体に目をおしてみてください。

資料7-1-⑤-4 (続き)

「編入生を題」は微分積分学について、計算技術のみ書いたものです。証明、導入にあたる实例は極力省きました。中にも書きましたが、丸写しでも良いですから計算技術を習得してください。ただし、いきなりでは難しいので動画ファイルも用意しました。

諸君の利用できるパソコンによっては有効に活用できないかもしれません。その時は「編入学生用微分積分教材」に（解答書き込みをした）動画のマスターが入っております。それを見てください。

この動画のファイルを活用するにはXVDプレイヤーというボタンを押してください。



XVDPlayer

スライダーがついていますから、それを動かせば任意の場所時間の所に行くことができます。

計算のやり方が分からないときには、何回も動画の部分を見てください。

小山高専数学科、玉木正一

資料7-1-⑤-4 (続き)

編入学生への連絡事項

工業高校卒業生

機械設計関係で使用した教科書を充分復習し理解しておくこと。
内容は(力と仕事、材料の強さ、ねじ、軸など)

普通高校卒業生

工業高校用教科書(例えば、実教出版 基礎シリーズ 機械要素概論1)を入手し自習すること。
書店に問い合わせても入手不明のときは下記に問わせてください。

参考として、現在本校で使用している教科書を紹介します

3、4年の「機械設計法」

コロナ社

機械系教科書シリーズ4

機械設計法

三田 純義(他)著

¥3400+税

1～4年の製図

高等学校工業用

7 実教 工業 029 機械製図

(実教出版)

である。

その他、材料力学、工業力学、材料学などを含めて事前に学習することが望ましい。

質問がありましたら気軽に問合せ先まで連絡してください。

問合せ先 機械工学科 教務委員 伊澤 悟(いざわさとる)

TEL: E-mail:

資料 7 - 1 - ⑤ - 4 (続き)

《平成 19 年度・電気情報工学科・編入学予定者への連絡事項》

この度は、小山工業高等専門学校・電気情報工学科の編入学試験に合格され、おめでとうございます。教員・学生一同、心から歓迎いたします。

本校編入学までは、まだ期間がありますので、それまでに以下の事柄について勉強しておいてください。これらの科目は、電気情報工学科 4 年次における授業の基礎となりますので、しっかり勉強されることを望みます。

尚、勉学その他に関する質問事項がありましたら、遠慮無く担当教員あるいは学科長までお問い合わせください (E-mail address は、小山高専ホームページを参照してください)。

小山工業高等専門学校・電気情報工学科長 森 夏樹

「情報工学Ⅱ」

通常では、3 年次のこの講義で C 言語を習得します。そしてこれを基礎に、4・5 年次では応用や他の言語を学習したり、卒業研究ではプログラムを作成したりします。よって編入学後、必ず必要になる教科といえます。

そこで、卒業までに基本情報技術者試験問題が理解できる程度の能力をつけるよう努力してください。具体的には「ANSI 準拠の C 言語が理解でき、簡単なプログラムを作成できること。」を指します。教科書、参考書は以下のものを使用・推奨しています。

○教科書：河西朝雄「入門ソフトウェアシリーズ 1 C 言語」(ナツメ社)

○参考書：八鍬幸信「基本情報技術者試験 らくらく突破 C 言語」(技術評論社)

○担当教員：今成 雄 TEL FAX

「電子回路」

3 年次で 2 単位、4 年次で 1 単位のアナログ電子回路の科目です。4 年次には 3 年次での学習をベースに、その応用として電源回路、発振回路、変復調回路を設計することを王眼に学習します。教科書は下記のものを使用していますので、近くの書店で購入し、事前学習として、以下に示す事項については理解しておくよう努めてください。章末演習問題が解けるようであれば問題ありません。質問等があれば、担当教員まで連絡してください。

○教科書：須田健二・土田英一著「電子回路」(コロナ社、2003 年発刊)

○事前学習事項 (上記の教科書の 1～5 章、7 章、8 章)：

バイポーラ・FET トランジスタの動作原理および静特性、各接地方式の特徴、
バイアス設計法、小信号等価回路の作図要領、RC 結合形・直結形・変成器結合形
アンプの特徴 (増幅度と周波数特性)、B 級プッシュプルパワーアンプの設計法、
フィードバック回路の特徴、オペアンプの基本回路とオペアンプを用いたフィルタ
回路

○担当教員：土田英一 TEL FAX

(次ページに続く)

「電気磁気学」

電気磁気学は、電気情報工学科における基礎となる科目で、一般学生は 2 年次と 3 年次に亘り 2 年間勉強しています。現在、3 年次で使用している以下の教科書あるいは、その他の電気磁気学の標準的教科書を購入して、勉強しておいてください。4 年からは、その内容を理解していることを前提として、授業を進めます。

○教科書「 Semester 物理 電気磁気学」大槻義彦 著、学術図書出版社 (1300 円+税)
(各章の終わりの問題を解くことが望ましい。)

○特に重要な項目：ガウスの法則、各種キャパシタの静電容量、アンペールの法則、
電磁誘導、電磁場の方程式

○担当教員：森夏樹 TEL FAX

=以上です。=

資料7-1-⑤-4 (続き)

電子制御工学科編入生 殿

2006/9/25

小山工業高等専門学校
電子制御工学科

「編入学準備のお知らせ」

下記の書類を同封致しますので御参照ください。

記

1. 編入学前指導について
- 1-1. 添削課題
- 1-2. 要点資料
- 1-3. 伝言板
2. 編入学前自習について
3. 学習調査のお願い

ご返送の宛先及びご不明な点のご連絡先：

〒323-0806 栃木県小山市大字中久喜771
小山工業高等専門学校
電子制御工学科 金野 茂男 (入学後の担任予定者です)
TEL: FAX:
E-mail:

資料7-1-⑤-4 (続き)

平成19年度編入学生へのお願い

2006/10/01

小山高専 建築学科

- (1) 英検を受験すること。準備が間に合わなくて受験できない場合は、これから準備をして小山高専に入学後 TOEIC、英検等を受験するようにしてください。
 - (2) 物理の教科書にある力学の章を勉強すること。
例題、演習問題を解いてノートに書き込むこと。
 - (3) 数学の勉強をしっかりとすること。
微分・積分を復習し $y = ax^2$ を微分すると $dy/dx = 2ax$ になることを証明しなさい。
次の3元1次連立方程式を解いてくること。解法はまかせます。

$$8x - 16y + 5z = -46$$

$$3x + 8y - 4z = 116$$

$$-5x + 6y + 8z = -66$$
 - (4) 次ページの演習問題を解きなさい。
 - (5) 3年間の設計課題を整理しておくこと。
 - (6) 英語の基礎学力を養っておくこと。
- (2)、(3)、(4) 項はノートに記して平成19年4月に建築学科 4年担任に提出してください

(出典：学生課教務係資料)

資料7-1-⑤-5：留学生受け入れ状況

年 度		16	17	18	受入累計
政府派遣	マレーシア	3	5	7	46
国 費	マレーシア				2
	中 国				10
	韓 国				2
	タ イ				1
	スリランカ				2
	カンボジア		1		2
	モンゴル				3
	インドネシア	1			5
	ベトナム		1	2	5
	ミャンマー				1
	ラオス				3
	ブラジル				1
	フィリピン				1
		計	4	7	9

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料7-1-⑤-6：年度別編入学者数

	平成13年 度			平成14年 度			平成15年 度			平成16年 度			平成17年 度		
	志願者数	入学者数	卒業生数	志願者数	入学者数	卒業生数	志願者数	入学者数	卒業生数	志願者数	入学者数	卒業生数	志願者数	入学者数	卒業生数
機械工学科	2	1	1	7	4	4	11	5	5	9	4	4	6	2	2
電気工学科	10	2	2	3	1	1	4	2	2	—	—	—	—	—	—
電気情報工学科	—	—	—	—	—	—	—	—	—	7	2	2	14	1	1
電子制御工学科	9	1	0	6	2	2	7	1	1	3	0	0	3	1	1
物質工学科	5	1	1	2	0	0	2	0	0	3	1	0	3	0	0
建築学科	10	2	2	7	2	2	9	2	2	9	4	4	11	3	3
合 計	36	7	6	25	9	9	33	10	10	31	11	10	37	7	7

注) 卒業生数は当該年度入学者の内、2(3)年ご卒業した者を示す。

(出典：学生課教務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生には、クラス担任及びチューターが学習面及び生活面の指導並びに助言を行っており、編入

学生については入学前及び入学後に学習面で必要な指導を行っており、特別な支援が必要な学生に対する支援体制は整備され、適切に支援が行われている。

観点7-1-⑥： 学生のクラブ活動や学生会等の課外活動に対する支援体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生会の規約、組織を資料7-1-⑥-1, 2に示す。クラブ活動も学生会活動の一環として位置づけられている。学生会の運営は、教育的観点から主体性を認めつつ、学生担当補佐などが指導及び助言を行っている。クラブ活動についてはすべてのクラブに指導教員を配置し、各クラブの活動を指導及び助言している(資料7-1-⑥-3)。また、工陵祭(学園祭)及び球技大会等の諸行事も学生会の運営を基本とするが、校長補佐(学生担当)等が必要に応じ指導及び助言している。平成19年度からは学生会と校長補佐(学生担当)及び学生担当補佐との間で学生会の運営を中心に意見交換する場として定期懇談会を開催することとした。

財政的支援としては、後援会が各種行事の参加費、旅費及び雑費などの補助並びに工陵祭の運営費の補助を行っている(現地閲覧資料7-1)。

なお、課外活動等に係る施設を資料7-1-⑥-4に示す。

資料7-1-⑥-1：学生会規約

<p>(1) 学生会規約</p> <p>第1章 総 則</p> <p>第1条 本会は、学生準則第21条に基づくもので、小山工業高等専門学校学生会と称する。</p> <p>第2条 本会は、学校の教育方針にのっとり、学生の自発的な活動を通してその人間形成を助長し、相互の親和と啓蒙に努め、学生生活の向上を図ることを目的とする。</p> <p>第3条 本会は、本校の学生全員をもって構成し、教員を顧問とする。</p> <p>第4条 校長補佐(学生担当)及び本会の顧問教員は、総会、評議会等の各種会議に出席して本会の運営、活動について指導助言することができる。</p> <p>第5条 会員は、学年を問わず会員としての平等な権利を持つとともに、その責任と義務を負わなければならない。</p> <p>第6条 本会の活動は、総会の承認を得た予算及び事業計画に基づいて実施するものとする。</p> <p>第2章 役 員</p> <p>第7条 本会に次の役員を置く。 会長、副会長、会計局長、渉外局長、広報局長、庶務局長。</p> <p>第8条 役員は、4月1日から3月末日までとし、欠員補充などによって任命された役員は前任者の在任期間とする。(なお、1～3月は引継ぎ期間とし、新旧役員は協力して活動を行う)</p> <p>第1節 会長・副会長</p> <p>第9条 会長は、本会を代表し、会務を執行する。</p> <p>第10条 副会長は、会長を補佐し、会長に事故がある時はこれに代わる。</p> <p>第11条 会長及び副会長は、全会員の選挙により選出し、校長の承認を受ける。</p> <p>第2節 会計局長</p> <p>第12条 会計局長は、次のことをつかさどる。 一 学生会の予算案及び決算書の作成 二 決算及び会計監査に必要な書類の整備 三 その他、会計に関する事務</p> <p>第13条 会計局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。</p> <p>第3節 渉外局長</p> <p>第14条 渉外局長は、次のことをつかさどる。</p>	<p>一 他校学生会との情報交換 二 学生会に届く各種書類の処理 三 その他、渉外に関する事務</p> <p>第15条 渉外局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。</p> <p>第4節 広報局長</p> <p>第16条 広報局長は、次のことをつかさどる。 一 学生会活動の会員への報告 二 広報委員会との連絡、機関新聞の発行 三 その他、広報に関する事務</p> <p>第17条 広報局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。</p> <p>第5節 庶務局長</p> <p>第18条 庶務局長は、次のことをつかさどる。 一 学生総会及び各種運営委員会の記録 二 各種実行委員会、各部との連絡、調整 三 その他、庶務に関する事務</p> <p>第19条 庶務局長は、会長が会員の中から若干名指名し、総会の承認を得るものとする。</p> <p>第20条 庶務局長は、本会の主要行事に関する記録(写真を含む)を資料として保存しておかなければならない。保存する記録の基準は、次のとおりとする。 一 役員名簿 二 諸規約、予算決算報告書、事業計画及び同報告 三 各部の対外試合、発表会等の記録 四 文化祭等本会が実施した行事の記録 五 その他、本校の学生関係行事の記録</p> <p>第3章 機 関</p> <p>第21条 本会の目的を達成するため、次の機関を置く。 一 総 会 二 評議会 三 執行部 四 実行委員会 五 監査委員会</p> <p>第1節 総 会</p> <p>第22条 総会は、本会の最高決議機関である。</p>
--	---

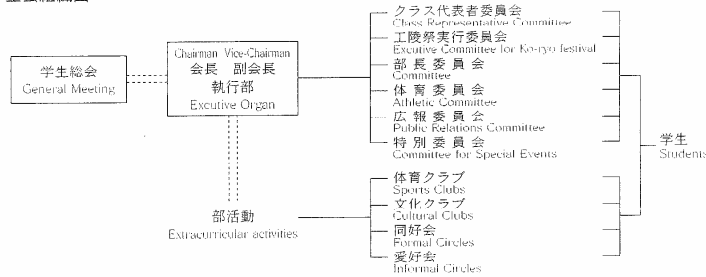
(以下省略)

(出典：平成18年度学生便覧 p106～112)

資料 7-1-⑥-2 : 学生会組織図及びクラブ一覧

学生会 Student Council (Students' society)

(1) 学生会組織図 Student Council Chart



(2) クラブ活動 Extracurricular activities

① 体育クラブ現況 Sports Clubs

クラブ名 Club	部員数 Number of Members	クラブ名 Club	部員数 Number of Members	クラブ名 Club	部員数 Number of Members
硬式野球部 Baseball	20	バスケットボール部 Basketball	22	空手道部 Karate	15
柔道部 Judo	7	サッカー部 Soccer	18	テニス部 Tennis	35
剣道部 Kendo	19	バレーボール部 Volleyball	19	バドミントン部 Badminton	24
陸上競技部 Track and Field	24	ワンダーフォーゲル部 Wandervogel (Mountain Climbing)	3	ソフトテニス部 Softball Tennis	7
卓球部 Table Tennis	16	水泳部 Swimming	11		

② 文化クラブ現況 Cultural Clubs

クラブ名 Club	部員数 Number of Members	クラブ名 Club	部員数 Number of Members	クラブ名 Club	部員数 Number of Members
吹奏楽部 Wind Orchestra	29	シネマ研究部 Cinema (Study)	12	自然生物研究部 (Natural Life) Bird Watching	11
写真部 Photography	7	エレクトロニクス研究部 Electronics (Study)	29	文芸部 Literary Club	20
軽音楽部 Light Music	40	機械工作研究部 Mechanical Engineering	23		

③ 同好会・愛好会現況 Formal and Informal Circles

同好会・愛好会名 Formal or Informal Circle	会員数 Number of Members	同好会・愛好会名 Formal or Informal Circle	会員数 Number of Members	同好会・愛好会名 Formal or Informal Circle	会員数 Number of Members
将棋同好会 Shogi	8	弓道愛好会 Japanese archery	6	ハンドベル愛好会 Handbell	15
ビデオゲーム研究同好会 Video Game (Study)	5	女子サッカー愛好会 Women's Soccer	14	二次創作研究会 Fan-fiction (Study)	9
				航空技術研究愛好会 Aircraft-technology (Study)	8

資料 7-1-⑥-3 : 学生会各部指導教員一覧表

(参考)

平成18年度 学生会各部指導教員一覧

部名(体育部)	指 導 教 員
硬式野球部	川上勝弥・山本嘉孝・玉木正一・有坂顕二・土田英一 高島武雄・山下進・山田靖幸
柔道部	高橋純一・島田 勉・今成一雄・川村壮司・千田正勝・市村智康
剣道部	塩入俊次・有坂夏菜子・笠原雅人・亀山雅之・小林幸夫・小林一光
陸上競技部	三原大介・土田英一・渥美太郎・田中好一・甲斐隆章
卓球部	渡利久規・宇津木晨晴・胸組虎胤・大嶋建次・中田伸一・北野達也
バスケットボール部	須甲克也・武 成祥・小野雄一・山本 昇・久保和良・菊池吉郎・中山光幸
サッカー部	石崎聡之・伊澤 悟・南斉清巳・高橋大輔・白石光昭・平田克己
バレーボール部	佐藤 敏・尾立弘史・田中孝国・奥富利幸・石原 学・山本貴正
ワンダーフォーゲル部	糸井康彦・堤 欣三・須甲克也・増淵 寿・金野茂男・伊藤久夫
水泳部	鹿野文久・長谷川 誠・笹沼いづみ・飯島道弘・新井一道
空手道部	瀧澤雄三・酒入陽子・新井一道・杉山桂子・笹沼いづみ・森田英章
テニス部	鈴木真ノ介・吉田裕志・田中昭雄・西野 聰・大島隆一・井上次夫・川越大輔
バドミントン部	小野雄一・渡邊達男・斉藤光司・松島隆裕・山崎敬則
ソフトテニス部	朱 勤・白石光昭・祇園寺則夫・森 夏樹

部名(文化部)	指 導 教 員
吹奏楽部	柴田洋一・猪瀬善郊・田中孝国・柴田美由紀
写真部	山下進・森 夏樹・田中昭雄
軽音楽部	松島隆裕・小林幸夫・久保和良
シネマ研究部	松島隆裕・小林幸夫・柴田美由紀・笠原雅人
エレクトロニクス研究部	今成一雄・平田克己・南斉清巳
機械工作研究部	山下進・伊澤 悟・増淵 寿・田中昭雄
自然生物研究部	上村 孝・浦田克郎
文芸部	松島隆裕・柴田美由紀・渥美太郎

部名(同好会)	指 導 教 員
ビデオゲーム研究同好会	平田克己
将棋同好会	山本嘉孝・島田 勉・笠原雅人・胸組虎胤・高島武雄

部名(愛好会)	指 導 教 員
弓道愛好会	有坂顕二
女子サッカー愛好会	飯島道弘
ハンドベル愛好会	杉山桂子・酒入陽子・柴田洋一
二次創作研究会	朱 勤
航空技術研究愛好会	朱 勤

※この一覧表は参考に掲載したものであり、平成19年度の各部指導教員は変更があることもあります。

(出典：平成19年度学生便覧 p162)

資料7-1-⑥-4：課外活動施設等一覧

体育施設の概要

施設名称		附属設備等
グラウンド	9,472	300mトラック(トラック内は天然芝で多目的に使用)、器具庫
野球場・サッカー場	11,485	屋外便所
テニスコート	4,782	人工芝6面、テニス練習板
第一体育館	1,106	ステージ、舞台設備、トレーニング設備、バレー・バスケット他、温水シャワー
第二体育館	880	バレー・バスケット他、温水シャワー
武道館	349	柔道、剣道
水泳プール	524	25m×5コース、屋外プール、温水シャワー

体育施設は、授業や課外活動に使用するほか、休日等の未使用時には地域開放にも供している

(出典：総務課施設係資料)

(分析結果とその根拠理由)

学生会に対する指導及び助言、クラブ活動に対する指導教員の指導及び助言体制が確立しており、また、財政的支援も行われ、課外活動施設も整備されている。

観点7-2-①： 学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

厚生補導に係る全学委員会として学生委員会が設置されている(資料7-2-①-1)。また、学生相談に係る全学的組織として学生支援室が設置されており、室員が交替で毎日昼休みに学生支援室で待機し、学生の相談に応じている(資料7-2-①-2, 3)。また、非常勤であるが心理療法士のカウンセラーを配置し、学生のメンタル面での相談に応じている(資料7-2-①-4)。

保健室には看護師が常駐し、学生の病気及びけが等の応急処置を行っているほか、学生の身体的、精神的な相談などにも応じている(現地閲覧資料7-2)。

毎年、厚生補導研究会を開催し、学生の厚生補導に関する種々の問題について研究討議し、学生指導面の資質向上を図っている(資料7-2-①-5)。また、経済面に係る支援としては、授業料免除制度及び奨学金制度があり、実施状況を資料7-2-①-6に示す。

資料 7 - 2 - ① - 1 : 学生委員会規程

小山工業高等専門学校学生委員会規程

制 定 昭和49年4月1日

最終改正 平成16年4月1日

第1条 小山工業高等専門学校に、学生委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学生の身上に関する事。
- 二 学生会及び学生団体に関する事。
- 三 課外活動及び学生生活に関する事。
- 四 学生の保健衛生に関する事。
- 五 その他学生の厚生補導に関する事。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 校長補佐（学生担当）
- 二 学生補佐
- 三 専門学科教員から各1名及び一般科教員から2名
- 四 学生課長
- 五 学生係長
- 六 その他校長が必要と認めたもの

第4条 委員会は、校長補佐（学生担当）が招集し、その議長となる。

第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

第6条 委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

附 則

この規程は、昭和42年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和51年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和53年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 7 - 2 - ① - 2 : 学生支援室規則

小山工業高等専門学校学生支援室規則

制 定 平成13年1月15日

最終改正 平成16年4月1日

(設置の目的)

第1条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、学生の様々な悩みに応えることにより、学生が本校において円滑な学生生活を送ることができるように、適切な助言及び援助等を行うこと(以下「学生支援」という。)を目的として学生支援室(以下「支援室」という。)を置く。

(支援室の業務)

第2条 支援室においては次に掲げる業務を行う。

- 一 修学に係る学生の個人的な相談・支援に関する事。
- 二 奨学金や学費等の経済的な問題の相談・支援に関する事。
- 三 進学や就職等の進路の相談・支援に関する事。
- 四 セクシュアル・ハラスメントの相談・支援に関する事。
- 五 学生の個人的な精神・心理的な心因性の問題の相談に関する事。
- 六 前各号の業務の実施に必要な資料の作成及び調査研究に関する事。
- 七 その他学生の相談・支援に関する事。

(相談員)

第3条 支援室には次の相談員を置く。

- 一 室長 1名
 - 二 カウンセラー 若干名
 - 三 室員 若干名
- 2 室長及び室員は、本校教員の中から校長が任命する。
- 3 カウンセラーは、カウンセリングに関する専門的知識や経験を有する者を当て、校長が委嘱する。

(任期)

第4条 室長の任期は2年とし、室員及びカウンセラーの任期は1年とする。

- 2 相談員は、これを再任することができる。

(支援室業務の処理)

第5条 室長は、校長の命を受け、支援室の業務を掌理する。

- 2 室員は室長を補佐し、支援室の業務に従事する。

(相談員の義務)

第6条 相談員は、業務上知ることができた秘密を漏らしてはならない。相談員を退いた後といえども同様とする。

- 2 相談員は、必要に応じてカウンセリング等に関する専門的な研修を受けるものとする。

(委員会の設置)

第7条 支援室の運営に関する事項を審議するため、本校に学生支援室運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(委員会の組織)

第8条 委員会は次の委員をもって組織する。

資料7-2-①-2 (続き)

- 一 室長
- 二 室員
- 三 学生課長
- 四 学生係長
(委員長)

第9条 委員会に委員長を置き、室長をもって充てる。

(会議)

第10条 委員長は、必要に応じて委員会を招集し、議長となる。

ロ 委員長は、必要があると認めたときは委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(事務)

第11条 支援室及び委員会に関する事務は、学生課学生係において処理する。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 7 - 2 - ① - 3 : 相談担当者カレンダー

学生支援室 2007年1月

相談日時、相談担当者カレンダー

SUN	MON	TUE	WEN	THU	FRI	SAT
	1 お正月	2	3	4	5	6
7	8 成人の日	9 授業開始	10 1220-1300 有坂(夏) 1000-1630 □カウンセラー	11 1220-1300 酒入	12 1220-1300 松島	13
14	15 100-1630 □カウンセラー 1400-1420 渡邊	16	17 1220-1300 有坂(夏) 1000-1630 □カウンセラー	18 1220-1300 酒入	19 1220-1300 松島	20
21	22 1200-1400 □カウンセラー 1400-1420 渡邊	23	24 推薦入試 (臨時休業)	25 1220-1300 酒入	26 1220-1300 松島 1000-1630 □カウンセラー	27
28	29 1200-1400 □カウンセラー 1400-1420 渡邊	30	31 1220-1300 有坂(夏) 1000-1630 □カウンセラー			



□カウンセラーの先生の時間が増えました！
水曜日と1/15、1/26は□先生がこられます。時間は10:00～16:30です。
月曜日には□先生がこられます。時間は12:00～14:00です。
上のカレンダーの時間に学生支援室(保健室のとなりのへや)、もしくは
保健室で相談を行っています。相談予約は保健室にご相談ください！



(出典：学生支援室資料)

資料7-2-①-4：学生支援室相談受付状況

1) 平成18年度 学生支援室の相談件数

勤務月	カウンセリング数
4月	0件
5月	1件
6月	6件
7月	5件
9月	1件
10月	0件
11月	0件
12月	0件
1月	0件
2月	0件

2) Aカウンセラーのカウンセリング記録

勤務月	カウンセリング数
4月	0件
5月	0件
6月	1件（学校生活について）
7月	1件（女の子との出会いについて）
9月	1件（自身の不安傾向について）
10月	0件
11月	0件
12月	0件

資料7-2-①-4 (続き)

3) Bカウンセラーのカウンセリング記録

月	件数	相談内容
4月	1件(1名)	保護者→最近の様子 1年の教室で支援室紹介
5月	6件(4名)	学校生活・その他
6月	5件(3名) 教員との話し合い	学校生活・進路・ 保護者→今後の方針
7月	3件(3名)	学校生活・性格診断・自分について
9月	7件(5名)	進路・不安傾向・人間関係 うつ・学校生活
10月	18件(8名)職 員4件	将来と現状・人間関係・うつ 今後について
11月	24件(9名)職 員1名 教員打合せ3件	学校生活・体調・自己コントロールの仕 方・心理テスト・ 不登校
12月	15件(8名)教 員打合せ 5件	現状と今後について 心理検査・イライラ感 学校生活・寮生活
1月	16件	
2月		

(出典：学生支援室資料)

資料7-2-①-5：厚生補導研究会開催通知

平成18年 月 日

教職員各位

学校長 藤本光宏

平成18年度厚生補導研究会の開催について（案）

このことについて、今年度は「学生指導について」というテーマで教職員の方々に自由に意見交換していただく場を下記のとおり設けました。

諸事にご多忙の折りとは思いますが、ふるってご参加くださるようお願いいたします。

記

日時 平成18年12月20日（水）15時10分～17時00分
場所 本校専攻科棟4階 多目的ホール
協議内容 1. 学生指導に関する教員の連携について
2. 学生のメンタルヘルスケアについて

（出典：学生課学生係資料）

資料7-2-①-6：授業料免除実施状況及び奨学金受給状況

授業料免除者数

年度（前・後期）		全額免除人数	半額免除人数	年度合計数
平成16	前期	37	7	82
	後期	31	7	
平成17	前期	27	9	68
	後期	20	12	
平成18	前期	34	6	75
	後期	27	8	

（出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書）

日本学生支援機構奨学生状況

□日本学生支援機構 平成18年度

区分	学年	1年	2年	3年	4年	5年	専攻科1年	専攻科2年	計
第1種奨学生		8	4	14	7	9	0	2	44
第2種奨学生		0	0	0	3	0	0	1	4
計		8	4	14	10	9	0	3	48

（出典：2007 学校要覧 p41）

（分析結果とその根拠理由）

厚生補導に係る全学的な問題は学生委員会が対処し、個々の学生指導・相談・助言はクラス担任、学生支援室及びカウンセラーが対応している。また、厚生補導研究会などにより関係教員の学生指導に係る資質向上にも努めている。経済的支援についても授業料免除制度等を整備しており、学生の生活及び経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され、機能している。

観点7-2-②： 特別な支援を行うことが必要と考えられる者（例えば、留学生、障害のある学生等が考えられる。）への生活支援等を適切に行うことができる状況にあるか。
また、必要に応じて生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生は全員学生寮に入居している。学生寮には留学生用の設備として補食室及びシャワー室を設置し、食生活及び生活習慣の違いに配慮している（資料7-2-②-1）。寮生活においては、校長補佐（寮務担当）、寮務補佐、寮務係及び留学生相談員などが生活の指導及び助言を行っている。また、毎年、留学生実地見学旅行を実施し、視野の拡大と学生生活の一層の充実を図っている（資料7

－2－②－2）。

なお、平成19年度から、学生寮において、校長補佐（寮務担当）等が毎月、留学生との懇談会を開催し、留学生の要望や悩み等を聞くことを始めた。

障害を持つ学生は現在在学していないが、車椅子用スロープ、エレベーター及び障害者用トイレを設置し（資料7－2－②－3）、構内のバリアフリー化に努めている。

資料7－2－②－1：留学生用シャワー室



留学生用補食室



（出典：学生寮）

資料7-2-②-2：実地研修実施要項

留学生実地見学旅行実施要項(案)

1. 目的 外国人留学生の日本文化・歴史と最新技術の発電所の見学を通して、留学生の視野の拡大と学生生活の一層の充実を図る。

2. 参加者 留学生 17名
留学生担当日本語講師 1名
留学生担当教員 2名
学生課職員 2名

3. 日程 1/20(土)
8:00 小山高专発(日程等説明)
11:40~12:40 いわき市石炭・化石館見学
13:00~14:30 いわきら・らミュウ・昼食
14:40~16:40 アクアマリンふくしま見学
16:40~17:10 いわき東急イン泊

1/21(日)
8:00 宿舎出発
10:00~13:20 福島第二原子力発電所エネルギー館
研修・昼食
13:30~17:30 小山高专到着

4. 経費

1) 日当・宿泊費

①留学生担当日本語講師・留学生

教育研究費 留学生経費

・講師 宿泊費 @7,800円
日当 @1,700円×0.5日×2日
計 9,500円

・学生 宿泊費 @7,800円×17人
計 132,600円

合計 142,100円

②学生委員会留学生担当 2名

教育研究費 留学生経費

宿泊費 @10,900円×2人
日当 @2,600円×0.5日×2日×2人
計 27,000円

③学生課職員 2名

教育研究費 留学生経費

宿泊費 @9,800円×2人
日当 @2,200円×0.5日×2日×2人
計 24,000円

2) 交通費

教育研究費 留学生経費

借り上げバス料金 1泊2日 約170,880円

3) 見学科

教育研究費 留学生経費

いわき市石炭・化石館入館料 9,310円
@380×17名=6,460円
@570×5名=2,850円
アクアマリンいわき入館料 17,550円
@650×17名=11,050円
@1,300×5名=6,500円

4) 昼食代、旅行傷害保険は個人負担

(出典：学生課学生係資料)

資料7-2-②-3：車椅子用スロープ



身障者用トイレ



(出典：学生課学生係資料)

(分析結果とその根拠理由)

留学生は全員学生寮に入居し、教職員及び寮生が生活面での支援を行っているほか、留学生用の生活設備も設けている。また、障害を持つ学生に対しては、いつでも対応できるよう構内のバリアフリー化に努めており、留学生及び障害を持つ学生への支援体制は整備されている。

観点7-2-③： 学生寮が整備されている場合には、学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

(観点に係る状況)

学生寮の現況を資料7-2-③-1, 2に示す。上級生の居室を1年生の居室に隣接させ、寮生活の指導及び勉学のサポートができるようにしている。勉学のサポートとしては、さらに、2年指導寮生による1年生への学習指導会(資料7-2-③-3)及び定期試験前のボランティア教員に

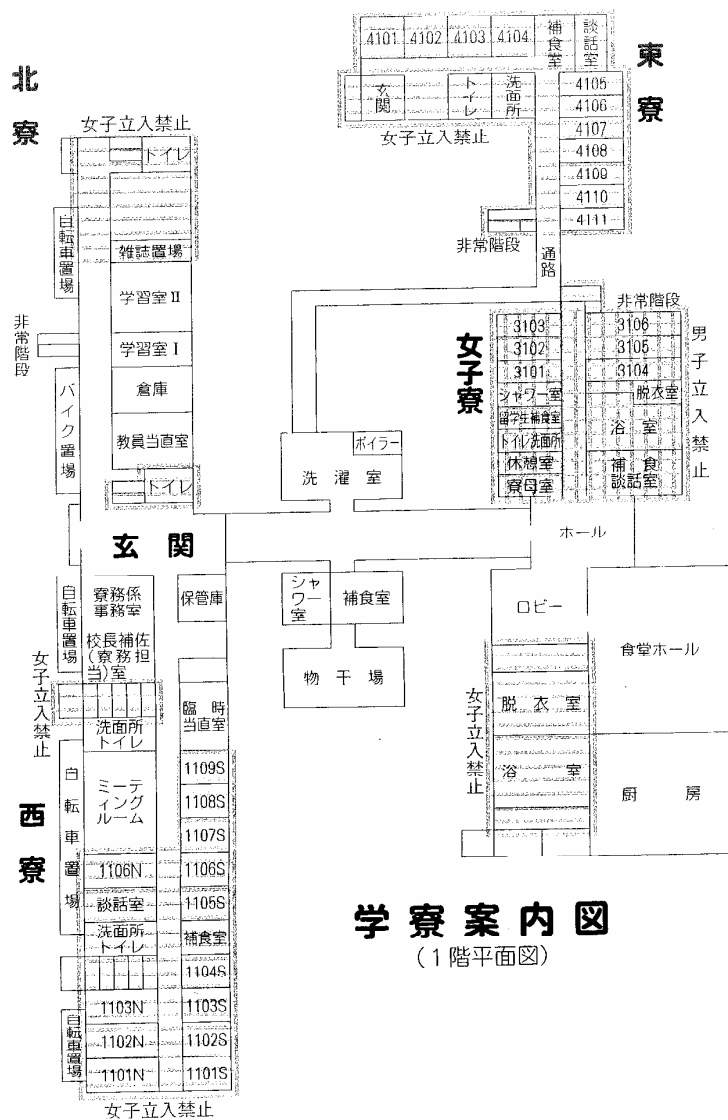
よる学習会が開かれている（資料7-2-③-4）。また、宿直教員による勉学指導も日常的に行われている。

設備面では、フロアごとに談話室（学習室）を配置するとともに（資料7-2-③-5）、適宜無線LANの設備を設け、寮生のIT環境にも配慮している（資料7-2-③-6）。

なお、女子寮には入退居カードシステムを導入し、安全確保に努めている（資料7-2-③-7）。

学生寮は教育寮と位置づけられていることから、寮生会が組織され、寮生による自主的な運営が行われている（資料7-2-③-8）。寮生会はスポーツ大会等の各種行事を自主的に企画し（資料7-2-③-9）、また、寮生同士の連帯感を醸成するため、広報誌「青嵐寮」を発行するなどの活動を行っている（資料7-2-③-10）。

資料 7 - 2 - ③ - 1 : 学寮案内図



学寮案内図
(1階平面図)

(出典：平成 18 年度寮生のしおり)

資料7-2-③-2：入寮状況

入寮状況(過去5年間)

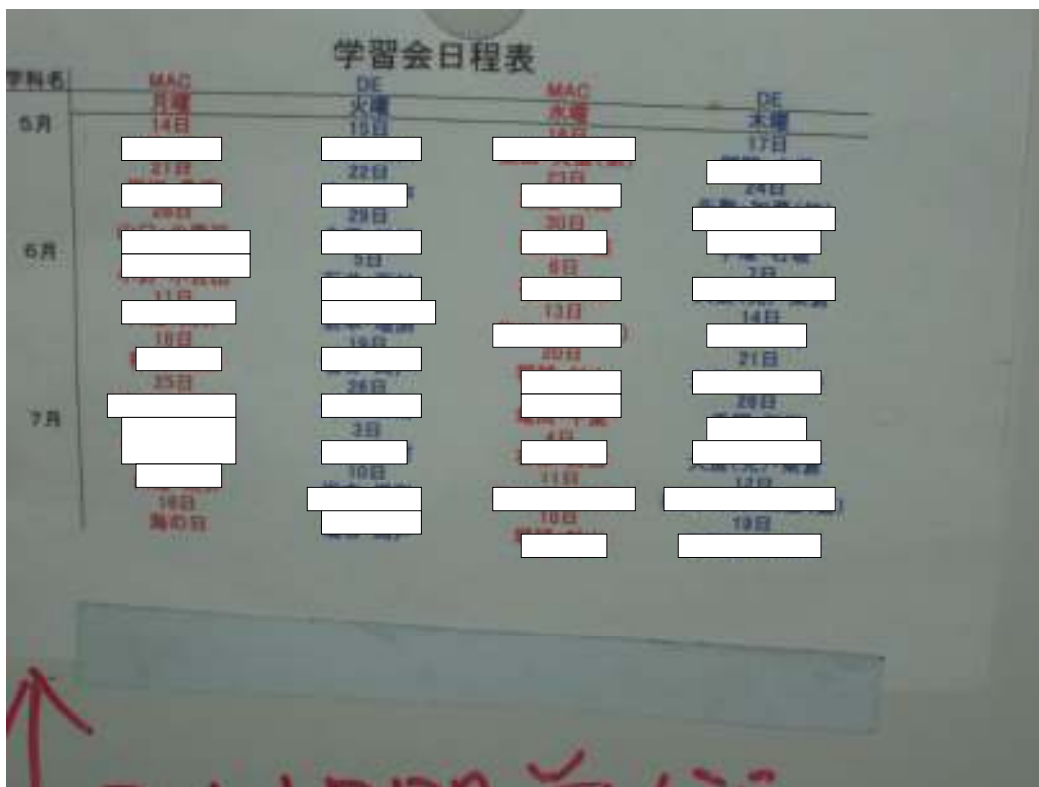
(毎年度5月1日現在)

区 分 \ 年 度	学 生 数 (人)			入 寮 者 数 (人)			学生数に対する		
	男(a)	女(b)	計(c)	男(イ)	女(ロ)	計(ハ)	男	女	計
							(イ /a*100)	(ロ /b*100)	(ハ /c*100)
14	917	147	1,064	97	39	136	10.58	26.53	12.78
15	933	136	1,069	107	31	138	11.47	22.79	12.91
16	934	134	1,068	114	34	148	12.21	25.37	13.86
17	929	136	1,065	113	34	147	12.16	25.00	13.80
18	922	140	1,062	126	36	162	13.67	25.71	15.25

注) 留学生、専攻科生を含む。

(出典：学生課寮務資料)

資料7-2-③-3：2年指導寮生による学習会



(出典：学生寮掲示板)

資料7-2-③-4：ボランティア教員による学習会（寮務委員会議事概要抜粋）

（3）その他

・有志教員による学習会

期末試験前の9/13（水）～15（金）の期間中延べ9名の教員により実施、毎日延べ10名程度の参加者があり好評だった。

（出典：平成18年10月寮務委員会議事概要）

資料7-2-③-5：談話室



（出典：学生課寮務係資料）

資料7-2-③-6：無線LAN



（出典：学生課寮務係資料）

資料 7 - 2 - ③ - 7 : 入退居カードシステム



(出典：学生課寮務係資料)

資料 7 - 2 - ③ - 8 : 寮生会規約

寮 生 会 規 約

(総 則)

- 第1条 本会は、寮生心得（昭和49年4月11日制定、以下「寮生心得」という。）」「12. 寮生会組織」に基づき、小山工業高等専門学校寮生会と称する。
- 第2条 本会は寮生心得に則り、共同生活を自律的に営み、寮生相互の連絡を密接かつ円滑にすることを目的とする。
- 第3条 本会は、本校寮生全員（ただし、専攻科寮生を除く。以下同じ。）をもって構成する。
- 第4条 会費は、学年を問わず会員として平等の権利を持つとともに、その責任と義務を負わなければならない。

(役 員)

- 第5条 本会に次の役員を置く。
 - 一 寮 長 1名
 - 二 副 寮 長 各棟1名
 - 三 企画委員長 1名 企画委員 若干名
 - 四 記録委員長 1名 記録委員 若干名
 - 五 会計委員長 1名 会計委員 若干名
 - 六 食事委員長 1名 食事委員 若干名
 - 七 交通委員長 1名 交通委員 若干名
 - 八 美化委員長 1名 美化委員 若干名
 - 九 空 長 各室1名
 - 十 その他、寮長が必要に応じて、専門委員を任命することができる。

第6条 役員の出山及び任期は、次のとおりとする。

- 一 寮長は、全寮生の選挙によって選出される。
- 二 第5条第2号から第8号までの役員は、寮長が選出し、総会の承認を受けるものとする。
- 三 寮長は、室員の互選による。
- 四 役員は、任期は、6か月とする。ただし、再任は妨げない。
- 五 欠員補充による役員は任期は、前任者の残任期間とする。

第7条 役員は、次のとおりとする。

- 一 寮長は、本会を代表し、会務を執行する。
- 二 副寮長は、寮長を補佐し、寮長に事故のあるときは、これに代わる。
- 三 企画委員は、本会の行事の企画運営に当たる。
- 四 記録委員は、本会の記録に当たる。
- 五 会計委員は、本会の会計を掌理する。

- 17 -

- 六 食事委員は、寮生の食事改善に当たる。
- 七 交通委員は、寮生のオートバイその他の管理に当たる。
- 八 美化委員は、寮の美化に努める。

(機 関)

- 第8条 本会に次の機関を置く。
 - 一 総 会
 - 二 役員会
- 第9条 総会は、本会の最高議決機関であり、全寮生によって構成される。
 - 1 総会は寮長が必要と認めた場合及び構成員の過半数が必要と認めた場合に開かれ、全寮生の3分の2以上の出席により成立する。
 - 3 総会は、出席者の過半数以上の賛成をもって議決する。
- 第10条 役員会は、役員を任務遂行を目的とする。
 - 2 役員会は、寮長が必要と認めた場合及び全役員過半数が必要と認めた場合に開かれる。

(会 計)

- 第11条 本会の運営に要する資金は、会員の会費及びその他をもって充てる。
- 第12条 本会の会費は、総会において、その額を決定する。

(寮長の選挙)

- 第13条 寮長の選挙に関する一切の事務は、選挙管理委員会が、これに当たる。
- 第14条 選挙管理委員会は、必要に応じて置かれるものとし、総会において選出され、3名の寮生を委員として構成する。
- 第15条 選挙管理委員長は、委員の互選による。
- 第16条 選挙管理委員会が、次のことを行う。
 - 一 選挙日の告示
 - 二 立候補者の取り扱い
 - 三 立候補者の人物・意見の周知徹底
 - 四 立会演説の日取り及び方法の決定
 - 五 投票方法の決定
 - 六 開票事務及び結果の報告
- 第17条 寮長は、立候補し、立候補しようとする者は選挙日の7日前までに、2名以上の推薦者が署名押印した所定の届け出を選挙管理委員会に提出するものとする。
- 第18条 選挙日の4日前までに立候補者がいない場合は、役員会が推薦した者に対して信任投票を行う。なお、信任投票の方法は、選挙管理委員会が決める。
- 第19条 立候補者は、届け出と同時に選挙活動を行うことができる。
- 第20条 選挙日程は、選挙管理委員会が決定する。ただし、選挙日の告示は、原則と

- 18 -

- して投票日の4日前までに行うものとする。
- 第21条 不在投票及び委任投票は認めない。
- 第22条 得票の過半数をもって当選とする。ただし、投票数が投票総数の過半数に満たない場合は、最高得票数と次点者の2名で決選投票を行う。
- 第23条 開票は投票日に選挙管理委員会が行う。
 - 1 開票は、公開の場で行う。
- 第24条 選挙の結果は、選挙管理委員会が公表するものとする。
- 第25条 選挙管理委員会は、立候補者の応接はできない。また、すべてに対して善行中立でなければならない。
- 第26条 選挙管理委員長は、選挙の結果を校長補佐(寮務担当)を経て校長に報告する。
- 第27条 その他、選挙の実施に関する必要事項については、選挙管理委員会が校長補佐(寮務担当)の指導助言を得て定める。

(規約の改正)

- 第28条 この規約は、寮生の発議により総会において出席者の3分の2以上の賛成がある場合に改正することができる。

附 則

- この規約は、昭和43年5月9日より施行する。
- 附 則
- この規約は、昭和51年9月1日より施行し、昭和51年4月1日より適用する。
- 附 則
- この規約は、平成2年4月1日より施行する。
- 附 則
- この規約は、平成11年4月1日より施行する。

- 19 -

(出典：平成18年度寮生のしおり)

資料 7 - 2 - ③ - 9 : 平成 18 年度学寮行事予定表

平成 18 年度

前		期					
日	曜	4月	5月	6月	7月	8月	9月
1	日			入学式	1 土	2 日	3 月
2	月			入学式	2 土	3 日	4 月
3	火			入学式	3 日	4 月	5 月
4	水			入学式	4 月	5 月	6 月
5	木			入学式	5 月	6 月	7 月
6	金			入学式	6 月	7 月	8 月
7	土			入学式	7 月	8 月	9 月
8	日			入学式	8 月	9 月	10 月
9	月			入学式	9 月	10 月	11 月
10	火			入学式	10 月	11 月	12 月
11	水			入学式	11 月	12 月	1 月
12	木			入学式	12 月	1 月	2 月
13	金			入学式	1 月	2 月	3 月
14	土			入学式	2 月	3 月	4 月
15	日			入学式	3 月	4 月	5 月
16	月			入学式	4 月	5 月	6 月
17	火			入学式	5 月	6 月	7 月
18	水			入学式	6 月	7 月	8 月
19	木			入学式	7 月	8 月	9 月
20	金			入学式	8 月	9 月	10 月
21	土			入学式	9 月	10 月	11 月
22	日			入学式	10 月	11 月	12 月
23	月			入学式	11 月	12 月	1 月
24	火			入学式	12 月	1 月	2 月
25	水			入学式	1 月	2 月	3 月
26	木			入学式	2 月	3 月	4 月
27	金			入学式	3 月	4 月	5 月
28	土			入学式	4 月	5 月	6 月
29	日			入学式	5 月	6 月	7 月
30	月			入学式	6 月	7 月	8 月
31	火			入学式	7 月	8 月	9 月

36

学寮行事予定表

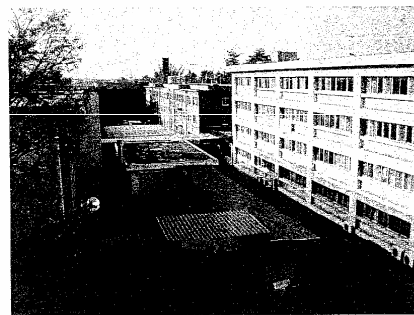
前		期					
日	曜	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1	日						
2	月						
3	火						
4	水						
5	木						
6	金						
7	土						
8	日						
9	月						
10	火						
11	水						
12	木						
13	金						
14	土						
15	日						
16	月						
17	火						
18	水						
19	木						
20	金						
21	土						
22	日						
23	月						
24	火						
25	水						
26	木						
27	金						
28	土						
29	日						
30	月						
31	火						

(出典：平成 18 年度寮生のしおり)

資料7-2-③-10：広報誌「青嵐寮」

青嵐寮

平成十八年



目次

- 一、寮務主事のコメント
- 二、ハーベストさんのコメント
- 三、各寮長のコメント
- 四、寮生のコメント
- 五、各施設紹介文
- 六、学寮辞書



- 七、大青嵐寮生月報
- 八、奥付

(出典：学生寮)

(分析結果とその根拠理由)

居室のほか、食堂、補食室及び洗濯コーナー等日常生活に必要な設備は整備されている。また、居室以外の勉強スペースとして談話室(学習室)が設置され、下級生への高学年寮生による学習指導、教員による学習指導も行われており、勉強の場として機能している。

観点7-2-④： 就職や進学などの進路指導を行う体制が整備され、機能しているか。

(観点に係る状況)

学生の進路指導は5学年のクラス担任が担当している。全学的な組織としては、各学科及び専攻科の進路担当教員で組織する進路支援室が設置されている(資料7-2-④-1)。進路支援室は、学生の進路に係る全学的事項について検討するとともに、進路指導に関する情報収集及び就職先の開拓などを行っている。毎年2月には、次年度の5年担任教員等による進路指導打合せ会を開催している(資料7-2-④-2)。

毎年12月に準学士課程4年生及び専攻科1年生を対象に、就職ガイダンス及び進学説明会を開催し、学生の進路選択の一助としている(資料7-2-④-3)。説明会にはほとんどの学生が参加しており、アンケート結果でも好評を得ている(資料7-2-④-4)。企業の求人票は学生課を通して全学科に配付しているが、平成19年度から学内サーバを利用して学生が直接パソコンで自由に閲覧できるようにした(資料7-2-④-5)。

なお、本校学生の進路状況を資料7-2-④-6に示す。

資料 7-2-④-1 : 進路支援室規程

小山工業高等専門学校進路支援室規程

制 定 平成16年4月1日

(設置の目的)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）に、学生の就職及び進学に関連する事項の検討と方針を決定し、学生に対する適切な指導、助言、援助等及び就職先の開拓を行うことを目的として、小山工業高等専門学校進路支援室（以下「進路支援室」という。）を置く。

(組織)

第2条 進路支援室は次に掲げる者をもって組織する。

- 一 各学科及び各専攻科進路担当教員
- 二 その他校長が必要と認めたもの

2 進路支援室に室長を置き、学生補佐をもって充てる。

(任務)

第3条 進路支援室においては、次に掲げる業務を行う。

- 一 就職先の開拓に関する事。
- 二 就職の斡旋に関する事。
- 三 就職指導及び情報の収集並びに提供に関する事
- 四 進学指導及び情報の収集並びに提供に関する事。
- 五 その他就職・進学に関する事

(事務)

第4条 進路支援室に関する事務は、学生課において処理する。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 7-2-④-2 : 進路指導打合せ会の資料

就職指導打ち合わせ事項

1 平成 19 年度就職・採用活動についての文部科学省通知 (資料 1)

2 今年度の就職事務の予定

1 月下旬	・求人依頼書を前年度に求人があった企業約 872 社発送 ・求人依頼の連絡があった企業には随時発送
随時	求人票 (資料 2) 受付
2 月 7 日	進路指導打ち合わせ会議
4 月 10 日	校内健康診断実施
4 月初旬～	「成績証明書」「卒業見込証明書」発行
5 月初旬～	「健康診断通知書」発行
7 月 1 日	「校長推薦書」発行
10 月 1 日	正式内定開始

3 推薦

- ・推薦の調整は、学科長とクラス担任が行う
- ・重複推薦はできる限り避ける
やむを得ず重複推薦をする場合は学科長及びクラス担任で協議のうえ行う
- ・事後処理 (一方が合格したため、他方を断る) については、各科で責任をもって行う
(先決優先遵守)

6 月 30 日までの推薦

- 学生
- ・「推薦願」(担任保管) → 担任 or 学科長名で推薦書発行 (資料 3) (様式資料 4 参考) \
 - ・「各種証明書発行願」 → 学生係発行 → 学生本人が発送
 - ・「成績証明書」 ↓
 - ・「卒業・修了見込証明書」 / 結果を担当へ
 - ・「健康診断通知書」

7 月 1 日からの推薦

- 学生
- ・「推薦願」 → 担任・学科長了承後、学生係へ (資料 3) ↓
 - ・「各種証明書発行願」 → 学生係発行 → 学生本人が発送
 - ・「推薦書」(資料 4) ↓
 - ・「成績証明書」 結果を担当へ
 - ・「卒業・修了見込証明書」
 - ・「健康診断通知書」

資料 7 - 2 - ④ - 2 (続き)

4 合否の連絡

- ・内定定の状況を毎月初日現在（6月初旬～）でお知らせ下さい（後援会資料・職安他の調査提出用）
- ・「就職・進学決定（内定）届」（資料5）を10月頃配布しますので学生係に提出して下さい

5 窓口業務

- ① 学生係では、就職担当教官の「企業面談予約表」を作成し、面談申し込みがあった場合日程の調整をしています。週間予定表（資料6、企業と面談できる時間帯）に対応可能な教官3～4名位のご予定を記入の上、2月14日までに提出下さい。
- ② 学生係では、来校された企業には「リーフレット」「求人票」「担当者名簿」を渡していますが、直接訪問した企業には窓口が学生係であることをご教示下さい。
- ③ 求人票は学生係で受付順に番号を入れ、全科に配布いたします。
直接郵送または受領された求人関係書類は、学生係にご持参下さい。受付番号を記入のうえ、お渡しいたします。

6 その他

- ① 定期健康診断を必ず受診するようご指導願います。
学生が受診できない場合は、個人で指定の医療機関で受診し結果を保険室に報告して下さい。受診料（数千円）は自己負担になります。
- ② 応募書類の発送手続きと郵送料は学生の個人負担です。

資料7-2-④-3：進路説明会の開催案内

平成18年12月 6日

平成19年度就職ガイダンス

ープログラムー

日 時 平成18年12月6日(水) 13時10分～15時(就職ガイダンス)

場 所 図書館棟1F「視聴覚室」

対 象 本科4年生及び専攻科1年生

1. 開会

2. あいさつ

小山工業高等専門学校 校長補佐(学生担当)

宮田裕志

3. 産業界の動向等



氏 トヨタウッドユーホーム(株) 管理室総務人事グループ
課長

氏 ソニーエナジーデバイス(株) 栃木総務部人事課長

氏 (株)小松製作所 総務部総務グループ

4. とちぎ就職支援センターについて

栃木県若年者雇用促進機構

5. 閉会

資料7-2-④-3 (続き)

平成18年12月 6日

平成19年度進学説明会

—プログラム—

日 時 平成18年12月6日(水) 15時00分～

場 所 図書館棟1F「視聴覚室」

対 象 本科4年生及び専攻科1年生

1. 開会

2. あいさつ

小山工業高等専門学校 校長補佐(学生担当)

菅田裕志

3. (進学説明会)

・豊橋技術科学大学説明(物質工学系 助教授 氏)

教育研究内容

第0年次編入学制度

修士課程入学制度

4. 出願手続き説明[大学編入・大学院](学生係)

5. 小山高専専攻科説明(専攻科長)

6. 閉会

(出典：学生課学生係資料)

資料 7 - 2 - ④ - 4 : 進路説明会アンケート結果

就職ガイダンスアンケート(小山高等専門学校)

実施日 平成 18 年 12 月 6 日(水)
 出席者数 130 名
 回答者数 105 名
 回答率 80.8%

1. 今回のガイダンスを通して、今後の就職活動に対する意識は高まりましたか。

	人数	比率
はい	89 名	85%
いいえ	16 名	15%

2. 1で「はい」と答えた方、意識が高まった理由は何ですか。

1で「いいえ」と答えた方、意識が高まらなかった理由は何ですか。

「はい」と答えた方、意識が高まった理由は何ですか。

- ・知らなかった事を知ることができたため(他3名)。
- ・危機感。(他3名)。
- ・ちゃんと決めないと危なそうだから。
- ・就職の厳しさが数字で伝わった。
- ・現在の就職の状態を具体的な話で聞けたため。
- ・早めに就職先を決めた方が内定する確率がいいと言っていたから。
- ・雇用の状況や、就職活動についていろいろと知れたから。実際に就職活動をどのようにすればいいのか参考になった。
- ・企業の考えを聞けたから。
- ・3社の話が聞けたため。
- ・いろんな情報が聞けたから。
- ・どんなものか分かったから(他3名)。
- ・知らない事を知ったから(他3名)。
- ・普段聞けない事が聞けた。
- ・具体的な話を聞いて不透明だった点がいくつか理解できた。
- ・更に分かった事があった。
- ・現実味を帯びてきた。
- ・好スタートが鍵と知った。
- ・コマツさんの説明が面白く、興味を持った。

1

(以下略)

(出典：学生課学生係資料)

資料7-2-④-5：学内サーバによる情報提供

1/1 ページ

就職・進学情報

学内専用(学外からは閲覧できません)

■<最近の更新事項> *new*

- 求人票(本科、専攻科) 登録数 926件(6月1日現在)
 - 大学編入、大学院、専攻科案内 登録数 223件(6月11日現在)
- 最新情報はページの再読み込み(更新)をしてください

■求人企業情報ページ

■求人票 *new*

■就職活動の流れ

・学校への提出書類等

■リクナビ2007

・学生・大学院生のための就職情報

■就職先企業状況一覧

・平成18年度 ・平成17年度
・平成16年度

■編入・大学院情報ページ

■編入学・大学院案内 *new*

注意！学校経由推薦の申込提出は
各人学受付開始の1週間前

■進学手続きの流れ

■専攻科・大学編入・大学院入学状況一覧

・学科別(HPリンクあり)
・年度別(HPリンクあり)

■編入学試験の過去問題等 *new*

■各種証明発行願(記入例がありますので確認して下さい)

■各種証明書発行願の書式 ■記入例(就職の場合、進学の場合)

管理者 小山工業高等専門学校
学生課学生係

[平成19年進学.htmへのリンク](#)

(出典：就職・進学情報サーバ)

資料7-2-④-6：進路（就職、進学）状況

進路状況

□卒業者の進路

平成18年度卒業者

区分 学科	卒業者数			就職者数			進学者数			その他		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
機械工学科	36	1	37	17	1	18	18	0	18	1	0	1
電気情報工学科	39	2	41	21	2	23	16	0	16	2	0	2
電子制御工学科	30	4	34	17	3	20	13	1	14	0	0	0
物質工学科	28	11	39	6	5	11	21	6	27	1	0	1
建築学科	22	9	31	14	7	21	8	2	10	0	0	0
計	155	27	182	75	18	93	76	9	85	4	0	4

□求人者の状況と就職決定状況

平成18年度卒業者

区分 学科	就職希望者数(A)			求人教 数(B) 人/会社	就職決定者数(C)			求人倍率 B/A	就職決定率(C/A)		
	男	女	計		男	女	計		男	女	計
機械工学科	17	1	18	755/667	17	1	18	41.9/37.1	100%	100%	100%
電気情報工学科	21	2	23	719/667	21	2	23	31.3/29.0	100	100	100
電子制御工学科	17	3	20	606/565	17	3	20	30.3/28.2	100	100	100
物質工学科	7	5	12	314/304	6	5	11	26.2/25.3	85.7	100	91.7
建築学科	14	7	21	299/269	14	7	21	14.2/12.8	100	100	100
計	76	18	94	2,693/2,472	75	18	93	28.6/26.3	98.7	100	98.9

□修了者の進路

平成18年度修了者

区分 学科	卒業者数			就職者数			進学者数			その他		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
△電子工学 専攻 攻テ	機械工学系	5	0	5	5	0	5	0	0	0	0	0
	電気情報工学系	5	0	5	3	0	3	2	0	2	0	0
	電子制御工学系	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0
物質工学専攻	6	0	6	3	0	3	2	0	2	1	0	1
建築学専攻	4	2	6	4	2	6	0	0	0	0	0	0
計	21	2	23	16	2	18	4	0	4	1	0	1

□求人者の状況と就職決定状況

平成18年度修了者

区分 学科	就職希望者数(A)			求人教 数(B) 人/会社	就職決定者数(C)			求人倍率 B/A	就職決定率(C/A)			
	男	女	計		男	女	計		男	女	計	
△電子工学 専攻 攻テ	機械工学系	5	0	5	375/169	5	0	5	41.7/18.8	100%	100%	100%
	電気情報工学系	3	0	3		3	0	3		100	100	100
	電子制御工学系	1	0	1		1	0	1		100	100	100
物質工学専攻	3	0	3	49/46	3	0	3	16.3/15.3	100	100	100	
建築学専攻	4	2	6	54/45	4	2	6	9.0/7.5	100	100	100	
計	16	2	18	478/260	16	2	18	26.6/14.4	100	100	100	

(出典：2007 学校要覧 p42, 44)

(分析結果とその根拠理由)

全学組織として進路支援室が設置されており、個々の学生に対してはクラス担任が直接進路指導を行っている。また、就職ガイダンス及び進学説明会を開催するとともに、学内サーバなどにより進路関係の情報提供を行っている。本校の就職率は毎年ほぼ100%を維持しており、進路指導を行う体制は整備され、機能していると言える。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

- ・図書情報センター、情報科学教育研究センター、ものづくり教育研究センターが設置され、充実した施設・設備を設け、利用についても便宜を図っている。
- ・資格取得による単位認定を制度化するとともに、参考書を用意したり、受験指導を行うなど取得しやすい環境作りに努めている。
- ・進路指導担当教員の打合せ会を開催するとともに、就職ガイダンス及び進学説明会を定期的に開催し、ほぼ100%の就職率を維持している。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準7の自己評価の概要

準学士課程及び専攻科課程とも入学時にガイダンスを実施し、学習面及び生活面での必要な事項について、配慮し、指導及び助言している。卒業研究に関するガイダンスは全専門学科で行われ、その他各授業科目やコース分けのガイダンスも一部で行われている。また、全教員がオフィスアワーを設定し、学習相談をはじめ種々の相談に応じている。図書情報センター、情報科学教育研究センター及びものづくり教育研究センターでは、時間外利用の道を開くなど学生の便宜を図っている。そのほか、教室、図書情報センター、専攻科棟及び学生ホールなど随所にコミュニケーションスペースを配置しており、厚生施設についても食堂及び売店が完備されている。

学習支援に係るニーズ把握は、クラス担任によるホームルームでのくみ取りが主となるが、そのほか、学生会及び寮生会との懇談並びに授業評価アンケートの活用など様々な機会を利用してニーズ把握に努めている。そして、資格取得による単位認定の道を開くとともに、受験指導も行うなど取得しやすい環境作りに努めている。また、海外留学については留学規則を定めて留学の道を開き、単位認定及び復学などについても配慮しており、さらにオーストラリア海外研修を実施し、学生の異文化理解、語学力の涵養を図っている。

留学生の支援としては、クラス担任の指導及び助言のほか、チューター制度を設け、学習面及び生活面でのフォローを行っている。また、留学生全員が入居する学生寮には、シャワー室及び補食室などの留学生用設備を設け、住環境の整備にも力をいれている。そのほか、編入学生に対しては、入学前に学習指導を行うほか、入学後も必要に応じ補講等を行っている。また、障害のある学生の入学実績はないが、身障者用トイレ、エレベーター及び車いす用スロープを設置しバリアフリー化に努めている。

学生生活面でのサポートとして学生支援室を設置し支援室員が相談に応じているほか、特に精神面での学生相談に対応するために、専門のカウンセラーも配置している。

進路指導体制としては、進路支援室を設置し、進路関係の情報収集及び就職先の開拓などを行っている。また、進路指導担当教員の打合せ会を開催するとともに、企業及び大学関係者を招いた就職ガイダンス及び進学説明会を開催し、学生の進路に関する意識を高めるとともに、進路関係の情報を提供している。

基準 8 施設・設備

(1) 観点ごとの分析

観点 8-1-①： 学校において編成された教育課程の実現にふさわしい施設・設備（例えば、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館等、実験・実習工場さらには職業教育のための練習船等の設備等が考えられる。）が整備され、有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

本校において編成された教育課程の実現に必要な施設として、校地、運動場、体育館、教室、研究室、実験・実習室、演習室、情報処理学習のための施設、語学学習のための施設、図書館及び実習工場などが整備されている。施設の概要を資料 8-1-①-1 に示す。

教育目標とそれに対応する施設の関連は資料 8-1-①-2 に示すように、全ての教育目標が達成できるよう整備されている。

また本校では、「第 1 次緊急整備 5 年計画」に基づく校舎等の狭隘・老朽改善事業を平成 15 年 12 月に完了した。この事業により、多目的ホールや視聴覚室等の大型講義室、卒業研究や実験実習・選択制授業が多い 5 年生の教室を除く 1～4 年の教室（20 室）について、学生一人当たりの広さが従来 1.5 m²程度であったものを 2.0 m²程度まで改善し十分な広さが確保された。設備面については各部屋に空調設備、電動スクリーン及び情報用 LAN コンセントを整備した他、1～2 年生の教室（10 室）や多目的ホールについては常設の固定式プロジェクターを設置している（資料 8-1-①-3）。

各専門学科の実験・実習・研究室についても、それぞれの用途に応じた十分な広さが確保され、設備面についても空調設備及び情報用 LAN コンセントの設置の他、教育課程の実現のための教育用機器を整備している（資料 8-1-①-4～10）。

情報処理関連施設は、「情報科学教育研究センター」を中心に大・中演習室を 5 室保有し、広さも学生一人当たり 2.7 m²以上を確保して情報教育用電子計算機システムその他、空調設備及び情報用 LAN コンセントを設置している（資料 8-1-①-11）。情報科学教育研究センターは情報処理学習等の授業で平均 78%程の利用があり、教育用のコンピュータ（パソコン）も 1 人 1 台が確保され、授業時間外にも学生が自主学習等に利用している（資料 8-1-①-12～14）。

語学学習用施設である語学情報教室（LL 教室）は、収容定員 48 名、学生一人当たりの広さも 2.1 m²で、教育用機器も整備されている（資料 8-1-①-5：既出）。

図書館（図書情報センター）については資料 8-1-①-15 に示すように、蔵書検索システムが導入されている他、ブラウジングロビー及びマルチメディアルーム等が設置され学生の利便にも配慮している。また本校の図書館は平日の夜間や、土曜日にも開館しており、利用者数は年間 6 万人を超えている（資料 8-1-①-16）。

実習工場（ものづくり教育研究センター）は、地域共同開発センターと共に学内共同利用施設として十分な広さが確保され、教育用機器が整備されている（資料 8-1-①-17）。

その他、選択制授業や卒研発表、学生の自主的活動に対応するスペースとして、25 教室以外に講義室等（8 室）、ゼミ室（7 室）の計 15 室の共同利用スペースを保有し、スクリーン、空調設備、

情報用 LAN コンセントを設置している（資料 8-1-①-3：既出）（資料 8-1-①-18）。

体育施設は、十分な広さが確保され、温水シャワー、トイレ及び体育器具庫等の必要な設備・施設が整備されている（資料 8-1-①-19）。

安全面については、各施設に安全管理主任者を置き、更に実験室等には作業主任者（作業責任者）を置いて日常的な管理を行っている。また学校全体の安全管理のため安全衛生委員会を設置し、毎月校内巡視を行い、実験室等の安全管理状況を調査し問題がある場合は改善を図っている（資料 8-1-①-20, 21）。

平成18年度に実施した学生の「施設満足度アンケート結果」によれば、各施設とも平均点を超える評価を得ており、施設・設備面についてはほぼ満足していることが伺える（資料 8-1-①-22）。

バリアフリーの取組状況については、各棟にスロープ及び自動ドアを設置した他、専攻科棟及び図書情報センターには身障者用トイレ及びエレベーターを設置している。また、主要校舎のうち5棟（一般・管理棟、図書情報センター、電気情報・物質工学科棟、専攻科棟、電子制御工学科棟）を2階の渡り廊下で接続し、機能面における学生支援とバリアフリー化を図っている（資料 8-1-①-23）。

資料 8-1-①-1 : 施設の概要

施設の概要

施設の概要 Facilities

□ 敷地 Land

総面積	Land Area	110,176㎡
校舎敷地	College Building	60,582㎡
寄宿舍敷地	Dormitory	9,156㎡
運動場敷地	Ground	29,276㎡
職員宿舍敷地	Staff Housing	11,162㎡

□ 建物 Buildings

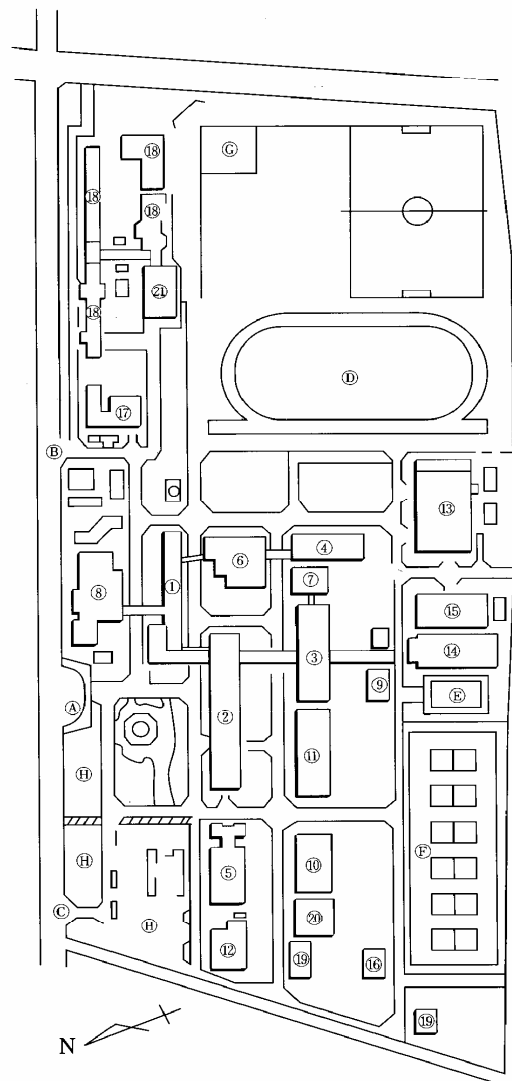
名 称 The Name of Building	構 造 Structure	面 積 Area	
一般・管理棟	General Education & Administration Office Building	RC3	2,322㎡
電気情報・物質工学科棟	Electrical Engineering & Materials Chemistry Building	RC4	4,446
機械工学科棟	Mechanical Engineering Building	RC3	2,040
電子制御工学科棟	Electronic Control Engineering Building	RC4	2,179
建築学科棟	Architecture Building	RC3	1,680
専攻科棟(テクノ棟)	Advanced Courses Building	RC5	3,139
講義棟	General Lecture Building	RC3	668
図書情報センター	Library	RC2	1,624
情報科学教育研究センター	Education and Research Center of Informational Sciences	RC1	312
地域共同開発センター	Cooperative Research and Development Center	RC2	484
ものづくり教育研究センター	Education and Research Support Center for Manufacturing	S1	840
建築学科実験室	Architecture Laboratory	S1	277
第一体育館	Gymnasium (1st)	SRC1	1,106
第二体育館	Gymnasium (2nd)	SRC1	880
武道館	Gymnasium for Judo & Kendo	RC1	349
合宿研修施設棟	Lodging House	RC2	408
一般食堂	Cafeteria	RC1	583
学生寮(東、西、南、北)	Dormitory	RC3-5	6,030
生活廃水・実験廃液処理施設	Sewage Disposal Plant	RC1	160
物質工学科実験棟	Materials Chemistry Laboratory Building	RC2	512
職員宿舍等、その他	Others		3,364
合 計	Total		33,403

資料 8 - 1 - ① - 1 (続き)

施設の概要

校舎等配置図 Campus Guide

- | | |
|------------------|---|
| 1 一般・管理棟 | General Education & Administration Office Building |
| 2 電気情報・物質工学科棟 | Electrical Engineering & Materials Chemistry Building |
| 3 機械工学科棟 | Mechanical Engineering Building |
| 4 電子制御工学科棟 | Electronic Control Engineering Building |
| 5 建築学科棟 | Architecture Building |
| 6 専攻科棟 | Advanced Courses Building |
| 7 講義棟 | General Lecture Building |
| 8 図書情報センター | Library |
| 9 情報科学教育研究センター | Education and Research Center of Informational Sciences |
| 10 地域共同開発センター | Cooperative Research and Development Center |
| 11 ものづくり教育研究センター | Education and Research Support Center for Manufacturing |
| 12 建築学科実験室 | Architecture Laboratory |
| 13 第一体育館 | Gymnasium (1st) |
| 14 第二体育館 | Gymnasium (2nd) |
| 15 武道館 | Gymnasium for Judo & Kendo |
| 16 合宿研修施設棟 | Lodging House |
| 17 一般食堂 | Cafeteria |
| 18 学生寮(東、西、南、北) | Dormitory |
| 19 生活廃水・実験廃液処理施設 | Sewage Disposal Plant |
| 20 物質工学科実験棟 | Materials Chemistry Laboratory Building |
| 21 学寮食堂 | Dormitory Refectory |
| A 正門 | Main Gate |
| B 東門 | Side Gate |
| C 西門 | Side Gate |
| D 陸上競技場 | Track & Field |
| E プール | Swimming Pool |
| F テニスコート | Tennis Court |
| G 野球場 | Baseball Ground |
| H 駐車場 | Parking Areas |



(出典：2007学校要覧p. 47, 48)

資料 8-1-①-2 : 教育目標と対応する施設

教育目標と対応する施設

教育方針と育成する人材像 (A : 準学士課程、S : 専攻科課程)		対応する施設
①豊かな人間性の涵養	①-A : 社会人となるための素養を身につけ、環境・福祉に配慮し工業技術が自然や社会に与える影響を認識できること。	講義室、図書館、合宿研修施設、学生福利施設、ブラウジングロビー (学生ホール)
	①-S : 社会・経済と工業技術の共生に配慮し、工業技術者としての社会的責任と倫理観を自覚すること。	
②豊かな感性と創造力の育成	②-A : 実験実習に自主的に取り組み観察力・解析力を養い、新しい発想やアイデアを提案する習慣を身につけること。	講義室、図書館、一般系物理実験室・化学実験室、ロボット工房、ものづくり教育研究センター
	②-S : 専門分野にとらわれず工業技術全般に対し知的好奇心をいだき、工業技術に関する研究計画・設計・製作およびその評価までの全プロセスをデザインできること。	
③自然科学・数学・英語・専門基礎科目の学力向上	③-A : 自然科学・数学・英語の基礎知識を身につけ、専門分野の基礎知識を修得していること。	講義室、図書館、語学情報教室 (LL 教室)、一般系物理実験室・化学実験室
	③-S : 自然科学・数学・英語の応用知識を身につけ、専門分野の工学理論を理解していること。	
④高度な専門知識と問題解決能力の育成	④-A : 実践的技術者としての高度な専門分野の知識を修得し、与えられた技術的課題を解決できる能力を身につけること。	実験室、研究室、ものづくり教育研究センター 地域共同開発センター
	④-S : 開発型技術者としての高度な専門分野の課題に対する問題点を自ら発見し、その解決方法をデザインし研究を遂行できる能力を身につけること。	
⑤情報技術力の向上	⑤-A : 情報技術に関する基礎知識と情報処理能力を有し、コンピュータを利用して適切な内容の報告書を作成できること。	情報科学教育研究センター、第二演習室(電子計算機実習室)、第三演習室(多目的マルチメディア教育室)、講義室
	⑤-S : 情報技術の応用力を身につけ、コンピュータを利用して解析力と設計力を身につけること。	
⑥コミュニケーション能力と国際感覚の育成	⑥-A : 講義・実験・卒業研究の内容について日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、基本的な技術英語の文章を理解し国際的視野を身につけること。	講義室、視聴覚室、多目的メディアホール、語学情報教室、(LL 教室) 体育施設
	⑥-S : 特別研究を含む専門分野の内容を学内・学外において日本語で口頭発表・質疑応答ができることと、高度な専門分野に関する技術英語の文章を理解し国際社会で活躍できる基礎能力を身につけること。	

(出典 : 総務課施設係資料)

資料 8-1-①-3 : 講義室の概要

講義室の概要

名称	面積 (m ²)	収容 人数	一人当 面積(m ²)	場 所	主要設備等
教室 (HR)					
1年教室 (5部屋)	78	40	2.0	専攻科棟2F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
2年教室 (5部屋)	78	40	2.0	専攻科棟3F	プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5E教室	58	40	1.5	電物棟1F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3E教室	87	40	2.2	電物棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4E教室	87	40	2.2	電物棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5C教室	58	40	1.5	電物棟3F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3C教室	87	40	2.2	電物棟4F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4C教室	87	40	2.2	電物棟4F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3M教室	87	40	2.2	機械棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4M教室	87	40	2.2	機械棟3F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5M教室	58	40	1.5	機械棟3F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3A教室	79	40	2.0	建築棟1F	ワイド手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4A教室	79	40	2.0	建築棟1F	ワイド手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5A教室	64	40	1.6	建築棟1F	ワイド手動スクリーン、LANコンセント、空調設備
3D教室	78	40	2.0	電子棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
4D教室	78	40	2.0	電子棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
5D教室	78	40	2.0	電子棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
その他の講義室等					
講義室	68	40	1.7	講義棟 1F	プロジェクター、スクリーン、LANコンセント、空調設備
多目的ホール	96	60	1.6	専攻科棟1F	ビデオ、プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
多目的メディアホール	114	80	1.4	専攻科棟4F	ビデオ、プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
講義室 I	40	20	2.0	専攻科棟4F	スクリーン、LANコンセント、空調設備
講義室 II	25	10	2.5	専攻科棟4F	スクリーン、LANコンセント、空調設備
演習室	40	15	2.7	専攻科棟4F	LANコンセント、空調設備
多目的ホール	77	42	1.8	専攻科棟4F	ビデオ、プロジェクター、電動スクリーン、LANコンセント、空調設備
視聴覚室 (階段教室)	216	210	1.0	図書館1F	プロジェクター、書画カメラ、電動スクリーン、DVD、VHS再生機、ビデオ、スピーカー、ディスプレイ、ピアノ、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-4 : 専攻科系実験室の概要

専攻科系実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
機械系専攻研究室	78	18	4.3	専攻科棟5F	高速度ビデオカメラ、電気炉、デジタル オシロスコープ、パソコン、LAN コンセント、空 調設備
電気系専攻研究室	78	16	4.9	専攻科棟5F	高周波スパッタリング装置、真空蒸着 装置、分光光度計、液体ヘリウムクライオ スタット、液体窒素クライオスタット、パソコ ン、ナノボルトメータ、LANコンセント、空調設 備
電子系専攻研究室	78	8	9.8	専攻科棟5F	測色計、オシロスコープ、ファンクションジェネレ ーター、マルチメータ、スキャナ、パソコン、 LAN コンセント、空調設備
物質系専攻研究室	78	5	15.6	専攻科棟5F	分光器、蛍光分光光度計 LAN コンセント、空調設備
建築系専攻研究室	78	11	7.1	専攻科棟5F	スクリーン、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-5 : 一般科系実験室・講義室の概要

一般科系実験室・講義室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
化学実験室	124	42	3.0	電物棟3F	ドラフトチャンバー、LANコンセント、 実験台、空調設備
一般機器分析室	19	10	1.9	電物棟4F	LANコンセント、実験台、空調設備
生物学実験室	39	10	3.9	電物棟4F	LANコンセント、実験台、空調設備
物理学実験室	118	44	2.7	管理棟3F	LANコンセント、実験台、空調設備
語学情報教室 (LL教室)	101	48	2.1	講義棟2F	語学教育CALLシステム、ビデオ、スピーカ ー、スクリーン、LANコンセント、空調設備
一般製図室	126	42	3.0	講義棟3F	A1 判平行定規ライナーボード、スクリーン、 書画カメラ、プロジェクター、LAN コンセント、 製図台、空調設備
留学生講義室	21	9	2.3	講義棟1F	ビデオ、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-6 : 機械工学科実験室の概要

機械工学科実験室の概要

名称	面積 (m ²)	実験時 人数	一人当 面積 (m ²)	場 所	設備等
マイクロ計測室	29	8	3.6	機械棟1F	表面粗さ計、輪郭形状測定器、三次元測定器、実体顕微鏡、LANコンセント、空調設備
材料加工プロセス研究室	19	5	3.8	機械棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
マテリアルサイエンス実験室	29	8	3.6	機械棟1F	セラミックス用電気炉（高温低温用）、金属用電気炉（高温低温用）、ラップ盤、切断機、LANコンセント、空調設備
水力研究室	19	5	3.8	機械棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
機械工作実験室	58	5	11.6	機械棟1F	炭酸ガスアーク溶接機、被覆アーク溶接機、電気炉、放射温度計、実体顕微鏡、LANコンセント、空調設備
材料強度研究室	19	4	4.8	機械棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
加工プロセス実験室	87	20	4.4	機械棟1F	万能試験機、衝撃試験機、硬さ試験機、LANコンセント、空調設備
流体実験室	58	9	6.4	機械棟1F	水力学実験装置、LANコンセント、空調設備
バイオメカ研究室	29	5	5.8	機械棟1F	高速度ビデオカメラ、動画画像解析装置、パソコン、LANコンセント、空調設備
応用物理実験室	124	40	3.1	機械棟2F	パソコン、オシロスコープ、テスター、レコーダ、発振器、メントロ実験装置、スクリーン、ホワイトボード、LANコンセント、空調設備
機械力学実験室	58	8	7.3	機械棟2F	パソコン、位置決め実験装置、LANコンセント、空調設備
機械工学科資料室	19	4	4.8	機械棟2F	専門雑誌、コピー機、開架書庫、LANコンセント、空調設備
機械工学科 共通実験室	58	6	9.7	機械棟2F	パソコン、スキャナ、プリンタ、車輪型倒立振り子、LEGO MINDSTORMS、LANコンセント、空調設備
機械製図室	124	40	3.1	機械棟3F	製図機器一式 LANコンセント、空調設備
非線形ダイナミクス 研究室 (SP&MPC研究室)	19	4	4.8	機械棟3F	パソコン、プリンタ、2自由度非線形振動実験装置、LANコンセント、空調設備
設計製図準備室	59	12	4.9	機械棟3F	三次元CAD LANコンセント、空調設備
計算力学実験室	58	9	6.4	機械棟3F	パソコン、風洞実験装置、LANコンセント、空調設備
熱機関実験室	95	10	9.5	ものづくり センター	ガソリン機関の性能試験装置、ジュール熱による熱の仕事当量の測定実験装置、熱電対の温度校正実験装置

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-7：電気情報工学科実験室の概要

電気情報工学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
ロボット工房	50	10	5.0	電物棟1F	旋盤、フライ盤、帯ノ盤、溶接機、LANコンセント、空調設備
システム工学研究室	29	4	7.3	電物棟1F	太陽光発電システム、インバータ実験装置、LANコンセント、空調設備
電力応用研究室	19	2	9.5	電物棟1F	小型風力発電システム、LANコンセント、空調設備
電気機器研究室	19	2	9.5	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
パワーエレクトロニクス研究室	29	3	9.7	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
音響工房	29	4	7.3	電物棟1F	パソコン、オートデスクタイフ、デジタルスケルトンライザ、LANコンセント、空調設備
電力システム研究室	19	5	3.8	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
エネルギー変換実験室	138	40	3.5	電物棟1F	直流発電機、三相誘導電動機、変圧器、同機発電機、直流電源、LANコンセント、空調設備
高エネルギー研究室	58	7	8.3	電物棟1F	球ギャップ、インパルス電圧発生装置、LANコンセント、空調設備
生体システム研究室	19	4	4.8	電物棟1F	データレコーダ、プロジェクト、生体アンプ、LANコンセント、空調設備
放電計測室	29	3	9.7	電物棟1F	インパルス電圧発生装置制御盤、放電波形観測オシロスコープ、LANコンセント、空調設備
情報デバイス研究室	19	4	4.8	電物棟1F	パソコン、LANコンセント、空調設備
多目的マルチメディア教育室	79	20	4.0	電物棟2F	パソコン、プロジェクト、LANコンセント、空調設備
CG研究室	39	3	13.0	電物棟2F	PIC+FPGA 開発システム、OAKS16-BoardKit、インフラアイ、パソコン、LANコンセント、空調設備
通信情報工学実験室	88	40	2.2	電物棟2F	発信器、直流電源、デジタルマルチメータ、電圧計、電流計、トランジスタ増幅実験装置、パルス回路実験装置、論理回路実験装置、LEGO MINDSORM、変調回路、LANコンセント、空調設備
高周波計測研究室	19	2	9.5	電物棟2F	高周波計測システム LANコンセント、空調設備
画像情報研究室	29	6	4.8	電物棟2F	衛星画像解析ソフト LANコンセント、空調設備
音響情報研究室	19	5	3.8	電物棟2F	低周波レベル計、騒音計、タミーヘッド、LANコンセント、空調設備
音響計測室 (無響室)	39	5	7.8	電物棟2F	音響測定装置、B&K製PULSE、標準マイクロホン、LANコンセント、空調設備
医工学研究室	29	5	5.8	電物棟2F	デジタルオシロスコープ、高周波電力増幅器、ファンクションジェネレータ、LANコンセント、空調設備

資料 8-1-①-7 (続き)

AI 実装研究室	19	4	4.8	電物棟2F	直流電源、オシロスコープ、デジタルオシロスコープ、ファンクションジェネレータ、3Dプロッタ、3Dスキャナ、LANコンセント、空調設備
AI シミュレーション研究室	29	3	9.7	電物棟2F	レーザープリンタ、オールインワンプリンタ、LEGO MINDSTORMS ROBOTICS INVENTION、パソコン、LANコンセント、空調設備
レーザー研究室	29	5	5.8	電物棟2F	CO2レーザー彫刻機 LANコンセント、空調設備
レーザー応用研究室	29	3	9.7	電物棟2F	コントローラ付き微動ステージ、光造形装置、LANコンセント、空調設備
マルチメディア研究室	20	5	4.0	管理棟2F	パソコン、LANコンセント、空調設備
情報ネットワーク研究室	19	5	3.8	管理棟2F	PHANTOM Omni、 LANコンセント、空調設備
電磁気実験室	87	40	2.2	管理棟 3F	光電効果計測装置、直流電源、オシロスコープ、発振器、ファンクションジェネレータ、各種電圧・電流計、Qメータ、交流ブリッジ、電力計、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8 - 1 - ① - 8 : 電子制御工学科実験室の概要

電子制御工学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
ロボティクス研究室	26	1	26.0	電子棟1F	ミニ旋盤、LAN コンセント
工作室	19	6	3.2	電子棟1F	フライス盤、ボール盤、木工旋盤、小型旋盤、高速カッター、小型溶接機
制御動力研究室	81	3	27.0	電子棟1F	液面制御装置、倒立振子、サーボモータ制御装置、LAN コンセント
マイクロクス研究室	39	1	39.0	電子棟1F	小型フライス盤、LAN コンセント
電磁相互作用研究室	79	4	19.8	電子棟2F	プロジェクタ、オシロスコープ、発信器、光強度計、ホログラフィー実験装置、LD 光源、パソコン、LAN コンセント、
第一情報ネットワーク研究室	59	4	14.8	電子棟2F	パソコン、サーバ、LAN コンセント
電子物性研究室	80	4	20.0	電子棟3F	放射線計測システム、アナログ信号処理システム、微弱信号処理システム、CVD装置、蒸着装置、スパッタリング装置、クリーンベンチ、ドラフトチャンバー、LAN コンセント
エネルギーシステム研究室	79	4	19.8	電子棟3F	基板エッチング装置、基板露光装置、基板カッター、卓上ボール盤、直流電源装置、電子負荷装置、ロジックアナライザ、デジタルマルチメータ、LAN コンセント
電子工学実験室	81	43	1.9	電子棟3F	オシロスコープ、ファンクションジェネレータ、直流安定化電源、オシレーター、テストサーキットボックス、デジタルマルチメータ、アナログテスター、パソコン、100インチテレビプロジェクター、プロジェクター、書画カメラ、スクリーン、LAN コンセント
第2情報ネットワーク研究室	24	4	8.0	電子棟3F	パソコン、ルータ、スイッチ、ファイアウォール、LAN コンセント
デジタル工学研究室	80	4	20.0	電子棟4F	赤外線カメラ、パソコン、LAN コンセント
情報工学研究室	74	4	21.0	電子棟4F	パソコン、サッカーロボット、DSP評価キット、波形入力装置、LAN コンセント
遠隔制御研究室（電波暗室）	79	4	19.8	電子棟4F	電波暗室、マリンレータ、棟内テレビ放送受信設備、LAN コンセント

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-9 : 物質工学科実験室の概要

物質工学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
化学工学研究室	58	3	19.3	電物棟3F	レーザードップラー電気泳動光散乱光度計、圧搾・電気浸透脱水試験装置、比表面積測定装置、LANコンセント、空調設備
プロセス工学実験室	110	20	5.5	電物棟3F	ドラフトチャンバー、単蒸留実験装置、定圧濾過実験装置、固体乾燥実験装置、LANコンセント、空調設備
プロセス工学計算室	19	3	6.3	電物棟3F	パソコン、LANコンセント、空調設備
分子生物学研究室	58	10	5.8	電物棟3F	クリーンベンチ、サーマルサイクラー、CO2インキュベーター、LANコンセント、空調設備
物質工学基礎実験室	116	40	2.9	電物棟3F	ドラフトチャンバー、蒸留イオン交換水製造機、LANコンセント、空調設備
反応工学研究室	58	8	7.3	電物棟3F	オートクレーブ、真空乾燥機、分光光度計、LANコンセント、空調設備
金属化学研究室	58	4	14.5	電物棟3F	微量電子天秤、電子天秤、周波数解析装置、マイクロスコープ、LANコンセント、空調設備
電子顕微鏡室	19	8	2.4	電物棟3F	走査型電子顕微鏡、LANコンセント、空調設備
X線室	19	8	2.4	電物棟3F	X線回折装置、LANコンセント、空調設備
物理化学研究室	58	3	19.3	電物棟4F	電気炉、直流電流・電圧発生源・モニター、セラミックス成形機、LANコンセント、空調設備
質量分析計室	19	6	3.2	電物棟4F	クロマトグラフ質量分析計、ドラフトチャンバー、LANコンセント、空調設備
物質合成研究室	88	10	8.8	電物棟4F	ドラフトチャンバー、フード付実験台、排水規制対策溶媒濃縮装置、パーソナル有機合成装置、LANコンセント、空調設備
有機機器分析室 I	19	7	2.7	電物棟4F	旋光計、フーリエ変換赤外分光計、UV照射器、LANコンセント、空調設備
有機機器分析室 II	78	7	11.1	電物棟4F	ガスクロマトグラフ、高速液体クロマトグラフ、中圧液体クロマトグラフ、LANコンセント、空調設備
高分子材料研究室	58	5	11.6	電物棟4F	遠心分離機、紫外線照射装置、精密合成用ガラス製真空ライン、高速液体クロマトグラフ、紫外可視分光器、ガスクロマトグラフ、ドラフトチャンバー、LANコンセント、空調設備
材料化学実験室 II	29	10	2.9	電物棟4F	分光光度計、分光器、蛍光分光光度計、ガスクロマトグラフ、LANコンセント、空調設備
無機材料研究室	58	6	9.7	電物棟4F	交流インピーダンス測定装置、示差熱・熱重量分析装置、ドラフトチャンバー、LANコンセント、空調設備

資料 8 - 1 - ① - 9 (続き)

材料化学実験室 I	58	12	4.8	電物棟4F	ドラフトチャンバー、LAN コンセント、空調設備
生体材料工学研究室	48	7	6.9	物質実験棟 2F	電気炉、乾燥器、耐圧容器、pHメーター、電子天秤、ドラフトチャンバー、LANコンセント
生物学実験機器分析室	23	4	5.8	物質実験棟 1F	蒸留水製造装置、ガスクロマトグラフ (ECD検出器付)、クロマトチャンバー、フラクションコレクター、LANコンセント
生物学実験室	94	20	4.7	物質実験棟 1F	ドラフトチャンバー、排水規制対策溶媒濃縮装置、恒温槽、超音波細胞破壊機、LANコンセント
試料調整室 (低温室)	27	2	13.5	物質実験棟 2F	低温室、ドラフトチャンバー、デジタル旋光計、LANコンセント
生体物質工学研究室	40	4	10.0	物質実験棟 2F	ドラフトチャンバー、高速液体クロマトグラフィー、LANコンセント
微生物工学研究室 (培養室) (クリーンルーム)	70	2	35.0	物質実験棟 2F	クリーンルーム、クリーベンチ、高速冷却遠心分離機(大・小)、卓上高速遠心分離機、蒸留イオン交換水製造機、オープン、オートクレーブ、恒温培養機、冷却恒温培養機、LANコンセント
物質系講義室	41	20	2.0	物質実験棟 1F	LANコンセント

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-10：建築学科実験室の概要

建築学科実験室の概要

名称	面積 (㎡)	実験時 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	設備等
材料・構造実験室	277	40	6.9	建築棟1F	恒温水槽循環装置、中性化促進試験槽、乾燥炉、ポンプ型強制練りミキサー、水銀圧入式ボロメーター、油圧中空ジャッキ、耐圧・万能試験機
デザインスタジオ	116	40	2.9	建築棟2F	カラープロッタ、デジタルサイネージ、映像装置、書画カメラ、スクリーン(80インチ)、LANコンセント、空調設備
製図室(Ⅰ)	127	43	3.0	建築棟3F	平行定規、製図台、LANコンセント、空調設備
製図室(Ⅱ)	171	46	3.7	建築棟3F	平行定規、展示用模型、製図台、LANコンセント、空調設備
製図室準備室	28	5	5.6	講義棟3F	展示用模型、保管図面ケース、LANコンセント、空調設備
川上研究室	32	5	6.4	建築棟1F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
奥富研究室	22	3	7.3	建築棟2F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
山本(嘉)研究室	33	6	5.5	建築棟2F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
山本(昇)研究室	32	3	10.7	建築棟2F	研究室用PC、鉄骨継手仕口キット、有限要素解析ソフト、LANコンセント、空調設備
大島研究室	23	5	4.6	建築棟2F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
尾立研究室	23	6	3.8	建築棟2F	カラープロッタ、建築設計モデリング・レタリングソフト、建築設計レタリングソフト、研究室用PC、LANコンセント、空調設備
高橋(大)研究室	23	5	4.6	建築棟2F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
白石研究室	43	5	8.6	建築棟3F	名作椅子、研究室用PC、LANコンセント、空調設備
瀧澤研究室	32	6	5.3	建築棟3F	研究室用PC、LANコンセント、空調設備
高橋(純)研究室	33	2	16.5	建築棟3F	構造力学実験装置、強震計(電子棟、専攻科棟)、研究室用PC、LANコンセント、空調設備

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-11：情報処理関連演習室等の概要

情報処理関連演習室等の概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
第1 演習室	116	43	2.7	情報科学センター	教育用電子計算機システム(*)、 スクリーン、LANコンセント、空調設備
第2 演習室(電子 計算機実習室)	121	44	2.8	電子棟4F	教育用電子計算機システム、スクリー ン、LANコンセント、空調設備
第3 演習室(多目 的マルチメディア 教室)	79	21	3.8	電物棟2F 【再掲】	教育用電子計算機システム、電動 スクリーン、プロジェクタ、 LANコンセント、空調設備
マルチメディア 実習室	53	13	4.1	情報科学センター	パソコン、LANコンセント、空調設備
ネットワーク 実習室	53	20	2.7	情報科学センター	UNIX実験システム、ネットワーク実験シ ステム、LANコンセント、空調設備

(*) 教育用電子計算機システムの構成

- (1) システム用管理サーバ 1 台
- (2) システム用I/Oサーバ(Windows) 5 台
- (3) システム用NFSサーバ(Linux) 2 台
- (4) ファイルサーバ 1 台
- (5) 認証サーバ 1 台
- (6) システム専用端末 120 台

内 訳

- 第一演習室 49 台
- 第二演習室 49 台
- 第三演習室 21 台
- 予備機 1 台

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-12：情報科学教育研究センターの利用状況（平成18年度）

情報科学教育研究センターの利用状況（平成18年度）

第一演習室		マルチメディア実習室		ネットワーク実習室		1週当たりの 平均利用率
1 週当たり	利用率	1 週当たり	利用率	1 週当たり	利用率	
28時間(前期)	70.0%	28時間(前期)	70.0%	29時間(前期)	72.5%	77.9%
33時間(後期)	82.5%	34時間(後期)	85.0%	35時間(後期)	87.5%	

利用率は週 40 時間として算定

(出典：総務課施設係資料)

資料 8 - 1 - ① - 13 : 情報科学教育研究センター時間外利用統計表

情報科学教育研究センター時間外利用統計表

【学年別利用状況】

単位：人

	1年	2年	3年	4年	5年	不明	計
2006年8月		3		1	3	4	11
9月	1	15		1			17
10月	3	10	11	2	1	1	28
11月	1						1
12月	5	3		3		1	12
2007年1月			2	2		1	5
2月				1	2		3
3月				4		1	5
4月	13	1	1	1	4		20
5月	30	3	1	2			36
合計	53	35	15	17	10	8	138

【曜日別利用状況】

	月曜	火曜	水曜	木曜	金曜	計
2006年8月		2	3	4	2	11
9月	10	3		2	2	17
10月	1	15	7		5	28
11月				1		1
12月	7			2	3	12
2007年1月	3		1	1		5
2月	1		1	1		3
3月	2			1	2	5
4月	2	4	5	1	8	20
5月	7	3	16	5	5	36
合計	33	27	33	18	27	138

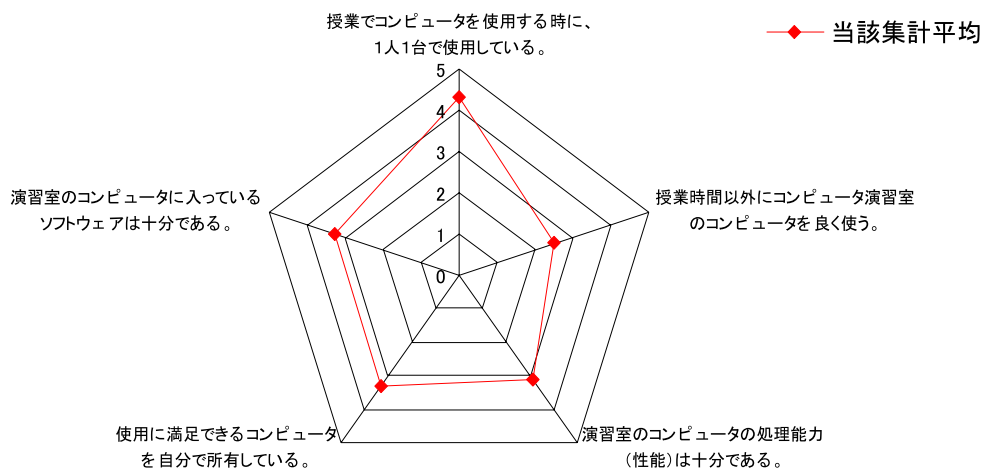
【利用時間状況】

	0分～ 30分	30分～ 1時間	1時間～ 1時間30分	1時間30分 ～2時間	2時間～ 2時間30分	3時間 以上	計
2006年8月	6	1	2	1		1	11
9月	7	1		3	4	2	17
10月	11	4	10	1	2		28
11月		1					1
12月	5	4		3			12
2007年1月	3			1		1	5
2月	2					1	3
3月	5						5
4月	11	7		2			20
5月	21	1	7	7			36
合計	71	19	19	18	6	5	138

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-①-14 : コンピュータ利用状況アンケート結果

[コンピュータ利用状況アンケート結果]



(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 8 - 1 - ① - 15 : 図書情報センターの概要

図書情報センターの概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
図書情報センター	1,520	全体 (共通)	—	図書情報センター 1F、2F	図書館LANシステム(蔵書検索等システム)、ブックデータベース(BDS)、掲示板用大型スクリーン、館内監視カメラ、モニター、LANコンセント、エレベーター、空調設備
視聴覚室	215	210	1.0	図書情報センター 1F 【再掲】	プロジェクター、書画カメラ、電動スクリーン、DVD、VHS再生機、ビデオ、スピーカー、ディスプレイ、ピアノ、LANコンセント、空調設備
国際交流室	29	8	3.6	図書情報センター 1F	LANコンセント、空調設備、茶室(和室6畳、床の間、囲炉裏、水屋)
教材資料作成室	28	7	4.0	図書情報センター 1F	LANコンセント、空調設備、パソコン、DVD/LD再生機、VHS再生機、テレビ、
ラウンジルーム (学生ホール)	114	16	7.1	図書情報センター 1F	テーブル、LANコンセント、空調設備
第一閲覧室	408	78	5.2	図書情報センター 2F	LANコンセント、空調設備、洗面台
第二閲覧室	65	9	7.2	図書情報センター 2F	LANコンセント、空調設備、有線電話端子
マルチメディアルーム	76	20	3.8	図書情報センター 2F	LANコンセント、空調設備、有線電話端子、パソコン、DVD/LD/CD再生機、VHS再生機、プリンタ
グループ学習室	27	14	1.9	図書情報センター 2F	空調設備、有線電話端子
書庫・ホール 他	558	—	—	図書情報センター 1F、2F	

(出典：総務課施設係資料)

資料 8 - 1 - ① - 16 : 図書情報センターの利用者数

図書情報センターの利用者数

単位：人

平成14年度	平成15年度	平成16年度	平成17年度	平成18年度	過去5年間の平均
69,975	80,068	63,646	62,660	61,674	67,604

(出典：図書館入退館管理システム)

資料 8-1-①-17：ものづくりセンター・共同利用センターの概要

ものづくりセンター・共同利用センターの概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
機械加工実習工場	390	40	9.8	ものづくりセンター	CNC旋盤、CNCフライス盤、ロボドリル、旋盤、フライス盤、研削盤、形削り盤、ボール盤
鋳造実習場	93	12	7.8	ものづくりセンター	るつぼ炉、乾燥炉
鍛造実習場	70	8	8.8	ものづくりセンター	回転炉、エアハンマ
溶接実習場	72	8	9.0	ものづくりセンター	溶接機、排気装置
電子顕微鏡室	30	6	5.0	共同センター1F	電子顕微鏡、光透過式粒度分布測定器、LANコンセント
材料測定室	30	8	3.8	共同センター1F	アコースティック・エミッション、CCDマイクロスコープ、LANコンセント
材料実験室	61	6	10.2	共同センター1F	材料試験機、LANコンセント
ゼミナール室	31	8	3.9	共同センター1F	スクリーン、LANコンセント
電気化学分析室 (レンタルラボ室.2)	16	3	5.3	共同センター2F	ドラフトチャンバー、LANコンセント
精密機器測定室	26	6	4.3	共同センター2F	NMR、LANコンセント
合成実験室 (レンタルラボ室.1)	60	1	60.0	共同センター2F	分取液体クロマトグラフ、ドラフトチャンバー、LANコンセント
エスカ・ICP室	30	3	10.0	共同センター2F	エスカ・オージェ、ICP、LANコンセント
半導体作成室	31	4	7.8	共同センター2F	ドラフトチャンバー、単結晶引き上げ装置、LANコンセント
超伝導測定室	31	4	7.8	共同センター2F	クリーンルーム
セラミック実験室	40	3	13.3	共同センター別館	プラスチック溶射装置、超高温ホットプレス、ゴム引っ張り試験機
腐食実験室	20	3	6.7	共同センター別館	ドラフトチャンバー
X線回折室	20	5	4.0	共同センター別館	X線回折装置
福祉防災実験室	20	2	10.0	共同センター別館	車椅子、高齢者体験グッズ

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-18：ゼミ室の概要

ゼミ室の概要

名称	面積 (㎡)	収容 人数	一人当 面積(㎡)	場 所	主要設備等
管理棟 301ゼミ 室	39	20	2.0	管理棟3F	スクリーン、LANコンセント、 空調設備
電物棟 201ゼミ 室	39	21	1.9	電物棟2F	スクリーン、LANコンセント、 空調設備
電物棟 401ゼミ 室	29	20	1.5	電物棟4F	スクリーン、LANコンセント、 空調設備
機械棟 201ゼミ 室	58	42	1.4	機械棟2F	電動スクリーン、LANコンセント、 ビデオ、空調設備
機械棟 301ゼミ 室	58	42	1.4	機械棟3F	電動スクリーン、LANコンセント、 ビデオ、空調設備
建築棟 101ゼミ 室	48	40	1.2	建築棟1F	電動スクリーン、LANコンセント、 空調設備
電子ゼミ室	115	42	2.7	電子棟1F	プロジェクター、スクリーン、 LANコンセント

(出典：総務課施設係資料)

資料 8-1-①-19：体育施設の概要

体育施設の概要

施設名称		附属設備等
グラウンド	9,472	300mトラック(トラック内は天然芝で多目的に使用)、器具庫
野球場・サッカー場	11,485	屋外便所
テニスコート	4,782	人工芝6面、テニス練習板
第一体育館	1,106	ステージ、舞台設備、トレーニング設備、バレー・バスケット他、温水シャワー
第二体育館	880	バレー・バスケット他、温水シャワー
武道館	349	柔道、剣道
水泳プール	524	25m×5コース、屋外プール、温水シャワー

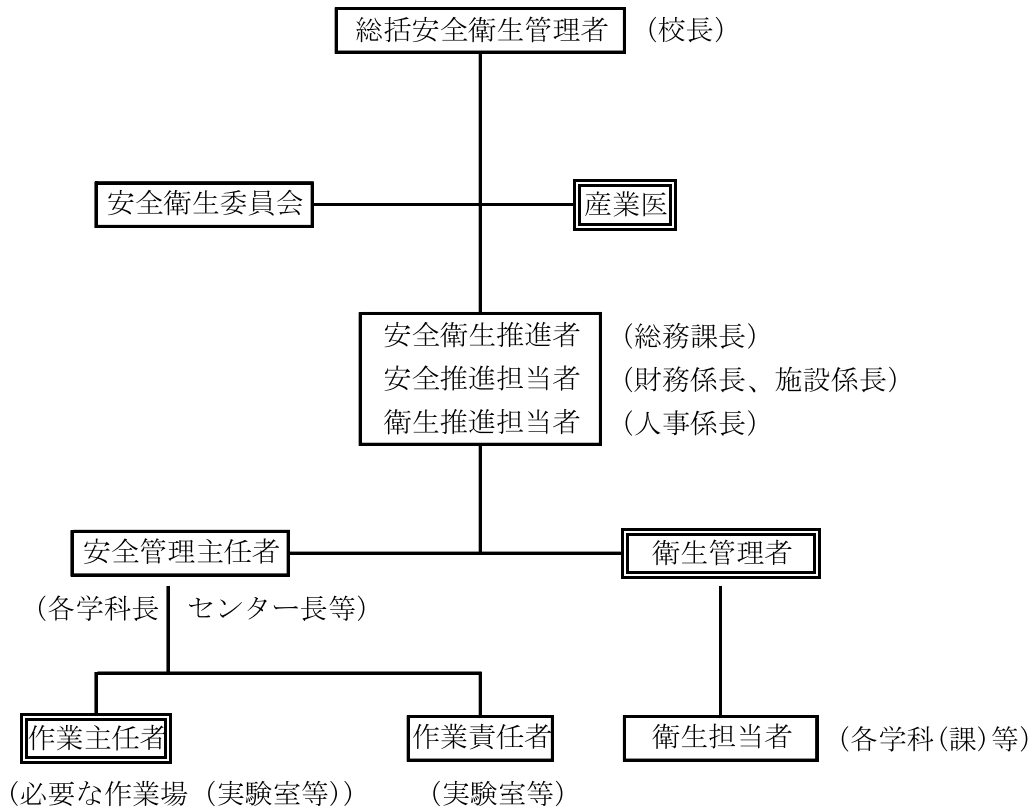
体育施設は、授業や課外活動に使用するほか、休日等の未使用時には地域開放にも供している

(出典：総務課施設係資料)

資料 8 - 1 - ① - 20 : 小山工業高等専門学校 安全衛生管理規程 別表第 2

別表第 2

〔小山工業高等専門学校 安全衛生管理体制〕



(出典：小山高専ホームページ)

資料 8-1-①-21 : 安全衛生委員会 巡視チェックシート

[安全衛生委員会 巡視チェックシート]

安全衛生チェック項目

(実験室、センター等)

(実施日：平成 年 月 日)

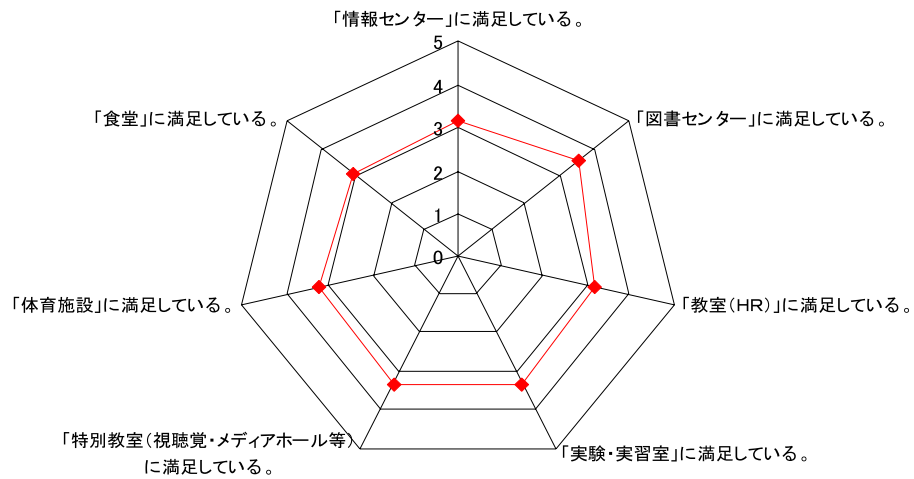
	チェック項目	良	否	備考
通路	1. 安全な通路が設けられているか。			
	2. 通路は、段差、くぼみ等はないか。			
	3. 通路は、白線等で作業場所とはっきり区別されているか。			
	4. 通路を横切るコード、ホース、配管類はないか。通行する際に安全に覆われているか。			
	5. 通路に物が置かれたり、障害となるものはないか。			
	6. 通路は、油の汚れや水がこぼれたままになっていないか。			
	7. 清掃がよく行われ、ゴミ、ホコリがたまっていないか。			
作業床	1. 作業床は、段差、くぼみ等はないか。作業床の端は、作業が行いやすい状態となっているか。			
	2. 作業床は、コード、ホース、配管類が作業の障害になっていないか。			
	3. 機械の電源スイッチ、消火器や非常口の表示がはっきりと見えるか。			
	4. 作業床には、不要物が置かれていないか。			
	5. 作業床は、油での汚れや水がこぼれたままになっていないか。			
	6. 清掃がよく行われ、ゴミ、ホコリがたまっていないか。			
原材料・半製品	1. 原材料、半製品は、棚、台、箱等に適切に区分され、収納されているか。			
	2. 原材料、半製品が置かれた場所には、運搬可能な通路、空間が確保されているか。			
	3. 原材料、半製品の形状や重量に応じて、積み上げの高さ等を決め、荷崩れ、落下、転倒のおそれのない、安定した置き方をしているか。			
	4. 危険有害物は、指定の場所で、専用容器に収納されているか。			
治具等	1. 治具、作業用具等は、所定の場所に使いやすい状態で収納されているか。			
	2. 掃除用具は、所定の場所に収納されているか。			
廃品・クズ等	1. 廃品、クズ等は、捨てる場所を指定し、区分され、適切な容器に収納されているか。			
	2. 廃品、クズ等を収納する容器は、内容物が表示され、たまりすぎしていないか			
	3. 機械、設備のその周辺は、ゴミ、ホコリがたまった状態になっていないか。			
	4. 油ポロは、蓋つきの不燃性容器に収納されているか。			
その他	1. 各部屋に監守者・火元責任者が指名され、表示がされているか			
	2. 消火器が適正に配置されているか			
	3. 照明設備、換気設備は整っているか			
	4. 各種機器の操作マニュアルの有無			
	5. 装置の緊急停止ボタンがあるか			
	6. 地震時の転倒防止措置はなされているか			
	7. 非常口の表示はあるか			

氏名

(出典：安全衛生委員会資料)

資料 8 - 1 - ① - 22 : 施設満足度アンケート結果

〔施設満足度アンケート結果〕



(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 8 - 1 - ① - 23 : 施設・設備一覧

〔施設・設備一覧〕

資料：施設実態調査 H19.05

○敷地 総面積		99,014㎡	学校用敷地全体
校舎敷地		60,582㎡	校地
寄宿舎敷地		9,156㎡	学生寄宿舎用地
運動場敷地		29,276㎡	屋内外運動場用地
○建物	構造	面積	施設・設備
一般・管理棟	RC3	2,322㎡	実験・実習室 SL
電気情報・物質工学科棟	RC4	4,446㎡	研究室、実験・実習室、演習室 SL
機械工学科棟	RC3	2,040㎡	” SL
電子制御工学科棟	RC4	2,179㎡	” SL
建築学科棟	RC3	1,680㎡	” SL
専攻科棟 (テクノ棟)	RC5	3,139㎡	” EV、障WC、SL
講義棟	RC3	668㎡	語学学習、一般製図室、等
図書情報センター	RC2	1,624㎡	図書館 EV、障WC、SL
情報科学教育研究センター	RC1	312㎡	情報処理学習 SL
地域共同開発センター	RC2	484㎡	地域連携・共同研究 SL
ものづくり教育研究センター	S1	840㎡	実習工場
建築材料構造実験室	S1	277㎡	研究室、実験・実習室
第一体育館	S1	1,106㎡	屋内運動場 SL
第二体育館	S1	880㎡	” SL
武道館	RC1	349㎡	”
合宿研修施設棟	RC2	408㎡	学生福利厚生施設
一般食堂棟	RC1	583㎡	”
学生寮 (東、西、南、北)	RC3-5	6,030㎡	学生寄宿舎
物質工学科実験棟	RC2	512㎡	研究室、実験・実習室 SL
その他		1,192㎡	倉庫、車庫等管理用施設
合計		31,071㎡	

《摘要》 [EV] : エレベーター [障WC] : 身障者用トイレ [SL] : スロープ

(出典：総務課施設係資料)

(分析結果とその根拠理由)

教育課程実現のための多数の講義室、実験室及び演習室等の施設及び設備が整備されている。その他、選択制授業等にも弾力的に対応するための共同利用スペースも多数確保され、有効に活用されているとともに、安全衛生に関しても十分な配慮がなされている。平成18年度に実施した学生の「施設満足度アンケート結果」からも、各施設とも平均点を超える評価を得ており、施設・設備面についてほぼ満足していることが伺える。

教育用のコンピュータ (パソコン) も1人1台が確保され、また授業以外にも自習等で有効に活用されている。

バリアフリーについても、スロープ、自動ドア、身障者用トイレ及びエレベーターが設置され十分な配慮がなされている。

観点 8-1-②： 教育内容，方法や学生のニーズを満たす情報ネットワークが十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され，有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

教育内容・方法の面からの情報ネットワークによるニーズの把握や情報セキュリティの構築などに関しては、情報科学教育研究センター運営委員会により現状の把握と今後の改善がなされている(資料8-1-②-1, 2)。また、情報科学教育研究センターに情報ネットワーク室を設置し、「小山工業高等専門学校情報セキュリティポリシー」(資料8-1-②-3)に基づいたネットワークの運用と整備を行っている。情報科学教育研究センターには技術職員が配置され(資料8-1-②-4)、常に安全性の管理とともに緊急時の対応がとれるようになっている。

本校のネットワークシステムは基幹が Gigabit Ethernet により構成され、情報の高速伝送が可能である。また、学外及び学内の情報交換のために WWW サーバ、メールサーバ、動画配信サーバ、イントラネットサーバ及びグループウェアサーバ等 8 台の専用サーバを設置すると共に、安全性確保のためファイアーウォール、アンチウィルスゲートウェイサーバ及び侵入検知システムを導入している。さらに教職員及び学生が使用するすべてのパソコンにはウィルス対策ソフトを導入し、安全性をより高めている。十分な安全性を考慮したシステムと管理の下、学生の実験実習や卒業研究、教職員の研究、事務業務に係る利用、WWW サーバによる情報発信及びインターネットによる国内外の情報の収集・交換に広く利用されている(資料8-1-②-5)。

情報科学研究教育研究センターの第一演習室は昼休み及び放課後等、授業で使用していない時間帯は学生の自習及び情報収集のために開放している。利用に際しては利用記録簿により管理を行っている(資料8-1-①-13: 既出)。

これら、情報ネットワークの利用頻度の増加、データ量の大きな情報の増加により、ネットワークトラフィックが増加し接続の帯域幅が限界に達し、十分な接続性が得られない状況になっている(資料8-1-②-6)。

全学生に対し年度初めに「情報科学研究教育研究センター利用について」(資料8-1-②-7)が掲載された学生便覧を配付すると共に、すべての新入学生に対して利用講習会を行い、セキュリティポリシーの遵守とインターネットやメール利用上のモラル向上に努めている。

資料 8-1-②-1 : 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会細則

小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会細則

制 定 平成15年 4月 1日

最終改正 平成19年 4月 1日

(趣旨)

第1条 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター（以下「情報センター」という。）規則第6条第2項に基づき、情報科学教育研究センター運営委員会（以下「委員会」という。）の組織及び運営等に関し必要な事項を定める。

(組織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 情報科学教育研究センター長（以下「センター長」という。）
- 二 情報科学教育研究センター情報ネットワーク室長
- 三 本校の各学科専任教員から各1名
- 四 学生課長
- 五 技術室長
- 六 その他校長が必要と認めた者

2 前項第3号に掲げる委員の任期は、1年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員の任命)

第3条 前条第1項第3号の委員は、校長が任命する。

(委員長及び会議の開催)

第4条 委員会に委員長を置き、センター長をもって充てる。

- 2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 委員長に事故があるときは、委員長の指名する委員がその職務を代行する。
- 4 委員長が必要と認めたときは、委員以外の者を会議に出席させることができる。

(審議事項)

第5条 委員会は、次の事項について審議する。

- 一 情報センター及び情報ネットワークの管理運営に関わる基本方針及び長期計画に関すること。
- 二 情報センター及び情報ネットワークの利用計画に関すること。
- 三 情報処理教育についての基本計画に関すること。
- 四 情報処理技術の研究、開発及び普及に関すること。
- 五 校長から諮問があったこと。
- 六 その他情報センター及び情報ネットワークについての重要事項に関すること。

(事務)

第6条 委員会の事務は、技術室第2グループが処理する。

資料 8-1-②-1 (続き)

附 則

- 1 この細則は平成15年4月1日から施行する。
- 2 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会規程（平成9年4月1日制定）は廃止する。

附 則

この細則は平成16年4月1日から施行する。

附 則

この細則は平成19年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 8-1-②-2 : 小山高専情報ネットワークシステムのこれまでの経緯

1. 小山高専情報ネットワークシステムのこれまでの経緯

小山高専情報ネットワークは平成8年度に導入されて以来、次のように変更及び整備が行われてきた。

- 平成8年3月(1996年) 情報ネットワークシステム導入(ATMスイッチ)
- 平成9年 インターネット外部接続速度を64Kbpsから256Kbpsへ変更
- 平成11年12月(1999年) インターネットサーバ及びルータの2000年対応
- 平成11年12月(1999年) ファイアーウォール(外向けサービスを含む)の更新
- 校内PCへウイルス対策ソフトを一括導入し、ウイルスへの対策を行う
- 平成12年3月(2000年) 基幹ネットワークのギガビットイーサ化し、高速化と信頼性を図る
- 平成12年4月(2000年) インターネット外部接続をSINETからTTnetへ変更、これに伴い、速度は256Kbpsから1.5Mbpsとなる
- 平成13年3月(2001年) ファイアーウォールの2重化により負荷分散と信頼性の向上を図る
- 平成13年3月(2001年) 専攻科棟ネットワーク新設、情報センターのスイッチ増強
- 平成13年6月(2001年) ネットワーク基幹部の保守契約
- 平成13年9月～平成14年2月 校舎改修に伴い、管理棟及び図書館棟のネットワークを増強し、電子図書館への対応を考慮する
- 平成14年3月(2002年) 学内ネットワークを全面的にギガビット化
- 平成14年3月(2002年) インターネット外部接続を10Mbps/8ユーザ型(パワードコム)とする
- 平成14年12月(2002年) インターネット外部接続を10Mbps/占有型とする
- 平成15年3月(2003年) 機械工学科棟、建築学科棟及び講義棟の改修工事に伴いスイッチを増設する(Summit24e 3台)
- 平成16年2月(2004年) 財務会計システムの導入(ファイアーウォールの設置)
- 平成17年3月(2005年) ファイアーウォールを更新する
(Netscreen-100x2 ->Netscreen-204x2)

資料 8-1-②-2 (続き)

- 平成 18 年 6 月 (2008 年) スпамメール対策ソフトの導入
- 平成 19 年 3 月 (2007 年) 人事給与システム及び共済システムの導入
- 平成 19 年 3 月 (2007 年) グループウェアサーバ、Webサーバ及びCGIサーバを更新(同時にグループウェアImpressionOfficeのバージョンアップ)
- 平成 19 年 3 月 (2007 年) 情報センターメインスイッチ、情報センターフロアスイッチ及び専攻科棟フロアスイッチを更新

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-②-3 : 小山工業高等専門学校情報セキュリティポリシー

小山工業高等専門学校 情報セキュリティポリシー

小山工業高等専門学校
平成 16 年 3 月

(出典：小山高専情報セキュリティポリシー)

資料 8 - 1 - ② - 4 : 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則

小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則

制 定 平成 15 年 4 月 1 日

最終改正 平成 19 年 4 月 1 日

(設置)

第 1 条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)における、情報処理教育・研究を推進するとともに、学外の諸機関との連絡・調整及び情報ネットワークの管理運営を行うために、情報科学教育研究センター(以下「情報センター」という。)を置く。

(業務)

第 2 条 情報センターにおいては、次の各号に掲げる業務を行う。

- 一 情報センター内の施設・設備に関する管理運営及び保守に関すること。
- 二 情報ネットワークの管理運営及び保守に関すること。
- 三 情報処理及び関連技術に関する教育・研究及び助言を行うこと。
- 四 情報処理に関する外部機関との連絡・調整を行うこと。
- 五 情報処理に関連した公開講座の実施及び課外活動等の支援に関すること。

(センター長)

第 3 条 情報センターに情報科学教育研究センター長(以下「センター長」という。)を置き、本校の専任教員のうちから校長が任命する。

2 センター長は、前条の業務を掌理する。

3 センター長の任期は 2 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター員)

第 4 条 センターの管理運営を円滑に行うために情報科学教育研究センター員(以下「センター員」という。)を置く。

2 センター員は、センター長を補佐するとともに、第 2 条のセンター業務の企画立案及びその業務の遂行にあたる。

3 センター員は、本校の教職員のうちから校長が任命する。

4 センター員の任期は 1 年とし、再任を妨げない。ただし、欠員を生じた場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(センター職員)

第 5 条 情報センター担当の技術職員を技術室に置く。

2 技術職員は、センター長の指示を受けて、センター員とともに第 2 条のセンター業務の遂行及び援助を行う。

(運営委員会)

第 6 条 情報センターの管理運営に関する事項を審議するため、情報科学教育研究センター運営委員会(以下「委員会」という。)を置く。

資料 8-1-②-4 (続き)

2 委員会に関する必要な事項は別に定める。

(情報ネットワーク室)

第7条 第2条の業務を円滑に行うため、情報ネットワーク室を置く。

2 情報ネットワーク室に室長及び主任を置き、センター員の中から校長が任命する。

3 情報ネットワーク室の運営について必要な事項は別に定める。

(事務)

第8条 情報センターに関する事務は、技術室第2グループが行う。

(雑則)

第9条 情報センター及び情報ネットワークの利用について、必要な事項は別に定める。

附 則

1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。

2 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規程(平成9年4月1日制定)は、廃止する。

附 則

この規則は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成19年4月1日から施行する。

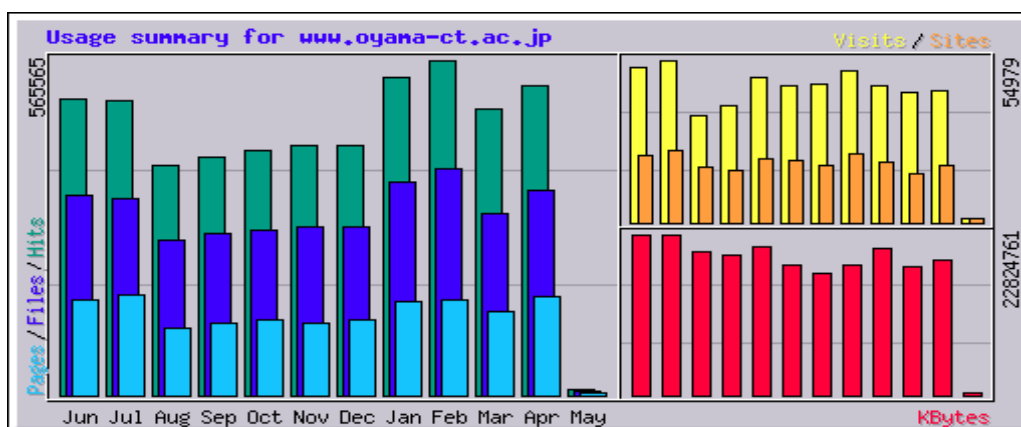
(出典：小山高専ホームページ)

資料 8-1-②-5 : www.oyama-ct.ac.jp の利用統計

www.oyama-ct.ac.jp の利用統計統計期間 : 12ヶ月

作成日 : 平成 19年 5月 17日

月統計										
月	1日当たり平均				月合計					
	アクセス数	ファイル数	ページ数	アクセス者数	サイト数	データ容量	アクセス者数	ページ数	ファイル数	アクセス数
5月 2007	592	371	186	82	225	362695	1312	2978	5942	9486
4月 2007	17445	11580	5511	1491	19229	19245004	44740	165337	347420	523660
3月 2007	15558	9906	4502	1424	16673	18254379	44171	139584	307115	482319
2月 2007	20198	13699	5752	1645	20522	20857013	46073	161066	383559	565565
1月 2007	17265	11677	5095	1652	23023	18436737	51223	157959	362015	535219
12月 2006	13604	9184	4072	1510	19518	17142319	46833	126241	284712	421736
11月 2006	14080	9531	4025	1546	21262	18476196	46400	120765	285940	422414
10月 2006	13331	9069	4120	1582	21385	21097225	49070	127746	281164	413273
9月 2006	13427	9103	4038	1325	17770	19967222	39777	121164	273118	402825
8月 2006	12525	8493	3677	1168	18580	20455690	36236	114013	263306	388284
7月 2006	16016	10747	5402	1773	24224	22824761	54979	167490	333116	496518
6月 2006	16624	11282	5299	1747	22598	22681698	52417	158976	338465	498731
合計						219800939	513229	1563309	3465962	5160030

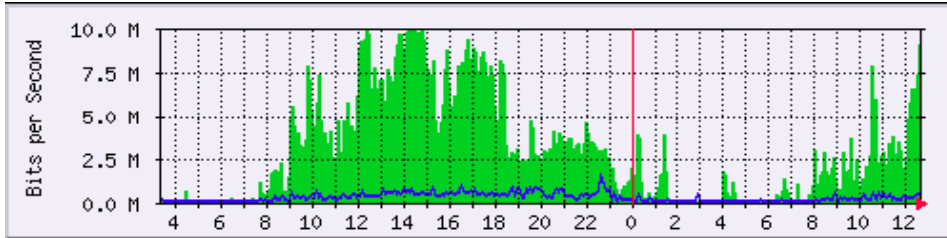


(出典 : 情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-②-6 : インターネットにおける回線利用量

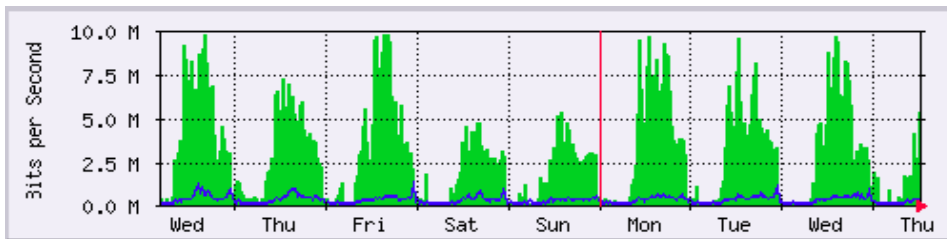
The statistics were last updated Thursday, 17 May 2007 at 12:40, at which time 'Internet-Router' had been up for 219 days, 3:55:03.

Daily' Graph (5 Minute Average) 毎日のグラフ(5分の平均)



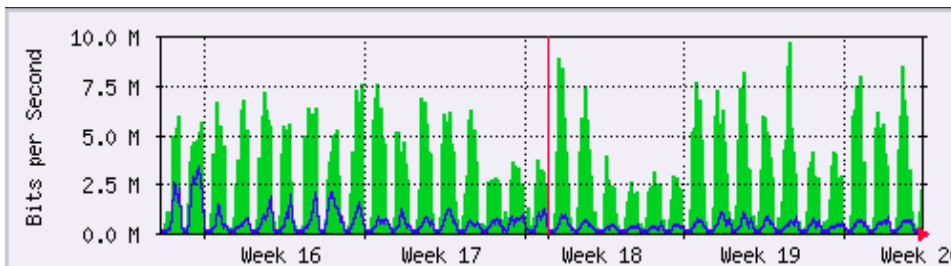
	Max	Average	Current
In	9808.1 kb/s (98.1%)	2808.9 kb/s (28.1%)	9044.8 kb/s (90.4%)
Out	1530.4 kb/s (15.3%)	254.1 kb/s (2.5%)	513.1 kb/s (5.1%)

Weekly' Graph (30 Minute Average) 毎週のグラフ(30分の平均)



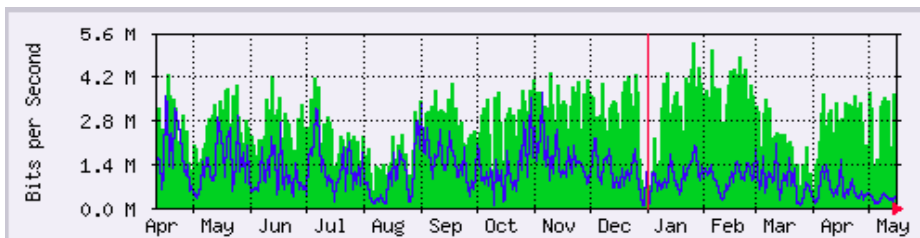
	Max	Average	Current
In	9776.5 kb/s (97.8%)	2879.6 kb/s (28.8%)	5347.3 kb/s (53.5%)
Out	1350.4 kb/s (13.5%)	282.7 kb/s (2.8%)	300.6 kb/s (3.0%)

Monthly' Graph (2 Hour Average) 毎月のグラフ(2時間の平均)



	Max	Average	Current
In	9638.2 kb/s (96.4%)	2660.5 kb/s (26.6%)	2185.0 kb/s (21.9%)
Out	3249.9 kb/s (32.5%)	397.5 kb/s (4.0%)	234.8 kb/s (2.3%)

Yearly' Graph (1 Day Average) 毎年のグラフ(1日の平均)



	Max	Average	Current
In	5214.0 kb/s (52.1%)	2607.7 kb/s (26.1%)	2946.8 kb/s (29.5%)
Out	3637.0 kb/s (36.4%)	1095.0 kb/s (11.0%)	312.4 kb/s (3.1%)

GREEN ### Incoming Traffic in Bits per Second

BLUE ### Outgoing Traffic in Bits per Second

(出典：情報科学教育研究センター資料)

資料 8-1-②-7：情報科学教育研究センターの利用について

○情報科学教育研究センターの利用について

まえがき

これは、小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター（以下「情報センター」という。）を利用する人（以下「利用者」という。）が、円滑に利用するため、知っておかなければならないことをまとめたものです。

第1条 利用の範囲

- (1) 学生に対する情報処理教育に関する授業並びにこれに伴う実習。
- (2) 卒業研究。
- (3) 教員研究。
- (4) その他、情報センター長が特に必要と認めたもの。

第2条 利用時間

- (1) 原則として、利用時間は本校勤務時間内とする。
- (2) 特に必要と認められた場合は、所定の手続き（様式1）を経て時間外利用することができる。

第3条 利用優先順位

教育用計算機システムの利用は授業優先とし、授業時間中、他からの利用は原則として禁止する。

第4条 利用の不承認と停止

1. 情報センター長は、次に該当する利用申請については、これを承認しないことができる。
 - (1) 利用内容が「情報科学教育研究センターの利用について」で定める利用の範囲外であるとき。
 - (2) その他教育用計算機システムの利用を不相当と認めたとき。
2. 情報センター長は利用者が教育用計算機システムの運営、操作に支障を生じさせる恐れのあるときは、その利用を停止させることができる。
3. 教育用電子計算機システムの保守のため停止することがある。

第5条 遵守事項

1. 利用者は、次の各号に掲げる事項を遵守しなければならない。
 - (1) 施設、設備、備品等を破損し、又は紛失しないこと。もし、紛失した場合、又は機械に故障を生じた場合は、速やかに情報センター職員に届けること。
 - (2) 利用後の後始末、整理、整頓を行うこと。
 - (3) 「ネットワーク管理室」への学生の立ち入りは、原則として禁止する。
 - (4) 外部からの持ち込んだ機器等をパソコンに接続しないこと。
 - (5) 情報センター内に飲食物を持ち込まないこと。
 - (6) 情報センター内でゲームをしないこと。

資料 8-1-②-7 (続き)

- (7) ゴミは必ず分別して捨てること。また、不要なプリンター用紙は丸めずに用紙入れに入れること。
- (8) 一人で複数のパソコンを占有しないこと。
- (9) コンピュータの誤作動の恐れがある為、演習室内での携帯電話、PHS、ポケットベル、無線機等の利用を禁止する。
- (10) 情報センター内での喫煙を禁止する。
- (11) プリンター用紙は、私的な使用に用いないこと。
- (12) 履き物は整理整頓をする。下足やスリッパを玄関に放置しないこと。

第6条 その他

1. パソコン使用上の注意

- (1) ハードディスク上のファイルを無断で消したり、書き換えたりしないこと。
- (2) パソコンにはハードディスクが内蔵されていますので振動を与えないこと。
- (3) HDDやFDDのランプが点灯している状態では電気を切らないこと。
- (4) センターのパソコンにインストールされているソフトウェアを持ち帰らないこと。

2. インターネット利用上の注意

インターネットの利用は学術目的に限る。私的な使用には利用しないこと。

- (1) 各自自分のユーザアカウントを使うこと。
 - ・初期のパスワードは、各自直ちに変更すること。
 - ・他人のユーザアカウント(ID)を使わないこと。
 - ・パスワードは定期的に変更すること。
- (2) 学校のコンピュータを商用目的に使用しないこと。
 - ・「売ります」「買います」といった情報を流さない。また、利用しないこと。
 - ・学校のコンピュータを利用して、オンラインショッピングで物を買わないこと。

3. 電子メール、WWW、電子ニュース等で

- ・他人の誹謗中傷等の公序良俗に反する行為をしないこと。
- ・情報発信の際の詐欺や、他人に迷惑をかける行為を行わないこと。
- ・営利目的の利用はしないこと。
- ・猥褻、暴力的内容や違法な内容が掲載された Web ページや画像を見ないこと。
- ・メーリングリスト等を使い、不特定多数の人に対して、ダイレクトメールや無意味な内容のメール(SPAM)を送信しないこと。
- ・チャット等で妨害をしないこと。

4. 電子メールのマナー

- ・匿名のメールは出さないこと。
- ・インターネットのメールは、安全ではありません。パスワードや暗証番号、クレジットカードの番号等は送らないこと。
- ・あまりに大きなサイズのメールを送らない。特にメールにファイルを添付するときに注意すること。
- ・添付ファイル付きのメール等を送る場合、あらかじめ相手がそれらを読めるかどうか

資料 8-1-②-7 (続き)

確認しておくこと。

5. WWW の情報発信について

- ・他人の著作物(画像、プログラムなど)を許可なく自分の Web ページに掲載しないこと。
- ・コンピュータウイルス等、他人のコンピュータに被害を与えるようなプログラムを配布しないこと。
- ・他人の Web ページに対して、許可なくリンクを張らないこと。

6. セキュリティに関して

- ・よそのコンピュータに侵入しないこと。また、それに類する行為をしないこと。
- ・コンピュータウイルスが混入しているかもしれないので、得体の知れないファイルをダウンロードしないこと。

資料 8-1-②-7 (続き)

(様式 1)

発行年月日	
-------	--

情報科学教育研究センター時間外利用申請書

情報科学教育研究センター 殿

下記のとおり、情報科学教育研究センターの時間外使用を申請いたします。

申 請 年 月 日	平成 年 月 日
利 用 期 間	平成 年 月 日～平成 年 月 日 時 分～ 時 分
利 用 申 請 者	
所 属 (学 科、学 年)	
氏 名	
指 導 教 員 (学 生 の 場 合)	印
利 用 機 器 (台 数)	()
利 用 目 的	

情報科学教育研究センター時間外利用許可書

下記の事項を責任を持って守ってください。

- (1) 時間外使用を開始する前に、必ずセンター員の指導を受けること。
- (2) 機器の操作は、利用申請した者だけが行うこと。
- (3) 機器利用中に異常作動が認められたときは、直ちに使用を中止して、適切な処理を行う。翌日、センター員に必ず報告すること。
- (4) 利用終了後は定められた手順で、使用した機器の電源を忘れずに切ること。
- (5) 利用途中で一時退出するときは、玄関の施錠をすること。
- (6) 利用終了後、退出するときは必ず戸締まりを確認すること。鍵は守衛室に返却すること。
- (7) 指導教員は、すべてにおいて責任を持つこと。

所 属 ・ 氏 名	
利 用 日 時	年 月 日～ 月 日 時 分～ 時 分

・上記の申込みを許可する。

・上記の申込みは

のため許可しない。

情報科学教育研究センター長 印

(出典：平成 19 年度学生便覧 p143～146)

(分析結果とその根拠理由)

学内にGigabit Ethernetによる高速なネットワークが構成されており、全学生及び教職員は情報科学教育研究センター、図書情報センター、研究室及び事務室に設置のパソコンを利用してインターネットによる情報の収集及び電子メール等による情報交換が行われている。また、WWWサーバによる情報発信も積極的に行っている。こうした情報ネットワークの利用においては「小山工業高等専門学校情報セキュリティポリシー」に基づき、常に安全性の管理の下に運用されている。また、安全性向上のための対策ソフトやファイアーウォール等の機器の導入も行っている。以上、本校の情報ネットワークは十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に利用されている。

観点 8-2-①： 図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に整備され、有効に活用されているか。

(観点に係る状況)

現在、図書情報センターに所蔵している蔵書数は約75,000冊である。このうち16,000冊あまりは研究用図書として各研究室に所蔵している(資料8-2-①-1)。

蔵書の内訳では、教育・研究に必要な「自然科学」及び「工学」が全体の55%を占めるが、近年は、豊かな人間性を養う「社会科学」、「芸術」及び「文学」分野の資料収集にも力をいれている。図書選定については、図書情報センター運営委員会で協議し、学科からの意見も取り入れ、リクエスト箱の設置や学生によるブックハンティングにより図書購入に際し学生の要望が反映されるようにしており、年間の貸出冊数は7,000冊を超えている(資料8-2-①-2, 3)。

配架については「郷土資料」、「学修単位のための自学自習コーナー」、「JABEE コーナー」及び「低学年のための工学の基礎コーナー」等、特別なコーナーを設けて利用しやすいように工夫している。

図書以外では、所蔵雑誌98誌の他、購読新聞9紙(うち外国語2紙)が自由に閲覧できるようになっている。

視聴覚資料として、DVD及びVHSをそれぞれ約360本ずつ、その他にもLD、CD及びCD-ROM等を所蔵し、一部授業で使われている他、図書情報センター内マルチメディアルームで学生が自由に視聴できるようになっており、調べ学習や余暇を楽しむために役立っている。

図書資料の貸出・返却等の業務及び資料の管理業務は電算化されており、効率化がはかられている。また、センター内に2台の情報端末を設置し、資料の検索及び貸出状況のチェックが行える。さらに、図書情報センターのホームページを通じて学内のパソコンからの新着図書案内・蔵書の検索も可能である。(資料8-1-①-15:既出)

現在、本校のネットワークに接続されているパソコンからアクセスできる電子ジャーナル・データベースは複数あり、これらを有効活用することにより学習・研究活動がより充実したものになると期待できる(資料8-2-①-4)。

また、読書体験発表会を教務委員会と国語科の共催により毎年実施しており、その際に表彰制度を設けるなど、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。

図書情報センターは、学生・研究者のニーズに応えるべく、平成7年度から時間外開館を開始し、現在の開館時間は平日9時から20時まで、土日も9時から17時まで開館している。また、一般開放については平成12年度より実施しており、貸出冊数・期限等は準学士課程の学生と同じ条件にしている(資料8-2-①-5, 6)。

図書情報センターに関する様々な情報は、リアルタイムで図書情報センターホームページに掲載し、学外・学内からも閲覧が可能になっている(資料8-2-①-7)。

図書情報センターの利用方法を記載したパンフレット「図書情報センター利用案内」を作成し、学生、職員及び一般に配布している(資料8-2-①-6:既出)。

また、館内には掲示板用大型スクリーンも設置しており、各種のお知らせや「貸出ランキング」「読書案内」などを見られるようにしてある(資料8-1-①-15:既出)。

文献複写・相互貸借については、国立情報学研究所(NII)が運営している国公立大学図書館間相互利用(NACSIS-CAT, NACSIS-ILL)に参加することにより、スムーズに運用している。

資料8-2-①-1:蔵書構成表

平成19年3月31日現在

		0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
		総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術	語学	文学	
学 生 用	和書	2,278	1,648	3,912	3,993	12,380	19,885	636	2,547	2,884	5,788	55,951
	洋書	165	12	22	43	754	685	5	18	703	255	2,662
	小計	2,443	1,660	3,934	4,036	13,134	20,570	641	2,565	3,587	6,043	58,613
教 員 用	和書	448	790	1,490	1,316	2,570	4,466	235	742	1,233	1,520	14,810
	洋書	19	4	19	17	398	622	1	19	557	99	1,755
	小計	467	794	1,509	1,333	2,968	5,088	236	761	1,790	1,619	16,565
合 計	和書	2,726	2,438	5,402	5,309	14,950	24,351	871	3,289	4,117	7,308	70,761
	洋書	184	16	41	60	1,152	1,307	6	37	1,260	354	4,417
	小計	2,910	2,454	5,443	5,369	16,102	25,658	877	3,326	5,377	7,662	75,178
割合(%)		3.9	3.3	7.2	7.1	21.4	34.1	1.2	4.4	7.2	10.2	100

(出典: 図書館管理システム)

資料 8 - 2 - ① - 2 : 学年別貸出数一覧

平成 19 年 3 月 31 日現在

	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計
1 年	393	72	465	371	12	383	466	6	472
2 年	365	55	420	498	12	510	294	17	311
3 年	1,452	33	1,485	1,042	140	1,182	1,165	141	1,306
4 年	2,253	115	2,368	2,297	106	2,403	1,624	78	1,702
5 年	1,647	90	1,737	1,307	97	1,404	1,363	97	1,460
専攻 1 年	259	18	277	398	21	419	236	12	248
専攻 2 年	166	1	167	154	8	162	379	14	393
教職員	572	82	654	571	91	662	817	72	889
一般	363	88	451	248	54	302	243	60	303
名誉教授・他	60	0	60	91	4	95	36	0	36
計	7,530	554	8,084	6,977	545	7,522	6,623	497	7,120

(出典：図書館管理システム)

資料 8 - 2 - ① - 3 : 分類別貸出数一覧

平成 19 年 3 月 31 日現在

分類	平成 16 年度			平成 17 年度			平成 18 年度		
	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計	図書	雑誌	計
0	311	56	367	321	36	357	252	22	274
1	80		80	90		90	78		78
2	212	6	218	150	7	157	175	10	185
3	187	12	199	165	14	179	108	12	120
4	1,348	119	1,467	1,317	92	1,409	1,309	83	1,392
5	3,437	325	3,762	3,070	367	3,437	2,399	329	2,728
6	26		26	27		27	15		15
7	135	28	163	147	27	174	119	34	153
8	249	8	257	221	2	223	281	7	288
9	826		826	929		929	1,130		1,130
他	719		719	540		540	757		757
計	7,530	554	8,084	6,977	545	7,522	6,623	497	7,120

(出典：図書館管理システム)

資料 8-2-①-4 : 電子ジャーナル・データベース

名 称 (アルファベット順)	内 容	提供元	EJ or DB
ACS Publications	ACS が発行するコアジャーナル 24 誌と New タイトル 2 誌フルテキスト	American Chemical Society	EJ
CiNii (論文情報ナビゲータ)	学協会が発行された学術雑誌と大学等で発行された研究紀要の両方を検索し、引用文献情報をたどったり、本文を参照したりすることができる	NII (国立情報学研究所)	DB
JdreamII (科学技術文献速報 Web 版)	科学技術全分野(1975 年～ Current) 文献検索 DB。	JST (科学技術振興機構)	DB
KANON	世界中で発行されている外国雑誌約 16,000 誌の目次情報を検索できるデータベース (1995 年～)	Swets 長岡技術科学大学	DB
MathSciNet	米国数学会が提供する世界の数学文献を収録したデータベース(1940 年～)	American Mathematical Society	DB
Science Direct	Elsevier グループ発行の全雑誌のフルテキスト (1995 年～)	Elsevier	EJ

* EJ=電子ジャーナル(主に論文のフルテキストまで利用可)

DB=文献検索データベース(主に書誌情報=論文の情報および抄録まで利用可)

(出典：小山高専ホームページ)

資料 8-2-①-5 : 学外利用登録者の状況

新規登録者

平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度
30 人	21 人	23 人

平成 19 年 3 月末現在登録者：213 人

(出典：図書館管理システム)

資料 8-2-①-6 : 図書情報センター利用案内

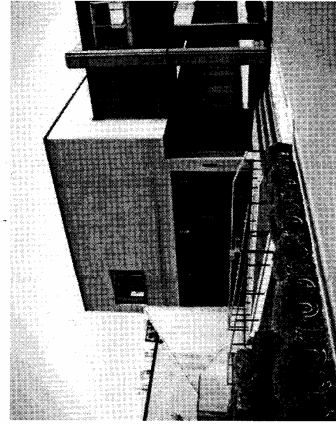
図書情報センター 利用案内

開館時間

平日 9:00~20:00
土曜日・長期休業期間中の平日 9:00~17:00

閉館日

日曜日・国民の祝日（振替休日）
年末・年始
長期休業・臨時休業期間中の土曜日
特別整理期間
臨時の閉館はその都度掲示します



図書情報センター利用上のマナー

- ① 館内での飲食・及び飲食物の持ち込みは一切禁止です。
- ② ゴミは自分で持ち帰ってください。
- ③ 館内では静粛にし、携帯電話を使用しないで下さい。
- ④ 閲覧した資料、使用した椅子などは、元の位置に正しく戻してください。
- ⑤ その他、館内の掲示、係員の指示に従ってください。

図書情報センターのホームページをご覧ください。

<http://www.oyama-ct.ac.jp/>

ご意見ご希望等は

までどうぞ

小山工業高等専門学校 図書情報センター

〒323-0806

栃木県小山市大字中久喜771番地

TEL

FAX

H19.1000

※出入口(2カ所)には、「ブック・ディテクション・システム」が設置されています。館外貸出の手続きが済んでいない資料を持ち出すと、「アラーム」が鳴りますので注意してください。

万一、アラームが鳴ったときは、落ち着いて係員の指示に従ってください。

一般開放について

中学生以上の方ならどなたでも利用できます。貸出を希望される方は、「利用者カード交付申込書」に必要事項を記入の上、身分を証明するものを添えて申し込んでください。

登録後「利用者カード」を発行します。

S 貸出冊数・貸出期間

図 書	3 冊	2 週間
雑 誌	2 冊	2 週間

辞典・辞書等禁帯出ラベルの貼ってある資料、JABEEコーナーの図書、雑誌の最新号は貸出が出来ません。

詳細はカウンターの職員にお問い合わせ下さい。

小山駅(南口) 東側より約5km

乗用車で約10分

小山駅(西口)より

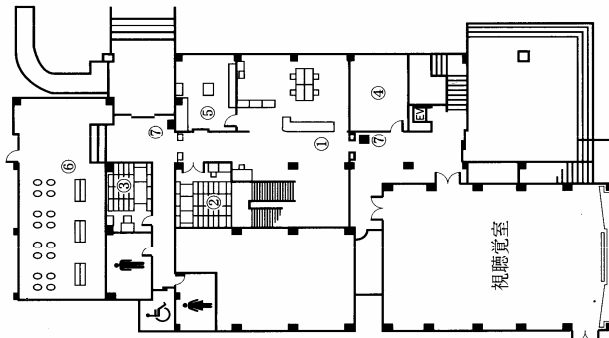
関東バス(土塔・高専・高岳行) 小山高専前下車

関東バス(土塔・高岳行) 高専入口下車(徒歩約5分)

資料 8 - 2 - ① - 6 (続き)

館内案内

1F

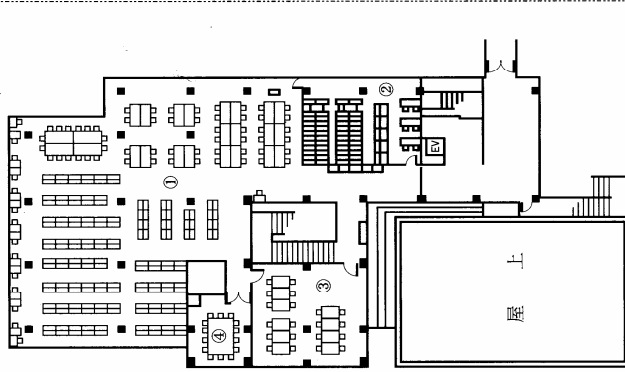


- ① 受付カウンター
- ② 第1書庫
- ③ 第2書庫
- ④ 国際交流室
- ⑤ 教材資料作成室
- ⑥ 新聞
- ⑦ ブックポスト (2カ所)



開架・閲覧スペース (2F)

2F



- ① 開架・閲覧スペース
- ② 第2閲覧室
- ③ マルチメディアルーム
- ④ グループ学習室

※マルチメディアルーム、グループ学習室を利用できるのは、原則として本校の学生、教職員のみです。「利用申込書」(学生は学生証と共に)をカウンターに提出し、鍵の貸出を受けてください。



マルチメディアルーム

閲覧

開架式書架に分類番号(日本十進分類表)順に配架していますので自由に利用できます。書庫にある図書(雑誌)を利用するときは、カウンターの職員に声をかけてください。

貸出

借りたい図書(雑誌)と「利用者カード」を一緒にカウンター職員の職員に提示してください。

S 貸出冊数・貸出期間

区分	形態	冊数	期間
通常貸出	図書	3冊	2週間
	雑誌	2冊	2週間
一夜貸出	辞典辞書類	1冊	16時～翌朝9時
特別貸出	(雑誌出表のもの)(通常貸出に含む)		
卒研貸出	図書	3冊	1ヶ月
		(通常貸出の他)	

・卒研貸出は5年生と専攻科1、2年生対象です。
・JABBEコーナーの図書は一夜貸出のみです。

返却

図書(雑誌)は、期限までにカウンターに返却してください。閉館時は図書情報センター内出入口の「ブックポスト」に入れてください。

返却期限を守りましょう。

利用者カード

本人以外での利用はできません。
紛失しないよう十分注意してください。

(出典：図書情報センター利用案内)

資料 8 - 2 - ① - 7 : ホームページ目次

図書情報センターからの お知らせ	図書情報センターの紹介	利用案内 (一般開放のご案内)
小山高専研究紀要目次(平成 15 年度第 36 号より本文も掲載)	図書情報センターだより	蔵書構成
開館カレンダー	リンク集	English Page

: 学内ページ目次

学内向けお知らせ	新着図書案内	定期購読図書一覧
蔵書検索	マルチメディアルーム グループ学習室の利用法	文献複写の申込み
研究紀要案内	図書情報センター規程	電子ジャーナル データベース
学生希望図書の申込み	読書体験記	

(出典：小山高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

図書、学術雑誌、視聴覚資料、パソコン及び視聴覚機器が十分整備され、多くの学生が利用し、年間 7,000 冊以上の図書が貸し出されている。リクエスト箱の設置や学生によるブックハンティングにより図書購入に際し学生の要望が反映されるようにし、ホームページ等により新着図書の周知も十分である。

開館時間は、平日 9 時から 20 時、土曜日も 9 時から 17 時まで開館し、多くの利用がある。一般利用者にも貸出冊数・期限等は準学士課程の学生と同じ条件で開放している。

また、読書体験発表会を毎年開催し、その際に表彰制度を設けるなど、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。以上、図書・学術雑誌、視聴覚資料が系統的に整備され、有効に活用されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

平成15年に完了した校舎等の狭隘・老朽改善に係る施設整備により、ゆとりある教育スペースと弾力的に活用できる共同利用スペースが多数確保されている。

各専門学科には実験室及び研究室が多数整備され、実践的教育等のための実習工場（ものづくり教育研究センター）や、コミュニケーション能力向上等のための語学情報教室（LL教室）・視聴覚室等、情報処理能力習得のための情報処理演習諸室が整備され、関連の教育用機器も整備されており有効に活用されている。

(改善を要する点)

ネットワークの利用者や利用頻度の増加、さらには動画及び音声情報などデータ量のより大きな情報の増加により、ネットワークトラフィックが増加し現在のインターネット接続の帯域幅が限界に達し、十分な接続性が得られなくなっている。このためさらに高速なインターネット接続への変更が求められる。

(3) 基準 8 の自己評価の概要

本校の教育目標を達成するため、各校舎、施設及びセンター等が適切に整備されている。

各専門学科には実験室及び研究室が多数整備され、実践的教育等のための実習工場（ものづくり教育研究センター）及び情報処理能力習得のための情報処理演習室が整備されるなど、充実した設備が全学的な安全管理のもとで有効に活用されている。

本校のネットワークの管理運用及び情報教育の中核として情報科学教育研究センターが設置され、技術職員が配置されている。情報科学教育研究センターにはネットワーク室が置かれ、ネットワークの管理、コンピュータウイルス情報の周知、ファイアーウォールの管理、メールサーバの管理及び WWWサーバの管理等ネットワークの安全な運用管理に努めている。このような安全管理のもとに情報処理教育及びプログラミング教育が有効に行われ活用されている。また、全新入学生にネットワーク利用講習会を行うなどネットワークモラルの向上についても配慮している。情報科学教育研究センター運営委員会では、情報教育内容及び教育方法の面から情報ネットワークのニーズ及び情報セキュリティの現状について把握し改善を行っている。

図書情報センターは、図書館として十分な面積を誇り、更に図書、学術雑誌、視聴覚資料、その他の教育上必要な資料が十分整備され、学生や教職員に有効に活用されている。蔵書の検索は図書情報センターの端末のみならず学内のパソコンからも検索できるようになっている。また開館時間は、平日 9 時から 20 時まで、土曜日 9 時から 17 時まで開館し、一般利用者にも貸出冊数・期限等は準学士課程の学生と同じ条件で開放している。その他、読書体験発表会を毎年開催し、その際に学生の表彰制度を設けており、学生の読書に対する意欲の啓発も行っている。図書購入の希望は、図書情報センター運営委員会により各学科及び各専攻教員から要望を調査し決定している他、リクエスト箱の設置及び学生によるブックハンティングに基づき、図書購入に際し学生の要望が反映されている。新着図書の案内は、図書情報センター内の掲示板に張り出すだけでなく、ホームページ等により閲覧可能であり、図書情報センター内に専用の書架を設置、展示している。電子ジャーナル・データベースの利用先も豊富にあり文献複写の依頼などサービスも充実し、学生のみならず教職員の知識向上にも大いに役立っている。

基準 9 教育の質の向上及び改善のためのシステム

(1) 観点ごとの分析

観点 9-1-①： 教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

(観点到に係る状況)

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は、教育改善推進室(資料 9-1-①-1)を中心に実施されている。各教員は教務関係資料にあるFD(ファカルティ・ディベロップメント)の仕組みに示された書類を提出する(資料 9-1-①-2)。授業計画(Plan)に関してシラバス、教科書・教材選定書を、授業実施(Do)に関して授業実施記録、答案コピーを、授業評価(Check)に関して学生による授業評価のアンケート、公開授業の評価を、授業改善(Action)に関してアクションレポート、授業評価へのコメントを提出する。これらの資料はFD年間計画(資料 9-1-①-3)に沿って収集され、資料 9-1-①-4に示されるような改善のサイクルに取り込まれる。上記のように教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。また、収集・蓄積に関する実施方法は資料 9-1-①-5に見ることができる。

また、教育改善推進室を中心に収集されたデータは教務委員会で報告され(資料 9-1-①-6)、評価、審議される。なお、教育改善推進室と教務委員会との組織上の関係を(資料 9-1-①-7)に示す。さらに、小山高専における教育点検システム全般についての組織図とサイクルを資料 9-1-①-8に示す。これによって、他の部局等と連動して評価を適切に実施できるための体制が整備されている。

資料 9-1-①-1：教育改善推進室規程

小山工業高等専門学校教育改善推進室規程

制 定 平成16年11月1日

(設置の目的)

第1条 教育の改善活動に対して組織的・継続的に支援し、教授方法の改善・向上を促進することを目的として、小山工業高等専門学校教育改善推進室(以下「推進室」という。)を置く。

(組織)

第2条 推進室は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務補佐
- 二 教務委員 若干名
- 三 その他校長が必要と認めた者

2 室員は、校長が任命する。

3 第1項各号の室員の任期は1年とし、再任を妨げない。

4 推進室に室長を置き、教務補佐をもって充てる。

(任務)

第3条 推進室は、次に掲げる業務を行う。

- 一 教育方法の評価と改善に関すること。
- 二 教育技術の向上に関すること。
- 三 研修に関すること。
- 四 教育貢献評価方法の調査研究に関すること。
- 五 カリキュラム改革に関すること。
- 六 その他教育改善の推進に関すること。

(事務)

第4条 推進室に関する事務は、学生課において処理する。

(雑則)

第5条 この規程に定めるもののほか、推進室の運営に関し必要な事項は、推進室が別に定める。

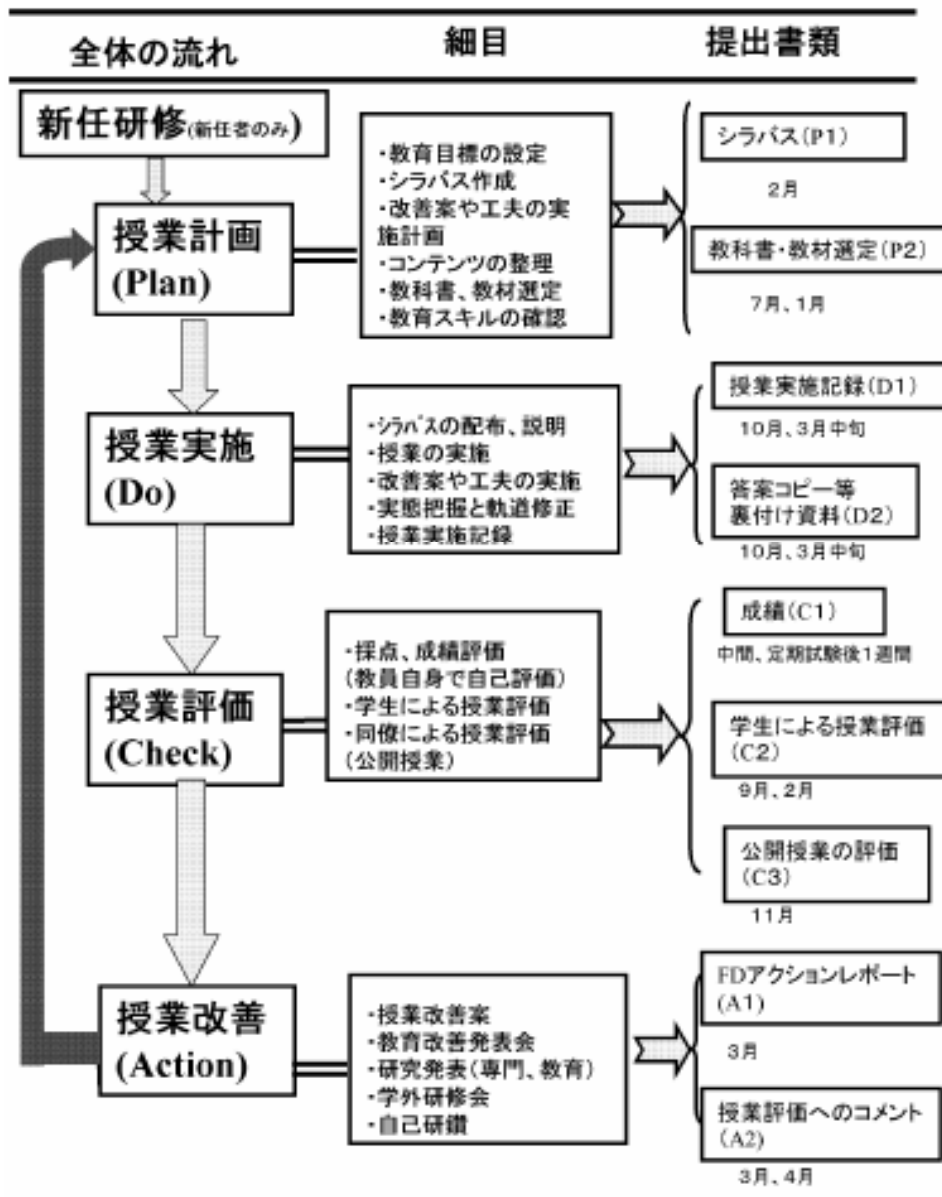
附 則

この規程は、平成16年11月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 9 - 1 - ① - 2 : 教員の教育活動に関する提出書類

4. 教員から見たFDの流れと提出書類



(出典：平成19年度教務関係資料p23)

資料 9-1-①-3 : FD年間計画

5. 年間計画（平成19年）

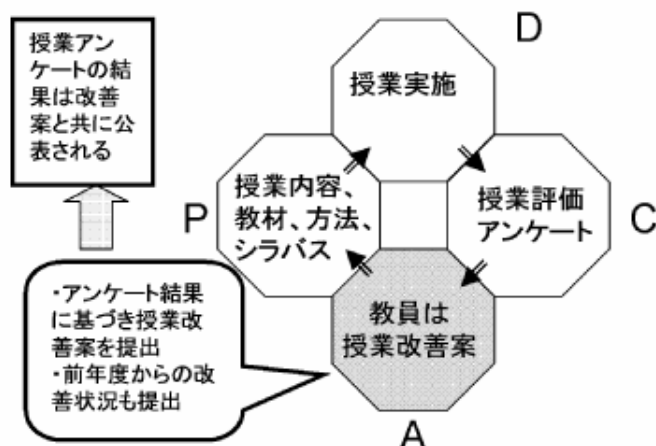
月	FD関連行事	提出書類	備考
4	新任研修会 授業開始、シラバス配布	授業評価アンケートへのコメント	コメントに前年度の改善結果も記入
5			
6	中間試験	前期中間試験成績	
7		教科書・教材選定	
8	工学教育協会講演会(東京) 高専教員研究集会(岐阜)		
9	学生による授業評価(前期分) 前期期末試験	学生による授業評価	
10		前期期末試験成績 授業実施記録 授業評価アンケートへのコメント 裏付け資料	コメントに前年度の改善結果も記入
11		(公開授業の評価)	
12	後期中間試験	後期中間試験成績	
1		教科書・教材選定	
2	学年末試験 学生による授業評価(通年、後期) 再試験	学年末成績 平成20年度シラバス	
3		授業実施記録 授業改善案 裏付け資料	

(出典：平成19年度教務関係資料p23)

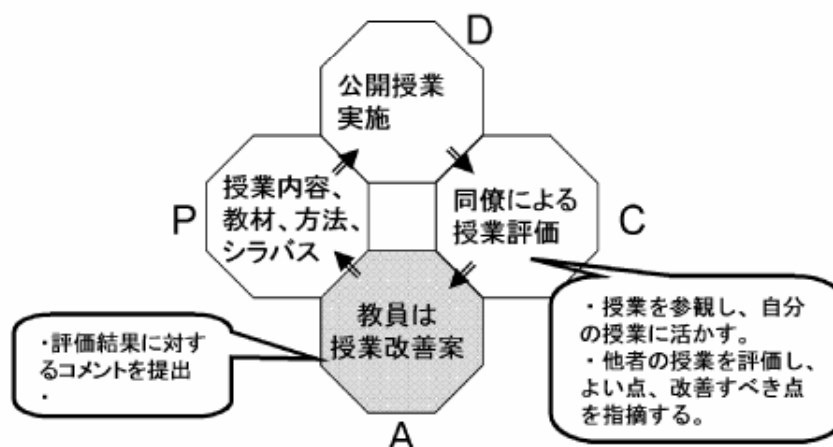
資料 9 - 1 - ① - 4 : FDの仕組み (組織的な取り組み)

3. 組織的な取り組み

○授業評価アンケートの利用(学生による評価)



○公開授業の利用(同僚による評価と研修)



○教育改善研修会(教育力向上のための研修)

- ・教員が授業の展開方法、教材の作製・利用等について発表し、議論する。
- ・講師が教員の資質向上に役立つ内容の講演を行なう。

(出典：平成19年度教務関係資料p22)

資料 9 - 1 - ① - 5 : 教育改善推進室活動状況

	年月日	曜日	事項	備考	学生による	同僚による	自己評価	研修会	計画の進捗
					評価	評価			
H17年度	H17.9.1	木	<室員にメール>平成17年度第1回教育改善推進室会議(9月2日)に開催を室員に対して送信した。						
	H17.9.2	金	平成17年度第1回教育改善推進室会議を開催し、平成17年度校長最良経費、公開授業、海外先進教育実践支援経費等について話し合った。		○				
	H17.11.4	金	<全教員にメール>平成17年度公開授業(11月18日~12月1日)の担当者選抜のお願いを通知をした。			○			
	H17.11.11	金	<全教員にメール>平成17年度公開授業(11月18日~12月1日)の実施要綱を送信。			○			
	H17.11.18	金	平成17年度公開授業を実施した。平成16年度授業評価アンケートの上位60位までの高得点授業をもとに各学科が選んだ授業を対象とした。			◎			
	H17.12.7	水	<室員にメール>平成17年度第2回教育改善推進室会議の開催通知を送信した。					○	
	H17.12.9	金	平成17年度第2回教育改善推進室会議を開催し、授業アンケートをマークシート化すること、FDポイント等について話し合った。		○		○		○
	H18.1.13	金	平成17年度第3回教育改善推進室会議を開催し、授業アンケート様式、海外先進教育実践プログラムの応募について話し合った。						○
	H18.1.27	金	<室員にメール>授業アンケートの初校を送信し、意見を求めた。		○				
	H18.1.30	月	専攻科長に授業アンケート用専攻科科目一覧を送り、誤りのないことの確認を要請した。		○				
	H18.2.3	金	<室員にメール>平成17年度後期、通年分の学生による授業アンケート実施(2月6日~2月10日)についての通知を行なった。		○				
	H18.2.6	月	平成17年度後期、通年分の学生による授業アンケート実施	2月10日まで	◎				
H18年度	H18.4.3	月	平成18年度教育改善推進室長駒組虎胤、白石、田中(昭)、渡邊						◎
	H18.5.19	金	<室員にメール>平成18年度第1回教育改善推進室会議(5月23日)の通知					○	
	H18.5.23	水	平成18年度第1回教育改善推進室会議が開催。授業評価アンケートの公表につき、担当者名、非常勤の結果は公表しないことが決定。FDステップアップ、ホームページについて話し合った。		○				○
	H18.8.28	月	平成18年度前期授業評価アンケートの対象科目一覧を専攻科長、各科教務委員に送り、修正を求めた。		○				
	H18.9.11	月	平成18年度前期授業評価アンケート実施		◎				
	H18.11.29	水	平成18年度教育改善研修会を開催。テーマ:学修単位についての各学科の実施状況。機械工学科(高島)、電気情報工学科(小林(幸)、北野)、電子制御工学科(笠原)、物質工学科(遼美、田中(幸))、建築学科(滝澤)	参加者32名		◎		◎	
	H18.12.26	火	<教務委員にメール連絡>平成18年度後期、通年科目授業評価アンケートの実施計画、対象授業科目の確認を各科教務委員に要請。		○				
	H19.1.26	金	平成18年度授業評価アンケートの実施について、要綱、担当表を掲示、連絡。ホームルームにも実施案内を掲示。		○				
	H19.1.28	月	平成17年度分授業評価アンケート報告書の冊子20冊が到着。各科教務委員に配布。			◎			
H19.1.29	月	平成18年度授業評価アンケートを実施	2月8日まで	◎					

* ◎:強い関連、○:やや関連

(出典:平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 9-1-①-6 : 教務委員会議事録 (抜粋)

平成18年度2月教務委員会議事要録

日 時 平成19年2月7日(水) 15:00~17:10
 場 所 管理棟301ゼミ室
 出 席 者 滝澤・川上・須甲・胸祖・上村・小野・伊澤・干田・笠原・糸井・高橋(大)
 川本・新井・(小林(悟))

議 事

[報告事項]
(省略)

[審議事項]
(省略)

[依頼事項]
(省略)

■ 入学者対策室報告

川上室長より、学力選抜実施にあたって協力依頼があった。

■ 教育改善推進室報告

胸祖室長より、①授業評価アンケート結果報告書を各学科、教務係、図書情報センターに配布してある、②学生の授業評価アンケートの自由記述の内容について説明があり、非常勤講師の科目であるので当該学科に対応をお願いしたい、また、非常勤講師分については原則として評価のみを知らせる、③例年FD計画を配布していたが、来年度からは教務資料に掲載、④各学科及び個人で公開授業を実施された分があれば(時期・テーマ・担当者)を報告されたいこと、⑤今後は学生の授業評価に対する教員のコメントは、前回の授業評価に対する改善についても記入すること等の依頼があった。

以上

(出典：教務委員会議事録)

資料 9-1-①-7 : 小山高専内での学内会議の階層性 (抜粋)

「小山高専学内会議の改善について」

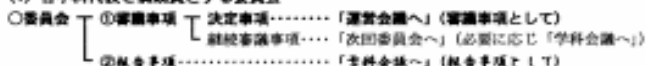
■ 学内会議の在り方と議事報告の改善理由

1. 運営会議(最高議決機関)、委員会・室会議および教職員会議(報告会)の層み分けの明確化。
2. 各会議の議事報告のオーバーラップの解消。(色々な場で見聞き内容が報告されている)
3. 各会議の議事報告担当者の明確化。
4. 教職員会議の開催意味の明確化。(且15年度末の学内結構再編計同時、運営会議にて「教職員会議は必要に応じ開催」と確認されたが、且16年度は従来と同様「定期開催」となってしまった。)

■ 学内会議の在り方と議事報告について

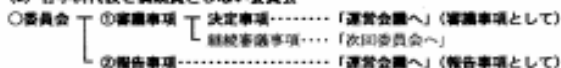
1. 委員会

(1) 各学科代表を構成員とする委員会



「教務委員会」「学生委員会」「専攻科委員会」「図書情報センター運営委員会」
 「技術者教育プログラム検討委員会」「情報科学教育研究センター運営委員会」「安全衛生委員会」
 「地域共同開発センター運営委員会」「ものづくり教育研究センター委員会」「環境整備委員会」
 「予算委員会」「レクリエーション委員会」の議題は、全て学科委員が各学科に報告する

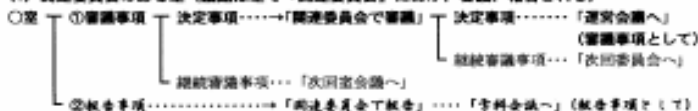
(2) 各学科代表を構成員としない委員会



「国際交流委員会」「情報安全管理等委員会」「教育研究支援委員会」「創立40周年記念準備委員会」

2. 室

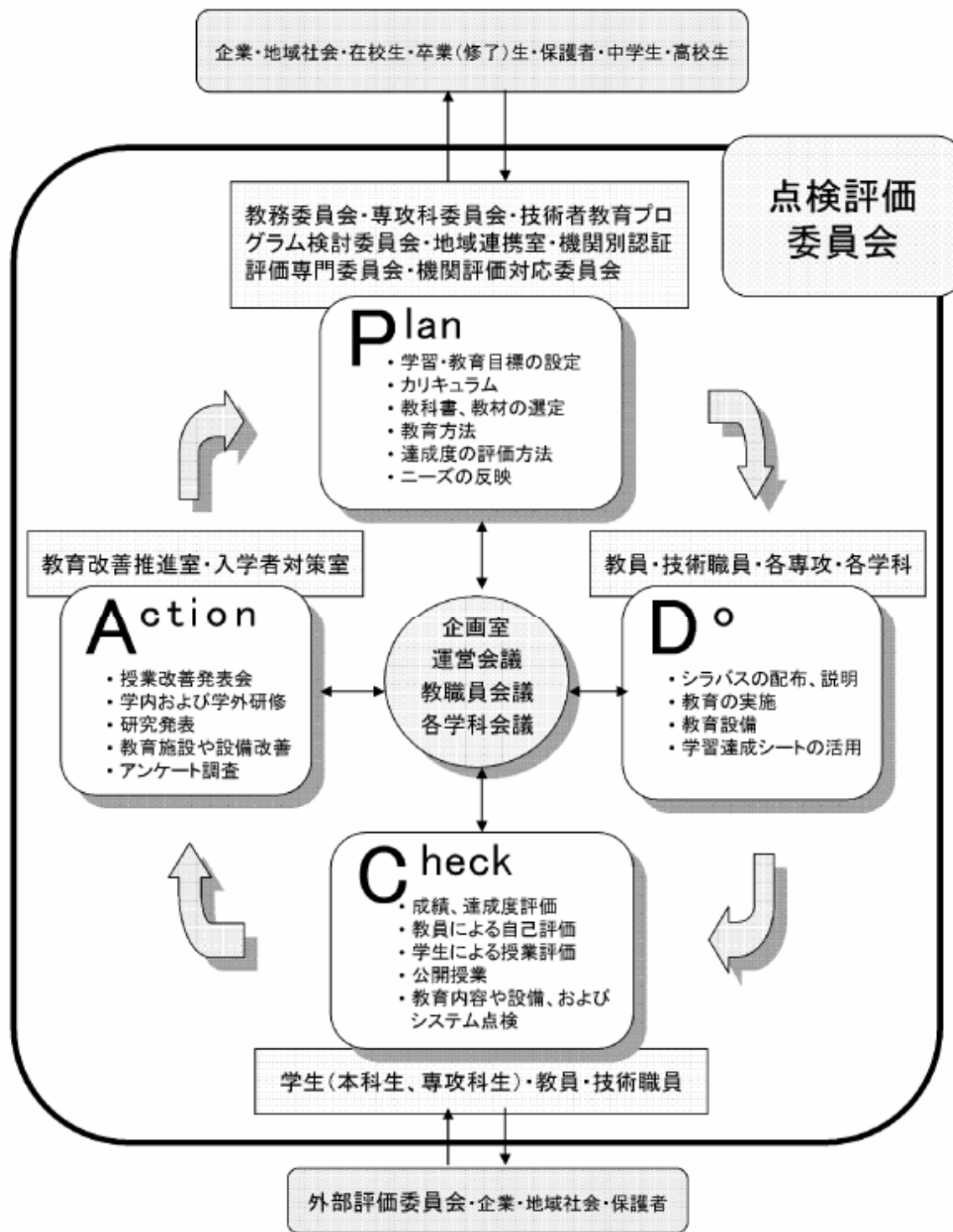
(1) 関連委員会のある室(議題は全て「関連委員会」にあげ、審議、報告される)



「入学者対策室」「教育改善推進室」「学生支援室」「進路支援室」「キャンパス安全衛生管理室」

(出典：平成17年度4月教職員会議資料)

資料 9-1-①-8 : 小山高専における教育点検システム



(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

教育活動の資料は、PDCAの段階毎に教員に明示され、年間計画に基づいて収集・蓄積されている。教育改善推進室と教務委員会の連携の中で評価されており、実施体制が整っていると評価できる。

観点 9-1-②： 学生の意見の聴取（例えば、授業評価、満足度評価、学習環境評価等が考えられる。）が行なわれており、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

学生による授業評価アンケートの集計は、平成16年度には手計算によってなされたため、結果が教員にフィードバックされるまでに半年ほどを要した。しかし、平成17年度からはマークシート（資料 9-1-②-1）が採用され、2月末のアンケート実施から教員へのフィードバックまでの期間は約1ヶ月と大幅に短縮された。点数化された授業評価アンケートの集計結果と学生の自由記述内容は各教員に渡される。各科目の授業評価アンケートに対する教員のコメント提出（資料 9-1-②-2）は5月までに実施された。その後、平成18年12月には冊子化されて、校長、校長補佐（教務担当）、各学科、教務係、図書情報センターに配付された。各学科、教務係、図書情報センターのものは閲覧可能となっている。

満足度調査、学習環境評価は資料 9-1-②-3 で示される様な実施結果となっている。これらの結果は自己点検・評価の中で取り上げられ評価されている（資料 9-1-②-4）。

資料 9 - 1 - ② - 1 : 授業アンケート用紙

「学生による授業評価」アンケート調査用紙 〈小山工業高等専門学校 平成17年度〉

このアンケートは、授業担当教員が学生の皆さんとともに教育改善を図ることを目的として実施するものですので、ご協力ください。

■科目名

■記入上の注意

①マークの方法：黒いペンかエンピツを使用してください。

正しい例 [] 悪い例 [] [] []

②マークし「直す」場合は、誤った方をはっきりと「線」の2重線で消してください。正しい修正 []

あなたの所属等について 所属・学年についてお答えください。

■所属学科 [1] M [2] E [3] D [4] C [5] A [6] SS [7] SC [8] SA

■学年 [1] 1年 [2] 2年 [3] 3年 [4] 4年 [5] 5年 [6] 専攻1年 [7] 専攻2年

アンケート疑問 アンケートの項目を5段階で評価してマークして下さい。

①:あなた自身について

全くその通りである	かなりのそうである	普通	あまりその通りではない	全くその通りではない
-----------	-----------	----	-------------	------------

- | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. わからないことや興味をもったことを質問したり譲べたりしましたか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか？ | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

②:この授業科目について

- | | | | | | | |
|------------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. シラバス（授業要目）に沿って、授業が行われた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 5. この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 6. この授業に総合的に満足している。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

③:教員について

- | | | | | | | |
|----------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. 教材・テキスト等は学習する上で適切だった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. 授業のポイントがわかりやすかった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 5. 板書やプロジェクター等の画像は見やすく、わかりやすかった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

④:その他ー実験と体育では次の質問にも答えてください

- | | | | | | | |
|-------------------------------------|---|-----|-----|-----|-----|-----|
| 1. 技能または技術の習得が十分にできた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 2. 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 3. 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 4. 同じチーム（グループ）になった仲間と協力して行動した。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |
| 5. (体育のみ回答) 授業中に課せられた運動量は適切なものだった。 | → | [5] | [4] | [3] | [2] | [1] |

授業について この授業に対する意見・要望およびアンケートに関する意見がありましたら、自由にご記入ください。

ご協力ありがとうございました。

小山工業高等専門学校

(出典：平成17年度授業評価アンケート用紙)

資料 9-1-②-2 : 授業評価アンケート集計結果と教員のコメント

■集計グループ

＜集計明細＞

■授業科目名 **生物有機化学**

■アンケート回答者数 **16人**

■受講者数 **31人**

授業科目別集計

■クラス名 **5C**

■学年名 **C**

■評価平均レーダーチャート

①M:0, ②E:0, ③D:0, ④C:16, ⑤A:0, ⑥SS:0, ⑦SC:0, ⑧SA:0, 無回答:0

①1年:0, ②2年:0, ③3年:0, ④4年:0, ⑤5年:16, ⑥専攻1年:0, ⑦専攻2年:0, 無回答:0

（設問別評価集計表） ※全体平均は全回答者データの合計を全回答者数で除して算出しています。（無効回答は除く）

□ 評価1: 全然そうではない × 評価2: あまりそうではない
 ■ 評価3: 普通 % 評価4: かなりそうである
 ● 評価5: 全くその通りである

設問区分	アンケート設問内容	評価平均	全学平均	■設問別評価構成グラフ
①あなた自身について	①-1 この授業に対するあなたの出席割合はどれくらいですか？	4.3	4.3	
	①-2 この授業に当てた予習・復習の平均時間は週あたりどれくらいですか？	2.8	1.9	
	①-3 わからないことや興味を持ったことを質問したり調べたりしましたか？	3.3	2.7	
	①-4 あなたは熱意をもってこの授業に臨みましたか？	3.1	3.3	
②この授業科目について	②-1 この授業科目では、開始・終了時間が守られていた。	4.5	3.9	
	②-2 授業内容はよく整理され、段階的に行われた。	4.3	3.7	
	②-3 この授業の成績評価基準は、明確に示されていた。	4.3	3.6	
	②-4 シラバス（授業要目）に沿って、授業が行われた。	4.1	3.6	
	②-5 この授業を受講して当該分野、関連分野への興味・関心が深まった。	3.6	3.4	
③教員について	③-1 この授業科目に対する教員の熱意が感じられた。	4.3	3.9	
	③-2 教材・テキスト等は学習する上で適切だった。	3.9	3.6	
	③-3 学生からの質問や提出物等に、適切に対応していた。	3.8	3.7	
	③-4 授業のポイントがわかりやすかった。	3.6	3.5	
	③-5 板書やプロジェクター等の画像は見やすく、わかりやすかった。	3.6	3.4	
④体育その他、実験	④-1 技能または技術の修得が十分にできた。	0.0	3.7	
	④-2 施設、設備、機器等、安全管理上の注意事項の事前説明は適切だった。	0.0	3.8	
	④-3 利用する施設、設備、機器はよく整備されていた。	0.0	3.6	
	④-4 同じチーム（グループ）になった仲間と協力して行動した。	0.0	3.9	
	④-5（体育のみ回答）授業中に課せられた運動量は適切なものだった。	0.0	3.8	

■設問グループ別評価平均

設問グループ	当科目	全体
設問①-1～①-4合計評価平均	①あなた自身について	3.4 3.1
設問②-1～②-6合計評価平均	②この授業科目について	4.0 3.6
設問③-1～③-5合計評価平均	③教員について	3.8 3.6

※設問①-1の評価回答は以下
 評価5:10割 / 評価4:10～9割 / 評価3:9～8割 / 評価2:8～7割 / 評価1:7割以下

※設問①-2の評価回答は以下
 評価5:2時間以上 / 評価4:2～1.5時間 / 評価3:1.5～1時間 / 評価2:1～0.5時間 / 評価1:0.5時間以下

（教員コメント）

この授業と他の分野との関連が学生にうまく伝わっていないようなので、その点を工夫し改善していきたい。具体的には、他の分野との関連を写真や最近のトピックス的研究成果を提示して授業を充実させていきたい。

（出典：平成17年度分授業アンケート報告書）

資料 9-1-②-3：学習達成度調査結果，満足度調査結果，施設満足度調査等

設問内容	全くその通りである	かなりそうである	普通	あまりそうではない	ない	無効回答	合計	全体平均
IV. 学習達成度								
小山高専に学んで次の能力等が身についたと思いませんか。								
7 「豊かな人間性」が身についた。	125	219	444	136	116	162	1,202	3.10
8 「豊かな感性」が身についた。	163	247	420	120	89	163	1,202	3.26
9 「創造力」が身についた。	163	316	394	95	71	163	1,202	3.39
10 「自然科学系(数学・物理など)」の学力が身についた。	202	323	362	89	63	163	1,202	3.49
11 「英語」の学力が身についた。	64	120	337	286	229	166	1,202	2.52
12 「専門基礎科目」の学力が身についた。	201	363	356	82	37	163	1,202	3.59
13 「専門知識」が身についた。	246	397	300	68	28	163	1,202	3.74
14 「問題解決能力」が身についた。	128	269	478	109	54	164	1,202	3.30
15 「情報技術力」が身についた。	146	311	417	113	52	163	1,202	3.37
16 「コミュニケーション能力」が身についた。	132	251	422	147	87	163	1,202	3.19
17 「国際感覚」が身についた。	70	122	375	268	203	164	1,202	2.60
V. 施設満足度とニーズ								
小山高専の次の施設に満足していますか。								
18 「情報センター」に満足している。	137	179	395	121	95	274	1,202	3.15
19 「図書センター」に満足している。	184	264	355	77	50	272	1,202	3.49
20 「教室(DHR)」に満足している。	121	190	422	126	69	274	1,202	3.18
21 「実験・実習室」に満足している。	133	215	431	104	46	273	1,202	3.31
22 「特別教室(視聴覚・メディアホール等)」に満足している。	138	211	472	76	33	272	1,202	3.37
23 「体育施設」に満足している。	129	199	425	110	67	272	1,202	3.23
24 「食堂」に満足している。	119	142	441	122	101	277	1,202	3.06
VI. コンピュータについて								
コンピュータの利用状況などについて答えてください。								
26 授業でコンピュータを使用する時に、1人1台で使用している。	595	109	165	16	37	280	1,202	4.31
27 授業時間以外にコンピュータ演習室のコンピュータをよく使う。	79	113	255	203	272	280	1,202	2.48
28 演習室のコンピュータの処理能力(性能)は十分である。	112	188	416	111	83	282	1,202	3.13
29 使用に満足できるコンピュータを自分で所有している。	229	169	311	95	118	279	1,202	3.32
30 演習室のコンピュータに入っているソフトウェアは十分である。	123	167	513	60	54	285	1,202	3.27

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 9-1-②-4：教育活動の収集が自己点検・評価に適切に反映されている資料

(6) 小山高専の教育に関するアンケート集計結果

①本校関係者へのアンケート

IV. 学習達成度状況

本校で学んで身についた能力は、「専門知識」「専門基礎科目」「自然科学系(数学・物理等)」「情報技術力」等があげられており、専門分野やその基礎科目については評価されている。一方、「英語力」と「国際感覚」については非常に評価が低い。グローバル化する社会において英語や国際感覚は非常に重要であり、現在本校の大きな課題となっている。今後はTOEIC等を含めた生きた英語教育の方策を検討するとともに、国際感覚については、平成18年11月に中国の重慶大学と交流協定を締結したが、今後も海外の教育機関との連携・交流の拡大を図り、学生の交流機会を増やしていくことが必要と考える。

V. 施設満足度とニーズ

本校の施設では「図書センター」の評価が最も高く、それ以外はそれ程評価に差はない。ちなみに最も低いのは「食堂」である。総じて言えばまずまずといった評価と思われる。

VI. コンピュータについて

授業において学生に一人一台のコンピュータが整備されていることが、突出して評価されている。しかし、授業時間以外のそれらコンピュータの利用、ソフトウェアレベル、処理能力についての評価は低い。これらは予算との絡みがあるが、学生の情報処理能力の向上に向け、可能な限り充実を図っていく必要がある。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

学生の意見の聴取（授業評価，満足度評価，学習環境評価等）が行なわれており，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。これは上記収集資料と平成19年小山高専自己点検評価報告書の記述で明らかである。

観点9-1-③： 学外関係者（例えば，卒業（修了）生，就職先等の関係者等が考えられる。）の意見が，教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されているか。

(観点に係る状況)

卒業生，卒業生の就職先，進学した大学へのアンケートが平成18年度に実施された。その案内を資料9-1-③-1に示す。また，結果を資料9-1-③-2，3に示す。その結果は平成19年小山高専自己点検評価報告書に記述され，評価されている（資料9-1-③-4）。点検及び評価の結果を，3年を越えない範囲で報告書として取りまとめ（資料3-2-②-1），継続的な改善に結び付けている。

資料9-1-③-1：学外関係者に対するアンケート案内（1/2）

本校卒業生・修了生就職先企業
 本校在校生インターンシップ受入企業
 人事・採用ご担当者 様

小山工業高等専門学校長
 藤本 光宏

(白影印刷)

アンケートへのご協力のお願いについて (依頼)

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、この度本校におきまして、独立行政法人大学評価・学位授与機構の高等専門学校機関別認証評価を平成19年度に受審することとなりました。

つきましては、当該評価の受審に必要な自己評価書の作成にあたり、別添のアンケートを実施させて頂く運びとなりましたので、ご多忙のところお手数をおかけして大変恐縮でございますが、何卒ご協力の程よろしくお願い致します。

なお、裏面にアンケート回答の際の注意事項等を記載してございますので、こちらにご留意下さるようお願い致します。

敬具

(出典：平成18年度小山高専の教育に関するアンケート)

資料 9-1-③-1 : 学外関係者に対するアンケート案内 (2/2)

平成18年度 小山高専の教育に関するアンケート (企業対象)

【記入上の注意】

- 「調査対象となる機関」は【企業】にチェックして下さい。
- 「対象となる卒業生(在校生)」にチェックする際は以下の例に従ってチェックして下さい。
 - (例1) 本校機械工学科(準学士課程=本科)を卒業した学生の就職先企業の場合
→【準学士課程(学科)卒業生(在校生)]をチェック。
 - (例2) 本校電子システム工学専攻(専攻科)を修了した学生の就職先企業の場合
→【専攻科課程修了生(在校生)]をチェック。
 - (例3) 本校物質工学科(本科)に在学中の学生をインターンシップで受け入れた企業の場合
→【準学士課程(学科)卒業生(在校生)]をチェック。
 - (例4) 本校建築学専攻(専攻科)に在学中の学生をインターンシップで受け入れた企業の場合
→【専攻科課程修了生(在校生)]をチェック。
- ※なお、対象となる卒業生(在校生)が準学士課程、専攻科課程のいずれにも該当する場合は、両方にチェックして下さい。
- 就職先企業の場合「I. 小山高専卒業生の資質・能力」欄の質問にのみお答え下さい。
- インターンシップ受入企業の場合「II. インターンシップ受入学生の資質・能力」欄の質問にのみお答え下さい。
- 就職先企業のうち、インターンシップ受入(今後受入予定も含む)も行っている場合は、「I. 小山高専卒業生の資質・能力」「II. インターンシップ受入学生の資質・能力」欄の質問にお答え下さい。
- 対象となる卒業生(在校生)が複数の場合は、平均値でお答え下さい。

【提出方法】

お手数をおかけ致しますが、同封の返信用封筒(切手不要)にてお近くの郵便ポストにご投函下さい。

【提出期限】

平成19年2月16日(金)までにご投函下さい。

【問い合わせ先】

小山工業高等専門学校
〒323-0806 栃木県小山市大字中久喜771

【担当責任者】

機関別認証評価専門委員長
森 夏樹(電気情報工学科 教授)

【事務担当者】

総務課 企画・地域連携係(本橋)

TEL / FAX

E-mail

(出典：平成18年度小山高専の教育に関するアンケート)

資料 9-1-③-2 : 学外関係者に対する意見聴取結果 (準学士-企業)

設問内容	全くその通りである	かなりその通りである	普通	あまりその通りではない	ない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
I. 小山高専卒業生の資質・能力									
入社あるいは入学している小山高専の卒業生(移学生)の資質・能力についてご質問致します。									
1 感性や創造力が豊かである。	2	16	20	0	0	2	40	3.53	3.55
2 自然科学系の学力が高い。	1	13	21	2	0	3	40	3.35	3.40
3 英語の能力が高い。	1	2	21	11	2	3	40	2.70	2.78
4 専門領域における基礎的能力が高い。	4	24	10	0	0	2	40	3.84	3.88
5 専門領域における問題解決能力が高い。	3	20	14	1	0	2	40	3.66	3.71
6 情報技術力が高い。	3	15	20	0	0	2	40	3.55	3.57
7 コミュニケーション能力が高い。	4	14	17	2	0	3	40	3.54	3.51
8 国際感覚が豊かである。	1	5	26	6	0	2	40	3.03	2.98
9 御社・貴学にふさわしい人間性を有している。	9	20	8	0	0	3	40	4.03	3.96
II. インターンシップ受入学生の資質・能力									
インターンシップを受け入れる際に期待する学生の資質・能力についてご質問致します。									
11 感性や創造力が豊かである。	2	8	9	0	0	21	40	3.63	3.71
12 自然科学系の学力が高い。	3	7	6	3	0	21	40	3.53	3.33
13 英語の能力が高い	0	4	12	3	1	20	40	2.95	2.89
14 専門領域における基礎的能力が高い。	6	10	2	1	0	21	40	4.11	4.04
15 専門領域における問題解決能力が高い。	3	11	5	0	0	21	40	3.89	3.87
16 情報技術力が高い。	2	7	9	1	0	21	40	3.53	3.62
17 コミュニケーション能力が高い。	6	10	4	0	0	20	40	4.10	4.11
18 国際感覚が豊かである。	0	2	14	3	0	21	40	2.95	3.02
19 御社にふさわしい人間性を有している。	6	10	3	0	0	21	40	4.16	4.07

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 9-1-③-3 : 学外関係者に対する意見聴取結果 (準学士-大学)

設問内容	全くその通りである	かなりその通りである	普通	あまりその通りではない	ない	無効回答	合計	当該平均	全体平均
I. 小山高専卒業生の資質・能力									
入社あるいは入学している小山高専の卒業生(移学生)の資質・能力についてご質問致します。									
1 感性や創造力が豊かである。	3	8	11	0	0	0	22	3.64	3.55
2 自然科学系の学力が高い。	3	9	9	1	0	0	22	3.64	3.40
3 英語の能力が高い。	2	0	13	6	1	0	22	2.82	2.78
4 専門領域における基礎的能力が高い。	7	7	8	0	0	0	22	3.95	3.88
5 専門領域における問題解決能力が高い。	3	11	8	0	0	0	22	3.77	3.71
6 情報技術力が高い。	2	8	11	0	1	0	22	3.45	3.57
7 コミュニケーション能力が高い。	1	7	9	4	1	0	22	3.14	3.51
8 国際感覚が豊かである。	1	2	15	3	1	0	22	2.95	2.98
9 御社・貴学にふさわしい人間性を有している。	4	8	8	0	0	2	22	3.80	3.96
II. インターンシップ受入学生の資質・能力									
インターンシップを受け入れる際に期待する学生の資質・能力についてご質問致します。									
11 感性や創造力が豊かである。	0	0	0	0	0	22	22	-	3.71
12 自然科学系の学力が高い。	0	0	0	0	0	22	22	-	3.33
13 英語の能力が高い	0	0	0	0	0	22	22	-	2.89
14 専門領域における基礎的能力が高い。	0	0	0	0	0	22	22	-	4.04
15 専門領域における問題解決能力が高い。	0	0	0	0	0	22	22	-	3.87
16 情報技術力が高い。	0	0	0	0	0	22	22	-	3.62
17 コミュニケーション能力が高い。	0	0	0	0	0	22	22	-	4.11
18 国際感覚が豊かである。	0	0	0	0	0	22	22	-	3.02
19 御社にふさわしい人間性を有している。	0	0	0	0	0	22	22	-	4.07

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 9-1-③-4：学外関係者に対する意見聴取結果の自己点検・評価

②外部関係者へのアンケート

これは、本校の卒業生及びインターンシップ受入学生の資質・能力について、外部関係者へ問うたものである。アンケート集計結果は様式 2 の図に示す。

1. 小山高専卒業生の資質・能力について

ここでは、本校卒業生が入社・進学等した企業、大学及び大学院の関係者への調査結果の概要を記す。

本校卒業生の資質・能力の中で、「御社・貴学にふさわしい人間性を有している」と多くのところから評価を得ている。これを除くと本校の具体的教育目標に示されている項目であるが、評価の高い資質・能力としては「専門領域の基礎知識」「専門領域の問題解決能力」「コミュニケーション能力」「情報技術力」「感性や創造力が豊か」「自然科学系学力」があげられている。逆に突出して評価の低いものは「英語能力」と「国際感覚」である。このことは前記①の「IV. 学習達成度状況」で述べた本校関係者の意識とほぼ一致している。今後の技術者を考える上で、英語能力と国際感覚の素養の欠如は致命傷ともなりかねない。これらは本校の具体的教育目標の 6 項目の中にも含まれているものでもあり、早急に対応していかなければならない課題である。

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

学外者の意見は適切な形で教育の状況に関する自己点検評価報告書の中で触れられており、改善すべき内容が指摘されている。したがって、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

観点 9-1-④： 各種の評価（例えば、自己点検・評価、教員の教育活動に関する評価、学生による達成度評価等が考えられる。）の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが整備され、教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

(観点に係る状況)

教育改善推進室(資料 9-1-①-1)で検討されたカリキュラムと教育評価に関する内容は、教務委員会(資料 9-1-④-1, 資料 9-1-①-6)で報告され、審議される。次に、決定事項は運営会議に提出され、審議される(資料 9-1-①-7)。また、教務委員会では、学科の教務委員を通じて、授業評価アンケートに対する改善案と前年度に対する改善状況も含めたコメントの提出(資料 9-1-①-6)を求めるなど、教育改善への方向性が示されている。授業評価アンケートの結果、教育課程の見直し等については学科会議で報告され継続的に審議されている(資料 9-1-④-2)。各学科会議で出された専攻科の教育活動に関する提案等は専攻科委員会(資料 9-1-④-3)に提出され、審議される。本校におけるこれらの組織間の相互関係、および改善に結びつけるための仕組みは小山高専における教育点検システムとして示されている(資料 9-1-①-8)。

学生による達成度評価（資料 9-1-②-3）は平成18年度に実施され、自己点検評価の中で改善策が論じられている（資料 9-1-②-4）。しかし、これらの点を具体的な改善に結びつける方策はとられておらず、直近の中期計画等に盛り込まれることが望まれる。

資料 9-1-④-1：教務委員会規程

小山工業高等専門学校教務委員会規程

制 定 昭和42年4月1日

最終改正 平成14年3月29日

第1条 小山工業高等専門学校に、教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、校長の諮問に応じ次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び改廃に関する事。
- 二 授業時間割の編成に関する事。
- 三 学校の行事に関する事。
- 四 入学者の選抜に関する事。
- 五 学生の試験に関する事。
- 六 その他教務に関する事。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 教務主事
- 二 教務主事補
- 三 専門学科教官から各1名及び一般科教官から2名
- 四 学生課長
- 五 教務係長
- 六 その他校長が必要と認めたもの

第4条 委員会は、教務主事が招集し、その議長となる。

第5条 委員会は、必要に応じ委員以外の者を出席させることができる。

第6条 委員会に関する事務は、学生課教務係において処理する。

（出典：小山高専ホームページ）

資料 9-1-④-2：学科会議で授業評価と教育課程が議論されている証拠

18年度第3回教室会議 議事録

日時：5月17日(水)10:40~12:00

場所：401ゼミ室

（中略）

- ・ 教育改善対策室から、5月19日までに授業アンケートへのコメントを提出。
- ・ 機関別認証評価（1~5C）、JABEE と同等のシラバス対応と資料保存が必要である。来年度のために、今年度から資料などの保存をお願いします。詳細は本日の委員会で決定。
- ・ 大学単位化、H19年度は23単位、H20年度は42単位を目指したい。単位の統廃合についての案を胸組先生と糸井先生でまず協議します。

（出典：物質工学科会議議事録）

資料 9-1-④-3 : 専攻科委員会規則

小山工業高等専門学校専攻科委員会規則

制 定 平成11年4月1日

最終改正 平成19年4月1日

(目的)

第1条 この規則は、小山工業高等専門学校専攻科運営規則第4条第2項の規定に基づき、小山工業高等専門学校専攻科委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、校長の諮問に応じて、次に掲げる事項を審議する。

- 一 教育課程の編成及び実施に関すること。
- 二 教育計画及び授業時間の編成に関すること。
- 三 入学者選抜に関すること。
- 四 入学、退学、転学、休学、復学及び修了に関すること。
- 五 試験及び学業成績に関すること。
- 六 学生の進学及び就職に関すること。
- 七 学生の厚生補導に関すること。
- 八 その他専攻科の運営に関すること。

(組織)

第3条 委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。

- 一 専攻科長
- 二 各校長補佐
- 三 各専攻主任
- 四 各専門学科及び一般科で、専攻科を担当する教員各1名
- 五 学生課長

2 前項第4号の委員の任期は1年とし、再任を妨げない。

3 前項の委員に欠員を生じたときの後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、専攻科長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(副委員長)

第5条 委員会に副委員長を置く。

2 副委員長は、委員の互選による。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときは、副委員長が、その職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第6条 委員長が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を求めることができる。

(出典：小山高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

教員の教育活動に関する評価のうち授業評価アンケートについては、教育の質の向上、改善に結び付けられるようなシステムが教育改善推進室を中心に整備され、学科会議と教務委員会を中心に教育課程の見直しなど具体的かつ継続的な方策が講じられている。自己点検・評価、学生による達成度評価等については、より具体的な改善に向けてのシステムの構築が望まれる。

観点 9-1-⑤： 個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

(観点に係る状況)

個々の教員はFD年間計画(資料9-1-①-3)に基づいて、3月にFDアクションレポート(資料9-1-⑤-1, 2)を提出することになっている。これは個々の教員が1年間に教育内容の改善等で得られた結果を書面で報告するものである。平成18年度は34名の提出にとどまったが、今後、全教員が提出することが望まれる。また、授業評価アンケートに対するコメントについては平成18年度から前年度からの改善状況もあわせて記載することになっている(現地閲覧資料9-1)。授業内容改善の具体例としては、教育改善推進室活動状況(資料9-1-①-5)に示すように、教育改善研修会で学修単位の導入に関わる授業の工夫について、各学科の代表が発表した。これによって、学修単位化時の授業改善のための具体的な方法、問題点等が学校全体で共有された。

資料9-1-⑤-1：FDアクションレポートの提出について

2007.3.7

小山高専教員各位

教育改善推進室長 胸組虎胤

2006年度FDアクションレポート提出のお願い

教員の皆様におかれましては、年度末の忙しい時期であると思いますが、標記のFDアクションレポートに記入の上ご提出をお願いいたします。

本提出物の趣旨は、各教員の「授業内容、教材、教授技術等の継続的改善」と「教育法に関する自己研鑽と成果」についての状況を把握するためのものです。ご存知のとおり、小山高専は2007年度には高等専門学校機関別認証評価を受けることとなっており、FDアクションレポートは特に基準9の以下の3点に関係しています。

- (1) 基準9の観点9-1-⑤に示されたような「個々の教員の改善状況を、学校として把握している」ことが求められています。
- (2) 観点9-1-⑥では「研究活動（専門分野の研究及び教育方法等の研究）が教育の質の改善に寄与しているか。」が問われています。特に、教育方法等の研究を学校として把握してきませんでしたので、その必要があります。
- (3) 観点9-2-②にあるように、「FD活動が教育の質の向上や授業の改善に結びついているか」を示す必要があります。

以上のような重要な情報をFDアクションレポートで収集し、各教員の活動状況を定期的に把握する仕組みを作り上げたいと考えています。また、これを作成し集積することで、教員が自らの状況を振り返り、今後の改善に役立てることが可能であると考えます。

2006年度FDアクションレポートは、2007年3月30日までに教務に係へご提出願います。

記入方法については以下の点に留意ください。

- (1) 全体でA4用紙1ページの枠内に記入し、これを超えないでください。
- (2) 各項目とも、記入件数は最大3件までとしてください。
- (3) 各記入事項とも発生年月をご記入ください。
- (4) 記入事項の発生年月は過去3年間（2004年4月～2007年3月）としてください。
- (5) 研究発表についての事項はあくまで教育関係についてお願いいたします。
- (6) 提出はプリントしたものまたはメールの添付書類でも可能です。

(出典：教務委員会資料)

資料 9-1-⑤-2 : FDアクションレポートの様式

2006年度 FDアクションレポート (記入例)

所属 物質工学科	氏名 小 山 学
○教育関係研修会への参加 (学内及び学外) 発表、企画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 関東信越地区高専教員研究集会へ参加した。(2006.9) 2. 「学修単位について」、小山高専教育改善研修会で発表した。(2006.11) 3. 日本工学教育協会主催、「教員のコミュニケーションスキル講習会」へ参加。(2006.12) 	
○教育関係学会への参加、発表、企画	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 第54回日本工学教育協会に参加。(2006.8) 2. 「はなまる雄はなぜ飛べるか」、第XX回日本物理教育学会における研究発表。(2006.7) 3. シンポジウム「高専教育の利点」を第1回高専教育学会で企画・実施した。(2007.1) 	
○教育関係の論文発表	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「小山高専の教育の問題点」、小山高専紀要、第38号、p.xxx-xyy。(2006.3) 2. 「ロボットの教材化の研究」、高専教育、第YY号、p.xxx-xyy。(2007.3) 3. 「一校教育と高専の目的」、工学教育、第XX巻、Y号、p.xx-yy。(2007.3) 	
○教科書執筆、教材作製	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「超よくわかる生物化学」(単著)、X出版社。(2005.11) 2. 「生物化学の英語問題集」(共著)、Y出版社。(2006.9) 3. 「学生実験で使用する化学分析器具の作製と応用」(2006.9) 	
○教育関係の受賞、研究費受領	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「ミジンコの運動の解明と教材への応用」、アメリカ生物教育学会賞を受賞した。(2004.7) 2. 「ロボット工学の教育における貢献」、日本工学会教育特別賞を受賞した。(2005.9) 3. 「学生指導の研究」、高専教育教員研究集会で文部科学大臣賞を受賞した。(2006.8) 	
○指導した学生の受賞	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 卒業研究で指導していた学生が、ABC学会でポスター賞を受賞した。(2004.5) 2. ロボットコンテストで指導した学生が、特別賞を受賞。(2005.11) 3. 英語スピーチを指導した学生が、全国英語スピーチコンテストで最優秀賞を受賞。(2006.4) 	
○その他、教員としての資質向上につながる価値ある行動、結果	
<ol style="list-style-type: none"> 1. 小山高専オープンキャンパスで、実験装置の展示を担当した。(2004.8) 2. 科学博物館での実施された演習実験を担当した。(2006.8) 3. 学生によるゲート作製の指導を行なった。(2006.11) 	

(出典：教務委員会資料)

(分析結果とその根拠理由)

個々の教員は、授業評価アンケートの結果に対して前年度からの改善結果を含めたコメントを提出しており、授業内容、教材、授業技術を含めた改善を継続的に行なっている。また、学校は個々の教員から提出される授業評価アンケートとコメントをまとめた報告書、および毎年度のFDアクションレポートを通して改善状況を把握している。

観点9-1-⑥： 研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

(観点に係る状況)

各教員の研究活動は5年生の卒業研究(資料9-1-⑥-1)、専攻科の特別研究のテーマ(資料9-1-⑥-2)の基本となっている。実施された卒業研究の一部と特別研究の多くは、研究を行なった学生自身によって学外の学会等で発表されている(資料6-1-②-7:既出)。これは教員の研究が学生の研究の質を高め、さらに学生のプレゼンテーション能力向上のためのよい機会を与えた例である。

教員は通常の研究活動、および卒業研究や特別研究等の学生を交えた研究活動によって得られた成果を利用し、教育の質の改善に貢献している。たとえば、資料9-1-⑥-3~5には、教員の研究が教育関係の原著論文として掲載された例が示されている。これらは実習教育など教育に役立てられた成果である。

資料 9-1-⑥-1 : 教員の研究活動と卒業研究のテーマ

学科名 機械工学科	発表学生氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等	ページ 発表年月(平成) 査読の有無の記入
口頭発表	(高島武雄)	上部が加熱された垂直ガラス管内の水・蒸気柱の熱的自励振動	日本機械学会関東支部ブロック合同講演会-2004 宮代-	(2004.09) 査読 無
	(高島武雄)	溶融ガラスと水の蒸気爆発に関する実験的研究	第42回日本伝熱シンポジウム講演論文集 E211	pp. 267-268 (2005-6) 査読 無
	(高島武雄)	溶融ガラスを用いたマグマ水蒸気爆発の再現実験	火山爆発のダイナミックス 2004 年度研究成果報告書	pp. 238-241. (2005.3) 査読 無
	(高島武雄)	水・蒸気柱の熱的自励振動時の圧力変動	日本機械学会関東支部ブロック合同講演会-2005 足利-	(2005.09) 査読 無
	(菊地吉郎)	蠕動運動による移動機構	日本機械学会関東支部ブロック合同講演会	p. 151 (H17) 査読 無
	(高島武雄)	水平管内の水・蒸気柱の熱的自励振動	日本機械学会 2006 年度年次大会	(2006.09) 査読 無

(出典：各学科の学会発表に関する調査資料のまとめ)

資料 9-1-⑥-2 : 教員の研究活動と卒業研究, 特別研究のテーマ

電気情報工学科における卒業研究発表および特別研究関連の学外発表 (平成 16~18 年度)

学科名 電気情報 工学科	発表者氏名 (指導教員)	書名・ 発表題目	発表講演会名等 (コンペティション名等)	ページ、発表年 月(平成)、査読 の有無の記入
① 本科 口頭発表	<input type="text"/> (森 夏樹)	高温超伝導体の c 軸方向揺ら ぎ伝導率の理論解析	第 52 回応用物理学関係連合講演会 講演予稿集 1	p. 289 (H17. 3) 査読 無
	<input type="text"/> (森 夏樹)	Ginzburg-Landau 理論に基づ く 2-band 超伝導体の揺らぎ伝 導率	第 53 回応用物理学関係連合講演会 講演予稿集 1	p. 253 (H18. 3). 査読 無
	<input type="text"/> (森 夏樹) (2006. 3)	LaBaCaCu ₃ O _{7-x} 超伝導体の交 流帯磁率と揺らぎ伝導率	第 53 回応用物理学関係連合講演会 講演予稿集 1	p. 254 (H18. 3). 査読 無
② 専攻科 口頭発表	<input type="text"/> (森 夏樹)	Thermoelectric power and resistivity in Nd _{2-x} Ce _x CuO ₄ system	International Conference on Rare Earths '04 in Nara, Japan	p. 79 (H16. 11) 査読 有
	<input type="text"/> (森 夏樹)	非晶質と微結晶 In ₂ O ₃ /Sn 薄膜 における電子輸送特性への熱 処理効果	薄膜材料デバイス研究会(第 2 回研 究集会) 予稿集	p. 71 (H17. 11) 査読 有
	<input type="text"/> (森 夏樹)	インジウム酸化物薄膜の光・ 電気特性に対するセリウム元 素添加の効果	第 53 回応用物理学関係連合講演会 講演予稿集 2	p. 662 (H18. 3) 査読 無
	<input type="text"/> (森 夏樹)	導電性酸化物を含む Bi2223 系統結体の交流帯磁率による 評価	第 53 回応用物理学関係連合講演会 講演予稿集 1	p. 280 (H18. 3) 査読 無
	<input type="text"/> (森 夏樹)	A comparative study of thermoelectric properties in (Pr,Y)Ba ₂ Cu ₃ O ₇ and PrBa ₂ Cu ₃ O ₇ -Ag percolative systems	15 th International Conference on Ternary and Multinary Compounds '06 in Kyoto, Japan	Wed-P-40B (H18. 3) 査読 有
<input type="text"/> (森 夏樹)	(Pr,Y)Ba ₂ Cu ₃ O ₇ 系と Ag-PrBa ₂ Cu ₃ O ₇ 系における熱 電特性の比較研究	第 3 回「学生&企業研究発表会」 (宇都宮) 応用物理学会	(H18. 12) 査読 無 ポスターセッ ション部門【優 秀賞】	

(出典：平成 19 年 小山高専自己点検評価報告書)

資料 9-1-⑥-3 : 教育改善について論文 (1)

**事例
報告**

実習教育とリンクした形状計測システムの構築*

The construction of shape measurement system which linked practical training education

伊 澤 悟†
Satoru IZAWA

近年、ものづくり教育の重要性が注目されているが、これまではつくることに注目した結果として製品の検査があまり行われていないのが実情である。本校では、形状計測システムを導入し製品の検査に重点をおき、実習教育と機械工学実験の効果的な融合を図った。形状計測システム導入後、ものづくりと計測の両面に関して実習者の意識が向上した。

キーワード：工作実習、機械工学実験、形状計測

Recently, the importance of the making education is noticed thing. The inspection of the product is not very much carried out as a result of noticing that it was made. In this college, the shape measurement system has been introduced, and more importance is placed on the examination of products. The effective fusion of practical training education and mechanical engineering experiment is attempted. The students' consciousness has been raised both of practical training work and measurement after having introduced the system.

Keywords : Machine practice, Mechanical engineering experiment, Shape measurement

(出典：工学教育 51巻 1号 (2003))

資料 9-1-⑥-4 : 教育改善について論文 (2)

高度センサ機能を付加する簡易ロボットの教材化

石原 学† 鈴木真ノ介† 大嶋建次† 久芳頼正†

†小山工業高等専門学校 電気情報工学科 〒323-0806 栃木県小山市中久喜 771

‡足利工業大学 システム情報工学科 〒326-8558 栃木県足利市大前町 268-1

E-mail:

あらまし 最近、多くの教育機関において実験テーマとしてロボット等の題材を組み込んだものが多く導入されている。特に最近の「LEGO MINDSTORMS™」は、ブロックを組み立てたものでありながら、制御プログラムをダウンロードし、実行することにより、学生が意図した動作を実現することが可能なシステムである。本報告では、ロボットの走行情報を音として提供し解析する。その結果を制御するプログラムとして、パーソナルコンピュータで処理して、結果をロボット側に送信し制御させる。現実的な動作をさせることをテーマとした事例について報告する。

キーワード ものづくり、ロボット、信号処理、LEGO MINDSTORMS™

A Practice of Program Education using LEGO MINDSTORMS™

Manabu ISHIHARA† Shin-nosuke SUZUKI† Kenji OHSHIMA† and Yorimasa KUBA†

† Dept. of Electrical and Computer Engineering, Oyama National College of Technology,
771 Nakakuki, Oyama-Shi, Tochigi, 323-0806 Japan

‡ Dept. of Systems and Information, Ashikaga Institute of Technology,
268-2 Ohmae-Cho, Ashikaga-Shi, Tochigi, 326-8558 Japan

E-mail:

Abstract This paper described how to use the "LEGO MINDSTORMS™" system. We analyzed an acoustic-signal by the FFT. This system searches the direction of the passage using the FFT analysis. We used and designed "LEGO MINDSTORMS™". It is very useful education system with wide range of students.

Keyword LEGO MINDSTORMS™, Signal Processing, Robots

(出典：IEICE Technical Report 2006-21)

資料 9-1-⑥-5 : 教育改善について論文 (3)

論文

生物工学関連学生実験のマイクロ化への考え方とその試み*

An approach and a concrete challenge to the microscale student experiments related with biotechnology

胸組 虎胤*¹ 佐々木 いづみ*¹ 浦田 克郎*¹
Toratane MUNEGUMI Izumi SASAKI Katsuro URATA

生物工学関連の学生実験で、扱う物質の容積、質量を通常の十分の一から千分の一にするマイクロスケール化を行った。この実験は安全性、コスト、効率の点で優れている上に、グリーンケミストリーの点からも好ましい。しかし、極度のマイクロ化は「物質感を失わせ」、「実験を味気ないもの」にする。これは学生の感動の低下と、学習意欲の減退を引き起こす。「物質感」と「感動」を保ちつつマイクロ化を進めるため、低学年から高学年にかけて徐々にマイクロスケール化を行う教育プログラムを作成する試みについて述べられている。

キーワード：マイクロスケール実験、生物工学、教育プログラム

Microscale experimental themes, of which scale is down to the one of tenths to the one of thousands for the conventional experiments, were carried out for the student experiments related to biotechnology. These experimental themes are superior to the conventional those in the view point of safety, cost and efficiency as well as green chemistry. However, in extremely micro-scaled experiments, the students reduce the sense of matter and feel the experiments insipid. These phenomena make the students to reduce their impression and learning volition in the experiments. This study shows the trial to create an educational program in which the gradual changes depending on the school age are carried out for the microscale experiments.

Keywords : Microscale experiment, biotechnology, educational program

(出典：工学教育 51巻 1号 (2003))

(分析結果とその根拠理由)

教員の研究活動は5年生の卒業研究および専攻科の特別研究のテーマとして役立っており、これらの成果の多くは学外で研究発表され、学生の研究の質とプレゼンテーション能力育成に役立っている。また、教育内容・方法の改善に直接役立っている。そのため、研究活動は教育の質の改善に寄与していると言える。

観点 9-2-①： ファカルティ・ディベロップメントについて、組織として適切な方法で実施されているか。

(観点に係る状況)

教育改善推進室(資料 9-1-①-1)を中心に、教員のファカルティ・ディベロップメントが実施されている。この活動は、非常勤も含む教員全員に配布される教務資料の巻末にまとめられたFDステップアップ(FDについての説明、計画等)に詳しく示されている。資料 9-1-①-2はFDステップアップに記載されており、授業の計画(P)、実施(D)、評価(C)、改善(A)の細目が説明されている。これによって各教員はPDCAの各段階を具体的に把握できる。また、FD年間計画(資料 9-1-①-3)によって、各教員はFDに関する行事を把握できる。この中で「各

学科の学修単位導入の現状と問題点」というテーマで平成18年度に1回実施された（資料9-2-①-1）教育改善研修会には32名が参加した（資料9-1-①-5）。学科間の学修単位導入に向けた準備状況や具体的工夫についての知識が共有できた。

また、本校では学外における研修会に教員を派遣している（資料9-2-①-2）。この研修会に参加した教員は、他の高専の教育改善の実施状況を把握し、それを本校の教育改善に役立てる基礎知識を得られた。

資料9-2-①-1：教育改善研修会案内

2006.11.13

平成18年度 第1回 小山高専教育改善研修会

小山高専教員各位

FDステップアップの年間計画にありましたように、下記のように教育改善研修会を開催しますので、多くの方々の出席をお願いいたします。

今回のテーマは「各学科の学修単位導入の現状と問題点」としたいと思います。

教育改善推進室長 胸組虎胤

記

- 日時： 平成18年11月29日（水）15:10～16:40
（教職員会議がある場合、その終了後）
- 場所： 管理棟2F会議室
- プログラム：
 1. 挨拶： 教務担当校長補佐 瀧澤雄三
 2. 各学科の発表（各科発表10分程度＋質疑5分）：
 - （1）機械工学科
 - （2）電気情報工学科
 - （3）電子制御工学科
 - （4）物質工学科
 - （5）建築学科
 3. 総合討論

（出典：教育改善推進室資料）

資料 9-2-①-2 : 学外のFD研修会への参加状況

平成18年度 F D活動（教員研究集会等一覧）

名 称	参加者名	実施時期
関東信越地区国立高等専門学校教務主事会議	3名	18.7.25~26
高専・長岡技科大（機械系）教員交流研究集会	1名	18.7.31~8.1
高等専門学校教員研究集会（プロジェクト研究集会）	1名	18.8.3~4
高等専門学校新任教員研修会	4名	18.8.23~25
国立高等専門学校機構教育教員研究集会	5名	18.8.24~25
関東信越地区国立工業高等専門学校教員研究集会	2名	18.8.30~31
国立高専機構主催 関信地区国立高専教員研究集会	2名	18.9.26~27
第62回高等専門学校情報処理教育研究委員会	1名	18.12.15
関東信越地区高専教務主事会議	1名	18.12.16
関東工学教育協会高専部会	3名	18.12.16

（出典：平成19年 小山高専自己点検評価報告書）

（分析結果とその根拠理由）

授業改善におけるPDCAの具体的内容、FD年間計画が教員に配布され、教員間および学外のFD関係の教育改善研修が適切に実施されており、これによってファカルティ・ディベロップメントについて組織として適切な方法で実施されていると言える。

観点 9-2-②： ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点到係る状況）

本校におけるFD活動の中心は、a. 学生による評価（授業評価アンケート）、b. 同僚による評価（公開授業）、c. 自己評価（FDアクションレポート）、そして、d. 教育改善研修会である。教育改善推進室活動状況（資料 9-1-①-5）は平成17~18年度のこれらの活動状況をまとめたものである。「a. 授業評価アンケート」は学生から見た授業の分かりやすさ、内容等を教員にフィードバックし、それに教員がコメントと改善状況を報告するものである。これは教員に自分の授業を客観的に見直す機会を与えている。平成17年度から平成18年度にかけて評点の変化を見ると（資料 9-2-②-1）、平均で0.12~0.14ポイントとわずかではあるが上昇していることが分かる。「b. 公開授業」は他の教員から見た授業のあり方を教員が見直すきっかけを与えている。「c. FDアクションレポート」は教員が自分の一年の教育活動を見直す機会となる。そして、「d. 教育改善研修会」は教員の代表が教育改善についての具体例を提示し、授業のコツや教育改善の要点を教員間で共有する機会を与えている（資料 9-2-②-2）。以上のFD活動の結果、

教育改善の実証として教育関係の学会誌等に論文が発表されるようになってきた（資料9-1-⑥-3~5）。

資料9-2-②-1：FDの効果を裏付ける資料

小山高専学生による授業評価アンケート結果(ポイント)の変遷

	平成17年度後期	平成18年度前期	平成18年度後期
機械工学科	3.47	3.73	3.57
電気情報工学科	3.40	3.57	3.53
電子制御工学科	3.36	3.47	3.60
物質工学科	3.50	3.60	3.60
建築学科	3.43	3.47	3.47
平均	3.43	3.57	3.55

(出典：教務係資料)

資料9-2-②-2：教育改善研修会で教育改善についてなされた報告の例

2006年度 物質工学科における学修単位科目の実施

渥美太郎、田中孝国
(物質工学科)

平成18年度5C材料化学実験予定表
(木曜3~8時限プロセス工学実験室)

日	時間	1時限	2時限	3時限	4時限	5時限	6時限	7時限	8時限	予備日
1	1	1	2	3	4	5	6			
2	1	2	3	4	5	6	7			
3	1	2	3	4	5	6	7	8		
4	1	2	3	4	5	6	7	8	1	
5	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2
6	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2
7	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2
8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2

- 準備
- 装置確認
- 固体乾燥
- 採集
- 溶液の入浴
- 管内流動と液体輸送
- 強制対流伝熱
- 反応速度の測定と応用

1週目6時間 実験 → 2週目6時間 レポート作成

物質工学科における実施状況(2006年度)

実験科目：実験とレポート作成を含めて45時間で1単位
 { 材料化学実験2単位(5年前期-週6時間-4時間)
 { 生物工学実験2単位(5年前期-週6時間-4時間)

講義科目：講義と自宅学習を含めて45時間で1単位
 { 表面工学2単位(5年前期-5年通年)
 { 生物有機化学2単位(5年前期-5年通年)
 { 食品化学2単位(5年後期-5年通年)

学修単位化のためのいくつかの工夫

- 前年度の実験内容を確保しつつ6時間で終える
 ・昼休みも連続的に活用し、データ整理まで終了させる
- レポート作成時間の短縮
 ・実験の際に配布したデータ入力用紙を、そのままレポートに添付させ、レポート作成時間を短縮させる
 ・実験の予習も兼ねて、実験方法までレポート作成させて実験に臨ませる(自宅学習に入る?)
- レポート作成の指導
 ・学生のレポート作成の途中での点検(特に2週目)
 ・常時質問を受付、講義を何度でも行う

(出典：平成18年度第1回小山高専教育改善研修会)

続き

<p>まとめ (実験)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 授業時間内だけでレポートを完成させることが出来ず、未完成レポートが多かった。 → レポートの内容(データ整理)を必要最小限にとどめ、実験内容を減らすことが必要かもしれない 2. 自宅の方が集中して書きやすいとの意見があった。レポート作成場所について考えなければならない。 → 「講義・演習」と同様に自宅学習の時間を確保する → 実験中の講義の時間を増やす → 実験中に資料を配布する 	<p>H18年度 表面工学 5年前期</p> <p>受講者: 物質工学科 材料コース 19名</p> <p>実施内容: 講義 7回 → 中間試験 → 講義 8回 → 期末試験</p> <p>課題 10題前後</p> <p>試験は100点満点中60~80点分は課題から出題。</p>
<p>その他 (実験、授業アンケート等より)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生達より、装置改善(新調?)の要望があった。 2. 授業時間内に終了しなかったレポートについては、従来通り全員、自宅学習で行っていた。 3. 学生達は、調べ物や教員への質問を自ら積極的に行ったという自覚があった。 	<p>まとめ</p> <p>結果: 中間試験 19人中 60点以下7名 90点以上3名 後期試験 60点以下2名 90点以上12名 ↳ 不可、追試なし。</p> <p>今後の改善点: ・ 学生に「この講義は課題をやっておけば単位が取れる。やらなければ取れない」という意識を植え付ける。 ・ 課題の量を調節する。</p>

(出典：平成18年度第1回小山高専教育改善研修会)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、多様なFD活動によって、教育改善の成果が授業評価アンケートの点数の上昇、具体的な教育改善例の報告、学会誌に発表される研究論文に現れていることなどから、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついているといえる。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

ファカルティ・ディベロップメントが年間計画に基づいて継続的に行われており、教員に書類を提出させることでファカルティ・ディベロップメントと教育活動の資料蓄積を同時に行っていることは優れた点であると考える。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準 9 の自己評価の概要

教育活動に関するデータや資料の収集・蓄積は、教育改善推進室を中心に適切に実施される。教員は授業計画 (Plan) , 授業実施 (Do) , 授業評価 (Check) , 授業改善 (Action) に関する書類

をFD年間計画に沿って提出する。収集されたデータは教務委員会で報告、評価、審議される。他の部局等と連動して評価を適切に実施できるための体制が整備されている。

点数化された授業評価アンケートの集計結果と学生の自由記述内容は各教員に渡される。各科目の授業評価アンケート結果と教員のコメントは、冊子化されて、校長、校長補佐（教務担当）、各学科、教務係、図書情報センターに配付され、閲覧可能となっている。満足度調査、学習環境評価の結果は自己点検・評価の中で取り上げられ評価されている。

卒業生、卒業生の就職先、進学した大学等の学外者へのアンケートの結果は自己点検評価報告書に記述され、教育の状況に関する自己点検・評価に適切な形で反映されている。

教育改善推進室で検討された教育評価に関する内容は、教務委員会、運営会議で審議される。教務委員会では、学科の教務委員を通じて、授業評価アンケートに対する改善案と前年度に対する改善状況も含めたコメントの提出を求めるなど、教育改善への方向性が示される。授業評価アンケートの結果、教育課程の見直しは学科会議で継続的に審議されている。

個々の教員は、授業評価アンケートの結果に対して前年度からの改善結果を含めたコメントを提出しており、授業内容、教材、授業技術を含めた改善を継続的に行なっている。また、学校は授業評価アンケートおよび毎年度のFDアクションレポートを通して改善状況を把握している。

教員の研究活動は卒業研究および専攻科特別研究のテーマとして役立ち、成果の多くは学外で研究発表され、学生の研究の質向上とプレゼンテーション能力育成に役立っている。他方、教育内容・方法の改善にも直接役立っており、研究活動は教育の質の改善に寄与していると言える。

授業改善におけるPDCAの具体的内容、FD年間計画が教員に配布され、教員間および学外のFD関係の教育改善研修が適切に実施されており、ファカルティ・ディベロップメントは組織として適切な方法で実施されている。

多様なFD活動の成果は、授業評価アンケートの点数の上昇、具体的な教育改善例の報告、教育論文の掲載などに現れており、ファカルティ・ディベロップメントが、教育の質の向上や授業の改善に結びついている。

基準10 財務

(1) 観点ごとの分析

観点10-1-①： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。

また、債務が過大ではないか。

(観点に係る状況)

本校は目的に沿った教育研究活動を将来的に適切かつ安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備等の資産を有している(資料10-1-①-1~3, 詳細は基準8)。また本校に債務はない(資料10-1-①-4)。

資料10-1-①-1：資産の保有状況(本校の施設の概要(1))

施設の概要 Facilities

敷地 Land

総面積	Land Area	110,176㎡
校舎敷地	College Building	60,582㎡
寄宿舎敷地	Dormitory	9,156㎡
運動場敷地	Ground	29,276㎡
職員宿舍敷地	Staff Housing	11,162㎡

建物 Buildings

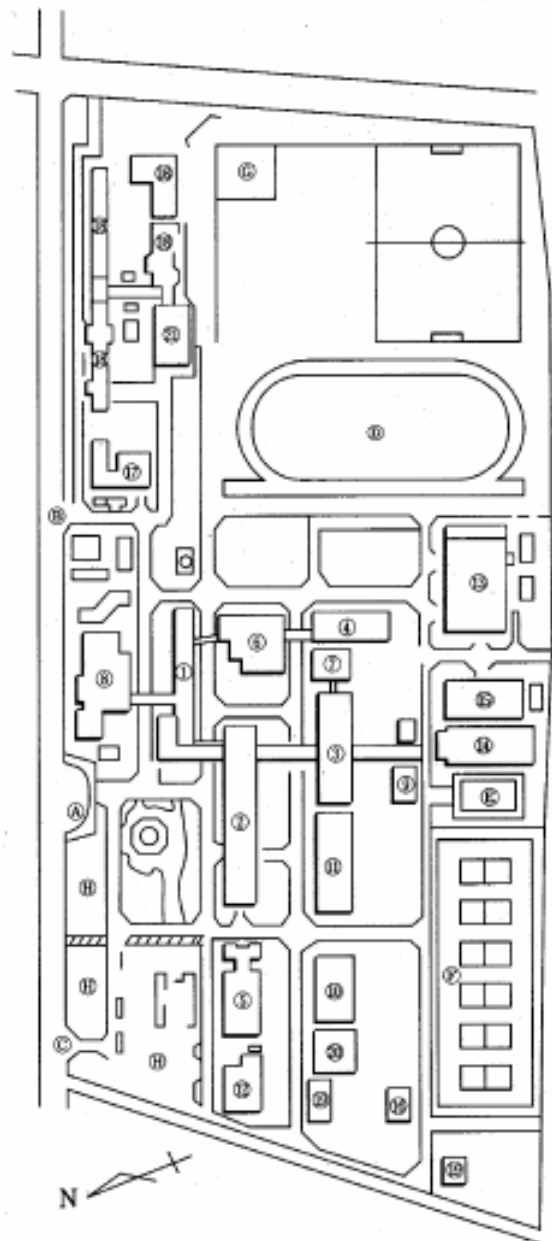
名称 The Name of Building	構造 Structure	面積 Area
一般・管理棟	RC3	2,322㎡
電気情報・物質工学科棟	RC4	4,446
機械工学科棟	RC3	2,040
電子制御工学科棟	RC4	2,179
建築学科棟	RC3	1,680
専攻科棟(テクノ棟)	RC5	3,139
講義棟	RC3	668
図書情報センター	RC2	1,624
情報科学教育研究センター	RC1	312
地域共同開発センター	RC2	484
ものづくり教育研究センター	S1	840
建築学科実験室	S1	277
第一体育館	SRC1	1,106
第二体育館	SRC1	880
武道館	RC1	349
合宿研修施設棟	RC2	408
一般食堂	RC1	583
学生寮(東、西、南、北)	RC3-5	6,030
生活廃水・実験廃液処理施設	RC1	160
物質工学科実験棟	RC2	512
職員宿舍等、その他		3,364
合計 Total		33,403

(出典：2007学校要覧p.47)

資料10-1-①-2：資産の保有状況（本校の施設の概要（2））

校舎等配置図 Campus Guide

- | | |
|------------------|---|
| 1 一般・管理棟 | General Education & Administration Office Building |
| 2 電気情報・物質工学科棟 | Electrical Engineering & Materials Chemistry Building |
| 3 機械工学科棟 | Mechanical Engineering Building |
| 4 電子制御工学科棟 | Electronic Control Engineering Building |
| 5 建築学科棟 | Architecture Building |
| 6 専攻科棟 | Advanced Courses Building |
| 7 講義棟 | General Lecture Building |
| 8 図書情報センター | Library |
| 9 情報科学教育研究センター | Education and Research Center of Informational Sciences |
| 10 地域共同開発センター | Cooperative Research and Development Center |
| 11 ものづくり教育研究センター | Education and Research Support Center for Manufacturing |
| 12 建築学科実験室 | Architecture Laboratory |
| 13 第一体育館 | Gymnasium (1st) |
| 14 第二体育館 | Gymnasium (2nd) |
| 15 武道館 | Gymnasium for Judo & Kendo |
| 16 合宿研修施設棟 | Lodging House |
| 17 一般食堂 | Cafeteria |
| 18 学生寮（東、西、南、北） | Dormitory |
| 19 生活排水・実験廃液処理施設 | Sewage Disposal Plant |
| 20 物質工学科実験棟 | Materials Chemistry Laboratory Building |
| 21 学寮食堂 | Dormitory Refectory |
| A 正門 | Main Gate |
| B 東門 | Side Gate |
| C 西門 | Side Gate |
| D 陸上競技場 | Track & Field |
| E プール | Swimming Pool |
| F テニスコート | Tennis Court |
| G 野球場 | Baseball Ground |
| H 駐車場 | Parking Areas |



(出典：2007学校要覧p. 48)

資料10-1-①-3：資産の保有状況

本校資産保有状況一覧(例)

出力日 平成19年 5月18日

資産一覧表

事業年度：18年度
支所：13_小山工業高等専門学校
会計区分：国立高専機構

資産管理番号 資産名称	管理資産区分 中間計測区分 特定資産区分	取得形態区分 取得科目	設置場所 管理部門 管理責任者	資産種類 価格	用途区分 備考	取得日 供用日 除却日	耐用年数(月数) 償却率 残存価格	取得額 最終計上日 計上事由 経過年数	減損損失累計額 減価償却累計額 帳簿価額
BEI4H0020300001 メカトロニクス併立機 子キット FID N-1メカ ニクス	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	実習教員室 物品管理役 笠原雅人	カメラ又は測定機器(時計)	教育・研究用 L3689/平成14年3月29日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	35(7月) 1	434,874 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 434,873 1
BEI4H0020400001 プロジェクタ 日本ア ビオニクス 型-459	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	教授係 物品管理役 新井たか子	カメラ、映画撮影機、	教育・研究用 N382/平成14年2月25日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	34(7月) 1	423,639 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 423,638 1
BEI4H0020400002 マルチプロジェクタ アビオニクス 型-50	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	教授係 物品管理役 新井たか子	カメラ、映画撮影機、	教育・研究用 N382/平成16年3月31日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	47(7月) 1	431,319 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 430,369 100,949
BEI4H0020400003 マルチプロジェクタ アビオニクス 型-50	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	教授係 物品管理役 新井たか子	カメラ、映画撮影機、	教育・研究用 N383/平成16年3月31日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	47(7月) 1	431,319 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 430,369 100,949
BEI4H0020400004 マルチプロジェクタ アビオニクス 型-50	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	教授係 物品管理役 新井たか子	カメラ、映画撮影機、	教育・研究用 N384/平成16年3月31日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	47(7月) 1	431,319 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 430,369 100,949
BEI4H0020400005 マルチプロジェクタ アビオニクス 型-50	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	教授係 物品管理役 新井たか子	カメラ、映画撮影機、	教育・研究用 N385/平成16年3月31日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	47(7月) 1	431,319 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 430,369 100,949
BEI4H0021000001 クーブアルバイブレータ ー 丸東製作所 (CF-103)	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	川上教員室 物品管理役 川上勝洋	主として金属製のもの(教育・研究用 C224/平成16年3月13日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	47(7月) 1	438,522 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 438,230 100,292
BEI4H0021000002 TIG溶接機 300P から 300P	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	ものづくりセンター 物品管理役 ものづくりセンター長	主として金属製のもの(教育・研究用 C242/平成15年3月25日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	167(7月) 1	432,540 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 145,530 287,016
BEI4H0021000003 精工重工業 型-780 型上 型上	特定	国からの譲与 自己所有 工具器具備品	高品質教員室 物品管理役 高品質係	主として金属製のもの(教育・研究用 C243/平成16年3月27日	平成16年 4月 1日 平成16年 4月 1日	167(7月) 1	393,224 平成19年 3月31日 償却(登録済) 3	0 132,300 260,924

(出典：総務課財務係資料)

資料10-1-①-4：平成18年度貸借対照表（平成19年3月31日現在）

[資産の部]	金額(円)	[負債の部]	金額(円)
流動資産	227,761,576	流動負債	266,083,646
現金及び預金	226,453,583	運営費交付金債務	687
有価証券	0	授業料債務	0
受取手形	0	承継剰余金債務	0
未収学生納付金収入	319,200	預り施設費	0
棚卸資産	0	預り補助金等	0
未収入金	0	預り寄附金	8,796,804
前渡金	0	前受受託研究費等	630,000
前払費用	671,075	前受受託事業費等	0
未収収益	0	短期借入金	0
短期貸付金	0	1年以内返済予定長期借入金	0
その他の流動資産	317,718	未払金	238,824,997
徴収不能引当金	0	未払消費税等	0
貸倒引当金	0	未払費用	12,438,882
固定資産	3,394,881,481	前受金	0
有形固定資産	3,394,821,293	預り金	5,308,442
建物	2,756,193,488	前受収益	0
建物減価償却累計額	-600,761,047	引当金	83,834
建物減損損失累計額	0	その他の流動負債	0
構築物	394,069,808	固定負債	84,637,602
構築物減価償却累計額	-150,068,276	資産見返負債	82,731,904
構築物減損損失累計額	0	長期預り金補助金等	0
機械装置	0	長期預り金寄附金	1,905,698
機械装置減価償却累計額	0	長期前受受託研究費等	0
機械装置減損損失累計額	0	長期前受受託事業費等	0
船舶	0	長期借入金	0
船舶減価償却累計額	0	長期未払金	0
船舶減損損失累計額	0	引当金	0
車両運搬具	4,897,573	その他の固定負債	0
車両運搬具減価償却累計額	-3,261,068	[負債の部]合計	350,721,248
車両運搬具減損損失累計額	0	[資本の部]	
工具器具備品	154,518,095	資本金	3,557,761,534
工具器具備品減価償却累計額	-75,587,280	資本剰余金	-286,906,043
工具器具備品減損損失累計額	0	資本剰余金	498,015,572
土地	914,320,000	損益外減価償却累計額	-783,787,696
建設仮勘定	0	損益外減損損失累計額	-44,000
その他の有形固定資産	500,000	損益外固定資産除売却差額	-1,089,919
その他の有形固定資産減価償却累計額	0	利益剰余金	341,879
その他の有形固定資産減損損失累計額	0	前中期目標期間繰越積立金	0
無形固定資産	19,038	目的積立金	0
特許権	7,038	当期末処分利益	341,879
借地権	0	繰越欠損金	0
商標権	0	当期末処理損失	0
実用新案権	0	その他の有価証券評価差額金	0
意匠権	0	[資本の部]合計	3,271,197,370
ソフトウェア	0	資本・負債の部合計	3,621,918,618
電話加入権	12,000		
その他の無形固定資産	0		
著作権	0		
特許権仮勘定	0		
投資その他の資産	41,150		
[資産の部]合計	3,622,643,057		
[本支店]機構本部	-724,439		
合計	3,621,918,618		

(出典：総務課財務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校の教育・研究活動を安定的に遂行するための資産を保有している。本校の資産は、平成16年4月1日の独立行政法人化に伴い、政府から独立行政法人国立高等専門学校機構に出資され、本校が管理している。また、債務はない。

観点10-1-②： 学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

(観点に係る状況)

平成18年度における本校の教育・研究を支える運営費・事業費等の収入予算の推移を資料10-1-②-1に示す。本校は平成16年度から独立行政法人に移行したため、従来の国立学校特別会計による予算配賦から、収支差補填の考え方を基本とした運営費交付金による予算措置となっている。また、平成16年度から産学官連携コーディネーターの配置を受けるとともに、科学研究費補助金の説明会を開催し、科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費及び奨学寄附金等外部資金の受入にも努力している(資料10-1-②-2～4)。

資料10-1-②-1：収入確保の状況

平成18年度収入額

(単位：円)

科目	配分予算額 (A)	第一・四半期 収入実績額	第二・四半期 収入実績額	第三・四半期 収入実績額	第四・四半期 収入実績額	合計(B)	差引過 △不足額 (A)-(B)
授業料収入	240,699,600	118,796,200	586,500	117,977,100	821,100	238,180,900	△ 2,518,700
入学料収入	19,677,000	0	0	0	20,633,100	20,633,100	956,100
検定料収入	8,163,000	792,000	313,500	1,468,500	4,519,200	7,093,200	△ 1,069,800
雑収入	4,791,000	2,559,056	574,114	1,286,926	514,368	4,934,464	143,464
講習料収入	0	268,400	0	0	0	268,400	268,400
職員宿舍料収入	2,105,000	501,171	490,774	499,296	489,168	1,980,409	△ 124,591
寄宿料収入	1,150,000	705,600	0	688,800	0	1,394,400	244,400
その他の貸付料収入	1,536,000	1,083,885	83,340	97,990	25,200	1,290,415	△ 245,585
その他の利用料収入	0	0	0	840	0	840	840
その他収入	0	0	0	0	0	0	0
学校財産処分収入	0	0	0	0	0	0	0
運営費交付金	1,174,723,902	274,533,595	237,645,421	242,695,965	419,848,921	1,174,723,902	0
施設費交付事業費	39,207,000	0	29,680,000	9,527,000	0	39,207,000	0
寄附金収入	0	4,900,000	1,300,000	710,000	1,200,900	8,110,900	8,110,900
産学連携等研究収入	0	903,000	4,210,000	1,446,880	630,000	7,189,880	7,189,880
計	1,487,261,502	402,483,851	274,309,535	375,112,371	448,167,589	1,500,073,346	12,811,844

(出典：総務課出納係資料)

資料10-1-②-2：外部資金獲得状況

科学研究費補助金採択状況

(単位:円)

年度	研究種目		特定領域研究		基盤研究B		基盤研究C		若手研究B		奨励研究		合計	
	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
平成14年度	0	0	1	500,000	5	3,200,000	2	5,100,000	0	0	8	8,800,000		
平成15年度	1	2,000,000	1	7,900,000	4	2,300,000	2	2,200,000	0	0	8	14,400,000		
平成16年度	1	2,200,000	1	3,700,000	3	1,800,000	3	5,200,000	0	0	8	12,900,000		
平成17年度	0	0	1	2,900,000	4	3,100,000	3	3,000,000	0	0	8	9,000,000		
平成18年度	0	0	0	0	3	1,800,000	2	2,600,000	1	630,000	6	5,030,000		

民間等との共同研究受入状況

(単位:円)

平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	800,000	4	1,270,000	4	5,350,000	13	4,510,000	14	5,043,000

受託研究受入状況

(単位:円)

平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
0	0	0	0	1	1,033,200	1	458,850	1	2,000,000

受託事業受入状況

(単位:円)

平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
1	152,000	3	364,800	1	68,600	0	0	1	146,880






奨学寄附金受入状況


(単位:円)

平成14年度		平成15年度		平成16年度		平成17年度		平成18年度	
件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額	件数	金額
19	8,067,000	11	5,505,000	11	6,300,000	17	10,175,000	15	8,110,000

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-1-②-3 : 産学官連携コーディネーター配置承認書

校 長	事務総長	学務部長	専門職員	起 案 者
				

副 校 長 

平成18年2月23日
事 務 連 絡


小山工業高等専門学校配置責任者 殿
小山工業高等専門学校事務担当責任者 殿

文部科学省研究振興局
研究環境・産業連携課

平成18年度における産学官連携コーディネーターの配置について

平素より、産学官連携の推進に御尽力いただき、ありがとうございます。
今年度各大学等に配置されている産学官連携コーディネーターにつきましては、「平成17年度産学官連携コーディネーター自己評価シート」により、産学官連携コーディネーターのミッションとそのミッションに応じた達成目標を設定した上で、その達成状況を成果としてご報告していただき、来年度の各大学等への産学官連携コーディネーターの配置の妥当性を検討する際の参考資料としております。
貴大学等におかれましては、今年度配置された産学官連携コーディネーターを活用し、年度当初に設定した目標を十分に達成していること、これまでの貴大学等・コーディネーターの本事業における実績・活動状況等を踏まえ、平成18年度においても産学官連携コーディネーターを引き続き配置することといたします。
つきましては、別添の様式に必要事項を記入し、平成18年度に配置を希望する産学官連携コーディネーター候補者（以下、候補者）の①履歴書、②職務経歴書、③推薦書を合わせて、御提出ください。なお、現配置のコーディネーターを継続して配置することを希望する場合は、様式のみのお提出で結構です。

提出期限：_____
提出先： _____



(出典：総務課企画・地域連携係資料)

資料 10-1-②-4 : 科研費説明会次第

平成19年度科学研究費補助金 学内応募説明会日程

1. 日 時	平成18年9月27日(水) 16:00～17:15
2. 場 所	管理棟2階 会議室
3. 日 程	
○開催挨拶	16:00～
校 長	
○平成19年度科学研究費補助金の公募について	16:05～
総務課 企画・地域連携係	
○科学研究費補助金の使用方法及び不正使用の防止について	16:35～
総務課 財務係	
○質疑応答	16:45～
○終 了	17:15

(出典：総務課評価・研究協力係資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校は継続的に経常収入を確保している。また運営費交付金については国から高専機構を通じて継続的に交付されており安定的に確保されている。さらに科学研究費補助金及び受託研究費等の外部資金についても収入の確保に努めている。

観点10-2-①： 学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

(観点に係る状況)

各年度の予算に係る計画については、先に校内予算配分方針を予算委員会に諮り(資料10-2-①-1, 2)、同方針に沿った予算積算の考え方にに基づき、総務課(財務担当)で調製した配分案(資料10-2-①-3~5)を、予算委員会で審議した後(資料10-2-①-6)、校長に報告し了承を受けている。なお、公表にあたっては、直近の運営会議を通じて教職員に明示する(資料10-2-①-7)とともに、予算はその方針により適正に配分している。また財務状況に関しては毎年学校要覧に掲載して明示している(資料10-2-①-8)。

資料10-2-①-1：校内予算配分方針

平成18年度当初予算配分方針等について

1. 予算編成

- (1) 独立行政法人会計基準等に沿って、予算は収入予算と支出予算に区分し、収入予算は、運営費交付金及び自己収入(授業料、入学検定料等)とし、支出予算は、人件費と物件費とする。
- (2) 物件費については、十分な説明責任を果たすため教育研究費、教育研究支援経費及び一般管理費に区分した予算編成を行い、物件費、旅費、謝金といった事前統制科目は設けない。
- (3) 人件費は各学科等へ配分せず、学校全体で管理する。
- (4) 学校の中期計画との関連を見据えつつ、全学的視点からの戦略的な施策等を実施するため、校長裁量経費を設ける。
- (5) 予見し難い事情やその他やむを得ない事由に備えるため、学校全体の予備費を確保する。

2. 予算配分の基本方針

- (1) 教育研究経費及び教育研究支援経費は、18年度の事業計画、予算積算上の基礎額及び17年度実績等を勘案し配分する。
- (2) 一般管理費は、学校共通の経費及び事務部に係るものとし、平成18年度の学校運営に支障をきたすことのないよう18年度の事業計画及び平成17年度実績を勘案し必要な経費を積算の上配分する。

3. 予算の審議

- (1) 予算(校長裁量経費を除く。)は、校長の諮問により予算委員会で審議した後、校長へ答申し、校長が決定し配分する。
- (2) 校長裁量経費は、教育研究の一層の充実発展を図るため、校長の判断により執行できる経費とし、後日配分する。
- (3) 予備費は、予見し難い事情やその他やむを得ない事由に備える経費とし、後日配分する。

以上

(出典：18.5.11 予算委員会資料)

資料 10-2-①-2 : 予算委員会議事要旨 (抜粋)

平成18年度 第1回予算委員会議事要旨

日 時 平成18年5月11日(木) 16:50～18:30
 場 所 管理棟1階中会議室
 出席者 猪瀬委員長
 尾立委員(専攻科) 有坂(頭)委員(一般科)
 伊澤教員(機械工学科) 高島委員代理 今成委員(電気情報工学科)
 笠原委員(電子制御工学科) 糸井委員(物質工学科)
 奥富委員(建築学科)
 事務部長 総務課長
 陪席者: 吉澤財務係長

議 事

[審議事項]

委員長及び総務課長より資料に沿って、予算委員会規程等の説明があった。

また、糸井委員より従前から予算委員会にセンター長も加えて頂くようお願いしてあるが、どう考えるのかとの質問があり、委員長より議題によっては直接関わることもあるので、校長が必要と認めた者として参加して頂くことも検討したいとの回答があった。

1. 平成18年度予算について

総務課長より機構全体の予算の概要と予算削減についての説明の後、本校の予算概要について資料に沿って説明があり、予算増減に対する質疑応答の後審議し、18年度予算配分方針並びに審議スケジュールとも原案どおり了承された。

なお、総務課長から教員研究実施経費については、概ね昨年ベースで配分できそうであるとの見通しから当面は昨年配分額の8割の範囲内で執行計画を進めて欲しい旨の説明があった。

(出典: 18.5.11 予算委員会議事要旨)

資料 10-2-①-3 : 校内予算配分の考え方

18.5. 会計課

平成18年度当初予算積算の考え方

1. 小山高専のその他経費配分額は、前年度に比して7,352千円の減となっている。
2. また、今年度の当初配分では、昨年度まで年度途中の追加配分であった学生厚生補導経費、高専教育充実設備費、教育改善充実費などの事項が配分されている。
3. 今年度は、昨年度に引き続き、前年度の予算実績に対する予算積算に止まらず、十分な説明責任を果たす意味からも前年度の決算実績いわゆる何にいくら予算を使ったか、或いは今年度の業務計画はどうなっているか、いくら予算が必要か、という点にも目配りした積算を行うこととする。
4. 言い換えれば、真に必要な経費か否か、確定額か概算額か、優先的執行を行う等効率的な予算執行の工夫が可能か否か、についても考慮する。
5. このような状況を踏まえ、積算における基準的額は平成17年度配分表（H17.5.24 予算委員会承認）及び機構追加配分の校内配分方法をベースにしつつ、積算における具体の考え方を次のとおり整理した。
 - (1) 教育研究費の教育研究経費及び教育研究支援経費の図書館・センター経費については、平成17年度予算実績を基準とする。したがって、平成18年度総額における減額相当分を基本的には考慮しない。
 - (2) 教育研究経費の積算内訳は、次のとおりとする。
 - ① 教育研究経費の総額について、研究経費は平成15年度教育研究基盤校費の教官数積算分単価を基礎に、18.4.1現在の職位別現員数を乗じた額とする。また、教育経費は平成15年度教育研究基盤校費の学生数積算分単価を基礎に、18.4.1現在の学生数相当額とする。
 - ② 研究経費と教育経費の割合は、平成17年度同様6対4とする。
 - ③ 研究経費の配分に当たっては、平成15年度に定めた職位別・学問分野別配分係数を基準とする。
 - ④ 教育経費の配分は、平成17年度同様各学科へ均等とする。
 - ⑤ 非常勤講師分として20万円を確保する。
 - (3) 18年度事業計画に基づく所要額が、17年度予算額に満たない場合は18年度所要額とする。
 - (4) 追加が予定されている事項については、追加予算で対応する。
 - (5) 共通的経費の積算内訳は、次のとおりとする。
 - ① 光熱水費は平成17年度実績を基礎とする。
 - ② 法令上等必要な保守費・点検費・役務費は、契約実績又は所要額とする。
 - ③ その他の経費は、平成18年度の所要額とする。
 - (6) 校長裁量経費として5,000千円を、重点配分経費として6,500千円を確保する。
 - (7) 予備費として、10,000千円を確保する。

以上

(出典：総務課財務係資料)

資料 10-2-①-4 : 学科等配分表

学科等配分額(案)

(単位:千円) 18.5.26

区 分	教育研究経費(旧教官当校費)					積算係数 格差率× G×人数	学科等配分 額(端数処 理済)	学生支援経費(旧学生当校費)			18年度 配分額		
	格差率	教 授	助 教 授	講 師	助 手			配分対 象額	本科学 生数	専攻科 学生数		計	
配分対象額	29,881	e	f	g	h	I	J=e×(a× f+b×g+c× h+d×I) J÷積算係数	19,921	1,000	40	1,040		
校 長	1	3.5	1				13.30	643		0	0	0	643
一般科目人文													
国語	1	1	1	0	0	0	5.80	281					
倫理社会	1	1	0	0	0	0	3.80	184					
歴史	1	0	1	0	0	0	2.00	97					
英語	1	1	1	3	0	0	10.30	498					
日本語	1	1	0	0	0	0	3.80	184					
小計	10		4	3	3	0	25.70	1,244					
一般科目自然													
応用数学	3.5	0	1	0	0	0	7.00	339					
一般物理学	3.5	0	1	0	0	0	7.00	339					
一般化学	3.5	1	0	0	0	0	13.30	643					
一般理科	3.5	0	1	0	0	0	7.00	339					
数学	3.5	4	1	0	0	0	60.20	2,912					
保健体育	2	1	1	1	0	0	14.60	706					
小計	12		6	5	1	0	109.10	5,278					
一般科目計	22		10	8	4	0	134.80	6,522					
専門科目													
機械工学科	3.5	3	5	1	2	2	87.15	4,215					
電気情報工学科	3.5	4	4	3	1	1	100.45	4,858					
電子制御工学科	3.5	3	4	2	1	1	81.90	3,961					
物質工学科	3.5	4	4	2	2	2	98.70	4,774					
建築工学科	3.5	5	4	0	2	2	101.50	4,909					
小計	56		19	21	8	8	469.70	22,717					
合計	79		30	29	12	8	617.80	29,882					
非常勤講師分計		0	0	0	0	0	0	200					
総計								30,082	19,158	768	19,926	50,008	

* 教官当校費と学生当校費の比率については、平成17年度配分比率を適用した。
(非常勤講師分20万円差し引き後、教官6、学生4の割合とした。)

(出典: 18.5.26 予算委員会資料)

資料10-2-①-5：平成18年度予算配分表

区 分	17年度当初配分額	18年度当初配分額	差引増減額	18年度限り配分
教育研究費	51,466	50,008	△ 1,458	
高専教育充実設備費(一般設備費)	0	13,200	13,200	
高専教育充実設備費(学年進行)	0	0	0	
教育改善充実費	0	6,500	6,500	
重点配分経費	0	0	0	
専攻科	1,120	1,120	0	
内地研究員旅費(D科久保)	904	0	△ 904	
在外研究員旅費(C科亀山)	0	3,123	3,123	3,123
非常勤講師手当(カウンセラー含む)	31,527	32,841	1,314	
非常勤講師(旅費)	4,906	5,808	902	
JABEE受審審査料等	2,000	0	△ 2,000	
高専全国大会・地区大会・ロボコン経費	3,000	600	△ 2,400	
学生厚生補導費	3,847	6,300	2,453	
学生厚生補導設備費	0	7,500	7,500	
学費経費	564	564	0	
入学試験経費	2,011	3,400	1,389	
教務経費	1,314	4,300	2,986	
インターンシップ	0	238	238	
留学生経費	1,800	2,200	400	
ジュニア科学リーグ	600	600	0	
紀要刊行費	700	664	△ 36	
視聴覚室・LL維持費	700	700	0	
公開講座	541	460	△ 81	
入学式・卒業式等経費	1,000	392	△ 608	
論文助成	400	600	200	
e-learning関係	0	0	0	
教室用プロジェクター等	0	0	0	
小 計	108,400	141,118	32,718	
教育研究支援経費				
ものづくり教育研究センター	1,050	1,050	0	
情報科学教育研究センター	2,015	2,315	300	300
情報科学教育研究センターLAN回線	4,921	4,922	1	
地域共同開発センター	2,709	2,709	0	
技術室	481	430	△ 51	
学生用図書購入費	2,380	2,380	0	
FD(学生アンケート等)	0	1,600	1,600	
ロボット制作費補助	420	600	180	
地域連携室	991	1,491	500	
教育研究設備維持運営費	2,207	2,207	0	
LAN保守料	2,646	2,373	△ 273	
図書館経費	1,111	1,111	0	
教育用電算機借料	6,733	6,600	△ 133	
サイエンススクエア	0	0	0	
小 計	27,664	29,788	2,124	
一般管理費				
職員厚生経費	1,256	1,231	△ 25	
労働安全衛生関係経費	2,992	1,050	△ 1,942	
非常勤賃金職員	6,500	4,633	△ 1,867	
印刷製本費	1,140	752	△ 388	
各所修繕費	5,000	5,000	0	
一般改修費(施設整備費見合い)	10,000	10,000	0	
自動車維持費等	150	451	301	300
一般事務費	11,575	10,246	△ 1,329	
業務委託及び保守等経費	22,916	23,546	630	
光熱水料	37,851	37,534	△ 317	
燃料費(暖房用燃料代)	1,800	2,332	532	
通信運搬費	4,200	3,867	△ 333	
負担金(会費等)	500	1,028	528	
事務用電算機借料	4,958	4,958	0	
交際費	27	26	△ 1	
研修・事務連絡等旅費	1,700	1,659	△ 41	
認証評価経費	0	900	900	
支払い手数料	800	649	△ 151	
固定資産税	1,668	1,551	△ 117	
廃棄物処理・消火器更新	0	0	0	
営繕工事費	0	0	0	
小 計	115,033	111,413	△ 3,620	
その他				
校長裁量経費	5,000	5,000	0	
予備費	10,097	9,548	△ 549	
超過勤務手当	16,177	14,317	△ 1,860	
小 計	31,274	28,865	△ 2,409	
合 計	282,371	311,184	28,813	3,723

(出典：18.5.26 予算委員会資料)

資料10-2-①-6：予算委員会議事要旨（抜粋）

平成18年度第2回予算委員会議事要旨

日 時 平成18年5月26日（金） 16：07～17：45
 場 所 管理棟1階中会議室
 出席者 猪瀬委員長
 尾立委員（専攻科） 有坂（顕）委員（一般科）
 高島委員（機械工学科） 今成委員（電気情報工学科）
 笠原委員（電子制御工学科） 糸井委員（物質工学科）
 田中（好）教員（ものづくりセンター） 斉藤教員（共同センター）
 南芥教員（情報センター） 大嶋教員（図書情報センター）
 事務部長 総務課長
 陪席者：吉澤財務係長、露木財務係員

議 事

議事に先立ち、委員長より予算委員会規程第5条の規定により、各センターの長に出席頂いた旨の説明があった。

〔審議事項〕

1. 平成18年度予算について

18年度予算の審議に先立ち、総務課長より、資料に沿って、17年度決算について説明があり、質疑応答の後、同決算が了承された。

続いて、総務課長より、資料に沿って、18年度予算についての説明があり、質疑応答及び意見交換の後、審議を行い、原案通り了承された。

なお、在外（内地）研究等により本校を離れる場合や中途採用等で、4月1日に在職しない場合の教育研究実施経費の扱いについては、6ヶ月相当の在職期間をもって、一年分の研究費を予備費から措置することを申し合わせとした。

また、高島委員より、超過勤務手当の予算額については、削減額に係る納得できるデータが無いことを理由に了承できないという意見があり、意見交換を行った結果、超勤に係る予算額については努力目標とし、実質的に超過した場合については、予備費から出して運用していくことで、了承された。

（出典：18.5.26 予算委員会議事要旨）

資料10-2-①-7：運営会議議事要旨（抜粋）

第3回運営会議議事要旨

日 時 平成18年 6月14日（水）13：10～14：20
 場 所 校 長 室
 議 事

（審議事項）

4. 運営関係

1) 重点配分経費について

資料3

副校長から資料に沿って説明があり、種々意見が出され審議の結果、e-learningに係る申請の扱いについて資料中「5. 留意事項について」に新たに（6）として一行を加えて学内に通知することで了承された。なお、文言については、副校長に一任することで了承された。

2) 高専教育充実設備費について

資料4

副校長から資料に沿って説明があり了承された。

3) 平成18年度予算について

資料5

総務課長から資料に沿って説明があった。

（出典：18.6.14 運営会議議事要旨）

資料10-2-①-8：財務状況の明示

収入・支出額

平成18年度：2006

□収入額

(単位：千円)

区 分	決 算 額
運営費交付金	1,174,724
授業料及び入学検定料	265,907
雑収入	4,934
施設費交付事業費	39,207
産学連携等研究収入	7,190
寄附金収入	8,111
合 計	1,500,073

□支出額

(単位：千円)

区 分	決 算 額
人件費	1,140,116
物件費	305,450
施設費交付事業費	39,207
産学連携等研究経費	6,560
寄附金事業費	8,629
合 計	1,499,962

(出典：2007学校要覧p. 46)

(分析結果とその根拠理由)

各年度の予算に係る計画については、予算委員会が定めた方針に基づき、総務課(財務担当)で必要経費を積算し、予算委員会の承認を受けた後、校長に報告し了承を受けている。予算配分内容は、運営会議等を通じて教職員に明示している。また財務状況についても明示している。

観点10-2-②： 収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

(観点に係る状況)

高専機構理事長は、毎事業年度開始前に独立行政法人通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて予算実施計画を作成し、収入及び支出を管理しなければならない。また作成した予算実施計画に基づく予算額を各高専契約担当役及び出納命令役に通知するものとされている(資料10-2-②-1)。本校は、高専機構からの収支予算額以上の支出はできない構造となっており、収支は均衡している(資料10-2-②-2)。

資料10-2-②-1：高専機構会計規則抜粋(第17条・第18条)

第2章 予算

(予算実施計画の作成)

第17条 理事長は、毎事業年度開始前に通則法第31条第1項に定める年度計画に基づいて、予算実施計画を作成し、これに基づいて収入及び支出を管理しなければならない。

2 理事長は、機構の効率的、効果的な運営に常に配慮するものとする。

(予算実施計画の通知)

第18条 理事長は、前条で作成した予算実施計画に基づく予算額を契約担当役及び出納命令役に通知するものとする。

(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

資料10-2-②-2：平成18年度損益計算書（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

費用の部勘定科目表示名称	明細金額
業務費	1,408,516,152
教育・研究経費	205,065,230
消耗品費	66,062,169
備品費	15,776,228
印刷製本費	4,377,444
水道光熱費	30,822,389
旅費交通費	18,020,960
通信運搬費	7,014,948
賃借料	1,119,050
車両燃料費	1,068,322
福利厚生費	40,000
保守費	1,922,132
修繕費	30,206,465
広告宣伝費	42,840
行事費	1,012,332
諸会費	1,714,603
会議費	164,220
委託調査研究費	0
文献複写費	21,455
業務委託費	3,991,154
支払報酬	2,402,400
奨学費	7,976,400
減価償却費	8,090,969
雑費	3,218,750
教育研究支援経費	56,775,059
消耗品費	10,447,777
備品費	2,746,193
印刷製本費	968,688
水道光熱費	4,075,966
旅費交通費	1,244,440
通信運搬費	917,940
賃借料	6,789,938
車両燃料費	1,168,188
福利厚生費	0
保守費	1,272,178
修繕費	16,269,115
広告宣伝費	9,450
諸会費	60,000
業務委託費	132,398
支払報酬	0
減価償却費	9,689,470
雑費	983,318
受託研究費	2,000,000
共同研究費	4,413,000
受託事業費	146,880
教員人件費	755,669,914
職員人件費	384,446,069
一般管理費	73,343,225
消耗品費	5,208,706
備品費	242,900
印刷製本費	1,643,438
水道光熱費	2,945,763
旅費交通費	3,593,705
通信運搬費	1,374,103
賃借料	5,735,940
車両燃料費	73,438
福利厚生費	1,110,953
保守費	7,888,680
修繕費	12,621,053
損害保険料	38,550
広告宣伝費	954,765
諸会費	178,785
会議費	55,050
業務委託費	16,861,229
諸謝金	545,000
支払手数料	668,275
租税公課	1,638,850
減価償却費	2,890,998
雑費	7,073,044
費用の部合計	1,481,859,377
臨時損失	1,907,030
当期末処分利益	341,879
合 計	1,484,108,286

収益の部勘定科目表示名称	明細金額
[経常収益]運営費交付金収益	1,154,548,166
[経常収益]授業料収益	238,559,572
[授業料収益]授業料収益	238,291,172
[授業料収益]講習料収益	268,400
[経常収益]入学金収益	20,633,100
[経常収益]検定料収益	7,093,200
[経常収益]受託研究等収益	6,413,000
受託研究収益	2,000,000
国又は地方公共団体	0
その他	2,000,000
共同研究収益	4,413,000
国又は地方公共団体	0
その他	4,413,000
[経常収益]受託事業等収益	146,880
国又は地方公共団体	0
その他	146,880
[経常収益]補助金等収益	0
[経常収益]寄附金収益	9,153,409
[経常収益]施設費収益	20,316,428
[経常収益]資産見返負債戻入	22,577,567
資産見返運営費交付金等戻入	8,372,523
資産見返補助金等戻入	0
資産見返寄附金戻入	714,921
資産見返物品受贈額戻入	13,490,123
特許権仮勘定見返運営費交付金戻入	0
特許権仮勘定見返補助金等戻入	0
[経常収益]財務収益	0
受取利息	0
その他の財務収益	0
[経常収益]雑益	4,666,064
財産貸付料収入	4,665,224
文献複写料	0
物品受贈益	0
債権受贈益	0
承継剰余金債務戻入	0
間接経費収入	0
その他の雑益	840
収益の部合計	1,484,107,386
臨時利益	900
合 計	1,484,108,286

(出典：総務課財務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第18条に基づき通知された予算額を以て執行計画を策定し、収支はバランスの取れたものとなっており、過大な支出超過とはなっていない。

観点10-2-③： 学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

(観点に係る状況)

資料10-2-①-1（既出）に記載のとおり校内予算配分方針を定め、資料10-2-①-4（既出）及び資料10-2-①-5（既出）に記載のとおり教育研究活動に必要な経費を確保している。教育研究上特に必要とされる設備経費については、高専教育充実設備費を設け、予算委員会が配分に係るルールを定めて各学科及び各センターに必要な配分を行うとともにその用途については、学科及びセンター間で柔軟な対応がとれるようにしている(資料10-2-③-1)。また教育研究の活性化等を図る競争的な資金として重点配分経費及び校長裁量経費を設け、各学科及び教員等からの申請により教育研究上必要な予算の配分に努めている(資料10-2-③-2～4)。

また、施設・設備の整備については、環境整備委員会等において全学的に検討した後、予算要求すべきものは高専機構に要求し、計画的な整備に努めている。また、学内予算においても毎年一定の額を計上して施設・設備の維持に支障のないようにしている(資料10-2-③-5, 6)。

資料10-2-③-1：予算委員会議事要旨

平成18年度第3回予算委員会議事要旨

日時 平成18年6月6日(火) 15:05～16:55
 場所 管理棟1階中会議室
 出席者 猪瀬委員長
 尾立委員(専攻科) 有坂(顕)委員(一般科)
 高島委員(機械工学科) 小林教員(電気情報工学科) 今成委員代理
 笠原委員(電子制御工学科) 糸井委員(物質工学科)
 田中(好)教員(ものづくりセンター) 斉藤教員(共同センター)
 南斉教員(情報センター) 大嶋教員(図書情報センター)
 事務部長 総務課長
 陪席者：吉澤財務係長、露木財務係員

議 事

〔審議事項〕

1. 高等教育充実設備費について

委員長より、資料(委員長試案)に沿って説明があり、審議の結果、平成18年度以降の高専教育充実設備費については次のように扱うことを委員会の共通理解とした。

- ① 6学科と4センターのローテーションを別に考える。また、センターへの措置については、共同購入等柔軟な対応を図ることにより、より効果的な運用が可能となるよう調整ができるものとする。
- ② 原則として機構から配分された予算額の範囲内で配分することとし、予算額に大幅な変動が無い限り、毎年2学科及び1センターへの3件を措置することを目安とする。
- ③ 1件当たりの配分額は、学科に■■■■万円、センターに■■■■万円を目安とする。ただし、18年度的一般科への配分については、従来のローテーションの残り分として、■■■■万円を配分する。
- ④ 本経費で購入した設備については、全校共同利用設備として位置付け、共同利用が可能であることを明文化するとともに、既存の設備についても掲示板等を利用して公表し、共同利用について周知する。
- ⑤ ローテーションの順番は次のとおりとし、必要に応じて見直しを行う。

平成18年度・一般科	・建築学科	・ものづくり教育研究センター
平成19年度・機械工学科	・電気情報工学科	・情報科学教育研究センター
平成20年度・物質工学科	・電子制御工学科	・図書情報センター
平成21年度・一般科	・建築学科	・地域共同開発センター

2. 重点配分経費について

総務課長より、資料に沿って説明があり、18年度についても、17年度と同じ内容で実施することとした。

また、南斉教員より、e-learningを積極的に進めていくためにも、重点配分経費の中にe-learningに関する経費枠を設けて欲しい旨の要望があったが、学校プロジェクトと教育企画の枠で募集をお願いすることとなった。

〔その他〕

高島委員より、企業との共同研究(費用を学校と企業で折半)に対する費用の支出を予算委員会として考えることができないかとの質問があった。

糸井委員より、病休等により4月1日時点で勤務していない教員については、研究費の積算がされていないが、当該教員が指導していた学生(専攻科生)への指導費(物品費)について、別途の措置が考えられるかどうかという質問があり、意見交換を行った結果、学生の員数は学生支援経費に積算され配分されており、別途の措置は行わず、学科に配分された教育研究経費全体で運用願うことを確認した

(出典：総務課財務係資料)

資料10-2-③-2：校長裁量経費及び重点配分経費の計画

平成18年度 校長裁量経費及び重点配分経費の計画

1. 基本的考え

平成18年度の校長裁量経費及び重点配分経費については、校長裁量経費500万に、教育改善充実費(旧校長裁量経費)650万を加えた1,150万を原資とし、次の考えに基づき実施する。

- (1) 予算額は、校長裁量経費へ350万、重点配分経費へ800万を基準とする。
- (2) 中期目標・中期計画、年度計画に即した企画やプロジェクトを推進・支援する。
- (3) 中期計画期間の評価、年度評価、機関別認証評価などにおいて学校をアピールできる内容を重視する。

2. 校長裁量経費について

校長裁量経費については、昨年度に引き続き、学校として取り組むロボコンやアイコンなどのプロジェクト、学生の教育環境の整備及び地域貢献活動の支援や入学者の確保に資するプロジェクトなど、学校として取り組むべき企画を校長指定プロジェクトとして実施する。

3. 重点配分経費について

重点配分経費は、昨年度に引き続き次の3区分とし、公募によることを原則とする。また、1件への配分額も昨年と同規模とする。

(1) 学校プロジェクト(50万～100万/件)

- ① 学科、センター、委員会及び室(複数を含む。)で企画したプロジェクト又は2名以上の共同研究、共同教育プロジェクトで、本校の中期計画に沿った企画
- ② 評価項目及び評点は次のとおり。
 - ・プロジェクトの必要性・重要性(0～4)
 - ・プロジェクトの計画性(0～2)
 - ・期待される成果・効果(0～2)
 - ・中期計画との整合性・関連性(0～2)

(2) 教育企画(20万～50万/件)

- ① 個人又は複数の教職員による教育方法の改善や教材開発などを内容とする教育上の企画及び他機関との共同教育事業など、本校の教育改革の一助となるような教育企画とし、1人の申請件数は1件を限度とする。
- ② 評価項目及び評点は次のとおり。
 - ・企画の必要性・重要性(0～4)
 - ・企画の計画性(0～2)
 - ・期待される成果・効果(0～2)
 - ・本企画を実施することによる学校への貢献度(0～2)

(3) 教職員研究経費(30万～50万/件)

- ① 個人又は複数の教職員による研究とし、1人の申請件数は1件を限度とする。
- ② 評価項目及び評点は次のとおり。
 - ・研究の重要性(0～2)
 - ・研究の計画性(0～2)
 - ・同テーマに対する研究への取組状況(0～2) ※過去5年の主な発表状況を含む。
 - ・学校への貢献度(0～4)

4. 審査について

(1) 校長裁量経費については、校長が採否を決定する。

(2) 重点配分経費について

- ① 審査委員は、校長、副校長、校長補佐、専攻科長の6名とする。
- ② 審査方法は、申請書類内容の評価及びヒアリングの評価結果により、採否を決定する。

5. 留意事項について

- (1) 重点配分経費における一人の申請件数は、全体で2件を限度とする。
- (2) 申請された課題についてヒアリングを行う。
- (3) 教職員研究経費の課題に関し、科研費等外部資金獲得に努力する。
- (4) 採択された本課題について、成果発表会を実施する。50万円以上の配分を受けたプロジェクトについては、義務とする。
- (5) 配分を受けた本課題については、企画終了後速やかに、実施報告書(プロジェクトの目的内容、実施経過等の概要(600字程度)、得られた成果、成果の今後における活用予定及び予想される効果、成果の発表等、実際に要した経費などを内容とする。)を提出する。
- (6) 本年度は、e-learning教材作成に関する申請については、以下のように制限を緩和する。
 - ・教育企画1人1件の制限を超えても受理する。
 - ・教育企画20万円以下の申請も可とする。
 - ・複数の企画をまとめ、学校プロジェクト区分での採択もあり得ることとする。

以上

(出典：18.6.12総務会議資料)

資料10-2-③-3：重点配分経費

平成18年度重点配分採択者一覧

予算額：8,000千円

区分	No.	学科等	職名	申請者	配分額 (千円)	課 題
				共同研究者等		
学校プロジェクト	1	一般	講師		650	TOEIC400点を目標としたE-ラーニングシステム
小計					650	
教育企画	2	機械	助教授		221	Moodleを利用したe-learningサーバの構築および評価
"	3	機械	助教授		450	五感を通して"安全作業"を指導するマルチメディア教材の開発・実践
"	4	機械	助教授		347	機械工学への導入教育を目的とした「頭を使いながら学ぶ実技教材の開発」
"	5	電気情報	講師		376	ものづくり授業における遠隔操作式飛行船教材の開発
"	6	電気情報	助手		351	ヒューマノイドロボットバトル大会への出場
"	7	電子	講師		444	ロボットキットを用いるハードウェア制御プログラミング技術者の養成
"	8	物質	助手		252	物質工学科e-learning導入のための教材作成
"	9	建築	助教授		270	建築材料用ビジュアル教材の充実
"	10	一般	助教授		450	読書活動推進による読解力及び表現力の向上プログラム
"	11	一般	講師		450	TOEICをはじめとした教育改善を目指した統計処理システム
小計					3,611	
教職員研究経費	12	機械	助教授		355	自動車両モデルにおけるカオス振動と制御に関する研究
"	13	機械	助教授		240	V-A型小型ACVの設計と製作
"	14	電気情報	教授		384	オプトエレクトロニクス分野における新透明導電性薄膜の開発に関する基礎研究
"	15	電気情報	助教授		240	1/fゆらぎ音が生体に及ぼす影響に関する研究
"	16	電気情報	助教授		400	e-learningに利用できる力覚デバイスに関する研究
"	17	電気情報	助手		392	超音波スマートICカードシステムの実用化に関する研究
"	18	物質	助教授		342	接種法によるアミノ酸誘導体の光学分割
"	19	物質	助教授		288	電気学手法による熔融塩薄膜下における耐食性被覆材の評価
"	20	物質	助手		289	エンドトキシンのアパタイトへの吸着実験
"	21	建築	助教授		387	学社融合教育を目指した小学校建築の現状に関する研究
"	22	一般	講師		400	高温環境が長時間運動時の生体負担度に及ぼす影響-涼環境との比較から-
小計					3,717	
22件 合計					7,978	

(出典：グループウェア掲示板)

資料10-2-③-4：校長裁量経費

平成18年度 校長裁量経費採択一覧

予算額：3,500千円

No.	申請者	申請額	課 題	決定額	備 考
1		600	プログラミングコンテスト全国大会参加課題作成	500	
2		400	夏休みジュニア科学リーグ遂行のための緊急補助	350	
3		200	デザコン等における学生課外創造活動の支援	200	
4		400	第4回校内アイデアコンテストに関わる運営経費	350	
5		512	地域貢献活動（地域連携室）	512	
6		900	寮内無線LAN設備の更新	630	
7		84	平成18年度プログラムコンテスト（競技部門）に対する支援	84	
8		420	ロボコン2006におけるロボット制作	370	
9		500	学習単位科目を支援するための資料収集	500	
	合 計	4,016		3,496	

※ 残額4千円は、予備費へ繰り入れる。

※ No.9の課題は、当初、重点配分経費の学校プロジェクトで申請されたものであるが、重点配分経費審査委員会で検討した結果、校長裁量経費により措置することとしたものである。そのために、校長裁量経費申請書は7月28日付けとなっている。

（出典：総務課財務係資料）

資料10-2-③-5：施設整備の状況

〔近年の主な施設整備〕

年度/区分	教育・研究施設	福利厚生・課外活動	安全管理	管理施設・その他
平成12年度	・専攻科棟新営工事 (3,139㎡) ・実習工場屋外トイレ設置	・野球場防球ネット改修 ・部室用プレハブ設置(8棟)		・さく井工事
平成13年度	・校舎改修工事(2,200㎡) 管理・電物・図書館棟 ・高速LAN整備工事	・野球場屋外トイレ設置 ・図書館国際交流室設置	・正門改修工事 ・ソーラー外灯設置	・構内携帯電話整備 (PHS化)
平成14年度	・校舎改修工事(3,390㎡) 機械・建築・講義・電子棟 ・情報センター内部改修 ・情報センター渡り廊下 ・実習工場内部改修	・構内環境整備(噴水庭園改修) ・ロボコン製作用 プレハブ設置(2棟) ・北寮学習室改修 ・南寮防水改修	・スロープ設置(8棟)	
平成15年度	・校舎改修工事(2,220㎡) 電物棟		・守衛所新営工事 ・防災設備等移設 ・局所排気装置・ 特殊ガス設備等整備	・外来者休憩所取設
平成16年度	・図書館他照明器具改修 ・建築棟3階空調機設置	・一般食堂・情報センター防水改修 ・第一・第二体育館・ 合宿所トイレ改修 ・トイレ暖房便座設置	・実習工場排気装置 改修他安全対策	・建築棟前井戸改修
平成17年度	・武道館屋根改修 ・第二体育館軒樋・ 屋根塗装改修	・西寮防水改修	・外灯更新工事 ・正門前投光器設置	・一般食堂給湯 ボイラー更新

資料10-2-③-5 (続き)

平成18年度	・視聴覚室空調改修 ・水泳プール改修		・実習工場耐震改修 ・第一体育館耐震改修 ・水泳プール侵入 防止柵設置	
--------	-----------------------	--	--	--

〔主な整備計画〕

年度/区分	教育・研究施設	福利厚生・課外活動	安全管理	管理施設・その他
平成19年度	・北寮棟耐震改修 ・第二体育館耐震改修 ・機械棟防水改修	・学生用駐輪場増設 ・学生用駐輪場改築	・第二体育館耐震改修	・合併処理槽改修-1
平成20年度	・校舎改修工事（建築棟） ・地域連携テクノセンター 増築・改修 ・一般食堂改修・増築	・合宿所改修	・一般食堂耐震改修 ・建築材料構造 実験室耐震改修	・合併処理槽改修-2

(出典：総務課施設係資料)

資料10-2-③-6：設備整備の状況

(高専教育充実設備費)	
平成18年度	・E-learningシステム（一般） ・サステイナブルな建築環境構築のための実験装置（建築） ・精密旋盤一式（ものづくりセンター）
平成17年度	・ポータブル近赤外分光分析計（共同センター） ・NMRデータシステム（物質） ・ネットワークセキュリティ実験装置（電子制御）
平成16年度	・脳波計（電気情報） ・微細加工装置（機械）
平成15年度	・構造力学実験装置（建築） ・AE信号計測システム（情報センター）
平成14年度	・教育用CAMシステム（実習工場） ・図書館用移動書架（図書館）
平成13年度	・ベルト駆動制御実験装置（電子制御） ・多チャンネル波形解析装置（一般）
平成12年度	・物質工学科実験研究室環境改善システム（物質） ・電気化学測定システム（安全センター）
(理工系教育高度化設備費)	
平成14年度	・マルチメディア教育支援システム（一般）

(出典：総務課財務係資料)

(分析結果とその根拠理由)

予算配分の方針及び配分内容は予算委員会で審議決定されている。また、高専教育充実設備費、重点配分経費及び校長裁量経費の学内採択経費を設けることにより柔軟な予算執行を行っている。

施設・設備の整備については、環境整備委員会等において全学的な見地から検討することにしており、経費の効率的な配分に努めている。

観点10-3-①： 学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

(観点に係る状況)

高専機構として統一された財務会計システムに基づき財務会計処理を行っており、高専機構理事長は、年度末決算後に決算整理を行ない、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表している(資料10-3-①-1~3)。

資料10-3-①-1：高専機構会計規則抜粋（第44条）

(年度末決算)

第44条 年度末決算に際しては、当該年度末における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するための各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定しなければならない。

2 理事長は、前項の整理を行った後、翌事業年度5月末日までに次の各号に掲げる書類を作成しなければならない。

- 一 貸借対照表
- 二 損益計算書
- 三 キャッシュ・フロー計算書
- 四 利益の処分又は損失の処理に関する書類
- 五 行政サービス実施コスト計算書
- 六 附属明細書

3 前項各号の書類の様式は、別に定めるものとする。

(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

資料10-3-①-2：独立行政法人通則法抜粋（第38条）

(財務諸表等)

第三十八条 独立行政法人は、毎事業年度、貸借対照表、損益計算書、利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し、当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し、その承認を受けなければならない。

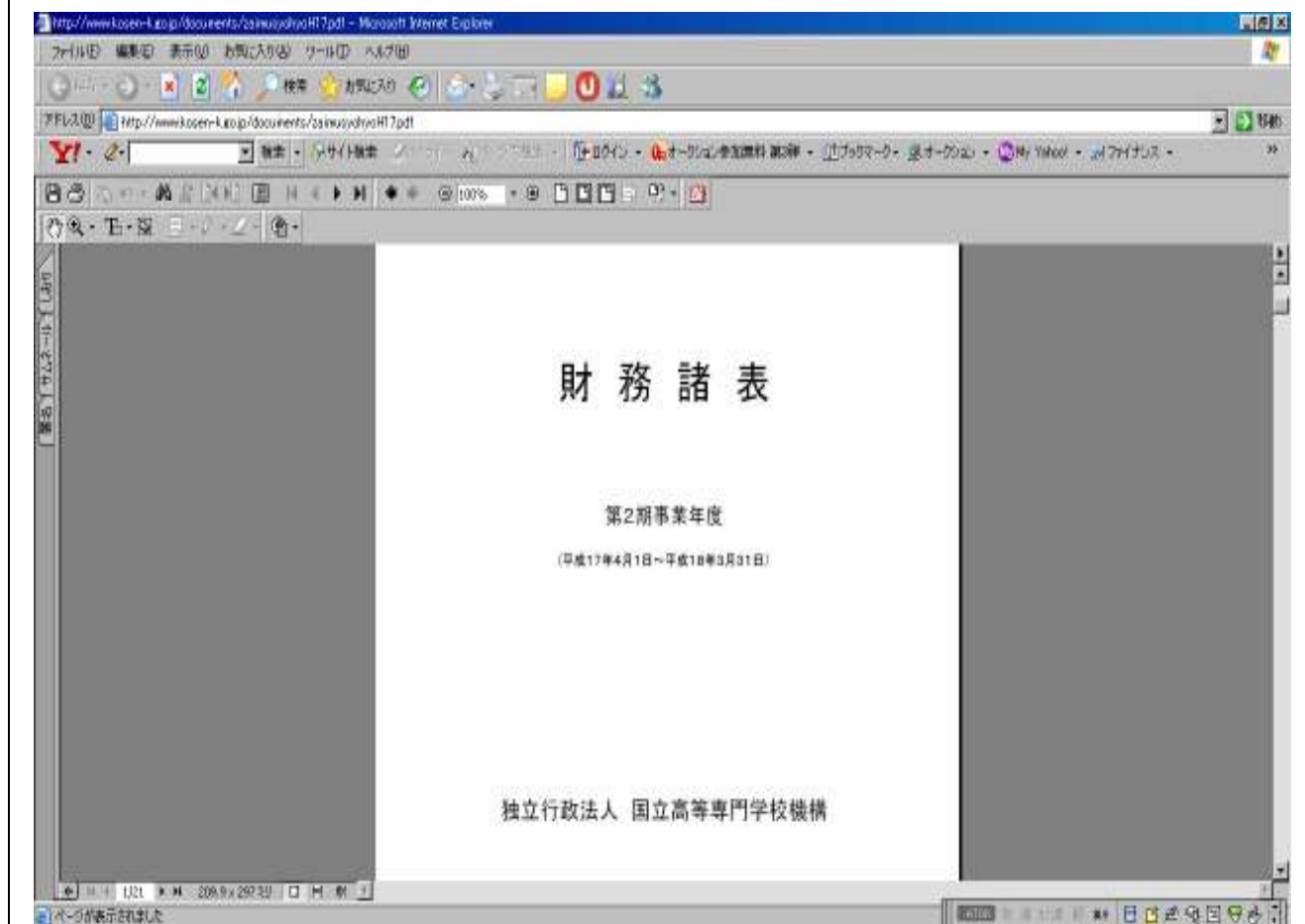
2 独立行政法人は、前項の規定により財務諸表を主務大臣に提出するときは、これに当該事業年度の事業報告書及び予算の区分に従い作成した決算報告書を添え、並びに財務諸表及び決算報告書に関する監事の意見（次条の規定により会計監査人の監査を受けなければならない独立行政法人にあっては、監事及び会計監査人の意見。以下同じ。）を付けなければならない。

3 主務大臣は、第一項の規定により財務諸表を承認しようとするときは、あらかじめ、評価委員会の意見を聴かなければならない。

4 独立行政法人は、第一項の規定による主務大臣の承認を受けたときは、遅滞なく、財務諸表を官報に公告し、かつ、財務諸表並びに第二項の事業報告書、決算報告書及び監事の意見を記載した書面を、各事務所に備えて置き、主務省令で定める期間、一般の閲覧に供しなければならない。

(出典：独立行政法人通則法 平成11年法律第103号)

資料 10-3-①-3 : 国立高等専門学校機構財務諸表 (ホームページでの公表)



(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

高専機構会計規則第44条に基づき、当該年度における資産・負債の残高並びに当該期間における損益に関し真正な数値を把握するため各帳簿の締め切りを行い、資産の評価、債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行って、所定の手続きに従って決算数値を確定している。また高専機構理事長は、翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表している。

観点10-3-②： 財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

(観点に係る状況)

独立行政法人通則法第39条に基づき、監事による監査及び会計監査人による監査が明確に規定されているとともに(資料10-3-②-1)、高専機構会計規則第45条に基づき、会計機関の義務及び責任並びに内部監査を明確に規定している(資料10-3-②-2, 3)。外部監査として、会計検査院による会計実地検査及び監査法人による監査が予定されている。

資料10-3-②-1：独立行政法人通則法抜粋（第39条～第43条）

(会計監査人の監査)

第三十九条 独立行政法人（その資本の額その他の経営の規模が政令で定める基準に達しない独立行政法人を除く。）は、財務諸表、事業報告書（会計に関する部分に限る。）及び決算報告書について、監事の監査のほか、会計監査人の監査を受けなければならない。

(会計監査人の選任)

第四十条 会計監査人は、主務大臣が選任する。

(会計監査人の資格)

第四十一条 会計監査人は、公認会計士（公認会計士法（昭和二十三年法律第百三号）第十六条の二第五項に規定する外国公認会計士を含む。）又は監査法人でなければならない。

2 公認会計士法の規定により、財務諸表について監査をすることができない者は、会計監査人となることができない。

(会計監査人の任期)

第四十二条 会計監査人の任期は、その選任の日以後最初に終了する事業年度の財務諸表についての主務大臣の第三十八条第一項の承認の時までとする。

(会計監査人の解任)

第四十三条 主務大臣は、会計監査人が次の各号の一に該当するときは、その会計監査人を解任することができる。

- 一 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき。
- 二 会計監査人たるにふさわしくない非行があったとき。
- 三 心身の故障のため、職務の遂行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

(出典：独立行政法人通則法 平成11年法律第103号)

資料10-3-②-2：高専機構会計規則抜粋（第45条・第46条）

(内部監査)

第45条 理事長は、予算の執行及び会計処理の適正を期するため、必要と認めるときは、特に命令した教職員に内部監査を行わせるものとする。

2 内部監査について必要な事項は、別に定めるものとする。

(会計機関の義務及び責任)

第46条 会計機関は、機構の財務及び会計に関し、適用又は準用される法令並びにこの規則に準拠し、かつ、予算で定めるところに従い善良な管理者の注意をもって、その職務を行わなければならない。

2 会計機関は、故意又は重大な過失により前項の規定に違反して、機構に損害を与えた場合は、その損害を弁償する責を負わなければならない。

(出典：独立行政法人国立高等専門学校機構規則第34号)

資料10-3-②-3：内部会計監査実施規程

小山工業高等専門学校内部会計監査実施規程

制 定 平成 16 年 4 月 1 日

最終改正 平成 18 年 4 月 1 日

(目的)

第1条 この規程は、独立行政法人国立高等専門学校機構会計規則（平成16年規則第34号）第45条の規定に基づき、本校における会計事務処理の適正を期するため、内部会計監査（以下「監査」という。）について、必要な事項を定めることを目的とする。

(監査事項)

第2条 監査は、会計経理に関し次の各号に掲げる事項について実地に行うものとする。

- 一 会計経理に関する法令等の適用に関する事項
- 二 予算決算に関する事項
- 三 収入支出に関する事項
- 四 債権に関する事項
- 五 物品に関する事項
- 六 不動産に関する事項
- 七 契約に関する事項
- 八 旅費に関する事項
- 九 寄附金に関する事項
- 十 帳簿及び証拠書類に関する事項
- 十一 その他校長が必要と認める事項

(監査員)

第3条 校長は、監査を実施するため総務課(財務担当)職員のうちから監査員を命ずるものとする。ただし、必要があると認めるときは、総務課(財務担当)職員以外の職員に監査員を命ずることができる。

(監査の時期)

第4条 定期監査は、毎会計年度1回実施するものとし、特に必要があるときは、臨時に監査を実施することができる。

(監査の実施)

第5条 校長は、監査を実施しようとするときは、あらかじめ実施しようとする部局に対し、その期日及び監査を行う監査員その他必要な事項を通知するものとする。

(監査員の責務)

第6条 監査員は、公正かつ厳正に監査に当たらなければならない。

- 2 監査員は、監査の実施に伴い、必要があるときは、関係者に説明を求め、かつ、調書等の提出を求めることができる。

(監査報告)

第7条 監査員は、監査が終了したときは速やかに別紙様式による内部会計監査報告書を校長に提出しなければならない。

(是正改善の措置)

第8条 校長は、監査の結果会計経理に関し、是正改善を必要とする事項があるときは、直ちにその措置をとるものとする。

附 則

この規程は、平成16年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：小山高専規程)

(分析結果とその根拠理由)

財務に対する監査は、独立行政法人通則法及び高専機構会計規則に明確に定められている。高専機構における監事及び特に命令された教職員による内部監査、監査法人及び会計検査院による外部監査を受けることになっている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

予算の配分に関して予算配分方針を作成し、適切に予算の配分を行うとともに高専教育充実設備費、重点配分経費及び校長裁量経費の学内採択経費を設けることにより、教育研究上必要な予算を重点的に配分できるよう柔軟な予算執行を行っている。

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準10の自己評価の概要

本校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するために必要な校地・校舎・設備の資産を有するとともに、授業料、入学検定料、入学料及び高専機構からの運営費交付金の配分予算等から経常的な収入が確保されている。科学研究費補助金、受託研究費、共同研究費及び奨学寄附金等外部資金の受入れにも努力している。

予算配分方針を作成し、適切に予算の配分を行っている。また、高専教育充実設備費、重点配分経費及び校長裁量経費の学内採択経費を設けることにより、教育研究上必要な予算を重点的に配分するよう努めている。

本校では当該年度における資産・負債の残高並びに損益に関し、資産の評価及び債権・債務の整理、その他決算整理を的確に行い、所定の手続きに従って高専機構に報告している。高専機構理事長は、それに基づき翌事業年度5月末日までに財務諸表を作成し、公表している。

財務に対する監査は独立行政法人通則法及び高専機構会計規則等に明確に定められている。

基準11 管理運営

(1) 観点ごとの分析

観点11-1-①： 学校の目的を達成するために、校長、各主事、委員会等の役割が明確になっており、校長のリーダーシップの下で、効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

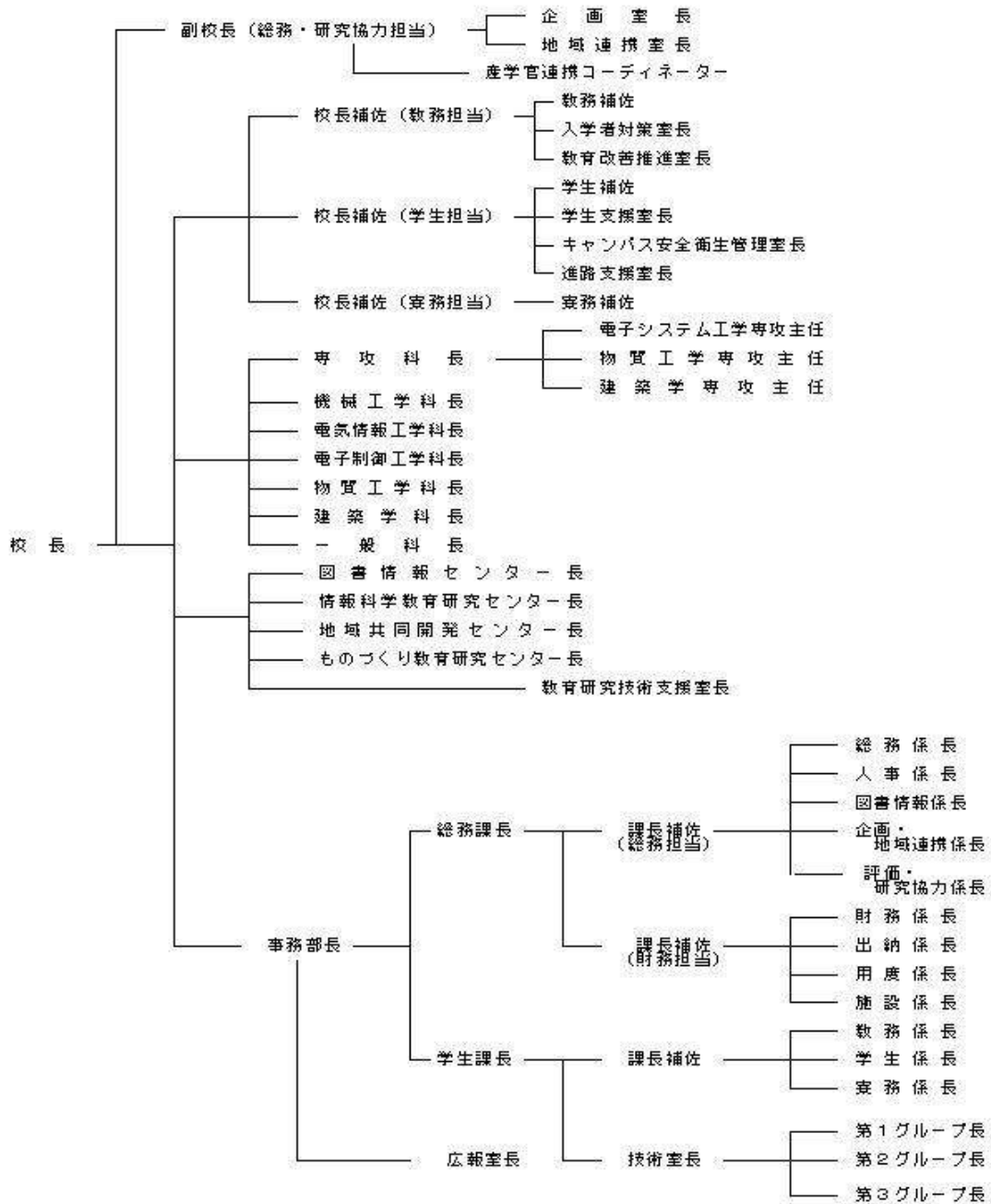
(観点到係る状況)

本校では、学則第1条に規定する本校の目的を達成するため、校長、副校長（総務・研究協力担当）、校長補佐3名（教務担当、学生担当、寮務担当）、事務部長及び課長2名による管理運営体制を敷き、その意思決定が効果的に行えるよう管理運営に関する主要な校務を処理する各委員会及び会議等の内部組織を定め、各組織の役割を明確にしている（資料11-1-①-1, 2）。

また、本校の重要な意思決定は運営会議での議を経て行われている（資料11-1-①-3, 4）。構成は校長、副校長、校長補佐3名、専攻科長、一般科長2名、学科長5名、センター長4名、地域連携室長、事務部長、課長2名及び技術室長の各部署の責任者から成る。運営会議では各委員会及び会議等において纏められた審議事項及び提案事項が諮られ、主宰者である校長が最終判断を行える態勢となっている（資料11-1-①-5）。

資料 11-1-①-1 : 小山工業高等専門学校運営組織図

組織図



(出典：2007 学校要覧 p. 4)

資料 11-1-①-2 : 委員会等一覧				
名称	設置の目的・趣旨	審議事項	委員長等	委員
総務会議	学校の運営に関する協議を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の運営に関する協議、連絡調整に関すること ・運営会議に付議する議題の整理に関すること 	校長 (招集、主宰)	<ul style="list-style-type: none"> ・副校長 ・各校長補佐 ・専攻科長 ・事務部長 ・各課長
運営会議	学校の運営に関する審議を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の運営組織の設置・廃止に関する事項 ・他の運営組織の所管に属さない事項 ・校務運営上重要でかつ連絡・調整を要する事項 	校長 (招集、主宰)	<ul style="list-style-type: none"> ・副校長 ・各校長補佐・専攻科長 ・学科長、一般科長 ・各センター長・地域連携室長 ・事務部長・課長・技術室長
教職員会議	学内運営に係る報告等を行う	<ul style="list-style-type: none"> ・学内運営に関すること 	校長(招集) 副校長(議長)	<ul style="list-style-type: none"> ・教員 ・事務部長 ・課長、技術室長 ・専門職員、係長 ・技術室グループ長
教務委員会	教務に関する事項を円滑に処理する	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成及び改廃に関すること ・授業時間割の編成に関すること ・学校の行事に関すること ・その他教務に関すること 	校長補佐 (教)	<ul style="list-style-type: none"> ・教務補佐 ・各学科教員から各1名 ・一般科教員2名 ・学生課長 ・教務係長 ・校長が必要と認めた者
学生委員会	学生の厚生補導に関する事項を円滑に処理する	<ul style="list-style-type: none"> ・学生の身上に関すること ・学生会及び学生団体に関すること ・その他学生の厚生補導に関すること 	校長補佐 (学)	<ul style="list-style-type: none"> ・学生補佐 ・各学科教員1名 ・一般科教員2名 ・学生課長 ・学生係長 ・校長が必要と認めた者
寮務委員会	学寮における学生の厚生補導に関する事項を円滑に処理する	<ul style="list-style-type: none"> ・入寮及び退寮に関すること ・寮生の教育及び生活指導に関すること ・その他学寮の管理運営に関すること 	校長補佐 (寮)	<ul style="list-style-type: none"> ・寮務補佐 ・各学科教員1名 ・一般科教員2名 ・校長が必要と認めた者

資料 11-1-①-2 (続き)				
専攻科委員会	専攻科に関する基本的な事項の円滑な運営を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の編成及び実施に関すること ・教育計画及び授業時間の編成に関すること ・その他専攻科の運営に関すること 	専攻科長	<ul style="list-style-type: none"> ・各校長補佐 ・各専攻主任 ・各学科、一般科教員各1名 ・学生課長
図書情報センター運営委員会	図書情報センターの円滑な管理運営及び著作権に関する諸問題を処理する	<ul style="list-style-type: none"> ・図書情報センターの管理運営に関すること ・資料の選定に関すること ・その他図書に関すること 	図書情報センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科教員から各1名 ・一般科教員2名 ・総務課長 ・校長が必要と認めた者
情報科学教育研究センター運営委員会	センターの管理運営に関する事項を審議する	<ul style="list-style-type: none"> ・情報センター及び情報ネットワークの管理運営に関わる基本方針及び長期計画に関すること ・その他情報センター及び情報ネットワークについての重要事項に関すること 	情報科学教育研究センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報科学教育研究センターネットワーク室長 ・各学科専任教員から各1名 ・学生課長・技術室長 ・情報担当専門職員 ・校長が必要と認めた者
地域共同開発センター運営委員会	センターの運営に関する重要事項を審議する	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの管理運営の基本方針に関すること ・その他センター長が必要と認めること 	地域共同開発センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科専任教員各1名 ・技術室長 ・技術室第3グループ長 ・学生課長
ものづくり教育研究センター運営委員会	センターの運営に関する重要事項を審議する	<ul style="list-style-type: none"> ・センターの管理運営・利用計画に関すること ・その他センターについての重要事項に関すること 	ものづくり教育研究センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・各学科専任教員各1名 ・技術室長 ・技術室第1グループ長 ・学生課長
環境整備委員会	教育研究環境の保全と向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・長期的視野に立った環境の整備及び施設の運営に関すること ・施設の点検・評価及び有効利用に関すること ・その他環境整備に関すること 	副校長	<ul style="list-style-type: none"> ・各校長補佐 ・各学科、一般科教員1名 ・体育教員1名 ・事務部長・各課長 ・校長が必要と認めた者
国際交流委員会	国際交流に関する重要事項を審議する	国際交流に関する重要事項	校長	<ul style="list-style-type: none"> ・各校長補佐・専攻科長 ・各学科長、一般科長 ・留学生指導教員 ・事務部長・各課長 ・委員長が必要と認めた者

資料 11-1-①-2 (続き)				
安全衛生委員会	安全及び衛生に関する重要事項について、教職員の意見を聴取し、災害及び健康障害の防止対策に関する諸施策をより効果的なものにする	<ul style="list-style-type: none"> ・労働災害防止対策に関すること ・教職員の健康障害の防止及び健康保持増進対策に関すること ・その他災害防止上、特に重要な事項 	総括安全衛生管理者	<ul style="list-style-type: none"> ・安全推進者 ・衛生管理者 ・産業医 ・総括安全衛生管理者が指名した者
人事委員会	教職員の採用及び配置計画等を円滑に進める	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の採用に係る基本方針に関すること ・人事評価の方針・基準に関すること 	副校長	<ul style="list-style-type: none"> ・教員若干名 ・事務部長・総務課長 ・校長が必要と認めた者
予算委員会	業務の適性・効率的な実施を図り、財政状態・運営状況を明らかにする	<ul style="list-style-type: none"> ・予算実施計画に関すること ・決算報告に関すること ・その他財務に関すること 	副校長	<ul style="list-style-type: none"> ・専攻科、各学科及び一般科教員各1名 ・校長が必要と認めた者
教育研究支援委員会	本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、地域社会からの要請に応える	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員・学生の海外派遣に関すること ・共同研究の受け入れに関すること ・その他 	副校長	<ul style="list-style-type: none"> ・教員若干名 ・各センター長 ・地域連携室長 ・専門委員会委員長 ・総務課長・技術室長 ・校長が必要と認めた者
発明専門委員会	教育・研究の成果を迅速に権利化し、その果実を最大限活用する	<ul style="list-style-type: none"> ・届け出のあった発明の権利の帰属に関すること ・取得した特許等の活用に関すること ・その他発明に関し必要となる事項 	地域共同開発センター長	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室長 ・各学科、一般科教員から各1名 ・総務課長 ・校長が必要と認めた者
JABEE 専門委員会	JABEE の技術者教育プログラムの認定を得るために必要な施策について専門的に審議する	<ul style="list-style-type: none"> ・プログラムの作成及びカリキュラムに関すること ・その他プログラムの認定に関すること 	委員から校長が任命	<ul style="list-style-type: none"> ・校長が必要と認めた教員若干名 ・校長が必要と認めた職員
情報安全管理等委員会	本校における情報セキュリティポリシーを確立する	<ul style="list-style-type: none"> ・情報安全管理等の組織体制の整備に関すること ・情報安全管理等の運用および管理に関すること ・その他情報安全管理等策定に必要な事項に関すること 	校長	<ul style="list-style-type: none"> ・情報科学教育研究センター長 ・情報ネットワーク室長 ・情報ネットワーク室主任 ・支線管理者 ・各課長 ・情報担当専門職員

資料 11-1-①-2 (続き)

<p>機関評価 対応 委員会</p>	<p>大学評価・学位授与機構 の機関別認証評価及び JABEE の認定審査等に 対応する</p>	<p>・認証評価を得るために必要となる施 策に関すること ・JABEE 技術者教育プログラムの認 定を得るのに必要な施策に関するこ と ・外部評価・第三者評価に関すること</p>	<p>委員から 校長が任命</p>	<p>・校長が必要と認めた教員若干名 ・事務部長 ・各課長</p>
<p>機関別認 証評価 専門委員 会</p>	<p>認証評価を得るために必 要な施策に関する事項 について専門的に審議 する</p>	<p>・認証評価に必要な資料作成及び申 請手続きに関すること ・その他認証評価に関すること</p>	<p>委員から 校長が任命</p>	<p>・校長が必要と認めた教員 若干名 ・校長が必要と認めた職員</p>

(出典：平成 19 年小山高専自己点検評価報告書)

資料 11-1-①-3 : 小山工業高等専門学校運営会議規程

小山工業高等専門学校運営会議規程

制 定 昭和56年4月1日

最終改正 平成18年4月1日

(審議事項)

第1条 小山工業高等専門学校運営会議（以下「運営会議」という。）は、校長の諮問建議機関として次の各号に掲げる事項を審議する。

- 一 学校の運営組織の設置・廃止に関する事項
- 二 他の運営組織の所管に属さない事項
- 三 校務運営上重要でかつ連絡・調整を要する事項

(組織)

第2条 運営会議は、次の各号に掲げる者をもって組織する。

- 一 副校長
- 二 校長補佐（教務担当）、校長補佐（学生担当）及び校長補佐（寮務担当）
- 三 専攻科長
- 四 学科長及び一般科長
- 五 図書情報センター長
- 六 情報科学教育研究センター長
- 七 地域共同開発センター長
- 八 ものづくり教育研究センター長
- 九 地域連携室長
- 十 事務部長
- 十一 総務課長及び学生課長
- 十二 技術室長

(会議)

第3条 運営会議は、校長が招集し、主宰する。

- 2 運営会議は、原則として毎月1回開催するものとする。ただし、必要に応じて臨時に開催することができる。
- 3 校長が必要と認めるときは、関係職員の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事務)

第4条 運営会議に関する事務は、総務課総務係が処理する。

附則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 11-1-①-4 : 小山高専学内会議の改善について

「小山高専学内会議の改善について」

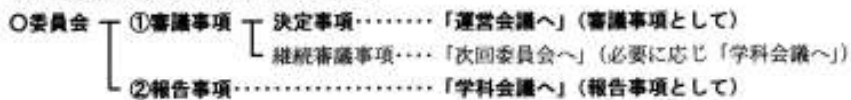
■ 学内会議の在り方と議事報告の改善理由

1. 運営会議(最高議決機関)、委員会・室会議および教職員会議(報告会)の棲み分けの明確化。
2. 各会議の議事報告のオーバーラップの解消。(色々な場と同じ議事内容が報告されている)
3. 各会議の議事報告担当者の明確化。
4. 教職員会議の開催意味の明確化。(H.15 年度末の学内組織再編計画時、運営会議にて「教職員会議は必要に応じ開催」と確認されたが、H.16 年度は従来と同様「定期開催」となってしまった。)

■ 学内会議の在り方と議事報告について

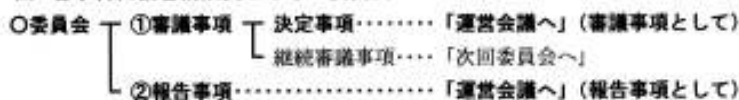
1. 委員会

(1) 各学科代表を構成員とする委員会



「教務委員会」「学生委員会」「寮務委員会」「専攻科委員会」「図書情報センター運営委員会」
 「技術者教育プログラム検討委員会」「情報科学教育研究センター運営委員会」「安全衛生委員会」
 「地域共同開発センター運営委員会」「ものづくり教育研究センター委員会」「環境整備委員会」
 「予算委員会」「レクリエーション委員会」の議題は、全て学科委員が各学科に報告する

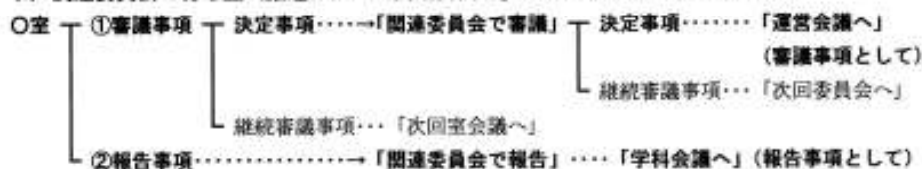
(2) 各学科代表を構成員としない委員会



「国際交流委員会」「情報安全管理等委員会」「教育研究支援委員会」「創立 40 周年記念準備委員会」

2. 室

(1) 関連委員会のある室(議題は全て「関連委員会」にあげ、審議、報告される)



「入学者対策室」「教育改善推進室」・「学生支援室」「進路支援室」「キャンパス安全衛生管理室」

資料 11-1-①-4 (続き)

(2) 関連委員会のない室

- 室
 - ①審議事項
 - 決定事項……………「運営会議へ」(審議事項として)
 - 継続審議事項……「次回室会議へ」
 - ②報告事項……………「運営会議へ」(報告事項として)

「企画室」「地域連携室」「広報室」「教育研究技術支援室」

3. 運営会議の議題

- 運営会議
 - (1)審議事項
 - 委員会関係：全ての委員会の「決定事項」
 - 室関係：関連委員会のある室は「関連委員会」での「決定事項」と関連委員会のない室の「決定事項」
 - (2)依頼事項 — ex. 「入試問題作成委員の選出」の依頼、等
 - (3)報告事項
 - 委員会関係：各学科代表を構成員としない委員会の「報告事項」
 - 室関係：関連委員会のない室の「報告事項」

4. 各学科への届知について (学科長および学科代表委員の役割)

- (1) 学科長……………運営会議 (上記(1)(2)(3)) について各学科に報告する。
- (2) 学科代表委員……学科代表を構成員とする委員会の会議の「報告事項」および関連委員会のある室会議の「報告事項」について各学科に報告する。

5. 教職員会議

上記4. により全ての会議の情報は各学科に伝わる。従って、今年度からは「確認事項の再度のお願い」、「入試関連の説明会・お願い」、「JABEE関連の説明会・お願い」等、必要に応じ開催する。開催する場合は教職員に前もって連絡する。開催日は年間行事予定表に示す水曜日のいずれかとする。

6. 判定会議……教員全員の出席を求める。

7. 留意事項

- (1) 議題の分類について
 - 各委員会や室において会議の議題を作成する場合、「審議事項」か「報告事項」かを明示する。
- (2) 議事要旨について
 - 委員会等の議事要旨は、審議事項や報告事項に漏れの無いよう細かく項目立てをし、充実を図る。
- (3) 教員・学科意見等の拾い上げ手だてについて
 - ①委員会レベルの意見等 (従来と同じ)
 - 委員を通じ関連委員会に意見を出し、必要に応じ委員会の議題として取り上げ、検討する。
 - ②委員会レベルを超える意見等
 - 学科長を通じ運営会議に意見を出し、必要に応じ運営会議の議題として取り上げ、検討する。

資料 11-1-①-4 (続き)

■ 委員会等の開催通知例（議題例）

平成16年度3月教務委員会

日 時 平成17年度3月2日（水） 15:00～

場 所 管理棟3F301ゼミ室

議 題 【審議事項】

1. 平成18年度編入学者募集要項（案）について
2. 平成16年度学術優秀賞該当学生（5年生）の推薦について
3. 欠席届の取り扱いについて（学生便覧2、諸規定第11条の改定案）
4. 教室管理について（厚生指導研究会からの検討依頼）
5. 転入学に関する取り扱い（ガイドライン案）について
6. その他
7. 入学者対策室
 - ①平成17年度 入学者対策室行事（案）

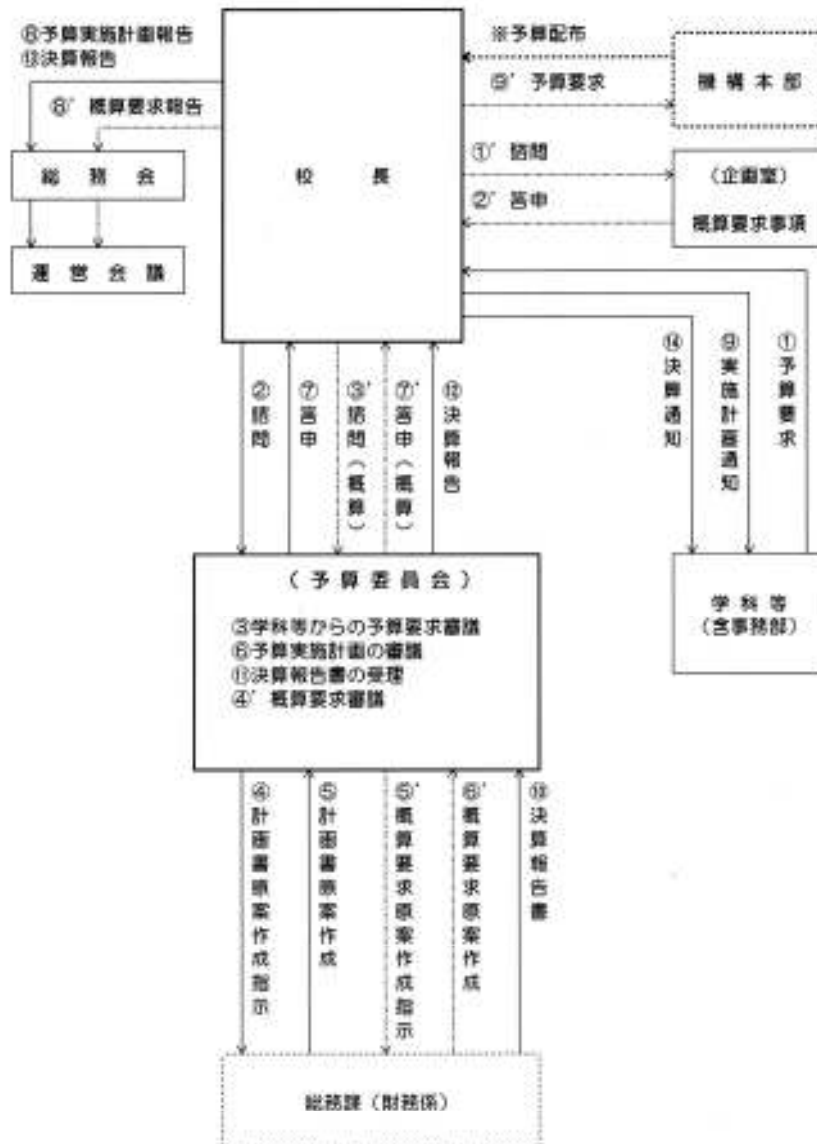
【報告事項】

1. 平成16年度再評価許可者合否一覧（確認）
2. 平成17年度入学者選抜検査志願者及び合格者について
3. 3年生保護者懇談会（2/5開催）の実施報告
4. その他
5. 入学者対策室からの報告
 - ①平成16年度入学者対策室の活動報告
 - ②入試説明会等実施状況
 - ③学校紹介用パンフレットの作成状況
6. 教育改善推進室からの報告

（出典：平成18年4月運営会議資料）

資料 11-1-①-5 : 予算委員会概念図

予算委員会概念図



(出典：平成16年1月企画室会議資料)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、学校の目的を達成するため、各委員会及び会議等の役割及び権限が規程で明確に定められている。また、意思決定のための審議は各部署の責任者で構成される運営会議で行われ、主宰者である校長のリーダーシップの下に迅速に判断・決定が行われている。このことから、本校では効果的な意思決定が行われていると判断される。

観点11-1-②： 管理運営に関する各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し、効果的に活動しているか。

(観点到係る状況)

本校では、管理運営に関する事項を扱う各委員会が置かれ、各組織の所掌する事項については規程で明確に定められている。この中で3校長補佐が委員長となっている教務委員会、学生委員会及び寮務委員会は、一般科及び各学科の代表教員並びに学生課長及び学生課係長からなる委員によって構成され、毎月定められた日に開催している。このように本校では各委員会が役割を分担し合い(資料11-1-②-1)・(資料11-1-①-2：既出)、効率的な運営を行っている。

また、各委員会の決定事項を関係者へ周知するシステムも整備されており(資料11-1-①-4：既出)、このことが迅速かつ効果的な活動に繋がっている。

事務組織は、平成18年度から総務課、学生課の2課体制に移行して業務に当たっているが、組織及び所掌事務については「小山工業高等専門学校事務組織規程」(資料11-1-②-2)に定められている。また、具体的な業務については個々の規程において定められている。

資料 11-1-②-1 : 小山工業高等専門学校校務分掌一覧

平成18年度 小山工業高等専門学校校務分掌一覧表

平成18年11月 1日現在

◎副校長

副校長	藤瀬 晋 彦
-----	--------

◎校長補佐・担当補佐

分掌	氏名等	
	校長補佐	担当補佐
教務担当	藤瀬 雄 三	川上 勝 弥
		須甲 克 也
		胸組 虎 胤
学生担当	※ 吉田 裕 志	小林 幸 夫
		鹿野 文 久
		石崎 聡 之
		川村 壮 司
		白石 光 昭
寮務担当	※ 新井 一 道	井上 次 夫
		鈴木 真 ノ 介

(※印：任期は平成20年3月31日まで)

◎学科長等

学 科 等	氏 名
一 般 科	中 田 伸 一
	梶 田 一 郎
機械工学科	高 橋 武 雄
電気情報工学科	森 夏 樹
電子制御工学科	伊 藤 久 大
物質工学科	糸 井 康 彦
建築学 科	山 本 貴 正

◎専攻科長・主任

専攻科長	専攻	主任
※ 尾立 弘 史	電子システム工学専攻	土 田 英 一
	物質工学専攻	堀 田 欣 三
	建築学専攻	高 橋 純 一

(※印：任期は平成20年3月31日まで)

◎センター長

図書情報センター長	※ 大 嶋 理 衣
情報科学教育研究センター長	※ 西 吉 博 巳
地域共同開発センター長	吉 藤 光 司
ものづくり教育研究センター長	田 中 好 一

(※印：任期は平成20年3月31日まで)

◎情報科学教育研究センター員

◎石原 学	玉 木 正 一
◎山口 繁 夫	山 崎 敬 剛
◎井手尾 光 臣	平 田 京 己
◎小林 康 彦	田 中 孝 国
◎佐藤 智 一	大 島 隆 一

(◎印：情報ネットワーク室長)
(○印：情報ネットワーク室主任)

◎地域共同開発センター員

佐藤 敏	鳥 山 雅 之
伊藤 信	武 成 祥
森 夏 樹	渡 邊 達 男
金野 茂 男	山 本 貴 正
糸 井 康 彦	

◎ものづくり教育研究センター員

川村 壮 司	川 越 大 輔
今成 一 雄	高 橋 大 輔
鹿野 文 久	

◎学級担任 (○：学年主任)

学年	学 年				
	1 年	2 年	3 年	4 年	5 年
機械工学科	森田 英 章	佐藤 敏	朱 勲	菊地 吉 郎	山下 進
電気情報工学科	三原 大 介	○玉木 正 一	甲斐 隆 寛	土田 英 一	田中 昭 雄
電子制御工学科	上村 孝	有坂 夏 菜 子	金野 茂 男	渡邊 達 男	鹿野 文 久
物質工学科	石崎 聡 之	酒入 陽 子	熊島 道 弘	熊島 大 郎	笠原 いづ み
建築学 科	○長谷川 敏	小野 謙 一	山本 嘉 孝	奥富 利 幸	高橋 純 一

◎企画室

室 長	藤瀬 晋 彦
室 員	吉 藤 光 司
〃	森 夏 樹
〃	尾立 弘 史
〃	川上 勝 弥
〃	胸組 虎 胤
〃	小林 幸 夫
〃	井上 次 夫
〃	小川 三 男

◎入学者対策室

室 長	川 上 勝 弥
室 員	伊 藤 悟
〃	小 野 謙 一
〃	土 田 英 一

◎教育改善推進室

室 長	胸 組 虎 胤
室 員	渡 邊 達 男
〃	白 石 光 昭
〃	田 中 昭 雄

◎学生支援室

室 長	松 島 隆 裕
室 員	渡 邊 達 男
〃	酒 入 陽 子
〃	有 坂 夏 菜 子

◎キャンパス安全衛生管理室

室 長	鹿 野 文 久
室 員	山 本 嘉 孝
〃	森 田 英 章
〃	廣 田 智 子

◎連絡支援室

室 長	小 林 幸 夫
室 員	鹿 野 文 久
〃	菊 地 吉 郎
〃	土 田 英 一
〃	渡 邊 達 男
〃	森 田 英 章
〃	奥 富 利 幸

◎地域連携室

室 長	武 成 祥	室 員	山下 進
室 長 補 佐	中 山 光 幸	〃	佐 藤 敏 夫
室 員	川 越 大 輔	〃	小 川 三 男
〃	田 中 孝 国	〃	比 毛 教 子
〃	高 橋 大 輔	〃	本 橋 宜 久
〃	松 島 隆 裕	〃	佐 藤 智 一
〃	酒 入 陽 子	〃	山 下 信

◎広報室

室 長	葛 西 庸 男	室 員	大 島 隆 一
室 員	須 甲 克 也	〃	佐 藤 敏 夫
〃	小 林 幸 夫	〃	川 本 信 次
〃	鈴 木 真 ノ 介	〃	井 手 尾 光 臣

◎教育研究技術支援室

室 長	吉 藤 光 司	室 員	武 成 祥
室 員	酒 入 陽 子	室 員	山 本 貴 正
室 員	山 崎 敬 剛	室 員	上 村 孝
室 員	北 野 達 也	室 員	高 橋 大 輔
室 員	市 村 智 康		

資料 11-1-②-1 (続き)

◎運営会議

校長	副校長	校長補佐 (教務担当)	校長補佐 (学生担当)	校長補佐 (業務担当)	専攻科長	一般科長	一般科長
機械学科長	電気学科長	電子学科長	物質学科長	建築学科長	図書館センター長	情報センター長	共同センター長
4e2627センター長	遠隔室長	事務部長	総務部長	学生課長	技術室長		

◎委員会

委員会名	学科等 委員長等	校長補佐 (担当補佐) 等	一般科	機械工学科	電気情報 工学科	電子制御 工学科	物質工学科	建築学科	事務部
教務委員会	藤澤雄三	川上 勝弥 須甲 克也 胸組 虎雄	上村 孝 小野 謙一	伊藤 悟	千田 正勝	笠原 雅人	永井 康彦	高橋 大輔	川本 信次 新井たか子
学生委員会	吉田裕志	小林 幸夫 小野 文久 石原 聖之 川村 社司	森田 英章 有坂 夏菜子	山下 達	田中 昭雄	西野 聰	飯島 道弘	山本 善孝	川本 信次 藤沼美紀雄
業務委員会	新井 一 道	白石 光昭 井上 次夫 鈴木 真ノ介	三原 大介 酒入 陽子	朱 勤	甲斐 隆章	金野 茂男	湯美 太郎	美富 利幸	川本 信次 山中 隆雄
専攻科 委員会	尾立 弘史	土田 英一 境 欣三 高橋 周一	松島 隆裕	渡利 久規	土田 英一	渡邊 達男	龜山 雅之 (堀 欣三)	高橋 純一	川本 信次
図書館 センター 運営委員会	大嶋 建次	-----	佐藤 毅 柴田 洋一	菊地 吉郎	山田 晴幸	久保 和良	川越 大輔	山本 昇	佐藤 節夫
情報科学 教育 研究センター 運営委員会	南 香 清 巳	石原 学	玉木 正一	山崎 敬則	北野 達也	平田 克己	田中 孝国	大島 隆一	川本 信次 技術室長 山口 繁夫
地域共同 開発センター 運営委員会	青藤 光司	-----	上村 孝	伊藤 悟	中山 光幸	金野 茂男	龜山 雅之 (永井 康彦)	山本 貴正	川本 信次 技術室長 佐藤 節夫
ものづくり 教育 研究センター 運営委員会	田中 好一	-----	塩入 俊次	川村 社司	今成 一雄	鹿野 文久	川越 大輔	高橋 大輔	川本 信次 技術室長 久島 直樹
環境整備 委員会	猪瀬 善弥	藤澤 雄三 吉田 裕志 新井 一 道	松島 隆裕 三原 大介	山崎 敬則	甲斐 隆章	鹿野 文久	笹沼 いづみ	尾立 弘史	志西 康男 佐藤 節夫 川本 信次
国際交流 委員会	藤本 光宏	藤澤 雄三 吉田 裕志 新井 一 道 尾立 弘史	中田 伸一 山本 昇 金野 茂男 山本 善孝	島田 勉 朱 勤 渡邊 達男 湯美 太郎	高島 武雄 菊地 吉郎 西野 聰 飯島 道弘	森 夏樹 山下 達 甲斐 隆章 湯美 太郎	伊藤 久夫 永井 康彦 土田 英一 笹沼 いづみ	永井 康彦 山本 貴正	田中 昭雄 川本 信次
安全衛生 委員会	藤本 光宏	永井 康彦	延慶寺 剛夫	山崎 敬則	北野 達也	久保 和良	永井 康彦	山本 貴正	佐藤 節夫 小杉 裕之 明石 康三
人 事 委員会	猪瀬 善弥	藤澤 雄三	吉田 裕志	新井 一 道	尾立 弘史	志西 康男	佐藤 節夫	-----	-----
子 算 委員会	猪瀬 善弥	尾立 弘史	有坂 顕二	高島 武雄	今成 一雄	笠原 雅人	永井 康彦	美富 利幸	志西 康男 佐藤 節夫
教育研究 支援 委員会	猪瀬 善弥	大嶋 建次	南 香 清 巳	青藤 光司	田中 好一	武 成 祥	-----	-----	-----
明 委員会	青藤 光司	武 成 祥	杉山 桂子	田中 好一	中山 光幸	鹿野 文久	飯島 道弘	大島 隆一	佐藤 節夫 小川 三男
専門委員会 機関評価対応	猪瀬 善弥	猪瀬 善弥	藤澤 雄三	吉田 裕志	新井 一 道	尾立 弘史	森 夏樹	胸組 虎雄	土田 英一
機関評価 委員会	猪瀬 善弥	山本 善孝	志西 康男	佐藤 節夫	川本 信次	-----	-----	-----	-----
専門委員会 J A B E E	土田 英一	尾立 弘史	猪瀬 善弥	藤澤 雄三	松島 隆裕	増嶋 寿	土田 英一	渡邊 達男	-----
専門委員会 情報安全管理等	藤本 光宏	南 香 清 巳	石原 学	山口 繁夫	井上 光昭	小林 幸夫	佐藤 智一	佐藤 節夫	川本 信次
委員会	藤本 光宏	石原 学	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----
レクリエーション 委員会	大島 隆一	-----	長谷川 誠	田中 好一	鈴木 真ノ介	伊藤 久夫	吉田 裕志	大島 隆一	藤見 美智子 五郎 丸明子 大野 和隆 植木 忠司

(出典：総務課人事係資料)

資料 11-1-②-2 : 小山工業高等専門学校事務組織規程

小山工業高等専門学校事務組織規程

制 定 昭和40年4月1日

最終改正 平成19年4月1日

第1章 総則

第1条 独立行政法人国立高等専門学校機構法（平成15年10月1日制定）第12条及び小山工業高等専門学校学則（昭和40年4月1日制定）第11条の規定に基づく小山工業高等専門学校事務組織及び事務分掌は、この規定の定めるところによる。

第2章 事務組織

第2条 事務部に総務課、学生課を置く。

第3条 総務課に総務係、人事係、図書情報係、企画・地域連携係、評価・研究協力係、財務係、出納係、用度係及び施設係を置く。

第4条 学生課に教務係、学生係、寮務係及び技術室を置く。

第5条 事務部に事務部長を置く。

2 事務部長は、校長の命を受けて事務部の事務を処理する。

第6条 総務課及び学生課に課長を置く。

2 課長は、上司の命を受けその課の事務を処理する。

第6条の2 総務課及び学生課に課長補佐を置く。

2 課長補佐は、課長の命を受け課の事務を処理する。

第6条の3 総務課及び学生課に専門職員を置くことができる。

2 専門職員は、上司の命を受け高度の専門的知識又は経験を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第6条の4 学生課に技術専門職員を置く。

2 技術専門職員は、上司の命を受け高度の専門的な技術を必要とする特定の分野の事務を処理する。

第7条 係に係長又は主任を置く。

2 係長及び主任は、上司の命を受けその係の事務を処理する。

第3章 事務分掌

第8条 総務課長補佐（総務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 総務関係事務の総括及び連絡調整に関すること。

二 その他総務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

2 総務課長補佐（財務担当）は、次の事務をつかさどる。

一 財務関係事務の総括及び連絡調整に関すること。

二 その他財務関係所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関すること。

資料11-1-②-2 (続き)

3 総務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 学則その他諸規程の制定改廃に関する事。
- 二 儀式及び他の係に属さない諸行事に関する事。
- 三 公印（財務関係及び学生課の公印を除く。）の管守に関する事。
- 四 会議に関する事。
- 五 公文書の収受、発送に関する事。
- 六 文書及び諸規則等の整理保存に関する事。
- 七 日誌及び沿革史等の記録に関する事。
- 八 秘書事務に関する事。
- 九 渉外に関する事。
- 十 電話交換その他電話の取扱いに関する事。
- 十一 教職員の身分証明等に関する事。
- 十二 情報公開に関する事。
- 十三 個人情報の保護に関する事。
- 十四 事務が保有する電子ファイルの管理及び運用に関する事。
- 十五 広報に関する事。
- 十六 教職員の海外渡航に関する事。
- 十七 校内の警備に関する事。
- 十八 遺伝子組み換えDNAに関する事。
- 十九 総務担当職員及び教員の労働時間、休暇及び出張に関する事。
- 二十 レクリエーション委員会及び教職員の福利厚生に関する事。
- 二十一 国際交流委員会（学生課の所掌に属するものを除く。）に関する事。
- 二十二 情報安全管理等委員会に関する事。
- 二十三 所掌事務に係る調査統計とその他諸報告に関する事。
- 二十四 その他他の課の所掌に属さない事務を処理する事。

4 人事係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 教職員の任免、分限、懲戒及び服務に関する事。
- 二 教職員の給与に関する事。
- 三 教職員の定員及び級別定数に関する事。
- 四 教職員の勤務評定に関する事。
- 五 教職員の栄典及び表彰に関する事。
- 六 教職員の団体に関する事。
- 七 教職員の研修に関する事。
- 八 教職員の退職手当に関する事。
- 九 教職員の共済組合長期給付に関する事。
- 十 教職員の災害補償に関する事。

資料11-1-②-2 (続き)

- 十一 教職員の人事記録に関する事。
 - 十二 非常勤教職員の任免、服務及び給与に関する事。
 - 十三 教職員宿舎の居住者選考に関する事。
 - 十四 財産形成貯蓄の事務に関する事。
 - 十五 教職員の衛生管理に関する事。
 - 十六 産業医に関する事。
 - 十七 教職員就業規則及び非常勤職員就業規則に関する事。
 - 十八 総務担当職員及び教員の労働時間の補助業務に関する事。
 - 十九 人事委員会に関する事。
 - 二十 安全衛生委員会に関する事。
 - 二十一 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 二十二 その他人事に関する事。
- 5 図書情報係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 図書館資料（以下「図書」という。）の選択及び収集に関する事。
 - 二 図書の契約及び支払決議に関する事。
 - 三 図書の分類、目録作成・編成及び装備、配架並びに整理に関する事。
 - 四 図書の受贈、交換及び除籍等に関する事。
 - 五 図書の閲覧、貸出及び保管に関する事。
 - 六 文献の相互利用、複写及び参考調査に関する事。
 - 七 研究紀要に関する事。
 - 八 著作権に関する事。
 - 九 図書情報センター運営委員会に関する事。
 - 十 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十一 その他図書情報に関する事。
- 6 企画・地域連携係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 中期計画・年度計画に関する事。
 - 二 産学官連携に関する事。
 - 三 地域連携に係る業務の支援及び連絡調整に関する事。
 - 四 公開講座及び生涯学習に関する企画、立案及び連絡調整に関する事。
 - 五 民間等との共同研究、受託研究及び受託試験の受入に関する事。
 - 六 発明及び知的財産に関する事。
 - 七 教育研究支援委員会に関する事。
 - 八 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 九 その他企画・地域連携に関する事。
- 7 評価・研究協力係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 機関評価対応委員会、各種評価及び審査に関する事。
 - 二 科学研究費補助金及び各種法人等の補助金に関する事。

資料11-1-②-2 (続き)

- 三 在外研究員に関すること。
 - 四 内地研究員に関すること。
 - 五 国際化推進プログラムに関すること。
 - 六 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 七 その他評価・研究協力に関すること。
- 8 財務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 予算管理及び決算に関すること。
 - 二 財務関係規程等に関すること。
 - 三 監査に関すること。
 - 四 共済組合に関すること（長期給付を除く。）。
 - 五 安全管理に関すること。
 - 六 防災に関すること。
 - 七 自動車の維持管理及び運行に関すること。
 - 八 寄附金に関すること。
 - 九 財務担当職員の労働時間、休暇及び出張に関すること。
 - 十 予算委員会に関すること。
 - 十一 財務会計システムに関すること。
 - 十二 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十三 その他他の係の所掌に属さない財務関係事務に関すること。
- 9 出納係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 債権の管理に関すること。
 - 二 収入及び支出に関すること。
 - 三 給与、旅費及び謝金の支払決議に関すること。
 - 四 所得税及び住民税等の徴収に関すること
 - 五 共済組合掛金の徴収及び給付金の支払に関すること。
 - 六 寄附金、民間等との共同研究費、受託研究費、受託事業費、科学研究費補助金及び各種法人等の補助金の収支に関すること。七 日本スポーツ振興センターの収支に関すること。
 - 八 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 九 その他出納に関すること。
- 10 用度係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 物品管理の総括調整に関すること。
 - 二 物件（図書及び管轄関係を除く。）の契約及び支払決議に関すること。
 - 三 物品の調達、出納、保管及び処分に関すること。
 - 四 物品の修理に関すること。
 - 五 電気、水道、ガス及び電話の料金に関すること。
 - 六 構内及び建物等の清掃に関すること。
 - 七 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。

資料11-1-②-2 (続き)

八 その他用度に関する事

11 施設係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 不動産の管理及び処分に関する事。
- 二 営繕工事の企画、立案に関する事。
- 三 営繕工事の予算資料作成に関する事。
- 四 施設の計画及び整備に関する事。
- 五 営繕工事の設計及び工事費の積算に関する事。
- 六 営繕関係の契約及び支払決議に関する事。
- 七 工事等に係る入札参加者選定に関する事。
- 八 営繕工事の施工監督に関する事。
- 九 土地、建物及び附帯施設の維持保存に関する事。
- 十 教職員宿舎に関する事。
- 十一 暖房用ボイラーの業務に関する事。
- 十二 省資源、省エネルギーに関する事。
- 十三 環境整備委員会に関する事。
- 十四 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
- 十五 その他施設に関する事。

第9条 学生課課長補佐は、次の事務をつかさどる。

- 一 学生課事務の総括及び連絡調整に関する事。
- 二 その他学生課所掌事務のうち、上司の命を受けた事項についての企画、調査及び連絡調整に関する事。

2 技術専門職員は、次の事務をつかさどる。

- 一 教育研究の支援のための技術開発及び技術業務に関する事。
- 二 学生の技術指導に関する事。
- 三 技術の継承及び保存に関する事。
- 四 技術研修に関する調査研究に関する事。

3 教務係においては、次の事務をつかさどる。

- 一 教育課程に関する事。
- 二 学生の入学、休学、復学、転学、退学及び卒業・修了に関する事。
- 三 授業及び試験に関する事。
- 四 指導要録に関する事。
- 五 在学成績及び卒業等の証明に関する事。
- 六 教科書及び教材に関する事。
- 七 学生の校外研修及び専門研修に関する事。
- 八 インターンシップに関する事。
- 九 外国人留学生の受入及び教育に関する事。

資料11-1-②-2 (続き)

- 十 研究生及び聴講生に関する事。
 - 十一 外部からの学生支援に関する事。
 - 十二 教育改革の支援プログラムに関する事。
 - 十三 専攻科教育の実施状況等の審査に関する事。
 - 十四 J A B E E の審査に関する事。
 - 十五 学生課職員及び非常勤講師の労働時間、休暇及び出張に関する事。
 - 十六 教務委員会に関する事。
 - 十七 専攻科委員会に関する事。
 - 十八 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十九 その他他の係の所掌に属さない事務に関する事。
- 4 学生係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関する事。
 - 二 外国人留学生の厚生補導（寮務係の所掌に属するものを除く。）に関する事。
 - 三 学生の旅客運賃割引証及び通学証明書の発行に関する事。
 - 四 学生の諸願届に関する事。
 - 五 学生の集会、行事及び掲示に関する事。
 - 六 学生の奨学資金に関する事。
 - 七 入学料、授業料及び寄宿料の減免並びに徴収猶予に関する事。
 - 八 学生の健康管理及び安全保持に関する事。
 - 九 日本スポーツ振興センターに関する事。
 - 十 学生の団体活動、オリエンテーション、課外活動及び諸行事に関する事。
 - 十一 学生の進路に関する事。
 - 十二 学生食堂の管理運営に関する事。
 - 十三 学生の賞罰に関する事。
 - 十四 カウンセラーの労働時間に関する事。
 - 十五 教員の労働時間の補助業務に関する事。
 - 十六 学生委員会に関する事。
 - 十七 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関する事。
 - 十八 その他学生の厚生補導に関する事。
- 5 寮務係においては、次の事務をつかさどる。
- 一 寄宿舎の管理運営に関する事。
 - 二 寄宿舎の諸経費に係る経理に関する事。
 - 三 入寮及び退寮に関する事。
 - 四 学寮における学生の厚生補導に関する事。
 - 五 学寮における外国人留学生の厚生補導に関する事。
 - 六 寮生の栄養指導及び衛生に関する事。
 - 七 教員の宿日直に関する事。

資料11-1-②-2 (続き)

- 八 寮務委員会に関すること。
 - 九 所掌事務に係る調査統計その他諸報告に関すること。
 - 十 その他寄宿舎に関すること。
- 6 技術室においては、次の事務をつかさどる。
- 一 学生の実験実習の技術的指導に関すること。
 - 二 卒業研究に関する技術的指導に関すること。
 - 三 教育教材作成の支援に関すること。
 - 四 教員の研究活動に伴う技術的支援に関すること。
 - 五 技術の研究、改善、継承及び保存に関すること。
 - 六 技術研修に関すること。
 - 七 民間等との共同研究等に伴う技術的支援に関すること。
 - 八 学生の課外活動の技術的支援に関すること。
 - 九 実験室等の維持管理に関すること。
 - 十 技術室職員の労働時間、休暇及び出張に関すること。
 - 十一 情報科学教育研究センターに関すること。
 - 十二 地域共同開発センターに関すること。
 - 十三 ものづくり教育研究センターに関すること。
 - 十四 その他教育及び研究の支援に関すること。
- 6の2 技術室に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、管理運営に関する各委員会及び事務組織が規程の定めるところにより組織されており、それぞれが適切に役割を分担し、共通の理解を持ちながら効果的に活動をしていると判断される。

観点11-1-③： 管理運営の諸規定が整備されているか。

(観点に係る状況)

本校の管理運営に関しては、学内規程において定められており、主要な校務の処理手続きについて明らかにされている。さらに、この規程に基づいた各委員会の規程も定められており、これらの規程を、本校のホームページに掲載し、教職員が常に参照しながら業務を進められるようにしている(資料11-1-③-1)。

これらの規程は、平成16年4月の独立行政法人国立高等専門学校機構設立時、及び平成18年4

月の事務組織の再編時に、大幅な見直しが行われているが、その後も随時制定又は改廃を行っている。制定又は改廃の必要が生じた時には、学科会議等を経て所掌する委員会で十分に審議され、運営会議において審議された後に決定される。決定後は「校報」に掲載することにより全教職員への周知が図られている（資料11-1-③-2）。

資料11-1-③-1：小山工業高等専門学校学内規程集

小山工業高等専門学校学内規程集

第1章 学 則

- 小山工業高等専門学校学則

第2章 組 織・運 営

- 小山工業高等専門学校事務組織規程
- 小山工業高等専門学校総務会議規程
- 小山工業高等専門学校運営会議規程
- 小山工業高等専門学校専攻科運営規則
- 小山工業高等専門学校判定会議規程
- 小山工業高等専門学校教職員会議規程
- 小山工業高等専門学校企画室規則
- 小山工業高等専門学校地域連携室規則
- 小山工業高等専門学校広報室規程
- 小山工業高等専門学校入学者対策室規程
- 小山工業高等専門学校教育改善推進室規程
- 小山工業高等専門学校進路支援室規程
- 小山工業高等専門学校学生支援室規則
- 小山工業高等専門学校キャンパス安全衛生管理室規程
- 小山工業高等専門学校教育研究技術支援室規程
- 小山工業高等専門学校技術室規程
- 小山工業高等専門学校参与会規程

第3章 委 員 会

- 小山工業高等専門学校教務委員会規程
- 小山工業高等専門学校学生委員会規程
- 小山工業高等専門学校寮務委員会規程
- 小山工業高等専門学校専攻科委員会規則
- 小山工業高等専門学校図書情報センター運営委員会規程
- 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校地域共同開発センター運営委員会細則
- 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター運営委員会細則

資料11-1-③-1 (続き)

- 小山工業高等専門学校環境整備委員会規程
- 小山工業高等専門学校国際交流委員会規則
- 小山工業高等専門学校安全衛生委員会規則
- 小山工業高等専門学校人事委員会規程
- 小山工業高等専門学校予算委員会規程
- 小山工業高等専門学校教育研究支援委員会規程
- 小山工業高等専門学校発明専門委員会細則
- 小山工業高等専門学校J A B E E 専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校情報安全管理等委員会規程
- 小山工業高等専門学校情報公開委員会規程
- 小山工業高等専門学校外部評価委員会規程
- 小山工業高等専門学校機関評価対応委員会規程
- 小山工業高等専門学校機関別認証評価専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校施設の有効活用に関する専門委員会規程
- 小山工業高等専門学校組換えDNA実験安全委員会規則

第4章 総務・人事

- 小山工業高等専門学校文書取扱規程
- 小山工業高等専門学校法人文書管理規程
- 小山工業高等専門学校情報公開取扱要項
- 小山工業高等専門学校公印規則
- 小山工業高等専門学校教職員服務規程
- 小山工業高等専門学校で労働する教職員の休日及び労働時間の割振り等に関する規程
- 小山工業高等専門学校教員選考規則
- 小山工業高等専門学校安全衛生管理規程
- 小山工業高等専門学校におけるセクシュアルハラスメントの防止に関する規則
- 小山工業高等専門学校教員選考委員会規程
- 小山工業高等専門学校名誉教授称号授与規程
- 小山工業高等専門学校点検評価規程
- 小山工業高等専門学校における民間等との共同研究取扱規程
- 小山工業高等専門学校受託研究取扱規程
- 小山工業高等専門学校受託試験取扱規程
- 小山工業高等専門学校発明規程
- 小山工業高等専門学校組換えDNA実験安全管理規程
- 小山工業高等専門学校内地研究員規則

第5章 総務(財務)

- 小山工業高等専門学校会計機関の補助者の指定に関する規程
- 小山工業高等専門学校契約事務取扱要項

資料11-1-③-1 (続き)

- 小山工業高等専門学校寄附金取扱規程
- 小山工業高等専門学校所属不動産管理規則
- 小山工業高等専門学校施設使用規則
- 小山工業高等専門学校防災管理規程
- 小山工業高等専門学校自衛消防隊組織要領
- 小山工業高等専門学校事務情報化推進要項
- 小山工業高等専門学校事務用電子計算機業務処理要項
- 小山工業高等専門学校における購入物品の機種選定に関する取扱要項
- 小山工業高等専門学校における大型設備の調達に係る仕様策定等に関する取扱要項
- 小山工業高等専門学校エックス線障害防止管理規程
- 小山工業高等専門学校放射線障害予防に関する規程
- 小山工業高等専門学校毒物及び劇物取扱要項
- 小山工業高等専門学校施設の有効活用に関する要項
- 小山工業高等専門学校排水管理要項
- 小山工業高等専門学校科学研究費補助金経理事務取扱規程

第6章 教務・学生

- 小山工業高等専門学校学生準則
- 小山工業高等専門学校外国人留学生規程
- 小山工業高等専門学校研究生規程
- 小山工業高等専門学校聴講生規程
- 小山工業高等専門学校特別聴講学生規程
- 小山工業高等専門学校科目等履修生規程
- 学業成績の評価並びに学年課程修了及び卒業の認定に関する規程
- 学業に関する取扱要項
- 小山工業高等専門学校専攻科の授業科目の履修等に関する規程
- 資格取得に係わる単位認定に関する規程
- インターンシップに係わる単位認定に関する規程
- 小山工業高等専門学校実務研修要項
- 大学、他高専における履修に係わる単位認定に関する規程
- 小山工業高等専門学校留学規則
- 小山工業高等専門学校入学料の免除等に関する規程
- 小山工業高等専門学校授業料免除及び徴収猶予に関する規程
- 小山工業高等専門学校体育施設運営規則
- 小山工業高等専門学校体育施設使用手続要領
- 小山工業高等専門学校合宿研修施設使用規程
- 自動車等による通学に関する規則

資料11-1-③-1 (続き)

第7章 学寮

- 小山工業高等専門学校学寮規則
- 小山工業高等専門学校教員学寮宿日直規程
- 小山工業高等専門学校学寮宿日直教員勤務要領
- 学寮防災避難要領
- 小山工業高等専門学校寄宿料免除に関する規程

第8章 図書情報センター

- 小山工業高等専門学校図書情報センター規程
- 小山工業高等専門学校図書情報センター一般開放実施要項
- 小山工業高等専門学校研究紀要投稿要項

第9章 情報センター・ものづくりセンター・共同センター

- 小山工業高等専門学校情報科学教育研究センター規則
- 小山工業高等専門学校情報ネットワーク室運営細則
- 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター規則
- 小山工業高等専門学校ものづくり教育研究センター利用規程
- 小山工業高等専門学校地域共同開発センター規則
- 小山工業高等専門学校地域共同開発センター利用規程

第10章 学生会・寮生会

- 小山工業高等専門学校学生会規約
- 小山工業高等専門学校学生会本部室使用細則
- 小山工業高等専門学校寮生会規約

(出典：小山高専ホームページ)

要に応じた規程の制定及び改廃も行われている。また、「小山高専校報」により全教職員への周知徹底も図られていることから、管理運営の諸規程整備に関して問題はない。

観点11-2-①： 外部有識者の意見が適切な形で管理運営に反映されているか。

(観点に係る状況)

本校では、学校運営に関し、外部の有識者により多面的な審議を行うため、参与会を置いている。

参与会は、本校側からの事項説明の後、それについての質疑応答を経て提言を行っている。参与会の詳細については「小山工業高等専門学校参与会規程」において定められている(資料11-2-①-1)。

また、本校の教育研究活動及び学校運営全般の改善に資することを目的として、外部評価委員会を置いている。外部評価委員会の詳細については「小山工業高等専門学校外部評価委員会規程」において定められており(資料11-2-①-2)、当該委員会の評価は関係委員会及び運営会議に報告され必要に応じて審議され、管理運営の改善及び見直しに反映されている(資料11-2-①-3, 4)。

資料 11-2-①-1： 小山工業高等専門学校参与会規程

小山工業高等専門学校参与会規程

(目的)

第1条 小山工業高等専門学校(以下「本校」という。)に、本校の学校運営に関し、外部の有識者により多面的な審議を行うため、小山工業高等専門学校参与会(以下「参与会」という。)を置く。

(組織)

第2条 参与会は、参与を以て組織する。

2 参与は、本校の教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱する。

3 参与の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、欠員が生じた場合の後任の参与の任期は、前任者の残任期間とする。

(任務)

第3条 参与会は、次に掲げる事項について、校長の諮問に応じて審議し、及び校長に対して助言又は勧告を行う。

一 本校の教育研究上の目的を達成するための基本的な計画に関する重要事項

二 本校の教育研究活動等の状況に関する重要事項

三 その他本校の運営に関する重要事項

(参与会の招集及び議長)

第4条 参与会は、校長が招集する。

2 参与会に議長を置き、参与の互選により定める。

3 議長に事故あるときは、あらかじめ議長が指名する参与が、その職務を代行する。

資料 11-2-①-1 (続き)

(参与会の成立)

第5条 参与会は、参与の過半数の出席をもって成立する。

(事務)

第6条 参与会に関する事務は、総務課が行う。

(補則)

第7条 この規程に定めるもののほか、参与会に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

- 1 この規程は、平成16年12月1日から施行する。
- 2 小山工業高等専門学校外部評価実施要項（平成12年7月12日制定）は廃止する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 11-2-①-2 : 小山工業高等専門学校外部評価委員会規程

小山工業高等専門学校外部評価委員会規程

(目的)

第1条 この規程は、小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教育研究活動及び学校運営全般の改善に資することを目的として学外有識者による評価を実施するため、小山工業高等専門学校外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置き、必要な事項を定めるものとする。

(組織)

第2条 委員会は、委員若干名を以て組織する。

- 2 委員会の委員は、本校の教職員以外の者で高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有する者のうちから、校長が委嘱する。
- 3 委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。
- 4 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

ただし、欠員が生じた場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(評価事項)

第3条 委員会は、次に掲げる事項を評価する。

- 一 本校の教育理念及び目標等に関すること。

資料 11-2-①-2 (続き)

- 二 カリキュラムの編成、教育指導及び教授方法のあり方、その他の教育活動に関する事。
- 三 学生生活及び学校行事のあり方に関する事。
- 四 学寮生活に関する事。
- 五 研究活動に関する事。
- 六 施設設備に関する事。
- 七 国際交流に関する事。
- 八 生涯学習及び社会連携に関する事。
- 九 学校運営に関する事。
- 十 自己点検・評価体制に関する事。
- 十一 その他委員会が必要と認める事項
(評価及び報告)

第4条 委員会は、資料による調査のほか、ヒアリング、実地調査等により評価を行う。

2 委員会は、評価報告書を作成し公表する。

(事務)

第5条 委員会に関する事務は、総務課が行う。

附 則

この規程は、平成16年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 11-2-①-3 : 小山高専自己点検評価報告書 (外部評価提言を受けて)

小山高専自己点検評価報告書

(外部評価提言を受けて)



平成16年3月

小山工業高等専門学校

資料 11-2-①-3 (続き)

小山高専外部評価指摘事項及び提言に係る点検評価

1. 技術者教育と共に人間教育が重要である。小山高専の教育理念は将来の社会人としてのリーダーたるべき必須条件であり評価に値する。本旨に基づいた教育の実践を望む。

【教務委員会】

○平成13年度

- ・全人教育の一環として「インターネットとその環境」と題し、外部講師による開校記念日特別講演を実施した。
- ・全人教育の一環として各学科単位に卒業生や外部講師による特別講演を実施した。
- ・各学科クラス別に校外専門研修（工場や街並み見学等）を実施した。
- ・異文化の体験も目的としたオーストラリア語学研修を実施した。
- ・インターンシップの単位化を行った。
- ・資格取得の単位化を行った。

○平成14年度

- ・全人教育の一環として「飛翔 宇宙への夢」と題し、外部講師による開校記念日特別講演を実施した。
- ・全人教育の一環として各学科単位に卒業生や外部講師による特別講演を実施した。
- ・各学科クラス別に校外専門研修（工場や街並み見学等）を実施した。
- ・ボランティア活動の単位化の検討をしたが、単位化は見送られた。
- ・人間教育に関するマルチメディア教材の作成に向け検討を開始した。

○平成15年度

- ・全人教育の一環として「ロボットについての話」と題し、外部講師による開校記念特別講演を実施した。
- ・全人教育の一環として各学科単位に卒業生や外部講師による特別講演会を実施した。
- ・各学科クラス別に校外専門研修（工場や街並み見学等）を実施した。
- ・インターンシップについては、実務研修要項を整備し、充実を図った。
- ・宇都宮大学工学部との間で単位互換協定（特別聴講学生制度）を締結した。
- ・今後は、地元の白鷲大学との単位互換協定の締結を目指す。
- ・今後とも、全人教育に取り組んでいく。

2. 各学科の教育目標は素晴らしいが、学生に具体策を提示して実践的に取り組む姿勢が必要である。

【一般科】

○平成13年度

- ・個別の教科科目に於いて、一般教育が人間教育であることの周知に努力。

○平成14年度

- ・一般教育が人間教育であることの周知に努力。入学時のガイダンスを、各部署と連携して充実させる。

(出典：平成16年小山高専自己点検評価報告書(外部評価提言を受けて))

資料 11-2-①-4 : 平成 18 年度第 1 回小山工業高等専門学校参与会議事要旨

平成 18 年度 第 1 回小山工業高等専門学校参与会議事要旨

日 時 平成 18 年 5 月 18 日 (木) 11 時 00 分～14 時 00 分

場 所 校長室

出席者 参与 後藤利夫、山本純雄、佐伯一之、長島重夫、松本勝の各参与
 高専 校長、副校長、校長補佐(教務)、校長補佐(学生)、校長補佐(寮務)
 専攻科長、地域共同開発センター長、地域連携室長、事務部長、産学官
 連携コーディネーター
 (陪席) 総務課長、学生課長、総務課(総務)課長補佐、総務課(財務)
 課長補佐、学生課課長補佐

議 事 次第に沿って、以下のとおり進められた。

1. 開 会

総務課長から開会宣言があった後、日程概要の説明があった。

2. 校長挨拶

藤本校長から、参与会の目的・任務、設置した背景等について説明があった後、幅広い観点から審議いただき、良き相談役として支援願いたい旨の挨拶があった。

3. 学校概要説明

概要説明に先立ち、総務課長から各参与の紹介が行われた後、高専出席者から自己紹介があった。次いで副校長から、学校要覧等に沿って学校の概要説明があった。

4. 施設見学

小山高専の主要施設について、見学が行われた。

5. 懇 談

主な意見は次のとおり。

参与：企業が高専に何を望んでいるか調査したことがあるか。

参与：この地域(県南地域)の工業生産高は県内でもトップクラスであるが、大企業が大部分を占め、中小企業はレベルが低い。そのため、学校の卒業生が地元に残らない現状がある。学校は、もっと産学官の重要性をアピールすることが必要ではないか。

高専：小山市の動き(クラスター計画等)などと連動し、学校として産業発展の協力ができれば良いと考えている。

参与：これまで企業サイドからの要望はなかったのか。

高専：学校として、企業の要望をきちんと吸い上げる構造になっていなかったかもしれない。

参与：これからはPRの時代である。小山高専の特色を打ち出し、オンリーワンの存在感を出せるか。

高専：「小山高専は、これができます。」といったアピールが必要だと考えている。

参与：大学は学術研究、高専は技術を持った人材を企業へ送り出すことが使命ではないか、そのためにも企業の要望を聞くことは重要ではないか。

以 上

(出典：平成 18 年度第 1 回小山工業高等専門学校参与会議事要旨)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、外部からの意見を取り入れるための規程が整備されており、外部有識者の意見が適切に管理運営に反映されていると判断する。

観点11-3-①： 自己点検・評価（や第三者評価）が高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ、かつ、それらの評価結果が公表されているか。

(観点に係る状況)

本校では、自己点検・評価を規定する「小山工業高等専門学校点検評価規程（以下「点検評価規程」という。）」（資料11-3-①-1）が整備されており、点検評価規程に「小山工業高等専門学校点検評価委員会」に係る事項が定められている。点検及び評価の結果は3年を越えない範囲で取り纏め、報告書として公表され、本校の充実・発展に活用するとなっている。点検評価規程に基づく直近の自己点検・評価は、平成19年3月に平成16年度から平成18年度までの3カ年分を自己点検・評価報告書として纏めた（資料11-3-①-2）。

また、準学士課程4、5年及び専攻科課程1、2年の4年間を一つのカリキュラムとして設定した複合工学系プログラムを平成17年度にJABEE（日本技術者教育認定機構）に認定申請し、JABEE認定基準に適合していると認定された（資料11-3-①-3）。

資料 11-3-①-1：小山工業高等専門学校点検評価規程

小山工業高等専門学校点検評価規程

制 定 平成10年4月22日
最終改正 平成19年4月1日

(趣旨)

第1条 小山工業高等専門学校（以下「本校」という。）が、本校の教育研究水準の向上を図り、かつ、本校の目的及び社会的使命を達成するため、本校の教育研究活動等の状況について自ら行う点検及び評価に関し、必要な事項を定めるものとする。

(委員会)

第2条 本校に、次の各号に掲げる事項を行うため、小山工業高等専門学校点検評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

- 一 点検及び評価の基本方針並びに実施基準等の策定に関すること。
- 二 点検及び評価の実施に関すること。
- 三 点検及び評価に関する取りまとめ並びに報告書の作成及び公表に関すること。
- 四 その他委員会が必要と認める事項。

(組織)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- 一 校長
- 二 副校長

資料11-3-①-1 (続き)

- 三 各校長補佐
 - 四 専攻科長
 - 五 各学科長
 - 六 各センター長
 - 七 地域連携室長
 - 八 事務部長
 - 九 各課長
 - 十 技術室長
- (委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長をもって充てる。

2 委員長は、委員会を召集し、その議長となる。

3 委員長に事故あるときは、委員長の指名した委員がその職務を代行する。

(委員以外の者の出席)

第5条 委員長が必要と認めるときは、第3条に定める委員以外の者を委員会に出席させることができる。

(点検評価事項等)

第6条 委員会は、次の各号に掲げる事項について点検及び評価を行う。

- 一 本校の教育理念及び目標に関すること。
- 二 教育活動に関すること。
- 三 研究活動に関すること。
- 四 施設設備に関すること。
- 五 国際交流に関すること。
- 六 生涯学習への対応に関すること。
- 七 社会との連携に関すること。
- 八 学校運営及び財政に関すること。
- 九 自己評価体制に関すること。

2 前項各号に掲げる具体的な点検項目及び実施主体は、別表のとおりとする。

(点検評価の実施)

第7条 点検及び評価は、毎年度行うものとする。

2 委員会は、点検項目のうちから、当該年度に行う点検項目を定めるものとする。

(報告書等の作成及び公表)

第8条 委員会は、点検及び評価の結果を、3年を越えない範囲でとりまとめ、報告書等として公表し、本校の充実・発展に活用するものとする。

(点検評価結果の対応)

第9条 校長は、委員会が行った点検及び評価の結果については、教育研究等の改善にこれを反映させるものとする。

資料11-3-①-1 (続き)

2 校長は、委員会が行った点検及び評価の結果に基づき、特に改善が必要と認められるものについては、関連する委員会等にその改善策の検討を付託する。

(事務)

第10条 委員会の事務は、評価・研究協力係において処理する。

(雑則)

第11条 この規程に定めるもののほか、点検及び評価に関し必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

(出典：小山高専ホームページ)

資料 11-3-①-2 : 小山高専自己点検評価報告書

自己点検評価報告書
(平成16年度～平成18年度)

平成19年3月
小山工業高等専門学校

(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

資料 11-3-①-3 : J A B E E 認定基準 認定証



(出典：J A B E E 認定基準 認定証)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、点検評価規程に基づき、各実施主体が事項、点検項目毎に自己点検・評価を継続的に実施しており、結果については本校教職員に周知する外、学外者が常時閲覧可能となっている。

このことから、本校の自己点検・評価及び結果の公表については問題ないと判断される。

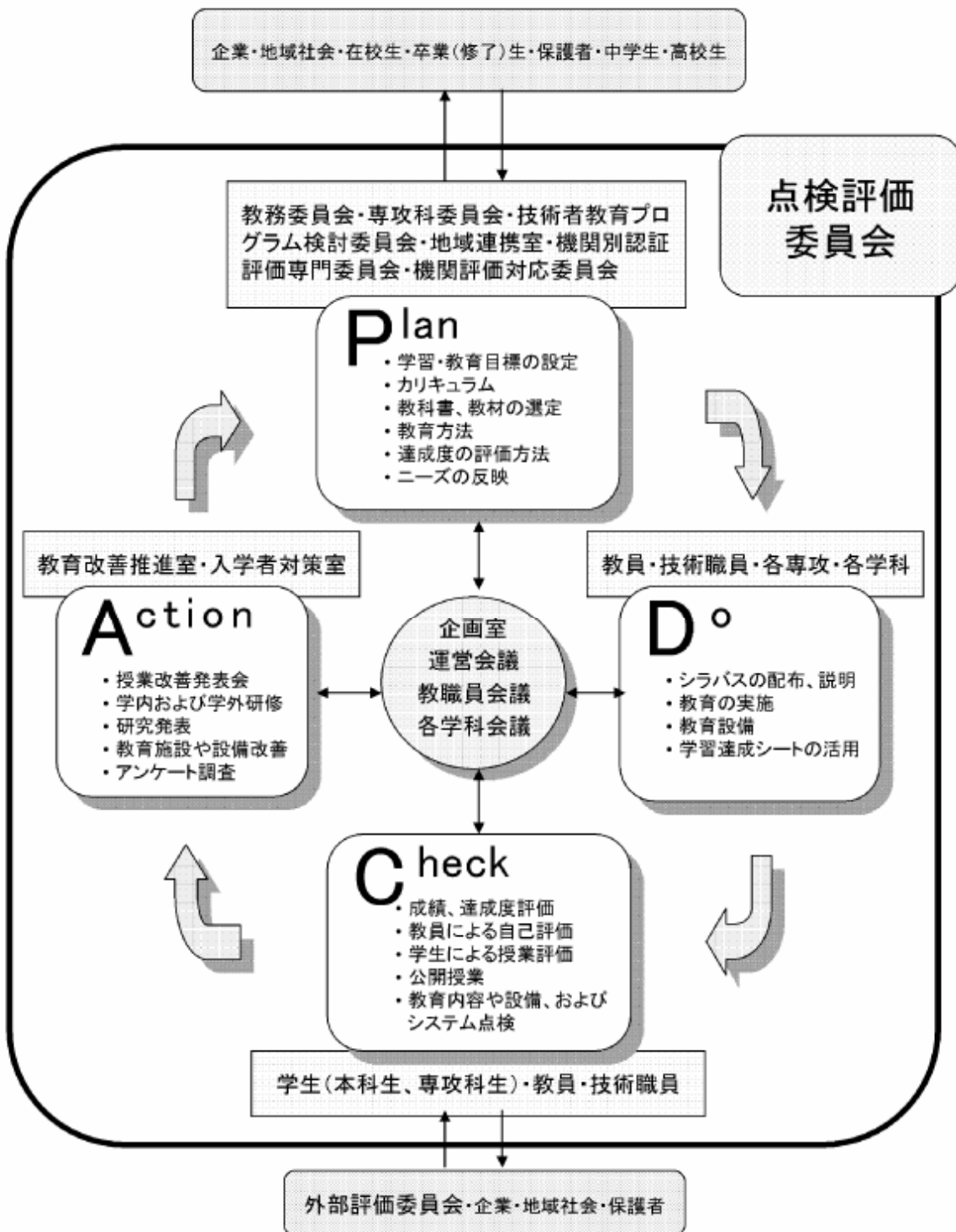
観点11-3-②： 評価結果がフィードバックされ、高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され、有効に運営されているか。

(観点に係る状況)

本校の自己点検・評価及び外部評価等の第三者評価の結果は公表されており、その結果について改善策が必要な事項については各委員会等において検討されている(資料11-2-①-3, 4:既出)。

また、運営会議では各委員会等での検討結果の報告を受け、運営会議の主宰者である校長の下、学校の活動全般に関する事項に対して改善を行っている(資料11-3-②-1)。

資料11-3-②-1：教育点検システム及び改善システムの流れ



(出典：平成19年小山高専自己点検評価報告書)

(分析結果とその根拠理由)

本校では、評価結果を各委員会等にフィードバックしており、学校の目的の達成のための改善に結び付けられるシステムがあり、有効に運営されている。

(2) 優れた点及び改善を要する点

(優れた点)

該当なし

(改善を要する点)

該当なし

(3) 基準11の自己評価の概要

本校では、学校の目的を達成するため、校長の下、副校長、校長補佐、運営会議及び各委員会等の役割が諸規程等で明確に定められている。管理運営に関する意思決定のための審議は各部署の責任者で構成される運営会議で行われ、主宰者である校長のリーダーシップの下に迅速に判断・決定が行われている。管理運営に関する事項を検討するための各委員会及び事務組織も整備されており、学校運営に関し、全教職員が共通の理解を持ちながら適切に役割を分担している。

一方、外部からの意見を取り入れるためのシステムとして参与会及び外部評価委員会があり、それらの提言が管理運営に適切に反映されている。また、本校の教育水準の向上を図り、かつ、学校の目的を達成するための自己点検・評価は、適切に行われている。その評価結果を公表し、各委員会等にフィードバックして学校の目的の達成のための改善に結び付けられている。